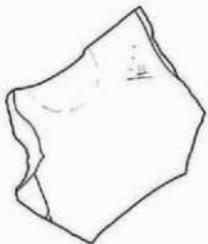


熊本大学構内遺跡発掘調査報告 X

(1999、2002、2012年度)



2014

熊本大学埋蔵文化財調査センター

熊本大学構内遺跡発掘調査報告X

(1999、2002、2012年度)

2014

熊本大学埋蔵文化財調査センター



1. 9901調査地点全景（東より）



2. 38号土器集中部（北より）



1. 0204調査地点南側全景（西より）



2. 1223調査地点74号竪穴住居址竪上面遺物出土状況（北東より）

序 文

昔から役場や学校は、安全で便利な良い地に建てられることが多い。熊本大学はどれほど良い場所に立地しているのだろうか。歴史の研究者は、黒髪キャンパスは、延喜式にみる「蚕糸駅」ならびに旧飽田郡家（飽田郡司 建部公の居所）の地ではないかと指摘する。そうであればここは千年前から公共の場所であったことになるのだが、それはどのように証明されるのであろうか。その問いに本センターが熊本大学構内で実施した発掘調査が答えを与えるつつある。

本書は1999年、2002年、2012年に実施した4地区計6件の発掘調査（黒髪南地区3件、本荘北地区1件、本荘中地区2件）の成果を収めるものである。

黒髪南地区では大きな発見があった。工学部百周年記念館敷地内の西端で、幅1mほどの溝が2本、相互に3mを隔てて南北に50mほど併行してまっすぐに延びていたのである。溝に伴う土器から、これが古代（8世紀後半以前）に造成されていたことがわかった。これはおそらく官道であろう。北にながい駅路といくつもの駅家をつないで太宰府に通じていたとみられる。この道はここで白川をわたる「蚕糸の渡し」に繋がり、さらに南に続くのだろう。官道が出たことの意味は大きい。

本荘地区でも興味深い遺物が出土した。ここでみつかった大量の古代の食器の中に、内側に「主帳」という文字を刻んだ直径8cmほどの蓋が混じっていた。「主帳」とは文書の起草・受理をつかさどった人の職名である。

本地区には立派な四面彌のある建物もある。8世紀から9世紀、どうやらここは身分ある人の邸宅か公共の施設であったらしい。地区内の別地点からは「秋本寺」、「佛」、「寺」の文字を刻んだ同様の器がでているので、近くに寺もあったようだ。当時、西方一里には肥後国府、北の金峰山南麓には有名な池辺寺がそびえていた。1100年前の本荘地区を、国府の役人や僧侶が行き交っていたのだろう。

熊本大学の二つのキャンパスの位置・立地が歴史的にきわめて重要であったことは発掘調査でも実証されつつある。便利で重要な場所であればこそ、後世の人びと、とりわけ現代人はそこであらたな開発事業を始めるのだが、これまでのながい歴史の上にこそ現代があることを肝に銘じておく必要がある。可能な限り遺跡を保存し、やむを得ず破壊する場合は工事の前にきちんととした調査を実施する。その調査成果を教育に生かすことは、長い目でみれば本大学の価値を高めることになる。こういう思いでわたしたちは調査をしている。

本書は学長歳量経費による2冊目の刊行物である。ご尽力くださった学長をはじめ、センター運営委員会委員各位、施設担当各位に厚く御礼申しあげる。

平成26年3月6日

国立大学法人熊本大学埋蔵文化財調査センター

センター長 木下尚子

例　　言

1. 本報告書は、熊本大学再開発計画によって熊本大学敷地内において実施された各種建築工事に伴い、熊本大学埋蔵文化財調査室（平成23年10月1日より「熊本大学埋蔵文化財調査センター」に改組）が1999～2012年度に実施した発掘調査の一部に関するものである。
2. 本書に収録した報告は、1999～2012年度に埋蔵文化財調査室が実施した発掘調査報告とそれに関連する立会調査などの成果のうち、7件の発掘調査に関する成果である。
3. 上記調査地点の報告にあたっては、下記のように地区ごとに分けて報告する。
II章：黒髪南地区 9911調査地点・0204調査地点・0206調査地点・0210調査地点
III章：本荘北地区 9901調査地点
IV章：本荘中地区 1205調査地点・1223調査地点
4. 以上の調査を実施した1999～2012年度の埋蔵文化財調査室の組織と調査体制は以下のとおりである。
室　　長：甲元真之（文学部教授）(99～05年度)・木下尚子（文学部教授）(05～12年度)
調査員：小畠弘己（文学部助教授）(99～10年度)・松田光太郎（センター准教授）(12年度)
　　大坪志子（文学部助手・センター助教）(99～12年度)
事務補佐員：松嶋木綿子（99年）・坂元紀乃（01～02年度）・村田知里（08～12年度）
5. 遺物番号は地区ごとに1から番号を付けている。写真図版中の番号はこれに一致する。
6. 本文は、小畠弘己、松田光太郎、大坪志子、多賀晴司が執筆した。
7. 本書に使用した遺構実測図に関しては、小畠弘己、大坪志子、松田光太郎をはじめとする調査に参加した熊本大学考古学研究室学生、株式会社埋蔵文化財サポートシステムによるものである。
8. 本書に使用した遺物実測図・拓本は、井上裕美、江口路、小山正子、甲斐都、金子真夕、古閑満代、柴田亮、首藤優子、末吉美紀、高松あゆみ、多賀晴司、滝瀬俊子、林田恵子、早田咲百合、山喜早苗、安田未来、小畠、大坪、松田が製作した。
9. 本書に使用した図版の製図は小畠、大坪、松田、多賀、増井弘子、鬼塚美枝が行った。
10. 遺構実測及び製図には手描による記録とともに遺跡調査汎用システム（カタタ Ver. 3-アーケオテクノ社）、株式会社CUBICの遺跡実測支援システム「遺構くん」とび製図システム「トレイス3Dくん」を使用した。
11. 本書に使用した現場写真は小畠、松田・大坪・多賀が、遺物写真は松田、小山、末吉がこれを撮影した。
12. 本書で使用した遺物観察表は、首藤、小畠、大坪、松田が作成した。
13. II章・III章で報告する調査地点の遺構図面は日本測地系、その他は世界測地系による。
14. 本書に掲載した出土遺物および記録類は、すべて熊本大学埋蔵文化財センターで保管している。
15. III章9901調査地点出土の「主帳」銘入り土器については、宮崎産業経営大学 柴田博子氏、熊本市教育委員会 綱田龍生氏にご教示を頂いた。記して感謝を申し上げます。
16. 本書の編集は大坪が行った。

本文目次

I 構内遺跡と調査の概要	
1. 熊本大学敷地と構内遺跡の概要	1
2. 調査に至る経緯	4
3. これまでの調査と本書収録の遺跡	5
II 黒髪南地区的調査	
1. 黒髪団地南地区水生動物飼育舎建築工事に伴う発掘調査（9911調査地点）	
(1) 調査の目的と経過	21
(2) 調査区の基本層序	21
(3) 検出遺構	23
(4) 出土遺物	23
(5) まとめ	26
2. 黒髪団地南地区総合研究棟新営工事に伴う発掘調査（0204調査地点）	
(1) 調査の目的と経過	29
(2) 調査区の基本層序	29
(3) 検出遺構	30
(4) 出土遺物	40
(5) まとめ	40
3. 黒髪団地南地区総合研究棟新営に伴う樹木移植工事に伴う発掘調査（0206調査地点）	
(1) 調査の目的と経過	48
(2) 調査区の基本層序	48
(3) 検出遺構	49
(4) 出土遺物	49
(5) まとめ	49
4. 黒髪団地南地区工学部樹木移植工事に伴う発掘調査（0210調査地点）	
(1) 調査の目的と経過	52
(2) 調査区の基本層序	52
(3) 検出遺構	55
(4) 出土遺物	55
(5) まとめ	57
III 本荘北地区的調査	
1. (医病) 病棟(軸) 新営工事に伴う発掘調査（9901調査地点）	
(1) 調査の目的と経過	59
(2) 調査区の基本層序	63
(3) 検出遺構と出土遺物	63
(4) まとめ	125
IV 本荘中地区的調査	
1. 医学部基礎研究棟(B棟東側)とりこわし工事に伴う発掘調査（1205調査地点）	
(1) 調査の目的と経過	167

(2) 測量基準点の設定と測量方法	169
(3) 調査区の基本層序	169
(4) 検出遺構	169
(5) 出土遺物	172
(6) まとめ	176
2. 国際先端医学研究拠点施設新營工事に伴う発掘調査(1223調査地点)	
(1) 調査の目的と経過	179
(2) グリッドの設定	180
(3) 調査区の基本層序	180
(4) 検出遺構	183
(5) 出土遺物	223
(6) まとめ	237

挿図目次

図1 黒髪町遺跡群・本庄遺跡の位置と周辺遺跡の分布図(1/25000)	2
図2 黒髪南地区における調査地点位置図(1/2000)	22
図3 9911調査地点遺構配置実測図(1/100)	22
図4 9911調査地点南西・北西壁土層断面実測図(1/80)	23
図5 9911調査地点出土遺物実測図1(1/4)	24
図6 9911調査地点出土遺物実測図2(1/4・1/3)	25
図7 黒髪南地区における調査地点位置図(1/2000)	31
図8 0204調査地点遺構配置実測図(1/200)	32
図9 0204調査地点各遺構土層断面実測図(1/100・1/50)	34
図10 1・2号竪穴住居址実測図(1/50)	36
図11 3号竪穴住居址実測図(1/50)	37
図12 4号竪穴住居址実測図(1/50)	38
図13 21号火葬墓実測図・出土遺物実測図(1/50・1/4)	39
図14 0204調査地点出土遺物実測図1(1/2・1/4)	41
図15 0204調査地点出土遺物実測図2(1/4)	42
図16 0204調査地点出土遺物実測図3(1/4・1/3)	43
図17 0206調査地点遺構配置図・南壁土層断面実測図・遺物出土状況・出土遺物実測図(1/100・1/40・1/12・1/3)	50
図18 0210調査地点トレンチ17・19遺物出土状況実測図(1/40)	53
図19 0210調査地点トレンチ20・21遺物出土状況実測図(1/40)	54
図20 0210調査地点出土遺物実測図(1/3・1/4・2/3)	56
図21 本荘北地区における調査地点配置図(1/2000)	60
図22 9901調査地点遺構配置実測図(1/400)	61
図23 9901調査地点北東壁土層断面実測図・中央土層断面実測図(1/80・1/100)	62
図24 3・5号竪穴住居址実測図(1/50)	65
図25 3号竪穴住居址出土遺物実測図(1/4)	66
図26 5号竪穴住居址出土遺物実測図1(1/4)	67

図27	5号竪穴住居址出土遺物実測図2(1/4)	68
図28	35号竪穴住居址実測図・出土遺物実測図(1/50・1/4)	69
図29	80号竪穴住居址実測図(1/50)	70
図30	80号竪穴住居址出土遺物実測図・92号竪穴住居址実測図(1/4・1/50)	71
図31	92号竪穴住居址出土遺物実測図(1/4)	72
図32	113・114号竪穴住居址実測図(1/50)	73
図33	113号竪穴住居址出土遺物実測図(1/4)	74
図34	253・291号竪穴住居址実測図(1/50)	75
図35	253・337・338・340号竪穴住居址出土遺物実測図・337・338・340号竪穴住居址実測図(1/4・1/50)	76
図36	346号竪穴・352・353号竪穴住居址実測図(1/50)	77
図37	346号竪穴・352・353号竪穴住居址・354号竪穴・374号溝実測図(1/4・1/50)	78
図38	360号竪穴住居址・361・362号竪穴実測図(1/50)	79
図39	360号竪穴住居址・361号竪穴出土遺物実測図・363号竪穴住居址実測図(1/4・1/50)	80
図40	387号竪穴住居址・368号集石土坑実測図・387号竪穴住居址・368集石土坑・394号ピット出土遺物実測図(1/50・1/4)	81
図41	30・43号竪穴住居址実測図(1/50)	83
図42	30・43号竪穴住居址出土遺物実測図(1/4)	84
図43	50・52号竪穴住居址実測図(1/50)	85
図44	50・52号竪穴住居址出土遺物実測図(1/4)	86
図45	290号竪穴住居址実測図・290・291・297号竪穴住居址出土遺物実測図(1/50・1/4)	87
図46	343・355号竪穴住居址出土遺物実測図・355号竪穴住居址実測図(1/4・1/50)	88
図47	356号竪穴住居址・357号竪穴実測図・356号竪穴住居址・357・348号竪穴出土遺物実測図(1/50・1/4)	89
図48	367号竪穴住居址実測図・出土遺物実測図(1/50・1/4)	90
図49	25号竪穴住居址実測図(1/50)	92
図50	25号竪穴住居址出土遺物実測図(1/4)	93
図51	157号竪穴住居址実測図・出土遺物実測図(1/50・1/4)	94
図52	258号竪穴住居址実測図・出土遺物実測図・300号竪穴住居址実測図(1/50・1/4)	95
図53	300号竪穴住居址出土遺物実測図(1/4)	96
図54	310号竪穴住居址実測図・出土遺物実測図(1/50・1/4)	97
図55	359・362号竪穴住居址出土遺物実測図(1/4)	98
図56	500・501号掘立柱建物実測図(1/100)	99
図57	500・501・502・503号掘立柱建物出土遺物実測図(1/4)	100
図58	502・503・504・505号掘立柱建物実測図(1/100)	101
図59	各遺構土壙断面実測図(1/20・1/40)	103
図60	1号溝出土遺物実測図1(1/4)	104
図61	1号溝出土遺物実測図2(1/4)	105
図62	1号溝出土遺物実測図3・38号破砕土器集中部・72号溝須恵器出土状況実測図(1/4・1/50)	106
図63	4号溝出土遺物実測図1(1/4)	107
図64	4号溝出土遺物実測図2(1/4)	108

図65	4号溝内38号出土遺物実測図（1/4）	109
図66	95号馬骨出土状況実測図・出土遺物実測図（1/50・1/4）	110
図67	15・37・57号溝出土遺物実測図（1/4）	111
図68	57号溝出土遺物実測図・369号柵出土状況実測図・出土遺物実測図（1/4・1/50）	112
図69	371号土器出土状況実測図・出土遺物実測図（1/50・1/4）	113
図70	72号溝出土遺物実測図1（1/4）	114
図71	72号溝出土遺物実測図2（1/5・1/4）	115
図72	72号溝出土遺物実測図3（1/6）	116
図73	74号溝実測図・74・156・358号溝出土遺物実測図（1/50・1/4）	117
図74	373号・289号溝実測図・365・379号溝出土遺物実測図（1/50・1/4）	118
図75	2・16・380・381号溝出土遺物実測図・265号獸骨出土状況実測図（1/4・1/50）	119
図76	366号土坑・115号陶衣壺出土状況実測図・370号集石状況実測図・各造構出土遺物実測図（1/50・1/40・1/4）	121
図77	250号土壤墓人骨出土状況実測図・出土遺物実測図（1/20・1/4・1/3）	122
図78	その他の造構出土遺物・土製品・石製品実測図（1/4・2/3・1/1）	123
図79	9901調査地点出土鉄製品実測図（1/3）	125
図80	9901調査地点包含層出土遺物実測図1（1/4）	126
図81	9901調査地点包含層出土遺物実測図2（1/4）	127
図82	9901調査地点出土繩文土器実測図1（1/4）	128
図83	9901調査地点出土繩文土器・弥生土器実測図2（1/4）	129
図84	9901調査地点出土石器実測図1（1/4）	130
図85	9901調査地点出土石器実測図2（1/4）	131
図86	9901調査地点出土石器実測図3（1/4）	132
図87	9901調査地点出土石器実測図4（1/4）	133
図88	9901調査地点出土石器実測図5（2/3）	134
図89	本荘中地区における調査地点配置図（1/2000）	168
図90	1205調査地点造構配置図（1/250）	170
図91	1・2・3号溝土層断面図（1/50）	171
図92	1205調査地点出土遺物実測図1（1/4）	174
図93	1205調査地点出土遺物実測図2（1/4・1/2）	175
図94	調査区グリッド配置図（1/2000）	179
図95	1223調査地点造構配置図（1）溝・堅穴住居址・掘立柱建物址・土坑（1/200）	181
図96	1223調査地点造構配置図（2）ピット（1/200）	182
図97	周辺調査地点造構配置図（1/600）	183
図98	1223調査地点北壁1土層断面図（1/50）	184
図99	1223調査地点北壁2土層断面図（1/50）	184
図100	1223調査地点東壁土層断面図（1/50）	184
図101	4・5・51号溝実測図（1/120・1/50）	187
図102	200・201号溝実測図（1/120）	188
図103	190号溝実測図（1/120・1/50）	189
図104	9・55号溝実測図（1/120・1/50）	189
図105	13・202号溝実測図（1/120・1/50）	190

図106 204・205・240号竪穴住居址実測図 (1/100・1/50)	191
図107 10号竪穴住居址実測図 (1/50)	194
図108 11・83号竪穴住居址実測図 (1/50)	195
図109 123号竪穴住居址実測図 (1/50)	196
図110 123号竪穴住居址掘り方・竪穴実測図 (1/50)	197
図111 142・145号竪穴住居址実測図 (1/50)	198
図112 12号竪穴住居址実測図 (1/50)	200
図113 12・73・124号竪穴住居址実測図 (1/50)	201
図114 62・76号竪穴住居址実測図 (1/50)	203
図115 147・148号竪穴住居址実測図 (1/50)	204
図116 90・159号竪穴住居址実測図 (1/50)	205
図117 165・166・182号竪穴住居址実測図 (1/50)	206
図118 63号竪穴住居址実測図 (1/50)	207
図119 74号竪穴住居址実測図 (1) (1/50・1/40)	209
図120 74号竪穴住居址実測図 (2) (1/50・1/40)	210
図121 93・154号竪穴住居址実測図 (1/50)	211
図122 104号竪穴住居址実測図 (1) (1/50)	212
図123 104号竪穴住居址実測図 (2) (1/50)	213
図124 120号竪穴住居址実測図 (1) (1/50)	215
図125 120・206号竪穴住居址実測図 (1/50)	216
図126 207・208・210号竪穴住居址実測図 (1/50)	217
図127 215号竪穴住居址実測図 (1/50)	219
図128 1号掘立柱建物址・1号ピット列実測図 (1/100)	221
図129 土坑実測図 (1/50)	222
図130 1223調査地点出土遺物実測図 1 (1/4)	229
図131 1223調査地点出土遺物実測図 2 (1/4)	230
図132 1223調査地点出土遺物実測図 3 (1/4)	231
図133 1223調査地点出土遺物実測図 4 (1/4)	232
図134 1223調査地点出土遺物実測図 5 (1/4・1/3)	233
図135 1223調査地点出土遺物実測図 6 (1/4・1/3・1/2)	234
図136 1223調査地点出土遺物実測図 7 (1/4・1/3)	235
図137 1223調査地点出土遺物実測図 8 (1/4・1/3・2/3)	236
図138 1223調査地点竪穴住居址・掘立柱建物址 軸方位	238
図139 1223調査地点時期別造構配置図 (1/300)	239

図 版 目 次

図版 1 9911調査地点	249
写真 1 I 区完掘状況 (南東より)	
写真 2 1次掘削の様子 (南より)	
写真 3 I 区西壁 (南東より)	
写真 4 地山上面遺物出土状況 (北より)	
写真 5 地山上面遺物出土状況 (北より)	
図版 2 9911調査地点	250
写真 6 II 区遺物出土状況 (南東より)	
写真 7 遺物出土状況 (北より)	
写真 8 北壁 (南より)	
写真 9 遺物出土状況 (北より)	
写真10 II 区完掘状況 (南東より)	

図版3	9911調査地点出土遺物1	251
図版4	9911調査地点出土遺物2	252
図版5	9911調査地点出土遺物3	253
図版6	0204調査地点	254
写真11	焼骨(頁39)	
写真12	調査区南側全景(西より)	
写真13	調査区北側全景(西より)	
図版7	0204調査地点	255
写真14	調査区南側(東より)	
写真15	調査区北側(東南より)	
写真16	調査区南側(南北より)	
写真17	調査区北壁土層断面・5・6号溝(南より)	
写真18	調査区北壁土層断面(南北より)	
写真19	1号竪穴住居址(南より)	
写真20	1・2号竪穴住居址(南より)	
写真21	1号竪穴住居址竪完掘状況(南より)	
図版8	0204調査地点	256
写真22	2号竪穴住居址竪(南より)	
写真23	1号竪穴住居址竪(東より)	
写真24	2号竪穴住居址(南より)	
写真25	3号竪穴住居址(南より)	
写真26	2号竪穴住居址完掘状況(南より)	
写真27	3号竪穴住居址竪完掘状況(南より)	
写真28	2号竪穴住居址遺物出土状況(西より)	
写真29	4号竪穴住居址東西土層壁面(北より)	
図版9	0204調査地点	257
写真30	4号竪穴住居址(南北より)	
写真31	4号竪穴住居址竪土器出土状況(南より)	
写真32	4号竪穴住居址竪横土器出土状況(南より)	
写真33	21号火葬墓(西より)	
写真34	4号竪穴住居址竪(南北より)	
写真35	9号溝土層断面(南より)	
写真36	樹木移植地調査区西側(北より)	
写真37	樹木移植地調査区南側(南より)	
図版10	0204調査地点出土遺物1	258
図版11	0204調査地点出土遺物2	259
図版12	0204調査地点出土遺物3	260
図版13	0204調査地点出土遺物4	261
図版14	0204調査地点出土遺物5	262
図版15	0206調査地点・同出土遺物	263
写真38	調査区南壁(北より)	
写真39	調査区全景(北より)	
写真40	溝状遺構(北より)	
写真41	遺物出土遺構(東より)	
写真42	遺物出土状況(東より)	
図版16	0210調査地点	264
写真43	樹木③調査地点周囲掘削風景(西より)	
写真44	樹木⑩トレンチ掘削状況(東より)	
写真45	II区トレンチ5掘削状況(東より)	
写真46	II区トレンチ6掘削状況(東より)	
写真47	II区トレンチ8掘削状況(北より)	
写真48	II区トレンチ7掘削状況(西より)	
写真49	II区トレンチ9掘削状況(北より)	
写真50	II区トレンチ10掘削状況(北より)	
図版17	0210調査地点	265
写真51	II区トレンチ11掘削状況(西より)	
写真52	II区トレンチ12掘削状況(北より)	
写真53	II区トレンチ13掘削状況(東より)	
写真54	II区トレンチ1掘削状況(西より)	
写真55	II区トレンチ15掘削状況(東より)	
写真56	II区トレンチ14掘削状況(東より)	
写真57	II区調査地点全景(西より)	
写真58	III区調査地点全景(北東より)	
図版18	0210調査地点	266
写真59	IV区調査地点全景(南東より)	
写真60	IV区トレンチ20調査風景(南東より)	
写真61	IV区トレンチ21硬化面検出状況(東より)	
写真62	III区トレンチ16全景(東より)	
写真63	III区トレンチ17全景(東より)	
写真64	IV区トレンチ20第2硬化面検出状況(北より)	
写真65	IV区トレンチ20遺物出土状況(東よ	

り)	り)
写真66 IV区トレンチ20摩石ほか出土状況 (西より)	写真88 339号・340号竪穴住居址掘削状況 (南東より)
図版19 0210調査地点…………… 267	図版25 9901調査地点…………… 273
写真67 IV区トレンチ20包含層下面遺物出土 状況(東より)	写真89 346号竪穴(南より)
写真68 IV区トレンチ21包含層遺物出土状況 (東より)	写真90 346号竪穴遺物出土状況(西より)
写真69 III区トレンチ19・1号住居址(北よ り)	写真91 352・353号竪穴住居址掘削状況(北 西より)
写真70 樹木①調査地点トレンチ土層(南よ り)	写真92 353号竪穴住居址完掘状況(北西よ り)
写真71 樹木①調査地点近景(西より)	写真93 360号竪穴住居址遺物出土状況(南 より)
写真72 樹木②調査地点トレンチ土層(東よ り)	写真94 360号竪穴住居址(西より)
写真73 トレンチ18位置換え掘削風景(北よ り)	写真95 387号竪穴住居址遺物出土状況(北 西より)
図版20 0210調査地点出土遺物1…………… 268	写真96 387号竪穴住居址完掘状況(北東よ り)
図版21 0210調査地点出土遺物2…………… 269	図版26 9901調査地点…………… 274
図版22 9901調査地点…………… 270	写真97 368号集石土坑(西より)
写真74 I区全景(東より)	写真98 30・25・80号竪穴住居址(南東よ り)
写真75 II区全景(北より)	写真99 43・50号竪穴住居址(北東より)
図版23 9901調査地点…………… 271	写真100 52号竪穴住居址遺物出土状況(北 より)
写真76 II区東部全景(北より)	写真101 52号竪穴住居址竪完掘状況(南よ り)
写真77 3号竪穴住居址遺物出土状況(南東 より)	写真102 290号竪穴住居址遺物出土状況(南 より)
写真78 3号竪穴住居址完掘状況(西より)	写真103 291号竪穴住居址掘削状況(西よ り)
写真79 5号竪穴住居址遺物出土状況(南西 より)	写真104 343号竪穴住居址完掘状況(南よ り)
写真80 5号竪穴住居址掘削状況(北より)	図版27 9901調査地点…………… 275
図版24 9901調査地点…………… 272	写真105 355号竪穴住居址完掘状況(西よ り)
写真81 35号竪穴住居址掘削状況(南西よ り)	写真106 356号竪穴住居址北側(南西より)
写真82 80号竪穴住居址遺物出土状況(北西 より)	写真107 356号竪穴住居址南側(南西より)
写真83 80号竪穴住居址内窓(北より)	写真108 357号竪穴遺物出土状況(北より)
写真84 92号竪穴住居址・74号溝(西より)	写真109 25号竪穴住居址遺物出土状況(西 より)
写真85 113号竪穴住居址(北東より)	
写真86 253号竪穴住居址掘削状況(南より)	
写真87 338号竪穴住居址掘削状況(南西よ り)	

写真110	25号竪穴住居址内焼土（北東より）	
写真111	114号竪穴住居址土層断面（東より）	
写真112	157号竪穴住居址遺物出土状況（東より）	
図版28	9901調査地点……………	276
写真113	258号竪穴住居址遺物出土状況（北より）	
写真114	300号竪穴住居址遺物出土状況（北より）	
写真115	300号竪穴住居址検査状況（北東より）	
写真116	300号竪穴住居址完掘状況（北西より）	
写真117	310号竪穴住居址遺物出土状況（北より）	
写真118	362号竪穴土層断面（西より）	
写真119	掘立柱建物（北より）	
写真120	I区1号溝遺物出土状況（北東より）	
図版29	9901調査地点……………	277
写真121	II区1号溝完掘状況（南西より）	
写真122	4号溝掘削状況（北東より）	
写真123	4号溝上土器出土状況（北より）	
写真124	4号溝内馬骨出土状況（西より）	
写真125	15・16号溝完掘状況（東より）	
写真126	57号溝遺物出土状況（東より）	
写真127	72号溝完掘状況（北より）	
写真128	72号溝完掘状況（南西より）	
図版30	9901調査地点……………	278
写真129	72号溝内高坏出土状況（北より）	
写真130	72号溝遺物出土状況（西より）	
写真131	4・1(381)・379・156(380)号溝（西より）	
写真132	358・373号溝（西より）	
写真133	II区南側溝完掘状況（北より）	
図版31	9901調査地点……………	279
写真134	115号胞衣壺ビット（西より）	
写真135	115号胞衣壺ビット断面（西より）	
写真136	370号集石（西より）	
写真137	250号土壤墓人骨検出状況（西より）	
写真138	2号溝（北より）	
写真139	作業風景	
写真140	現場説明会	
図版32	9901調査地点出土遺物1……………	280
図版33	9901調査地点出土遺物2……………	281
図版34	9901調査地点出土遺物3……………	282
図版35	9901調査地点出土遺物4……………	283
図版36	9901調査地点出土遺物5……………	284
図版37	9901調査地点出土遺物6……………	285
図版38	9901調査地点出土遺物7……………	286
図版39	9901調査地点出土遺物8……………	287
図版40	9901調査地点出土遺物9……………	288
図版41	9901調査地点出土遺物10……………	289
図版42	9901調査地点出土遺物11……………	290
図版43	9901調査地点出土遺物12……………	291
図版44	9901調査地点出土遺物13……………	292
図版45	9901調査地点出土遺物14……………	293
図版46	9901調査地点出土遺物15……………	294
図版47	9901調査地点出土遺物16……………	295
図版48	9901調査地点出土遺物17……………	296
図版49	9901調査地点出土遺物18……………	297
図版50	9901調査地点出土遺物19……………	298
図版51	9901調査地点出土遺物20……………	299
図版52	9901調査地点出土遺物21……………	300
図版53	9901調査地点出土遺物22……………	301
図版54	9901調査地点出土遺物23……………	302
図版55	9901調査地点出土遺物24……………	303
図版56	9901調査地点出土遺物25……………	304
図版57	9901調査地点出土遺物26……………	305
図版58	9901調査地点出土遺物27……………	306
図版59	9901調査地点出土遺物28……………	307
図版60	9901調査地点出土遺物29……………	308
図版61	9901調査地点出土遺物30……………	309
図版62	9901調査地点出土遺物31……………	310
図版63	9901調査地点出土遺物32……………	311
図版64	9901調査地点出土遺物33……………	312
図版65	9901調査地点出土遺物34……………	313
図版66	9901調査地点出土遺物35……………	314

図版67	9901調査地点出土遺物36	315
図版68	9901調査地点出土遺物37	316
図版69	9901調査地点出土遺物38	317
図版70	1205調査地点	318
	写真141 調査区全景（南より）	
	写真142 1・4号溝 北4・5区（北東より）	
図版71	1205調査地点	319
	写真143 1号溝 北6・7区（北東より）	
	写真144 調査開始前状況（西より）	
	写真145 1号溝土層堆積状況 北4区 (南西より)	
	写真146 1号溝ウマ下顎骨出土状況 北4区 (南より)	
	写真147 1・4号溝 北5区（南西より）	
図版72	1205調査地点	320
	写真148 1号溝 北6区（北より）	
	写真149 1号溝 北7区（南西より）	
	写真150 1・4号溝 中7区（南西より）	
	写真151 1号溝土層堆積状況 南9区 (南西より)	
	写真152 1号溝 南8・9区（南西より）	
図版73	1205調査地点	321
	写真153 1号溝 南11・12区（北西より）	
	写真154 1・2・3号溝 南8区 (北西より)	
	写真155 1号溝 南10区（南より）	
	写真156 1号溝 南11・12区（南西より）	
	写真157 1号溝 南12・13区（南西より）	
図版74	1205調査地点	322
	写真158 1号ピット掘削状況（北より）	
	写真159 1号ピット（東より）	
	写真160 2号ピット掘削状況（南より）	
	写真161 2号ピット（南より）	
	写真162 3号ピット（南より）	
	写真163 4・5号ピット検出状況（北より）	
	写真164 4号ピット（北より）	
	写真165 5号ピット（北より）	
図版75	1205調査地点出土遺物1	323
図版76	1205調査地点出土遺物2	324
図版77	1223調査地点	325
	写真166 調査区東半全景（南より）	
	写真167 調査区西半全景（南より）	
図版78	1223調査地点	326
	写真168 4号溝（南東より）	
	写真169 200号溝（南東より）	
図版79	1223調査地点	327
	写真170 1次掘削終了状況（北より）	
	写真171 4号溝（南東より）	
	写真172 4号溝土層堆積状況（南東より）	
	写真173 4号溝 獣骨出土状況（南東より）	
	写真174 5号溝（東より）	
	写真175 9号溝（南より）	
	写真176 13号溝（南より）	
	写真177 240号溝（東より）	
図版80	1223調査地点	328
	写真178 古代堅穴住居址発掘状況（北より）	
	写真179 10号堅穴住居址（東より）	
	写真180 12号堅穴住居址（北東より）	
	写真181 73号堅穴住居址（南東より）	
	写真182 73号堅穴住居址遺物出土状況 (南より)	
図版81	1223調査地点	329
	写真183 123号堅穴住居址（南より）	
	写真184 123号堅穴住居址竪（南東より）	
	写真185 142・145号堅穴住居址（南より）	
	写真186 62号堅穴住居址（東より）	
	写真187 48号堅穴住居址（南東より）	
図版82	1223調査地点	330
	写真188 76号堅穴住居址（西より）	
	写真189 76号堅穴住居址竪完掘（西より）	
	写真190 147号堅穴住居址（西より）	
	写真191 90号堅穴住居址遺物出土状況 (南東より)	
	写真192 165号堅穴住居址（南東より）	
図版83	1223調査地点	331
	写真193 74号堅穴住居址竪上面遺物出土状況 (北東より)	
	写真194 同堅穴住居址竪下面遺物出土状況 (北東より)	

写真195	同竪穴住居址土坑遺物出土状況 (北東より)	図版87	1223調査地点.....	335
写真196	同竪穴住居址床面検出状況 (南東より)	写真213	1号掘立柱建物址東側(南より)	
写真197	同竪穴住居址掘り方(南東より)	写真214	1号掘立柱建物址23P 覆土半裁状 況(東より)	
図版84	1223調査地点.....	写真215	1号掘立柱建物址24P 覆土半裁状 況(東より)	
写真198	93号竪穴住居址(南西より)	写真216	1号掘立柱建物址163P 覆土半裁状 況(南より)	
写真199	63号竪穴住居址(南西より)	写真217	212号土坑(南東より)	
写真200	104号竪穴住居址竪(南東より)	写真218	213号土坑(南より)	
写真201	104号竪穴住居址掘り方 (南東より)	写真219	236・237号土坑(南東より)	
写真202	104号竪穴住居址(南東より)	写真220	243号土坑(東より)	
図版85	1223調査地点.....	図版88	1223調査地点出土遺物1.....	336
写真203	120号竪穴住居址(南東より)	図版89	1223調査地点出土遺物2.....	337
写真204	120号竪穴住居址竪遺物出土状況 (南東より)	図版90	1223調査地点出土遺物3.....	338
写真205	154号竪穴住居址(南東より)	図版91	1223調査地点出土遺物4.....	339
写真206	206号竪穴住居址(南より)	図版92	1223調査地点出土遺物5.....	340
写真207	207号竪穴住居址(南東より)	図版93	1223調査地点出土遺物6.....	341
図版86	1223調査地点.....	図版94	1223調査地点出土遺物7.....	342
写真208	208号竪穴住居址(南より)	<巻頭図版>		
写真209	210号竪穴住居址(南東より)	1.	9901調査地点全景(東より)	
写真210	215号竪穴住居址竪燃焼面 (南東より)	2.	38号土器集中部(北より)	
写真211	215号竪穴住居址掘り方 (南東より)	1.	0204調査地点南側全景(西より)	
写真212	215号竪穴住居址(南東より)	2.	1223調査地点74号竪穴住居址竪上面遺物出 土状況(北東より)	

目 次

表1	熊本大学敷地埋蔵文化財包蔵地指定一覧	表6	0210調査地点出土遺物一覧表.....	58
1	表7	9901調査地点出土遺物一覧表.....	135
表2	既往調査地点と本書収録調査地点一覧表	表8	1205調査地点基準点座標一覧表 (世界測地系).....	169
5	表9	1205調査地点検出ピット一覧表.....	172
表3	9911調査地点出土遺物一覧表.....	表10	1205調査地点出土遺物一覧表.....	177
表4	0204調査地点出土遺物一覧表.....	表11	1223調査地点出土遺物一覧表.....	242
表5	0206調査地点出土遺物一覧表.....			

I 構内遺跡と調査の概要

1. 熊本大学敷地と構内遺跡の概要

熊本大学が保有する敷地は、熊本市内の黒髪地区・本荘地区・九品寺地区・大江地区・小磯地区・京町地区・城東地区及び下南部地区的8区、市外の合津地区・阿蘇地区的2地区に分散しており、それぞれ埋蔵文化財の包蔵地となっている（表1）。

法・文・教育・工学・理学部の校舎が設置されている黒髪地区は黒髪町遺跡群（熊本市埋蔵文化財地図No.8-88）に含まれる。本遺跡は熊本市中心部のはば北東端に位置する立田山（標高151.6m）の南西部の緩斜面が、西を坪井川の作る沖積面と南を白川河岸の低位段丘によって囲まれる東西900m、南北1000mの遺跡群であり、縄文時代から歴史時代に至る遺構・遺物を包蔵している。遺跡発見の経緯は昭和11年に通り、大学に隣接する熊本県立中学済々学（現済々学高校）の校庭から壺棺2基が発見されたことに始まる。また昭和40年には隣接する九州女学院駅地においてやはり弥生時代中期の壺棺や古墳時代の須恵器瓶などが発見するに至り、その重要性が認識されるに至った。黒髪町式土器の指標遺跡である。このように弥生時代を中心とした遺跡としての認識が高いが、1983年に実施された済々学高校内における新たな調査によって古代の堅穴住居址と土師器・須恵器・黒色土器などの関連遺物が出土し、その中には「寺門」銘の墨書き土器が含まれているなど古代飽田郡における拠点的な性格をもつた遺跡であることが予想された（『新熊本市史料編第1巻考古資料』新熊本市史編纂室1996）。古代官道や駅伝制の研究上、文献で推定されていた延喜式にみる「蚕糸駅」、旧飽田郡家の推定地としても注目を集めてきた（木下1975・1995）が、近年ではこれまでの周辺遺跡での発掘成果および文献資料の検討、そして本調査室による発掘成果を受けて、済々学高校から本学黒髪地区周辺が飽田郡都建部公の居所であり、飽田郡家として比定するなどの積極的な意見が展開されている（鶴鳴1997）。このように、本遺跡は先史時代のみならず、古代律令制下の駅伝制を考える上できわめて重要なものである。本報告において黒髪南地区4地点の発掘調査記録を収録している。

表1 熊本大学敷地埋蔵文化財包蔵地指定一覧（アミ部分は本年度調査した地区を示す）

No.	地区名（学部名）	所在地	遺跡名称	遺跡の種類	遺跡の時代	備考
1	黒髪北地区（法・文・教・大数センター）	熊本中央区黒髪2丁目40-1	黒髪町遺跡	集落址	縄文・弥生・奈良・平安	
	黒髪東地区（教育学部附属特別支援学校）	熊本中央区黒髪5丁目17-1				
2	黒髪南地区（工・理）	熊本中央区黒髪2丁目39-1	黒髪町遺跡	集落址	縄文・弥生・奈良・平安	
3	京町地区（教育学部附属小・中学校）	熊本中央区京町本丁5-12	京町台遺跡	集落址	弥生・近世	
4	城東地区（教育学部附属幼稚園）	熊本中央区城東5-9	熊本城址	城館址・熊本城	近世	闇道
5	教育学部新南部農場	熊本東区新南部屋敷201-1	新南部道路	散布地	縄文・弥生	
6	合津マリンステーション	上天草市松島町大字合津8681	前島貝塚	集落址	縄文・弥生	1995年度の調査によって貝塚でないことが判明
7	本荘中地区（医学部）	熊本中央区本荘2丁目2-1	本荘遺跡	散布地・集落址	縄文・弥生・奈良・平安・中世	
8	本荘北地区（医学部附属病院）	熊本中央区本荘1丁目1-1	本荘遺跡	散布地・集落址	縄文・弥生・（熊大病院・墓地）	古墳・奈良・平安・近代
9	本荘南地区（保健学科） (参考地)	熊本中央区九品寺4丁目2-1	本荘遺跡	散布地・集落址	縄文・弥生・周辺遺跡	奈良・平安・中世
10	薬学部	熊本中央区大江本町5-1	大江遺跡群	官衙址	奈良・平安	周辺道路
11	大江地区	熊本中央区渡度4丁目1-1	大江遺跡	集落址	奈良・平安	
12	宇留毛地区（職員宿舎）	熊本中央区里原7丁目783番	宇留毛神社	散布地	弥生・奈良・平安	
				周辺遺跡群		

1. 熊本大学敷地と構内道路の概要

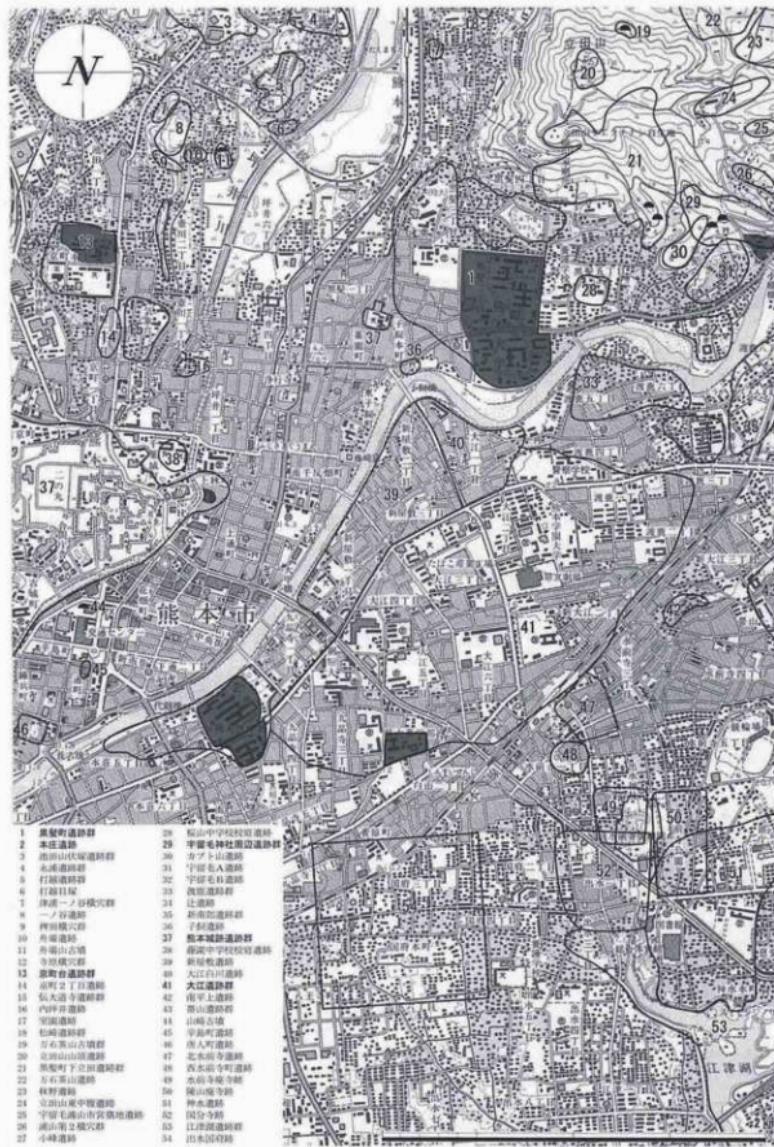


図1 黒髪町遺跡群・本庄遺跡の位置と周辺遺跡の分布図（1/25000）

医学部附属病院および医学部がある本荘地区は、本庄遺跡（熊本大学病院敷地遺跡）（熊本市埋蔵文化財地図No 8 - 95）を包括する。本遺跡は黒髪町遺跡群と同じく熊本平野を形成する扇状地形の中央を流れる白川の河岸堤防上に位置する遺跡であり、標高は13~12mである。附属病院の所在する白川寄りの地点が標高が高く、南東部（医学部側）へと緩やかに傾斜する地勢である。敷地内を白川より分岐した小河川が暗渠として流れしており、古来この一帯は流路を変えながら幾本もの小河川が流れていた可能性が高い。『熊本中央北地区文化財調査報告書』（熊本市教育委員会1980）によれば、1963年ごろ本大学医学部附属病院の敷地内から須恵器、土師器、布目瓦片類が採集されており、遺跡の存在が確実であるとされ、遺跡としての認定を受けている。しかし、その後本敷地内において学術的な発掘調査は一度も実施されておらず、遺跡の詳細な内容に関しては本調査室における調査が実施されるまで不明であった。しかし、先の報告の中では、東側に隣接する仙崇寺小松原墓地（現在の小松原公園）内においても須恵器片が採集され、遺跡の包含層がより広いことが想定されていた。この地区で最初に本格的な埋蔵文化財の調査が行われたのは、1995年に道路を挟んで隣接する医学部敷地内において計画されたRI総合センター遺伝子実験施設の建築に先立つ発掘調査である。この調査によってより南側の地区まで良好な状態で遺跡の広がりを確認することができた。よって、遺跡の範囲は東西500m、南北500mを越えるものと推定される。なお、本報告では本荘北地区（本学附属病院内）で実施した発掘調査の記録1件、本荘中地区（医学部）2件を収録した。

薬学部が所在する薬学部地区は、大江遺跡群（熊本市埋蔵文化財地図No 8 - 93）の南西端に位置する。また、本学大江総合運動場は本遺跡群の北東端に位置している。地形は本庄遺跡とはほぼ同じで、白川河岸に隣接し、標高は13~20mである。本遺跡群は詫麻郡家および渡鹿庵寺などの推定地を含む熊本市内でも有数の大規模（東西1.8km、南北1.7km）かつ貴重な古代を中心とした遺跡群であり、これまで60次にわたる調査が実施され、各種遺物を伴って、8・9世紀代を中心とした古代竪穴住居址群、掘立柱建物址、道路址、溝址などが検出されている（新熊本市史編纂室1996）。本学が実施した調査においては、大江総合運動公園整備に伴う調査によって古代関連の遺物・遺構群が発見された他は、薬学部敷地の北西部において古代包含層の一部を確認しているにすぎない。薬学部敷地内においては大規模な建替えが最近実施されたが、この際の試掘によって、構内の東側では遺構や包含層は存在せず、北西部に絞られる様相が明らかになってきた。

附属中学校・小学校の所在する京町地区は京町台遺跡群（熊本市埋蔵文化財地図No 8 - 45）（東西400m、南北350m）に包括され、同遺跡群内には熊本市立京陵中学校と熊本営林局も含まれる。本台地は熊本平野の北部にある阿蘇4火砕流（凝灰岩）が形成した標高30~40mの平坦な台地であり、東西両側はそれぞれ坪井川と井芹川が流れて急峻な崖地を形成している。この天然の要害ともいべき地の利を活かして台地の南端には熊本城が築かれており、周辺の台地上には武家屋敷が築かれていた。本遺跡における発掘調査の嚆矢は、1966年、営林署内の宿舎改築工事の際、遺構は検出されなかったが、重弧文をもつ弥生式土器、土師器、瓦器片が少量出土したことであり、現在では弥生時代遺跡として認定されている（熊本市文化財調査会1971）。これまでの発掘成果によると、構内の西側を中心として弥生時代～近世の遺構・遺物が確認されている。

沿岸域環境科学教育研究センター附属合津マリンステーションの占地する合津地区は、熊本県上天草市松島町合津に所在する。遺跡は本地区のある松島の南西部端、標高12mの丘陵端部に位置する。この松島を含めた一帯は有明海から不知火海へ抜ける海上交通の要衝にあたり、天草で唯一の形象埴輪を出土したカミノハナ古墳群や長沙連古墳、大戸鼻古墳群など重要な古墳が密集しているように、古来より重要な拠点として意識されていたところもある。また、縄文時代にはカルワ島遺跡や柳遺

2. 調査に至る経緯

跡のように海岸部や海底に位置する遺跡群が数多く発見されている。沿岸域環境科学教育研究センター附属合津マリンステーションは、1956年に天草で初めて発見された縄文時代遺跡として著名な前島貝塚（熊本県遺跡地図57-013）とその東部にある梅殿古墳（同014）の隣接地にあたり、同貝塚の広がりが合津マリンステーション敷地内に残存する可能性も大きく、古墳周辺の遺構の存在も予想されるような位置にある（熊本県教育委員会1968）。実際、1969年に合津マリンステーションの北部丘陵斜面にある宿舎が建設された際、建設業者によって7本の石斧が発見されているし、合津マリンステーションの船着場南側の海岸では本学考古学研究室の学生諸氏によって縄文時代早期～前期を中心とした土器や石器が採集されている。よって合津マリンステーション内とその周辺は縄文時代の遺跡・遺構が存在する可能性がきわめて高いところとして周知されていたところであった。本地区においては、1995年に合津マリンステーション改築工事に伴う発掘調査によって、前島貝塚が貝塚ではなく、本丘陵上には縄文時代早期の遺物包含層や遺構群が存在することが明らかになった（熊本大学埋蔵文化財調査室1996・小畑2001）。

2. 調査に至る経緯

熊本大学の校地は先に示したように8地区に分散しており、どの校地も狹隘化してきているため、かねてから校地の移転などが議論されてきた。昭和60年に当時の熊本県知事から校地移転を検討する旨の申し出があり、その件について学内で議論され、本荘地区的医学部・附属病院を除き他の地区は現地再開発が決定された。本荘地区も平成5年に現地再開発することが決定されたので、全学が現地再開発で取り組むこととなった。その後それぞれの地区での再開発構想が検討され、基本的な計画が出来上がった地区から文教施設費を概算要求し、それらが認められたところから再開発事業が始まった。一方、黒髪地区などにおいては、従来から建設工事などによって古代や先史時代の遺物が発見されていたにもかかわらず、埋蔵文化財包蔵地としては周知されていなかった。

平成5年10月から黒髪南地区において情報処理センターの建設工事が始まったところ、熊本市教育委員会文化課から工事前に埋蔵文化財の発掘調査が必要である旨の連絡があり、同課へ出向き確認したところ、平成5年4月1日から熊本市文化財保護審議会において黒髪地区などが埋蔵文化財の包蔵地として追加指定されていることが判明した。そこで大学が計画している建設工事の予定地に係わる試掘調査の届を同課に提出して、調査を依頼した。試掘調査の結果では、ほとんどの建設工事に先立ち発掘調査が必要であるということになった。

今後の発掘調査について同課に相談したところ、以下の回答があった。

①国の機関（大学等）は考古学研究室などがあって専門のスタッフを擁していることでもあり、熊本大学においてもそのような機関を設け、そこが実施機関として発掘調査を担当願いたい。

②熊本市が平成6年度発掘調査の依頼を受けたとしても、それを実施する場合、既に他の発掘調査予定が半年分はあるので、急いで9月または10月頃から調査を始めることとなる。

以上のことから、熊本大学の再開発事業には事前の試掘および発掘調査を行うことが必須条件であり、そのためには大学独自の調査組織を早急に設けることが必要となった。まずは発掘調査組織の中核となってもらうべく、文学部考古学研究室に協力を依頼し、このことについて承諾を得た後、急ぎ委員会などの組織作りを行い、責任体制を確立するための作業が始められた。本学の状況および他大学に既に設置されている同種組織の内容を勘案しながら検討した結果、熊本大学埋蔵文化財調査委員会（以下「調査委員会」と略する）を設けることとなった。また、この調査委員会の下に熊本大学埋

歳文化財調査室（以下「調査室」と略する）を置き、発掘調査の実務を担当することとした。

平成6年4月7日をもって熊本大学埋蔵文化財委員会規則が定められ、調査委員会が設置され、委員会内に調査室が置かれ、平成6年5月16日、委員会委員の委嘱、調査室長および調査員・事務補佐員が就任し、正式に調査室業務が始動した。調査室発足後は、文学部考古学研究室の甲元眞之教授をはじめとしたスタッフの多大なる協力のもと平成6年度建設予定地の調査を中心に発掘調査が実施された。以下の経緯については『熊本大学埋蔵文化財調査室年報』を参照されたい。

平成23年10月1日には、熊本大学埋蔵文化財調査室から、熊本大学埋蔵文化財調査センターとして発足した。

3. これまでの調査と本書収録の遺跡

以後平成25年3月末日現在まで、再開発計画に則り行われた事業の事前調査として、表2のような調査が実施されてきた。本書はこの中から1999（一部）・2002・2012年度に実施した発掘調査の成果を報告する。試掘・立会調査などについては年報において既報告があるので、本書からは除外した。

1999年度は黒髪南地区において、黒髪団地南地区水生動物飼育舎建築工事に伴う発掘調査（9911調査地点）、本荘北地区においては（医病）病棟（軸）新営工事に伴う発掘調査（9901調査地点）が実施された。9901調査地点は、本学構内遺跡の調査としては最大の面積で、遺構・遺物とともに密度に分布する地点であった。1999年度に実施した発掘調査の報告は既に本報告IV（2010）で行っているが、9901調査地点については整理作業がようやく一段落ついた本年度に報告する。2002年度は黒髪南地区において、黒髪団地南地区総合研究棟新営工事に伴う発掘調査（0204調査地点）、黒髪団地南地区総合研究棟新営に伴う樹木移植工事に伴う発掘調査（0206調査地点）、黒髪団地南地区工学部樹木移植工事に伴う発掘調査（0210調査地点）が実施された。2012年度は、本荘地区において大小の調査が実施された。本書ではそのうち（本荘中）医学部基礎研究棟（B棟東側）とりこわし工事に伴う発掘調査（1205調査地点）、（本荘中）国際先端医学研究拠点施設新営工事に伴う発掘調査（1223調査地点）について報告する。

以上、本書では、1999・2002・2012年度に実施した、黒髪南地区4件、本荘北地区1件、本荘中地区2件、の計7件の発掘調査の報告を掲載した。

表2 既往調査地点と本書収録調査地点一覧表

1994年度						
94-4-15~17	9401	（京北）運動場整備（照明塔建設）工事	発掘調査	128m ²	古代	古代土器・灰陶器 年報1
94-4-21	9402	（京北・南）馬鹿池整備（教育部レッペーター京取設）工事	発掘調査	47.5m ²	古代	ガラス・組器片 年報1
94-4-25	9403	（京北・南）地区名石整備（工学部エレベーター京取設）工	発掘調査	48m ²		包含層確認・土器片 年報1
94-5-13~14	9404	（京北）福利施設建設予定地の樹木移植	立会調査	30m ²	古代	年報1
94-5-17~6-25	9405	（京北）雨戸小学校舎着工工事	発掘調査	400m ²	南北	磚瓦土器・朱绘土器・灰陶器・土 器片・近代陶器・瓦石・陶瓶・ 瓦・ガラス瓶 本報告1
94-5-20/23-24	9406	（京北）武大臣運動場整備（集水井設設）工事	発掘調査	100m ²	古代	年報1
94-5-23~7-28	9407	（京北）福利施設建設工事	発掘調査	1200m ²	古代	年報1
94-8-1~8-10	9408	（鹿児）グラント集水井整備工事	発掘調査	404m ²	古代	土器器 年報1
			立会調査			

3. これまでの調査と本件収録の遺跡

94-8-11	9409	(滋北) 武丸城跡取締新宮工事 - 外堀基礎工事	立会調査	23.4af	伝令塀に達せず遺物なし、土居跡 片	年報1	
94-8-12	9410	(滋北) 朝倉学校校庭引込込み配管工事	立会調査	1.6af	遺構・遺物なし	年報1	
94-8-22	9411	(滋北) 五条塗壁 (須坂国賀戸スロープ駅跡) 工事	立会調査	25.5af	伝令塀に達せず、遺構・遺物なし	年報1	
94-9-12-10-31	9412	(滋北) 工学部実験棟新宮工事	発掘調査	743.6af 合 代	古代型穴柱跡、古代土器類、鐵 束帯、瓦・土瓶類、鉄器、褐土支 器	本報告1	
94-11-14-12-22	9413	(滋北) グランド整備工事	発掘調査	200af 桶文・古代	古代穴柱跡址、古窓跡、古代土 器類、鐵器、セラマ、鐵石、陶 器、瓦文瓦・石器	本報告1	
95-1-17-21	9414	(滋北) 福岡設置設備工事	立会調査	160af	遺構・遺物なし	年報1	
95-1-19-21, 1-26-2-1	9415	(滋北) 工学部井筒工事	立会調査	50af	遺構・遺物なし	年報1	
95-2-27	9416	(滋北) 岩崎跡排水管敷設工事新宮工事	立会調査	120.7af	遺構・遺物なし	年報1	
95-3-15-23	9417	(滋北) 岩崎跡設置工事	立会調査	100af	遺構・遺物なし	年報1	
1995年度							
95-2-5-5-2	9501	(滋北) 工学部研究実験棟新宮 I 開共同建設工事	発掘調査	90af 古代-近世	古代窪穴居住址、柱穴、唐、唐文 鐵器土器片、古代土器類、須坂器	本報告1	
95-3-9-10	9502	(滋北) 工学部附属工学校機器センター新宮工事	試掘調査	20af	立会調査	須坂器址・古代土器類、須坂器	年報2
95-5-15-16	9503	(滋北) 工学部 II 研究実験棟建室及び基礎開削	試掘調査	20af	立会調査	須坂器・古代土器類、須坂器	年報2
95-5-29-20-6-21 -26	9504	(滋北) 工学部研究実験棟新宮屯屋造 (その2) に伴う高 压ケーブル施設	立会調査	30af	立会調査	須坂・遺物なし	年報2
95-5-21	9505	(滋北) 工学部内古墳複数段	立会調査	14af	遺構・遺物なし	年報2	
95-5-22	9506	(滋北) 平野駅前外回配管改修	立会調査	10af	遺構・遺物なし	年報2	
95-8-8-10-12	9508	(合) 連理学部附属施設実験棟改修工事	発掘調査	200af 桶文	鐵石、古土平壠土器・石器	年報2	
95-11-2	9509	(滋北) 工学部研究実験棟新宮屯屋造 (その2) に伴うガス配管	立会調査	古 代	古代窪穴居住址、古代土解片	年報2	
95-11-4-6	9510	(本庄北) 医学校 BII 総合センター造成工事実験棟設置及び 外構砌石工事	試掘調査	200af 古 代	古代窪穴居住址、窪穴居住址、古 代土器類、須坂器	年報2	
95-11-13-15	9512	(滋北) 工学部研究実験棟新宮 I に伴う排水管敷設	発掘調査	60af 古 代	古代窪穴居住址、柱穴、窓跡、 鐵文銘鉢土器片、古代土器類、須 坂器	本報告1	
95-11-17	9513	(滋北) 工学部研究実験棟新宮 I に伴う外構	立会調査	立会調査	須坂・遺物なし	年報2	
95-11-17	9514	(滋北) 工学部研究実験棟新宮 I に伴う外構	立会調査	古 代	古代土器類、須坂器片	年報2	
95-11-21-22	9505	(滋北) 工学部 II 研究実験棟建室に伴う基礎開削	立会調査	古 代	古代土器類、須坂器	年報2	
95-11-22	9515	(滋北) 工学部研究実験棟新宮 I に伴う外構	立会調査	古 代	立会調査・須坂・古代土器類	年報2	
95-11-24	9511	(滋北) 工学部 II 総合センター造成工事実験棟設置工事	立会調査	立会調査	一部立会調査・須坂・遺物なし	年報2	
95-11-28-29	9516	(滋北) 工学部研究実験棟新宮 I に伴う外構	発掘調査	72af 桶文-古代	須坂器・柱穴、鐵石、鐵文銘鉢片、古 代土器類、須坂器	本報告1	
95-12-1	9511	(本庄北) 医学校 BII 総合センター造成工事実験棟設置工事に伴 う外構設置	立会調査	立会調査	立会調査・須坂・遺構・遺物なし	年報2	
95-12-4	9517	(本庄北) 医学校 BII 総合センター造成工事実験棟設置工事に伴 う外構	立会調査	立会調査	須構・遺物なし	年報2	
95-12-5	9518	(滋北) 工学部 II 研究実験棟設置工事に伴う内構工事	立会調査	10af	須構・遺物なし	年報2	
95-12-12-14	9519	(滋北) 工学部研究実験棟新宮 I に伴うガス配管	立会調査	古 代	古代柱穴・唐、古代土解片、須坂 器	年報2	
95-12-18	9520	(滋北) 教養所自道路改修	立会調査	10af	須構・遺物なし	年報2	
95-12-25-	9521	(本庄北) 医学校 BII 総合センター造成工事実験棟設置工事	発掘調査	976.9af 桶文・古 代	古代窪穴居住址、窓跡・須坂器・古 代土器類、須坂器・土器・瓦・鐵石 ・瓦器	本報告1	
96-2-22	9522	(滋北) 工学部校舎新設	試掘調査	40af	先史土壇・ピット、狹中壠土器	年報2	
96-3-1	9521	(滋北) 文部省新設	立会調査	立会調査	立会調査・須坂・古代土器類	年報2	
96-3-6	9522	(滋北) 第五高等学校記念講堂新設工事	立会調査	立会調査	立会調査・須坂・古代土器類	年報2	
96-3-21	9523	(滋北) 学生部長部屋改修工事改修工事改修工事改修工事	立会調査	立会調査	須構・遺物なし	年報2	
96-3-25-26	9524	(京成) 教育部財賛小学校排水管敷設工事	立会調査	27.6af	須構・遺物なし	年報2	
1996年度							
96-4-19	9601	(本庄北) 医学校校舎建設	試掘調査	33af 古 代	古代立会調・唐、古代土器類、須 坂器	本報告1	
96-5-10	9602	(滋北) 文字学校新設	立会調査	1af	須構・遺物なし	年報3	
96-5-10-6-24	9603	(滋北) 工学部校舎建設	発掘調査	1,000af 桶文・古 代	桶文・須坂・古代窪穴居住址、 窓跡・須坂・柱穴・唐穴、 鐵文銘鉢土器・狭中壠土器・土器、瓦 ・瓦器・古土・古代土器類・須坂器 ・鐵器・瓦	本報告1	
96-6-13	9604	(滋北) 教育部 ATM ネットワーク付設工事	立会調査	40af 近 代	須構・遺物なし	年報3	
96-6-14	9605	(滋北) 教育部附属小学校 ATM ネットワーク付設工事	立会調査	14af	近代器皿	年報3	
96-6-15	9606	(滋北) 学生部 ATM ネットワーク付設工事	立会調査	立会調査	須構・遺物なし	年報3	
96-6-17	9607	(滋北) 文部省新設改修工事	立会調査	4m 古 代	一部立会調査・須坂・古代土器類	年報3	
96-6-18	9608	(滋北) 工学部 BII 実験棟新設工事	立会調査	21af	須構・遺物なし	年報3	
96-6-5	9609	(滋北) 入試官宿構造工事(実用)	発掘調査	4af	須構・遺物なし	年報3	
96-6-6~9	9601	(本庄北) 医学校校舎建設に伴う排水管移転・新水槽設工事	発掘調査	457af 古 代	古時時代前期窪穴居住址・古代 窪穴居住址・吉崎時代土器群・古代 土器群・須坂器	本報告1	
96-8-22-27	9601	(本庄北) 医学校校舎建設に伴う切り替え道路改修(4区)	発掘調査	37.4af 古 代	堅土窪穴居住址・柱穴・古代土器群・ 須坂器	本報告1	
96-8-29-30	9601	(本庄北) (以)学校校舎建設に伴う切り替え道路改修(5区)	発掘調査	28.2af 古 代	堅址・古代土器群・須坂器	本報告1	
96-9-6	9610	(滋北) 教養所夏目新施設建立	試掘調査	9af	須構・遺物なし	年報3	
96-10-1-9	9601	(本庄北) 医学校校舎建設に伴う排水管切り替え工事(6区)	発掘調査	104.3af 古 代	古代道路・堅穴居住址・古代土器 ・須坂器	本報告1	

96-10-11～ 97-1-17	9601 (本荘北) 医学部校舎本体工事 (本年度)	発掘調査	1,600m ²	韓文・古墳 ・古代	韓文古墳墓、古墳墓・古墳 ・聖火祭祀址、竪石柱・土壇 ・近代墓地、韓文祭祀址・土壇 /古代・祭祀器、祭祀器・铁器・石 器	本報告書
96-10-21～29	9601 (本荘北) 医学部校舎建設に伴う排水管切り替え工事 (7-8) 発掘調査	828m ²	古 代	古代聖火祭祀址・塙、古代土器群	本報告書	
96-11-12～13	9601 (本荘北) 医学部校舎建設に伴う排水管切り替え工事 (10日) 発掘調査	218m ²	古 代	古代聖火祭祀址・塙、古代土器群	本報告書	
96-11-12	9611 (函館) 工学部外灯付接駆工事	立会開示	04m ²	遺構・遺物なし	年報3	
96-12-18	9612 (函館) 工学部電線配線工事	立会開示	748m ²	遺構・遺物なし	年報3	
97-3-3～31	9613 (函館) 工学部研究室新築工事・新蔵施設改修工事	立会開示	175m ²	遺構・遺物なし	年報3	
97-3-7	9614 (函館) 工学部新築キルギー実験大廈取扱工事	立会開示	109m ²	遺構・遺物なし	年報3	
1995年度						
97-4-6	9701 (本荘北) 医学部情報リテラシー教育施設充実設備その他の改修工事	立会開示	21m ²	一部仮合宿を確認・遺構なし・古	年報4	
97-5-7	9702 (函館) 理学部ヘリカル構造塔・ヘリウム管路改修工事	立会開示	1256m ²	遺構・遺物なし	年報4	
97-5-28	9703 (本荘北) 医学部外灯付接駆研究室新蔵施設改修工事	試掘調査	4m ²	遺構・遺物なし	年報4	
97-7-28～11-4	9704 (函館) 工学部校舎新工事	発掘調査	1,783m ²	弥生・古代 ・聖火祭祀址・柱穴・近世墓、 祭祀中止祭祀・土師器・鐵器・古 代土器・近世祭祀器	本報告書	
97-10-29	9705 (京町) 教育学部附属中学校女性立派建立	立会開示	26m ²	遺構・遺物なし	年報4	
97-10-30	9706 (函館) 北大附属幼稚園完成記念式	立会開示	12m ²	遺構・遺物なし	年報4	
97-11-1～	9707 (本荘北) 医学部外灯付接駆改修工事	立会開示	370m ²	古代・近代 ・古代墓地・古代土器・柱穴・近世墓、 人骨・石器等・古代土器	年報4	
98-1-30～2-12	9708 (函館) 文・教・教育学部外灯設置改修工事	立会開示	619m ²	古 代	年報4	
98-2-3～2-13	9709 (函館) 普通科附属号舍取り壇し工事	立会開示	116m ²	古 代	一部仮合宿を確認・遺構なし・古 代土器	年報4
1996年度						
98-4-14	9801 (函館北) 工学部校舎改修に伴う排水管敷工事	立会開示	10m ²	廻廊により遮蔽なし	年報5	
98-6-26～7-2	9801 (本荘北) 医学部エコシステムセンター・動物資源開発センターペダル配置改修工事	立会開示	24m ²	古 代	遺構・遺物認められず	年報5
98-7-6	9801 (本荘北) 同上校舎改修工事	立会開示	3m ²	遺構・遺物なし	年報5	
98-7-13	9809 (函館) 工学部3号電気監修工事	立会開示	972m ²	韓文・古代 ・聖火祭祀址・經穴・柱穴・土 壇・近世	本報告書	
98-7-28～9-10	9801 (本荘北) 医学部エコシステムセンター・動物資源開発センター新工事	発掘調査	9m ²	遺構・遺物なし	年報5	
98-9-21～22	9803 (函館) 文化部立派改修工事に伴う木部移植工事	立会開示	575m ²	韓文・古代 ・聖火祭祀址・柱穴・土 壇・廻廊・古文・先住民族包含整理 区	本報告書	
98-9-23～11-6	9804 (函館) 文化部立派改修その他の工事	発掘調査	10m ²	古 代	河成社祭祀を後承、遺構・遺物な し	年報5
98-9-28	9805 (本荘北) 大学病院南側新工事	試掘調査	2m ²	遺物包含層・柱穴状跡・古代土器 片	年報5	
98-9-29	9806 (本荘北) 大学病院中央南側新工事	試掘調査	5m ²	遺物包含層	年報5	
98-9-30	9807 (本荘北) 大学病院南側改修工事に伴うセッタ支給室等取扱工事	試掘調査	2m ²	古 代	遺物包含層・柱穴状跡・古代土器 片	年報5
98-10-6	9808 (函館) 工学部1号電気監修工事	立会開示	30m ²	廻廊面にはせず・遺構なし	年報5	
98-10-28～11-20	9807 (本荘北) 大学病院南側改修工事に伴うセッタ支給室等取扱工事	試掘調査	175m ²	古 代	韓文土器・石器等 ・古代聖火祭祀址・土壇・廻・近世 廻	本報告書
98-11-2	9801 (函館) 医学部エコシステムセンター・動物資源開発研究センター開	発掘調査	139m ²	廻廊のため存在せず	本報告書	
98-12-14～12-18	9810 (函館) 理学部自然科學等組合実験施設玄関改修工事	立会開示	35m ²	古 代	遺物包含層・柱穴状跡・古代土器 片	年報5
98-12-16	9803 (函館) 文化部立派改修工事	立会開示	33m ²	古 代	廻廊面に認・遺構・遺物なし	年報5
98-12-17～	9805 (函館) 大学病院南側新工事に伴う基礎工事	立会開示	33m ²	古 代	聖火祭祀址・柱穴・近世	年報5
99-1-10	9811 (函館) 工学部実験施設改修工事	試掘調査	14m ²	韓文・古代 ・柱穴・廻	年報5	
99-1-12	9810 (函館) 理学部自然科學等組合実験施設新工事	発掘調査	1,096m ²	韓文土器・石器等 ・古代聖火祭祀址・柱穴・廻・近世 廻	本報告書	
99-2-2	9802 (函館) 廉價宿舎事業に伴う文化部改修工事	立会開示	260m ²	遺構・遺物なし	年報5	
99-2-10	9802 (函館) 廉價宿舎事業に伴う建屋工事	立会開示	40m ²	廻構面にはせず・遺構なし	年報5	
99-2-18	9801 (函館) 廉價宿舎事業に伴う建屋工事	立会開示	123m ²	地表下5mで同時代遺物包含層 ・遺構面を確認・遺構・遺物なし	年報5	
99-2-29～3-5	9803 (函館) 廉價宿舎事業に伴う電気配線工事	立会開示	4m ²	地表下50cmで水田土を堆积・遺 構・遺物なし	年報5	
99-3-11～12	9811 (大江) 遊具園地東面ブロック塀改修工事	立会開示	70m ²	散在層・遺構面認取・遺構・遺物 なし	年報5	
99-3-10～31	9801 (本荘南) 医学部エコシステムセンター・動物資源開発研究センターエコ宮に伴う配管切替工事	立会開示	575m ²	一部仮合宿・遺構面認取(ビ ト)・遺物なし	年報5	
1997年度						
99-4-5～8-31	9901 (本荘北) 病棟(新) 新設工事	発掘調査	2,605m ²	韓文・古墳 ・古代・近 代・廻・土師器・古代祭祀址・柱 穴・大廈・土壇・土器・石器等・祭祀 器・鐵器・土級・近世	本報告書	
99-6-14～7-14	9902 (本荘北) 医学部エコシステムセンター・動物資源開発研究立会開示	立会開示	40m ²	古 代	古代柱穴・廻・遺物を少許検出	年報6
99-6-17	9903 (函館) 工学部実験施設改修工事に伴う植樹立会	立会開示	10m ²	遺構・遺物なし	年報6	
99-7-19/26	9904 (本荘南) 医学部エコシステムセンター新設工事	立会開示	2m ²	遺構・遺物なし	年報6	

3. これまでの調査と本件収録の道路

99-7-29~7-30	9905	(滋山) 自然科学研究科・農学部総合研究実験棟新谷ガス戸 立会調査	50m	遺物・遺構なし	年報6 省工事	
99-7-2~8-7	9906	(滋山) 自然科学研究科・農学部総合研究実験棟新谷ガス戸 立会調査	200m 古代	古代溝を条・柱穴2個、古代土器 片少量を検出	年報6 省工事文部	
99-9-22~10-5	9907	(滋山) 工学部実験棟プレハブ新工事	発掘調査	126.5m 古文書前期～ビット鋸、古文土器片出土 昭和期	本報7/1	
99-11-24~11-25	9908	(滋山) 明徳高等学校給食実験改築工事	試掘調査	42m 遺物はなし	トレンチ2本が定して調査したが、年報6 明徳高校なし。古文書印記	
00-2-14~3-24	9909	(滋山) 工学部実験棟新規構造研究センター・サテライト・ ベンチャービジネスラボトリ一掛新工事	試掘調査	1,855m 遺物・近代 昭和・基礎、地盤・新規構造設置、埋管、 倒壊、廃物	本報7/1	
00-1-25	9910	(本庄北) 血液検査装置室改修試験	試掘調査	2m	機器荷重下、遺構・遺物ともに確認 できず	年報6
00-3-6~14	9911	(滋山) 水生動物育成管理新工事	発掘調査	70.3m 古文書上層・古代土器群、埴輪器 等	本報6	
00-3-14	9912	(滋山) HD 管路新設工事	立会調査	3m	遺物・遺構ともに確認できず	年報6
00-3-2	9913	医学部医療化実験施設新築工事文部	立会調査	7.5m 遺構・遺物なし	年報6	
00-3-16~17	9914	(本庄北) さく井設備工事立会	立会調査	25m 遺構・遺物なし	年報6	
2000年度						
00-4-7	0001	(滋山) 水生動物育成管理新水槽水管新工事	立会調査	6.1m 遺構・遺物なし	年報7	
00-4-11	0002	(滋山) 水生動物育成管理新水槽水管新工事	立会調査	4.1m 遺構・遺物なし	年報7	
00-4-17	0003	(滋山) 工程監視新規取扱新工事	其他の調査	8.8m 遺構・遺物なし	年報7	
00-10-23	0004	(滋山) 工程監視新規・環境整備施設センター・サテライト・ ベンチャービジネスラボトリ一掛新工事	立会調査	18m 遺構・遺物なし	年報7	
00-10-30	0005	(滋山) 工程監視新規	立会調査	6.6m 遺構・遺物なし	年報7	
00-11-6~22	0006	(本庄北) 脳脊髄病院新築・環境整備指揮室(Ⅱ)新入 水槽設置工事(Ⅰ区)	発掘調査	119.4m 古文書・古墳・古代石器・古墳時代柱穴・住 居跡・土器群・埴輪器 ・古代	本報7/1	
00-11-22	0007	(本庄北) 脳脊髄病院新築・環境整備指揮室(Ⅱ)新入水槽設置工事	試掘調査	4m 近・現代墓葬・近代墓石・墓塚・遺骨 地	年報7	
00-11-27~29	0008	(本庄北) 脳脊髄病院新築・環境整備指揮室(Ⅱ)新入水槽設置工事	立会調査	85.5m 遺構・遺物なし	年報7	
00-12-4~13	0009	(本庄北) 脳脊髄病院新築・環境整備指揮室(Ⅱ)新入水槽設置工事	発掘調査	32m 古文書・古代 柱穴・遺構・簡便時代石器・土器 群・ガラス玉・瓦器・埴輪器	本報7/1	
00-12-5~	0010	(本庄北) 脳脊髄病院新築・環境整備指揮室(Ⅱ)新入水槽設置工事	立会調査	31.5m 古代 遺構なし・土器群数点	年報7	
01-1-10	0011	(本庄北) 脳脊髄病院新築・環境整備指揮室(Ⅱ)新入水槽設置工事	発掘調査	20.4m 古代 住居跡・土器群	本報7/1	
00-12-19~20	0012	(本庄北) 脳脊髄病院新築・環境整備指揮室(Ⅱ)新入水槽設置工事	立会調査	100.7m 近・現代墓葬・近代墓石・墓塚・遺骨 墓	年報7	
00-12-26~28	0013	(本庄北) 脳脊髄病院新築・環境整備指揮室(Ⅱ)新入水槽設置工事	立会調査	100.7m 近・現代墓葬・近代墓石・墓塚・遺骨 墓	年報7	
01-1-29	0014	(本庄北) 脳脊髄病院新築・環境整備指揮室(Ⅱ)新入水槽設置工事	立会調査	7m 遺物・遺構なし	年報7	
01-1-22~30	0015	(本庄北) 脳脊髄病院新築・環境整備指揮室(Ⅱ)新入水槽設置工事	発掘調査	119.4m 古文書・古代 柱穴・遺構	年報7	
01-2-5	0016	(滋北) 生物資源地図研究センター新ロード改修工事	立会調査	28m 遺品のみ・遺物・遺構なし	年報7	
01-2-6~9	0017	(滋北) 生物資源地図研究センター新ロード改修工事	立会調査	70m 古代 住居跡を複数・古代土器群・根柢 群	年報7	
01-2-16~19	0018	(滋北) 作付系虫駆除解・移転工事	立会調査	372m 遺物・遺構なし	年報7	
01-2-22	0019	(大口) 田植作付機械化工事・旧ボイラー解体移設工事	立会調査	132m 遺物・遺構なし	年報7	
01-3-5~6	0020	(滋北) 田植作付工事	立会調査	3m 遺物・遺構なし	年報7	
01-3-6	0021	(大口) 田植作付施設(西武道)取り廻し工事	立会調査	500m 遺物・遺構なし	年報7	
01-3-22	0022	(滋北) 田植作付組合事務所移設工事	立会調査	66m 遺物・遺構なし	年報7	
2001年度						
01-4-9~7-3	0101	(本庄北) 脳脊髄病院医学部総合研究実験新工事	発掘調査	1,733.75m 古墳・古代 田植跡・耕・施肥・墓葬跡・土器 ・近鉄・近・器・埴輪器	本報7/1	
01-5-14	0102	(黒山) 基幹・電線整備	試掘調査	4.8m 遺構・遺物なし	本報7/1	
01-5-14	0103	京町地区高圧ケーブル改修工事	立会調査	50.8m 遺構・遺物なし	年報8	
01-7-9~26	0102	(黒山) 基幹・電線整備	発掘調査	418.5m 古文書 立会調査	年報8	
01-7-4~10-29	0104	(本庄北) 脳脊髄病院幹部・施設整備(向井川設置)	発掘調査	1,023.5m 古墳・佛教 ・田植跡・耕・施肥・墓葬跡・土器 ・古墳・古・土器群・瓦器・石器・瓦器 ・古代	本報7/1	
01-7-13	0105	(滋北) 正門改修工事	立会調査	7.12m 遺構・遺物なし	年報8	
01-7-20~11-14	0106	(滋北) 大学教育研究センター等改修工事	立会調査	3,907m 遺構・遺物なし	年報8	
01-7-31	0107	(大口) 市原町共同作業場新設工事	立会調査	97.84m 遺構・遺物なし	年報8	
01-8-1~12	0108	(京町) キヤンバ繁殖ネットワーカーその他の施工	立会調査	25m 遺構・遺物なし	年報8	
01-8-2~21	0109	(京町) キヤンバ繁殖ネットワーカーその他の施工	立会調査	58m 遺構・遺物なし	年報8	
01-8-27	0110	(大口) 市原キヤンバ繁殖ネットワーカーその他の施工	立会調査	20m 遺構・遺物なし	年報8	
01-9-4	0111	(本庄北) 医学生キャンパス新施設ネットワーカーその他の施工	立会調査	238m 遺構・遺物なし	年報8	
01-8-22~9-4	0112	(黒山) 食肉開拓ナラメ新設工事	立会調査	652m 遺構・遺物なし	年報8	
01-9-14~10-1	0113	(本庄北) 脳脊髄病院大学キャンパス新施設ネットワーカーその他の施工	立会調査	102m 遺構・遺物なし	年報8	
01-9-17	0114	(本庄北) 脳脊髄病院キャンバス植栽ネットワーカーその他の施工	立会調査	38m 遺構・遺物なし	年報8	
01-10-19	0115	(滋山) 田植2分野開拓新設工事	立会調査	84m 遺構・遺物なし	年報8	
01-10-22~	0116	(本庄北) 脳脊髄病院幹部・施設整備(A~D 地区・ボイラーロ 蔵更築等)	立会調査	425.4m 遺構・遺物なし	年報8	
01-12-8~ 02-2-9	0117	(本庄北) 医学生給合研究棟新設拡張改修工事	立会調査	133.1m 古代 住居跡・柱・施肥・墓葬跡・土器 ・土器群・瓦器群・石器・瓦器	年報8	
01-12-12~ 02-2-4	0118	(黒山) 基幹・電線整備(特高架設需要等・候設その他)	立会調査	111.7m 遺構・遺物なし	年報8	
01-12-25~3-20	0119	(本庄北) 医療用ガス供給設備新設取扱工事	発掘調査	205.8m 古文書・古墳 ・古代	本報7/1	

02-3-18	0120	(本庄北) 合会研究施設改修工事	立会開会	1,027m ²	遺跡・遺物なし	年報8
02-3-18	0121	(本庄北) 施設改修工事(上Ⅱ) 新設工事	立会開会	1,056m ²	遺跡・遺物なし	年報8
02-3-23	0122	(本庄北) 施設改修工事(上Ⅲ) 新設工事(上Ⅲ)	立会開会	54m ²	遺跡・遺物なし	年報8
2002年度						
02-4-4~4	0201	(国財) 大学教育研究センター C棟空調設備工事監修会計	立会調査	293m ²	遺跡・遺物なし	年報9
02-4-15~16	0202	○その他外構施設工事	立会開会	199m ²	遺跡・遺物なし	年報9
02-4-17	0203	(国財) インシュベーション施設監修工事	立会開会	3m ²	遺跡・遺物なし	年報9
02-4-17	0204	(国財) 合会研究施設新築工事	立会開会	4m ²	遺跡・遺物なし	年報9
02-4-24	0205	(国財) 大会場エコリーンツイル工事	立会開会	973m ²	遺跡・遺物なし	年報9
02-5-20~29	0206	(国財) 総合研究施設に伴う既設施設工事	立会調査	28m ²	遺跡	本音
02-5-20~3-8-2	0207	(国財) インシュベーション施設監修工事	立会開会	410m ² 供 供	遺跡	年報9
02-6-3	0208	(国財) 合会研究施設一大廻廊に伴う既設工事	立会開会	21m ²	遺跡・遺物なし	年報9
02-6-12~8-14	0209	(国財) 総合研究施設監修工事	立会調査	2,003m ² 古代 住居跡・唐・火葬墓・绳文土器・古代土器・土葬器・胡桃器	本音	
02-7-2	0210	(国財) 谷谷郷附属小学校校場改修工事	立会開会	24m ²	遺跡・遺物なし	年報9
02-8-29	0211	(国財) 尾崎小学校ロープ取扱工事	立会開会	13m ²	遺跡・遺物なし	年報9
02-10-1~	0212	(国財) 工事監修課監修工事	立会調査	51,018m ²	包含層・绳文土器・石器	本音
10-311-18	0213	(本庄北) 医療部研究施設新築工事(波り下屋部分)	立会開会	32m ²	遺跡・遺物なし	年報9
02-12-3/5/11	0214	(国財) 湯川小学校工事	立会開会	490m ²	遺跡・遺物なし	年報9
	0215	(本庄北) 合会研究施設監修工事	立会開会	216m ²	遺跡・遺物なし	年報9
03-2-7	0216	(本庄北) 岩瀬小学校外壁工事	立会開会	216m ²	遺跡・遺物なし	年報9
03-2-18	0217	(国財) 斎藤部隊移転地盤打立て工事	立会開会	34m ²	遺跡・遺物なし	年報9
03-2-21	0218	(国財) 外壁改修工事	立会開会	183m ²	遺跡・遺物なし	年報9
03-3-7	0219	(本庄北) 作業部屋(プレハブ)新設工事	立会開会	3m ²	遺跡・遺物なし	年報9
03-3-10	0220	(国財) 外壁改修工事	立会開会	27m ² 古代 住居跡・土器部・組意器・瓶瓦	年報9	
03-3-26	0221	(本庄北) 医療部研究施設新築工事	立会開会	36m ²	遺跡・遺物なし	年報9
03-3-26	0222	(市街) 慢性部屋新築工事	立会開会	40m ² 古代 住居跡・柱穴・唐・古代土器器・瓶瓦器	年報9	
2003年度						
03-1-8	0301	(国財) 工事部品庫新設工事	立会開会	2m ²	遺跡・遺物なし	年報10
03-1-8	0302	(国財) 合会研究接続用施設改修工事	立会開会	96m ²	土器部	年報10
03-3-20	0303	(国財) 幸手部屋水漏修理工事	立会開会	165m ²	遺跡・遺物なし	年報10
03-6-2-72	0304	(本庄北) 星野・櫻窓監修工事	立会調査	333.6m ² 古代 住居跡・唐・火葬墓・绳文土器・土葬器・胡桃器・古代海貝器・古代	本報10付	
03-7-18	0305	(国財) 合会研究接続用施設改修工事	立会開会	296m ²	遺跡・遺物なし	年報10
03-19	0306	(国財) 開山門・中央校門フランス改修工事	立会開会	413m ²	遺跡・遺物なし	年報10
03-6-8-9-22	0307	(国財) 合会研究接続用施設改修工事(Ⅰ)	立会調査	168.2m ² 古代 唐・ビット・土器・遺物収集室・绳文土器	本報10付	
03-4-9-8	0308	(本庄北) 医療部新築工事改修工事	立会開会	530.2m ²	遺跡・遺物なし	年報10
03-5	0309	(大江) 大江研究施設改修水管および電気工事	立会開会	754m ²	遺跡・遺物なし	年報10
03-29	0310	(宇都毛) 小倉宿舎(宿舎) 横断水管改修工事	立会開会	364m ²	遺跡・遺物なし	年報10
03-10-2	0311	(本庄北) 動物監査室改修工事	立会開会	402m ²	遺跡・遺物なし	年報10
03-10-1-10-10	0312	(国財) 合会研究接続用施設改修工事	立会調査	235.5m ² 古代 唐・ビット・陶器部・土器部・石器	本報10付	
03-10-27	0313	(国財) 教室新築工事	立会調査	13.75m ²	遺跡・遺物なし	年報10
03-11-8	0314	(記念) 教室改修工事	立会調査	74m ² 古代 土器部	年報10	
03-11-7~28	0315	(本庄南) 附属学生研究センター施設整備事業	立会開会	357m ²	遺跡・遺物なし	年報10
03-11-26	0316	(国財) 合会研究接続用施設改修工事(ガス部)	立会開会	3.6m ²	遺跡・遺物なし	年報10
03-12-9	0317	(本庄南) 附属学生研究センター施設整備半斗工事	立会調査	25.68m ²	遺跡・遺物なし	年報10
03-12-10	0318	(本庄北) 中央沙汰場(桶) 整修工事	立会開会	4m ²	遺跡・遺物なし	年報10
04-1-12	0319	茅草屋取扱工事	立会開会	112m ²	遺跡・遺物なし	年報10
04-1-14	0320	(大江) 大江研究施設改修排水管及び電気工事	立会開会	45.5m ²	遺跡・遺物なし	年報10
04-11-15~19	0321	(国財) 教室新築工事	立会開会	305.8m ²	遺跡・遺物なし	年報10
04-12-23~27	0322	(本庄南) 医療部新築・三階・R.I. 动物舍改修工事	立会調査	1,000m ² 古代 唐・ビット・土器部	本報10付	
04-1-20	0323	(本庄北) 草原駆除車整備工事	立会開会	307m ²	遺跡・遺物なし	年報10
04-2-28	0324	(国財) 球場部屋周辺プレハブ等設置工事	立会開会	83m ²	遺跡・遺物なし	年報10
04-2-22	0325	(本庄北) 借樹の木移植	立会開会	16m ²	遺跡・遺物なし	年報10
04-3-4	0326	(国財) 市民会館改修工事	立会開会	2m ²	遺跡・遺物なし	年報10
04-5-9	0327	(本庄北) 医療部新築・三階・R.I. 动物舍改修工事	立会調査	1,000m ² 中世・古代 唐・ビット・陶器部・土器部	本報10付	
04-9	0328	(国財) 井戸改修工事	立会開会	23m ²	遺跡・遺物なし	年報10
04-10-9	0329	(国財) 井戸改修工事	立会開会	13.18m ²	遺跡・遺物なし	年報10
04-11-10	0330	(国財) 外灯改修工事	立会開会	34m ²	遺跡・遺物なし	年報10
04-11-10	0331	(国財) 教室新築工事(空調機取扱)	立会開会	4m ²	遺跡・遺物なし	年報10
04-11-11	0332	(本庄南) 丹波改修工事	立会開会	10m ²	遺跡・遺物なし	年報10
04-11-11	0333	(国財) 教室新築工事(空調機取扱)	立会開会	44m ²	遺跡・遺物なし	年報10
04-11-11	0334	(本庄南) 丹波改修工事	立会開会	4m ²	遺跡・遺物なし	年報10
04-12-11	0335	(本庄北) 外灯改修工事	立会開会	112m ²	遺跡・遺物なし	年報10
04-12-15	0336	(国財) 外灯改修工事	立会開会	354m ²	绳文土器片	
04-12-16	0337	(国財) 外灯改修工事	立会開会	118m ²	遺跡・遺物なし	年報10
04-12-17	0338	(国財) 教室新築工事(徒歩)	立会開会	892m ² 古代 土器部・組意器片		
04-12-22	0339	(国財) 教育部新築小中学校創始設置工事	立会開会	7m ²	遺跡・遺物なし	

3. これまでの調査と本書収録の遺跡

04.3.19	0329 (墨北) 烟火社発掘試験	立会調査	1.08m	遺構・遺物なし
2004年度				
04.4.7	0401 黒髮地北地区宗教施設工事 (復元下設置)	立会調査	33.8m	遺構・遺物なし
04.4.9	0402 本庄地区北地区中央浴場棟 (複数) 設営工事	立会調査	10.44m	古代 清?・土師器
04.4.13~5・31	0402 本庄地区北地区中央浴場棟 (複数) 設営工事	立会調査	12.81m	古代 土師器・須恵器・繩文土器
04.5.26	黒髮地北地区江戸時代本大学院社会文化学科研究科研究室新築工事	立会調査	7.76m	古代 ビット・土師器
04.5.14	0403 本庄地区北地区中央浴場棟 (複数) 設営工事	立会調査	15.0m	古代 土師器
04.10.14				年報11
04.5.21	0404 新学區地区新規支線工事 (小) 清掃工事	立会調査	3.3m	遺構・遺物なし
04.6.25	0405 新学區地区宮内省令官房機械施設設備及びその他の施工	立会調査	66.65m	遺構・遺物なし
04.6.28	本庄地区北地区易野・境堀排水工事	立会調査	10m	古代・縄文 土師器・繩文土器・土壙
04.5.24	0406 新学區地区宮内省令官房 (復元) 江戸時代 (田舎町掘削・排水)	立会調査	1,322.4m	遺構・遺物なし
04.5.25	既去・電気配管・給水管配管・ガス管配管・資本移築			年報11
04.6.4				
04.10.25~28				
04.11.12				
04.11.29				
04.7.26	0408 宇賀毛根地小宿宿合場水質調査改修工事	立会調査	20.2m	遺構・遺物なし
04.7.29	0409 黒髮地北地区記念碑改修工事	立会調査	72m	遺構・遺物なし
04.8.6				年報11
04.8.20				
04.8.23	黒髮地北地区理學部駅場駅場取設工事	立会調査	11m	古代 柱穴・須恵器・土師器
04.8.9	黒髮地北地区墨北大学院社会文化学科研究科研究室新築工事	立会調査	370m	遺構・遺物なし
04.8.10~11				年報11
04.11.5				
04.11.11				
04.9.17~19・23	0411 本庄地区北地区 (区病) 易野・境堀排水 (ギンブ室・R.I.室) 立会調査 駅場取設 - ガス切替・水道グラグ下・面透設備開通) 工事	立会調査	420m	土師器・須恵器・繩文土器・堅穴 柱透社・清・ビット
04.9.3				
04.9.14~22				
05.1.27~				
04.9.16	0412 本庄地区北地区附属病院都市ガス配管改修工事	立会調査	5.7m	遺構・遺物なし
04.9.16	0413 京町地区附属病院都市ガス配管改修による弊害軽減	立会調査	8m	遺構・遺物なし
04.9.16	0414 墓園埋立地新規工事 (工事部の施工) による弊害軽減	立会調査	4m	遺構・遺物なし
04.9.21	0415 新学區地区宮内省令官房機械施設設備及びその他の施工	立会調査	10m	遺構・遺物なし
04.9.21	0416-1 本庄地区北地区附属病院排水施設による弊害軽減	立会調査	8m	遺構・遺物なし
04.9.21	0416-2 本庄地区北地区附属病院排水施設による弊害軽減	立会調査	13m	遺構・遺物なし
04.10.12	0417 黒髮地北地区京葉文化財室内設置改修工事	立会調査	0.5m	遺構・遺物なし
04.10.19	0418 黒髮地北地区日暮ノ日暮記念館改修改設工事	立会調査	0.3m	遺構・遺物なし
04.10.22	0419 本庄地区北地区附属病院都市ガス配管改修工事	立会調査	22.6m	遺構・遺物なし
04.11.1~28	0420 本庄地区北地区 (区病) 易野・境堀排水	立会調査	55m	縄文・古墳 柱穴・柱透社・須恵器・繩文土器・ 瓦窯・勾玉・石器
04.11.26	0420 墓園地地区テニスコート整備工事	立会調査	665m	遺構・遺物なし
04.11.29	0421 墓園埋立地さく井保育工事	立会調査	43m	遺構・遺物なし
04.12.6	0422 本庄地区北地区(少壮労働者) (工事)	立会調査	60.39m	遺構・遺物なし
04.12.15	0423 墓園地地区情境キットワーク調査工事	立会調査	13m	柱穴・柱透・須恵器・土師器
04.12.24	0423 墓園地北地区紀念館 (小字) 取扱工事	立会調査	75m	遺構・遺物なし
04.1.11	0424 本庄地区北地区ポン・バート工事	立会調査	14.5m	遺構・遺物なし
05.2.1~2、7~9	0425 墓園地地区情境キットワーク調査工事 (配管工事)	立会調査	160.08m	古代 土師器・須恵器
05.2.21~	0425 墓園地地区情境キットワーク調査工事	立会調査	117.0m	古代 土師器・須恵器
3.35、5.9~6.10				本報11
05.2.4、8~9	0426 本庄地区北地区防火水槽取設工事	試掘・発掘 調査	81m	古 清・土師器・須恵器・馬骨・陶器
05.2.4	0427 墓園地北地区資料館施設水槽取設工事	立会調査	1.5m	遺構・遺物なし
05.2.21~22	0428 墓園埋立地さく井保育工事	立会調査	19m	遺構・遺物なし
05.2.21	0429 新学區地区田舎町設置工事	立会調査	4.25m	遺構・遺物なし
05.2.26、3.14、4.1	0430 本庄地区北地区(少壮労働者) (工事)	立会調査	18.68m	
05.3.1	0431 墓園地地区情境キットワーク調査工事	立会調査	1.2m	遺構・遺物なし
05.3.1	0432 教育学部附属中学校平素記念館等工事	立会調査	0.91m	遺構・遺物なし
05.3.1	0433 教育学部附属中学校開拓記念館改修工事	立会調査	0.81m	遺構・遺物なし
05.3.2	0434 墓園地北地区危険施設構造改修工事 (復元)	立会調査	192.5m	遺構・遺物なし
05.3.9	0435 墓園地地区さく井設備工事 (追加分)	立会調査	5.5m	遺構なし・土師器
05.3.10~15-16-18	0436 墓園地地区情境キットワーク調査工事	立会調査	62.14m	遺構なし
05.3.14~16	0437 大江地区学習室照明灯設置工事	立会調査	8.1m	遺構・遺物なし
05.3.22	0438 教育学部附属中学校開拓記念館改修工事	立会調査	4.14m	遺構・遺物なし
05.3.23	0439 墓園地地区情境キットワーク調査工事	立会調査	8m	遺構・遺物なし
05.3.24	0440 教育学部附属中学校危険施設構造改修工事	立会調査		遺構・遺物なし
05.3.24	0441 教育学部附属中学校器具取設工事	立会調査	2m	遺構・遺物なし
05.3.24	0442 (本報) 附属病院附帯施設・ガス管工事	立会調査	0.18m	遺構・遺物なし
05.3.24	0443 (本報) 中央排水施設改修工事	立会調査	0.8m	遺構・遺物なし
05.3.25	0444 墓園地地区教育学部附属中学校排水管漏水改修工事	立会調査	1.7m	遺構・遺物なし
05.3.28	0445 墓園地地区情境キットワーク調査工事	立会調査	3.35m	遺構・遺物なし

2005年度						
05-1-19~4-20	0501	寺前田地区工事場地盤整理工事(追加)	立会岡柵	28m ²	古代	土師器・瓦器類
05-4-27	0502	医学部附属研究所本館改修工事(アフターワーク)排水管敷設	立会岡柵	4m ²		遺構・遺物なし
05-2-4~6-10	0515	(黒崎) 橋樁ネットワーク耐震工事	発掘柵柵	10652m ²	绳文・古代	整木柱組物・掘立柱組物・縄文土器・土師器・瓦器類・黑色土器
05-5-30~6-4~6-5	0504	(本庄) 発生原草研究センター施設整備事業(井附)	立会岡柵	2337.2m ²		遺構・遺物なし
6-14						年報12
05-6-7~6-10	0505	小坂宿舎建設工事(アフターワーク)耐震工事	立会岡柵	7m ²		遺構・遺物なし
05-6-9~6-10	0505	(医研) 益津・高麗窓櫻(桂樹・朱き家庭)	立会岡柵	55.96m ²		遺構・遺物なし
6-12						年報12
05-6-30	0506	(大江) 喜多郡アフターワーク取扱	立会岡柵	238m ²		遺構・遺物なし
05-6-21	0507	(本庄) 亂世堤岸の改修工事	立会岡柵	10.5m ²		遺構・遺物なし
05-7-8	0508	(黒崎) 橋樁ネットワーク耐震工事(井附・立会岡)	立会岡柵	40.9m ²	古代	土師器・瓦器類
05-7-13~7-14	0509	(医研) 畠井・堀川復讐(久慈川・妙義川)	発掘柵柵	1147m ²	绳文・古墳・住居址・溝・土路跡・瓦器類	年報12
7-18~9-30					古墳・古代	年報12
05-7-19	0511	本莊町北地区土石配分改修	立会岡柵	7.5m ²	古代	住居址・土師器・瓦器類
05-6-1	0512	教育学部附属幼稚園施設改修工事	立会岡柵	0.9m ²		遺構・遺物なし
05-6-2~6-3	0513③	(医研) 工学部施設改修施設改修等事業 - 1	立会岡柵	97m ²	古代	土師器・瓦器類
05-6-2~6-25	0513④	(医研) 工学部施設改修施設改修等事業 - 2	立会岡柵	198.5m ²	古代	土師器・瓦器類
05-8-5	0514	医学部南地区P区内地盤整理工事	立会岡柵	1354m ²		遺構・遺物
					なし	年報12
05-8-5~8-10	0513⑤	(黒崎) 工学部施設改修施設改修等事業 - 1	立会岡柵	178m ²		遺構・遺物
					なし	年報12
05-8-8~8-15	0513⑥	(黒崎) 工学部施設改修施設改修等事業 - 2	発掘柵柵	80.88m ²	古代	住居址・土師器・瓦器類
05-9-18	0515	本莊町北(北地区)駐車場地盤整理工事(その2)	立会岡柵	235.58m ²	古代	住居址・土師器・瓦器類
					年報12	
05-8-18~8-23	0515①	(黒崎) 工学部施設改修施設改修等事業 - 2	立会岡柵	147m ²		遺構・遺物なし
05-8-19~8-29	0515②	(黒崎) 工学部施設改修施設改修等事業 - 4	立会岡柵	239m ²		遺構・遺物なし
05-8-21	0516	本莊町北地区外壁改修工事	立会岡柵	11.4m ²		遺構・遺物なし
05-8-23~8-29	0513⑦	(黒崎) 工学部施設改修施設改修等事業 - 2	立会岡柵	172m ²		遺構・遺物なし
05-8-25	0513⑧	(黒崎) 工学部施設改修施設改修等事業 - 1	立会岡柵	147m ²		遺構・遺物なし
05-8-25	0513⑨	(黒崎) 工学部施設改修施設改修等事業 - 2	立会岡柵	65.1m ²		遺構・遺物なし
05-8-25	0513⑩	(黒崎) 工学部施設改修施設改修等事業 - 1	立会岡柵	65m ²		遺構・遺物なし
05-8-29~8-30	0513⑪	(黒崎) 工学部施設改修施設改修等事業 - 2	立会岡柵	120.25m ²		遺構・遺物なし
05-9-30~9-1	0513⑫	(黒崎) 工学部施設改修施設改修等事業 - 2	立会岡柵	246m ²		遺構・遺物なし
05-9-1~9-13	0513⑬	(黒崎) 工学部施設改修施設改修等事業 - 1	立会岡柵	204m ²		遺構・遺物なし
					年報12	
05-9-1~9-13	0513⑭	(黒崎) 工学部施設改修施設改修等事業 - 1	発掘柵柵	675m ²	绳文・古代	住居址・窓枠・縄文土器・土師器・瓦器類
					年報12	
05-9-19~20	0517	(医研) 畠井・堀川復讐(久慈川・夜道地)	立会岡柵	1337m ²		遺構・遺物なし
05-9-4~9-5	0518⑤	(黒崎) 工学部施設改修施設改修等事業 - 1	立会岡柵	48.75m ²		遺構・遺物なし
05-9-12~9-27	0513⑮	(黒崎) 工学部施設改修施設改修等事業 - 2	立会岡柵	439m ²		遺構・遺物なし
05-9-13	0518	附属病院改修のアフターワーク改修工事	立会岡柵	29m ²		遺構・遺物なし
05-9-14	0519	附属病院改修工事	立会岡柵	157.76m ²		遺構・遺物なし
05-9-15	0513⑯	(医研) 工学部施設改修施設改修等事業 - 5	立会岡柵	0.79m ²		住居址・ピット
05-9-15	0513⑰	(医研) 工学部施設改修施設改修等事業 - 1	立会岡柵	40.5m ²		遺構・遺物なし
05-9-15	0520	本莊町北地区人間文化系施設スロープ改修工事	立会岡柵	17.18m ²		遺構・遺物なし
05-9-15	0521	本莊町北(北地区)台風被害引起	立会岡柵	2355m ²		遺構・遺物なし
05-9-16~10-2	0513⑯	(黒崎) 工学部施設改修施設改修等事業 - 2	立会岡柵	97.312m ²	古代	土師器・瓦器類
05-9-16	0522	医学部附属病院改修工事(アフターワーク)	立会岡柵	225m ²		遺構・遺物なし
05-9-27	0523	(医研) 中央診療棟(地上)	立会岡柵	57.67m ²		遺構・遺物なし
05-10-11~11-7	0513⑲	(黒崎) 工学部施設改修施設改修等事業 - 2, 3	立会岡柵	150m ²	古代	住居址・溝・土師器・瓦器類
05-10-11	0524	半田地区(北地区)展示ゲート設置工事	立会岡柵	261.23m ²		遺構・遺物なし
05-10-13~	0525	(医研) 橋樁ネットワーク設置工事	立会岡柵	736m ²	古代	柱穴・土師器・瓦器類
05-10-14~10-17~					年報12	
05-10-18					年報12	
05-10-14	0526	理化実験室内部改修施設改修工事	立会岡柵	20m ²		遺構・遺物なし
05-10-19~10-28	0527	(医研) 文体部本館スロープ改修工事	立会岡柵	44m ²		遺構・遺物なし
05-10-21	0528	工部部内改修工事	立会岡柵	810m ²		遺構・遺物なし
05-10-25	0529	(医研) 外構園芸研究施設周辺環境改修工事	立会岡柵	381.12m ²		遺構・遺物なし
05-10-26	0530	帯広市役所(西側)構築改修工事	立会岡柵	55m ²		遺構・遺物なし
05-11-4	0531	日耕苑施設セントラル改修設置工事	立会岡柵	9m ²		遺構・遺物なし
05-11-7	0532	教育学部附属病院給水引込・雨水排水	立会岡柵	35m ²		遺構・遺物なし
05-11-7	0533	(医研) ピット・生活水管補修工事	立会岡柵	1.1m ²		遺構・遺物なし
05-11-16~11-21	0534	品川地区(北地区)改修工事	立会岡柵	12.13m ²		遺構・遺物なし
05-11-29~	0513⑯	(黒崎) 工学部施設改修施設改修等事業 - 2	立会岡柵	48m ²	古代	柱穴・土師器・瓦器類
12-15					年報12	
05-11-29~12-5	0513⑯	(黒崎) 工学部施設改修施設改修等事業 - 2	発掘柵柵	24m ²	古代	住居址・溝・ピット・土師器・瓦器類
					年報12	
05-12-4	0513⑯	(黒崎) 工学部施設改修施設改修等事業 - 2	立会岡柵	117.4m ²	古代	土師器
05-12-7	0513⑯	(黒崎) 工学部施設改修施設改修等事業 - 2	立会岡柵	87m ²	古代	ピット・土師器・瓦器類
05-12-9	0513⑯	(黒崎) 工学部施設改修施設改修等事業 - 2	立会岡柵	25m ²	古代	住居址・土師器・瓦器類
05-12-12	0513⑯	(黒崎) 工学部施設改修施設改修等事業 - 2, 5	立会岡柵	m ²		遺構・遺物なし
05-12-12	0535	教育学部新宿都構造耐震化工事	立会岡柵	453.7m ²		柱穴
05-12-13	0513⑯	(黒崎) 工学部施設改修施設改修等事業 - 1	立会岡柵	0.65m ²		遺構・遺物なし
05-12-13	0513⑯	(黒崎) 工学部施設改修施設改修等事業 - 2	立会岡柵	3m ²		遺構・遺物なし
05-12-13	0513⑯	(黒崎) 工学部施設改修施設改修等事業 - 1	立会岡柵	67.5m ²		遺構・遺物なし
					年報12	

3. これまでの調査と本店収録の追跡

05-12-13	0513T24 (黒巣市) 工学部施設改修施設整備等事業-2	立会調査	18nf	道耕・道物なし	年報12
05-12-14	0513D① (黒巣市) 工学部施設改修施設整備等事業-2	立会調査	864nf	道耕・道物なし	年報12
05-12-14	0536 医学部施設改修工事	立会調査	8273nf	道耕・道物なし	年報12
05-12-15	0513D② (黒巣市) 工学部施設改修施設整備等事業-1, 2	立会調査	288nf	道耕・道物なし	年報12
05-12-16	0537 理学院プレハブ倉庫整備工事	立会調査	167nf	道耕・道物なし	年報12
05-12-19~12-21	0538 (黒巣) 勝利ネットワーク新施設工事(追加)	立会調査	70235nf 古代	土耕器・植生器	年報12
12-26					
06-1-6~1-11,					
2-27~3-2					
06-12-22	0539 本荘団地(中島区) ゴミ販賣施設	立会調査	4851nf	道耕・道物なし	年報12
06-12-26	0513D③ (黒巣市) 工学部施設改修施設整備等事業-2	立会調査	10nf	道耕・道物なし	年報12
06-1-4~1-19	0513D④ (黒巣市) 工学部施設改修施設整備等事業-2	免許調査	89nf 古代	伝送器・土耕器・植生器	年報12
06-1-5	0513D⑤ (黒巣市) 工学部施設改修施設整備等事業-2	立会調査	70nf	道耕・道物なし	年報12
06-1-10~1-25	0540 半泽団地(山陽) 運送ガス管改修工事	立会調査	61nf	道耕・道物なし	年報12
06-1-17	0513D25 (黒巣市) 工学部施設改修施設整備等事業-7	立会調査	1nf	道耕・道物なし	年報12
06-1-20	0513D26 (黒巣市) 工学部施設改修施設整備等事業-7	立会調査	70nf	道耕・道物なし	年報12
06-1-26,	0541 (黒巣市) 程部駅駅舎整備工事(追加・背面加査付)	立会調査	1110nf 古代	土耕器・植生器	年報12
2-2					
2-10					
2-27					
06-1-23	0513D27 (黒巣市) 工学部施設改修施設整備等事業-7	立会調査	454nf	道耕・道物なし	年報12
06-1-24	0513D28 (黒巣市) 工学部施設改修施設整備等事業-2	立会調査	12nf	道耕・道物なし	年報12
06-1-25	0513D29 (黒巣市) 工学部施設改修施設整備等事業-1	立会調査	40nf	道耕・道物なし	年報12
06-1-27	(研修) 森崎・堀井監修(文系・農業経営)	立会調査	1464nf	道耕・道物なし	年報12
06-1-30	0513D30 (黒巣市) 工学部施設改修施設整備等事業-3	立会調査	6561nf	道耕・道物なし	年報12
06-2-13	0543 朝日町駅(原) 工学部施設改修施設整備等事業	立会調査	3389nf	道耕・道物なし	年報12
06-2-16~13-3	0544 (研修) 森崎・堀井監修(文系・農業経営)	立会調査	39nf	道耕・道物なし	年報12
06-2-17	0545 教育学部附属幼稚園アプロン組合マット取扱	立会調査	12nf	道耕・道物なし	年報12
06-2-24,	0546 (黒巣) 勝利ネットワークリサイクル施設整備工事に伴う外構工事	立会調査	1637nf 古代	土耕器・土耕器・植生器	年報12
3-7~3-8,					
3-13					
3-16~3-17					
06-3-10	0547 (黒巣) 北海道学生会連盟西日本バイク販賣施設工事	立会調査	48nf	道耕・道物なし	年報12
06-3-13	0548 本荘団地(中島) 路面下蓋設置	立会調査	53nf	道耕・道物なし	年報12
06-3-24	0549 (東京) 外来化実習法セミナー城外水道管工事	立会調査	192nf	道耕・道物なし	年報12
06-3-30	0550 多摩修理工事	立会調査	091nf	道耕・道物なし	年報12
2008年度					
06-4-11	0601 教育学部附属中学校チニスコート移設	立会調査	591nf	道耕・道物なし	年報13
06-4-11	0602 (黒巣北) 流地工事	立会調査	6nf	道耕・道物なし	年報13
06-4-11	0603 (黒巣北) 資料館改修工事	免許調査	321nf 古代	旗状旗綱・ピット 土耕器・植生器	報告書X
06-4-11~4-12	0604 (黒巣北) 資料館改修工事(屋外排水)	免許調査	2512nf 古代	旗状旗綱?・波状旗綱・ピット 土耕器・植生器	報告書X
06-4-12	0605 工学部研究用実験用施設改修工事	立会調査	490nf	道耕・道物なし	年報13
06-4-13	0606 放送大学附属施設改修工事	立会調査	15nf	道耕・道物なし	年報13
06-4-18~4-19	0607 (黒巣市) 工学部施設改修施設整備等事業-9	立会調査	52nf	道耕・道物なし	年報13
06-4-21	0608 (黒巣北) 滞留水配管改修工事	立会調査	13nf	道耕・道物なし	年報13
06-4-24	0609 球磨郡御代賀町(原) 水道整備	立会調査	17nf	道耕・道物なし	年報13
06-5-2	0610 教育学部附属小学校教員宿舎	立会調査	090nf	道耕・道物なし	年報13
06-5-11	0611 (黒巣市) 工学部施設改修施設整備等事業-1	立会調査	32nf	道耕・道物なし	年報13
06-5-22	0611D (黒巣市) 工学部施設改修施設整備等事業-2	立会調査	12nf	道耕・道物なし	年報13
5-25					
06-5-22	0612D (黒巣市) 工学部施設改修施設整備等事業-2	免許調査	11nf 古代	柱穴・土耕器	年報13
06-5-22~5-24	0613D (黒巣市) 工学部施設改修施設整備等事業-6	免許調査	21nf 古代	柱穴・土耕器・植生器	年報13
06-6-12	0614 (黒巣) 清掃安全シート化水肥水供給	立会調査	057nf	道耕・道物なし	年報13
06-6-19	0615 清掃用中央処理槽改修施設電気配管工事	立会調査	72nf	道耕・道物なし	年報13
06-6-22	0615D (黒巣市) 中央処理槽改修施設電気配管(原) 工事	立会調査	153nf 古代	土耕器・植生器	年報13
6-25					
7-3					
06-6-27	0612D (黒巣市) 工学部施設改修施設整備等事業-1	立会調査	219nf 古代	土耕器・植生器	年報13
7-7					
06-8-7	0616 教育学部附属小学校木質被替工事	立会調査	17nf	道耕・道物なし	年報13
06-8-11	0617 (黒巣) ブール耐候材等環境配慮改修(アスベスト処理) 工事	立会調査	050nf	道耕・道物なし	年報13
06-8-11	0618 教育学部附属中学校駅前駐車場改修工事	立会調査	875nf	道耕・道物なし	年報13
06-8-21	0619 教育学部附属中学校外人工芝面計画その他の工事	立会調査	42051nf	道耕・道物なし	年報13
06-8-24~8-25	0610D (黒巣市) 工学部施設改修施設整備等事業-3	立会調査	207nf	道耕・道物なし	年報13
06-8-31~9-1	0611D (黒巣市) 工学部施設改修施設整備等事業-2	立会調査	641nf 古代	溝・土耕器	年報13
06-9-7	0620 教育学部附属小学校ブール系被替水栓被替工事	立会調査	28nf	道耕・道物なし	年報13
06-9-11	0611D (黒巣市) 工学部施設改修施設整備等事業-10	立会調査	496nf	道耕・道物なし	年報13
06-9-12	0611D (黒巣市) 工学部施設改修施設整備等事業-10	立会調査	140nf	道耕・道物なし	年報13
06-9-13	0611D (黒巣市) 工学部施設改修施設整備等事業-10	立会調査	329nf	道耕・道物なし	年報13
06-9-14~9-15	0611D (黒巣市) 工学部施設改修施設整備等事業-10	立会調査	44nf	道耕・道物なし	年報13
06-9-20~9-21	0611D (黒巣市) 工学部施設改修施設整備等事業-10	立会調査	551nf	道耕・道物なし	年報13
06-10-2	0611D (黒巣) 工学部施設改修施設整備等事業-2	立会調査	105nf	道耕・道物なし	年報13
06-10-2	0621 (黒巣) ブール耐候材等環境配慮改修(アスベスト処理) 工事	立会調査	44nf	道耕・道物なし	年報13
事その2					

06-10-2 10-15 10-27 10-30 11-13 10-12	0622 (医局) 周囲整備 (西側駐車場等) 工事	発掘調査 8,077.5m ² (30,000m ²)	古代	土壟器・瓦器部・陶文土器	本報告書		
06-10-13	新規施設管理監修アキュームレーテー・レン管配線移行	立会調査	2.16m ²	遺構・遺物なし	年報13		
06-10-16	0625 (医局) 基盤・埋設施設 (外付) 工事	立会調査	296.4m ²	遺構・遺物なし	年報13		
06-10-19	0626 (医局) 基盤整備 (ポーラー・壁面削除) 工事	立会調査	105.7m ²	遺構・遺物なし	年報13		
06-10-25	0627 (大江戸) 地下貯蔵室工事	立会調査	92.1m ²	遺構・遺物なし	年報13		
06-11-2	0628 医院部周辺敷地北側外壁打撲去工事	立会調査	2.0m ²	遺構・遺物なし	年報13		
06-11-17 11-27 12-4	0629 (本圏) 医学部附属学校改修工事	立会調査 239.4m ² 古代	土壙器	年報13			
06-11-20 06-11-30	0630 堀尾南地区工事用門扉取扱	立会調査	15m ²	遺構・遺物なし	年報13		
06-12-1	0631 西園寺町火用水道去工事	立会調査	569.3m ²	遺構・遺物なし	年報13		
06-12-1 0612-1 0612-1 0612-1 0612-25 12-27-12-28	0632 幕張町正門水道栓修理	立会調査	3.0m ²	遺構・遺物なし	年報13		
07-14-4-1-5	0612-2 (医局) 工事用隔離板改修工事	発掘調査 162.7m ² 古代	土壙器・瓦器部・陶文土器	年報13			
07-12-19 07-12-25 07-4-2	0633 本庄北地区肖像駐車場歩道改修工事	立会調査 294.379m ²	遺構・遺物なし	年報13			
07-1-10-1-11 1-19	0634 (本圏) 医学部附属学校改修工事	立会調査 113.5m ²	遺構・遺物なし	年報13			
07-1-18 1-22-1-23	0635 資源販売ガス屋内現立工事	立会調査	134.5m ²	遺構・遺物なし	年報13		
07-1-30 07-2-1	0636 理學部4号館斜壁取扱工事	立会調査 303.5m ² 古代	土壙器・瓦器部・陶文土器	年報13			
07-2-20 07-2-26 07-3-1 07-3-6 07-3-8	0637 (本圏) 医学部附属学校改修工事 (付) 塀引き場接合工事 0638 (本圏) 医学部附属学校改修工事	立会調査 341.2m ² 立会調査 35m ²	遺構・遺物なし	年報13			
07-3-1 07-3-6 07-3-8 07-3-12 07-3-20 07-3-22 07-3-26	0639 (本圏) 川岸地区北側歩道ガラス入り現立 0640 (本圏) 灰砂にて門扉取扱工事 0642 中央地区現立改修工事	立会調査 4.35m ² 立会調査 152.1m ²	遺構・遺物なし	年報13			
0638-1 0641 0642 0643 0644 0645 0646 0647 0648	0641 (本圏) 灰砂にて現立改修工事 0642 (本圏) 灰砂にて現立改修工事 0643 (山崎) 道路延び取り現立工事 0644 (山崎) 環境整備改修工事 0645 本庄南地区テニスコート埋設水管漏水工事 0646 (医局) 環境整備 (施設改修) 埋設改修工事 (施) 施設改修現立改修工事 0648 (医局) 環境整備 (山崎記念病院改修) 工事	立会調査 312.0m ² 立会調査 101.7m ² 立会調査 55.36m ² 立会調査 763m ² 立会調査 57.7m ² 立会調査 25.7m ² 立会調査 1.15m ²	遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし	年報13 年報13 年報13 年報13 年報13 年報13 年報13 年報13 年報13			
2007年度							
07-4-16 07-4-12 07-4-13 07-4-16 4-20	0701 (施) 藤沢駅前改修工事改修工事	立会調査	2m ²	遺構・遺物なし	年報14		
07-4-12 07-4-13	(本圏) 草間野高台現立改修工事	立会調査 古代	灰・灰灰・土器	年報14			
07-4-13	0702 (医局) 教育学部改修改修現立改修工事	立会調査	1821m ²	遺構・遺物なし	年報14		
07-4-16 4-20	0703-1 (医局) 工事用地改修工事改修工事改修等平素-6	立会調査	61m ²	遺構・遺物なし	年報14		
07-5-7-5-8	0704 (医局) 新築工事に伴う樹木移植工事	立会調査 446m ² 古代	土壙器・瓦器部	年報14			
07-6-7	0705 (医局) 本庄南地区改修改修現立改修工事	立会調査	立会調査 7m ²	遺構・遺物なし	年報14		
07-6-13 07-6-18 6-21 6-27	0705-1 (医局) 工事用地改修工事改修改修現立改修等平素-13	立会調査	492.0m ²	遺構・遺物なし	年報14		
07-6-20	0706 (医局) 本庄南地区改修工事改修工事改修等平素-13	立会調査	17.4m ²	遺構・遺物なし	年報14		
07-6-20	0706 (医局) 本庄南地区改修工事改修工事改修等平素-13	立会調査	31.4m ²	遺構・遺物なし	年報14		
07-6-25 7-10 7-18-7-19	0707 (本圏) 医学部改修現立改修改修等平素-13	立会調査	1,990m ²	遺物検出・一次発見	年報14		
07-6-26 07-6-28 07-6-29 07-6-30	0708 (山崎) 大仏センター・樹間排水管つまり修理	立会調査	15m ²	遺構・遺物なし	年報14		
07-6-29	0709 (本圏) 従業員駐車場改修工事	立会調査	43.6m ²	遺構・遺物なし	年報14		
07-7-3 07-7-4 07-7-9-7-10 07-7-17	0709-1 (医局) 工学部改修工事改修改修現立改修等平素-6-14 0710 (医局) 教育学部改修工事改修改修現立改修等平素(変更) 0710-1 (医局) 工学部改修工事改修改修現立改修等平素-6 0711 (医局) 基盤・暗渠改修 (計3箇所) 壁面剥離取り壊しに伴う気配	立会調査 立会調査 立会調査 立会調査	立会調査 立会調査 立会調査 立会調査	立会調査 立会調査 立会調査 立会調査	年報14 年報14 年報14 年報14		
07-7-17 07-7-19 07-7-30-8-3	0709-2 (医局) 工学部改修工事改修改修現立改修等平素-13 0709-3 (医局) 医学部改修工事改修改修現立改修等平素-13	立会調査	1,576.6m ² 立会調査	遺構・遺物なし 遺構・遺物なし	年報14 年報14		
07-7-19 07-7-30-8-3	0709-4 (医局) 医学部改修工事改修改修現立改修等平素-13	立会調査	300.0m ²	遺構・遺物なし	年報14		
07-8-7-8-10 07-8-8-22 07-8-23 07-8-27-8-35	0712 (医局) 医学部改修工事改修改修現立改修等平素-13 0713 (本圏) 外付水管漏水修理工事 0714 (医局) 理学部1・2号棟改修現立改修工事 0715 (医局) 工学部改修工事改修改修現立改修等平素-13 0716 (本圏) 室内改修工事	立会調査 立会調査 立会調査 立会調査 立会調査	立会調査 立会調査 立会調査 立会調査 立会調査	立会調査 立会調査 立会調査 立会調査 立会調査	立会調査 立会調査 立会調査 立会調査 立会調査	一級探査 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 立会調査・土器・瓦器・土器 立会調査・瓦器 立会調査 立会調査 立会調査 立会調査	年報14 年報14 年報14 年報14 年報14
07-8-7 07-8-8-10 07-8-8-22 07-8-23 07-8-27-8-35	0717 (医局) 基盤・暗渠改修 (計3箇所) 壁面剥離取り壊しに伴う気配 0718 (本圏) 室内改修工事	立会調査	59.29m ²	遺物・古物・陶文土器・土器・瓦器・瓦器・土器・瓦器・瓦器 立会調査 立会調査	本報告書 本報告書		

3. これまでの調査と本樹収録の道筋

07・9・3	0716	平野地区施設場出入口整備	立会調査	294.8m ²	道筋・遺物なし	年報14	
07・9・14	0717	(駿河) 基幹・環境整備(前中央診療所取り壇に伴う伐倒工事)	立会調査	49.4m ²	道筋・遺物なし	年報14	
10・3							
07・9・25~9・27	0702②	(駿河) 工学部地盤改良改修施設整備等事業 - 6.16	発掘調査	275.5m ² 古代	佐佐土・ピット・土師器・組合器	年報14	
10・2							
07・9・27	0718	(大江) 基幹部本館改修改修工事	発掘調査	361.32m ² 古代	津・土師器	年報14	
10・1~10・2							
07・10・4	0719	(駿河) 教育学部附高小・中学校舎等改修工事	立会調査	308.66m ² 弥生・古代	ピット・佐佐土器・土加茂	本報告V	
10・15~							
10・16							
10・22							
10・25							
08・1・30~1・31							
2・13							
07・10・19	0720	平野局附属明治水道橋改修工事	立会調査	25m ²	道筋・遺物なし	年報14	
07・10・26~11・28	0719	(駿河) 教育学部附属小・中学校舎等改修工事	発掘調査	230.3m ² 弥生・古代	縦穴住居・ピット・窓・佐佐土器・土師器・組合器	本報告V	
07・12・3~12・4	0721	(駿河町内小) 舍合等改修改修工事	立会調査	1300.05	弥生・古代	縦穴住居・ピット・佐佐土器・土加茂・近・古窓・近・古窓・組合器	本報告V
12・6~12・7							
08・1・18							
07・12・5	0722	(駿河) 工学部 8号館内部改修改修改修工事	立会調査	97m ²	道筋・遺物なし	年報14	
07・12・5	0723	(駿河) 工学部 8号館内部改修改修改修改修工事	立会調査	141m ²	道筋・遺物なし	年報14	
07・12・7	0724	(本庄) 医学院基礎研究棟(C棟取り壇)工事	立会調査	1,000m ² 古代	土坑・ピット・土師器	年報14	
2・10							
12・12							
07・12・7	0725	(駿河) 教育学部附属小・中学校舎等改修改修改修改修工事	立会調査	90m ²	道筋・遺物なし	年報14	
07・12・10	0703⑧-1	(駿河) 工学部地盤改良改修改修改修改修等事業 - 6.18	立会調査	148.75m ² 古代?	ピット	年報14	
12・17~							
12・18							
08・1・16~1・17							
07・12・14~	0721	(駿河町内小) 舎合等改修改修改修工事	発掘調査	112.65m ² 弥生・古代	縦穴住居・ピット・近代土坑・井戸・近・古窓・佐佐土器・土師器・組合器・洗面器	本報告	
12・27							
07・12・19	0726	医学部基礎研究棟北側改修	立会調査	1m ²	道筋・遺物なし	年報14	
08・1・16~1・17	0703⑨	(駿河) 工学部地盤改良改修改修改修等事業 - 20	立会調査	94.5m ²	道筋・遺物なし	年報14	
08・1・22	0727	(駿河) 工学部号館改修改修改修改修改修工事	立会調査	12m ²	道筋・遺物なし	年報14	
08・1・22	0728	(駿河) 工学部号館改修改修改修改修改修工事	立会調査	2m ²	道筋・遺物なし	年報14	
08・1・23	0703⑩-2	(駿河) 工学部地盤改良改修改修改修改修等事業 - 6.18	立会調査	80m ²	道筋・遺物なし	年報14	
08・1・25	0703⑩	(駿河) 工学部地盤改良改修改修改修改修等事業 - 10	立会調査	2.0m ²	道筋・遺物なし	年報14	
08・1・29~1・30	0703⑩-3	(駿河) 工学部地盤改良改修改修改修改修改修等事業 - 6.18	立会調査	96.7m ² 古代	土加茂	年報14	
08・2・1	0703⑩-4	(駿河) 工学部地盤改良改修改修改修改修等事業 - 6.18	立会調査	83.02m ² 古代	土加茂	年報14	
2・4							
08・2・14	0729	(駿河) ボイラ等改修工事	立会調査	38.8m ²	道筋・遺物なし	年報14	
08・2・25	0730	(駿河) 教育学部附属明治文理学部改修改修改修改修工事	立会調査	4m ²	道筋・遺物なし	年報14	
08・2・27	0731	(駿河) 日清糸墨センター改修	立会調査	112.5m ²	道筋・遺物なし	年報14	
08・2・29	0732	(本庄) 昭和町正門電線改修工事	立会調査	12m ²	土加茂	年報14	
08・3・11	0732	(駿河) 日中央診療所取り壇し工事	立会調査	84m ²	道筋・遺物なし	年報14	
08・3・26							
08・3・17	0734	(駿河) 排水構造物部分フェンス設置工事	立会調査	50.2m ²	道筋・遺物なし	年報14	
08・3・21	0735	医学部保健施設新築工事	立会調査	40m ²	道筋・遺物なし	年報14	
08・3・21	0736	(大江) 美術学部陶芸水槽改修工事	立会調査	73.3m ²	道筋・遺物なし	年報14	
08・3・23	0737	(駿河) ボイラ等改修改修改修工事	立会調査	200m ²	道筋・遺物なし	年報14	
08・3・27	0738	(本庄) 医学生施設改修改修改修改修改修工事	立会調査	1.8m ²	道筋・遺物なし	年報14	
08・3・31	0739	(駿河) 南地区新築改修工事	立会調査	10.13m ²	道筋・遺物なし	年報14	
2008年度							
08・4・2	0801	(駿河) 中央診療所とごわし工事(追加)	立会調査	20m ²	道筋・遺物なし	年報15	
08・5・7	0802	駿4中学校改修改修工事	立会調査	2m ²	道筋・遺物なし	年報15	
08・5・20	0803	医学部基礎改修改修改修改修改修工事	立会調査	1.8m ²	道筋・遺物なし	年報15	
08・5・26	0804	(本庄) 肝病院改修改修工事	立会調査	11.1m ²	道筋・遺物なし	年報15	
08・6・5	0805	(駿河) ウィーク宿泊施設改修改修工事	立会調査	2m ²	道筋・遺物なし	年報15	
08・6・6	0806	(駿河) 南地区新築改修改修改修工事	立会調査	306.46m ² 古代	土加茂	年報15	
6・19							
6・23							
6・26							
7・4							
7・10							
7・26							
8・25							
12・1							
12・8							
08・6・22	0806	(黒船) 南地区新築改修改修改修工事	発掘調査	125.2m ² 古代	津・ピット・土加茂・組合器・近・代用磁器・石器	年報15	
5・25~7・1							
7・26~7・30							
12・1							
12・15~							
12・19							
08・6・9~6・10	0807	(本庄) 新学部構内講義棟新築改修改修工事	立会調査	29.7m ²	道筋・遺物なし	年報15	
08・6・16	0808	(黒船) 有機系廃棄処理施設新築改修改修改修工事	立会調査	0.3m ²	道筋・遺物なし	年報15	

08・6・23 7・1 7・3~7・4 7・15~7・16	0809 (三豊市) 福利施設樹木整備工事(追加)	立会開会 / 発掘開会	23.8m ² 古代	遺・住居址・土器群・石器	年報15
08・7・10 08・7・11 08・7・14 08・7・15 08・8・15 08・8・20~8・22	0810 中型毛距地紋水質管理工事 0811 (黒島北) 共用便所Ⅳ改修改築設備工事 0812 (黒島北) 間接式移設工事 0813 (牛久村) 既存施設敷地内既設ガス配管埋設修理 0814 (黒島) 家庭排水新設工事 0814 (黒島) 家庭排水新設工事	立会開会 立会開会 立会開会 立会開会 立会開会 立会開会	2m 36m 41.1m 24.0m 8m 220m ²	遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 構造見 遺土・遺物・近世陶器 新出土器・石器・近世陶器	年報15 年報15 年報15 年報15 年報15 本報告書
08・8・21 08・8・21 08・8・29 08・9・1 08・9・9~9・10 08・9・9 08・10・6 08・10・9 08・10~10 11・25	0815 (本荘市) こばと保健福祉施設地盤工事 0816 (本荘市) 医療系施設地盤工事水質管理設備移設 0817 半幅毛距地シザン彫刻施設工事 0818 (黒島北) ガバナ西海岸水質改善工事 0820 (黒島北) 文法部本部改修耐震補強工事 0821 本荘開港 (北地区) 港面排水新設改修工事 0822 本道南地区保健福祉施設地盤工事 0819 (黒島) 体育館改修地盤工事その他の工事	立会開会 立会開会 立会開会 立会開会 立会開会 立会開会 立会開会 立会開会 立会開会 立会開会	1m 177m 69.6m 21.1m 80.2m 7.4m 30m 694.8m ² 立会開会	遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 焼土器・石器・古墳時代玉・土器 ・古代	年報15 年報15 年報15 年報15 年報15 年報15 年報15 年報15 年報15
08・10・10 08・10・15 08・10・28 08・10・29 08・11・4 08・11・5 08・11・10 08・11・11 08・11・18 11・20 11・21 11・25	0823 教育学部附属特需支援学校深瀬保育園補修工事 0824 (本荘市) 医療系施設地盤工事既設取扱工事 0825 (黒島) 电力工事貢賃工事 0826 (黒島村) 共用便所新設工事・移築工事 0827 黒島開港120周年記念植樹 0828 (本荘) こばと保健福祉施設電気設備工事 0829 (黒島) 学務部新築トイレ改修施設工事 0830 (本荘) こばと保健福祉施設改修工事(変更)	立会開会 立会開会 立会開会 立会開会 立会開会 立会開会 立会開会 立会開会 立会開会 立会開会 立会開会 立会開会	4.8m 8m 120.8m 44.5m 0.28m 10.7m 3m 1m 113.3m 立会開会	遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし	年報15 年報15 年報15 年報15 年報15 年報15 年報15 年報15 年報15 年報15 年報15 年報15
08・11・19~ 12・21 12・25	0831 (黒島) 体育館改修施設工事	発掘開会	20m ²	遺・古代	本報告書
08・11・20 12・20	0832 大文字部屋西宮北側水管設置工事	立会開会	104m ²	遺構・遺物なし	年報15
08・12・1 08・12・3 08・12・10 08・12・11 08・12・15~ 12・19	0833 (黒島北) 教育学部本部新築工事新設工事 0834 (牛久村) 本道南地区保健福祉施設工事(変更) 0835 (黒島) 東新修繕施設改修工事(変更)	立会開会 立会開会 立会開会 立会開会 立会開会	1.4m 14.1m 14.13m 58m ²	遺構・遺物なし 遺構・遺物なし 遺構・遺物なし ピット・住居址・土器群・遺物 ・洗い場・土器群・石器・瓦器	年報15 年報15 年報15 年報15 年報15
09・1・1~ 1・5~ 2・27 3・10	0836 (沼尾北) 教育学部本部・文法部本部改修機械設備工事 (変更の1、その2)	一次掘削 / 発掘開会 / 立会開会	455.9m ² 古代	遺・住居址・ピット・土器群・瓦器・石器	年報15
09・12・22~ 12・24~ 12・25	0837 (沼尾北) 教育学部本部改修機械設備工事 (変更の1、その2)	立会開会	0.3m	遺構・遺物なし	年報15
09・1・2~ 1・22	0838 (黒島北) 教育学部本部改修機械設備工事 0839 (黒島北) 管路改修工事	立会開会 立会開会	60m 43.6m	遺構・遺物なし 遺構・遺物なし	年報15 年報15
09・1・2~ 1・22	0840 (黒島北) 廉政改修がいり新設工事	立会開会	5m	遺構・遺物なし	年報15
09・2・2	0841 (黒島北) ものづくり実習室Ⅱ新設に伴う土質調査伐採・移	立会開会	8m	遺構・遺物なし	年報15
09・2・4	0842 (本荘) 医学生宿舎新築地盤整備施設工事	立会開会	7.2m	遺構・遺物なし	年報15
09・2・5	0843 (黒島北) ガイア環境教育会館工事	立会開会	5m	遺構・遺物なし	年報15
09・2・12	0844 (黒島北) 教育学部本部・文法部本部改修電気設備工事 (変更)	立会開会	9.6m	遺構・遺物なし	年報15
09・2・12	0845 (黒島北) 老健施設改修工事	立会開会	1.8m	遺構・遺物なし	年報15
09・2・13	0846 (城東町) 常滑焼窯場門戸改修工事	立会開会	1m	遺構・遺物なし	年報15
09・2・13 2・19 1~2	0847 (黒島北) 教育学部本部改修 (変更)	立会開会	130.8m ²	遺構・遺物なし	年報15
09・2・23~24 2・27 3・4~3・5 3・13	0848 (黒島北) 文法部新築改修工事(変更、変更の2)	立会開会	134.17m ²	遺構・遺物なし	年報15
09・2・16	0849 黒島開港 (北地区) 外灯新設工事	立会開会	3m	遺構・遺物なし	年報15
09・2・16	0850 (沼尾) 体育館改修施設工事(追加)	発掘開会 / 立会開会	13.32m ²	遺構・遺物なし	年報15
09・2・17	0851 (沼尾) 本道新設工事	立会開会	8m	遺構・遺物なし	年報15
09・2・18	0852 (黒島北) 管水ポンプ装置工事	立会開会	1m	遺構・遺物なし	年報15
09・2・18	0853 (黒島北) ものづくり実習室Ⅱ新設工事	立会開会	0.5m	遺構・遺物なし	年報15
09・2・23	0847~3 (黒島北) 教育学部本部改修 (変更の2)	立会開会	234.6m ²	遺構・遺物なし	年報15
09・2・24	0854 (黒島北) 北地区ガイア施設改修工事	立会開会	12m	土器群・瓦器	年報15
09・2・26~ 3・12	0854 (黒島北) 北地区ガイア施設改修工事	発掘開会	106m ² 古代	ピット・空穴堆积址・遺物堆积・ 土器群・土器群・瓦器群・石器 罐	本報告書
09・2・26	0855 (黒島北) 田畠情報処理センター改修電気設備工事	立会開会	30.85m ²	遺構・遺物なし	年報15
09・2・27	0856 (黒島北) ものづくり実習室Ⅱ新設工事	立会開会	60.99m ²	遺構・遺物なし	年報15

3. これまでの調査と本件収録の遺跡

09・3・3	0057	(当駿北) 国情報処理センタースロープ設置工事	立会調査	33.114m ² (94.12 m ²)	遺構・遺物なし	年報15
09・3・4~3・6 3・11	0058	(当駿北) 教育学部改修豆原城跡工事	立会調査	117m ²	遺構・遺物なし	年報15
09・3・6	0059	(当駿北) 共用施設改修3研究棟改修工事	立会調査	36m ²	遺構・遺物なし	年報15
09・3・6 3・13	0060	(当駿北) ものづくり実習室改修工事	立会調査	115.54m ² (77.74m ²)	遺構・遺物なし	年報15
09・3・9~3・11 3・17	0061	(当駿北) 文化学部小舎改修豆原城跡工事	立会調査	35m ²	遺構・遺物なし	年報15
09・3・9	0062	(当駿北) 共用施設改修3研究棟改修工事	立会調査	21m ²	遺構・遺物なし	年報15
09・3・10~ 3・11	0063	(当駿北) ポライア室改修豆原城跡工事	立会調査	98.5m ² (4.66m ²)	遺構・遺物なし	年報15
09・3・16 3・23	0064	(当駿北) 墓碑整備(鶴太等) 工事	立会調査	119.95m ²	住居址・ピット・土器器	年報15
09・3・17	0065	(川駿南) 地域ボイラー空気透外壁工事	立会調査	300.73m ² (1.12m ²)	遺構・遺物なし	年報15
09・3・23	0066	(川駿北) 学生会館改修排水等工事	立会調査	18m ²	遺構・遺物なし	年報15
09・3・27	0067	(川駿北) 北地区ボイラー空気透外壁工事	立会調査	37.21m ² (16.1m ²)	遺構・遺物なし	年報15
09・3・31	0068	(駿南) ケーブルマー取扱工事	立会調査	2m ²	遺構・遺物なし	年報15
2008年度						
09・4・15 4・17	0069	(当駿南) 西門改修橋移設工事	立会調査	18m ²	遺構・遺物なし	年報16
09・4・20 4・22	0070	(当駿北) 西門改修工事	立会調査	422m ²	内部・屋外露出しに際し褐色色の住居 それ以外遺構・遺物なし	年報16
4・24						
4・27						
4・29						
5・1						
5・25						
5・27						
5・28						
09・4・23	0071	(本庄中) 中地区境内カーボンターマー取扱工事	立会調査	1.19m ²	遺構・遺物なし	年報16
09・5・8	0072	(当駿北) 学在寮日記館新築工事	立会調査	16m ²	遺構・遺物なし	年報16
09・5・8	0073	(当駿北) 屋外雨水管新設工事	立会調査	5.8m ²	遺構・遺物なし	年報16
09・5・27	0074	(大江) 学生部宿管フロンティアセンター新設その他の工事	立会調査	0.8m ²	遺構・遺物なし	年報16
09・5・28	0075	(駿南) 駐車場改修(地盤改良施設充実工事 その1) (変更)	立会調査	11.46m ²	遺構・遺物なし	年報16
09・6・5	0076	(駿南) 駐車場改修(電気交換装置更張工事 その2)	立会調査	1.0m ²	遺構・遺物なし	年報16
09・6・4	0077	(大江) 学生部宿管水道工事	立会調査	10.6m ²	遺構・遺物なし	年報16
09・6・11	0078	(駿北) ガス配管改修	立会調査	3m ²	遺構・遺物なし	年報16
09・7・3 7・22	0079	(大江) 学生宿直宿舎新築工事	立会調査	321m ²	遺構・遺物なし	年報16
09・7・6	0080	駒木本小屋退避施設(東地区) インフラ整備	立会調査	12m ²	遺構・遺物なし	年報16
09・7・8	0081	(駿北) 非常動線宿泊施設屋外給水管新設工事	立会調査	0.6m ²	遺構・遺物なし	年報16
09・7・8	0082	(駿北) 特別支援学校屋外給水管新設工事	立会調査	0.6m ²	遺構・遺物なし	年報16
09・7・13	0083	(当駿北) 大学生宿直宿舎新築工事	立会調査	3.5m ²	遺構・遺物なし	年報16
09・7・28	0084	(学府) 学生宿直宿舎新築工事(追加その3)	立会調査	2m ²	遺構・遺物なし	年報16
09・8・7	0085	(駿北) 駐車場改修(電気交換装置充実工事)	立会調査	3m ²	遺構・遺物なし	年報16
09・8・10	0086	(本庄中) 国内通話回線改修工事	立会調査	0.44m ²	遺構・遺物なし	年報16
09・9・4	0087	(駿北) 球技場本館・玄関部本館Ⅱ期改修掩埋設工事	立会調査	50.37m ²	遺構・遺物なし	年報16
09・9・4	0088	(駿北) 球技場新館改修工事	立会調査	464.8m ²	遺構・遺物なし	年報16
09・9・4 10・2・24	0089	(駿北) 文化学部本館Ⅱ期改修掩埋設工事	立会調査	356m ²	遺構・遺物なし	年報16
09・9・29	0090	(当駿北) 教育学部本館・文化学部本館Ⅱ期改修掩埋設工事	立会調査	826m ²	遺構・遺物なし	年報16
09・10・6	0091	(当駿北) 工部研究実験棟改修工事	立会調査	36m ²	遺構・遺物なし	年報16
09・10・15 10・27~ 10・30	0092	(駿南) 球技場新館改修設得(南北) 工事(変更)	立会調査 / 発掘調査	1,163.00m ² 古代 ①15.5m ² ②925.11m ² ③0.45m ² 50m ² ④15.5m ²	ピット・住居 土的跡・柱洞 柱洞群	年報16
10・30 11・12 11・13 11・19 11・24~ 11・26 12・1~ 12・3	0093	(駿南) 球技場新館改修設得(南北) 工事(変更)	立会調査 / 発掘調査	⑤15.5m ² ⑥925.11m ² ⑦27.2m ² ⑧15.5m ² ⑨0.45m ² ⑩233.7m ²	ピット・住居 土的跡・柱洞 柱洞群	年報16
09・10・19 10・23 10・27~30	0094	(駿南) 東病棟新設構造設得(南北) 工事 追加その2	立会調査 / 発掘調査	1,163.00m ² 古代 ①15.5m ² ②925.11m ² ③0.45m ² 50m ² ④15.5m ²	ピット	年報16
09・10・27~ 10・30 11・12 11・13 11・19 11・24~ 11・26 12・1~ 12・3	0095	(駿南) 東病棟新設構造設得(南北) 工事 追加その1	立会調査 / 発掘調査	1,163.00m ² 古代 ①15.5m ² ②925.11m ² ③0.45m ² 50m ² ④15.5m ²	ピット・住居・構 土的跡・柱洞 柱洞群	年報16

09・10・13	0026	(医療) 品特需要 (自家発電設備更新) 工事	立会開室	84m ²	土壟器	年報16
10・1・28						
09・10・20	0027	(医療) グリル機器取扱工事	立会開室	919m ²	土壟器	年報16
09・10・21	0028	(医療) 教育学部本館・文化学部本館Ⅲ期改修機器設備工事	立会開室	33m ²	造園・造物なし	年報16
09・10・29	0029	(医療) 第6回スロープ取扱工事	立会開室	2m ²	造園・造物なし	年報16
09・11・4	0030	(本庄北) 品種開拓栽培ブレハツ小屋改修工事	立会開室	69m ²	造園	年報16
09・11・10	0031	(医療) 草薙林北園林木等改修工事	立会開室	14m ²	A・C 道樹・造物なし B 生垣等・樹木後藤影・古代土 石垣・植生器	年報16
11・1・18						
09・11・10	0032	(医療) 制御装置工事部分改修工事	立会開室/ 発電機室	1m ² 機器 外構工事 200m ²	造園 古代土器器・機器器	本報告書
11・1・20~ 12・3						
12・14						
09・12・9	0033	(医療) 周囲学校ビル改修機器改修工事	立会開室	18m ²	造園・造物なし	年報16
09・12・9	0034	(医療) 制御装置工事部分改修機器改修電気設備工事	立会開室	14.64m ²	造園・造物なし	年報16
10・1・7	0035	(医療北) 体育館改修電気設備工事	立会開室/ 発電機室	423.21m ² 古代・近代 ビット	土壟器・風扇器・機器	本報告書
1・12						
1・19						
1・26						
2・2						
10・1・12	0036	(医療) 田こばと体育園駐車場整備	立会開室	12m ²	理観	年報16
10・1・13	0037	(医療) 田園都市工事部分改修機器改修工事	立会開室	56m ²	造園・造物なし	年報16
2・23						
10・1・14	0038	(医療) ニコロジー・システム実験施設工事	立会開室/ 児童園室	10m ² 開 文	理・社会科 開文字台・生徒土器	本報告書
2・17~ 2・19						
10・1・15	0039	(医療北) 教育学部本館Ⅲ期改修西側外構工事	立会開室	12m ²	造園・造物なし	年報16
10・1・26	0040	(医療北) 生徒食堂立地音響改修新教室工事	立会開室	1m ²	造園・造物なし	年報16
10・1・29	0041	(医療北) 体育館外構改修工事	立会開室	1m ²	造園・造物なし	年報16
10・1・29	0042	(医療北) 体育館改修木造改修工事	立会開室	1m ²	造園・造物なし	年報16
10・2・2	0043	(医療) 田園都市工事部分改修外構工事	立会開室	7m ²	V 宇恒樹盤(速?)	年報16
10・2・5	0044	(医療) 教育学部本館Ⅲ期改修東外構工事	立会開室	1m ²	造園・造物なし	年報16
10・2・8	0045	(医療) 教育学部本館・文化学部改修機器改修工事 (Ⅱ期)	立会開室	2m ²	造園・造物なし	年報16
10・2・8	0046	(医療) 教育学部本館・文化学部改修機器改修工事 (Ⅲ期) 通路	立会開室	7.2m ²	造園・造物なし	年報16
10・2・12	0047	(大江) 学術棟屋上部改修外壁工事	立会開室	2m ²	造園・造物なし	年報16
10・2・15	0048	(医療) 教育学部教室改修新教室新壁掛器具・新設施工事	立会開室	48m ²	造園・造物なし	年報16
10・2・15	0049	(医療) 教育学部教室外壁改修工事	立会開室	0.5m ²	造園・造物なし	年報16
10・2・15	0050	(医療) 教育学部教室改修改修機器改修機器改修工事	立会開室	4m ²	造園・造物なし	年報16
10・2・15	0051	(医療) 教育学部教室改修改修機器改修工事	立会開室	0.5m ²	造園・造物なし	年報16
10・2・22	0052	(医療北) 生徒食堂立地音響改修新教室新壁掛器具改修工事	立会開室	15m ²	造園・造物なし	年報16
10・2・22	0053	(医療) 生徒食堂改修新教室新壁掛器具改修工事	立会開室	1m ²	造園・造物なし	年報16
10・3・1	0054	(医療) 廉價寮整備(既設荷物室) 工事	立会開室	2m ²	造園・造物なし	年報16
10・3・1	0055	(医療) 廉價寮整備(既設荷物室) 工事	立会開室	2m ²	造園・造物なし	年報16
10・3・2	0056	(本庄北) ガイター室電気設備改修その他工事	立会開室	2m ²	造園・造物なし	年報16
10・3・3	0057	(大江) 教育学部外構改修取扱学校小学校改修設置工事	立会開室	3m ²	造園・造物なし	年報16
10・3・4	0058	(医療) 教育学部改修特別利用学校小学校改修設置工事	立会開室	2m ²	造園・造物なし	年報16
10・3・4	0059	(医療北) 生徒食堂改修新教室新壁掛器具改修工事	立会開室	2m ²	造園・造物なし	年報16
10・3・5	0060	(本庄北) 医学部改修取扱工事	立会開室	17m ²	造園改修放牧、計画変更により保 存・選択なし	年報16
10・3・8	0061	(医療) 廉價寮改修改修工事	立会開室	0.83m ²	造園・造物なし	年報16
10・3・8	0062	(医療) 大江駅自然学科研究実験改修機器改修工学実験 改修改修実験工事	立会開室	0.27m ²	造園・造物なし	年報16
10・3・10	0063	(医療) 附属中学校改修取扱工事	立会開室	0.63m ² 関 北	ピット・因い込み 既往生歴記録用	年報16
10・3・11	0064	(医療北) 行政部改修改修工事(黒板塗装)	立会開室	12m ²	造園・造物なし	年報16
10・3・11	0065	(医療北) 文化部本部改修場所改修工事	立会開室	0.48m ²	造園・造物なし	年報16
10・3・12	0066	(医療北) 黒板センター前改修外壁取扱工事	立会開室	0.8m ²	造園・造物なし	年報16
10・3・15	0067	(医療北) 行政事務用取扱平床改修改修工事	立会開室	2.34m ²	造園・造物なし	年報16
10・3・16	0068	(医療北) 廉價寮改修改修6階水槽改修改修改修改修工事	立会開室	3.76m ²	造園・造物なし	年報16
10・3・19	0069	(医療北) フットナースコート改修工事	立会開室	0.24m ²	造園・造物なし	年報16
10・3・23	0070	(医療) 附属中学校改修取扱改修改修工事	立会開室	0.12m ²	造園・造物なし	年報16
10・3・23	0071	(医療北) 文化部本部改修改修改修工事	立会開室	1.8m ²	造園・造物なし	年報16
10・3・26	0072	(本庄北) 附属中学校改修改修改修工事	立会開室	0.87m ²	造園・造物なし	年報16
10・3・26	0073	(大江北) 文化部改修改修改修改修工事	立会開室	0.24m ²	造園・造物なし	年報16
2016年度						
10・4・6	1001	(本庄北) ゲストリー付改修改修改修改修	立会開室	39m ²	造園・造物なし	年報17
10・6・25	1002	(医療北) 文化部本部改修改修改修改修改修	立会開室	22m ²	造園・造物なし	年報17
9・1				0.18m ²		
10・6・30	1003	(医療北) 生徒食堂改修改修改修改修改修	立会開室	0.16m ²	造園・造物なし	年報17
10・8・4	1004	(医療北) 宿舎Aシャッター室改修改修	立会開室	11.04m ²	造園・造物なし	年報17
10・8・9	1005	(医療) 附属小学校改修改修改修改修	立会開室	17m ²	造園・造物なし	年報17

3. これまでの調査と本宿収録の遺跡

10・8・10 9・3 9・6～10 11・3・4	1006 (黒巣北) 文化学部本館Ⅲ期改修外壁工事 事	立会調査／ 発掘調査	1,211.60m ²	古代	ピット・住居址・電熱土 土剖面・瓦窓跡	年報17
10・8・10 9・3	1007 (黒巣北) 教育学部本館・文化学部本館Ⅲ期改修施設設備工事	立会調査	482m ²	遺構・遺物なし	年報17	
10・9・1 9・3	1008 (黒巣北) 貨物配達等改修工事	立会調査	13m ²	遺構・遺物なし	年報17	
10・9・1 9・3	1009 (黒巣北) 教育学部本館・文化学部本館Ⅲ期改修電気設備工事	立会調査／ 発掘調査	16m ²	古代 ピット・遺物なし	年報17	
10・9・15	1010 (城東) 周囲幼稚園運動場サスペンション	立会調査	2m ²	遺構・遺物なし	年報17	
10・9・21	1011 (黒巣南) 砧移転1・2号棟中庭改修	立会調査	23m ²	遺構・遺物なし	年報17	
10・10・4 10・5 10・7	1012 (黒巣北) 教育学部本館・文化学部本館Ⅲ期改修施設設備工事 (追加)	立会調査	67.7m ²	遺構なし 土壌剖面	年報17	
10・10・4 10・5 10・7	1013 (黒巣北) 教育学部本館Ⅲ期改修外壁工事	立会調査	82m ²	遺構・遺物なし	年報17	
10・11・10 11・11	1014 (黒巣北) 教育学部本館改修施設設備工事	立会調査	91.62m ²	遺構・遺物なし	年報17	
10・10・26 11・2・1 2・10 2・15 2・22 2・25 11・3・2 3・3	1015 (黒巣北) 教育学部本館Ⅲ期改修外壁工事	立会調査	2,101.61m ²	遺構・遺物なし	年報17	
10・10・7	1016 (黒巣北) 教育学部外洋排水管改修工事	立会調査	98.46m ²	遺構・遺物なし	年報17	
10・12・6	1017 (本荘北) ナシストコート整備工事	立会調査	0.25m ²	遺構・遺物なし	年報17	
10・12・20	1018 (黒巣北) 五郎記念新幹木修繕工事	立会調査	4m ²	遺構なし 瓦窓跡・土壌剖面	年報17	
10・12・20	1019 (黒巣北) 五郎記念新幹木修繕工事	立会調査	5m ²	遺構・遺物なし	年報17	
10・12・27	1020 (本荘南) ナシストコート整備工事 (追加)	立会調査	0.5m ²	遺構・遺物なし	年報17	
11・1・17	1021 (黒巣北) 五郎記念新幹木修繕所付電気設備工事	立会調査	2m ²	遺構・遺物なし	年報17	
11・1・17	1022 (黒巣北) 五郎記念新幹木修繕所付瓦屋根改修工事	立会調査	202m ²	遺構・遺物なし	年報17	
11・1・17	1023 (本荘南) 地盤改良工事	立会調査	65m ²	遺構・遺物なし	年報17	
11・2・4	1024 (本荘北) カーブミラー取扱工事	立会調査	0.25m ²	遺構・遺物なし	年報17	
11・2・21 2・25	1025 (本荘中) 教育部基礎研究棟とりこわし支撑配管工事	立会調査	175.5m ²	遺構・遺物なし	年報17	
11・3・2	1026 (黒巣北) 教育学部本館北側排水設備修理工事	立会調査	103m ²	遺構・遺物なし	年報17	
11・3・9	1027 (黒巣北) 北地区門前町太陽光発電設備設置工事	立会調査	96m ²	遺構・遺物なし	年報17	
11・3・10	1028 (黒巣北) 教育学部本館正面入口前斜面大削修正工事	立会調査	27m ²	遺構・遺物なし	年報17	
11・3・16	1029 (本荘北) 学生部宿とりこわし工事	立会調査	2m ²	遺構・遺物なし	年報17	
11・3・22	1030 (本荘北) 地盤改良工事	立会調査	0.75m ²	遺構・遺物なし	年報17	
11・3・17	1031 (黒巣北) 社会学部半地下西・文化学部半地下北側排水設備改修工事	立会調査	1m ²	遺構・遺物なし	年報17	
11・3・23	1032 (黒巣北) 社会学部半地下西・文化学部半地下北側排水設備改修工事	立会調査	205.7m ²	遺構・遺物なし	年報17	
2011年度						
11・4・16 4・19	1101 (黒巣南) 事務室水引浴槽改修工事	立会調査	12m ²	遺構・遺物なし	年報18	
11・5・30	1102 (本荘中) 学民部基礎研究棟A棟とりこわし支撑配管工事	立会調査	63m ² (32m ²)	遺構・遺物なし	年報18	
11・6・17	1103 (黒巣南) 斜木板倒壊工事	立会調査	66m ²	遺構・遺物なし	年報18	
11・4・6 6・21～ 9・22	1104 (本荘北) 駐車場学教育研究センター(仮称)整備工事 1104 (本荘北) 学生部宿とりこわし工事	立会調査／ 試掘調査 立会調査 立会調査	古代・近代 住居址・墓塚・ピット 土壌剖面・瓦窓跡・人骨・銭貨・瓦 園子・便位	本報告書	本報告書	
11・6・22	1105 (黒巣南) 駐車場新築基礎排水管敷設工事	立会調査	35m ²	遺構・遺物なし	年報18	
11・6・24 10・17～ 10・19 11・1 11・4 11・10 11・21 11・24～ 11・25 11・28 12・9 12・12～ 12・14	1106 (本荘中) 駐車場基礎研究(A棟)とりこわし工事	立会調査 立会調査 立会調査	1,255.64m ² 古墳・古便・ピット 氏代・近代 土壌剖面・瓦窓跡	古墳・古便・ピット 氏代・近代 土壌剖面・瓦窓跡	本報告書 本報告書	
11・7・5	1107 (本荘) 中庭掘削工事	立会調査	89m ²	遺構・遺物なし	年報18	
11・7・11	1108 (黒巣北) 寄宿客棧用施設改修工事	立会調査	71.2m ² (3m ²)	遺構・遺物なし	年報18	
11・7・11 8・1 8・5	1109 (黒巣北) 寄宿客棧用施設改修用瓦屋根改修工事	立会調査	507m ²	遺構・遺物なし	年報18	
11・7・26	1110 (黒巣北) 五郎記念新幹木シロアリ害虫防除緊急取扱工事	立会調査	333m ²	遺構・遺物なし	年報18	
11・8・18	1111 (黒巣南) 自然科学研究科研究棟・理学部研究棟道路整備工事	立会調査	0.66m ² 15.2m ²	遺構・遺物なし	年報18	

11・9・21 9・22 9・26~ 9・28 10・4 10・11 10・25~ 10・28 10・31	1112 (医病) 基幹・環境整備 (第6病棟等支障配線・配管井戸) 機 立会開先/ 発掘調査	500m 古 様 古 葦穴柱頭柱・漆喰造筋・ビット 代・近代 土間板・須恵器	本報告書		
11・10・11~ 10・13 10・17 10・18 11・1 11・11	1113 (医病) 基幹・環境整備 (第6病棟等支障配線・配管井戸) 工 立会開先/ 発掘調査	254.83m ² 古 様 古 葦穴柱頭柱・漆喰造筋・ビット 代・近代 土間板・須恵器	本報告書		
11・10・15 10・17 10・18 11・1 11・11	1114 (医病) 基幹・環境整備 (第6病棟等支障配線・配管井戸) 機 立会開先/ 発掘調査その2	194.81m ² 古代・近世 住居址?・窓・ビット 土間板なし	本報告書		
11・10・24~ 10・27 10・25~ 10・26 12・12 12・1~27	1115 (黒堀北) ラグビー場軌道水管被工事	立会開先	23m ² 遺構・遺物なし	年報18	
11・10・24~ 10・27 10・25~ 10・26 12・1~27	1116 (黒堀北) 文化学部講義会議室改修等改修工事	立会開先/ 発掘調査	20m ² 古代 聖火在窟址?・ビット 古代土間板・須恵器	本報告書	
11・10・24~ 10・27 10・25~ 10・26 12・1~27	1117 (本荘中) 医学部基礎研究棟とりこわしに伴う中庭改修	立会開先	491.7m ² 遺構なし	土間板なし	年報18
11・11・15 11・11・22 12・14 12・1~17~ 1~18	1118 (大江) 電柱架設撤去及び支柱新設	立会開先	0.42m ² 遺構・遺物なし	年報18	
11・11・22 12・14	1119 (医病) 基幹・環境整備 (中庭中央塀壁等とりこわしに伴う立会開先)	立会開先	407m ² 遺構・遺物なし	年報18	
11・11・24~ 11・25 11・11・28~ 12・6・4	1120 (医病) 基幹・環境整備 (第6病棟北外部とりこわし) 立会開先	立会開先	728m ² 遺構・遺物なし	年報18	
11・12・5 11・12・5 12・2~3	1121 (黒堀南) 基幹・環境整備 (粗引脚本柱等) 工事	立会開先/ 発掘調査	774.68m ² 横文・抹床・住居址?・土坑・便・漆喰造筋・ 中間・古 ビット・土間板・須恵器・環状(馬) 代・中世・近世・漆喰造筋・土間板・柱脚・ 門・近現代 三連窓・横梁・漆喰柱チップ・ 砾石柱・須恵器類(瓦片?)	本報告書	
11・12・9 12・2~20	1122 (黒堀北) 北門庭食事場外構外水槽配管工事	立会開先	165.5m ² 遺構・遺物なし	年報18	
11・12・9 12・2~20	1123 (医病) 基幹・環境整備 (中庭塀板剥離) 工事	立会開先	21.6m ² 遺構・遺物なし	年報18	
11・12・9 12・2~20	1124 (黒堀北) 北門庭食事場外構外水槽配管工事	立会開先	1.54m ² 遺構・遺物なし	年報18	
11・12・9 12・2~20	1125 (大江北) 北門庭食事場外構外水槽配管(壁柱・外柱) 工事	立会開先/ 発掘調査	8.37m ² 古代 土間板・柱脚・鉢石・瓦片	本報告書	
11・12・19 12・1~12	1126 (大江北) 北門庭食事場外構外水槽配管(壁柱・外柱) 工事	立会開先	4.77m ² 遺構・遺物なし	年報18	
12・1~12	1127 (医病) 敷地整理施設ボイラー室・レンガ配筋改修工事	立会開先	8.1m ² 遺構なし 土間板なし	年報18	
12・1~16 12・1~17~1~18 1~20 2~3 3~6~7 1~18~2~17 2~20~2~21 2~27	1128 (黒堀北) 北地区食事・保健センター西面ガス配管修理	立会開先	5.22m ² 遺構・遺物なし	年報18	
12・1~17~1~18 1~20 2~3 3~6~7 1~18~2~17 2~20~2~21 2~27	1129 (医病) 基幹・環境整備 (田舎診療所とりこわし) 工事	立会開先/ 発掘調査	716.0m ² 古代・美・土坑・ビット 古代土間板・須恵器・石製品	本報告書	
11・12・6 12・13~ 12・14 12・1~24 1~26~1~27 2~8.5	1130 (本荘中) 医学部基礎研究棟(B・D棟)とりこわし工事	立会開先/ 発掘調査	1,109.6m ² 中世以前 遺・土坑・ビット 土間板・須恵器	本報告書	
12・1~25 12・1~31 2~1 2~6	1131 (京町団地) 閑地整備 (法面削除) 工事	立会開先	43m ² 遺構・遺物なし	年報18	
12・1~31 2~1 2~6	1132 (医病) 基幹・環境整備 (底り下Cとりこわし) 工事	立会開先	14.6m ² 遺構・遺物なし	年報18	
12・2~6 12・2~17 2~21	1133 (本荘中) 医学部基礎研究棟ボイラー室改修改築設置工事	立会開先	46.5m ² 遺構・遺物なし	年報18	
12・2~17 2~21	1134 (黒堀南) 医学部基礎研究棟その工事(その1)	立会開先	747m ² 住居址らしくは誤と思われる遺構 プラン 遺物なし	年報18	
12・2~16 12・2~20~2~21	1135 (黒堀南) 理学部運動場裏面その工事(その2)	立会開先	1m ² (124.6m ²) 遺構・遺物なし	年報18	
12・2~16 12・2~20~2~21	1136 (黒堀南) 理学部運動場裏面その工事(その3)	立会開先	60.8m ² 住居址か?候 土間板・柱脚・須恵器片	年報18	
12・2~20 12・2~27	1137 (黒堀南) 廉學部3分室スローペア設置工事	立会開先	115.0m ² 遺構・遺物なし	年報18	
12・2~27	1138 (半寄宿) 遊歩道を歩き bers設置工事	立会開先	0.49m ² 遺構・遺物なし	年報18	
12・2~27	1139 (黒堀北) 施設名表示看板設置工事	立会開先	0.65m ² 遺構・遺物なし	年報18	
12・2~28	1140 (京町) 帯電敷設 (法面監視等) 工事	立会開先	1.8m ² 遺構・遺物なし	年報18	
12・2~28	1141 (京町) 帯電敷設 (街路開闢) 工事	立会開先	2.0m ² 遺構・遺物なし	年報18	
12・3~7	1142 (大江北) 荘原植物園施設外周手根板設置工事	立会開先	1.6m ² 遺構・遺物なし	年報18	
12・3~12	1143 (本荘中) ガス配管設置取替	立会開先	34.8m ² 遺構・遺物なし	年報18	
12・3~14	1144 (本荘中) ズイズ学研究センター・生化学研究所・実験室 建物表面調査研究施設新築 実験室水槽設置取り替え 工事	立会開先	7.5m ² 遺構・遺物なし	年報18	

3. これまでの調査と本件取扱の道路

12・3・30～3・27	1145	(医病) 隆裕・環境整備(第6病棟とりこわし)工事	立会調査／免査調査	427.30m ²	古代・中世 清・土坑・ピット 以降 土師器・瓶の残り・埴輪片	本報古区
4・2						
4・4						
5・21～8・23						
2012年						
12・4・10	1201	(医病) 小野寺町御宿御宿街木造工事	立会調査	0.9m ²	遺構・遺物なし	年報19
12・6・13	1302	(医病) 須崎小学校給食センター附属二枚鉢新調査	立会調査	7.1m ²	遺構・遺物なし	年報19
12・6・14-15	1203	(本庄北) 本庄北地区駒平場配管工事(前段)	立会調査	159.7m ²	埴輪	年報19
12・6・18						
12・7・9-10						
12・10・15-16						
12・6・20-29	1204	(本庄北) 駒木修築等工事	立会調査	1360m ²	埴輪	年報19
12・7・3-5						
12・8・1-2						
12・8・17	1205	(本庄中) 医療部基礎研究棟(3階立派)とりこわし工事	立会調査／免査調査	756m ²	古代・近世 清・ピット・土師器・埴輪器・陶器・瓶	本報
12・7・19						
12・6・25	1206	(医聖社) 真高記念公園外堀水管修理等工事	立会調査	1.8m ²	遺構・遺物なし	年報19
12・6・29	1207	(本庄北) 水道指定品超量区域土壌改良改修除去に伴う立会調査	立会調査	100m ²	古代・近代 古墳住居址・墓・清(抜粋)・ピット・2・土師器・瓦	年報19
12・7・3-5		・発掘調査				
12・7・9-10	1208	(本庄北) 文体館各室床板交換改修工事	立会調査	73.7m ²	遺構・遺物なし	年報19
12・7・6-9	1209	(本庄中) 本庄中地区3種付帯施設に伴う立会調査	立会調査	9.7m ²	遺構・遺物なし	年報19
12・7・13						
12・7・17	1210	(医病) 須崎小学校木管修理等工事	立会調査	3.3m ²	遺構・遺物なし	年報19
12・7・23-24	1211	(医病) 教育学部附属中学校西校舎リニューアル改修工事	立会調査	3.2m ²	遺構・遺物なし	年報19
12・7・31	1212	(医病) 西野町西野町道路改修工事	立会調査	6.5m ²	遺構・遺物なし	年報19
12・8・17-20	1213	(本庄北) 本庄北地区駒平場配管改修工事	立会調査	46m ²	遺構・遺物なし	年報19
12・8・15-17	1214	(本庄北) 文体館球場看守所の施工工事	立会調査	224.3m ²	埴輪・土師器	年報19
12・8・20						
12・9・5						
12・8・21	1215	(医病) 教育学部附属幼稚園外堀水管改修工事	立会調査	35m ²	遺構・遺物なし	年報19
12・8・28	1216	(医病) 須崎小学校外堀水管改修工事	立会調査	265.1m ²	遺構・遺物なし	年報19
12・8・30	1217	(医病) 親里町農業技術センター改修改築工事	立会調査	4.1m ²	遺構・遺物なし	年報19
12・9・3-4	1218	(医聖社) 施設管理システム取扱工事	立会調査	100.3m ²	ピット・土器・陶器	年報19
12・9・12-13	1219	(大口) 屋外給水管修理	立会調査	39.9m ²	遺構・遺物なし	年報19
12・9・14	1220	(医聖社) プール側配水池改修工事	立会調査	1.2m ²	遺構・遺物なし	年報19
12・9・19	1221	(医病) プラック改修工事	立会調査	17.1m ²	遺構・遺物なし	年報19
12・9・20-21	1222	(医病) 外堀水管改修改築工事	立会調査	40m ²	遺構?	年報19
12・9・26-28	1223	(本庄中) 国際先端医療研究拠点改修新規工事	立会調査／免査調査	1059m ²	古代・近世 清・壁穴住居址・屋根住居跡・土坑・ピット・石器・土師器・埴輪器・陶器・瓶	本報
12・10・1-						
12・10・15-	1224	(医聖社) 駒字塩塚Aとりこわし工事	立会調査	14.6m ²	遺構・遺物なし	年報19
12・10・23-24						
12・11・9	1225	(医病) 西野町西野町地盤改良工事	立会調査	31.6m ²	遺構・遺物なし	年報19
12・11・13	1226	(本庄北) 外堀水管改修改築工事	立会調査／免査調査	2.2m ²	遺構?	年報19
12・11・19-20	1227	(本庄北) 文体館球場看守所の施工工事(追加)	立会調査	27.6m ²	遺構・遺物なし	年報19
12・12-21						
12・11・26-27	1228	(医聖社) 駒字塩塚B改修工事	立会調査	27.6m ²	清又は住居址?	年報19
12・12・20						
12・12・10	1229	(医聖社) 教育学部小船橋校舎改修工事	立会調査	2.5m ²	遺構・遺物なし	年報19
12・12・18-19	1230	(医病) 教育学部改修改築工事	立会調査	5.2m ²	ピット・土器・陶器	年報19
12・1・26-29	1231	(大口) 須崎市A地堀内給水施設外堀水管改修工事	立会調査	36.3m ²	遺構・遺物なし	年報19
12・1・30	1232	(大口) 大江川RER工事堀内外堀水井取手工事	立会調査	1.2m ²	遺構・遺物なし	年報19
12・2・7-8	1233	(医病中) 京原塚D14イタヤ改修施設工事	立会調査	9.3m ²	ピット・土器	年報19
12・2・12-13						
12・2・21-22	1234	(本庄北) 保育部施設場改修工事	立会調査／免査調査	24.1m ²	古代・近世 土坑・土師器・埴輪器・陶器	年報19
12・3・2-21	1235	(医病) 市内A付帯急流改修工事	立会調査	1.1m ²	遺構・遺物なし	年報19
12・3・27	1236	(医聖社) 教育学部附属明徳寮改修工事	立会調査	0.6m ²	遺構・遺物なし	年報19
12・3・27	1237	(医聖社) 連寺塚3号古墳改修改築物置工事	立会調査	9.0m ²	遺構・遺物なし	年報19
12・3・28	1238	(医聖社) 久光山小学校改修工事	立会調査	11.2m ²	遺構・遺物なし	年報19
12・3・3-5	1239	(医病) 岩内駒ヶス付帯急流改修工事	立会調査	8.0m ²	遺構・遺物なし	年報19
12・3・6	1240	(医聖社) 工務部施設工事	立会調査	2.7m ²	遺構・遺物なし	年報19
12・3・7	1241	(医病) 教育学部附属小学校校舎A・B棟空調改修改設工事	立会調査	27.2m ²	遺構・遺物なし	年報19
13・3・11-14	1242	(医病) 物語資源研究開発施設本館地下タンク設立工事	立会調査	29.8m ²	遺構・遺物なし	年報19
13・3・21-25	1243	(本庄北) 保育室E棟改修改築工事	立会調査	2.9m ²	遺構・遺物なし	年報19
13・3・26	1244	(本庄北) 有賀跡研究室改修改築設備工事	立会調査	1.5m ²	遺構・遺物なし	年報19

II 黒髪南地区の調査

1. 黒髪団地南地区水生動物飼育舎建築工事に伴う発掘調査（9911調査地点）

（1）調査の目的と経過

a. 調査地と調査経緯

工学部・理学部が所在する黒髪南地区は、北地区とともに黒髪町遺跡群（熊本市遺跡地区No.8-88）内にある。本調査地点は9907調査地点と同様に、白川右岸の河岸段丘上（標高18~25m）に位置する。調査地点は大学構内でも最も白川に接近した場所に位置し、目前に白川が流れている。対岸には渡鹿遺跡群・新屋敷遺跡・大江遺跡群が所在する。

本件は水生動物飼育舎新設に伴う発掘調査である。平成11年度の年度途中、学長決裁により実施が決定した事業である。11月初めに文化財保護法第93条の申請を行った。調査日程は年明けという要望であった。本来1・2月は年次報告書作成期間のため、本調査の実施は困難な状況であるにもかかわらず、既に2月から工学部衝撃・極限環境研究センター・サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリ一棟新設工事のため、小畠が報告書作成とともに本調査を実施する予定となっていた。このため、大坪が報告書作成業務とともに3月から調査を実施した。

本調査地点の包含層および遺構面の検出レベルが、予想を越えて深かった。このため廃土処理の都合により、調査区をI区（南西側）とII区（北東側）に分けて調査を行った。本文・図中の遺構番号については、遺構の種類によらず、検出順に一連の番号を与えていた。

b. 調査の経過

I区 1999年3月1日 一次掘削開始。

1999年3月2日 午後より、作業員による作業開始。

1999年3月6~7日 作業中止。

1999年3月8日 遺物検出、記録、取り上げ。全体写真撮影。測量。

II区 1999年3月9日 I区測量完了後、うって返し。午後よりII区の調査開始。

1999年3月10日 遺構掘削、遺物検出と記録（全体写真）、測量。

1999年3月13日 地山上面の全体写真。地山層の掘り下げ。

1999年3月14日 全体写真撮影。測量。調査終了。

c. 調査の組織

調査員：大坪志子

事務担当：松嶋木綿子

発掘作業員：卯野木亜紀・岡田イツ代・小細工洋子・白石美智子・瀬潤俊子・堀川貞子・水上順子

整理作業員：井上裕美・江口路・鬼塚美枝・小山正子・首藤優子・末吉美紀・土田ちえみ・林田

恵子・増井弘子・山崎早苗

（2）調査区の基本層序（図4）

本調査区は9907地点からさほど離れていないが、遺構面および基盤層の深さは全く異なっていた。最も深い所では、地山の検出レベルは地表下2.5mに達する。1層は現代埋土でガラなども含む。2層~5層までが耕作土、4層~10層は白川の洪水砂の層である。11層は混入物のない、しっとりとし

1. 黒髪团地南地区水生動物飼育舎建築工事に伴う発掘調査 (9911調査地点)

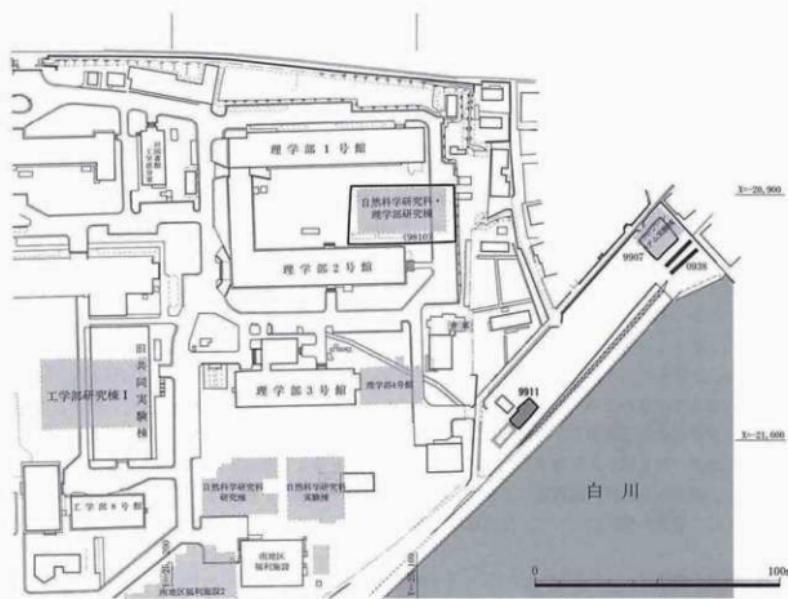


図2 黒髪南地区における調査地点位置図 (1/2000)

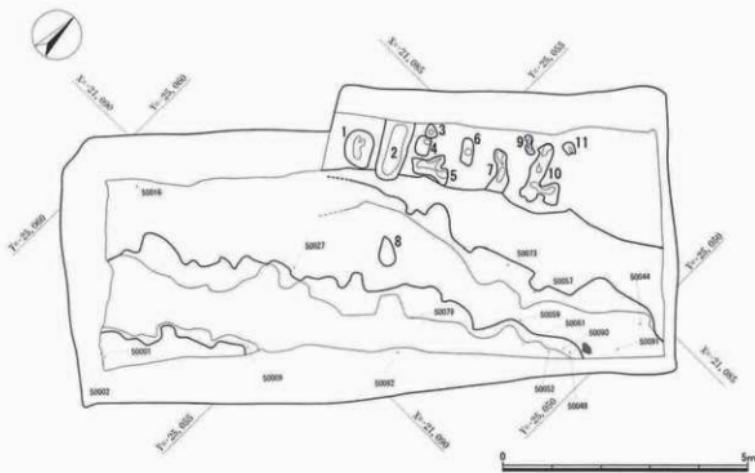


図3 9911調査地点遺構配置実測図 (1/100)

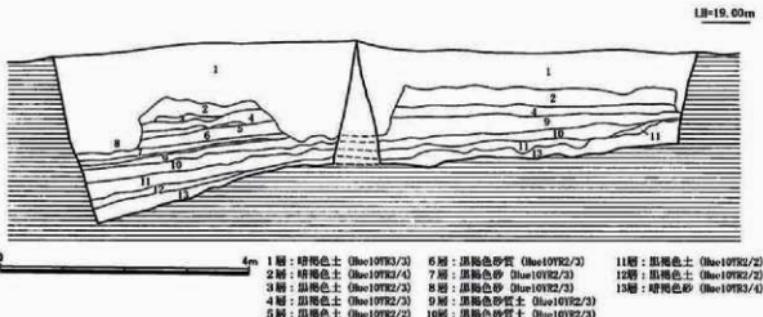


図4 9911調査地点南西・北西壁土層断面実測図 (1/80)

た軟らかい土の層である。12層－黒褐色土層 (10YR2/2) が古代の遺物包含層で土師器や須恵器を含む。13層はいわゆる地山層であるが、既に報告されているように縄文土器の包含層である。その下が砂岩ブロックで形成されたような基盤層となる。

(3) 検出遺構 (図3)

本調査区の遺構面・基盤層は、9907調査地点と同様に白川に向かって傾斜していたが、本調査区ではとくに急激に落ちており、白川側半分が溝状になっていた。明確な掘り込みは見られず、旧段丘源の可能性が考えられる。北西側の台地状の部分は古代の遺物包含層は削平されて残っておらず、地山直上までは近世以降の埋土である。地山検出時においては、遺物の検出はあったが遺構の検出はない。地山土層を除去した段階で、下の基盤層にはピット状の穴があり、縄文土器が含まれるものもあったが、恐らくは自然の窪みであろう。この他遺構らしいものはなかった。

遺物は、古代の包含層から土師器と須恵器が出土した。II区では礫とともにある程度まとまった出土があったが、その他は碎片が散在していた。また、先述のように地山としている層から縄文土器が出土した。

(4) 出土遺物 (図5・6)

本調査区からは、8～9世紀代を中心とする古代の遺物と縄文土器が出土した。

図5：1～14は古代の土師器、15～30は須恵器である。4は8世紀前葉、5は8世紀中葉、6・7は9世紀前葉頃と思われる。8～11は糸切り底で12世紀代の所産であろう。12・13は土師器壺の口縁部である。12は8世紀末頃と思われる。13は9世紀前半であろう。14は台地状のピットとした基盤層の窪みから出土した土師器壺である。8世紀中葉であろう。15～30は須恵器である。19・25以外は溝状部分から出土した。15は須恵器蓋である。摘みや壊部が欠損しており全体は不明だが、器高は薄く9世紀初頭かと思われる。16は8世紀前半、17は8世紀後半、18～22は8世紀末葉から9世紀初頭と思われる。23は壺の口縁部、24・25は壺の底部でともに8世紀後半である。26～28は須恵器壺の脚部片である。29は須恵器の円面鏡である。直径は約10cm程度で小型である。脚は高台条ではなく、独立した丸い脚が3か所についていたようである。残っている脚は、周囲に廻る海と繋がっており、墨

1. 黒髪田地南地区水生動物飼育施設工事に伴う発掘調査 (9911調査地点)

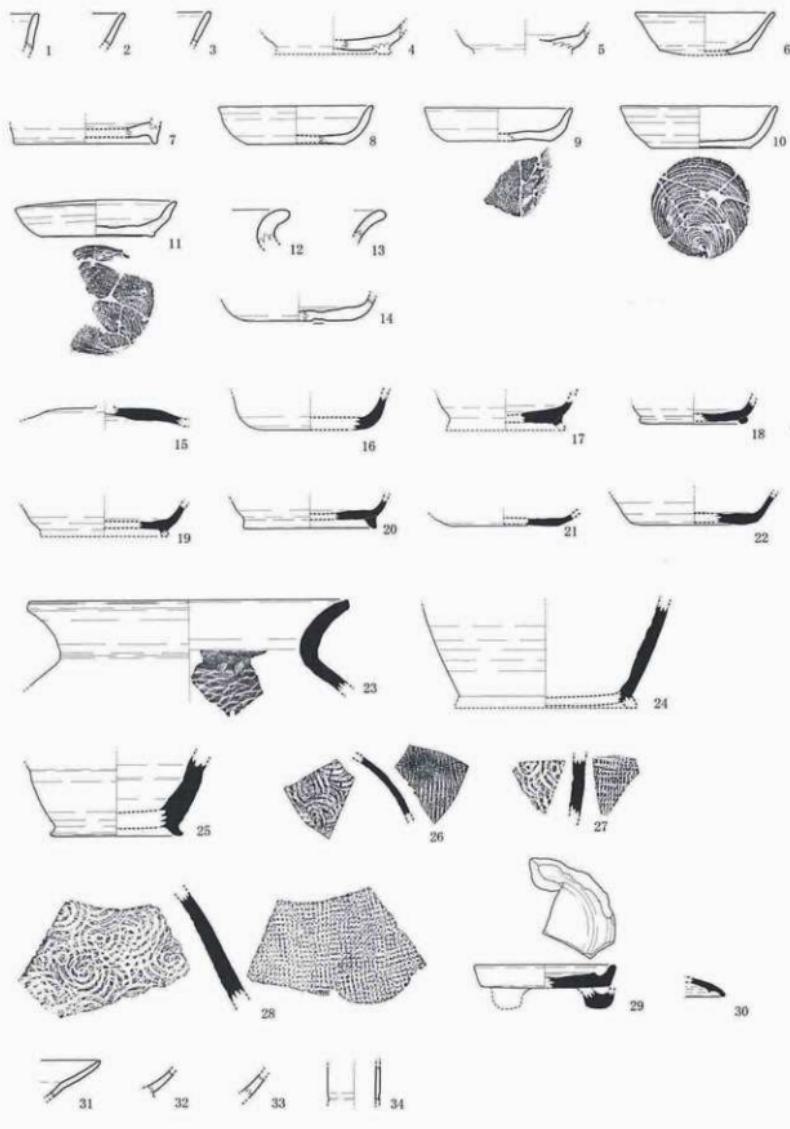


図5 9911調査地点出土遺物実測図1 (1/4)

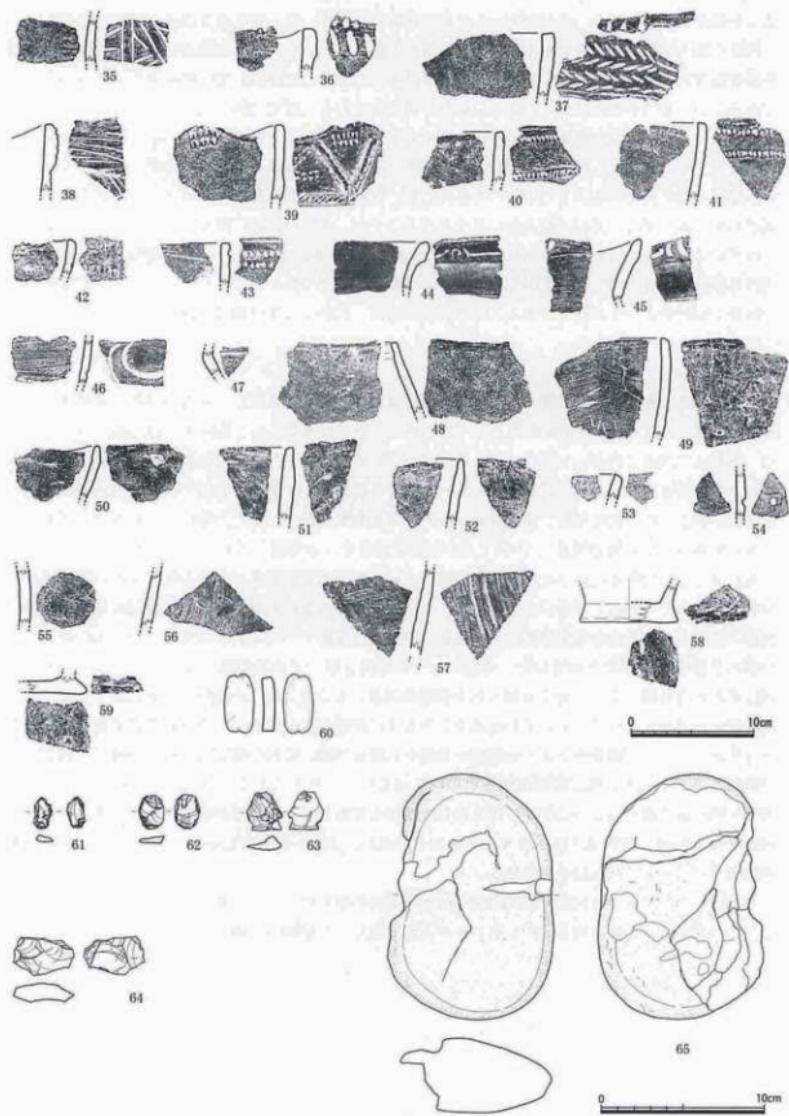


図6 9911調査地点出土遺物実測図2 (1/4・1/3)

が溜まるようになっているようだ。30はピットとした基盤層の底みから出土した須恵器蓋である。かえしが僅かに残っており、7世紀末～8世紀初頭頃であろう。31～34は近代以降の磁器である。

図6：35～60は縄文土器である。前期と後期の土器が出土した。35は曾畠式の深鉢の口縁部である。36は南福寺式の深鉢の口縁部である。37・38は出水式の深鉢の口縁部、39～43は御手洗A式の古段階である。44～46は小池原下唇式の鉢の口縁及び胴部片である。47は太郎迫式である。48～60までは無紋の土器である。有紋の縄文土器の構成からすると後期の所産の可能性がある。48～55は器面をナデで調整している。49は、内面は丁寧にナデを施す。50は焼成後に穿孔をしているが、貫通はしていない。55は土器を円形に加工したようにも思えるが、周縁はなにも調整されておらず、剖面がそのまま残されている。56は、外面は縱方向にナデをほどこすが、条痕が顕著に残る。内面のナデは丁寧に施されている。57は、外面は幅5mmほどの道具でミガキを縱方向に施している。内面のミガキは粗く、方向も縱横である。58・59は底部である。60は土錐で、縄文土器を再加工している。61～63は黒曜石の剝片、64はチャートの剝片である。65は敲石である。欠損していない側辺に敲打による痕跡が残る。

（5）まとめ

今回の調査は9907地点と同様、白川に向かって傾斜する地形を確認し、同様な時期の遺物を得た。現在の地形は、以前、学生寮の敷地として活用され、眼前に構築された堤防までは整地されているため、本地点で白川に向かって崖状に落ち込むことは想定外であった。上記の整地により包含層は削平され、遺構面もダメージを受けたと考えられ、通常遺構面とする黄色土上面では、遺構を確認することはできなかった。2011年に、本調査地点と9907調査地点の間を試掘した際には（埋蔵文化財調査センター年報18、1134調査地点）、古代と思われる住居址を1基確認しており、旧地形では崖の際に近いあたりにまで集落が広がっていた可能性が考えられる。黒髪南地区における縄文土器の出土状況について、未だ不明の点が多い。敷地の北半では、おおむね地山土層と古代の遺物包含層の中間層に後期・晩期の遺物を含む場合が多い。南地区の中央入口道路下（0203調査地点）では、地山層の中に早期の土器や石器が含まれていた。今回のように地山土層の下の基盤層にまで達する地点は9907・9911調査地点以外にない。地山土層のある程度の深さにまで縄文時代の遺物が含まれることは常に念頭に置かねばならないことと、その範囲がどのように設定できるのかが、今後の課題である。同じ南地区であっても、当調査センターの建物が立地する付近では、古代の遺物包含層が明確には確認できず砂層となっており、既に旧河川敷の範囲内ではないかと考えられる。南地区の南側の敷地境は、9911・9907調査地点のように際まで縄文時代の遺物を含む地山や基盤層が確認される一方、西側では砂層となり明確な遺物包含層や遺構面が確認されない。また、地表下25mにおいて近世以降の畠地が検出されるなど、状況は多様である。

今後は、このような段丘崖や旧河川敷の範囲が調査の積重ねにより、確定していくことが望まれる。こうした成果が、近隣に所在したとされる「蚕養の渡し」の解明へと繋がるであろう。

表3 9911調査地点出土遺物一覧表

地番	品名	種類(種別)	高さ(cm)	質	特徴	色	出土場所	備考	
5	土器器	环	口径 底径 壁高	口縁部片	内: 回転ナメ 外: 回転ナメ	内: Hue: 7SYR7/6 外: Hue: 7SYR7/6	津(1区)		
2	土器器	环	口径 底径 壁高	口縁部片	内: 回転ナメ 外: 回転ナメ	内: Hue: SYR6/6 外: Hue: 7SYR7/6	50073	伝承あり?	
3	土器器	环	口径 底径 壁高	口縁部片	内: 回転ナメ 外: 回転ナメ	内: Hue: SYR7/6 外: Hue: SYR7/6	津(12区)		
4	土器器	碗	口径 底径 壁高	底部片	内: 回転ナメ 外: 回転ナメ	内: Hue: 10YR2/6 外: Hue: 7SYR6/6	50082		
5	土器器	碗	口径 底径 壁高	底部片	内: 回転ナメ 外: 回転ナメ	内: Hue: SYR7/6 外: Hue: SYR6/6	津(1区)	内外面赤化粧土	
6	土器器	碗	11.4 7.4 2.5	口縁~底部片	内: 回転ナメ 外: 回転ナメ	内: Hue: SYR5/6 外: Hue: SYR6/6	50002 50003	内外面赤化粧土	
7	土器器	碗	11.6	底部片	内: 回転ナメ, 頭付 外: 回転ナメ, 頭付	内: Hue: 7SYR7/6 外: Hue: 7SYR6/6	50081		
8	土器器	环	12.5 8.0 2.0	約1/2	内: 回転ナメ 外: 回転ナメ	内: Hue: SYR6/4 外: Hue: SYR2/4	50091	底面赤切り 内側にスス?付着	
9	土器器	环	12.0 8.4 2.7	約1/3	内: 回転ナメ 外: 回転ナメ	内: Hue: 7SYR7/6 外: Hue: 7SYR7/6	50091	底面赤切り	
10	土器器	碗	12.8 8.5 3.5	3/4	内: 回転ナメ 外: 回転ナメ	内: Hue: SYR6/6 外: Hue: SYR7/6	50091	底面赤切り	
11	土器器	碗	12.0 9.5 3.0	2/3	内: 回転ナメ 外: 回転ナメ	内: Hue: 10YR6/4 外: Hue: SYR7/4	50091	底面赤切り	
12	土器器	碗	12.5 8.0 2.5	1/3	内: 回転ナメ 外: 回転ナメ	内: Hue: 2SYR5/6 外: Hue: 2SYR5/6	50059	内外面赤化粧土	
13	土器器	碗	12.5 8.5 2.5	口縁部片	内: 回転ナメ 外: 回転ナメ	内: Hue: 7SYR6/4 外: Hue: 10YR7/4	津下部	外側にスス付着	
14	土器器	碗	8.6	1/3	内: 回転ナメ, ナメ 外: 回転ナメ, ナメ	内: Hue: 7SYR6/6 外: Hue: 7SYR5/4	8号ビット		
15	埴造器	釜	口径 底径 壁高	底部片	内: 回転ナメ, ナメ 外: 回転ナメ, 頭付	内: Hue: 2SYR6/2 外: Hue: 2SYR6/2	50048		
16	埴造器	环	口径 底径 壁高	胴部~底部片	内: 回転ナメ 外: 回転ナメ	内: Hue: 2SYR6/2 外: Hue: 2SYR6/2	津(1区)		
17	埴造器	碗	口径 底径 壁高	1/4	内: 回転ナメ 外: 回転ナメ	内: Hue: 2SY5/3 外: Hue: 2SY5/3	50082	外側に自然釉あり	
18	埴造器	碗	口径 底径 壁高	底部1/2	内: 回転ナメ 外: 回転ナメ	内: Hue: 2SY7/2 外: Hue: 2SY7/1	津(飯丸周囲)	外側に自然釉あり	
19	埴造器	碗	口径 底径 壁高	胴部~底部片	内: 回転ナメ 外: 回転ナメ	内: Hue: SY6/2 外: Hue: SY5/2	10号		
20	埴造器	碗	10.8	底部片	内: 回転ナメ 外: 回転ナメ	内: Hue: 10YR5/3 外: Hue: 10YR3/3	津下部	半焼	
21	埴造器	碗	口径 底径 壁高	底部片	内: 回転ナメ 外: 回転ナメ	内: Hue: 2SY6/3 外: Hue: 2SY6/2	津(1区)		
22	埴造器	碗	8.7	底部1/4	内: 回転ナメ 外: 回転ナメ	内: Hue: SY6/1 外: Hue: SY6/1	50079		
23	埴造器	碗?	口径 底径 壁高	口縁~剥離片	内: 回転ナメ, タタキ 外: 回転ナメ	内: Hue: 7SY4/1 外: Hue: 7SY5/1	50061 50062		
24	埴造器	环?	口径 底径 壁高	胴部~底部片	内: 回転ナメ 外: 回転ナメ, 頭付	内: Hue: 2SY6/1 外: Hue: 10Y5/1	津(1区南半 部)		
25	埴造器	碗?	口径 底径 壁高	底部片	内: 回転ナメ 外: 回転ナメ, 頭付	内: Hue: SY6/1 外: Hue: SY3/1	津下部		
26	埴造器	碗?	口径 底径 壁高	胴部片	内: タタキ 外: タタキ	内: Hue: SY6/2 外: Hue: 10Y4/1	津下部		
27	埴造器	碗	口径 底径 壁高	10.7	底部片	内: タタキ 外: タタキ	内: Hue: 10YR5/3 外: Hue: 10YR5/2	50090	
28	埴造器	碗	9.9	胴部片	内: タタキ 外: タタキ	内: Hue: SY6/2 外: Hue: 10Y4/1	津下部		
29	埴造器	内面鏡	口径 底径 壁高	11.5	約1/4	内: 回転ナメ 外: 頭付	内: Hue: 10Y7/1 外: Hue: 10Y3/1	津(1区)	外側に自然釉あり
30	埴造器	釜	口径 底径 壁高	口縁部片	内: 回転ナメ, 頭付 外: 回転ナメ	内: Hue: 2SY7/2 外: Hue: 2SY5/2	8号ビット		
31	埴器	釜?	口径 底径 壁高	口縁部片	内: ナメ 外: ナメ	内: Hue: 白色 外: Hue: 白色	12号上面	白堺	
32	埴器	釜?	口径 底径 壁高	胴部片	内: ナメ 外: ナメ	内: Hue: 白色 外: Hue: 白色	12号上面	白堺	

1. 黒髪团地南地区水生動物倒産含建築工事に伴う発掘調査（9911調査地点）

調査番号	遺物名	種類(断面)	法線(cm)	埋蔵深度	特徴	色・調	出土場所	備考
5 33	陶器	瓶?	110E	直径 約25cm	胴部片	内:ナダ 外:ナダ	内:Hor SY7-2 外:Hor SY7-2	2号ピット 白底 内外面に釉あり
	陶器	瓶のみ?	110E	直徑 約25cm	胴部片	内:ナダ 外:ナダ	内:Hor 白色 外:Hor	瓶丸(Ⅲ区) 外側砂付
6 35	純文土器	深鉢形土器 直徑 約25cm	110E	直徑 約25cm	胴部片	内:ナダ 外:ナダ	内:Hor IGYR4-2 外:Hor IGYR4-2	淡(12期) 脇唇式
	純文土器	深鉢形土器 直徑 約25cm	110E	直徑 約25cm	口縁部片	内:ナダ 外:ナダ	内:Hor SY5-2 外:Hor 2SY5-3	13M6 山福寺式
37	純文土器	深鉢形土器 直徑 約25cm	110E	直徑 約25cm	口縁部片	内:ナダ 外:ナダ	内:Hor IGYR4-4 外:Hor IGYR4-2	淡(14期) 山本式
	純文土器	深鉢形土器 直徑 約25cm	110E	直徑 約25cm	口縁部片	内:ナダ 外:ナダ	内:Hor IGYR5-4 外:Hor IGYR5-2	50016 山本式
38	純文土器	深鉢形土器 直徑 約25cm	110E	直徑 約25cm	口縁部片	内:ナダ 外:ナダ	内:Hor IGYR5-4 外:Hor IGYR5-2	50016 山本式
	純文土器	深鉢形土器 直徑 約25cm	110E	直徑 約25cm	口縁部片	内:ナダ 外:ナダ	内:Hor IGYR5-4 外:Hor IGYR5-1	13M6 御手洗A式
40	純文土器	深鉢形土器 直徑 約25cm	110E	直徑 約25cm	口縁部片	内:ナダ 外:ナダ	内:Hor 2SY5-4 外:Hor 1SY5-4	13M6 御手洗A式
	純文土器	深鉢形土器 直徑 約25cm	110E	直徑 約25cm	口縁部片	内:ナダ 外:ナダ	内:Hor 2SY5-4 外:Hor 1SY5-4	13M6 御手洗A式
41	純文土器	深鉢形土器 直徑 約25cm	110E	直徑 約25cm	口縁部片	内:ナダ 外:ナダ	内:Hor 2SY5-3 外:Hor 1SY5-3	14M6 御手洗A式
	純文土器	深鉢形土器 直徑 約25cm	110E	直徑 約25cm	口縁部片	内:ナダ 外:ナダ	内:Hor 2SY5-1 外:Hor 2SY5-2	13M6 御手洗A式
43	純文土器	深鉢形土器 直徑 約25cm	110E	直徑 約25cm	口縁部片	内:ナダ 外:ナダ	内:Hor IGYR5-4 外:Hor IGYR5-6	13M6 御手洗A式
	純文土器	深鉢形土器 直徑 約25cm	110E	直徑 約25cm	口縁部片	内:ナダ 外:ナダ	内:Hor IGYR5-4 外:Hor IGYR5-2	14M6 御手洗A式
44	純文土器	深鉢形土器 直徑 約25cm	110E	直徑 約25cm	口縁部片	内:ナダ 外:ナダ	内:Hor IGYR7-6 外:Hor 2SYR6-6	14M6上面 小池原下附式
	純文土器	深鉢形土器 直徑 約25cm	110E	直徑 約25cm	口縁部片	内:ナダ 外:ナダ	内:Hor 2SY5-2 外:Hor 5YH5-4	14M6 小池原下附式
45	純文土器	深鉢形土器 直徑 約25cm	110E	直徑 約25cm	口縁部片	内:ナダ 外:ナダ	内:Hor IGYR5-2 外:Hor 1SY5-3	14M6 小池原下附式
	純文土器	深鉢形土器 直徑 約25cm	110E	直徑 約25cm	胴部片	内:ナダ 外:弱	内:Hor IGYR5-2 外:Hor IGYR2-1	14M6 小池原下附式
47	純文土器	深鉢形土器 直徑 約25cm	110E	直徑 約25cm	胴部片	内:ナダ 外:ナダ	内:Hor IGYR5-2 外:Hor IGYR2-2	淡(12期) 太部逆式
	純文土器	深鉢形土器 直徑 約25cm	110E	直徑 約25cm	口縁部片	内:ナダ 外:ナダ	内:Hor IGYR4-2 外:Hor 1SYR3-3	14M6 外面口縁部にスス付着
49	純文土器	深鉢形土器 直徑 約25cm	110E	直徑 約25cm	口縁部片	内:ナダ 外:ナダ	内:Hor 2SY5-2 外:Hor 2SY5-3	14M6
	純文土器	深鉢形土器 直徑 約25cm	110E	直徑 約25cm	口縁部片	内:ナダ 外:ナダ	内:Hor IGYR4-2 外:Hor 1SYR3-2	50009 50027
51	純文土器	深鉢形土器 直徑 約25cm	110E	直徑 約25cm	口縁部片	内:ナダ 外:ナダ	内:Hor 7SYR5-6 外:Hor IGYC-6	13M6 狂傾?
	純文土器	深鉢形土器 直徑 約25cm	110E	直徑 約25cm	口縁部片	内:ナダ 外:ナダ	内:Hor 7SYR5-2 外:Hor 2SY5-2	13M6
53	純文土器	深鉢形土器 直徑 約25cm	110E	直徑 約25cm	口縁部片	内:ナダ 外:ナダ	内:Hor IGYR5-2 外:Hor 1SYR3-3	14M6
	純文土器	深鉢形土器 直徑 約25cm	110E	直徑 約25cm	胴部片	内:ナダ 外:ナダ	内:Hor IGYR5-4 外:Hor 2SY5-3	13M6 重量9kg
54	純文土器	深鉢形土器 直徑 約25cm	110E	直徑 約25cm	胴部片	内: 外:	内:Hor IGYR5-4 外:Hor 2SY5-3	13M6 重量27kg 再利用・土製円筒?
	純文土器	深鉢形土器 直徑 約25cm	110E	直徑 約25cm	胴部片	内:ナダ 外:ナダ	内:Hor IGYR4-2 外:Hor 1SYR3-2	50027
55	純文土器	深鉢形土器 直徑 約25cm	110E	直徑 約25cm	胴部片	内:ナダ 外:ナダ	内:Hor 7SYR5-6 外:Hor IGYC-6	13M6 重量27kg 再利用・土製円筒?
	純文土器	深鉢形土器 直徑 約25cm	110E	直徑 約25cm	胴部片	内:ナダ 外:ナダ	内:Hor IGYR5-2 外:Hor 1SYR3-2	50027
57	純文土器	深鉢形土器 直徑 約25cm	110E	直徑 約25cm	胴部片	内:ナダ 外:弱	内:Hor 7SYR5-4 外:Hor 1SYR3-4	50044
	純文土器	深鉢形土器 直徑 約25cm	110E	直徑 約25cm	底部片	内:ナダ 外:ナダ	内:Hor 2SY5-4 外:Hor 2SY5-3	14M6上面
58	純文土器	深鉢形土器 直徑 約25cm	110E	直徑 約25cm	底部片	内:ナダ 外:ナダ	内:Hor 3Y3-1 外:Hor 2SY3-1	淡(12期)
	純文土器	深鉢形土器 直徑 約25cm	110E	直徑 約25cm	底部片	内:ナダ 外:ナダ	内:Hor 3Y3-1 外:Hor 2SY3-1	
60	土器品	土 桶	110E	直徑 約25cm	完形品	内: 外:	内:Hor 2SY4-2 外:Hor 2SY4-2	重量16.2kg 土器内肉判用
	石器	石 斧	110E	直徑 約25cm	完形品	内: 外:	内:Hor 2SY4-2 外:Hor 2SY4-2	重量10kg
61	石器	石 斧	110E	直徑 約25cm	完形品	内: 外:	内:Hor 2SY4-2 外:Hor 2SY4-2	重量10kg
	石器	石 斧	110E	直徑 約25cm	完形品	内: 外:	内:Hor 2SY4-2 外:Hor 2SY4-2	重量15kg
62	石器	石 斧	110E	直徑 約25cm	完形品	内: 外:	内:Hor 2SY4-2 外:Hor 2SY4-2	重量3kg
	石器	石 斧	110E	直徑 約25cm	完形品	内: 外:	内:Hor 2SY4-2 外:Hor 2SY4-2	重量10.4kg
64	石器	チャート	110E	直徑 約25cm	完形品	内: 外:	内:Hor 2SY4-2 外:Hor 2SY4-2	重量8.6kg
	石器	磨石	110E	直徑 約25cm	完形品	内: 外:	内:Hor 2SY4-2 外:Hor 2SY4-2	重量8.6kg

2. 黒髪団地南地区総合研究棟新営工事に伴う発掘調査（0204調査地点）

（1）調査の目的と経過

a. 調査地と調査経過

本調査地点は白川右岸の標高17mの地点にある。南地区の中部南西部に位置し、9603調査地点と道路を隔てた位置にある。旧工学部建物が調査区内に存在しており、調査対象地区のおよそ半分は破壊されていた。また、調査区西側1/3ほどは旧運動場部分に相当し、現地表面より1.5mほど削平を受けていた。9603調査地点（熊本大学構内遺跡発掘調査報告書）とそれに接する9704調査地点（同）では東西方向の方形区画溝（幅およそ2m）とそれに囲まれた掘立柱建物が検出されており、9603調査地点のほぼ中央で検出された2本の溝（溝間4m）は本学内に存在が推定されている蚕糞（こかい）駅内もしくはそれに通じる古代道路に比定される意見があるなど、本調査地点でも古代官衙関連の遺構の存在が予想されていた。

本調査地点は平成15年度竣工予定の総合研究棟の建築予定地であり、埋蔵文化財調査室では、隣接する9603調査地点での調査成果をもとに、削平は受けているものの遺構の残存状態はほぼ良好であること、先に述べたように、「蚕糞（こかい）駅」と古代官道の存在が予想されている大学構内において重要な地点であると判断し、施設部と協議の上、建築に先立ち、4月17日に試掘調査を実施した。その結果、旧工学部建物跡地の搅乱された部分を除き、遺構や包含層が残存していることが判明し、調査が必要であると判断した。

b. 調査の経過

熊本市教育委員会への埋蔵文化財の発掘調査手続き後、5月6日から5月29日にかけて建設予定地に残存していた土の移植に伴う調査（0206調査地点）を実施し、樹木移植後、埋蔵文化財調査のための1次掘削（表土・搅乱層除去）を終えた。6月12日より本調査に着手した。

発掘調査の結果、古墳時代末から古代にかけての遺構、および細文時代の包含層を確認した。発掘調査はおよそ2ヶ月間を要し、8月14日に無事終了した。発掘調査面積は2,803m²であった。

c. 調査の組織

調査員：小畠弘己・大坪志子

事務担当：坂元紀乃

発掘作業員：伊藤千代子・岡田イツ代・岡村久美子・河野義勝・黒木重信・黒木タケ子・白川チズ子・白石美智子・新里亮人・鈴木笙子・高松北子・田口伸也・溜瀬俊子・中川毅人・野口春美・林田恵子・早田咲百合・番山明子・福田久美子・堀川貞子・前田日出男・松井昭子・水上順子・宮村邦子・森川征子・森川謙・森田登・森田みどり

整理作業員：井上裕美・江口路・鬼塚美枝・小山正子・古賀敬子・首藤優子・末吉美紀・溜瀬俊子・林田恵子・早田咲百合・増井弘子・山喜早苗

（2）調査区の基本層序（図9）

本調査地点の層序は、黒髪南地区の基本的な土層堆積状況と同じである。北壁の土層（図9上段）によって説明を加える。

1層：表土・擾乱層：厚さ60cm

2～6層：黒褐色土層（10YR2-3） 厚さ20cm ほどの数枚の層からなり、一部3層に砂が多く混じる。調査区の西側のみに存在し、斜めの東から西にかけて傾斜した堆積をなす。その堆積状況からみて人為的な埋土と判断できる。

7層：黒褐色土層（7.5YR2/2） 厚さ20～30cm の水平体積層である。調査区東側（溝5より東側）と50cm ほどの高度差があり、西側の工学部運動場建設後に堆積した層と考えられる。

8・9層：灰褐色土層（7.5YR5/2）と黒褐色土層（10YR2/1） 調査区東側のみに堆積する。東側は7層堆積以前に削平された可能性がある。

10層：暗赤褐色土層（5YR3/2） 厚さ40cm ほどで、堆積の基底面は調査区の東側から西側にかけて緩く傾斜している。周辺の地点でもみられる、近代造構の耕作土の基盤となる層である。

11層：黒褐色土層（10YR3/1） 厚さ30cm ほどの水平体積層であるが、調査区の西側部分は10層に削平されている。

12層：にぶい赤褐色土層（5YR4/4） 厚さ15cm ほどの柔らかな土層である。調査区西側のみに残存する

13層：黒褐色土層（7.5YR3/2） 厚さ50cm ほどの基盤土である。

遺物の出土状況から、11層が古代遺物包含層および遺構構築面であり、11層下部から13層の上部にかけて縄文時代後期の遺物が出土する。

本調査地点は、9603・9704調査地点と同じく西側1/3が旧運動場の造成によって削平を受けており、この部分においては近代以降の堆積層である10層で覆われていた。東側の堆積状況から判断して、およそ50cm～1m ほどの削平を受けたものと思われる。この上部には昭和28年の白川洪水の際の洪水砂が被覆し、その上部は被災後の処理土（造成土）である2～6層が厚く堆積している。

（3）検出遺構

今回の調査では、近世末の堀1条、古代溝6条、古代竪穴住居址4基、火葬墓1基、縄文土器包含層を確認した。

<溝>

5号溝

調査区西部には南北方向に走る幅3m、深さ1.5mの堀である。近世末の陶磁器類（図14：3～8）と用途不明の銅製品（図14：9）が出土した。陶磁器類の種類は、陶器鉢・擂鉢・瓦器鉢・染付碗・青磁香炉・青磁人形片などである。

12号溝

調査区西部に東西方向に走る幅2.5m、深さ50cm の断面V字形の2段掘りの溝である。南側が緩やかに立ちあがる。土師器壺・壺・須恵器壺（図14：10～12）などの小片が出土した。

13号溝

12号溝に平行する溝である。幅1m、深さ30cm の断面U字形を呈する。土師器・須恵器の小片が少量出土している。ほぼ第12号溝と同じ時期と思われる。

これらの溝はその位置関係からみて、西側に位置する9603調査地点を東西に走る溝と連なる一連の溝であると思われる。ただし、東側は擾乱のためその端部が明確ではない。少なくとも5号溝以東へは延びていない。築造順は8・9号溝と5号溝の間にに入る可能性が高い。

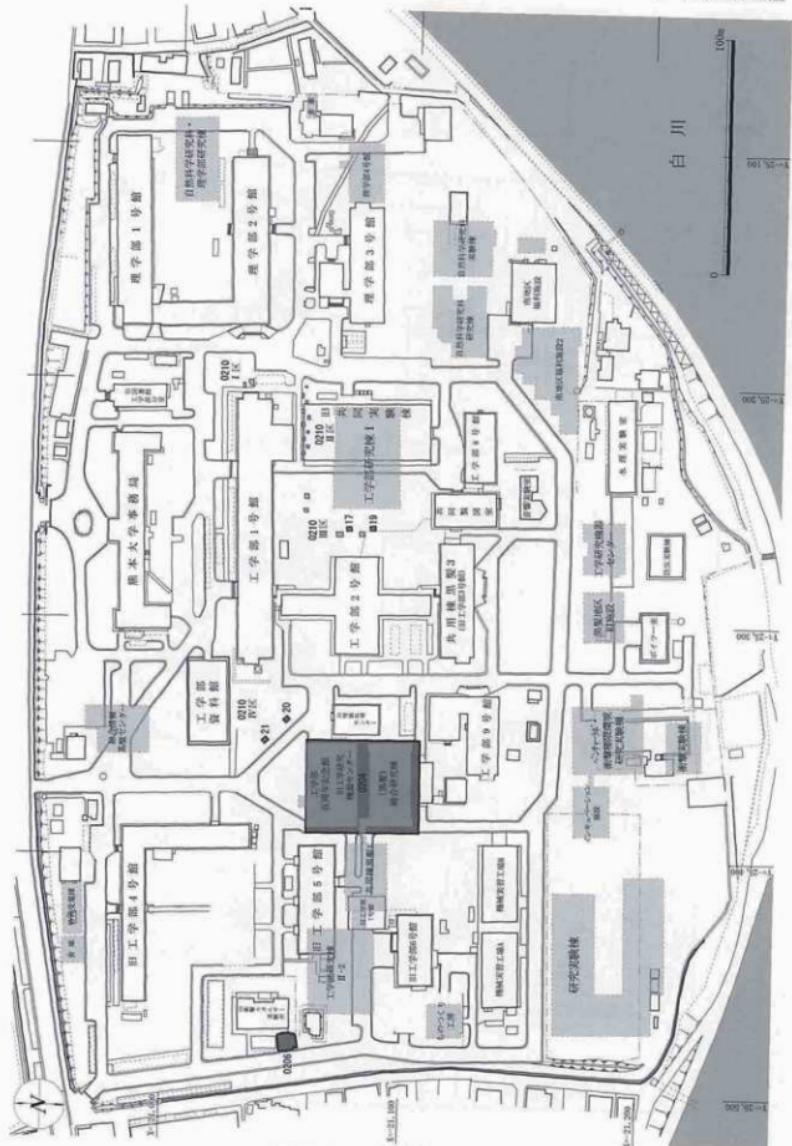
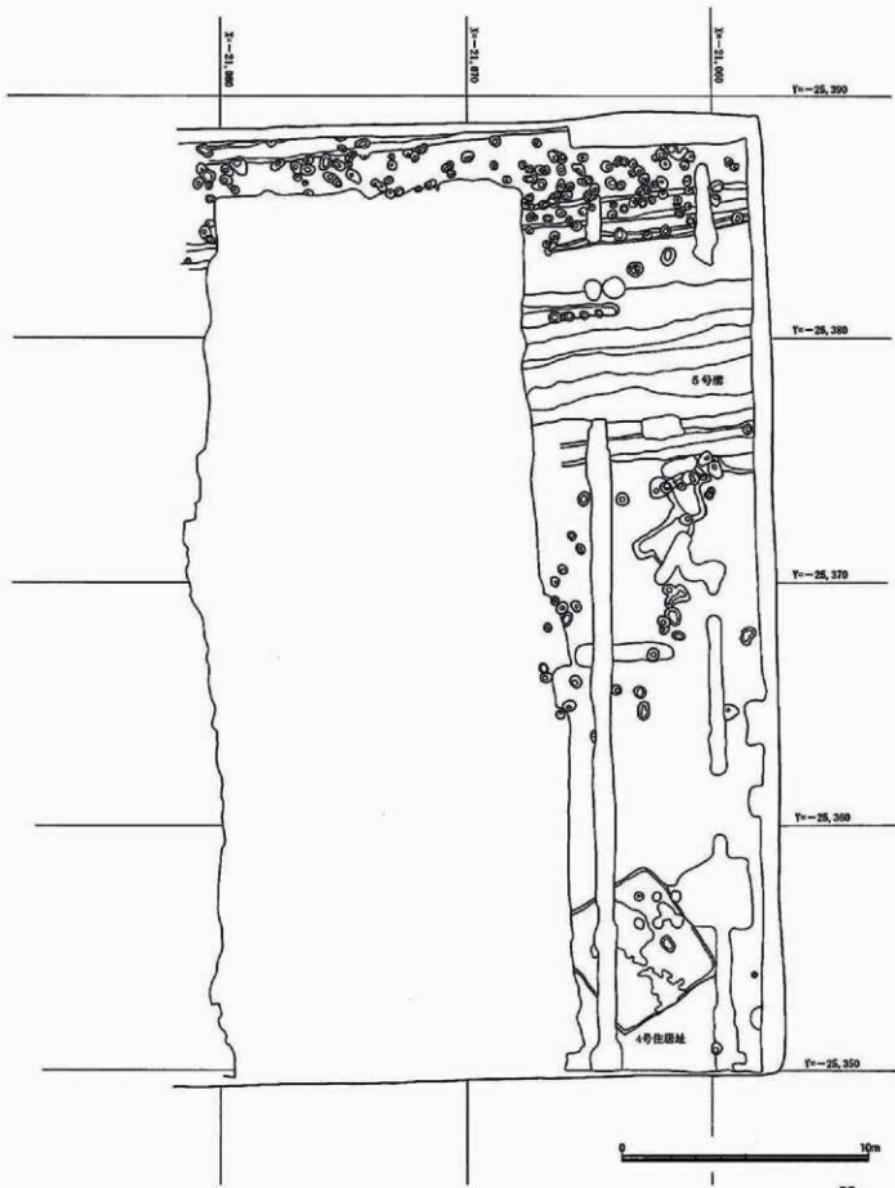


図7 黒髪南地区における調査地点位置図（1/2000）

2. 黒髪団地南地区総合研究棟新設工事に伴う発掘調査 (0204調査地点)





2. 黒髪田地南地区総合研究探査新開工事に伴う発掘調査 (0204調査地点)

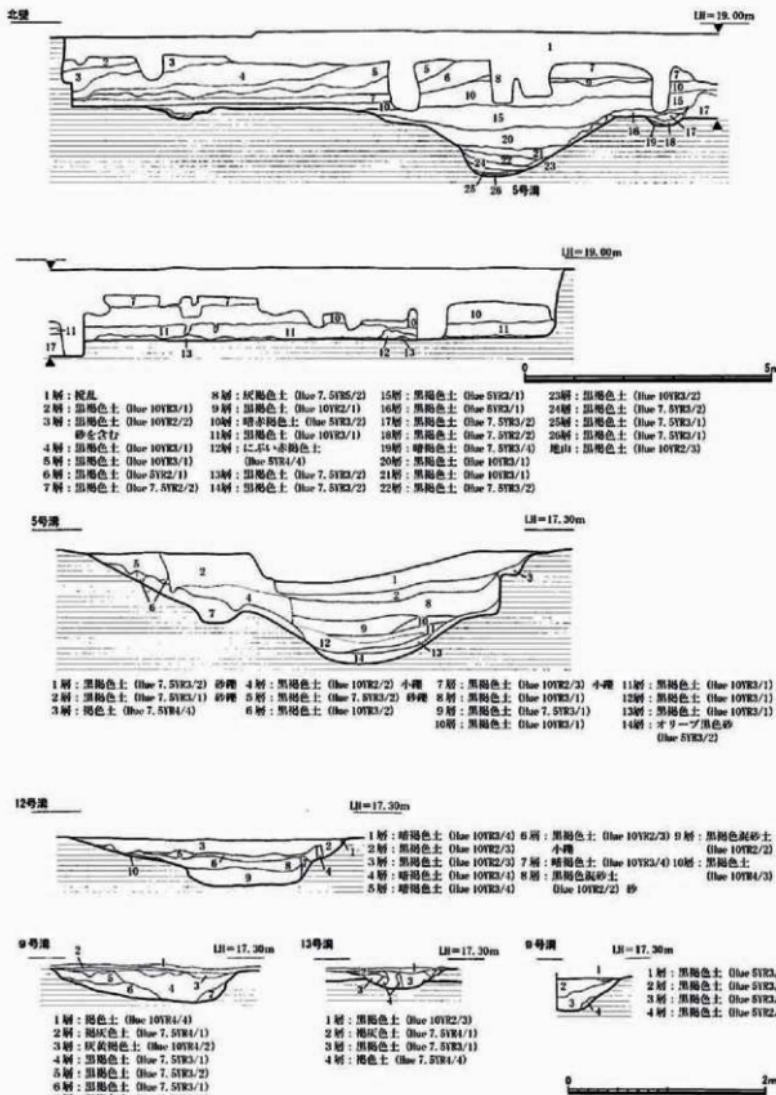


図9 0204調査地点各透構土層断面実測図 (1/100・1/50)

8・9号溝

調査区の西側隅を南北方向に走る溝である。いずれも幅1m前後、深さ30~10cmである。磁北から6度西へ振れる。この方位は9603調査地点で検出した方形区画とはほぼ同じである。遺物は土師器や須恵器の細片が少量出土したが、時期を示すものに須恵器の高台付の壊などがある（図14：13~16）。ほぼ8世紀後半の遺構と考えられる。

その位置と規模からみて、道の側溝と思われるが、残念ながらこの部分の削平が大きいことから、路面は残存していない。また両溝は平行して走るが、北側において若干距離を縮めている。

この他、調査区南側中央で約10mの距離を置いて東西に平行して走る幅80cm、深さ10cmあまりの溝2本（10号・11号溝）を検出しているが、覆土からみて古代の遺構である可能性が高い。11号溝からは土師器の壊と壺が出土している。これらは7世紀末~8世紀初めの時期のものであるが、遺物はごく少量であり、これら遺物がこれらの溝の正確な時期を表すか否かは不明である。

<竪穴住居址>**1号竪穴住居址（図10）**

調査区南東端で検出した方形の竪穴住居址である。規模は5×5m以上であり、西辺の南寄りに竈を設置している。ただし、竈の残存状況はあまり良好ではなく、焼けた粘土が残存し、その前面で砂岩製の支柱を検出ただけであった。住居址内には硬化面が中央西よりに認められた。住居に伴う柱穴は検出していない。土師器壊・須恵器壺の破片（図14：19~24）が出土した。床面からガラス製の小玉1点（図14：25）が出土している。

2号竪穴住居址（図10）

1号竪穴住居址の北側に隣接している方形の竪穴住居址である。規模は4×4mの略方形を呈する。北辺中央に竈があるが、竪穴住居址本体と竈とともに削平が激しく、残存状況はよくない。竈は粘土と右側の袖石が確認できたのみである。遺物は土師器の壊や変形土器（図14：26~31）が住居床面から破片の状態で出土した他、東辺中央付近のピット内から須恵器壺（図14：32）が破片を重ねるような状態（図10上段）で検出された。

3号竪穴住居址（図11）

調査区中央部東側で検出した方形の竪穴住居址である。削平を受けており、壁の立ちあがりは5~10cm程度であった。本調査地点においてはもっとも大きな住居址であり、その規模は6.5×6.3mである。北辺中央に竈をもつ。竈も搅乱によって破壊を受けていた。竈方向に長軸をもつ主柱穴6個が確認できた。その間には2面の一部重なる硬化面が細長く広がっていた。床面から土師器壊・壊・須恵器壊身の破片（図14：33~39）の他、天草地方産の凝灰岩を使用した大型の砥石1点と砂岩製の小型の砥石1点が出土した（図15：40・41）。

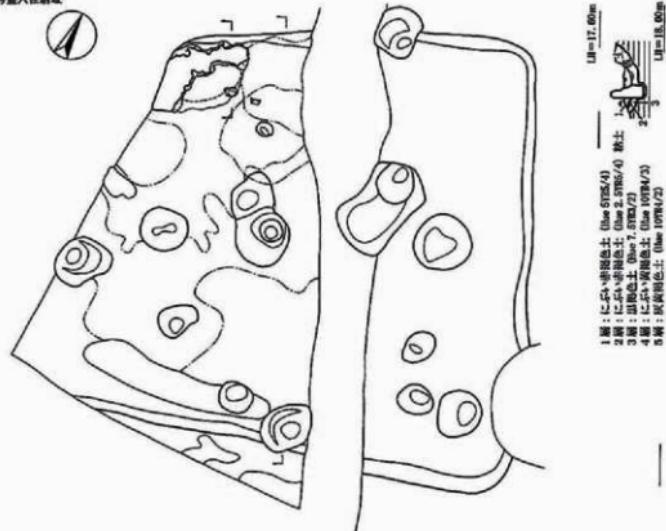
4号竪穴住居址（図12）

調査区北東隅で検出した方形竪穴住居址である。5.5×5.0mの規模をもつ。南部を搅乱によって切られるが、残存状況は良好であった。東辺中央に竈をもち、その前面に硬化面が認められた。竈は中央に砂岩製の短い支柱をもつが、袖石は確認できなかった。破壊された土器とともに粘土・焼土が2×1mの範囲に広がっていた。主柱穴は検出していない。竈とその南東角を中心に若干の遺物が出土した。遺物は逆刺のある須恵器壊身および土師器壊・鉢である（図15：42~53）。

各竪穴住居址の時期は、3号竪穴住居址が最も古く7世紀初めで、4号竪穴住居址が8世紀前半、1・2号竪穴住居址が8世紀後半と考えられる。住居規模は時代が新しくなるにつれ小型化している。

2. 黒髪田地南地区総合研究新當工事に伴う発掘調査（0204調査地点）

1号堅穴住居址



2号堅穴住居址

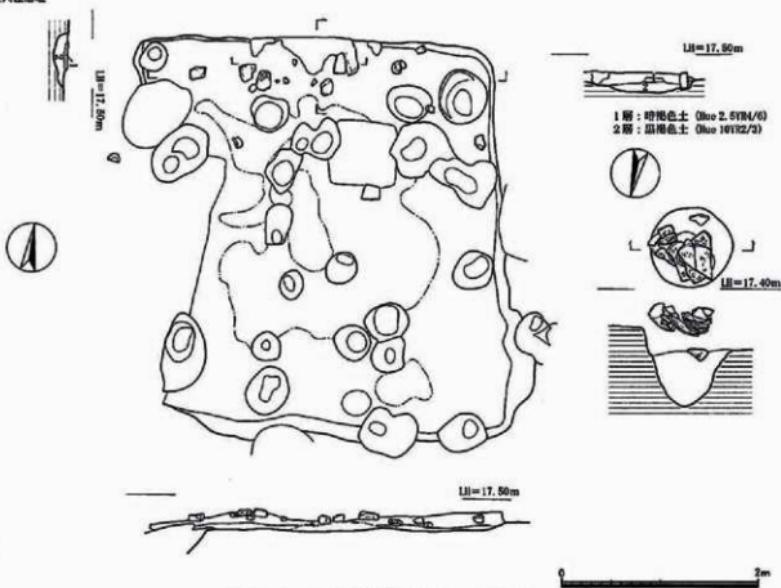


図10 1・2号堅穴住居址実測図 (1/50)

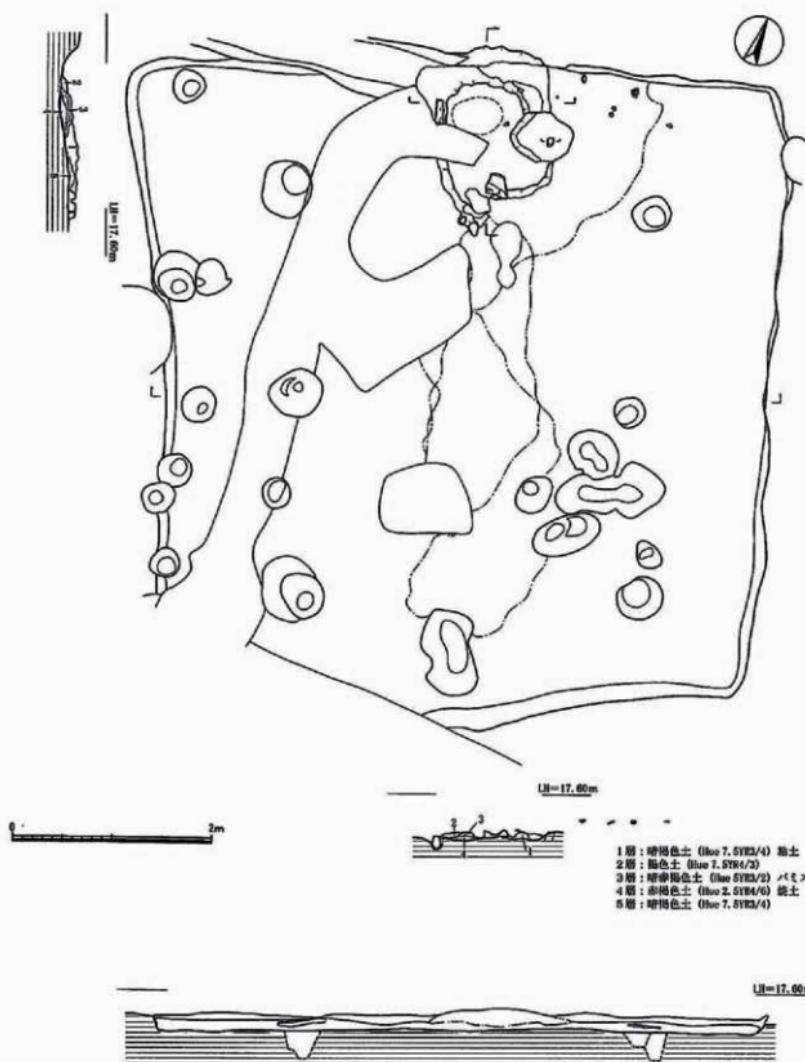


図11 3号竖穴住居址実測図 (1/50)

2. 黒雲母地南地区総合研究拠点新設工事に伴う発掘調査（0204調査地点）

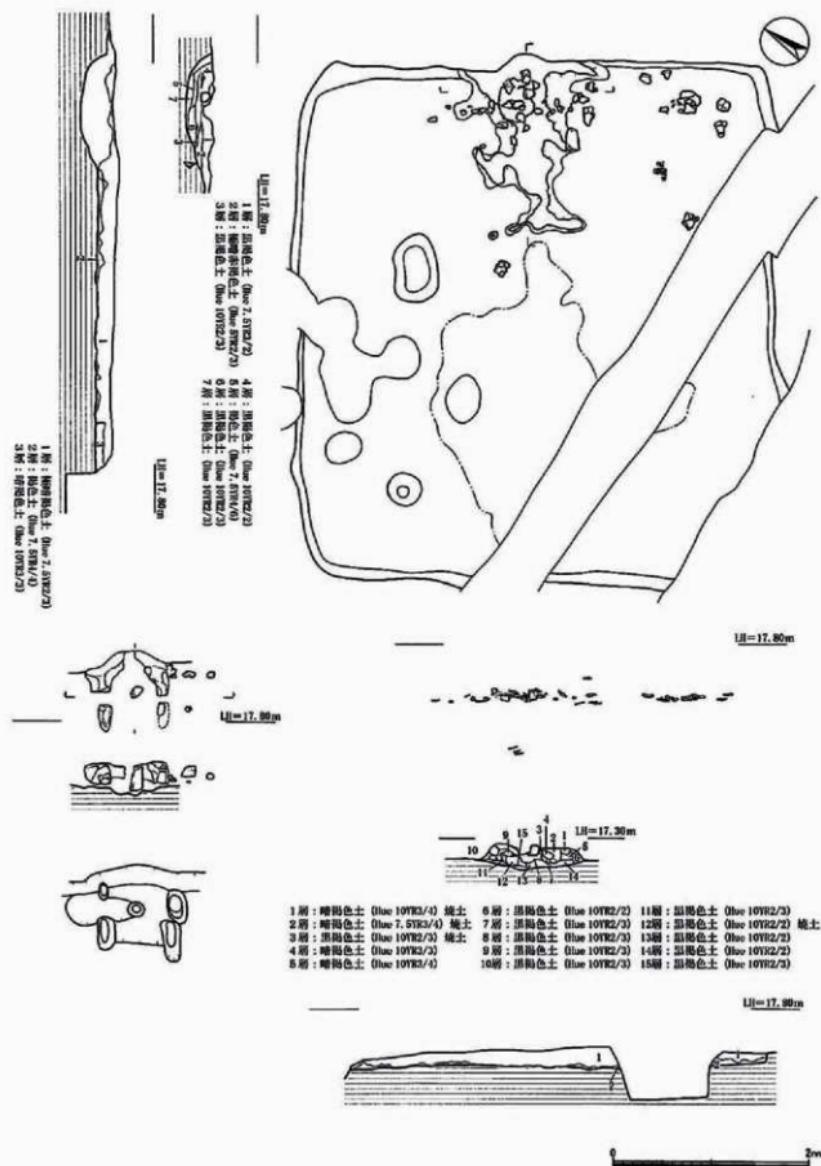


図12 4号竪穴住居址測定図（1/50）

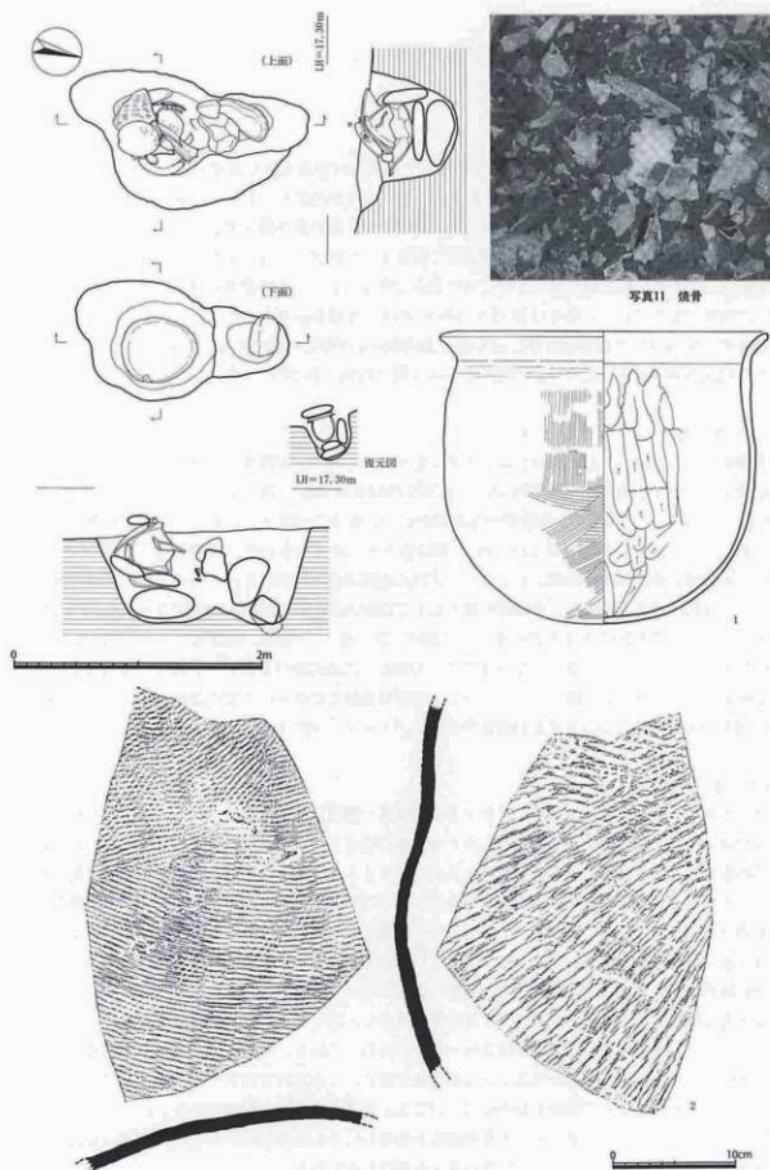


図13 21号火葬墓実測図・出土遺物実測図 (1/50・1/4)

竪の設置位置はすべて北辺側であり、共通している。

＜その他の遺構＞

21号火葬墓（図13）

3号竪穴住居址の北部15mのところで検出した土師器の壺形土器と須恵器の大型壺の破片を利用した藏骨器である。長さ1m、幅50cmあまりの2つの穴が連接したような土坑を掘り、その一つの基底に深い扁平な大型壺を敷き、さらにその上部にもう一段の扁平壺を敷き、その上部に土師器壺の藏骨器を置いている。そして、その周囲を石で囲むように配置した後、須恵器壺の破片で蓋をして、石で押さえている。検出時には、すでに石の重みで潰れており、土師器壺も割れ、内部にあった焼骨が一部外側に溢れていた。従来は復元図（図13）のような埋葬法であったと考えられる。

藏骨器に使用された壺形土器は口径27cm、器高24cmの薄手の器壁をもつ（図13：1）。蓋に使用された須恵器壺の破片は底部付近の破片であり、長さ34cm、幅24cmである（図13：2）。

（4）出土遺物

遺構出土品（図14・15）については、すでに述べているので、省略する。図16：54～61はピットや単独出土の古代の土師器・須恵器である。図16：60は寛永通宝、同61は鉄鎌である。同62は布目瓦（平瓦）片である。このほか、各遺構や包含層から、弥生時代中期中ごろを中心とした壺形土器の口縁部片が検出されている（図16：63～69）。原位置をとどめていないが、本調査地点西側の9704調査地点では該期の壺形土器群が検出されており、古代に造成される以前はこの一帯にも弥生時代の遺構が存在した可能性がある。また、各遺構の覆土および13層上面の包含層から縄文時代後期前半と後期末を中心とした土器片30点あまりが出土した（図16：73～93）。である。後期前半（北久根山式）に遡る資料も若干存在するが、中心となる時期は、天城式・古闕式期のもので、小破片ではあるが、同期の深鉢形土器や浅鉢形土器類が出土している。黒曜石製およびチャート製の剥片とともに、後期後半の九州系の玉の素材となるクロム白雲母岩の小片（チップ）が出土している。

（5）まとめ

今回の調査では縄文時代晩期から近世までの遺構・遺物を検出した。その中でも重要な成果としてはやはり古代官道の側溝と考えられる8・9号溝を検出したことであろう。これらの溝は9603調査地点の東側にこれらに対応する側溝が無い点から推測すると、古代官道の延長部にあたる可能性が高い。この可能性の信憑性は9603調査地点で検出された方形区画の東西辺の溝がこの2本の側溝を越えて本調査区内まで延びていないという事実から一層高くなる。両調査地点の間の状況が不明なので断言はできないが、この区画は先に予想した官道の西側溝に取り付く可能性がでてきた。しかし、東西方向の区画としては12・13号溝や10・11号溝のように別の区画が存在したことを示している。10・11号溝は道路に取り付く脇道の側溝である可能性もあるが、削平と5号溝によって破壊され、8・9号溝との関係は不明である。12・13号溝は8・9号溝を切っており、時期的に下るものであるが、調査区の途中で5号溝に連なる近世の溝である可能性が高く、この道路を取巻く一帯の区画がどのような状況で、しかもどのように変遷したのかについては、今後より面的な調査が継続されなければ明確な判断は下せない。しかし、少なくとも東西南北を基準とした土地区画は、この付近に限って言えば、近世まで継承されていたことは5号溝の存在から明らかである。

この一帯は白川の河川敷と台地を隔てる段丘崖縁に位置しており、駅間連施設が存在したとすれば、

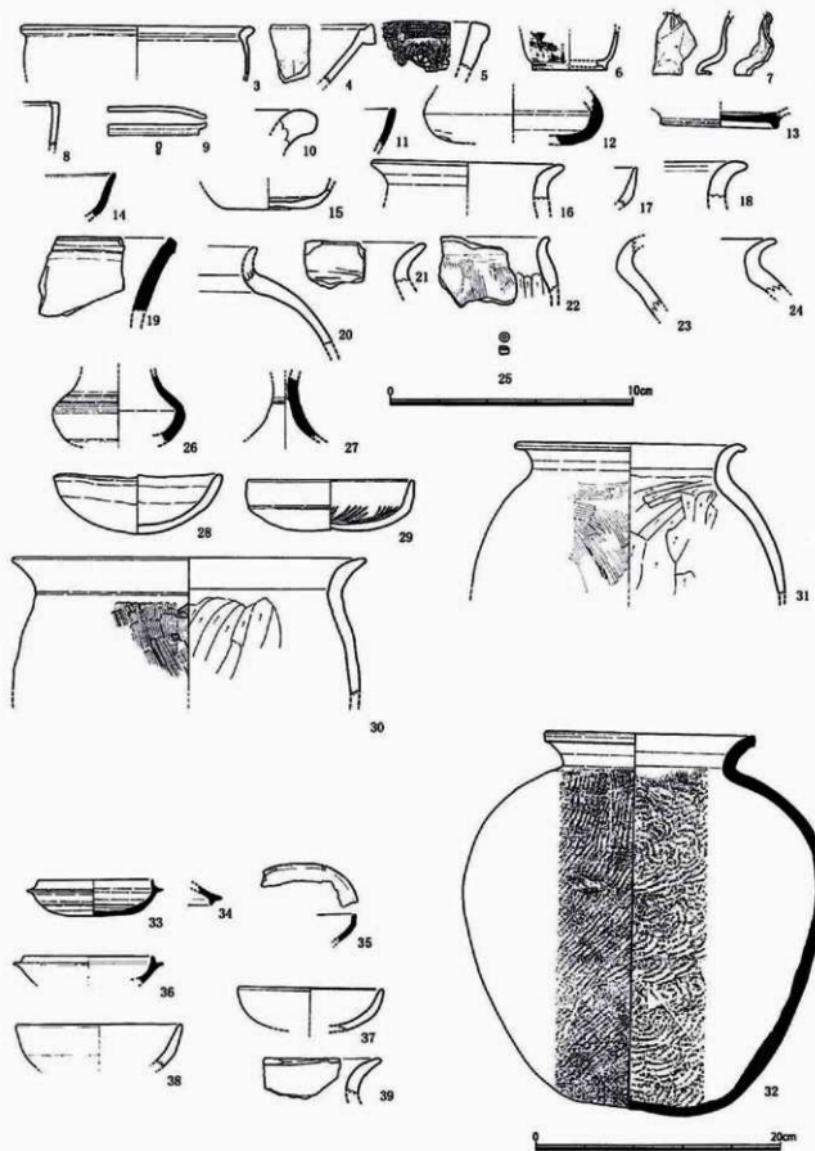
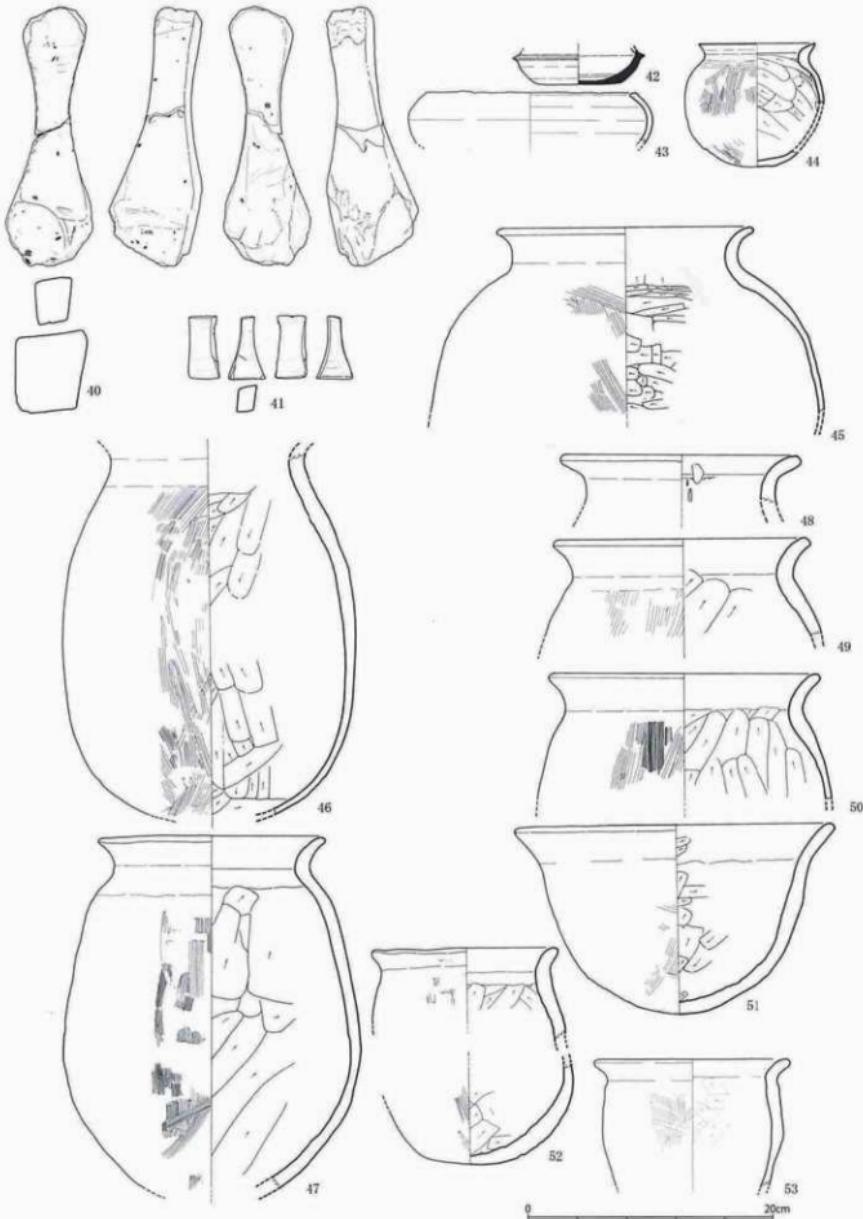


図14 0204調査地点出土遺物実測図1 (1/2・1/4)

2. 黒髪团地南地区総合研究棟新宮工事に伴う発掘調査 (0204調査地点)



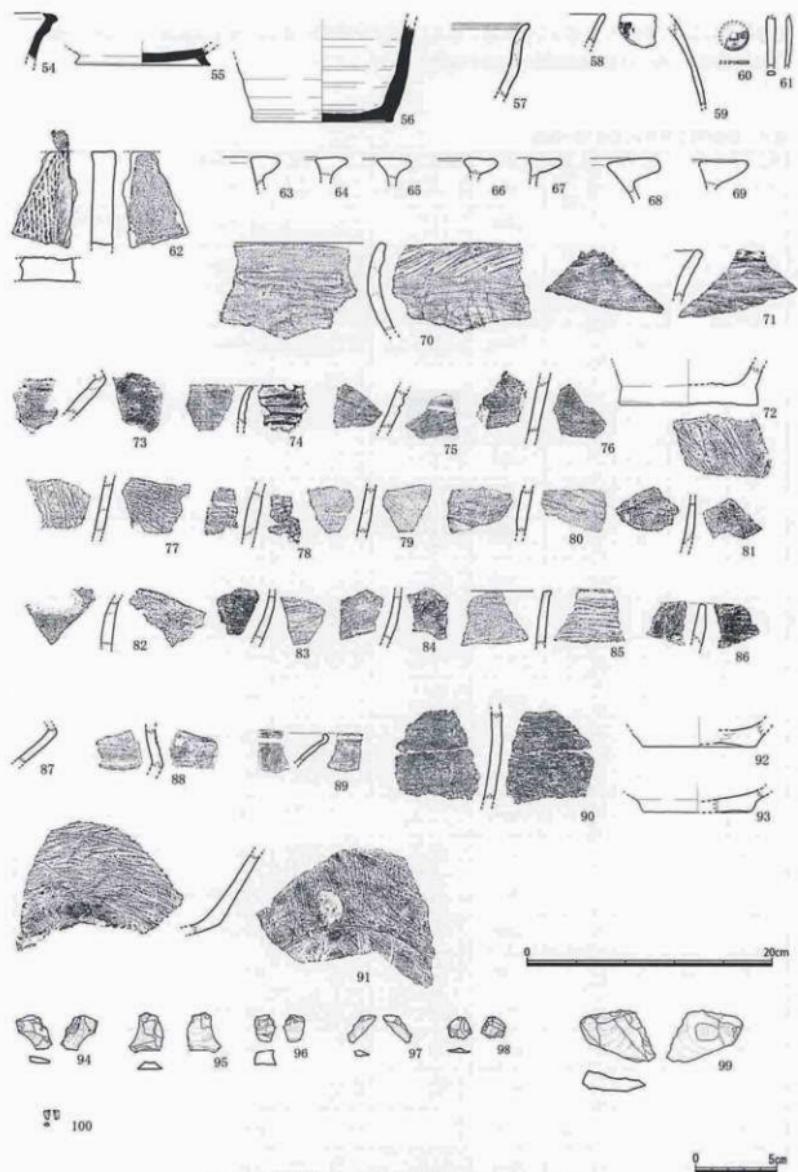


図16 0204調査地点出土遺物実測図3 (1/4・1/3)

2. 黒髪田地南地区総合研究棟新設工事に伴う発掘調査（0204調査地点）

位置的に見てこの付近が最も有力な候補である。今後は西側の（9704・9603調査地点）地点で検出された方形区画と掘立柱建物の時期的変遷が重要な焦点となろう。

表4 0204調査地点出土遺物一覧表

番号	遺物名	種類(器形)	法面(cm)	埋蔵層	特徴	色	出土遺物	備考
13	土器器	甕	11世 成往 若高 270	3/4	内：ヘラ割り、回転ナギ 外：ハケ目、回転ナギ	内：Hue SYR5-6 外：Hue SYR5-6	2号火葬墓	焼骨器
	埴忠器	甕	11世 成往 若高 240	側部片	内：タスキ 外：タスキ	内：Hue 25YR7/2 外：Hue 10YR4/2	2号火葬墓	焼骨器（側部片使用） 自然釉あり
14	陶器	杯	11世 成往 若高 190	口縁部分	内： 外：	内：Hue 75YR3/1 外：Hue 75YR3/1	5号窓（Ⅰ区）	
	陶器	すり鉢	11世 成往 若高 190	口縁部分	内：ハケ目、回転ナギ、 削り 外：回転ナギ、削り出し	内：Hue SYR4/2 外：Hue 75YR4/2	5号窓付邊	赤釉
5	瓦器	钵	11世 成往 若高 180	口縁部分	内：回転ナギ 外：回転ナギ、削り	内：Hue 25YR7/1 外：Hue 10YR12/1	5号窓（Ⅰ区）	
6	陶器 (骨壺)	瓶	11世 成往 若高 60	底・側部片	内： 外：	内：白色 外：白色	骨壺 5号窓付邊	白い選石に骨壺で充填
7	陶器 (骨壺)	人形	貝3.5 縦35 厚3.5		内：ナギ 外：ねじ	内：Hue 75YR5/2 外：Hue 5G6/1	5号窓	
8	陶器 (骨壺)	舟形	11世 成往 若高 57	口縁部分	内：ナギ 外：ナギ	内：Hue 25YR7/2 外：Hue 5G7/1	5号窓	
9	陶製品	平皿	貝3.5 縦35 厚3.05		内： 外：	内：Hue 外：Hue	5号窓	重量11kg
10	土器器	甕	11世 成往 若高 55	口縁部分	内：回転ナギ 外：回転ナギ	内：Hue 75YR7/6 外：Hue 10YR8/6	12号窓（Ⅲ区）	
11	埴忠器	环	11世 成往 若高 50	口縁部分	内：回転ナギ 外：回転ナギ	内：Hue SY7/1 外：Hue SY8/1	12号窓（Ⅲ区）	
12	埴忠器	豆	11世 成往 若高 45	側部片	内：回転ナギ、ナギ 外：回転ナギ、削り	内：Hue 10YR7/1 外：Hue SYR4/1	8号窓（Ⅲ区）	
13	埴忠器	甕	11世 成往 若高 9.7	底面のみ	内：回転ナギ 外：ナギ、削り	内：Hue 10YR7/1 外：Hue 75YR8/1	9号窓（Ⅲ区）	外面に自然釉あり
14	埴忠器	环	11世 成往 若高 45	口縁部分	内：回転ナギ 外：回転ナギ	内：Hue N6/0 外：Hue N7/0	9号窓（Ⅲ区）	外面に自然釉あり
15	土器器	环	11世 成往 若高 65	底面片	内：回転ナギ 外：回転ナギ、削り	内：Hue 5YR6/6 外：Hue 5YR6/6	9号窓（Ⅲ区）	
16	土器器	甕	11世 成往 若高 160	口縁部分	内：ナギ、ハケ目 外：ナギ	内：Hue 10YR6/3 外：Hue 10YR6/3	9号窓	
17	土器器	环	11世 成往 若高 55	口縁部分	内：ナギ 外：ナギ、削り	内：Hue 75YR7/3 外：Hue 5YR7/3	11号窓・30号遺構	外面黒色有斑
18	土器器	甕	11世 成往 若高 55	口縁部分	内：回転ナギ 外：回転ナギ	内：Hue 5YR6/4 外：Hue 5YR6/4	11号窓	外表面にスス付着
19	埴忠器	豆	11世 成往 若高 50	口縁部分	内：回転ナギ 外：回転ナギ、削り	内：Hue 10YR5/2 外：Hue 25YR7/3	1号壁穴柱居延東側	
20	土器器	甕	11世 成往 若高 50	側部片	内：回転ナギ、削り 外：回転ナギ、ハケ目	内：Hue 25YR7/2 外：Hue 25YR7/6	1号壁穴柱居延東側	丹焼り
21	土器器	甕	11世 成往 若高 50	口縁部分	内：回転ナギ 外：回転ナギ	内：Hue 75YR5/4 外：Hue	1号壁穴柱居延東側	
22	土器器	甕	11世 成往 若高 50	口縁部分	内：回転ナギ、削り 外：回転ナギ、ハケ目	内：Hue SYR3/1 外：Hue SYR5/3	1号壁穴柱居延東側	内面にスス付着
23	土器器	甕	11世 成往 若高 50	底片	内：削り 外：ナギ	内：Hue 外：Hue	1号壁穴柱居延東側	丹焼り
24	土器器	甕	11世 成往 若高 50	底片	内：削り 外：ナギ	内：Hue 外：Hue	1号壁穴柱居延東側	丹焼り
25	ガラス製品 (ブルー)	玉	貝3.04 縦3.05 厚3.04	丸形	内： 外：	内：Hue 外：Hue	1号壁穴柱居延東側	重量0.1g
26	埴忠器	小豆	11世 成往 若高 50	側部片	内：回転ナギ 外：回転ナギ	内：Hue 75YR5/2 外：Hue 75YR4/2	2号壁穴柱居延東側下	

回	番号	直 物	種類(面積)	直径(cm)	施 作 面	發 現 面	出 土 時 期	備 考	
14	27	ogn器	高 手	口往 底往 厚高	鋸部片	内：田版ナダ 外：田版ナダ	内：Hue 25YR6/2 外：Hue SYR6/2	2号堅穴住居址 P-30 外側に縦状痕あり	
	28	土器	低 手	口往 底往 厚高	口往 底往 厚高	内：田版ナダ, 剥き 外：田版ナダ, 剥り	内：Hue 10R5/6 外：Hue 25YR6/6	2号堅穴住居址	
	29	土器	手 手	口往 底往 厚高	約1/4	内：田版ナダ, 剥き 外：田版ナダ, 剥り, 剥離	内：Hue SYR6/5 外：Hue SYR6/5	2号堅穴住居址 外側にスス付痕・縦状痕あり	
	30	土器	突 手	口往 底往 厚高	口往-削部片	内：田版ナダ, 剥り 外：田版ナダ, ハケ目	内：Hue 10YR5/3 外：Hue SYR6/5	2号堅穴住居址 P-4 F-14 外側にスス付痕	
	31	土器	突 手	口往 底往 厚高	口往-削部片	内：田版ナダ, 剥り 外：田版ナダ, ハケ目	内：Hue SYR6/3 外：Hue SYR6/4	2号堅穴住居址 P-4 F-14 外側にスス付痕 縦状痕あり	
	32	堅器	突 手	口往 底往 厚高	17.5 18.0 31.3	2/3	内：田版ナダ, 剥り, タキ 外：田版ナダ, 剥り, タキ	内：Hue SD4/1 外：Hue SD4/1	2号堅穴住居址 P-2 内側に青苔跡あり
	33	堅器	手 手	口往 底往 厚高	9.2 5.0 2.9	2/3	内：田版ナダ, 剥り 外：田版ナダ, 剥離	内：Hue 7SY5/1 外：Hue 7SY4/1	2号堅穴住居址 P-1 堅底 (E)
	34	堅器	突 手	口往 底往 厚高	口往部片	内：田版ナダ 外：田版ナダ	内：Hue 10Y6/1 外：Hue 7SY6/1	3号堅穴住居址電開辺	
	35	堅器	手?	口往 底往 厚高	口往-削部片	内：田版ナダ 外：田版ナダ	内：Hue 10Y3/1 外：Hue 10Y3/1	3号堅穴住居址	
	36	堅器	手 手	口往 底往 厚高	口往部の1/3	内：田版ナダ 外：田版ナダ	内：Hue 7SYR5/3 外：Hue 10YR5/2	3号堅穴住居址電開辺	
	37	土器	手 手	口往 底往 厚高	12.0	1/2	内：田版ナダ 外：田版ナダ, 剥り	内：Hue SYR3/2 外：Hue 7SYR5/2	3号堅穴住居址 P-4 内側に丹後土か?
	38	土器	手 手	口往 底往 厚高	口往部片	内：田版ナダ, 剥き 外：田版ナダ	内：Hue 10YR5/2 外：Hue 10YR6/2	3号堅穴住居址 P-5 外側黒色斑模	
	39	土器	突 手	口往 底往 厚高	口往部片	内：田版ナダ 外：田版ナダ	内：Hue 10YR6/4 外：Hue 10YR6/4	3号堅穴住居址 P-12	
15	40	石 器	長 石	長 5 幅 7.5 厚 5.5	定 形	内： 外：	灰白色	2号堅穴住居址 天草花石 (粘灰岩)	
	41	石 器	長 石	長 5 幅 2.5 厚 2.1	定 形	内： 外：	白玉風色 (粘灰岩)	2号堅穴住居址 青砂	
	42	堅器	手 手	口往 底往 厚高	6.8	1/6	内：田版ナダ 外：田版ナダ, 剥り	内：Hue SY5/1 外：Hue 10Y4/1	4号堅穴住居址覆土
	43	土器	削底土器?	口往 底往 厚高	17.0	1/4	内：ナダ 外：ナダ	内：Hue 7SYR2/4 外：Hue 7SYR2/4	4号堅穴住居址 H-30
	44	土器	小型丸底土	口往 底往 厚高	9.5 10.2	1/2	内：田版ナダ, 剥り 外：田版ナダ, ハケ目	内：Hue 7SYR2/4 外：Hue 10YR5/4	4号堅穴住居址 H-6 外側にスス付痕 縦状あり
	45	土器	突 手	口往 底往 厚高	21.0	口往-削部片	内：田版ナダ, 剥き, 削り 外：田版ナダ, ハラ骨 ハケ目	内：Hue 7SYR6/4 外：Hue 25YR6/4	4号堅穴住居址 H-3 内側面縁部に丹後土
	46	土器	突 手	口往 底往 厚高	約1/2	内：田版ナダ, 剥り 外：田版ナダ, ハケ目	内：Hue 7SYR5/6 外：Hue SYR5/4	4号堅穴住居址 内外面にスス付痕	
	47	土器	突 手	口往 底往 厚高	18.4	約1/2	内：田版ナダ, 剥り 外：田版ナダ, ハケ目	内：Hue 7SYR6/6 外：Hue 7SYR6/6	4号堅穴住居址 H-13・H-17・H-22・ H-23・H-24・H-25・ H-26・H-27・H-28・ 堅底土層部・堅底
	48	土器	突 手	口往 底往 厚高	9.6	口往部片	内：田版ナダ 外：田版ナダ	内：Hue 7SYR6/4 外：Hue 7SYR6/4	4号堅穴住居址 覆土
	49	土器	突 手	口往 底往 厚高	21.0	口往部片	内：田版ナダ, 剥り 外：田版ナダ, ハケ目	内：Hue 7SYR2/4 外：Hue 7SYR2/4	4号堅穴住居址・覆土 外側にスス付痕
	50	土器	突 手	口往 底往 厚高	22.2	1/6	内：田版ナダ, 剥り 外：田版ナダ, ハケ目	内：Hue 7SYR5/4 外：Hue 7SYR7/4	4号堅穴住居址 H-7 内側面にスス付痕
	51	土器	突 手	口往 底往 厚高	26.2 15.4	1/5	内：田版ナダ, 剥り, ハケ目 外：田版ナダ, ハケ目	内：Hue SYR6/6 外：Hue SYR6/6	4号堅穴住居址 H-3 内外面にスス付痕
	52	土器	突 手	口往 底往 厚高	15.3	約1/3	内：田版ナダ, 剥り 外：田版ナダ, ハケ目	内：Hue 10YR5/3 外：Hue SYR5/4	4号堅穴住居址 H-6
	53	土器	突 手	口往 底往 厚高	16.0	1/6	内：田版ナダ, 剥り 外：田版ナダ, ハケ目	内：Hue 7SYR6/6 外：Hue 7SYR6/4	4号堅穴住居址
16	54	堅器	針	口往 底往 厚高	口往部片	内：田版ナダ 外：田版ナダ	内：Hue 7SY5/1 外：Hue SY4/1	20号造拂	

2. 黒髪田地南地区総合研究新常工事に伴う発掘調査（0204調査地点）

番号	地 物	埋蔵(推測)	深度 (cm)	検 存 部	特 質	色 級	出土遺物	備 注
16	須志器	井	口往 底高 基高 10.8	底部1/2	内：陶輪ナガ 外：陶輪ナガ	内：Hue SY6/1 外：Hue SY6/1	37号道標	
55	須志器	井もしくは便 器	口往 底高 基高 11.2	1/3	内：陶輪ナガ 外：陶輪ナガ、直口	内：Hue SY6/1 外：Hue SY6/1	40号道標	
56	土器器	井	口往 底高 基高 11.2	口縁部分	内：陶輪ナガ 外：陶輪ナガ、直口	内：Hue SYR4/6 外：Hue SYR4/6	82号道標	丹波寺
57	土器器	井	口往 底高 基高 11.2	口縁部分	内：ナガ 外：ナガ	内：Hue SYR6/6 外：Hue SYR6/6	40号道標	外側に墨書き（判読不明）あり
58	土器器	井	口往 底高 基高 11.2	口縁部分	内：ナガ 外：ナガ	内：Hue SYR6/6 外：Hue SYR6/6	P-3001	丹波寺
59	土器器	井	口往 底高 基高 11.2	口縁部分	内：ナガ 外：ナガ	内：Hue SYR6/6 外：Hue SYR6/6	P-3001	丹波寺
60	井 水	宽水道	井身 24 幅 24 厚さ 0.15	1/4	内： 外：	内：Hue 外：Hue	41号道標	重量1.2g 宽水道質
61	井 水	井	井身 4.0 幅 0.9 厚さ 0.35		内： 外：	内：Hue 外：Hue	P-20010	重量3.5g
62	瓦	有目瓦	瓦身 7.9 幅 5.3 厚さ 1.9	板 片	内：本目 外：本目、暗赤	内：Hue 10YR2/1 外：Hue 10YR2/1	板合帯（Ⅲ区）	
63	陶生土器	變形土器	口往 底高 基高	口縁部分	内：ナガ 外：ナガ	内：Hue 7SYR5/3 外：Hue 7SYR5/3	板合帯（Ⅲ区）	
64	陶生土器	變形土器	口往 底高 基高	口縁部分	内：陶輪ナガ 外：	内：Hue 2SYR7/2 外：Hue 2SYR7/2	9号佛（Ⅲ区）	
65	陶生土器	變形土器	口往 底高 基高	口縁部分	内：陶輪ナガ 外：	内：Hue 2SYR6/3 外：Hue 2SYR6/3	9号佛（Ⅲ区）	
66	陶生土器	變形土器	口往 底高 基高	口縁部分	内：ナガ 外：ナガ	内：Hue 2SY7/3 外：Hue 10YR2/2	板合帯（Ⅲ区）	
67	陶生土器	變形土器	口往 底高 基高	口縁部分	内：陶輪ナガ 外：	内：Hue 10YR8/3 外：Hue 2SYR7/3	12号佛（Ⅲ区）	
68	陶生土器	變形土器	口往 底高 基高	口縁部分	内：陶輪ナガ 外：陶輪ナガ	内：Hue 10YR8/4 外：Hue 2SYR6/3	9号佛（Ⅲ区）	
69	陶生土器	變形土器	口往 底高 基高	口縁部分	内：陶輪ナガ 外：陶輪ナガ	内：Hue 2SYR7/4 外：Hue 2SYR7/3	9号佛（Ⅲ区）	
70	褐文土器	深鉢形土器	口往 底高 基高	口縁部分	内：ナガ 外：ナガ、暗赤	内：Hue 2SY7/3 外：Hue 2SY6/3	P-30015	口縁外側に刷毛文あり
71	褐文土器	深鉢形土器	口往 底高 基高	口縁部分	内：ナガ 外：ナガ	内：Hue 2SY6/2 外：Hue 2SY4/2	P-30005	口縁部に刷毛文あり
72	褐文土器	深鉢形土器	口往 底高 基高 11.3	底部1/3	内：ナガ 外：ナガ	内：Hue 10YR8/4 外：Hue 10YR2/3	42号道標	
73	褐文土器	深鉢形土器	口往 底高 基高	底部	内：暗赤 外：暗赤	内：Hue SYR5/4 外：Hue 7SYR4/3	13号佛（Ⅲ区）	
74	褐文土器	深鉢形土器	口往 底高 基高	口縁部分	内：暗赤 外：暗赤？	内：Hue 10YR2/3 外：Hue 10YR2/3	12号佛（Ⅲ区）	内側に墨書きあり
75	褐文土器	深鉢形土器	口往 底高 基高	口縁部分	内：暗赤 外：暗赤	内：Hue 2SY6/3 外：Hue 2SY6/3	碧地山直上	外側に刷毛文あり
76	褐文土器	深鉢形土器	口往 底高 基高	底部	内：暗赤 外：暗赤、ハッカ目 5/3	内：Hue 2SY6/2 外：Hue 10YR 2 5/3	11号佛	
77	褐文土器	深鉢形土器	口往 底高 基高	底部	内：暗赤 外：	内：Hue 2SYR6/2 外：Hue 10YR5/3	11号佛	
78	褐文土器	深鉢形土器	口往 底高 基高	底部	内：ナガ？	内：Hue 10YR8/4 外：Hue 10YR8/4	15号道標	
79	褐文土器	深鉢形土器	口往 底高 基高	底部	内：ナガ 外：ナガ	内：Hue 2SY6/3 外：Hue 2SY7/4	板合帯（Ⅲ区）	
80	褐文土器	深鉢形土器	口往 底高 基高	底部	内：ナガ 外：ナガ	内：Hue 2SY6/3 外：Hue 2SY4/3	P-30015	
81	褐文土器	深鉢形土器	口往 底高 基高	底部	内：ナガ？ 外：	内：Hue 2SYR4/2 外：Hue 10YR4/2	9号佛（Ⅲ区）	
82	褐文土器	深鉢形土器	口往 底高 基高	底部	内：ナガ 外：	内：Hue 2SY5/2 外：Hue 2SY5/2	20号道標（Ⅲ区）	外側にスス付着
83	褐文土器	深鉢形土器	口往 底高 基高	底部	内：ナガ 外：	内：Hue 10YR2/4 外：Hue SY5/2	9号佛（Ⅱ区）	

回	番号	地 物	種類(経因)	法長(cm)	規 定 目	特 訴	色	出 土 時	備 考
16	84	純文土器	深鉢形土器 直径 底面 唇部		頭部片	内：縫き 外：	内：Hue 2SYR6/3 外：Hue 2SY2/1	8号房(Ⅱ区)	底面か?
	85	純文土器	深鉢形土器 直径 底面 唇部		-口縁部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 2.5YR6/2 外：Hue 2.5Y2/2	西组合場(Ⅰ区)	
	86	純文土器	深鉢形土器 直径 底面 唇部		口縁部片	内：縫き 外：縫き?	内：Hue 2.5YR2/2 外：Hue 2.5Y2/3	13号房(Ⅲ区)	
	87	純文土器	深鉢形土器 直径 底面 唇部		頭部片	内：縫き 外：縫き	内：Hue 2.5Y7/4 外：Hue 2.5YR5/4	佐合場(Ⅰ区)	
	88	純文土器	深鉢形土器 直径 底面 唇部		頭部片	内：ナデ 外：ナデ、縫き	内：Hue 2.5Y6/3 外：Hue 2.5Y6/4	底盤(Ⅱ区)	
	89	純文土器	深鉢形土器 直径 底面 唇部		口縁部片	内：縫き 外：縫き?	内：Hue 2.5YR5/4 外：Hue 2.5YR5/3	9号壁穴住居址	外側スズ行君か? 沈敷枚あり
	90	純文土器	深鉢形土器 直径 底面 唇部		頭部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 2.5YR6/3 外：Hue 2.5Y3/1	佐合場(Ⅰ区)	
	91	純文土器	深鉢形土器? 直径 底面 唇部		頭部下半	内：縫き 外：	内：Hue 2.5Y2/4 外：Hue 2.5Y2/4	11号房	
	92	純文土器	深鉢形土器 直径 底面 唇部	96	底部片	内：ナデ、縫き 外：ナデ、縫き	内：Hue 2.5Y7/4 外：Hue 2.5Y2/4	P-30008	
	93	純文土器	深鉢形土器 直径 底面 唇部	56	底部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 2.5Y6/4 外：Hue 2.5YR5/4	佐合場(Ⅰ区)	
	94	石 砕	網 片	長さ 21 幅 22 厚さ 0.65	完 形	内： 外：	黒色	佐合場	重量1kg 黒曜石
	95	石 砕	使用感のある網片	長さ 25 幅 20 厚さ 0.65	完 形	内： 外：	黒色	佐合場	重量2kg 黒曜石
	96	石 砕	網状の ある網片	長さ 165 幅 135 厚さ 0.45	完 形	内： 外：	黒色	佐合場	重量2.1kg 黒曜石
	97	石 砕	網 片	長さ 17 幅 17 厚さ 0.35	完 形	内： 外：	黒色	佐合場	重量0.4kg 黒曜石
	98	石 砕	小網片	長さ 135 幅 13 厚さ 0.35	完 形	内： 外：	黒色	佐合場	重量0.5kg 黒曜石
	99	石 砕	網 片	長さ 33 幅 41 厚さ 1.3	完 形	内： 外：	青緑色	佐合場	重量17kg
	100	石 片	墨部石片	長さ 0.75 幅 0.55 厚さ 0.25	完 形	内： 外：	緑色	佐合場	重量0.1kg クロム斑岩

3. 黒髪団地南地区総合研究棟新営に伴う樹木移植工事に伴う発掘調査（0206調査地点）

（1）調査の目的と経過

a. 調査地と調査経緯

本調査地点は工学部・理学部が所在する黒髪南地区の西端中ほどに位置する。工学部研究棟II-2の北西隅に位置する。南東側に隣接する9704調査地点（工学部研究棟II-2敷地 熊本大学構内遺跡発掘調査報告Ⅳ）では壺棺墓群が確認され、また南地区北西隅の市側の市道付近においても過去に壺棺墓が発見されている。9603調査地点では古代および近世の遺構・墓地が調査されており、本調査地点一帯は、弥生時代から近世にかけての遺跡が密集する範囲である。

本地点の調査は、黒髪団地南地区統合研究棟を建設するにあたり、建設予定地（0204調査地点 本書）内にあり支障となる樹木の移植先である。本地点は小さな建物（倉庫）の跡地のため搅乱を受けていると予想された。重機による掘削をしたところ、旧建物の基礎などを除去した後、地表下25mで遺構面（地山）を検出したため、調査を実施した。また、移植元である樹木周囲についても、掘削範囲内から古代の遺物包含層及び遺構が検出されたが、0204調査地点内であるので、移植元の調査については、まとめて概要を記す。

b. 調査の経過

移植先 2002年5月20日 一次掘削開始、作業員による作業開始。

5月21日 遺構掘削、遺物検出と記録（全体写真）、測量。

5月22日 測量。調査終了。

移植元 2002年5月24日 深さ確認のための掘削立会。

5月27日 作業員による作業開始。遺構掘削、遺物検出。

5月28日 遺構掘削、遺物検出と記録（全体写真）、測量。

5月29日 測量。調査終了。

c. 調査の組織

調査員：小畠弘己・大坪志子

事務担当：坂元紀乃

発掘作業員：岡田イツ代・黒木重信・黒木タケ子・白石美智子・瀧潤俊子・早田咲百合・

番山明子・福田久美子・堀川貞子・水上順子・宮村邦子・森川征子・森川謙・森田登

整理作業員：井上裕美・江口路・鬼塚美枝・小山正子・古賀敬子・首藤優子・末吉美紀・

瀧潤俊子・林田恵子・早田咲百合・増井弘子・山㟢早苗

（2）調査区の基本層序（図17）

表土のすぐ下は旧建物による搅乱層、その下は1層、2層となる。1層は現代の埋土層、2層は昭和28年の洪水による砂の堆積層である。鉱物の沈殿層とそれらに挟まれた4層（5層上面）は旧運動場面で、北に位置する特高受電棟建設に伴う調査時にも（0102調査地点）、地表下2mで埴塗跡を検出している。9704調査地点では、4層を洪水砂（2層）が直接被覆しており、3層は運動場を造成しなおした際の客土と考えられる。5・6層は近世末の耕作土、7・8層は同時期の古代の遺構埋土

と思われる。

(3) 検出遺構（図17）

本調査地点では、古代の遺構が形成される柔らかい地山層は削平されており、近世耕作土を除去すると、地山層下の砂岩ブロック状の硬い基盤層が検出された。この基盤層は西側に向かって緩やかに傾斜していた。この傾斜面に沿うように、幅1.5m、深さ0.2~0.5m程度の浅い溝状の窪みがあり、そこから成人用壺棺の破片が出土した。溝状の窪みが墓壙であるかは不明である。破片は、口縁がやや散乱し向きもばらばらである。層序の観察からは5・6層が乱れのない水平堆積をしており、この5・6層の造成の際に墓壙と壺棺は破壊されたと考えられ、破片はその際に動かされ、或いは亂雑に集めて埋められた可能性がある。

(4) 出土遺物（図17）

壺の破片を復元した結果、底部を欠くがほぼ縦に半裁した形状になった。凸帯は口縁下には付けず、やや低い位置に断面三角形の凸帯2条が廻ると考えられる。口縁は丸味を帯びたT字形を呈し、やや外側に低く傾斜する。焼成は堅緻で器壁が薄い。これらの特徴から、壺棺は横口編年のK II c式（汲田式）である。2の蓋は直線的でふくらみをもたない円錐形である。3は小型と考えられる壺棺の口縁部である。

(5)まとめ

まず、移植元について概要を記す。位置は0204調査地点の南半、やや東寄りに位置する。共同溝の基礎壁にあつたため、樹木の周囲をドーナツ状に、直径約5mの半円状に掘削した。掘削した結果、0204調査地点で検出された、10号溝が樹木の根の部分以外で検出され、ほかピットが検出された。出土遺物は、土師器片・須恵器片である。

移植先である本調査地点で検出された壺棺は、9704調査地点で確認された壺棺墓群の列の延長上に位置しており、同じ墓域を形成した壺棺であると考えられる。9704調査地点で検出された壺棺は、弥生時代中期後半のK III a式（須玖式）と黒髮式である。本調査地点の壺棺は、弥生時代中期前半のK II c式（汲田式）であることから、本調査地点の壺棺のほうが1型式古い。

検出状況についてであるが、同じ運動場造成範囲にありながら、9704調査地点の壺棺は破壊を免れたものもあり、受けた破壊の程度には大きな差がある。本調査地点では、壺棺片は標高16.10~15.60mの間で検出された。最も深い地点を壺棺の墓壙底部付近とし、9704調査地点の墓壙構造を参考すると16.80m程が墓壙の掘り方であったと考えられる。9704調査地点では、最も深い墓壙の掘り方は標高14.00m、他も15.20mほどまで深く掘削されている。本地点と同じ深さの壺棺は、本地点同様に全壙に近い状態まで破壊されている。しかし、一方では標高16.40mでも、壺棺を斜位に設置する際に最初に掘削される長方形土壤から残されたものもある。土層を確認すると、本調査地点では、標高16.30m前後にまで、運動場造成前の地山削平が及んでいる。9704地点では、調査区西北部は同様の深さまで削平されているが、約10m南東側では、標高17.20m程度までしか、造成による破壊が及んでいない。

9704調査地点の壺棺群の深さと位置関係を整理すると、本調査地点に近いものは、墓壙の掘り方がやや浅かったことと、運動場造成前に行われたと考えられる地山の削平が深く及んだことで壊滅的な破壊を受けた。南東側に位置した壺棺は地中深くに設置されたことと、地山の削平が南になるにつれ

3. 黒髪团地南地区総合研究棟新常に伴う樹木移植工事に伴う発掘調査 (0206調査地点)

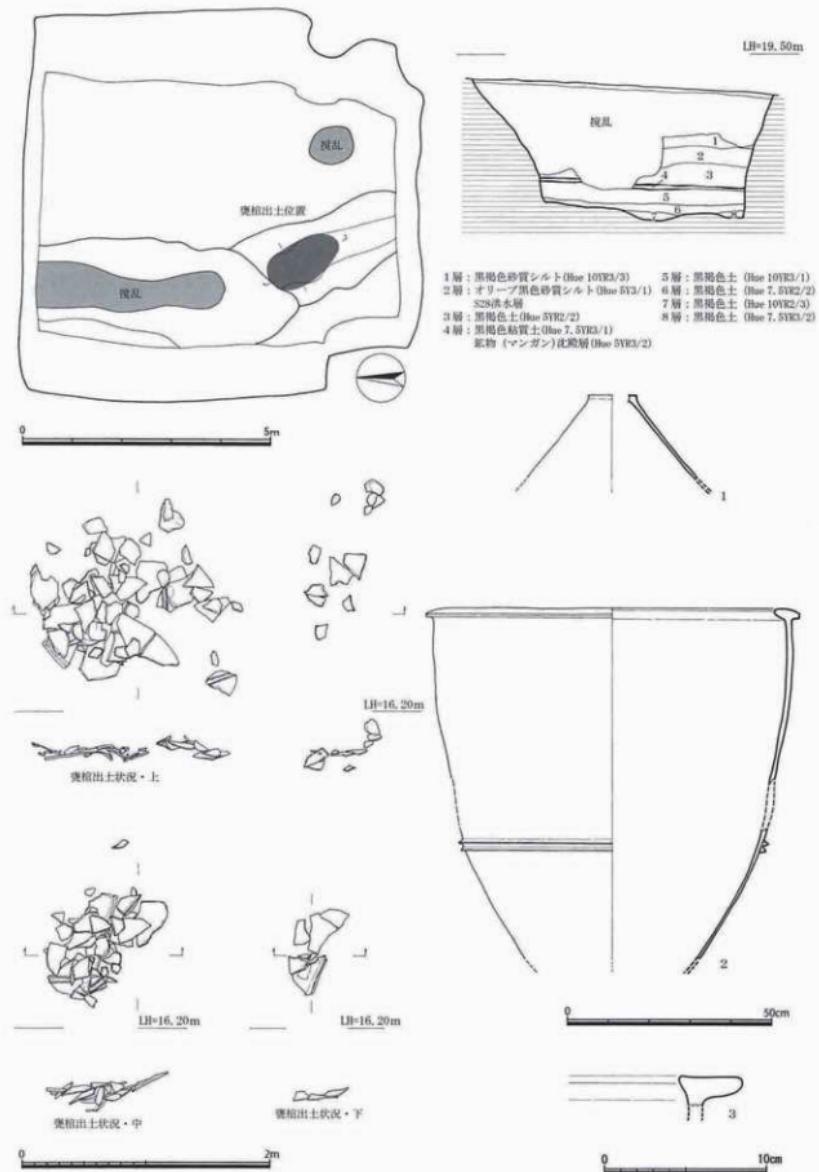


図17 0206調査地点遺構配置図・南壁土層断面実測図・遺物出土状況・出土遺物実測図 (1/100・1/40・1/12・1/3)

浅くなったことにより、破壊の程度が軽くなった。壺棺の遺存状況の差は、墓壙の掘削の深さと後世に行われた土地改造の条件の差といえる。

以上、本調査地点で古い壺棺が検出されたことと、墓壙掘削の深さの違いから、一連の壺棺墓域について北側から形成が開始され、南西側に展開していくと考えらえることと、次第に墓壙を深く掘削し壺棺を埋設するようになったと考えられる、という新たな知見を得る成果となった。

表5 0206調査地点出土遺物一覧表

図	番号	造 物	種類(断面)	法寸 (cm)	発 察 盆	特 徴	色 調	出土遺物	備 考
17	1	陶生土器	壺の蓋	口径 底径 高さ 壁厚	11.7	泥芯-銅部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Huue 25YR6/4 外:Huue 25YR6/4	壺中・No1・No13・No 15・No16・一括・鐵 瓶
	2	陶生土器	壺 棚	口径 底径 高さ	9.0	1/3	内:ナデ 外:ナデ	内:Huue 25YR6/6 外:Huue 25YR6/4	壺中・No23・No24・ No80・No89・鐵 壺棚 (下段)
	3	陶生土器	壺	口径 底径 壁厚		口縁 銅部 芯	内:凹輪ナデ 外:凹輪ナデ	内:Huue 10YR6/3 外:Huue 10YR7/4	西端且

4. 黒髪団地南地区工学部樹木移植工事に伴う発掘調査（0210調査地点）

（1） 調査の目的と経過

a. 調査地と調査経緯

黒髪団地南地区総合研究棟（0204調査地点）の建設に伴い新設する共同溝の設置、および道路敷設予定箇所に植栽されている樹木を移植する必要が生じた。移植先の候補地として工学部1号館と工学部研究棟Iの間の緑地帯、および工学部研究資料館南側の緑地帯が挙げられた。周辺での既往調査により遺物包含層および遺構の存在が予想されたため、移植工事に先だって2002年10月よりおよそ3日間移植地の発掘調査を実施した。コンクリート基礎が出たために移植不能と判明したトレンチについては、近くに新たなトレンチを設定し、11月中旬に調査を実施した。

樹木移植予定地のうち遺物包含層に達する深さ80cm以上のものを選択し、計21箇所のトレンチを設定し、調査を実施した。トレンチの配置は工学部1号館南・東側で15箇所、工学部研究棟（I）西側で4箇所、工学部研究資料館南側で2箇所であった。工学部1号館南・東側のトレンチ（1～15）はすべて擾乱されており、遺構は検出していない。工学部研究棟（I）西側では4個のトレンチ（16～19）を設定したが、2つのトレンチ（17・19）において包含層・遺構面を確認した。また、工学部研究資料館南側では、古代遺構と縄文時代の遺物包含層を確認できた（トレンチ20・21）。

b. 調査の経過

2002年10月1日 挖削開始、1～15トレンチ。作業員による作業開始。

10月2日 16～21トレンチ掘削、遺構掘削、遺物検出と記録（全体写真）、測量。

10月3日 遺物検出と記録（全体写真）、測量。調査終了。

11月18日 18トレンチ再掘削、調査終了。

c. 調査の組織

調査員：小畠弘己・大坪志子

事務担当：坂元紀乃

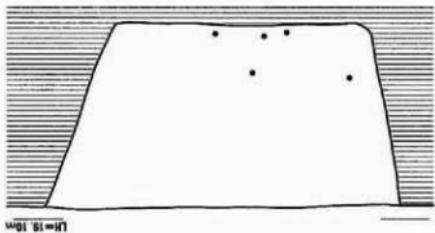
発掘作業員：伊藤千代子・岡田イツ代・押方富江・河野義勝・白石美智子・高松北子・田口伸也・瀬潤俊子・野口春美・林田恵子・早田咲百合・福田久美子・堀川貞子・松井昭子・水上順子・宮村邦子・森川征子・森川謙・森田登・森田みどり

整理作業員：井上裕美・江口路・鬼塚美枝・小山正子・古賀敬子・首藤優子・末吉美紀・瀬潤俊子・林田恵子・早田咲百合・増井弘子・山喜早苗

（2） 調査区の基本層序（図18・19）

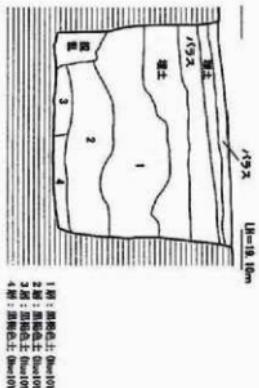
本調査地点一帯の基本層序は、上部に厚さ80cmあまりの表土および埋土が堆積しており、その下部に近代の遺物包含層（畑地）である黒褐色土層（1層：7.5YR3/2～10YR3/2）が30～40cmあまり堆積している。その下に、やや黒味の強い古代遺物包含層である黒褐色土層（2層：7.5YR2/2～10YR2/2）が厚さ30cmあまり堆積し、その下部は基盤層としている暗褐色土層（3層：7.5YR3/2）へと連なる。2層は古代の遺物包含層であるが、既往の調査成果から下位（地山土層との漸移層部分）には縄文時代後晩期の遺物を含むことが判明している。また、0203調査地点においては地点により3層には縄文時代早期～後期の遺物が含まれることも判明している。

トレンチ17



II 黒髪南地区の調査

トレンチ19



0 2m

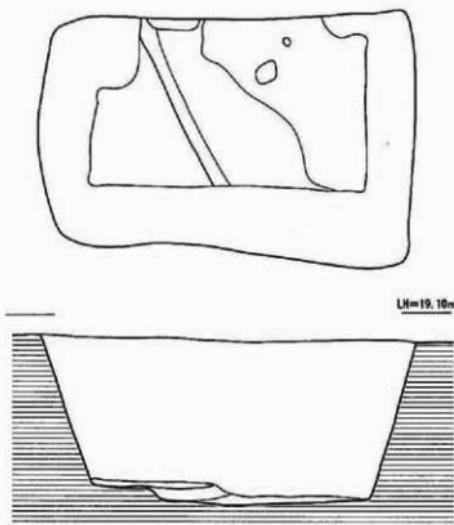
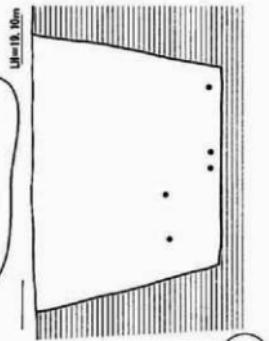
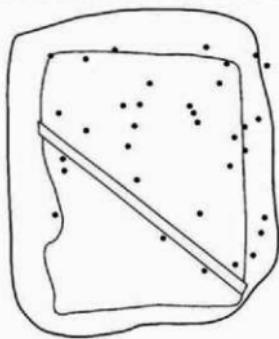


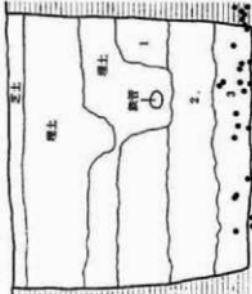
図18 0210調査地点トレンチ17・19遺物出土状況実測図 (1/40)

4. 黒髪団地南地区工学部樹木移植工事に伴う発掘調査 (0210調査地点)

トレンチ20

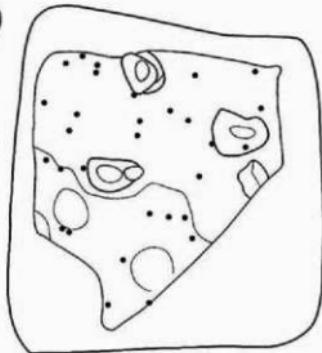


LB=19.20m

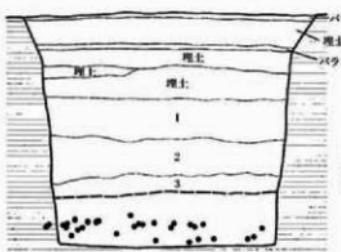
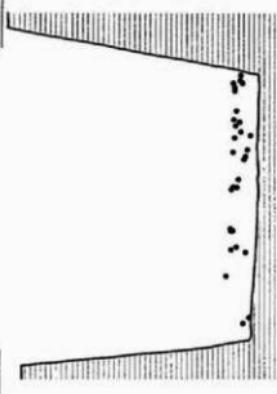


- 1層：黒褐色土 (Bur 7.5YR3/2)
- 2層：暗褐色土 (Bur 7.5YR2/4)
- 3層：暗褐色土 (Bur 7.5YR2/4)

トレンチ21



LB=19.20m



- 1層：黒褐色土 (Bur 7.5YR3/2)
- 2層：黒褐色土 (Bur 7.5YR2/2)
- 3層：暗褐色土 (Bur 7.5YR3/4)

0 2m

図19 0210調査地点トレンチ20・21遺物出土状況実測図 (1/40)

(3) 検出遺構 (図18・19)

<トレンチ17>

トレンチ17は、工学部研究棟Iの西側のⅢ区に位置し、北から2つ目のトレンチである。遺構は検出していないが、古代および縄文時代の遺物包含層を確認した。それ故に慎重に掘削した結果、古代の遺物包含層から須恵器壺片（図20：22・23・24）、地山土層から縄文土器片（同4・7・12）を検出した。

<トレンチ19>

トレンチ19はⅢ区に位置する、最も南のトレンチである。本トレンチでは、古代の堅穴住居址の一剖と思われる遺構を確認した。住居の立ちあがりと硬化面を検出した。黒斐南地区における既往の調査では、古代の住居址は主軸が北から若干西に傾くことが判明しており、この住居址も同様に古代の住居址で、南壁に相当する部分を検出したと考えられる。出土遺物には須恵器壺の口縁部片（図20：22）などがある。

<トレンチ20>

トレンチ20は、工学部資料館の南側のIV区に位置し、東側のトレンチである。古代の堅穴住居址の床と思われる硬化面を確認し、さらに掘削をおこなった。すると、地山土層から縄文土器片（図20：5・6）や石器（黒曜石剝片）などが出土した（図20：25～31・33）。地山土層は、遺物が検出されなくなるまで、遺物取り上げと振り下げを繰り返した。

<トレンチ21>

トレンチ21は、トレンチ20の西側に位置する。古代の遺物包含層を振り下げ、地山土層を0.3mほど掘削すると縄文時代の土器・石器約30点が出土した（図20：8～17・32）。地山土層は、遺物が検出されなくなるまで、遺物取り上げと振り下げを繰り返した。

(4) 出土遺物 (図20)

図20：1～20は縄文土器である。1・2は、器面は内外面ともに丁寧に磨いている。3も外面面は磨いており、内面は丁寧にナデにより平滑に仕上げている。4・19は同一個体で、外表面は丁寧に磨き、内面はナデで平滑に仕上げている。7は、1～3と同じく、外表面は磨いており、内面はナデにより平滑に仕上げている。5は底部である。底面は条痕があり、凹凸がある。6は、内外面ともに貝殻条痕があり、春日式の胴部の可能性がある。8も、外表面は貝殻条痕がある。器面は凹凸がある。内面はナデにより平滑に仕上げている。9は山形状になった中期中葉の春日式の口縁部である。胎土に滑石が混入しており、脂質光沢がある。表面には細かい押引文が施されている。10は、外表面には小さな点列による文様らしきものがあるが、明瞭ではない。表面は非常に荒れている。内面は平滑にナデされている。11は、外表面は貝殻条痕、内面も貝殻条痕がある。12の外表面は粗いナデ、内面は外表面に比べ平滑にナデされている。14も春日式、13も春日式の可能性が高い。15は、外表面はナデしており小さな凹凸がある。内面は貝殻条痕がある。16は、内外面ともにナデによる調整である。17は粗い条痕による調整で、器壁が1cmをこえ非常に厚い。珪灰鉄鉱が胎土中に入っており、押型文以前の早期前半の土器である。18は、内外面ともに磨いている。4・19と良く似ている。20は内外面ともにナデしている。以上の土器のなかで、貝殻条痕により器表面を調整しているものは、春日式と考えられ、ほかの磨きやナデによる調整のものは、後晩期の土器と思われる。

21～24は須恵器である。21は長頸壺の頭部、22は壺の口縁部である。連続する山形のヘラ記号がある。23・24は壺の口縁・頸部である。24は外表面に自然釉が全面にかかっている。22は6世紀後半、

4. 黒髪団地南地区工学部樹木移植工事に伴う発掘調査 (0210調査地点)

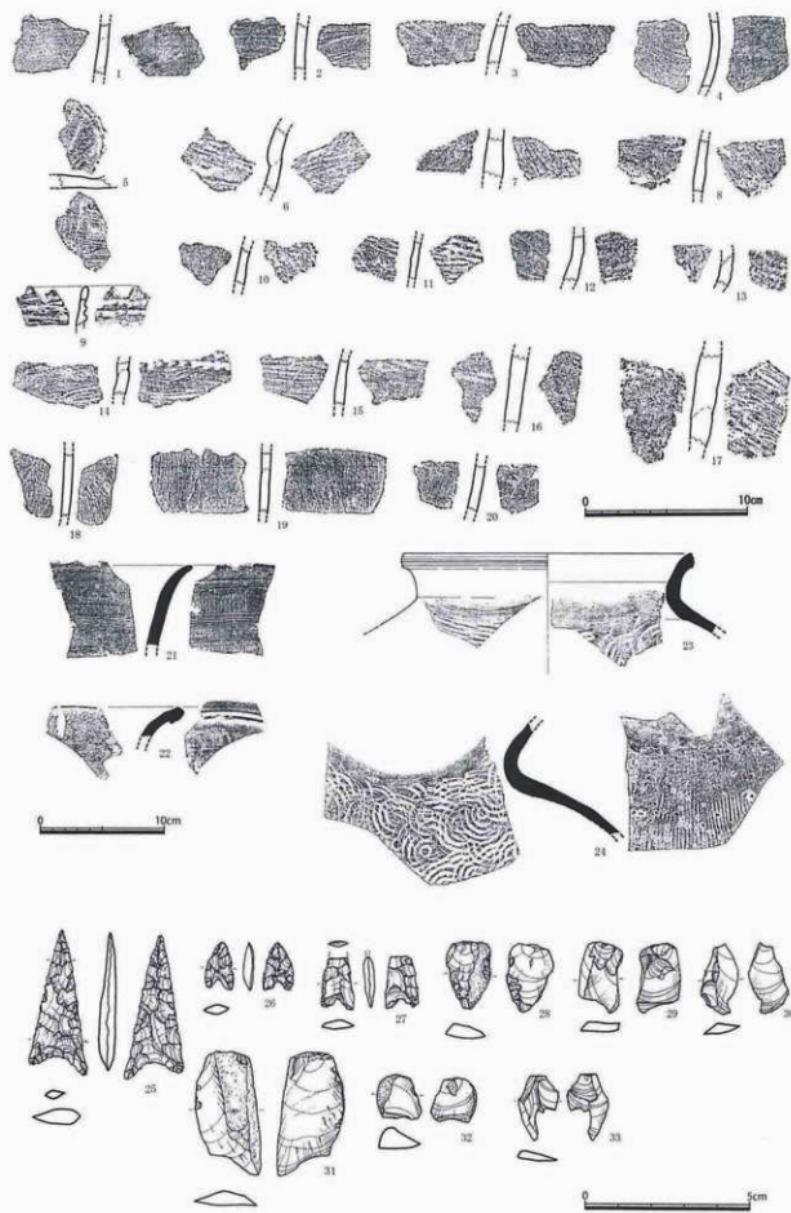


図20 0210調査地点出土遺物実測図 (1/3・1/4・2/3)

23・24は8世紀後半と考えられる。

25~33は石器である。25~27は打製石器、28~33は剥片である。

(5)まとめ

全部で21箇所のトレンチを設置し、その中の4つのトレンチで遺構や遺物を確認できた。トレンチが大きく4地点に分かれたことで、試掘調査と同様の成果を得た。17・19トレンチは、土製印が出土した9412調査地点（現工学部研究棟Ⅰ：熊本大学構内遺跡発掘調査報告Ⅰ）の西側に位置し、古代の遺跡がさらに西側に広がることが確認できた。トレンチ20・21では、工学部資料館南側の緑地帯一帯が、搅乱などを受けずに良好な状態で遺跡が保存されていることが確認できた。本地点では、地山土層の上位に縄文時代の遺物が含まれることが確認できた。出土状態から、縄文時代の包含層として良いであろう。先に報告した0302調査地点は、本地点の成果を受けて調査を実施した。その結果、縄文時代の早期から後期に至るまでの土器・石器が多量に出土した。1112調査地点（熊本大学構内遺跡発掘調査報告Ⅸ）のうち、工学部資料館南側の緑地帯における掘削では、僅少ながら黒曜石の剥片が出土した。その他、近隣の調査において、地山土層から縄文時代の遺物が出土する事例はなく、現況では0302調査地点および本調査地点トレンチ20・21周辺において、地山土層に縄文時代の遺物が含まれると考えられる。しかし、今回の地点は、出土した土器は春日式が多く、そのた後晩期のものがあるが、0302調査地点のような、時期幅はない。そうすると、縄文時代の遺物出土地点は時期ごとに小規模な範囲で変わる可能性がある。狭い調査範囲であっても、このように各地点を精密に調査する通常は地山土層上面までを調査対象としており、以下の掘削は行っていない。今後は各地点において確認作業を行う必要があろう。

4. 黒髪山地南地区工学部樹木移植工事に伴う発掘調査 (0210調査地点)

表6 0210調査地点出土遺物一覧表

調査番号	遺物名	埋蔵形態	深度(cm)	発見場所	特徴	色・圖	出土状況	備考
20	陶文土器	深鉢形土器	110 115 120	側面部	内: 磁器 外: 磁器	内: Huc 25Y6/2 外: Huc 10T87/3	トレンチ14 混合層3周	
2	陶文土器	深鉢形土器	115 120 125	側面部	内: 磁器 外: 磁器	内: Huc 10T84/1 外: Huc 10T84/2	トレンチ16	
3	陶文土器	深鉢形土器	110 115 120	側面部	内: ナデ 外: 磁器	内: Huc 25Y7/4 外: Huc 25Y5/1	トレンチ16	
4	陶文土器	深鉢形土器	110 115 120	側面部	内: 磁器 外: 磁器	内: Huc 10T84/3 外: Huc 25Y8/3	トレンチ17 混合層3周	
5	陶文土器	深鉢形土器	110 115 120	底面部	内: ナデ 外: 磁器	内: Huc 25Y3/1 外: Huc 25Y4/1	トレンチ20 H3・ 30665	
6	陶文土器	深鉢形土器	110 115 120	側面部	内: 磁器 外: 磁器	内: Huc 10T84/4 外: Huc 75YRA/2	トレンチ20 P-2・ 20366	
7	陶文土器	深鉢形土器	110 115 120	側面部	内: 磁器 外: 磁器	内: Huc 10T84/4 外: Huc 25Y3/2	トレンチ17 30665	
8	陶文土器	深鉢形土器	110 115 120	側面部	内: ナデ 外: 磁器	内: Huc 25Y6/2 外: Huc 10T84/2	トレンチ21 H3上・ 30547	外面にスス付着
9	陶文土器	浅鉢形土器	110 115 120	口縁部分	内: ナデ 外: ナデ	内: Huc 10T84/4 外: Huc 10T84/2	トレンチ21 H3下・ 30567	外面に押捺文あり
10	陶文土器	深鉢形土器	110 115 120	側面部	内: ナデ 外: ナデ	内: Huc 10T84/2 外: Huc 10T84/3	トレンチ21 H3下・ 30566	
11	陶文土器	深鉢形土器	110 115 120	側面部	内: ナデ 外: ナデ	内: Huc 10T82/3 外: Huc 10T82/4	トレンチ21 混合層	外面に墨模文あり
12	陶文土器	深鉢形土器	110 115 120	側面部	内: ナデ 外: ナデ	内: Huc 25Y3/1 外: Huc 25Y3/1	トレンチ21 30566	外面にスス付着
13	陶文土器	深鉢形土器	110 115 120	側面部	内: ナデ 外: ナデ	内: Huc 10T84/2 外: Huc 10T84/2	トレンチ21 H3下・ 30542	外面に、刺突・爪痕文あり
14	陶文土器	深鉢形土器	110 115 120	側面部	内: ナデ 外: ナデ	内: Huc 10T82/2 外: Huc 10T82/2	トレンチ21 混合層	外面に墨模文と竹管文あり 外面にスス付着
15	陶文土器	深鉢形土器	110 115 120	側面部	内: ナデ 外: ナデ	内: Huc 10T82/4 外: Huc 10T82/4	トレンチ21 H3上・ 30554	
16	陶文土器	深鉢形土器	110 115 120	側面部	内: ナデ 外: ナデ	内: Huc 75Y8/1 外: Huc 10T82/2	トレンチ21 混合層3周	
17	陶文土器	深鉢形土器	110 115 120	側面部	内: ナデ 外: ナデ	内: Huc 8Y87/2 外: Huc 75Y8/4	トレンチ21 H3下・ 30543	外面に墨模文あり
18	陶文土器	浅鉢形土器	110 115 120	側面部	内: 磁器 外: 磁器	内: Huc 10T85/3 外: Huc 8Y87/3	トレンチ21 H3下・ 30543	
19	陶文土器	浅鉢形土器	110 115 120	側面部	内: ナデ 外: ナデ	内: Huc 10T85/2 外: Huc 75Y8/3	トレンチ17 混合層3周	
20	陶文土器	浅鉢形土器	110 115 120	側面部	内: ナデ 外: ナデ	内: Huc 10T85/4 外: Huc 10T85/4		
21	須恵器	壺	110 115 120	口縁部分	内: 回転ナデ 外: ナデ	内: Huc 25Y5/2 外: Huc 10T85/2	トレンチ19 3周中心	外面に自然転あり
22	須恵器	壺	110 115 120	口縁部分	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、削り	内: Huc 10T82/1 外: Huc 10T82/2	トレンチ17 混合層3周	
23	須恵器	壺	23.4	口縁部分	内: 回転ナデ、タキヨ 外: 回転ナデ、タキヨ	内: Huc 10T82/1 外: Huc 10T82/2	トレンチ17 30568	
24	須恵器	壺	110 115 120	側面部～側面部	内: 回転ナデ、タキヨ 外: 回転ナデ、タキヨ	内: Huc 8G17/1 外: Huc 10T84/1	トレンチ17 30569	外面に自然転あり
25	石器	石核	4.4 1.85 厚さ 0.85	定 形	内: 外:	内: Huc 外: Huc	トレンチ20 H3上・ 30560	重量0.9kg 安山岩
26	石器	石核	長さ5.55 幅2.8 厚さ0.3	定 形	内: 外:	内: Huc 外: Huc	トレンチ20 S-7・ 30565	重量0.3kg 30565
27	石器	石核	長さ5.6 幅2.0 厚さ0.33	2/3	内: 外:	内: Huc 外: Huc	トレンチ20 S-2・ 30561	重量0.5kg 安山岩
28	石器	石片	長さ5.21 幅2.0 厚さ0.45	2/3	内: 外:	内: Huc 外: Huc	トレンチ20 S-2・ 30560	重量1.2kg 30560
29	石器	石片	長さ5.22 幅2.14 厚さ0.65	2/3	内: 外:	内: Huc 外: Huc	トレンチ20 S-2・ 30561	重量1.2kg 30561
30	石器	石片	長さ5.235 幅2.115 厚さ0.35	2/3	内: 外:	内: Huc 外: Huc	トレンチ20 S-2・ 30562	重量0.9kg 30562
31	石器	石片	長さ5.38 幅2.06 厚さ0.6	2/3	内: 外:	内: Huc 外: Huc	トレンチ20 S-2・ 30563	重量2.0kg 30563
32	石器	石片	長さ5.136 幅2.14 厚さ0.65	2/3	内: 外:	内: Huc 外: Huc	トレンチ21・ 30561	重量1.1kg 30561
33	石器	石片	長さ5.28 幅2.125 厚さ0.3	2/3	内: 外:	内: Huc 外: Huc	トレンチ20・ 30569	重量0.9kg 30569

III 本荘北地区の調査

1. (医病) 病棟(軸) 新営工事に伴う発掘調査 (9901調査地点)

(1) 調査の目的と経過

a. 調査地と調査経緯

本荘北地区に所在する本庄遺跡は、熊本市遺跡地図No.8-95の熊大病院敷地遺跡として周知されている遺跡である。阿蘇に発する白川は、中流域で河岸段丘を発達させながら熊本大学黒髪地区付近で蛇行したあと穂やかな流れとなって下流へ下る。本遺跡はその中流から下流へさしかかる地点であり、白川左岸に形成された自然堤防上（標高14m）に位置している。

本荘北地区において実施された大学病院薬剤部注射患者毎セット支給室等取設工事に伴う発掘調査（9807調査地点）では、7世紀後半から9世紀初頭にかけての堅穴住居址や掘立柱建物が検出された（熊本大学構内遺跡発掘調査報告V）。また1996年に行われた医学部校舎建設工事に伴う発掘調査（9601調査地点）では8世紀～9世紀の古代の集落址が調査され、その際「田井」「竹本寺」などのヘラ書きや墨書きをもつ土器が大量に出土した。また古墳時代前期の住居址が、付近一帯としては初めて確認され、古墳時代から古代にかけての複合的な遺跡の広がりを示している（熊本大学構内遺跡発掘調査報告IV）。これらの出土遺物と類似した「田井」のヘラ書き土器が出土している大江遺跡群や新屋敷遺跡といった奈良・平安時代の集落址が、本遺跡の上流に控えている。

本事業は、平成10年の年度当初計画にあげられていた事業である。8月中旬に施設部より発掘調査の依頼があった。調査期間を積算したところ半年以上かかることになり、調査員二人で調査に当たることとした。諸手続き・準備を終えた後、年内に調査を開始した場合、1・2月の年報作成期間に調査を一時中断せねばならないため3月から調査に入ることになった。ところが、年度末に補正予算によって年報作成期間にもかかわらず理学部自然科学等総合実験棟の新営工事に係る発掘調査（9810調査地点、熊本大学構内遺跡発掘調査報告V）を優先して行わねばならないことになり、3月からの本事業の調査には二体制では臨めない状況となった。このため施設部と協議を重ね、12月～1月の間に調査予定地内の支障配管切替工事を先行して行い（熊本大学埋蔵文化財調査室年報5）、理学部の調査の終了を待って4月から本調査に入ることになった。調査は、廃土処理等の都合から調査区をI区（東側）とII区（西側）に2分割し、I区から調査を行った。

b. 調査の経過

- 1999年4月5日 I区（東側）発掘調査開始。重機による搅乱除去、働き取り。作業員投入。
- 1999年6月15日 I区全体写真撮影。残りの図面・写真・測量。
- 1999年6月21日 I区 調査終了。うって返し。
- 1999年7月5日 II区（西側）調査開始。
- 1999年7月23日 掘立柱建物群、写真撮影。古代包含層掘削、遺構検出、掘削。
- 1999年8月27日 II区全体写真撮影。残りの図面・写真・測量。
- 1999年8月30日 現場説明会開催。
- 1999年9月2日 発掘調査終了。

1. (医病) 病院(施設) 新設工事に伴う発掘調査 (9901調査地/Ⅰ)

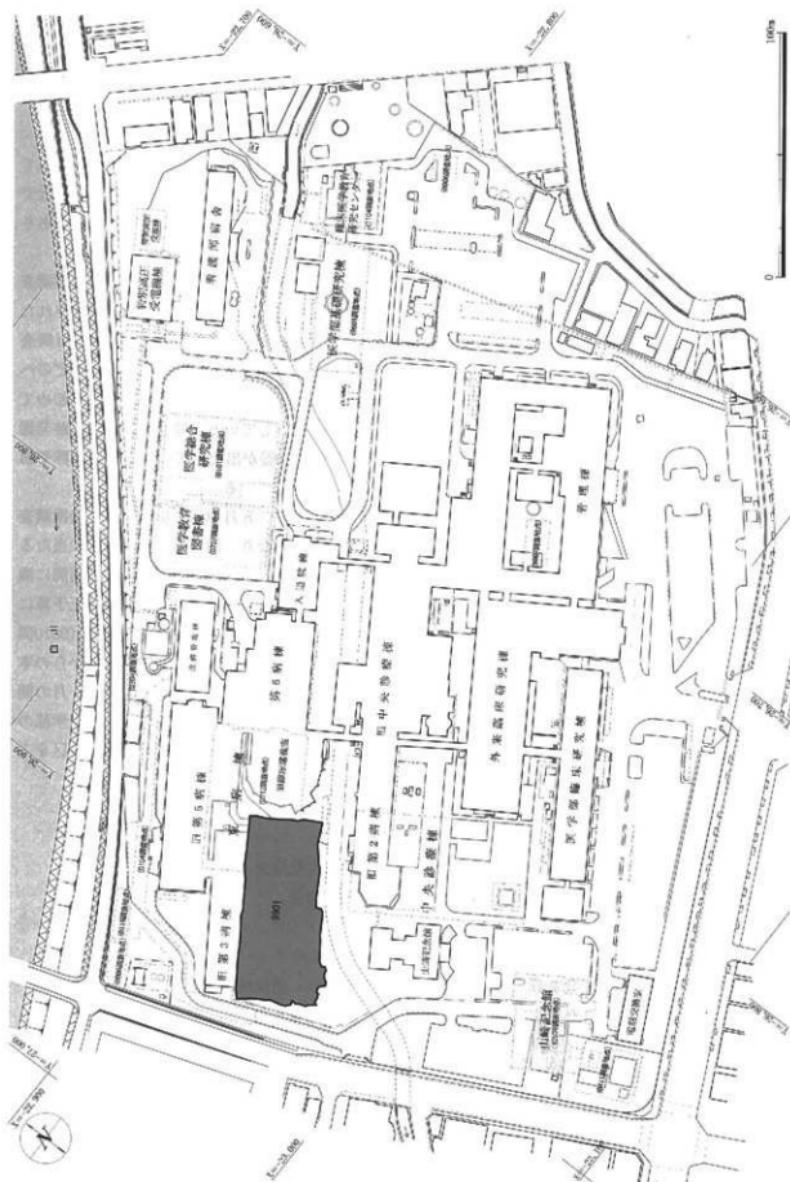


図21 本荘北地区における調査地点配置図 (1/2000)

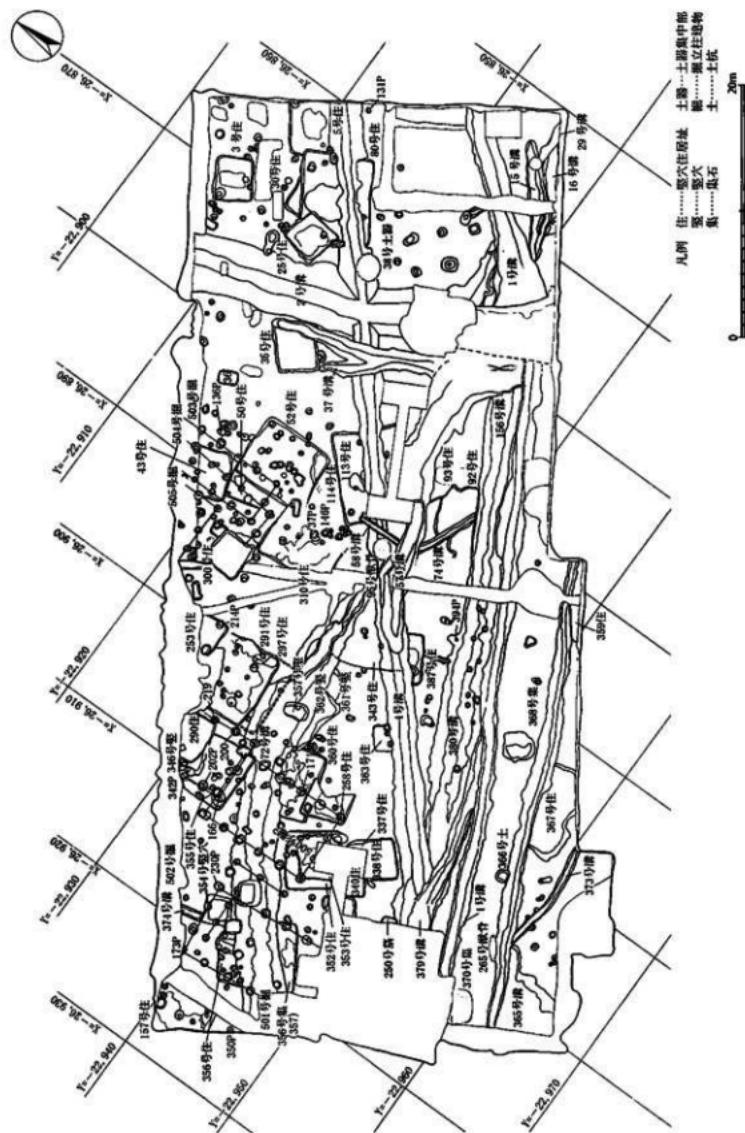


図22 9901調査地点造構配置実測図 (1/400)

1. (医病) 病棟(軸) 新嘗工事に伴う発掘調査 (9901調査地点)

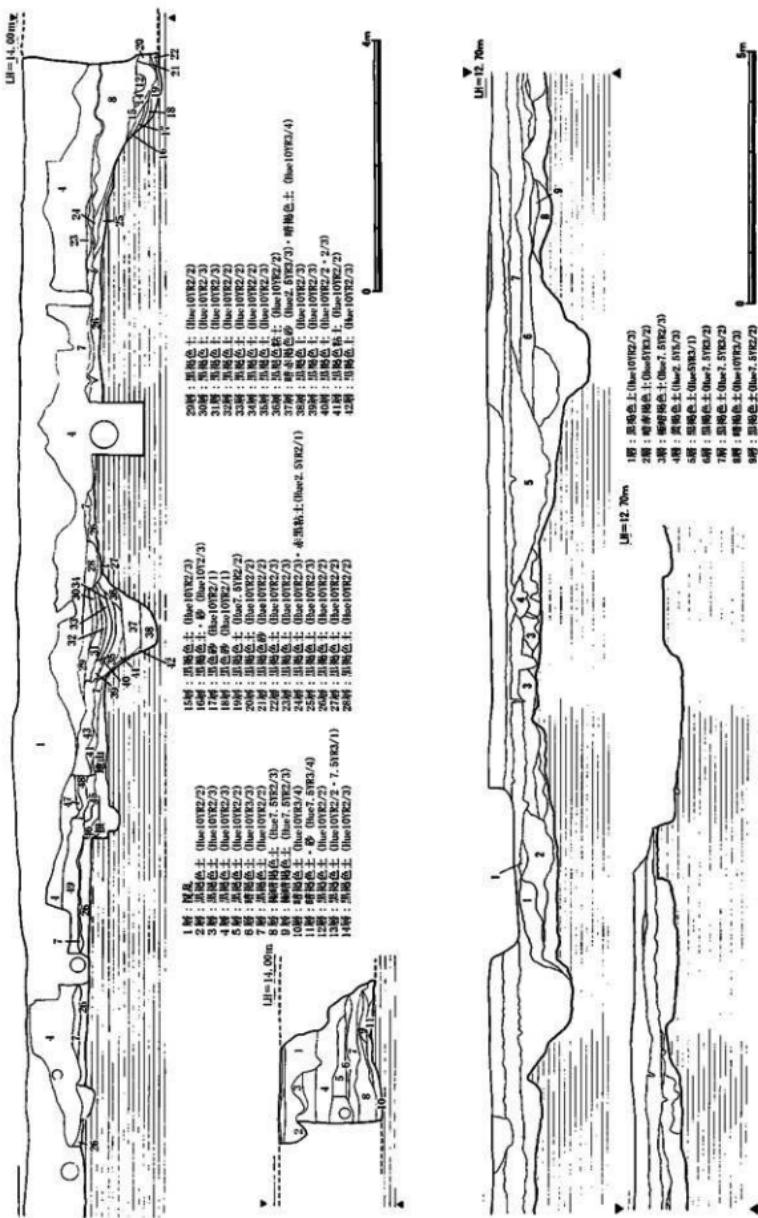


図23 9901調査地点北東壁土層断面実測図・中央土層断面実測図 (1/80・1/100)

c. 調査の組織

調査員：小畠弘己・大坪志子

事務担当：松鶴木綿子

作業員：上野しづ香・岡崎光子・岡田イツ代・岡村久美子・押方富江・甲斐田末男・勝野義勝・熊本茂仁・黒木重信・黒木タケ子・古賀敬子・小細工洋子・坂口三輝子・白石亞紀・白石美智子・鈴木笙子・高松北子・溜瀬俊子・土田ちえみ・中川毅人・橋口剛士・林田恵子・番山明子・福田久美子・古野京子・堀川貞子・松井昭子・宮村邦子・宮本里美・宮本千恵子・村上浩明・森川征子・森川謙・森田ミドリ・吉田ひろこ・徐鐘曼

整理作業員：井上裕美・江口路・鬼塚美枝・小山正子・首藤優子・末吉美紀・土田ちえみ・林田恵子・増井弘子・山㟢早苗

(2) 調査区の基本層序（図23）

調査区は周囲全てが包含層や造構面まで擾乱を受けており、周辺での調査において参考となるような良好な層序の確認は出来ていない。かろうじて、調査区東壁において、遺物包含層と造構の検出面についてある程度深さなどがおさえられた。1～4・23層までは近・現代埋土で深さ1.4m辺りまで堆積している。5層 - 黒褐色土層（10YR2/2、厚さ25cm）と6層 - 暗褐色土層（10YR3/3、厚さ15cm）は近世・近代の耕作である。7層 - 黒褐色土層（10YR2/2、厚さ4～30cm）が古代の遺物包含層である。5・6層が確認できた南側の一部で最も遺存状態がよかつたが、その他の箇所では削平されていた。7層下の26層は古墳時代の造構の覆土である。これまで遺構検出面（地山）としている暗褐色土の直上に古代の遺物包含層が堆積していたが本調査区では古代の遺物包含層下に古墳時代の造構の覆土があり、古墳時代の造構の広がりに伴い場所によっては古墳時代の造構覆土・遺物包含層がある可能性を示している。

(3) 検出遺構と出土遺物

今回の調査で検出した主な遺構は、古墳時代前期～中期初頭の竪穴住居址15基と竪穴3基、土坑1基、古代では8世紀後半の竪穴住居址11基、竪穴1基、9世紀前半の竪穴住居址7基、竪穴1基、掘立柱建物址6棟、溝は古代から近世まで大小合わせて17条、土壙墓1基、集石造構2基である。竪穴住居址については、可能性例も含まれる。このほか多数のピットが検出され、遺物を得ている。古代の遺構・遺物については、建物の主軸の方向や遺物の傾向から2期（I期：8世紀後半、II期：8世紀末～9世紀代）に大別して記述することにする。本調査区で検出された溝の中には、古代の条里方向には合わない溝が多数あるが、遺物から純粹に古墳時代の所産と確定できるものはない。このため、溝は一括して古代の項で記述する。

古墳時代の遺構

＜竪穴住居址＞

本調査地点では、古墳時代前期～中期初頭にかけて多数の竪穴住居址が検出された。住居址の主軸の方位を確認すると、古墳時代の竪穴住居址の主軸は北を向かず、北北西から南南東へ若干傾斜する調査区の傾斜と直交する、調査区を横断する溝に対して主軸が直交するもの、あるいはそれに近いものが大半である。少数北を向くものがある。

3号竪穴住居址 (図24)

I区の調査区の北隅近くの北壁よりの地点で検出された。縦2.9m横3.6mで、主軸は南北方向に対してちょうど45度西に振れている。検出時の深さは約0.3cmである。調査区の中でも高い位置にあるため、上面はかなり削平されている。中央部で硬化した床面が確認できた。また、東南側の壁近くに炉穴と思われる穴が確認された。柱穴は検出されなかった。焼土や木炭、砂岩が床面に散在していた。この住居址からは、良好な状態で遺物が多量に出土した。古墳時代前期（布留Ⅰ末～Ⅱ期）の古式土師器である（図25：1～24）。器種には、高壺・小型丸底壺・屈曲浅鉢・器台・甕・壺がある。また、鉄製品として刀子（図79：683）が出土した。

5号竪穴住居址 (図24)

I区の東壁中央、やや北寄りで検出した。東側一部が調査区外に延びる。住居の主軸は3号竪穴住居址と同一方向である。住居址の東南半分が4号溝によって削られている。現状では縦約3.2m、幅4.2mである。隣接する80号竪穴住居址の様子から、4号溝の対岸あたりに南壁があった可能性があると考えられる。検出時の深さは0.2mである。本住居址からも良好な状態の古式土師器が多量に出土したほか、木炭などが床面に散在していた。住居址の中央では硬化した床面が確認されたが、柱穴は検出されなかった。出土した遺物は古墳時代前期（布留Ⅰ末～Ⅱ期）の古式土師器である（図26：25～54、図27：55～61）。器種は小型鉢・屈曲浅鉢・小型丸底壺・器台・高壺・甕・二重口縁壺の口縁部などである。高壺には、実用ではなく祭祀用と思われる小型品（37）がある。

35号竪穴住居址 (図28)

I区の中央、やや北寄り、2号溝の西側で検出した。住居址の主軸の方向は3号竪穴住居址より少し西に振れている。縦5m、幅約5.9mである。後に住居址の東壁と南壁の一部を37号溝に掘りこまれており、マンガン層の沈着などがある。硬化面や柱穴などは検出されなかった。床面には土器片や円礫、焼土が散在していた。特に、円礫が多かったのが注目される。出土遺物は古墳時代前期末～中期初頭と考えらえる古式土師器である（図28：62～66）。古代の甕と壺の把手も出土しているが、住居址の主軸方向から判断して本来本遺構に伴うものではない。

80号竪穴住居址 (図29)

I区の東側、5号竪穴住居址の西側に位置し、5号竪穴住居址の西壁を一部切るかたちで検出された。80号竪穴住居址も南西側半分を4号溝により削られているが、対岸に南壁が依存しており全体のプランは確認できる。4号溝より北側の部分を検出した当初は、2基の竪穴住居の重複と考えて掘り下げを行ったが、4号溝の対岸の様子から1基の住居であると判断した。住居址の主軸の向きは3・5号竪穴住居址と同一方向である。縦5.6m、幅7.4mで、やや長方形である。中央部分で硬化した床面が確認されたが、柱穴は検出されなかった。北西側と西側には、8世紀と9世紀の竪穴住居址が重複している。遺物は、古墳時代中期初頭と考えらえる古式土師器（図30：67～86）のほか、不定形の垂玉（図78：680）が1点出土している。土師器は高壺・壺・甕で、高壺が多い。

92号竪穴住居址 (図30)

I区の南西部、156号溝（380号溝）と72号溝の間で検出された。西側を74号溝、南側を156号溝に切られており、また東側は93号竪穴住居址とした掘り込みと攪乱の影響もあり遺存状態は良くない。現状は縦約4.2m、幅約3mである。住居址の主軸は、北西から若干東に振れており、南側の156号溝と直交する。硬化面や柱穴は検出されなかった。遺物は住居址の北西側でまとまって出土した（図31：87～91）。古墳時代前期（布留Ⅰ末～Ⅱ期）と考えらえる高壺・甕・壺である。91は特異な形をした壺である。

III 本荘北地区の調査

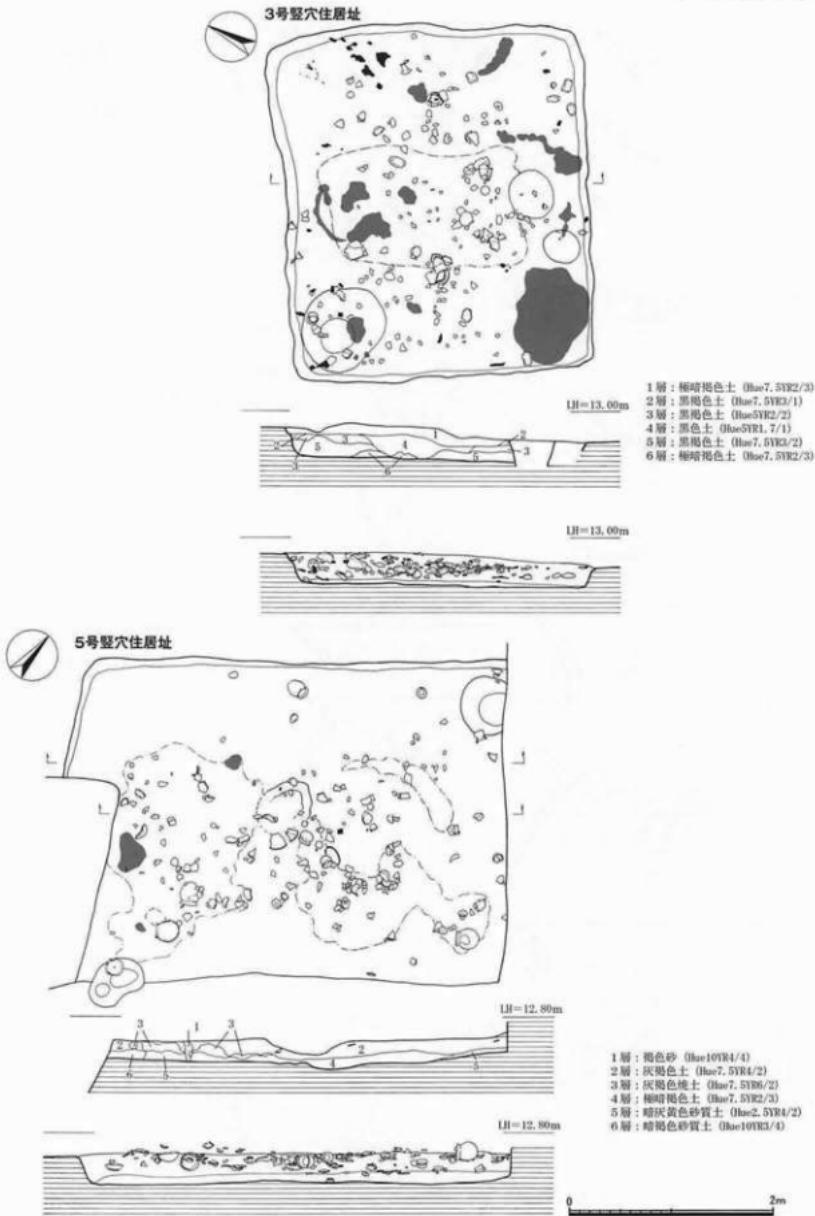


図24 3・5号竪穴住居址実測図 (1/50)

1. (医病) 病棟(軸) 新營工事に伴う発掘調査 (9901調査地点)

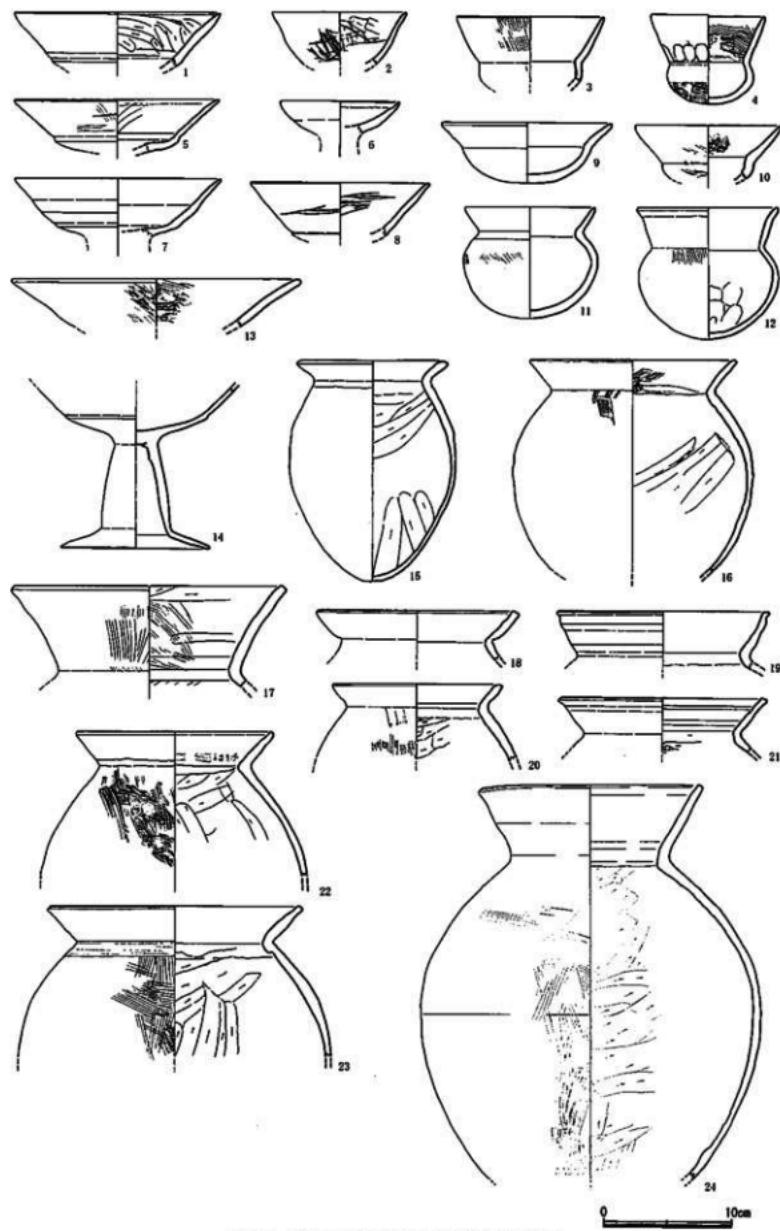


図25 3号暨穴住居址出土遺物実測図 (1/4)

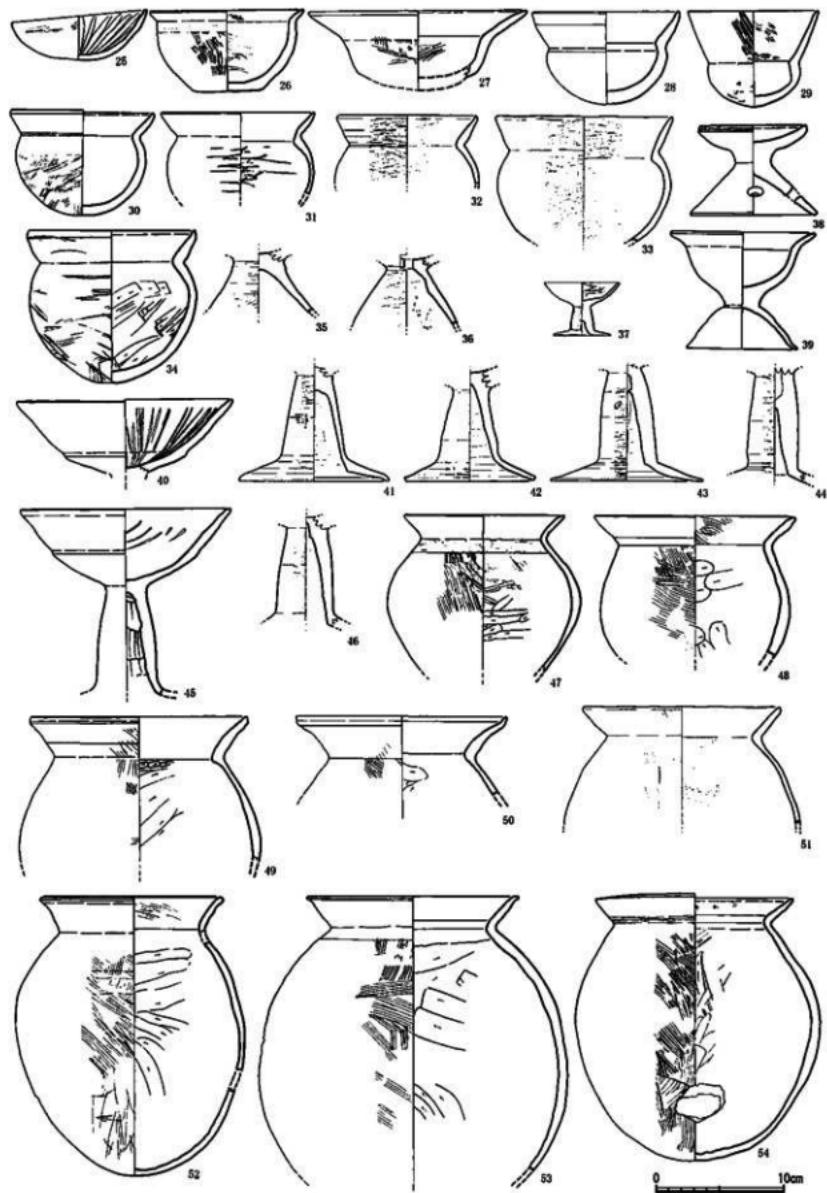


図26 5号竖穴住居址出土遺物実測図 1 (1/4)

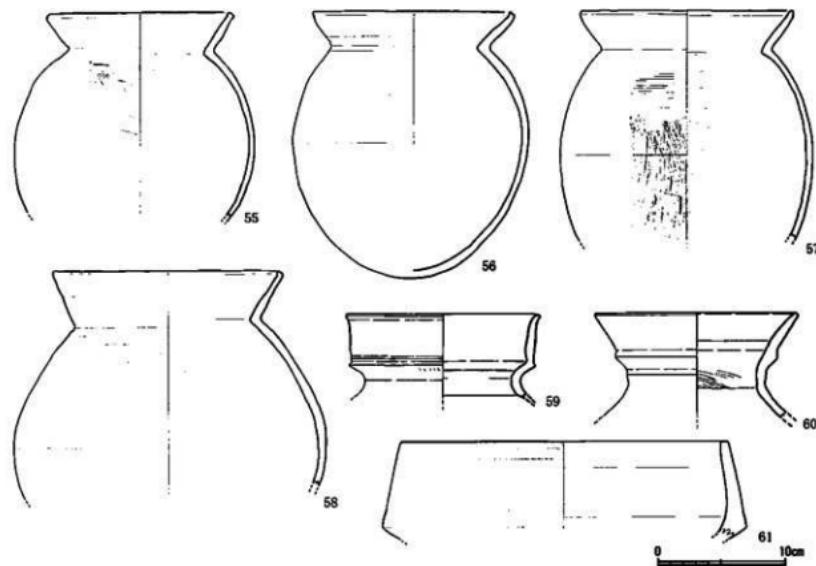


図27 5号竪穴住居址出土遺物実測図2 (1/4)

113号竪穴住居址 (図32)

I区の西側中央部で検出された。住居址の中央部を4号溝が貫き、また近・現代の建物基礎により南半の大部分を破壊されている。4号溝の南側は一部が残っているが、72号溝によって削られている。35号竪穴住居址や52号竪穴住居址がある台地は4号溝に向かって緩やかに傾斜しており、本住居址付近は浅い溝状になっていた。住居址はほぼ北西を向いているが、主軸は北西より若干西に振れており、4号溝とは直交している。現状で縦5.3m、幅7.4mである。深さは5cm前後で削平が著しく、かろうじてプランを確認することができた。硬化面を一部確認したほかは、明確な柱穴は確認されず、出土遺物も少ない。出土遺物は、古墳時代の古式土師器とともに古代の遺物が混在しているが、住居址の主軸の向きから、古墳時代中期の所産と判断した。図33:92~101は土師器の高坏脚部と壺である。92~101は古代の遺物で、土師器壺・壺・高坏(須恵器赤焼け?)、須恵器の壺である。本来は重複する114号竪穴住居址の遺物の可能性が高い。

253号竪穴住居址 (図34)

II区の北隅(I区との境)、調査区北壁沿に位置する。調査区北壁沿いに敷設されていた配管により、住居址の大半はすでに破壊され、住居址の南東隅が残っているのみである。後に、古代の291号竪穴住居址に切られる(重複する)。縦1.9m、幅約3m、深さは0.2mある。削平が著しく、本来なら遺存状況は悪い。住居址の主軸は北を向いており、古墳時代の住居址の中では珍しい。出土遺物は古墳時代前期(布留Ⅰ末~Ⅱ期)である。図35:102~103は土師器の高坏である。

337・338号竪穴住居址 (図35)

II区の中央やや西より、古い建物基礎の南側に位置する。北側が基礎によって破壊されている。遺

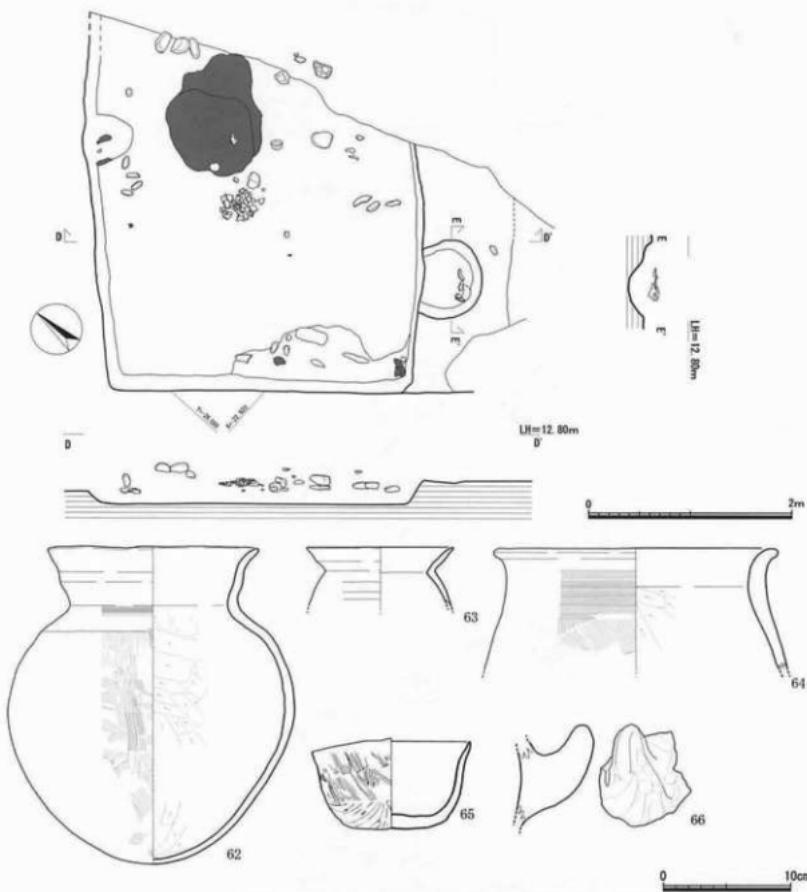


図28 35号竪穴住居址実測図・出土遺物実測図 (1/50・1/4)

構検出面で造構全体を把握した時には約3.2×3.7mの竪穴住居址と考えていたが、造構埋土を掘削すると南側がさらに深くなかった。そこで、北側を337号竪穴住居址、南側を338号竪穴住居址とした。337号竪穴住居址は現状で縦約3.2m、幅約1.5m、深さは0.2m程度である。338号竪穴住居址は、縦約3.2m、幅2.5m、深さ約0.5mである。中央付近で硬化した床面が検出され、土器や礫などが出土した。337号・338号竪穴住居址の主軸は北西を向いている。337号竪穴住居址の時期は主軸の向きから古墳時代、338号竪穴住居址は、出土遺物から古墳時代前期（布留Ⅰ末～Ⅱ期）と考えられる（図35：104～106）。古式土師器の鉢・甕・二重口綠葦である。

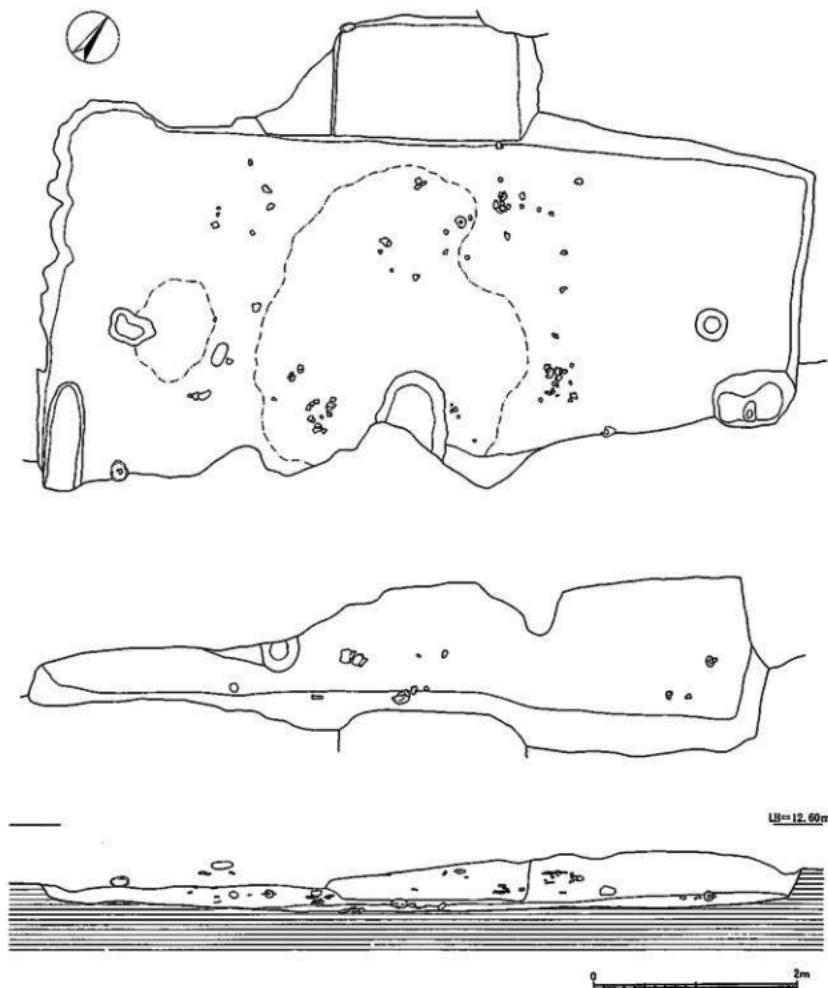


図29 80号竪穴住居址実測図 (1/50)

340号竪穴住居址 (図35)

II区の中央やや西より、337・338号竪穴住居址の西側で検出した。古い建物の基礎で大半を破壊されており、全体の1/4程度が残るのみである。基礎の北側には続きがなく、1辺は2.5mを超えないと考えられる。現状では縦約1.4m、幅約1.5m、深さ約0.8mである。住居址の主軸は北西に振れており、337・338号竪穴住居址と向きはほぼ同じである。出土遺物は、小型の丸底壺 (図35: 107) であるが、類例に乏しい。祭祀用と思われる。前期終わり～中期初頭か。

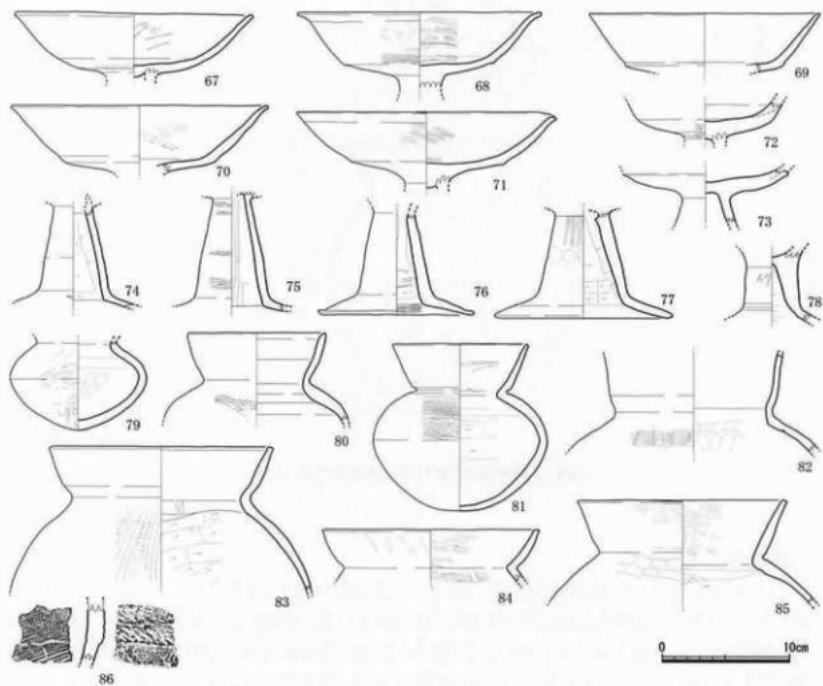


図30 80号竪穴住居址出土遺物実測図・92号竪穴住居址実測図 (1/4・1/50)

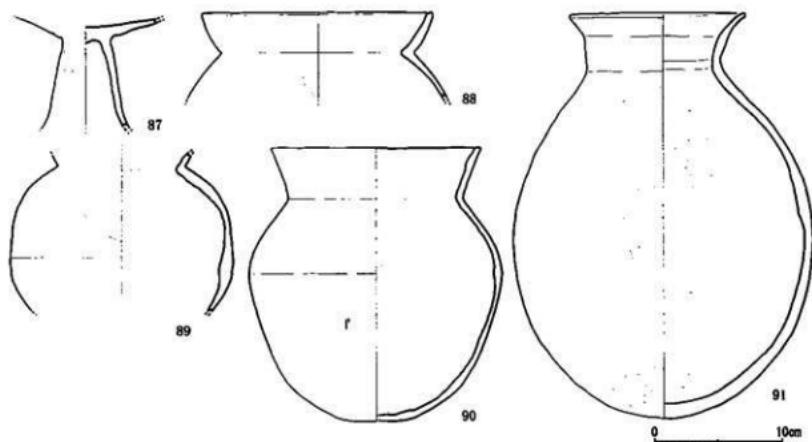


図31 92号竪穴住居址出土遺物実測図 (1/4)

346号竪穴 (図36)

II区の調査区北壁中央付近に位置する。古代の竪穴住居址や掘立柱建物が密集し、重複している場所であり、本竪穴も埋没後に290号竪穴住居址が造られている。縦約3.6m、幅最大で2mである。西側の幅は1.6mとやや狭まるため、若干台形である。深さは約0.6mである。断面も、上辺が広がり、底が狭まるため台形になっている。主軸は南西を向いおり、遺構の向きは調査区に並行しており、ほかの古墳時代の遺構と同様の傾向を示す。底部から土器と焼土が検出された。住居址としては狭小で、ほかの住居址と比較して深さも深い。類似する例は、本荘南地区の9801調査地点でも検出されており、遺構内からは古代の土器と鉄製品（鎌）が出土している。祭祀を行った場所と考えられている。本遺構は、向きと出土遺物から古墳時代前期（布留Ⅰ末～Ⅱ期）終わり～中期初頭と考えられる（図37：108～116）。手捏ねのミニチュア土器と古式土師器の高杯・壺・蓋が出土している。ミニチュア土器が出土していることから、本遺構は、祭祀行為に関連する可能性がある。

352・353号竪穴住居址 (図36)

II区の中央やや西寄り、338・338号竪穴住居址の北側に位置する。住居址の南側を、古い建物の基礎によって破壊されている。これらの住居址は、337・338号竪穴住居址と同様に、遺構面での遺構プランを把握した時には1基の住居址と認識していたが、埋土を掘削すると、中央部が深くなることを確認した。そのため、外側の浅い住居址を352号竪穴住居址、内側の住居址を353号竪穴住居址とした。352号竪穴住居址は、現状で縦横ともに約4.5mの正方形を呈し、深さは0.05mである。削平が著しく、かろうじて残っていた状態である。住居址の主軸は北西を向いている。住居址の中心部分は、353号竪穴住居址によって切られており、硬化した床や遺物など、本住居址の利用痕跡は残されていない。353号住居は、現状では縦約2.6m、幅約3.6mである。深さは、遺構面からは0.4mである。住居址の主軸は北西を向いている。中央部では、硬化した床面が検出された。352号竪穴住居址の出土遺物は図37：117～119で、古墳時代前期（布留Ⅰ末～Ⅱ期）と考えらえる鉢・壺の口縁？・二重口縁壺の口

113・114号竪穴住居址

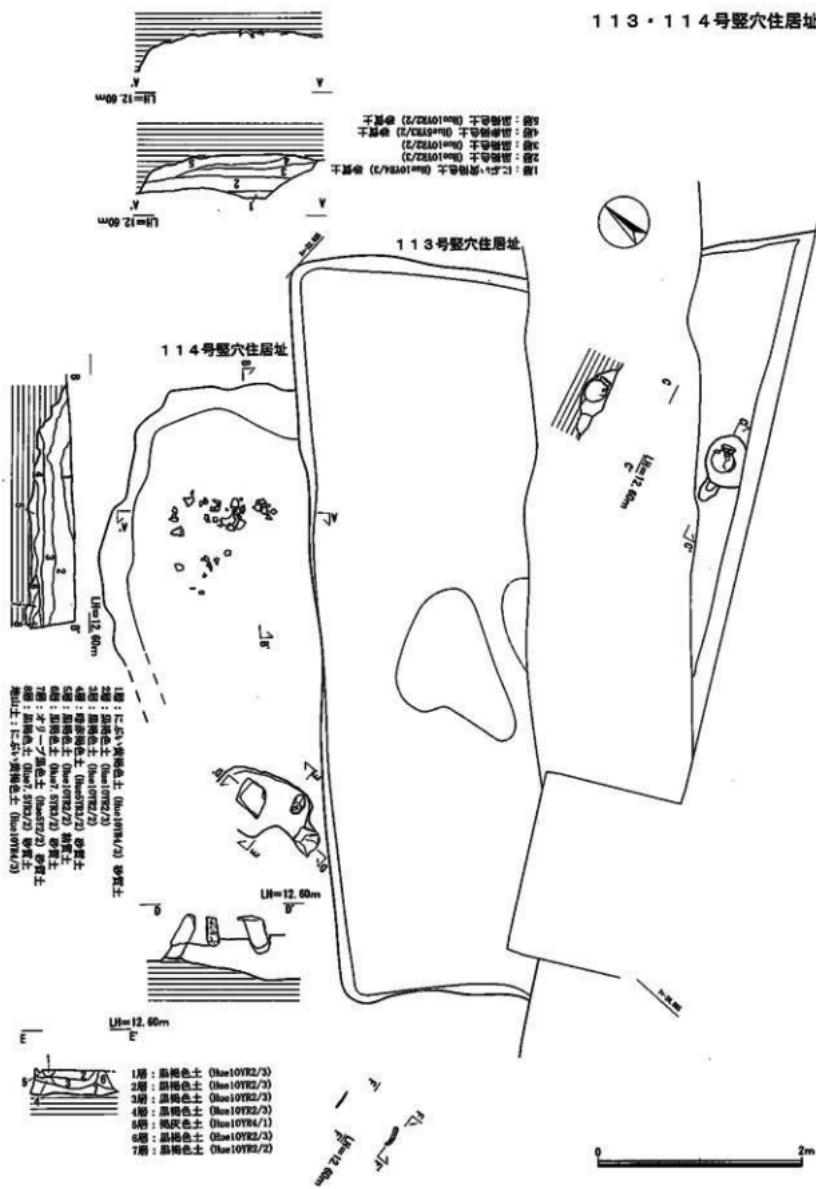


図32 113・114号竪穴住居址実測図 (1/50)

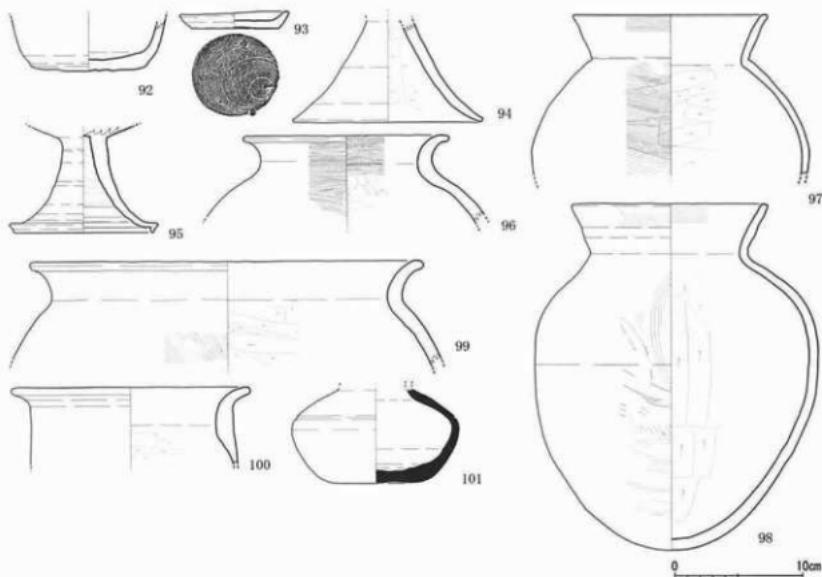


図33 113号竪穴住居址出土遺物実測図 (1/4)

縁部が出土している。353号竪穴住居址の出土遺物は図37: 120~122で、古墳時代中期初頭と考えられる古式土師器壺・二重口縁壺の頸部・小壺である。

354号竪穴 (図37)

II区の北西隅より、72号溝の北側縁に位置する。現状では縦約2.2m、幅約2.3mでほぼ方形を呈する。深さは0.5m程である。主軸は北西を向いており、他の古墳時代の住居址と同じである。住居址としては狭小で、土坑としてはやや大きい。出土遺物は古式土師器の器台・小型丸底壺(屈曲浅鉢)・小壺・壺が出土しており(図37: 123~126)、古墳時代前期の終わりのころと考えられる。

360号竪穴住居址 (図38)

II区の中央やや北寄り、72号溝の南側に位置する。500号掘立柱建物と重複している。住居址の北半分は、72号溝によって破壊されている。現状では、縦約3.2m、幅約5.6m、深さは0.2mである。主軸は北北西を向いている。床の中央一帯には焼土が散在しており、住居址の中央やや南よりになる地点には、炉と考えられる掘り込みを検出した。また、一面から土器片が出土した。出土遺物は図39: 127~139で、古式土師器の小型丸底壺・器台・高杯・壺が出土している。壺の口縁がやや立ち上がり気味のものがあるため、古墳時代前期の終わりのころと考えられる。

361号竪穴 (図38)

II区の中央やや東寄りに位置する。本遺構は北側半分以上を72号溝によって破壊され、また西側には362号竪穴が隣接している。現状は住居址状で南東隅が一部残るのみで縦約1.5m、幅1.8m、深さは約0.7mである。主軸はおおむね北を向くようである。埋土を完掘した状況では、床と思われる平坦

253・291号竪穴住居址

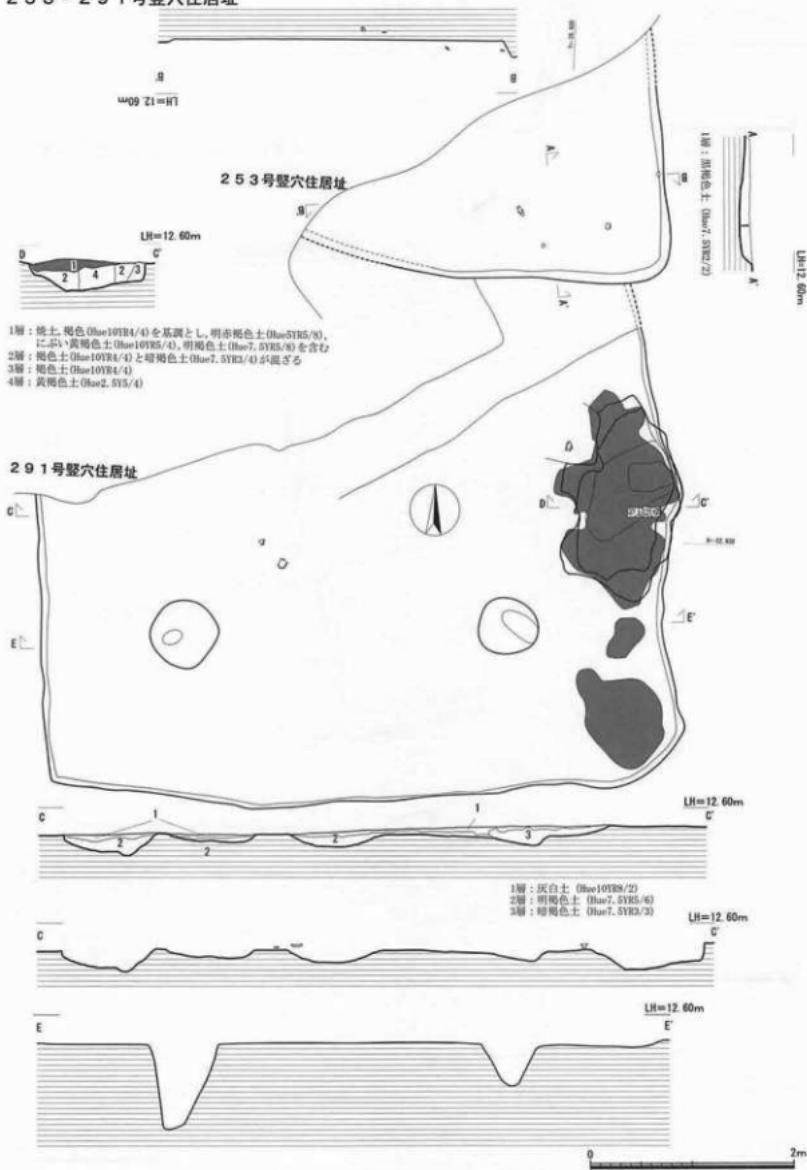
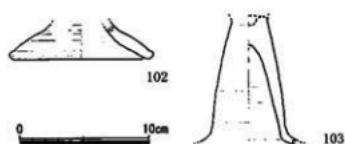


図34 253・291号竪穴住居址実測図 (1/50)

1. (医病) 病棟(軸) 新營工事に伴う発掘調査 (9901調査地点)



337・338・340号竪穴住居址

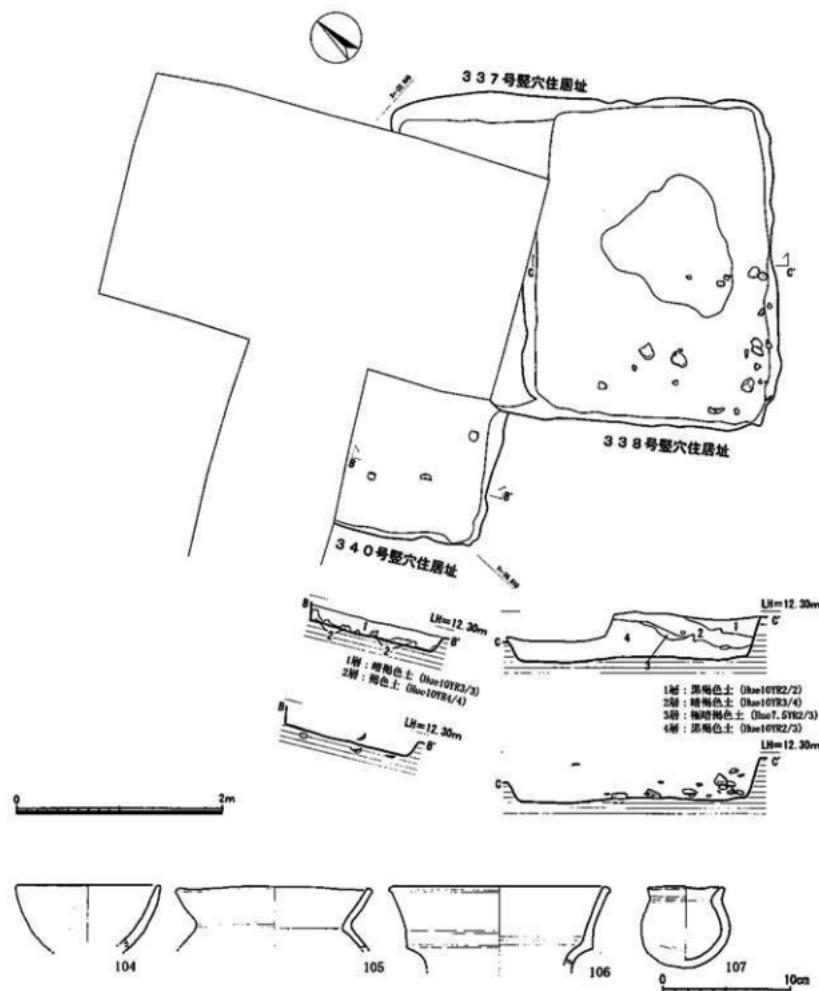


図35 253・337・338・340号竪穴住居址出土造物実測図・337・338・340号竪穴住居址実測図 (1/4・1/50)

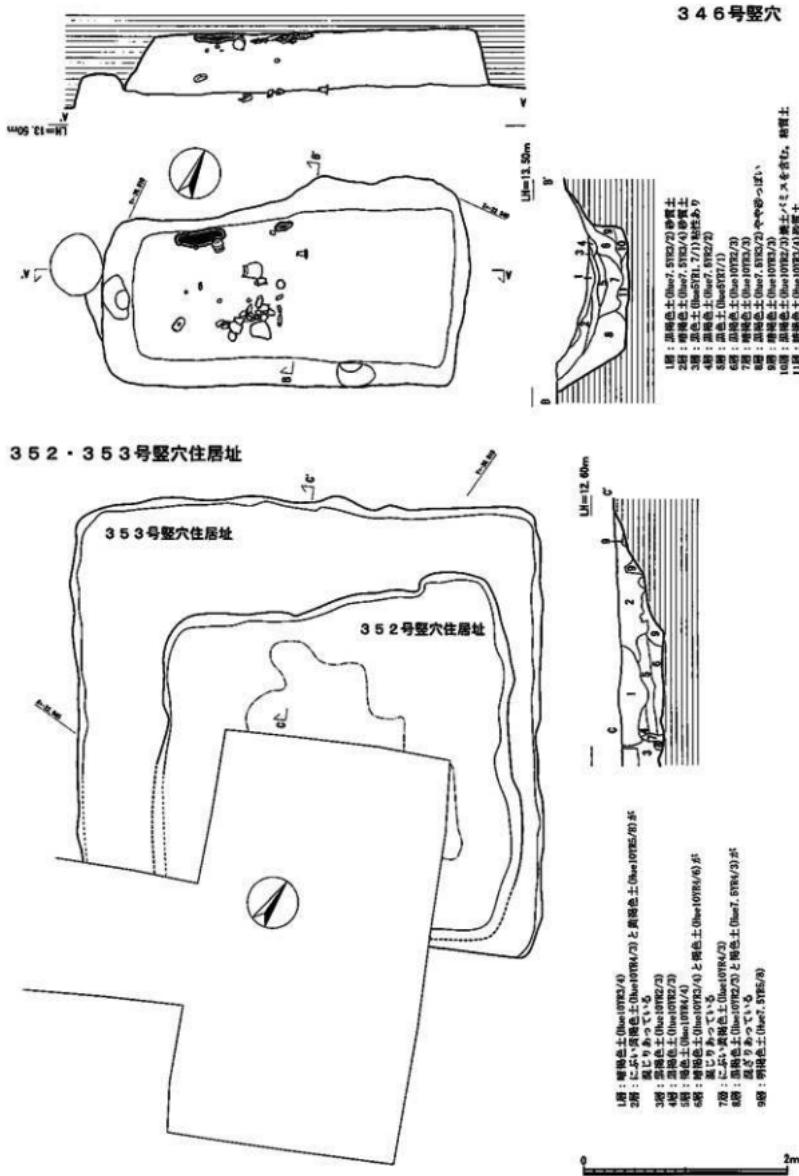
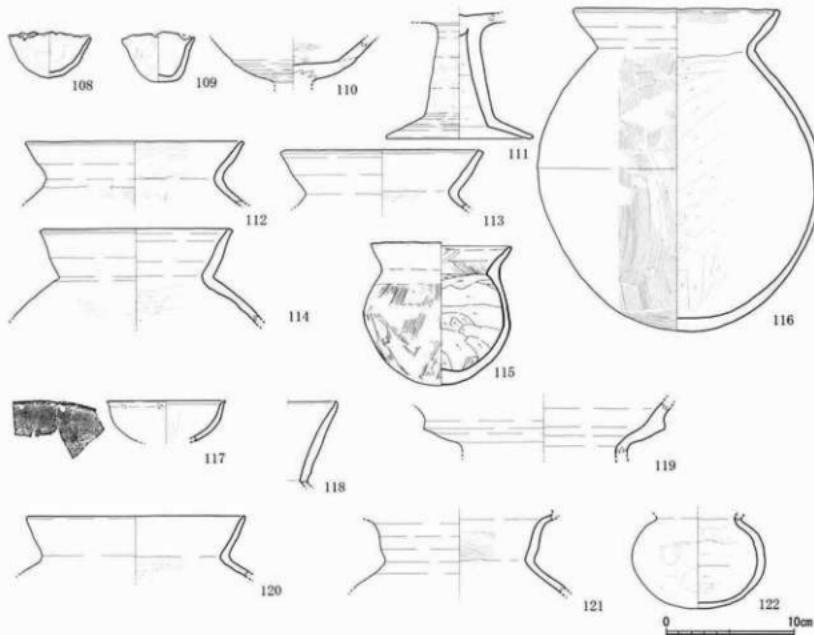


図36 346号竪穴・352・353号竪穴住居址測定図 (1/50)

1. (医病) 病棟(軸) 新營工事に伴う発掘調査 (9901調査地点)



374号溝・354号竪穴

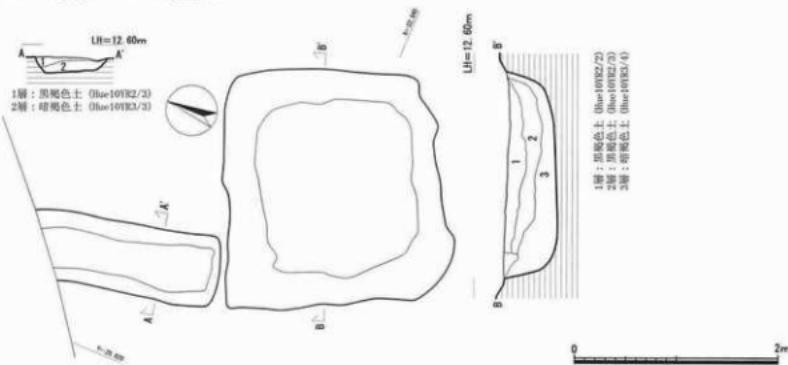
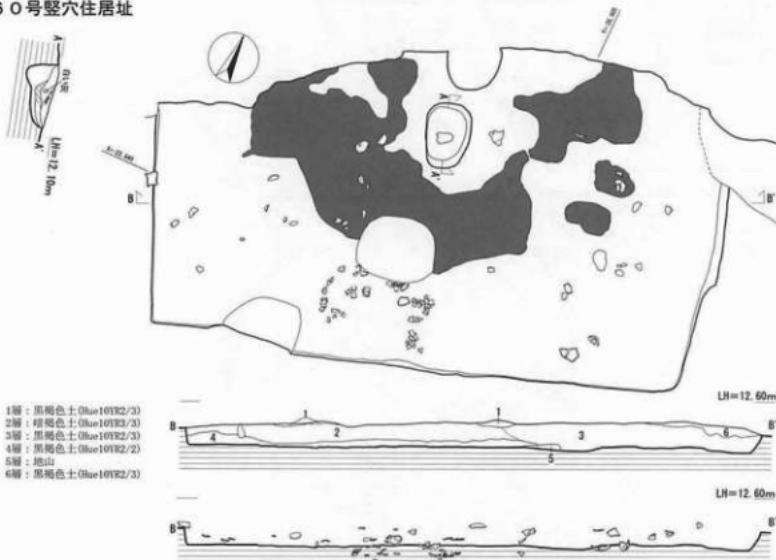


図37 346号竪穴・352・353号竪穴住居址・354号竪穴出土遺物実測図・354号竪穴・374号溝実測図 (1/4・1/50)

360号竪穴住居址



361・362号竪穴

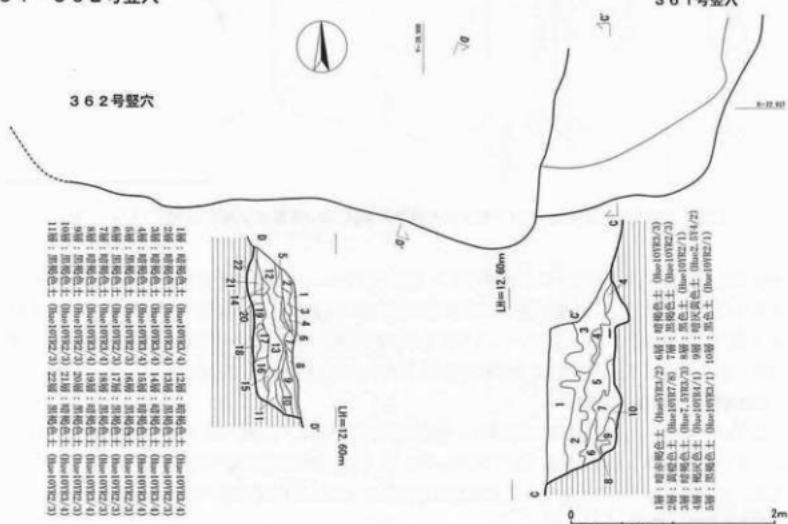


図38 360号竪穴住居址・361・362号竪穴実測図 (1/50)

1. (医病) 病棟(軸) 新宮工事に伴う発掘調査 (9901調査地点)

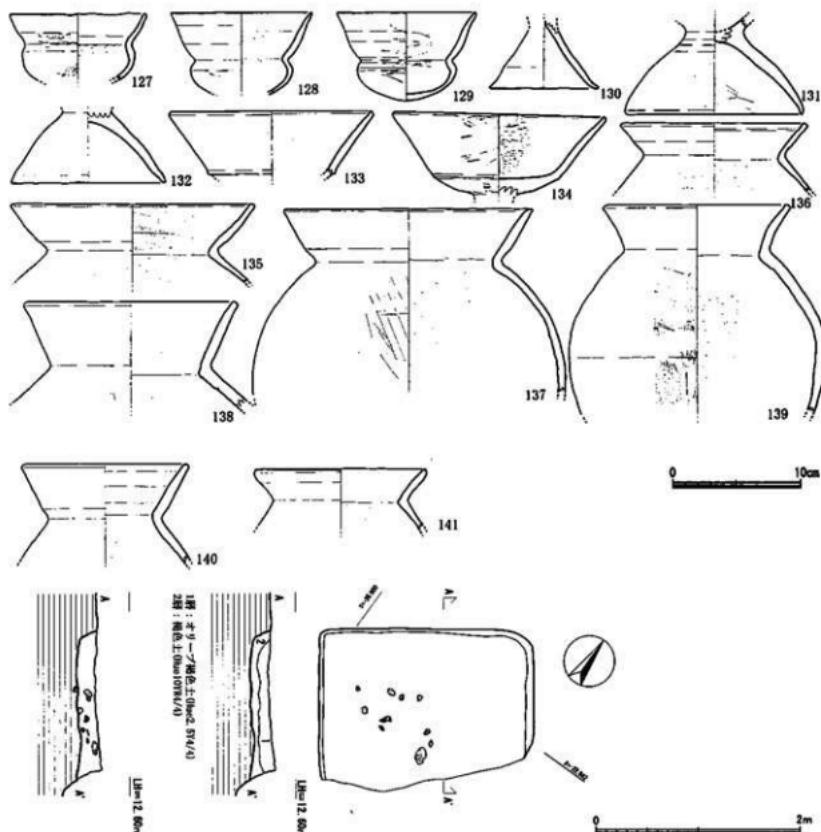


図39 360号竪穴住居址・361号竪穴出土遺物実測図・363号竪穴住居址実測図 (1/4・1/50)

な面は検出されず、柱穴もない。遺構プランを見た場合には、本遺構を西側の362号竪穴が切っているように捉えられるが、遺構の深さは本遺構の方が深い。掘り込みの範囲から考えると、361号竪穴は西側には広がらず、346号竪穴のような狭小な遺構であった可能性が高い。出土遺物は古式土師器の壺・甕で(図39: 140~141)、古墳時代前期(布留Ⅰ末~Ⅱ期)と考えらえる。

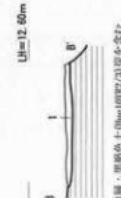
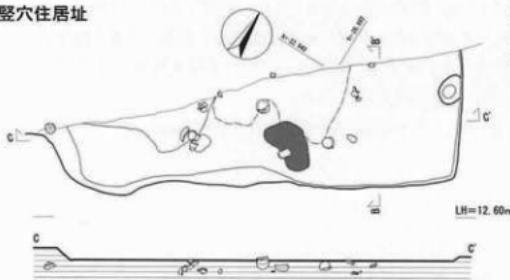
363号竪穴住居址(図39)

II区の中央部、やや東寄りに位置する。363号竪穴住居址は、南側1/3弱を4号溝によって破壊されている。縦約1.6m、幅約2.1m、深さ約0.2mである。住居址の主軸は北西を向いている。硬化した床面や、本遺構に伴うと考えらえる柱穴は検出されなかった。遺物は土器の碎片である。

387号竪穴住居址

II区の東より、4号溝と380号溝の間に位置する。住居址の北側は半分以上が4号溝によって破壊

387号竪穴住居址



368号土坑

1層：にぶい黄褐色土 (Hue10YR8/4)
2層：にぶい黄褐色土 (Hue10YR8/4)
3層：オリーブ褐色色土 (Hue2.5YV4/6) シルト質土
4層：暗褐色土 (Hue10YR3/3)
5層：褐色土 (Hue10YR4/4)
6層：褐色土 (Hue10YR4/4)
7層：褐色土 (Hue10YR4/3) 含む
8層：暗褐色土 (Hue10YR3/3)
9層：暗褐色土 (Hue10YR3/3)
10層：褐色土 (Hue10YR3/3) シルト質土
11層：褐色褐土色土 (Hue7.5YR2/3)
12層：褐色土 (Hue10YR4/4) 砂質土
13層：暗褐色土 (Hue10YR3/3)
14層：暗褐色土 (Hue10YR3/4) 砂質土
15層：にぶい黄褐色土 (Hue10YR6/3)
16層：暗褐色土 (Hue10YR3/3)
17層：にぶい黄褐色土 (Hue10YR4/3) 砂質土
18層：褐色土 (Hue10YR4/4)
19層：褐色土 (Hue10YR4/4)
20層：褐色土 (Hue7.5YR2/2)
21層：黒褐色土 (Hue7.5YR2/2)
22層：黒褐色土 (Hue7.5YR2/2) 暗褐色土 (Hue10YR4/4) を含む
23層：暗褐色土 (Hue10YR3/4) 反オリーブシルト層を含む
24層：オリーブ褐色色土 (Hue2.5YV4/3) シルト質土

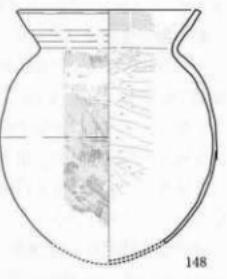
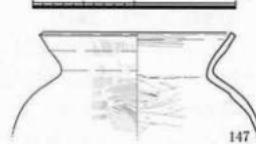
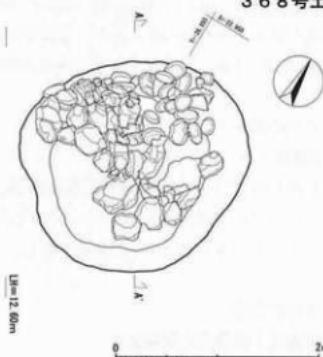


図40 387号竪穴住居址・368号集石土坑実測図・387号竪穴住居址・368号集石土坑・394号ピット出土遺物実測図 (1/50・1/4)

されている。現状では、縦約1.2m、幅約4.2m、深さは0.15m程度である。住居址の主軸は北西を向いており、調査区の傾斜に対して直交する。住居址の中央部には、硬化した床面が広がり、焼土も検出された。柱穴は検出されなかった。出土遺物は古式土師器の小型丸底壺と高杯である(図40:142~146)。前期(布留I末~II期)の所産と考えられる。

堅穴住居址と考えられるものは、このほかに340号堅穴住居址の西側に位置する339号堅穴住居址(?)がある。

<土坑>

368号集石土坑(図40)

II区の南側中央、1号溝(381号溝)と358号溝の間の台地上に位置する。不正の円形で、上部に積石をしている。積石には河原石(円礫)と不正形の石が仕様されている。土坑の底部は平坦ではなく、側壁も整えられた感じはない。墓壙の可能性も考えられるが、骨は検出されなかった。出土遺物は図40:147~149で、古式土師器の壺と古代の須恵器壺が出土している。

<その他>

394ピット

II区の東寄り、387号堅穴住居址の南側、156号溝(380号溝)の北側に位置する。不整形の半円形で、長さ0.7m、幅1.0m、深さ0.5mでやや大きい。須恵器の壺の口縁部片(図40:150)が出土した。このほか、多くのピットが検出された。

古代の遺構

<古代I期の堅穴住居址>

30号堅穴住居址(図41)

I区の東より中央部に位置する。80号堅穴住居址の上に掘りこまれていた。当初は80号堅穴住居址を別のプランで検討し80号堅穴住居址を先に掘り下げるため全体の正確なプランを把握できなかった。住居址の主軸は南北を向いており、おそらく4m四方ほどの住居址であったと考えられる。北壁側でわずかに硬化した床面と窓の白色の粘土と焼土、袖石が確認された。遺物は土師器片と須恵器壺の頸部(図42:151)が出土している。また鉄製品の釘(図79:684)が出土している。

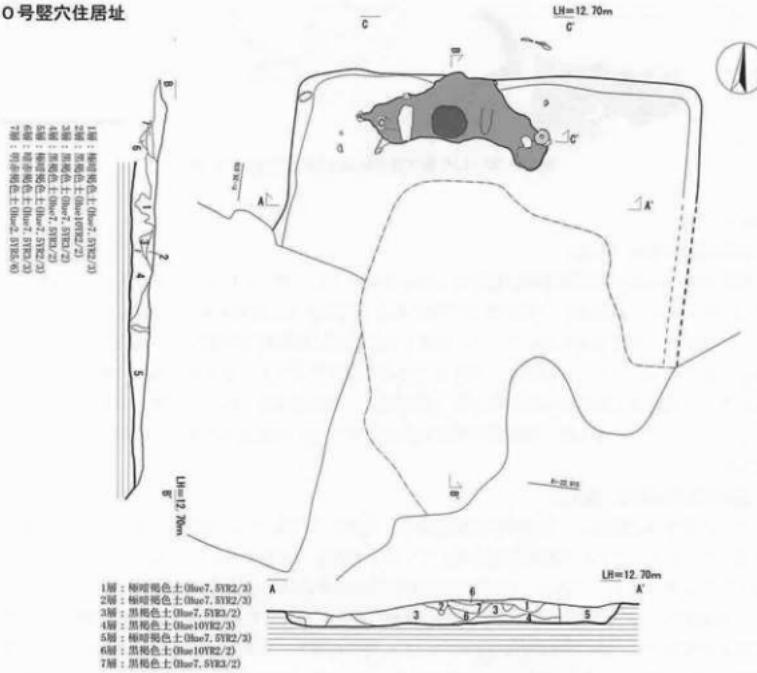
43号堅穴住居址(図41)

I区の北西、調査区北壁下に位置する。配管工事により、住居址の北側半分ほどを削平されている。現状で縦2.7m、幅約4m、深さは約0.2mである。住居址の主軸は南北より若干西に振れ、北北西を向いている。硬化した床面や柱穴は確認されなかった。西壁に窓の跡と思われる焼土が詰まつた掘り込みと袖石が検出された。出土遺物は土師器が出土している。図42:152~153は壺と窓である。2の窓は、屈曲して稜線があり口縁部が肥厚し、丁寧にミガキを掛けている。窓よりやや古相である。6世紀後半~7世紀初頭か。

50号堅穴住居址(図43)

I区の北西、43号堅穴住居址の南に位置する。東半分は52号堅穴住居址に切られている。住居址の主軸は南北より少し西に振れている。現状では縦3m、幅2m、深さは0.2m程度である。硬化した床面や柱穴などは確認されなかった。住居に明確に伴う遺物が少なく時期決定は困難であるが、当該期の遺構のなかでは早い段階のものと考えられる。出土遺物は土師器の二重口縁壺の口縁部である。

30号竪穴住居址



43号竪穴住居址

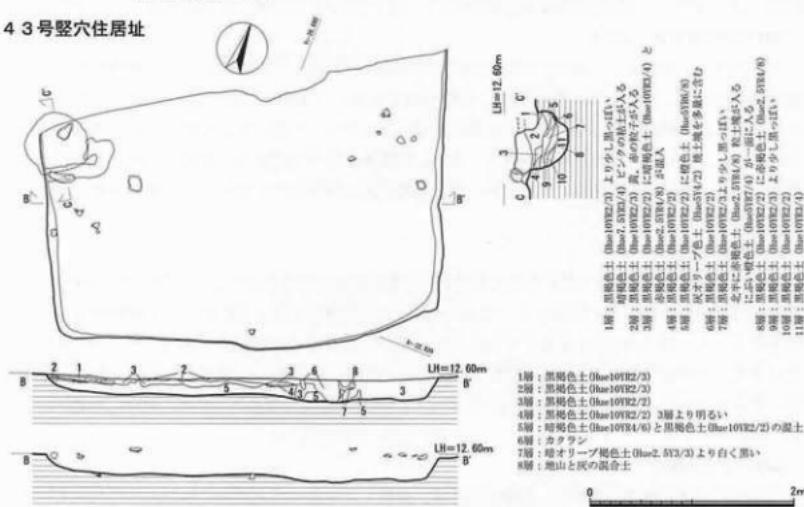


図41 30・43号竪穴住居址実測図 (1/50)

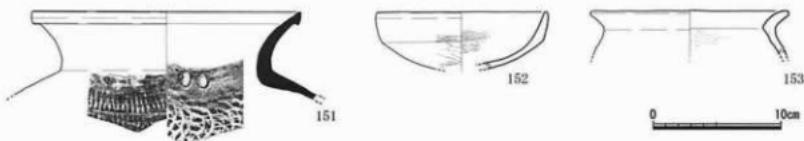


図42 30・43号竪穴住居址出土遺物実測図 (1/4)

(図44: 154)。

52号竪穴住居址 (図43)

検出当初は4基の竪穴住居址が切り合っているものとして掘り下げをおこなったが、遺物や散在する炭の状況から、最終的に1基の竪穴住居であると判断した。縦約6m、幅約5.2m、深さ0.2mである。住居址の主軸は南北を向いている。硬化した床面が、住居址の南側で一部確認できた。床面には炭が一面に散在していた。ただし、本炭などの建築部材を示すようなものは無く、焼失住居とは考えられない。遺物は土師器の壺蓋・壺・甕・瓶の把手、須恵器壺蓋・壺・鉢・甕がある。土師器の壺蓋にかえしがついているもの、須恵器の壺身にかえしがついているものがあり、時期が古いものがある(図44: 155~179)。

290号竪穴住居址 (図45)

II区の調査区北壁沿い。ほぼ中央に位置する。北側半分は配管による破壊されている。上面もかなり削られていた。どちらも軸は南北を向いている。硬化した床面や柱穴などは確認されなかった。遺物も少なく碎片ばかりである。古墳時代の346号竪穴の埋没後、その上に造られている。現状で縦約2.7、幅約3.7m、深さは0.1m程度で、削平のために非常に浅い。住居址の主軸は北を向く。西壁付近で焼土が検出されたが、竈は検出されなかった。西壁に竈が造られていた可能性がある。出土遺物は図45: 180~185の、土師器壺と須恵器蓋である。181~183は8世紀末~9世紀初頭で、やや新しい。

291号竪穴住居址 (図34)

II区の調査区北壁沿い、290号竪穴住居址の東側に並列するように位置する。北側は配管によって破壊されている。現状では、縦約5m、幅約6.1mである。本来なら、約6m四方の住居址であったと考えられる。削平が著しく、ほとんど深さは残っていない。主軸は北から僅かに西に振れる。住居址の壁には、作りつけの竈が検出された。また、住居址に伴うと考えられる柱穴も検出された。出土遺物は図45: 186~191である。土師器壺、甕、須恵器蓋、壺が出土しており、7世紀後葉~8世紀後葉である。

297号竪穴住居址

II区の調査区北壁近く、291号竪穴住居址の南に軸を揃えて検出された。297号竪穴住居址は291号住居址に切られおり、また搅乱によって北側のプランは不明である。297号住居址は幅6.4m、上面の削平が著しく、深さは10cm足らずである。72号溝が埋没したのちに造営されている。297号住居址では硬化した床面が確認された。297号竪穴住居址では竈の跡と思われる焼土が確認された。竈は西壁に作られている。支柱などは確認されなかった。出土遺物は土師器壺(図45: 192)と土製鏡(図78: 675)である。

343号竪穴住居址

II区の東、中央部に位置する。北側を72号溝、南側を4号溝に削平されており、また全体的に削平が著しく、僅かに住居址のプランを確認した。主軸は北西を向く。遺物は、住居址の範囲において古

50・52号竪穴住居址

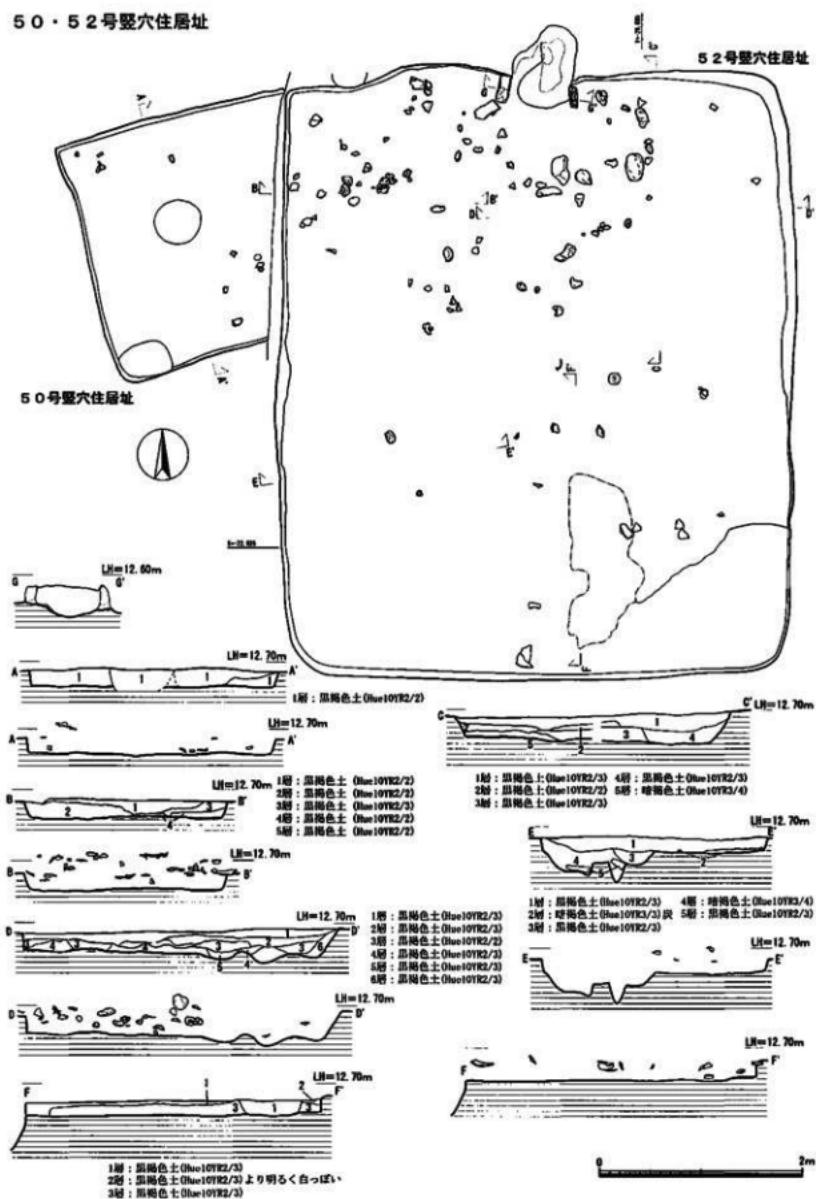


図43 50・52号竪穴住居址実測図 (1/50)

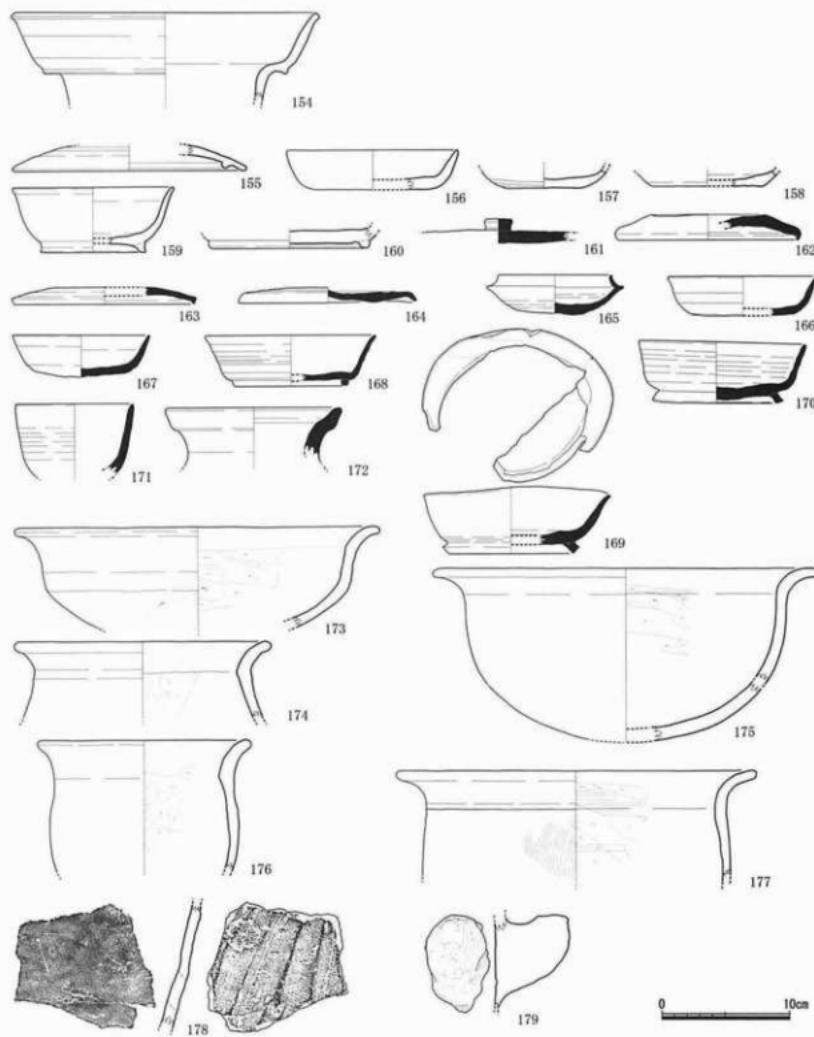


図44 50・52号竪穴住居址出土遺物実測図 (1/4)

式土師器と古代の土器が多量に出土したが、碎片が多く圓化に至らなかった。8世紀後半の須恵器碗が床と考えられる面の直上で出土しており、住居址の主軸は北西を向くが、古代の住居址と判断した。

355号竪穴住居址 (図46)

II区の北側中央、290号竪穴住居址の南に軸を描えて検出された。355号住居址は290号住居址に切

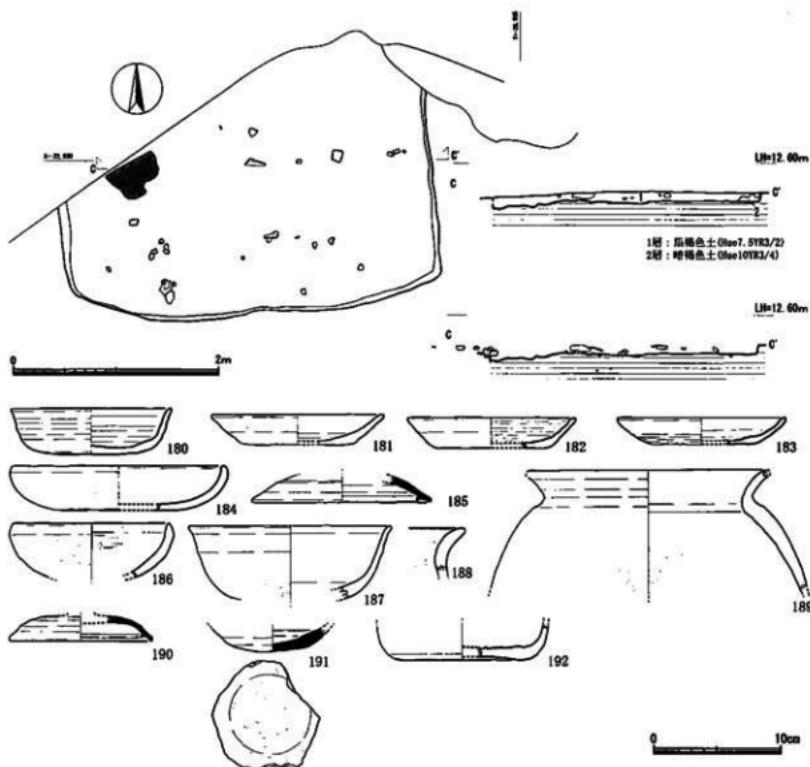


図45 290号竪穴住居址実測図・290・291・297号竪穴住居址出土遺物実測図 (1/50・1/4)

られおり、また搅乱によって北側のプランは不明である。現状では、縦約3.8m、幅約5.2mで、297号竪穴住居址同様上面の削平が著しく、深さは10cm足らずである。346号竪穴が埋没した後に造営されている。355号住居址でも竪の跡と思われる焼土が確認された。355号住居址では西壁に作られている。支柱などは確認されなかった。また、住居址に伴う柱穴も検出されなかった。出土遺物は土師器の壺、瓶である(図46:199~201)。

356号竪穴住居址(図47)

II区の北西隅、大きな搅乱の北側に位置する。住居址の中央部を72号溝に削平されている。溝の北側を356号竪穴住居址、南側を327号竪穴住居址として調査を進めたが、同一の住居址の可能性がある。北側の住居址は、壁部分が別の造構によって切られている。現状では、北側は縦約1.5m、幅約4.2m、南側は縦約1.5m、幅約5.5mである。住居址の主軸は北北西を向き、古墳時代の住居址と同じ向きである。遺物は図47:202の壺が出土している。

1. (医病) 病棟(軸) 新營工事に伴う発掘調査 (9901調査地点)

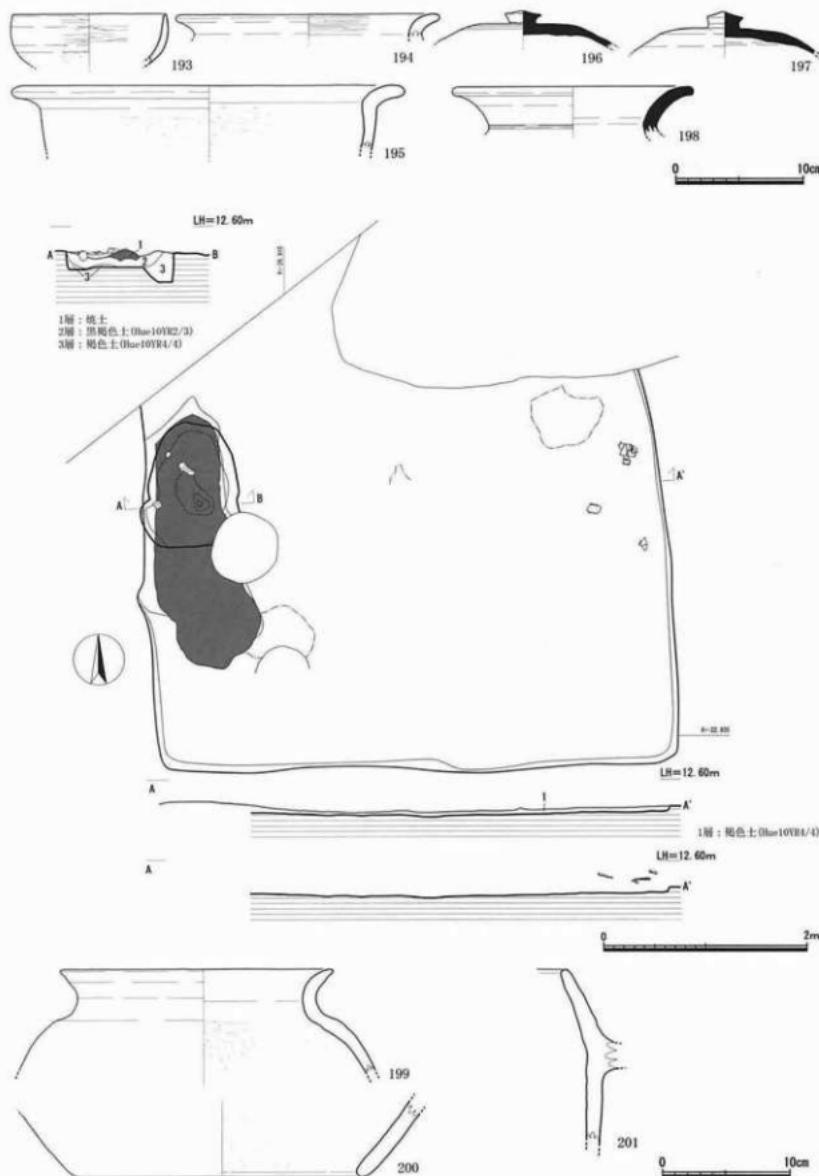
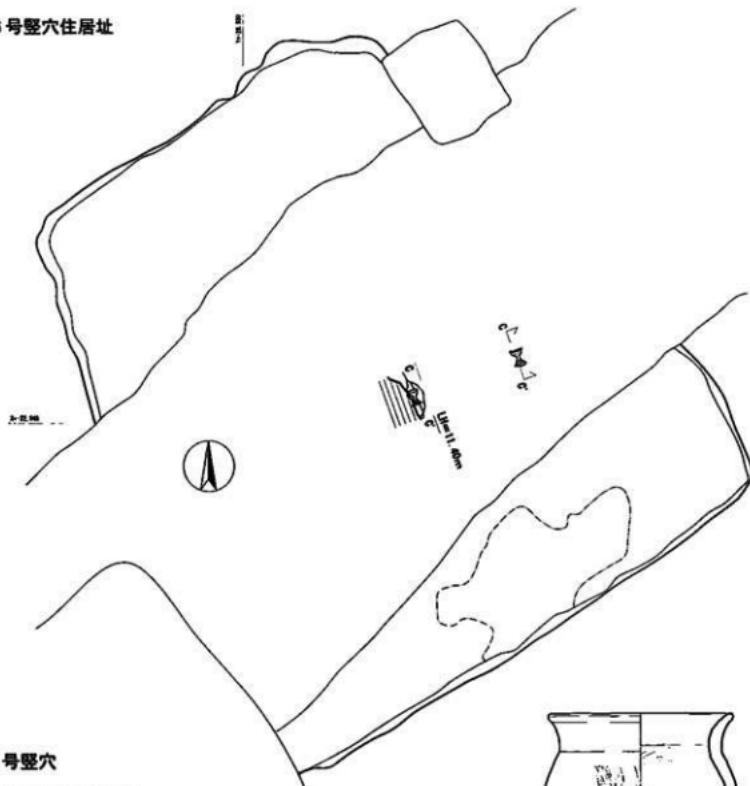


図46 343・355号竪穴住居址出土遺物実測図・355号竪穴住居址実測図 (1/4・1/50)

356号竪穴住居址



357号竪穴

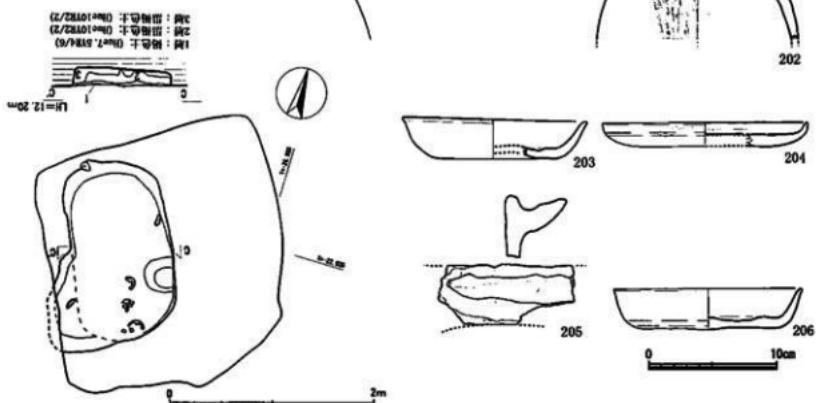


図47 356号竪穴住居址・357号竪穴実測図・356号竪穴住居址・357・348号竪穴出土遺物実測図 (1/50・1/4)

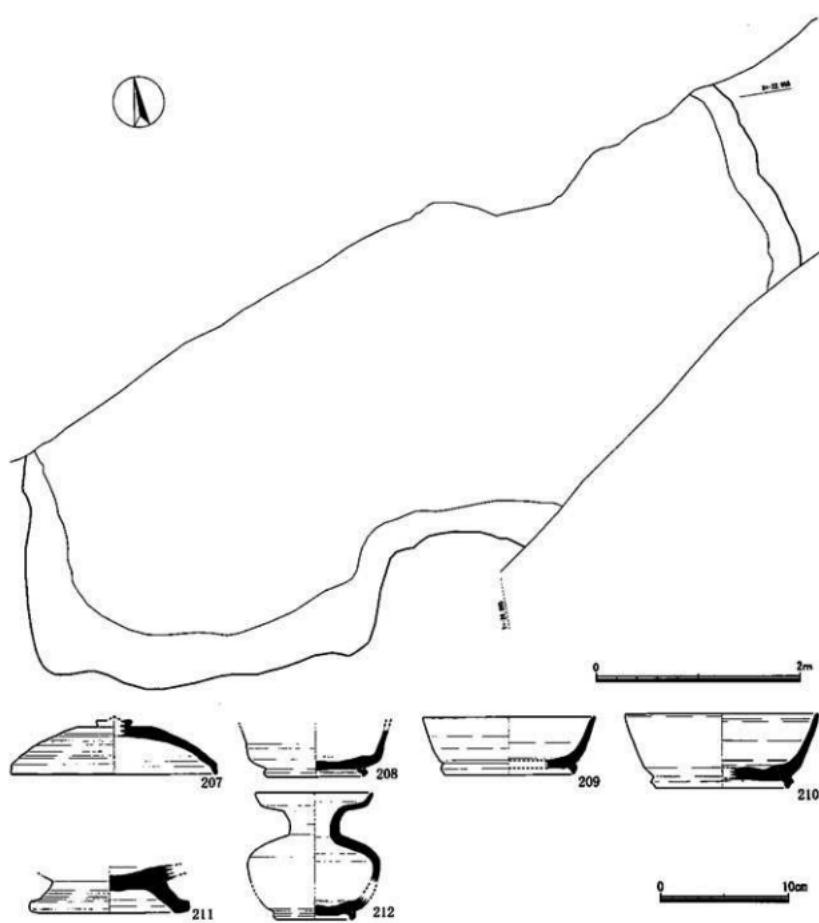


図48 367号竪穴住居址実測図・出土遺物実測図 (1/50・1/4)

357号竪穴 (図47)

II区の中央やや北東より、72号溝上に位置する。現状では、縦2.3m、横2.5m、深さ0.2mの浅い方の掘り込みの中に、縦約1.7m、最大幅約1.3mの楕円形を呈する掘り込みがある。主軸は北北東を向いている。本造構も、346号竪穴のように、住居址としては狭小である。出土遺物は、中の掘り込みからは土師器の壺・皿、移動式竈の底部分が出土し(図47: 203~205)、外の浅い部分から206の土師器壺が出土した。

367号竪穴住居址 (図48)

II区の南側中央に位置する。358号溝が住居址の中央を貫く。しかしながら、本来あるはずの北側

半分は検出できなかった。現状では縦約3.5m、幅約8mである。埋土を掘削すると、住居址のような掘り込みとなったが、床と考えられる面は検出できず、遺物は基盤の砂岩ブロック状の層まで入り込んだ状態であった。出土遺物は図48：207～212で、須恵器の壺蓋、壺、壺などが出土している。

＜古代Ⅱ期の竪穴住居址＞

25号竪穴住居址（図49）

I区の中央やや東寄り、2号溝と4号溝が交差する北東隅に位置する。古墳時代の80号竪穴住居址の西側を切っている。現状では縦3.0m、幅3.2m、深さは0.2mである。住居の主軸は北西からやや東に振れている。住居址の南西隅では竪の跡と考えられる焼土と遺物を検出した。また、住居址の中央には硬化した床面を確認した。出土遺物は図50：213～239で、土師器の壺、甕、須恵器の蓋壺の壺身、壺、甕の口縁部が出土している。231は底部外側に「安」であろうか、墨書がある。225～227・229は古式土師器の甕の口縁であり、また須恵器の蓋にはかえしがつく時期の古いものがあるが、ほかの遺物や住居址の様子から、本住居址は8世紀後葉～9世紀初頭の所産であろう。

114号竪穴住居址（図32）

I区の中央やや東寄り、113号竪穴住居址の北側に位置する。住居址の時期の関係上は113号竪穴住居址のほうが古く、114号竪穴住居址が切る形となるが、113号住居址のプランを確定し掘削した後に114号住居址を確認したため正確な範囲を把握することができなかった。また、攪乱もあり、全容は不明である。西側では、本住居址に伴う可能性がある竪の跡が検出された。住居址の北西角付近で遺物がまとまって出土した。図50：240～242を図化した。土師器甕の口縁部と須恵器蓋壺の蓋である。

157号竪穴住居址（図51）

II区の北西隅に位置する。北側と西側が調査区外に延び、東側は排水管によって既に破壊を受けているため全体のプランは確認できなかった。現状では縦約5m、幅2.3m、深さは0.3mである。住居の主軸は北を向く。床面には土師器や須恵器などの遺物が散在していたほか、硬化した床面も確認できた。調査区の北側の壁に竪が露出していた。精査した結果支柱などが確認された。9世紀前半の設営と考えられる。今回、北壁は検出されておらず調査区外へと遺構埋土は延びるようであるが、竪の位置を考慮すると別の住居址や遺構が重複していた可能性が考えられる。出土遺物は図51：243～266である。土師器の蓋壺の蓋、壺、甕、皿、甕、須恵器の蓋、壺で、古墳時代の遺物（259）が僅かに混入している。250の底部には細い格子状のヘラ記号があり、252の底部には判読できないが墨書がある。

258号竪穴住居址（図52）

II区のほぼ中央に位置する。北側には360号竪穴住居址が隣接し、本遺構が切っている。また、500号掘立柱建物に切られている。東側半分は破壊されており、現状は縦約3.6m、幅3.0m、深さは0.1m程度である。住居の主軸は北からやや西に振れる。住居址の中央部では、硬化した床面が確認された。柱穴は不明である。古代の住居址であり、竪が設置されていたと考えられるが、検出した範囲では確認されなかった。500号掘立柱建物を切っており、時期は8世紀後半以降である。出土遺物は図52：267～271である。土師器壺と甕、須恵器壺である。269の壺の底部には、判読不明であるが、格子状の細いヘラ記号と墨書がある。

300号竪穴住居址（図52）

I区とII区の境、調査区北壁近くに位置する。現状で縦約2.9m、幅約2.9m、深さ約0.5mで、住居址中央では、硬化した床が検出された。柱穴は検出されなかった。主軸は北を向く。住居址の南東隅

1. (医病) 病棟(軸) 新設工事に伴う発掘調査 (9901調査地点)

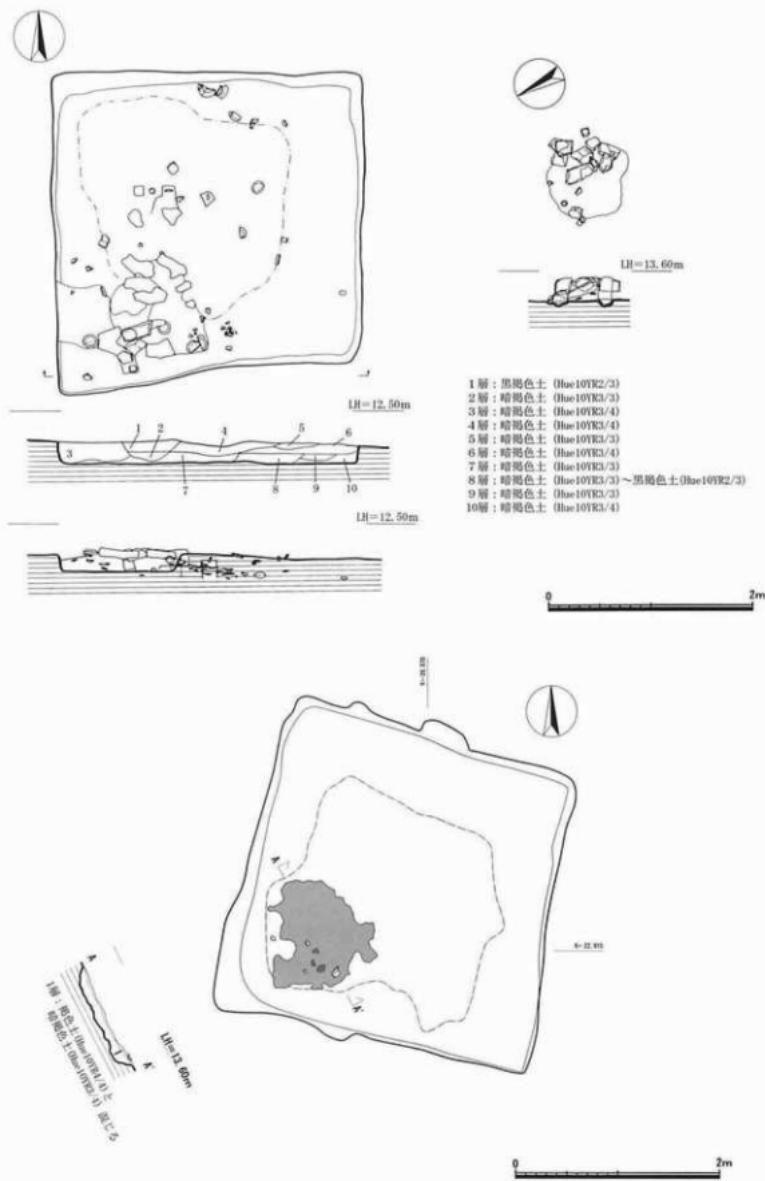


図49 25号竖穴住居址実測図 (1/50)

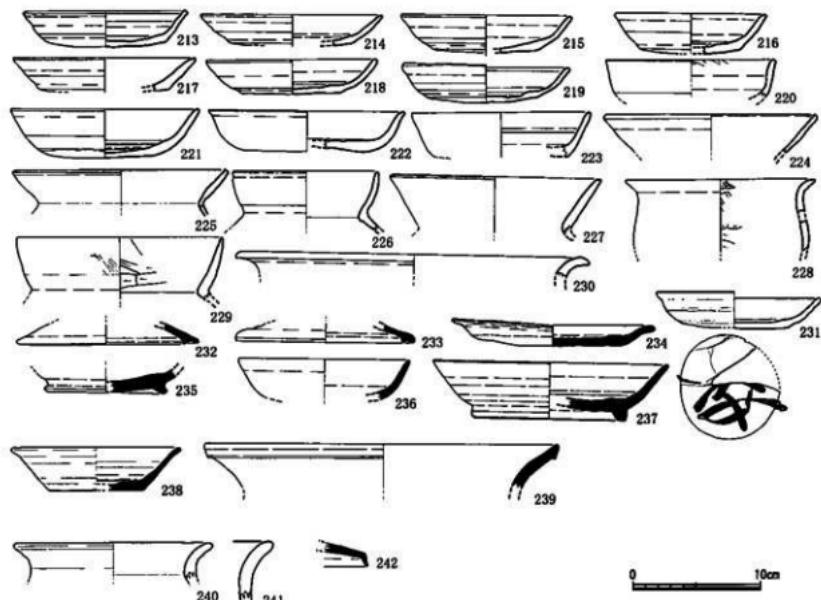


図50 25号竪穴住居址出土遺物実測図 (1/4)

には、竪が造りつけられていた。東壁に一段浅く張り出す部分があるが、これは竪に伴うものと考えられる。また、床の周囲には、幅0.2m、深さ0.1程の溝が壁に沿って掘らされている。このような構造を持つ住居址は、本住居址が唯一である。竪付近では、竪の構築部材と遺物が多量に検出された。出土遺物は図53: 272~314、図78: 653である。土師器の壺・甕と須恵器の蓋、壺、鉢、甕、土錐である。304~310の7点の土師器壺の底部には墨書が記されていた。305・307・309は「安」、306は「女」、308は「五口」である。住居址からの墨書き土器の出土点数は、本庄遺跡では本住居址が最多である。ほかに鉄製品の釘（図79: 685）が1点出土している。8世紀末～9世紀前半の遺物である。

310号竪穴住居址（図54）

I区とII区の境、前調査区の中央部に位置する。300号竪穴住居址の南側で検出された。配管などの搅乱が多く、全体的に削平を受けており、ベルト状に一部が本来の状態で残されていた。大よそのプランは把握できるが、住居址や遺物の残存状態は良くない。現状での推定では、縦約5.9m、幅約5.9mである。住居の主軸は北を向く。東側に竪の跡と考えられる焼土塊があり、ここが本住居址の東壁付近と考えられる。出土遺物は図54: 315~327である。土師器の壺・甕、須恵器の長頸蓋（肩部）である。本住居址からも、墨書きのある壺が1点出土した。文字は判読不明である。このほか鉄製品の刀子（図79: 686）が1点出土している。

359号竪穴住居址

I区とII区の境、調査区の南壁沿い中央に位置する。竪穴住居址の可能性がある遺構の一部が検出

1. (医病) 病棟(軸) 新營工事に伴う発掘調査 (990調査地点)

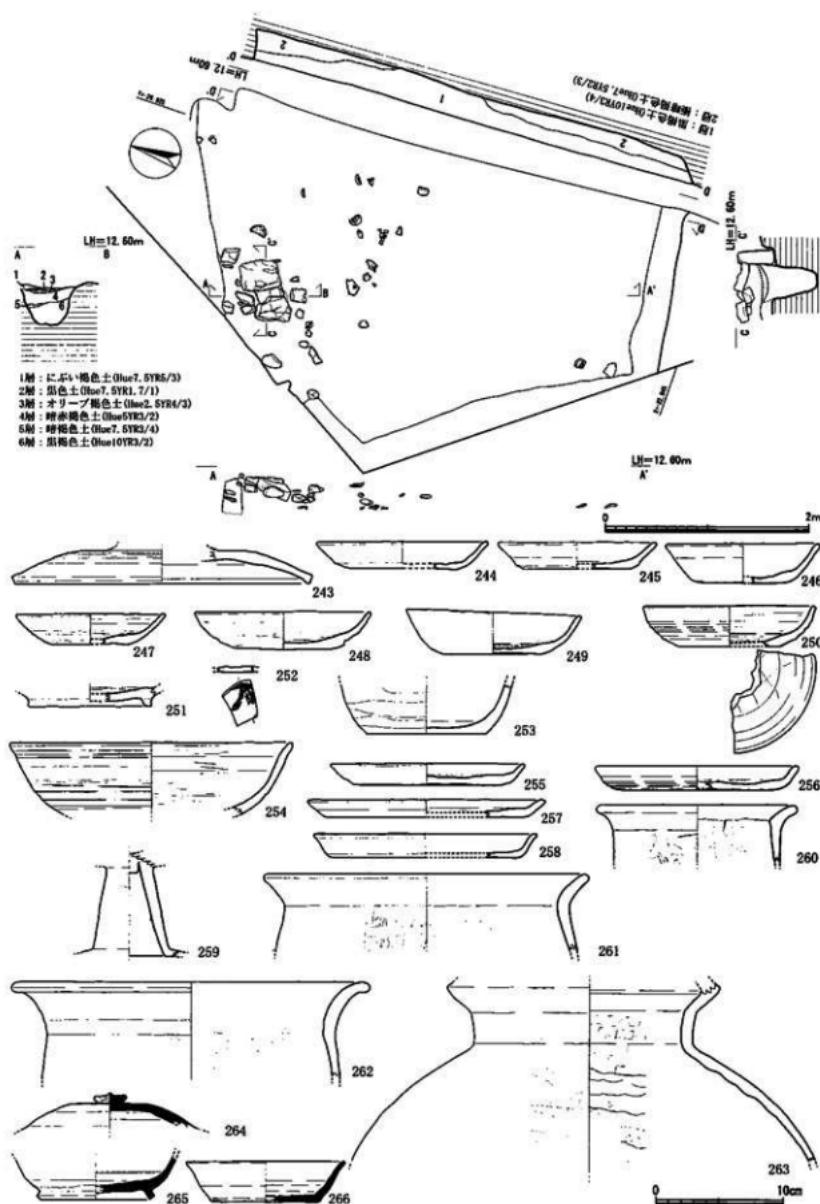
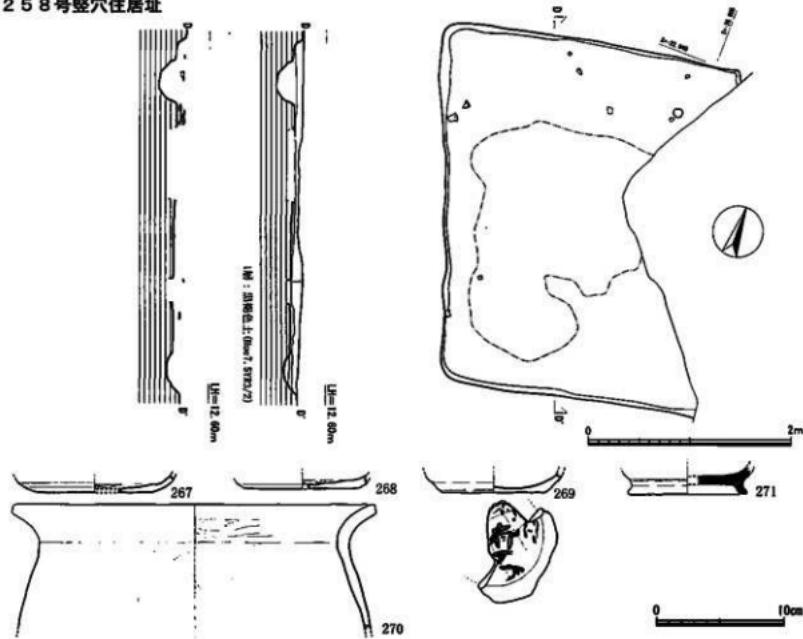


図51 157号竖穴住居址実測図・出土遺物実測図 (1/50・1/4)

258号竪穴住居址



300号竪穴住居址

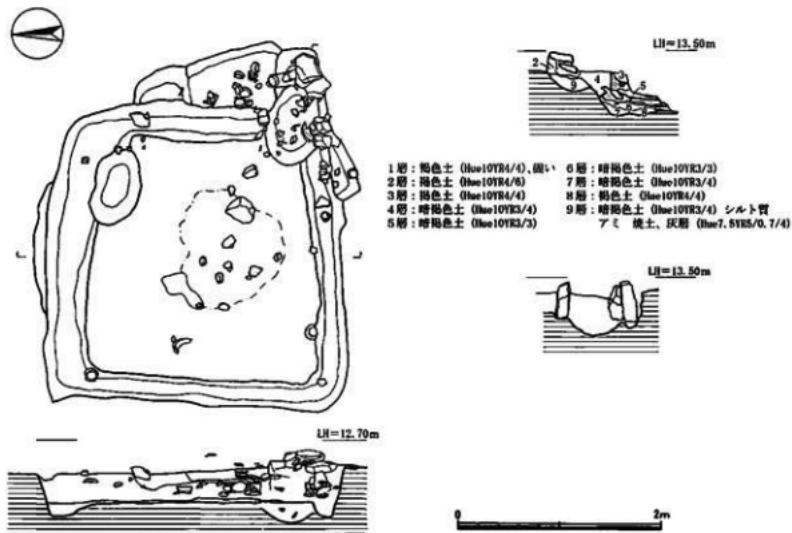


図52 258号竪穴住居址実測図・出土遺物実測図・300号竪穴住居址実測図 (1/50・1/4)

1. (医病) 病棟(軸) 新營工事に伴う発掘調査 (9901調査地点)

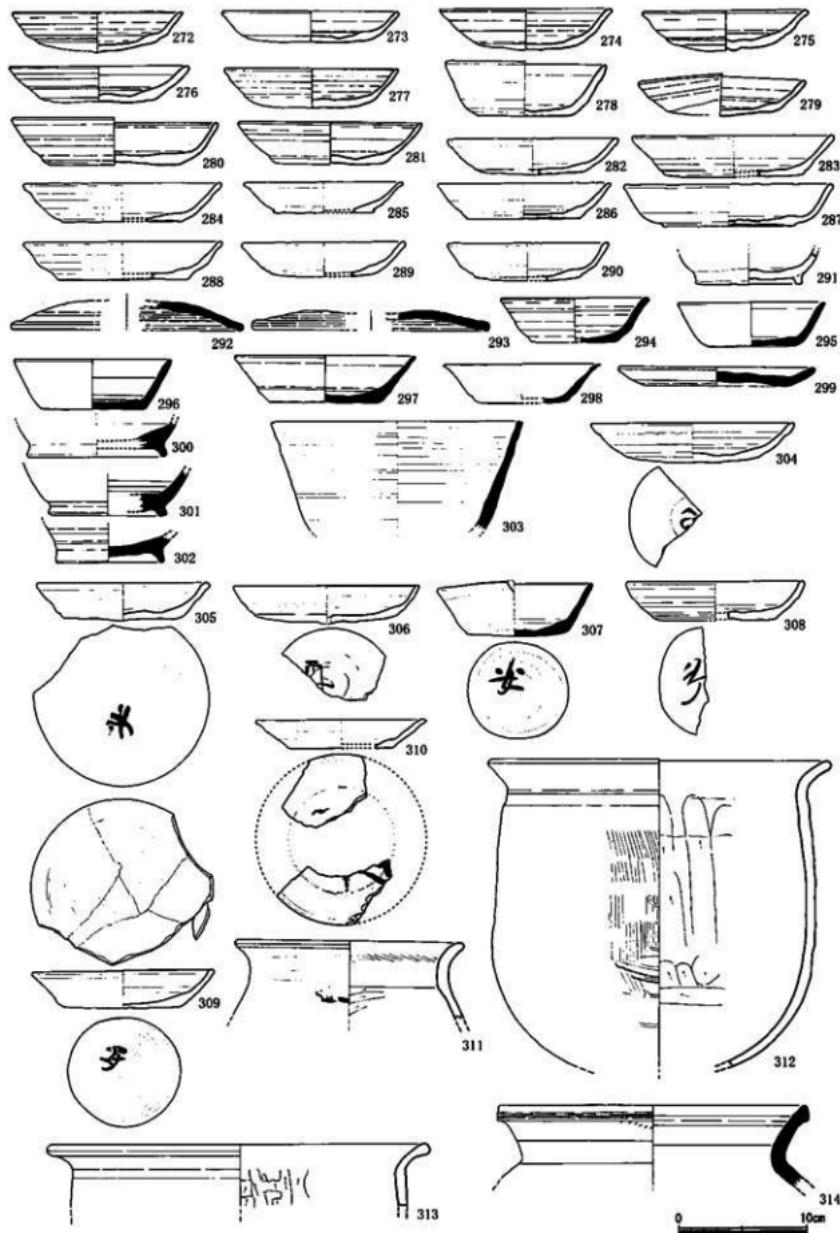


図53 300号竖穴住居出土遺物実測図 (1/4)

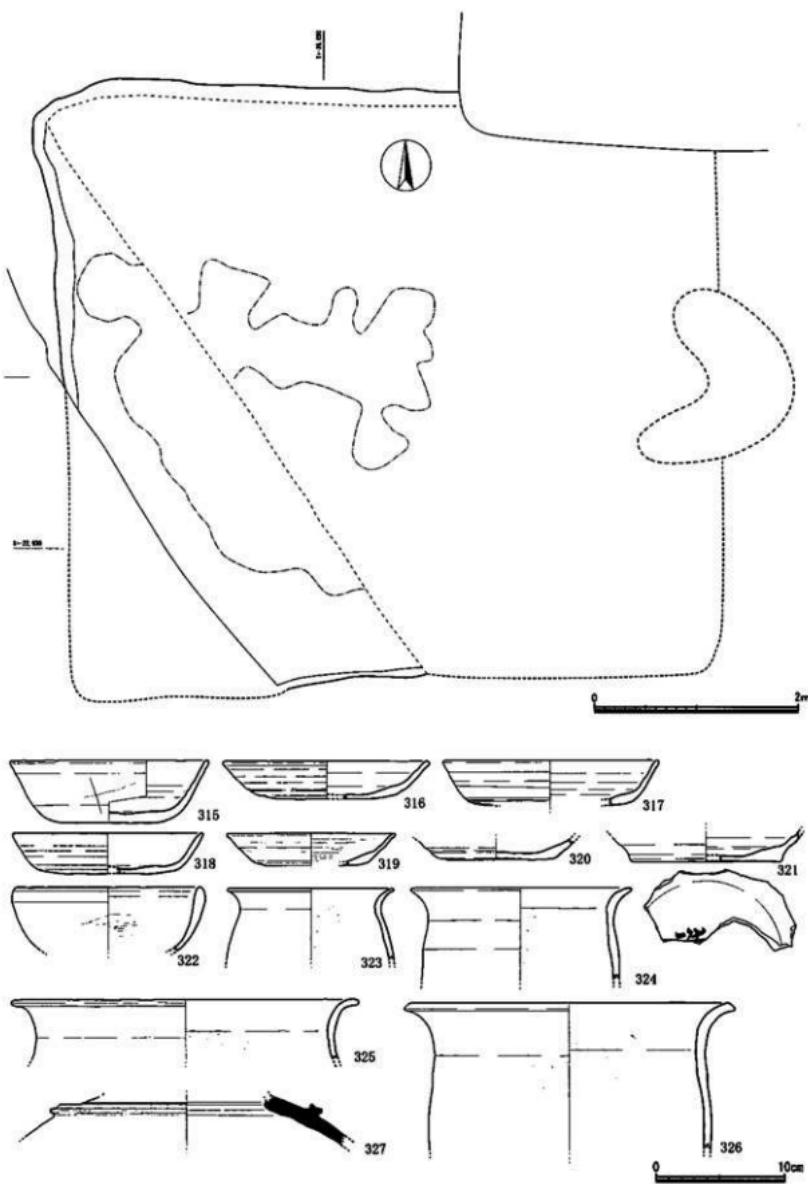


図54 310号竪穴住居址実測図・出土遺物実測図 (1/50・1/4)

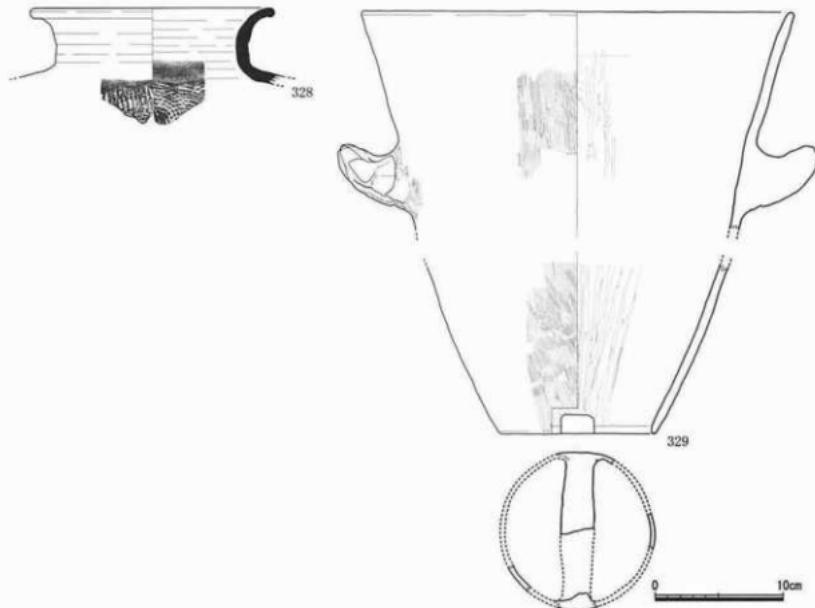


図55 359・362号竪穴住居址出土遺物実測図 (1/4)

された。現状では縦約0.8m、幅約3.0mである。主軸は北西からやや南に振れる。出土遺物は須恵器の壺の頸部である(図55:328)。

362号竪穴(図38)

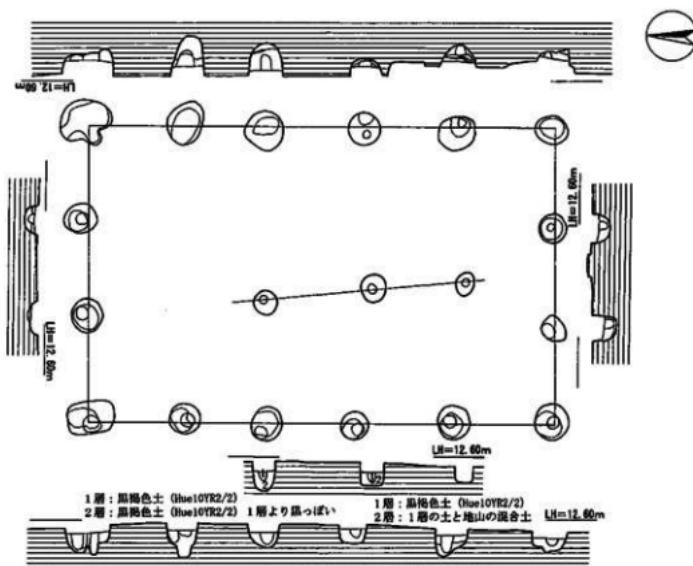
II区の中央やや北東寄り、361号竪穴住居址の西側に位置する。西側は360号竪穴住居址、北側は72号溝、東側は361号竪穴住居址が隣接する。361号竪穴住居址と同様に、住居の北側半分以上を72号溝によって破壊されている。現状では、縦約2.0m、幅4.6m、深さ約0.5mである。主軸は北を向く。遺構プランはほかの竪穴住居址と同じで、5m四方の住居址に復元できそうであるが、本遺構もほかの住居址と比較すると、深さがある。完掘時では、床と思われるような平坦な面は検出されず、柱穴もない。361号竪穴住居址と同様に、掘削時に床面と考えられる平面は検出されず、砂岩ブロック状の基盤層が底部で検出された。出土遺物は図55:329の、土師器の壺である。底部の蒸気孔は棲渡タイプである。

<掘立柱建物址>

本調査区では、6棟の掘立柱建物址を確認した。掘立柱建物址は、古代の遺物包含層に掘り込まれている。I区では柱穴列の把握が困難で調査後に認定した。II区では遺物包含層上で把握することができた。500・501号以外は、調査区の北西外に広がり、全体の確認は出来なかつた。このほかに南北や東西に並ぶピットがあり、本来は掘立柱建物を構成する柱穴である可能性がある。

500・501号掘立柱建物

500号掘立柱建物



501号掘立柱建物

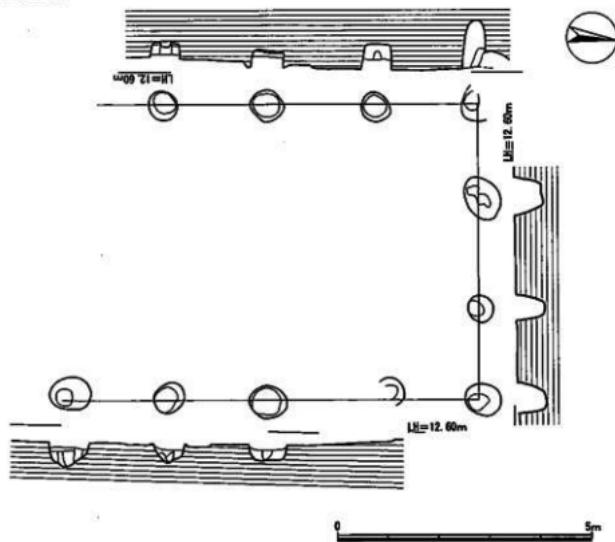


図56 500・501号掘立柱建物実測図 (1/100)

1. (医病) 病棟(軸) 新營工事に伴う発掘調査(9901調査地点)

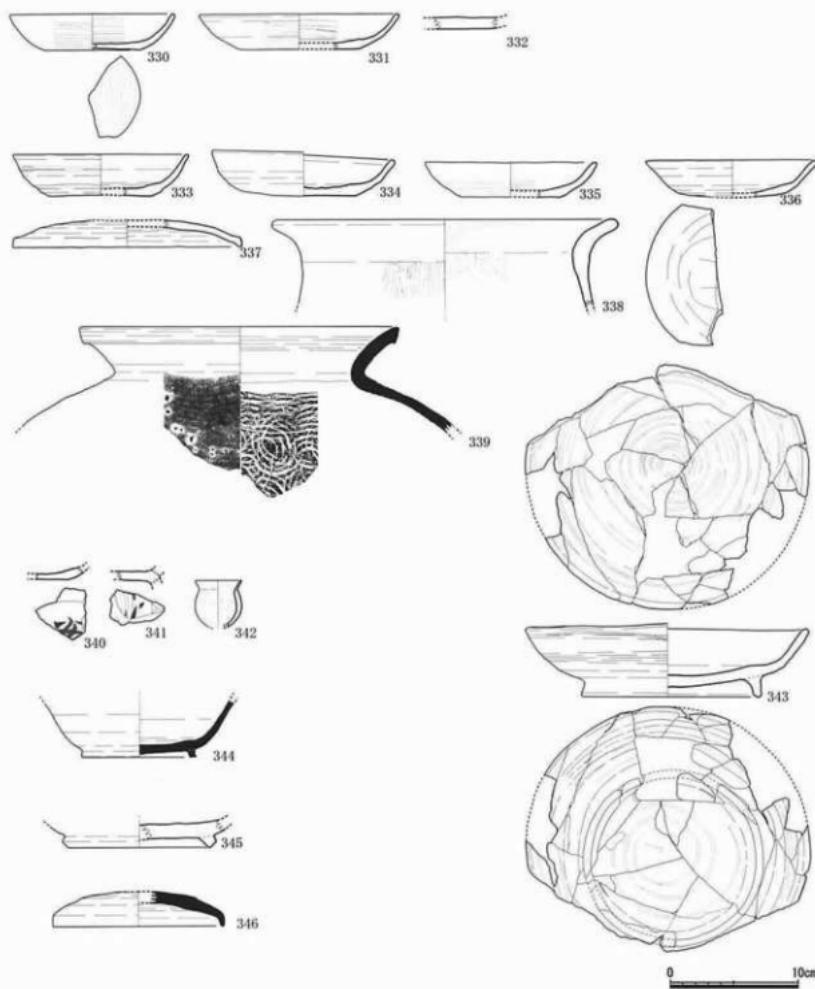


図57 500・501・502・503号掘立柱建物出土遺物実測図 (1/4)

500号掘建柱建物址 (図56)

II区の北側中央で検出した。桁行5間、梁行3間の掘立柱建物である。主軸は南北方向である。72号溝が埋没した後、355号竪穴住居址の上に設営されている。柱間は桁行・梁行とも1.8~2mである。柱穴は径が55cm~70cm、柱痕は径25cmである。検出面からの深さは30cm~80cmである。建物の方位からは8世紀後半以降と考えられ、355号竪穴住居址を切る事から8世紀代も終り頃の可能性がある。

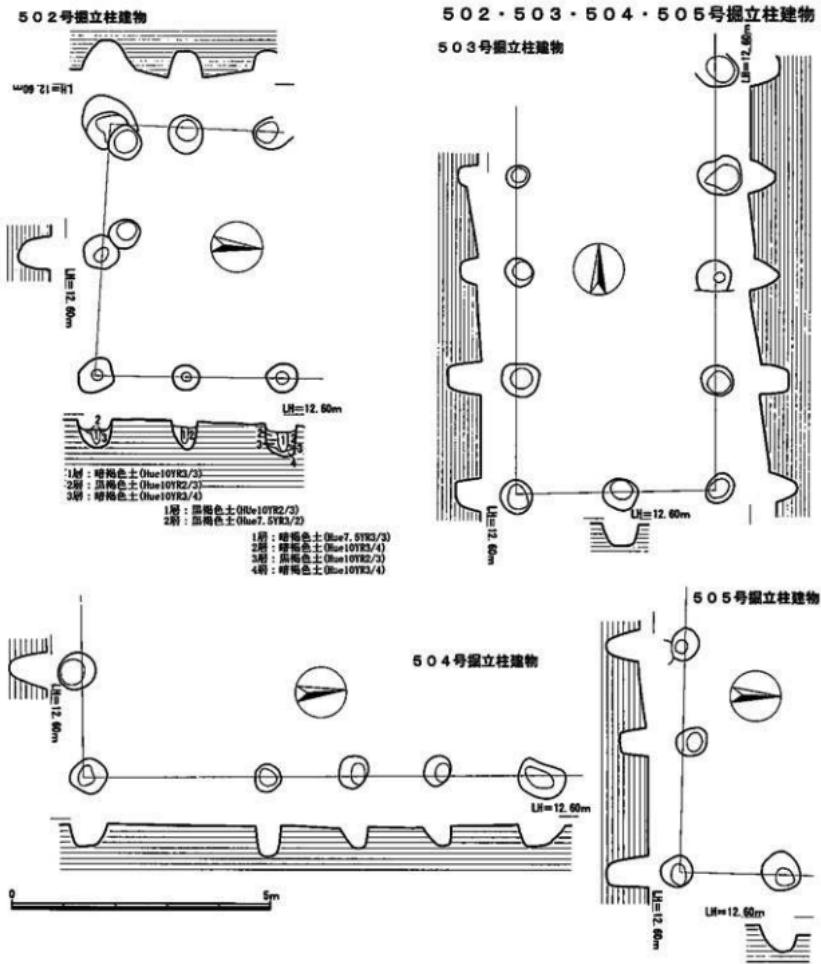


図58 502・503・504・505号掘立柱建物実測図 (1/100)

あろう。出土遺物は図57:330～332で、土師器の壊が出土している。8世紀末～9世紀初頭と考えられる。

501号掘立柱建物址 (図56)

II区の北西、500号掘立柱建物址の4mほど西側で検出された。500号と主軸を描えている。南側が擾乱のため不明だが、500号と同じ3間×5間の建物であったと考えらえる。調査終了後に認定した。柱間は1.8～2m、柱穴は径が55cm～80cm、柱痕は径約25cm、検出面からの深さは30cm～50cmで

ある。設営時期は500号と同じ頃と思われる。出土遺物は図57:333~339で、土師器の壺、蓋、甕、須恵器甕などである。また、鉄製品の鎌(図79:687)が1点出土している。

502号掘立柱建物址(図58)

II区の北側中央で、355号竪穴住居址と500号掘立柱建物址と重複して検出された。北半分が調査区以北に延びるため全体は分からぬ。桁行3間以上、梁行3間の建物である。調査終了後に認定した。主軸は南北方向をとり500号と向きを揃えている。柱間は桁行が約1.9m、梁行が約2.3mである。柱穴は径が50~80cm、柱痕は15~20cm、深さは50~60cmである。355号住居址を切っているか500号との前後関係は判断し難い。出土遺物は図57:340~344である。土師器壺、須恵器壺と甕形のミニチュア土器が出土している。340・341の2点の土師器の壺の底部には墨書きがある。文字は判読不明である。

503号掘立柱建物址(図58)

調査区の北側中央付近で検出した。調査終了後認定した。北側がさらに調査区外に延びるのは不明である。現状では桁行4間、梁行2間である。主軸は南北方向を向いており、上記の掘立柱建物と方向を揃えている。柱間は桁行で1.9~2m、梁行で1.9m、柱穴は40~70cmである。出土遺物は図57:345~346で、土師器壺と須恵器蓋である。8世紀後半の所産と考えられる。

504号掘立柱建物址(図58)

調査区の北側中央付近、503号掘立柱建物址と重複して検出された。調査終了後に認定した。北側がさらに調査区外に延びるのか、また西側は何間となるかは不明である。現状では桁行5間、梁行1間である。主軸はおおむね南北方向を向いているがやや東に振れており、上記の掘立柱建物とは方向が微妙にずれる。柱間は桁行で1.7~2m、梁行で2.0m、柱穴は50~70cm、深さは45~70cmである。

505号掘立柱建物址(図58)

調査区の北側中央付近、503号掘立柱建物址の西側0.8mで検出された。調査終了後に認定した。桁行き、梁行きともに調査区外に延びると考えられる。現状では桁行1間、梁行2間である。主軸は南北方向を向いており、500号や501号などの掘立柱建物と方向を揃えている。柱間は桁行で2.1m、梁行で1.9~2.5m、柱穴は60~75cm、深さは50~80cmである。

この他掘立柱建物となると思われるピットが4棟分あると認識している。

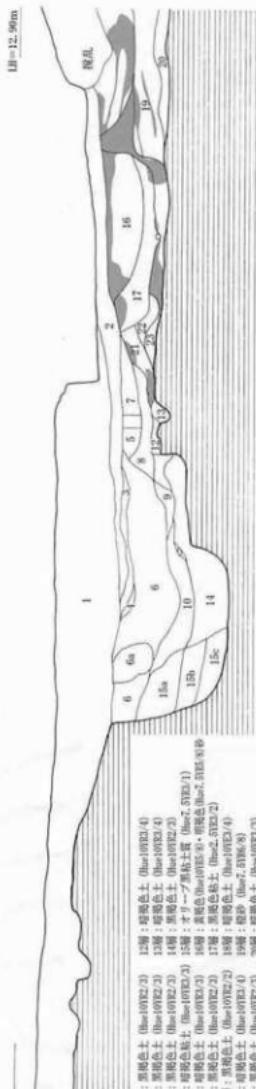
<溝>

本調査区では、古墳時代から近世に至るまでの大小さまざまな溝が検出された。溝は、調査区の南側を東西に横断するものが多い。地形的に西側から東側に向かって流れている。調査区南側の溝が集中する範囲は、水の作用の為であろう、マンガンと思われる鉱物の沈着が著しく、溝の形状がそのままコーティングされた状態のものが多い。古墳時代・古代の溝はまとめて造構番号に則して記述し、最後に近世以降の溝について記述する。

1号溝

1号溝は、調査区の南側を北東~南西方向に貫く溝である。幅最大2m、最も深いところで1.2mである。I区で2号溝、72号溝と交差し、交差する地点から西側では幅を1m前後にたもって西南から北東に向かって流れている。II区では381号溝として掘削したが、同一の溝と判断した。8世紀前半には埋没したと考えられる4号溝、それを切る379号との関係を整理すると、1号溝は9世紀前半の設営と考えられる。出土遺物は図60:347~392、図61:393~417、図62:418~435、381号として取り上げた図75:631~633、図78:654~655である。土師器の蓋、壺、皿、甕、鉢、移動式竈、

1号溝



1B=12.96m

5号溝

1B=12.30m

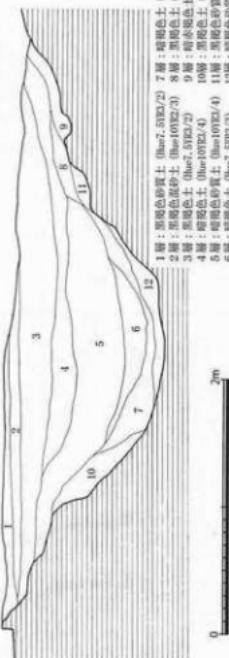
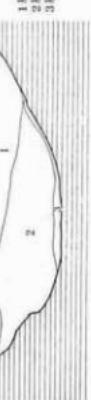


図59 各構造土層断面実測図 (1/20・1/40)

37号溝

1B=12.69m



1B=12.30m

72号溝

1B=12.89m



1. (医病) 病棟(船) 新設工事に伴う発掘調査 (9901調査地点)

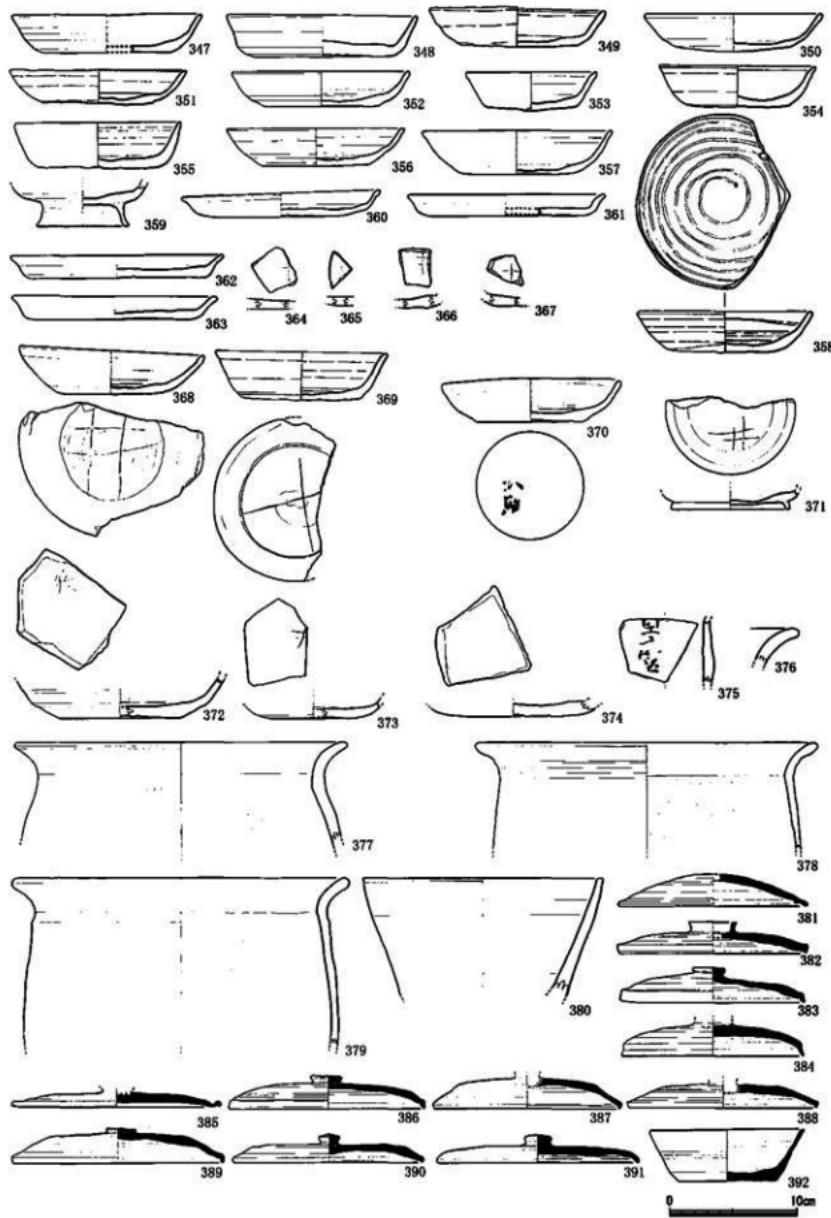


図60 1号溝出土遺物実測図 1 (1/4)

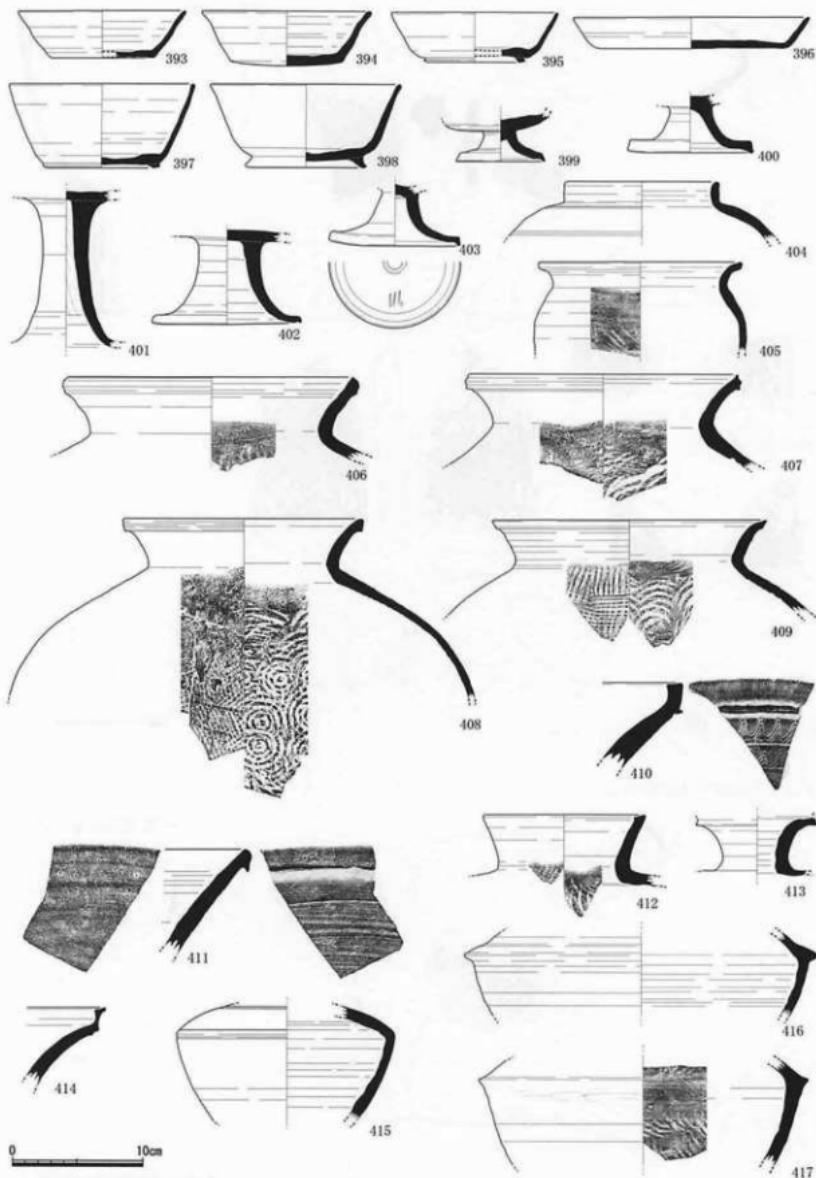
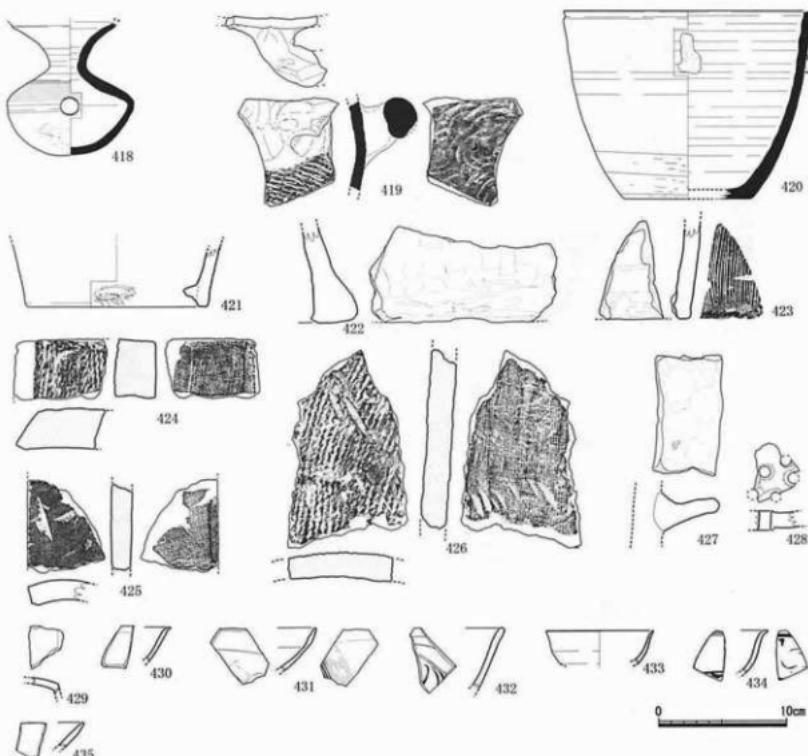


図61 1号溝出土遺物実測図2 (1/4)

1. (医病) 病棟(軸) 新宮工事に伴う発掘調査 (9901調査地点)



38号土器破碎土器集中部

72号溝須恵器出土状況



図62 1号溝出土遺物実測図3・38号破碎土器集中部・72号溝須恵器出土状況実測図 (1/4・1/50)



図63 4号溝出土遺物実測図 1 (1/4)

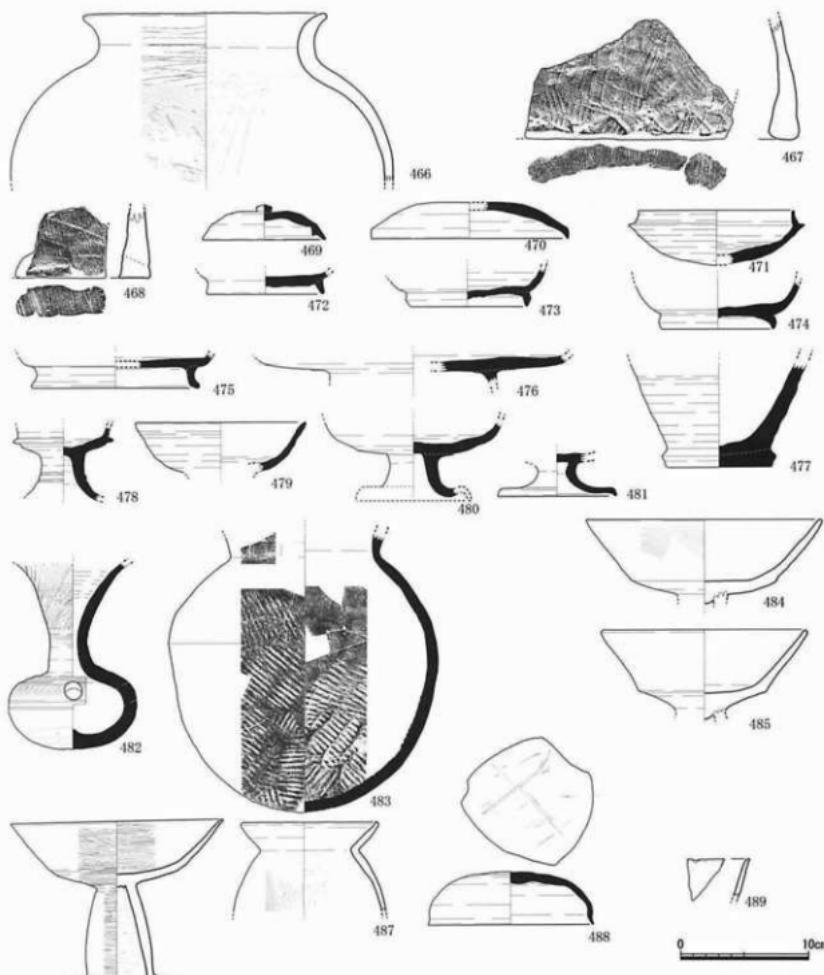


図64 4号溝出土遺物実測図2 (1/4)

須恵器の壺、高壺、甕、長頸甕、瓶、瓶、布目瓦、土製品（陶製紡錘車、漁網錘）、陶器類が出土した。364～367、371～374は見込みに刻書があり、364・367は「十」または「井」、365は不明、366・371・373は恐らく「井」、372は「□牧」である。374は「七木」のようだが「柒」か。368と369は底にヘラ記号でそれぞれ「井」「十(×)」と刻まれている。370は「赤or水間」、375は「□麻呂」のようである。403は脚の内側に三本の線が「川」の字のように刻まれている。8世紀後半から9世紀前葉のものが主体である。図62：429～435は中世以降の陶磁器類である。429は近世の陶器か。

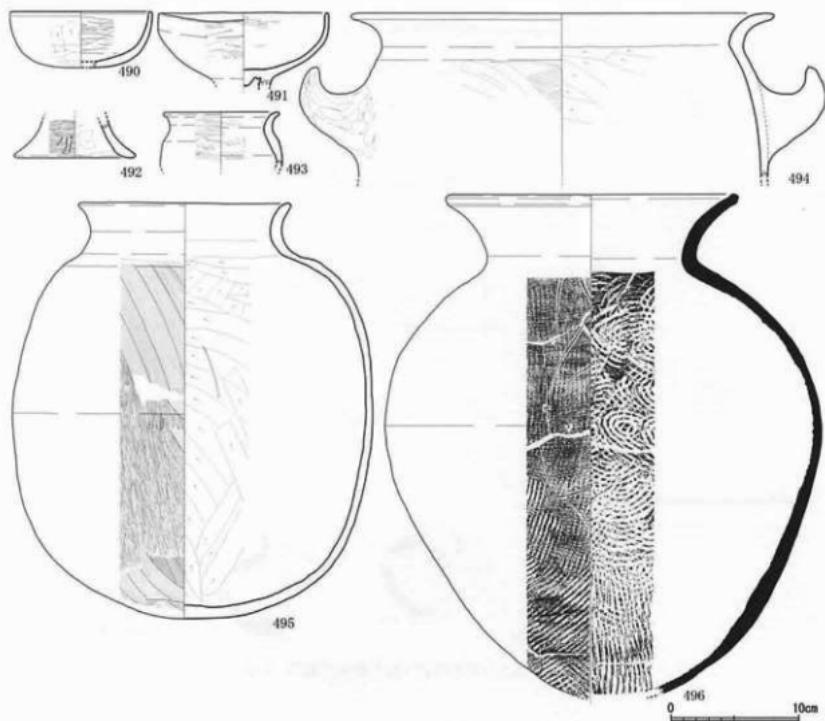


図65 4号溝内38号出土遺物実測図 (1/4)

430は白磁で11世紀後半～12世紀前半、431は同安窯の青磁碗、432・435は龍泉窯の青磁碗で12世紀中葉～後半である。433は小碗の磁器で、時期は不明である。434は肥前陶磁である。このほか、鉄製品の刀子（図79：688）が出土している。

4号溝

4号溝は、調査区の中央を北東～南西に貫く溝である。1号溝より若干北に振れている。幅約2.2m、深さ1.1m前後で一直線に掘削され北東から南西に向かって流れている。古墳時代前期の住居址を切っているが、5世紀には既に設営・利用されていたと思われる。上面で土師器壺と須恵器壺等を並べるか重ねて故意に破損してあり、祭事を行った跡と思われる（38号遺構）。また、72号溝と交差する調査区有中央付近では、馬と思われる動物の頭部骨が検出された（95号遺構）。水に関する祭祀が行われたと思われる。溝は8世紀前半には埋没していたと考えられる。出土遺物は図63：436～465、図64：466～489、図65：490～496、図66：497～499、図78：681・682である。土師器の蓋、壺、高壺、壺（瓶）、壺、須恵器蓋、壺、高壺、甕、盤、鉢、壺、古墳時時代の古式土師器の高壺、壺、須恵器蓋、白玉、ガラス玉が出土した。おむね7世紀代～8世紀前半の所産であるが、古墳時代の遺構を切って設営されたため、古墳時代の遺物を含む。また、446は糸切り底の土師器の小皿で、後世の遺

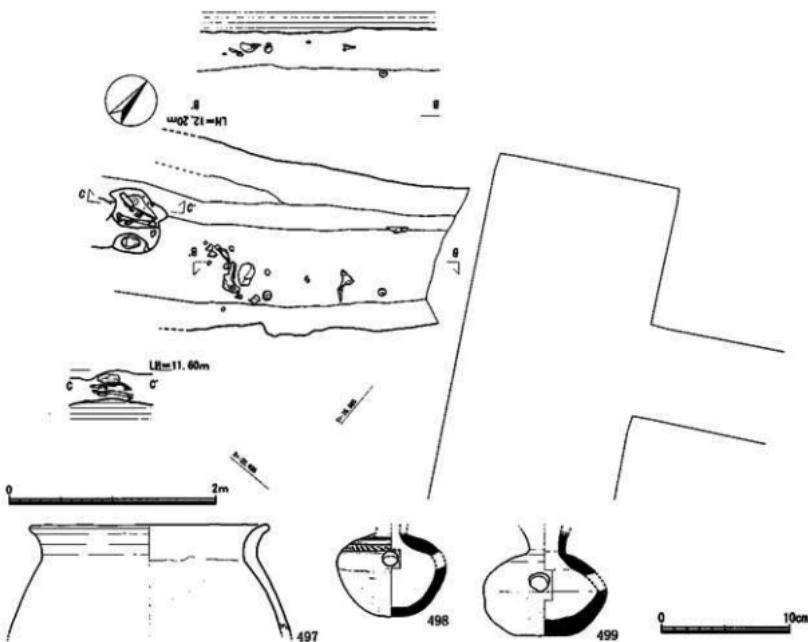


図66 95号馬骨出土状況実測図・出土物実測図 (1/50・1/4)

物が混入している。465は、灰色を呈し須恵器のようであるが、胎土に砂が多量に混入し、焼成は軟らかく須恵器のような堅緻さがない。頸部には、半週ほど縱にヘラ描きした棒線の文様がある。図63:489は白磁である。近世の所産か。38号遺構から出土した遺物は6世紀後半～7世紀前半とみられ、推定される4号溝の埋没年代より古い。溝の埋没後に古い土器類を集めて破壊したと考えられる。

15号溝

I区の南壁沿い、1号溝の南に位置する。幅が約1m、深さが20cm程度の細く深いみぞである。15号溝は周辺と同じくマンガンの沈着があるが形状は不明確である。砂とマンガン層が互層となって堆積していた。出土遺物は図67:500～507で、7世紀代～8世紀代の土師器の壺、須恵器壺、壺・甕の口縁部などが出土した。

37号溝

I区の中央に位置する、舌状の溝状遺構である。幅約1.8m、深さは30～5cmの浅い溝である。南側は72号溝と接していたようだが、北側は二股に分かれ、それぞれ次第に浅くなり消える。出土遺物は図67:508～518で、土師器の蓋、壺、甕、高壺（？）が出土した。7世紀代～9世紀中葉の所産と考えられる。

57号溝

調査区中央に位置し、南西から北東に流れる溝である。幅約1m、深さは最も深いところで約50cm



図67 15・37・57号溝出土遺物実測図 (1/4)

1. (医病) 病棟(軸) 新設工事に伴う発掘調査 (9901調査地点)

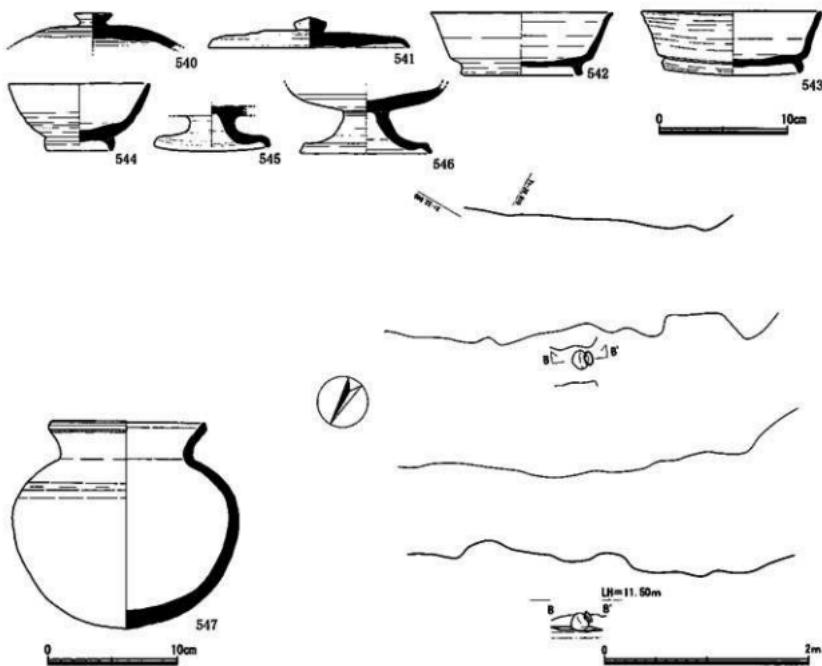


図68 57号溝出土遺物実測図・369号壺出土状況実測図・出土遺物実測図 (1/4・1/50)

である。72号溝と4号溝がある程度埋没した段階で新たに掘りこまれている。8世紀中頃以降の設営と推定される。東西の両端は不明瞭で本来の長さや流路は把握できなかった。遺物より8世紀中頃から利用され短期間のうちに埋没したと思われる。出土遺物は、図67：519～539、図68：540～546、図78：656・657である。土師器の壺、碗、甕、櫃、須恵器の蓋、碗、高壺、土製紡錘車、土錐である。土師器壺の526と528は「大」あるいは「火」か、刻書がある。8世紀後半のものを中心に7世紀代から9世紀代の所産のものがある。

58号溝

調査区中央を北に向かって流れている。幅0.8m、深さ0.15mの小さな溝である。方位から8世紀後半以降、条里にならって設営されたものと思われる。

72号溝

72号溝は、調査区を湾曲しながら東西に走る。72号はII区では幅約3.4m前後、深さは1.3m前後で安定しているが、調査区の中央より東では擾乱やその他の溝との重複などにより形状が一定しない。川底はマンガンと砂の互層となっていた。その中には、破損のない遺物が含まれている(369号・371号)。遺物より6世紀中頃には設営・利用され、8世紀後半までには埋没したと思われる。出土遺物は図68：547、図69：548、図70：549～562、図71：563～565、図72：566、図78：676である。土師器の高壺、櫃、須恵器の高壺、甕、移動式竈、石製紡錘車である。6世紀後半～7世紀中ごろの所産で

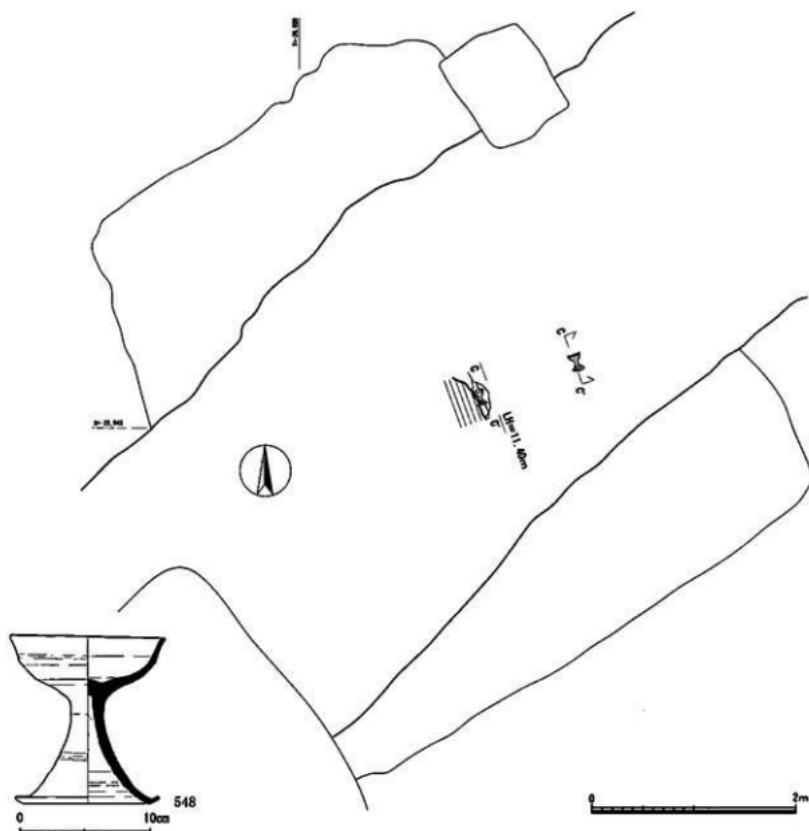


図69 371号土器出土状況実測図・出土遺物実測図 (1/50・1/4)

ある。72号溝からは古式土師器も大量に出土しており、機会を改めて報告したい。

74号溝（図73）

調査区の中央、やや南に位置し、北西—南東方向に走る。幅0.7m、深さ0.3mの小さな溝である。北は72号溝57号溝と交差し、南は156（380）号溝と交差する。時期の特定は遺物が少なく困難である。出土遺物は図73：567～568、図78：677で、須恵器蓋と長頸壺の胴部、石製紡錘車である。7世紀末葉の所産と考えられる。92号堅穴住居址の埋没後、7世紀代に設営され、短期間に埋没したと考えられる。

156・380号溝

調査区の南側を1号溝と並行して、調査区を北東—南西方向に貫く。156号溝は幅2.6m前後、深さ0.2mである。2号溝に切られている辺りで1号溝がゆるく湾曲しているが、両者はこの辺りで重なる。

1. (医病) 病棟(軸) 新宮工事に伴う発掘調査 (9901調査地点)

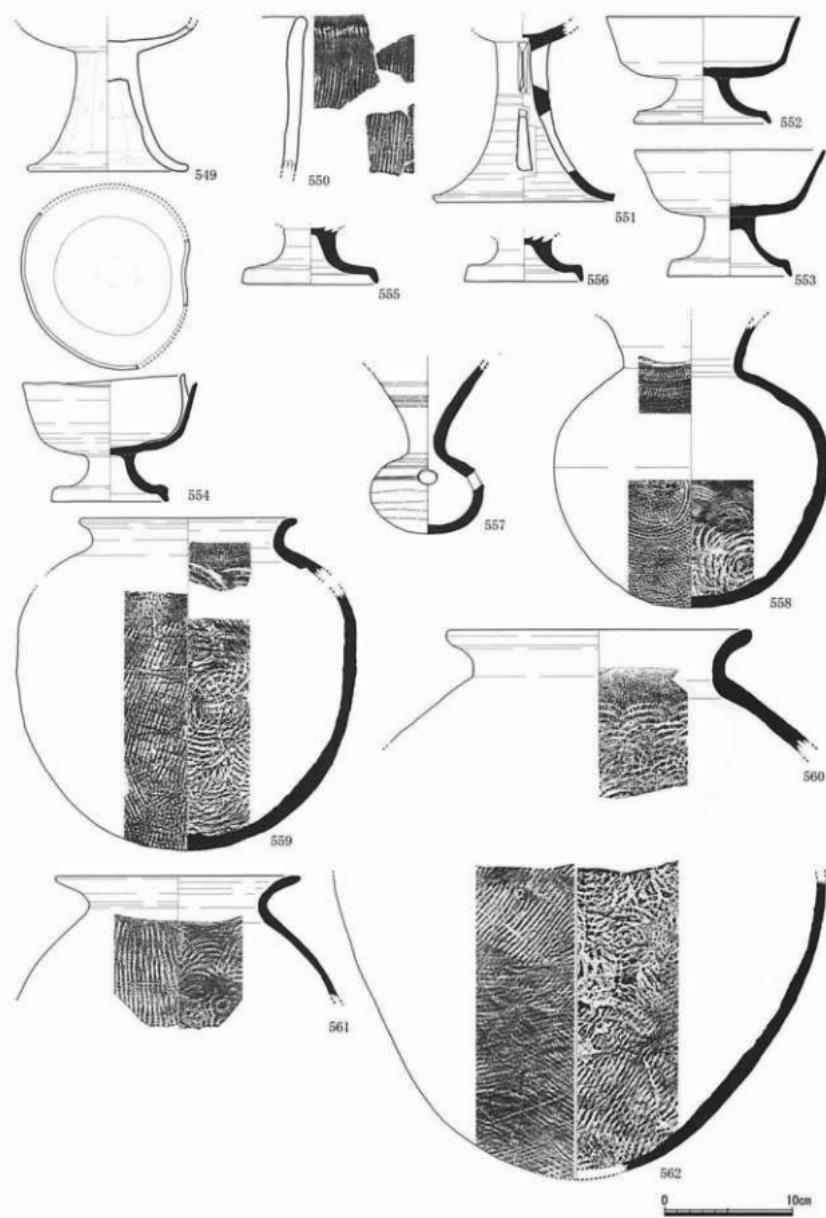


図70 72号溝出土遺物実測図 1 (1/4)

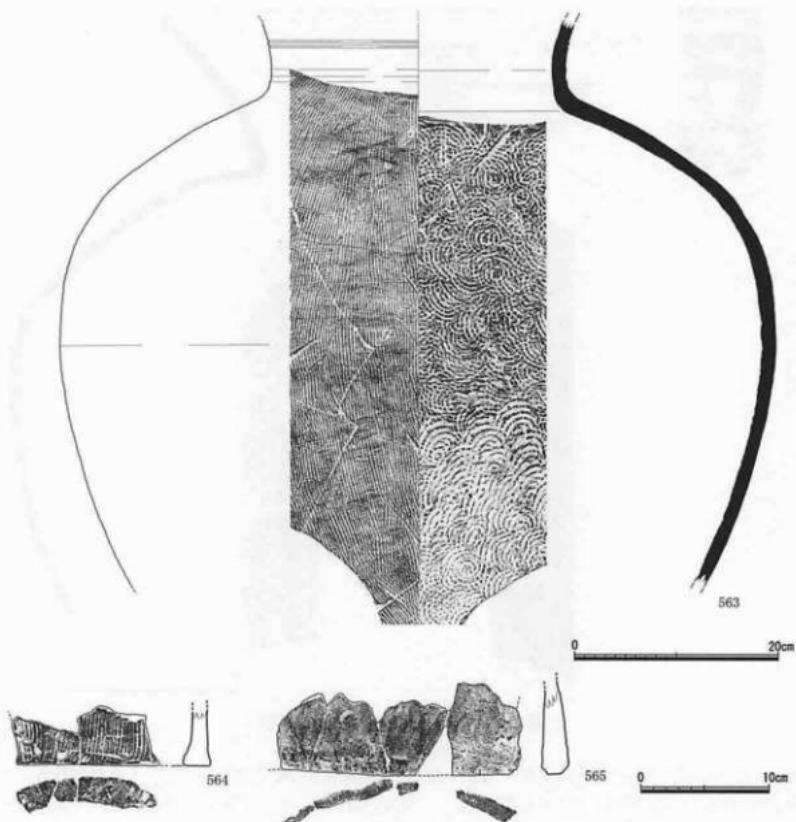


図71 72号溝出土遺物実測図2 (1/5・1/4)

るものと思われる。1号溝と同様、水の作用によるマンガン沈殿物と思われる鉱物で被覆されていた。設営時の溝の形状をとどめていると思われる。遺物の年代と切り合いから、4号溝よりは早い8世紀前半に埋没したと考えられる。I区では156号、II区では380号とし、最終的に両者が同一の溝であることを確認した。出土遺物は図73:569と、380号として取り上げた図75:627~630ある。また、刀子(図79:689)が1点出土している。8世紀前半の所産と考えられる。

289号溝(図74)

調査区の中央、300号竪穴住居址の北側に位置する。北西-南東方向に走るが、北は調査区外に延び、南は300号竪穴住居址の手前で途切れる。幅0.7m、深さ0.1mである。

358号溝

調査区の南側を380号溝や1号溝と並行して、調査区を北東-南西方向に貫く。幅1.5m前後、深さ

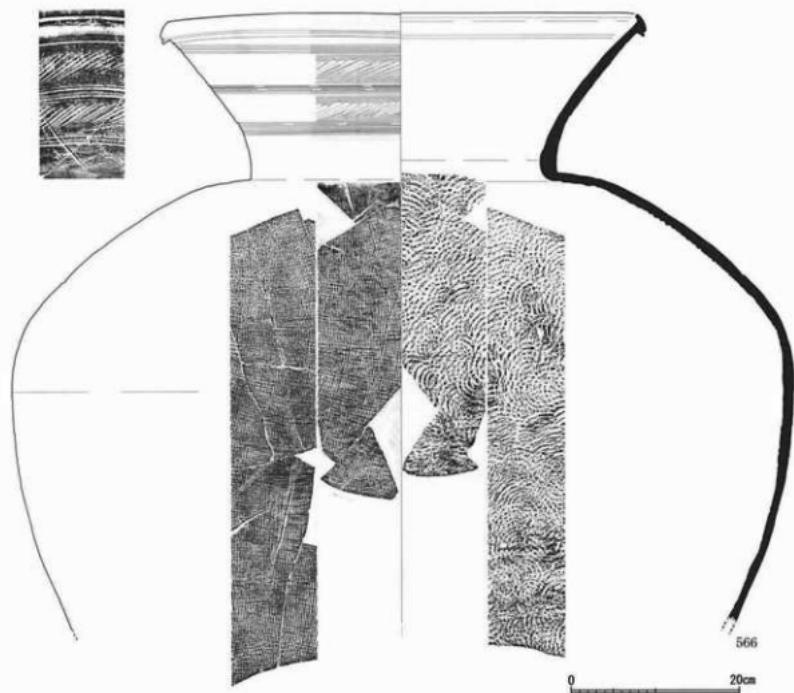


図72 72号溝出土遺物実測図3 (1/6)

0.4mである。380号溝と同様に鉱物の沈着により、設営時の溝の形状をとどめていると思われる。出土遺物は図73: 570~591、図78: 658である。土師器の蓋、壺、高壺、甕、須恵器の蓋、壺高壺、土錐である。576は墨書、577・582は刻書がある。577・578は判読不明であるが、583は「主帳(恨?)」と読める。また、582は蓋の頂部に×印のヘラ記号がある。6世紀末・7世紀初頭～9世紀中ごろまでの遺物があるが、8世紀後半のものが主流を占める。

365号溝

II区の南西隅に位置する、溝状の遺構である。深さは0.5mで、西に向かって深くなる。西側の肩は調査区外である。358号溝の北側では、本溝の続きは検出されなかった。出土遺物は図74: 592の土師器の高壺である。6世紀末～7世紀初頭の所産と考えられる。

373号溝 (図37)

調査区の南西隅を東西に走る。西端は358号溝に切られ、東端は調査区外に伸びる。幅0.6m、深さ0.15mの細く小さな溝である方向は、条里に合わせたものと考えられる。373号溝は、鉱物の沈着はなかった。

374号溝 (図37)

II区の北西、501号掘立柱建物の北側に位置する。調査区の北壁から南に舌状に延びる溝状の掘り

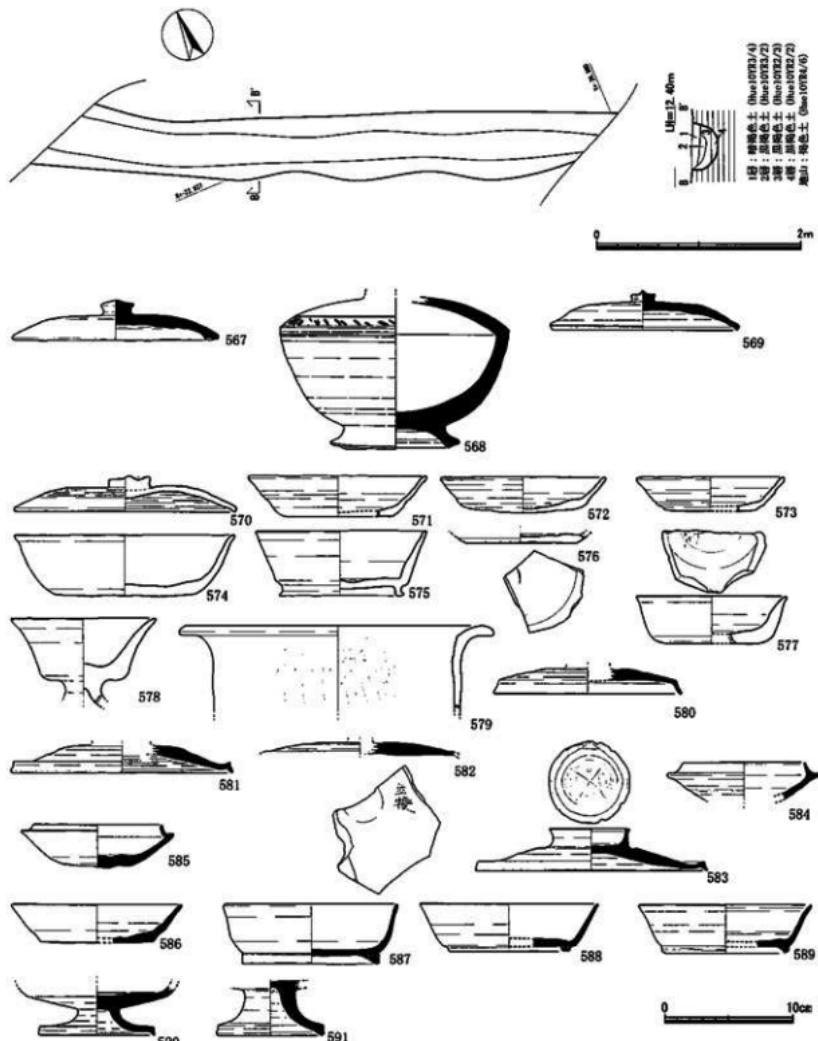


図73 74号溝実測図・74・156・358号溝出土遺物実測図 (1/50・1/4)

込みである。方向は、条里に合わせたものと考えられる。幅0.7m、深さ0.15mである。

379号溝

II区の中央やや南を、大よそ東西に走る溝である。幅は1~2m、深さは0.1~0.4mである。380号や4号溝を切っており、これらが埋設した後に、設営されたと考えられる。遺物の沈着があった。出

1. (医病) 病棟(軸) 新營工事に伴う発掘調査 (9901調査地点)

373号溝

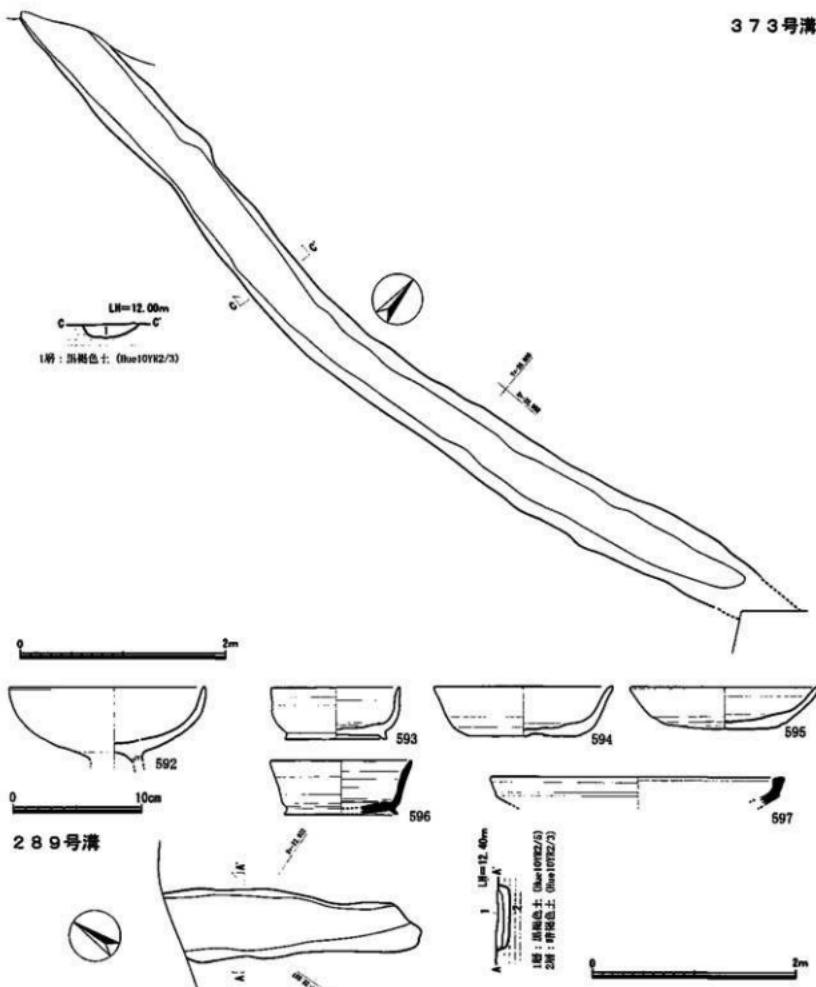
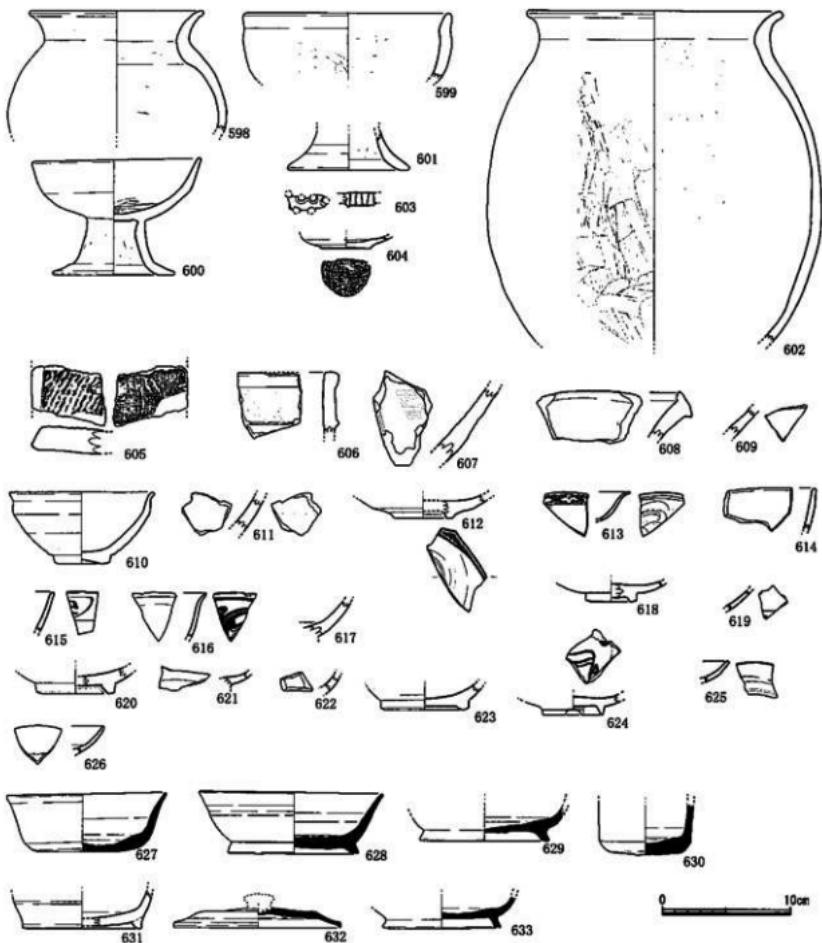


図74 373号・289号溝実測図・365・379号溝出土遺物実測図 (1/50・1/4)

土遺物は図74: 593~597である。土師器の壺・碗と須恵器碗、壺（甕）の口縁である。8世紀後葉～9世紀初頭と考えられる。

2号溝

I区の中央を、北北西—南南東に貫く。幅約5m、深さ約1.1mで、溝の中で最も大きな溝である。北に向かって流れている。時期は最も新しく近代以降のものである。出土遺物は図75: 598~625であ



265号獣骨出土状況



UH=11, 50m

E 2m E'

図75 2・16・380・381号溝出土遺物実測図・265号獣骨出土状況実測図 (1/4・1/50)

る。土師器の壺、鉢(碗?)、高壺、瓶底部、壺、布目瓦など古代の遺物が含まれるが、他は火鉢、擂り鉢、茶碗類の中世以降近世の遺物である。606・607は瓦質土器の火鉢・擂鉢で、中世後期である。608は陶器の擂鉢で中世の所産か。609は陶器の鉢か。近世代である。

610・611は天目茶碗である。610は中世、611は中世後期以降の所産である。612は陶器の皿である。近世の所産である。613・616は染付の碗で、近世の所産である。614・615は龍泉窯の青磁碗で、14世紀後半～15世紀前後である。617・621・622は龍泉窯の青磁碗である。12世紀中葉～後半である。618は白磁の碗である。時期は不明である。619は龍泉窯の青磁碗で12世紀中葉～13世紀前半である。620・623・625・626は白磁の碗で、11世紀後半～12世紀前半である。焼成が悪いか被熱があるようである。624は染付の皿である。時期は不明である。

16号溝

I区の南東隅、15号溝と並行に南壁に沿って流れる溝であるが、終始は不明である。飴物の沈着が見られる。15号溝と類似するが、遺物から近代の遺構とした。出土遺物は図75:626で、磁器の破片である。

<その他の遺構>

265号獸骨 (図75)

358号溝の北側、358号溝と373号溝が接する付近で、獸骨と土器片が混在して出土した。土器片の下からは炭化物も出土している。土器は土師器の壺と須恵器片である。8世紀末と思われる壺の口縁がある。獸骨は大型の動物のもので、牛か馬と考えられる。

366号土坑 (図76)

II区、358号溝の北側、調査区西壁から12m付近に位置する。0.8×0.9mの正方形に近く、深さは0.5mである。南西隅が浅く掘り込まれ、礫が数個置かれていた。遺構の性格は不明である。出土遺物は図76:634の土師器の壺である。8世紀後葉と考えられる。

115号抱衣壺埋設遺構 (図76)

I区、30号竪穴住居址の北壁外で検出した。1.6×1.1m、深さ0.5mのピット状の掘り込みの中に、西に寄せてさらに直径0.5m、深さ0.3mの穴を掘り、その中に設置していた。土師器の壺に須恵器の蓋をしていた(図76:635・636)。中には土の流入もなく、密閉状態が保たれていた。8世紀後半のものと思われる。このほか須恵器の壺が出土している(図76:637)。

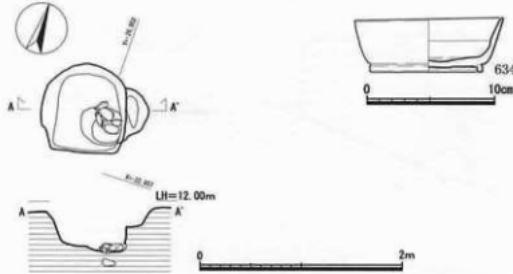
370号集石 (図76)

II区の調査区西壁下、1号溝(381号溝)と358号溝の間に位置する。河原石と砂岩の不正形な礫からなる。幅1m程度、深さ0.3m程度の浅い皿状の窪みに積まれていたようであるが、性格は不明である。出土遺物は図76:638～641で、土師器壺と須恵器壺、壺である。土師器の壺638の見込みと、639の外面に「井」と思われる字の刻書がある。8世紀後葉～末と考えられる。

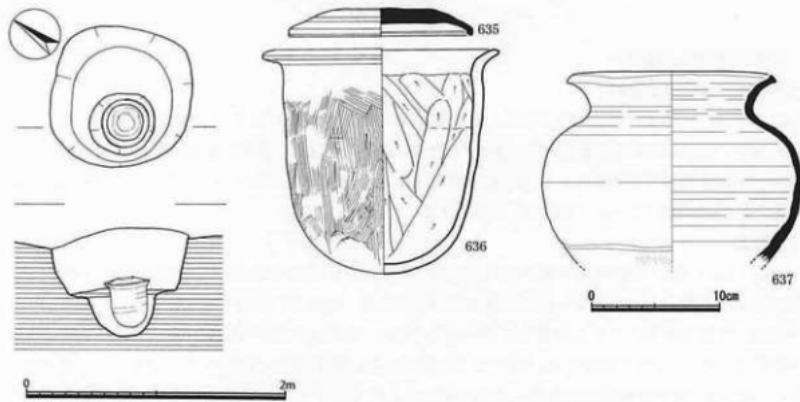
250号土壙墓 (図77)

II区の西壁中央に位置する搅乱東側において、土壙墓が1基検出された。4号溝の西端付近である。1/3程が現代の建物の基礎工事により破壊され、また骨の遺存状態も良好とはいえないが、埋葬の様子は確認できる。頭位は北で仰臥しており、足は軽く曲げていたと思われる。胸部あるいは腹部で手を合わせていたようだ。副葬品としては左肩付近から刀子が1本と、右肘部分から土師器の小皿1枚が出土した(図77:642・643)。

366号土坑



115号胞衣壺



370号集石状況

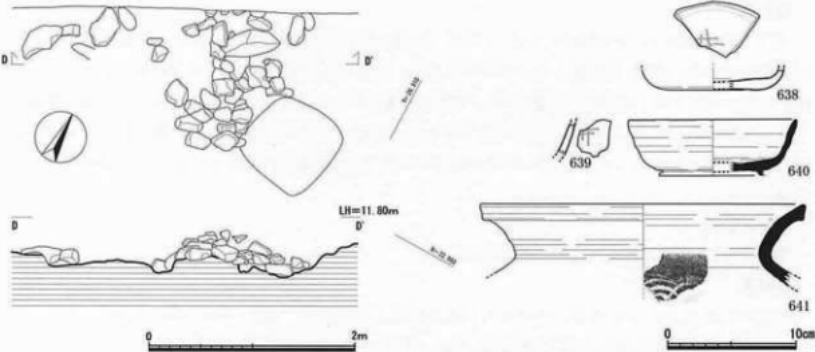


図76 366号土坑・115号胞衣壺出土状況実測図・370号集石状況実測図・各遺構出土遺物実測図 (1/50・1/40・1/4)

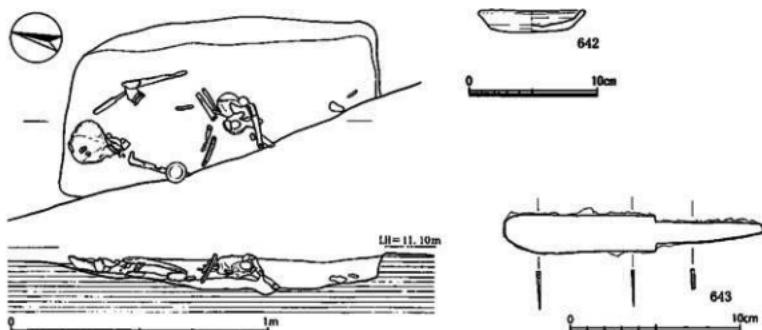


図77 250号土壙墓人骨出土状況実測図・出土遺物実測図 (1/20・1/4・1/3)

<その他の出土遺物>

その他の造構出土土器

図78: 644・645は須恵器の壺である。8世紀末葉～9世紀初頭であろう。646は長頸壺の胴部で8世紀後半、647は須恵器の壺である。468は土師器の甕で、口縁は薄手で上を向く。9世紀前葉か。649・650は土師器の碗である。それぞれ8世紀後半、9世紀前葉であろう。651の土師器の瓶（把手壺？）の把手部分である。644は17号溝、他はピット出土である。

土製品

図78: 652・654・657～659・662～674は土錐である。674は他の土錐の3倍の大きさである。654は火鉢や火桶の脚のようである。655・656は紡錘車である。656は土師器片を再加工したもので、片面が凸面、片面が凹面となり、全体も不正形な円である。660は須恵器の把手（耳）である。壺か提瓶の把手であろう。661は湾曲した円筒状の土製品である。把手あるいは脚のようであるが、非常に小さい。675は土製の鏡模造品である。中央を摘まみあげて鉤とし、細い棒状のもので孔を貫通させている。

石製品

図78: 676～678は石製紡錘車である。676は、片面が平坦で片面が凸面である。677は両面ともに平坦な作りである。678は旅両面ともに平坦であるが、片面の平面径が小さく、676に近い形態となる。676・678は蛇紋岩製、677は滑石製である。679は暗淡緑の蛇紋岩製の有孔円盤である。表面と周縁は丁寧に研磨されている。680は不正形の垂玉である。乳緑～緑色の石材である。特に整形はせずに研磨し、穿孔したと考えられる。縄文時代の遺物であろう。681は滑石製白玉である。古墳時代の造構の遺物である。

ガラス製品

図78: 682は水色のガラス製の小玉である。

鉄製品

多数の鉄製品が出土したが、そのうち14点を図化した。図79: 683・686・688・689・692・693・694は刀子、684・685は釘、687・690は鐵、691・695・696は鎌である。

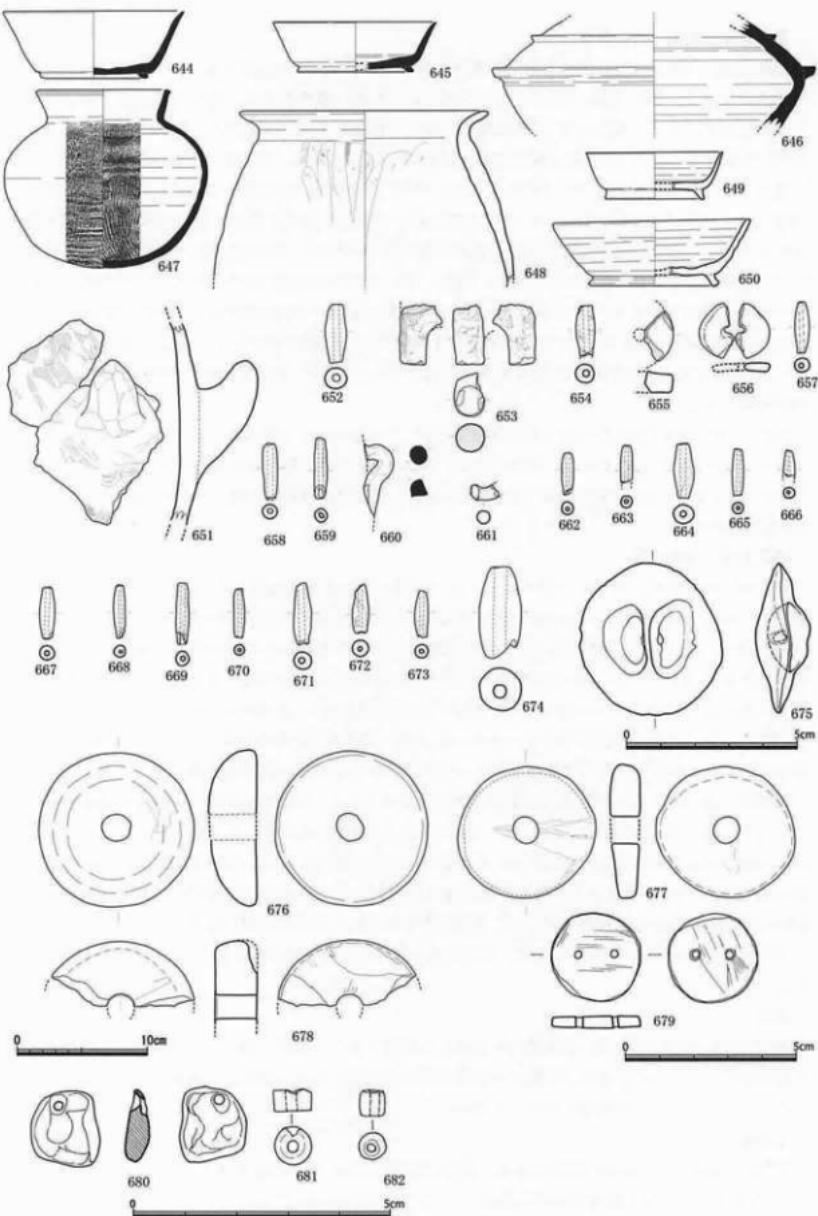


図78 その他遺構出土遺物・土製品・石製品実測図 (1/4・2/3・1/1)

遺構外出土土器(古代以降)

図80: 697~図81: 741は包含層出土の遺物である。697~704は土師器の壺で、7世紀代~9世紀前半の所産である。701・702・703は、判読不明であるが底に墨書がある。705~707は壺で8世紀後半~9世紀前半の所産と思われる。708は瓶の底部で、棧渡しタイプであろう。709・710は多孔タイプの壺の底部である。711は移動式壺の底部、710は手捏土器である。713は土師器の壺で、器面は赤色の化粧土をかけ、全体にミガキを掛けている。714は古墳時代の土師器壺である。715~720は須恵器の蓋である。715は頂部に「×」のヘラ記号がある。かえしを持つものはなく、720はかなり扁平化がすすんでいる。図80: 721~727、図81: 728は須恵器の壺である。721は丸底でかえしが付く古相のもので、7世紀前半、他は8世紀代である。図81: 729~732は須恵器の高壺である。いずれも7世紀前半~中葉の所産であろう。733は須恵器の鉢、734は壺(壺?)の口縁部の破片、735は壺の頸・肩部、736は長頸壺の胴部である。737は龍泉窯系の青磁碗で、13世紀前半である。738は白磁碗で11世紀後半~12世紀後半、739は白磁皿で12世紀中葉~後半である。740・741は越州系青磁碗で8世紀末~10世紀中葉である。

図81: 742~756は搅乱から出土した遺物である。参考資料として掲載する。742~748は土師器の壺である。744・745・748はそこに墨書がある。744は「東」か、墨書がある。745は判読不明、748は「新羅」か? 749・750は須恵器蓋で750は「×」のヘラ記号がある。751~753は須恵器の壺、754~755は壺である。

縄文土器・弥生土器

縄文時代後期後葉~晩期の土器が出土した。図82: 757~759は太郎迫式の鉢・深鉢である。760~762は三万田式の鉢である。760は口縁部に磨消縄文がある。761と762は無紋の鉢の口縁である。763~778は鳥井原式の鉢・深鉢である。口縁の文様帯に二本の並行する幅広の凹線を施し、それらを寄せて稜を作り出している。766は御領式・天城式に見られる山形の突起がある。779~787は御領式の鉢・深鉢である。口縁の文様帯に二本の並行する凹線を施すが、鳥井原ほど幅が広くなく、深い凹線を明確に引き、凹線間の突起を際立たせている。788~794は天城式の深鉢である。深鉢口縁部の沈線は雑に引かれ、本数も1本~4本まで一定しない。795~817は古闕式の鉢・深鉢である。深鉢は、口縁部の沈線が寄り雑に複数本引かれる。無文のものもある。802は焼成後に内外の両面から穿孔している。図83: 818~822は黒川式の鉢・浅鉢である。819以外はいずれも表面を丁寧に磨いている。823~826は刻目突帯文土器、827は夜臼式の壺の口縁と思われる。828・829は太郎迫式~御領式の時期の鉢の底部である。830も後期後葉~末の深鉢の底部である。831~835晩期の深鉢の底部である。836~858は時期の特定は困難であった。後期後葉から晩期の以外の時期の縄文土器の出土がないため、この時期のものと考えられる。860は、口縁に刻みを持つ弥生土器の壺である。861は弥生土器の壺の底部である。

石器

図84: 862~図88: 918は、各遺構から出土した石器である。磨石・敲石・台石・砥石・打製石斧・石鎚等が出土している。また、図版67~69は黒曜石の剝片である。写真のみ掲載した。番号は左上段から右に付している。観察表と対照されたい。

その他

図版67: 919は炭化種子の破片である。920は刀子に付着していた布片である。921は鐵滓と思われる。922は獸骨の下顎の部分である。馬か。

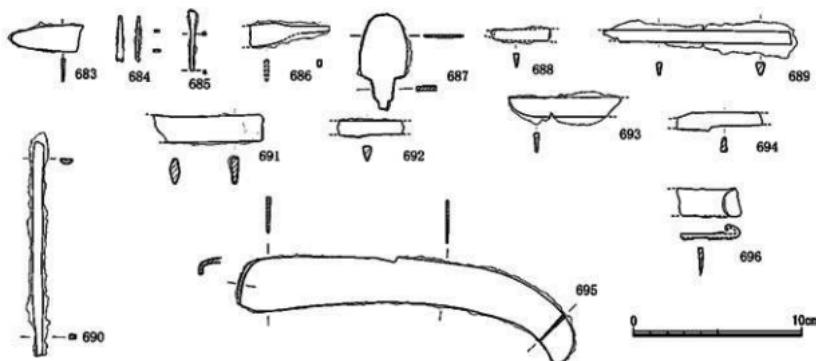


図79 9901調査地点出土鉄製品実測図 (1/3)

(4)まとめ

本調査地点は、本荘北地区において9601調査地点につづき古代の集落を確認し、また古墳時代の集落を初めて広範囲で確認した地点である。9601調査地点の調査時には、西側に古墳時代の集落が展開するものと予想されたが、その予想通りに古墳時代の住居址群が検出された。

古墳時代の堅穴住居址は、概ね古墳時代前期から中期初頭までの一定の時期であった。近辺の0006調査地点・0104調査地点・0119調査地点・0304調査地点でも、同様の時期の住居址や遺物が確認されている。古墳時代中期以降の集落は、本調査地点寄り南側の0411調査地点・0509調査地点や本荘中地区で確認されており、古墳時代の集落の占地は、白川沿いから次第に離れていくことが確認できた。

古墳時代の後、本調査地点では6世紀末・7世紀初頭から溝の設営が始まり、8世紀から堅穴住居址が造られ集落が形成される。8世紀末には、多くの溝が埋没し堅穴住居址も減少する。この後、掘立柱建物が建てられるようになると考えられる。古代の成果としては、「主帳」刻書土器の出土がある。本庄遺跡は古代託麻郡に属する。託麻郡は8里からなり、郡としての等級は「中郡」にあたる。主帳は郡司の第四等官でいわゆる書記官であり、中郡では定員1名である。「宮崎産業経営大学の柴田博子氏によると、「主帳」墨書き土器が日向国府跡を含む官衙遺跡である宮崎県寺崎遺跡で出土しており、この報文の時点（柴田博子2001）では寺崎遺跡の例を含めて全国で3例と極めて少ない。柴田氏は主帳やそのほか官職銘のある資料について、文字が記されたものが壊であるというその性格・機能から、国司や貴人に対する郡家による接待などの饗宴の場での使用・廃棄を想定している。刻書き土器が多量に出土した9601調査地点の調査者も、供膳具の多さに注目し火事場処理を行う施設の存在を想定している。本調査地点の出土遺物は膨大で、内容は9601調査地点と類似しており一連の施設であったと考えられる。9601調査地点からは「秋本寺」をはじめ「佛」「寺」などの刻書き土器が出土しており、近辺に寺が存在していたことを伺わせる。本調査地点や9601調査地点と、もし近辺に寺が存在していたとするならば、その位置関係は官衙遺跡である渡鹿A遺跡と渡鹿寺、神水遺跡と陳山廢寺の位置関係に類似する。本調査地点及び9601調査地点の主要な時期は8世紀後半から9世紀前葉にかけてである。両地点の中間に位置する0707調査地点も古代の遺構は同様で、かつ9世紀後半以降は水田が造られている。機能した時期は渡鹿A遺跡（7世紀末～8世紀前半）の後、神水遺跡（8世紀

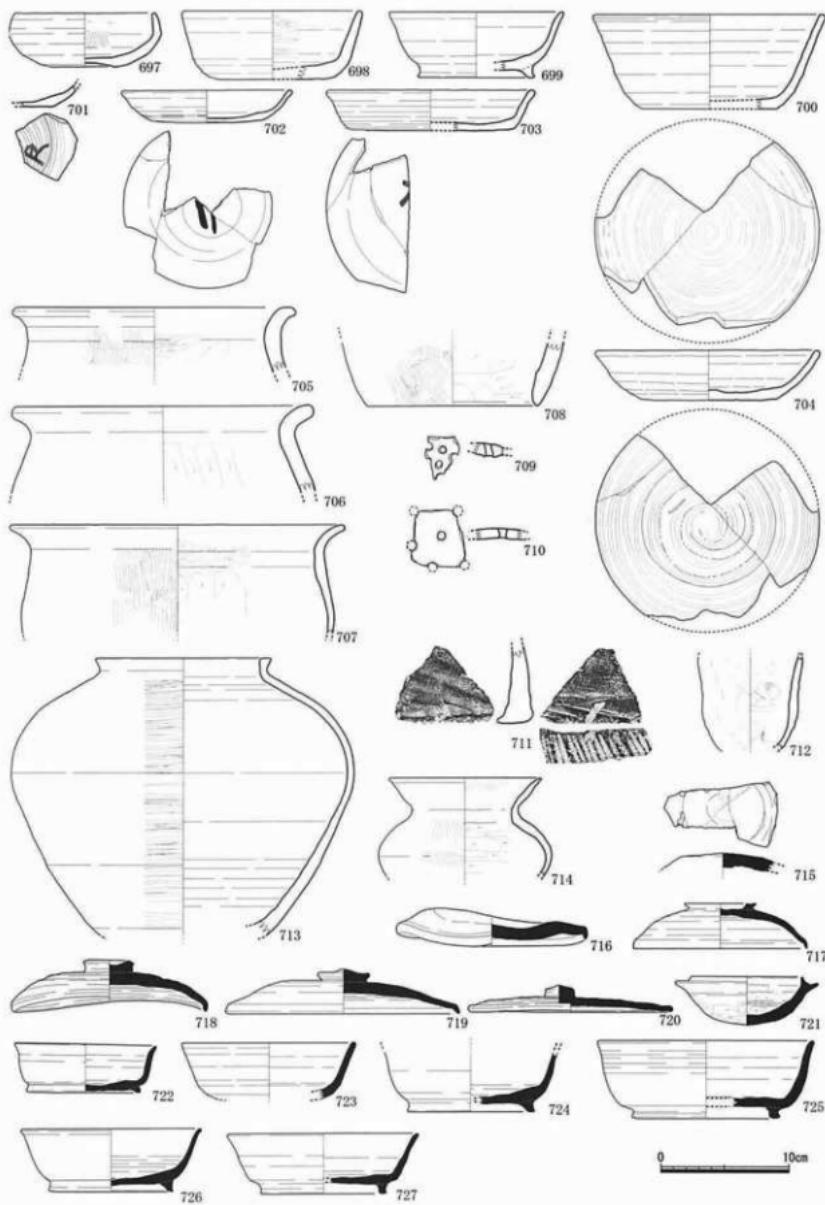


図80 9901調査地点包含層出土遺物実測図 1 (1/4)

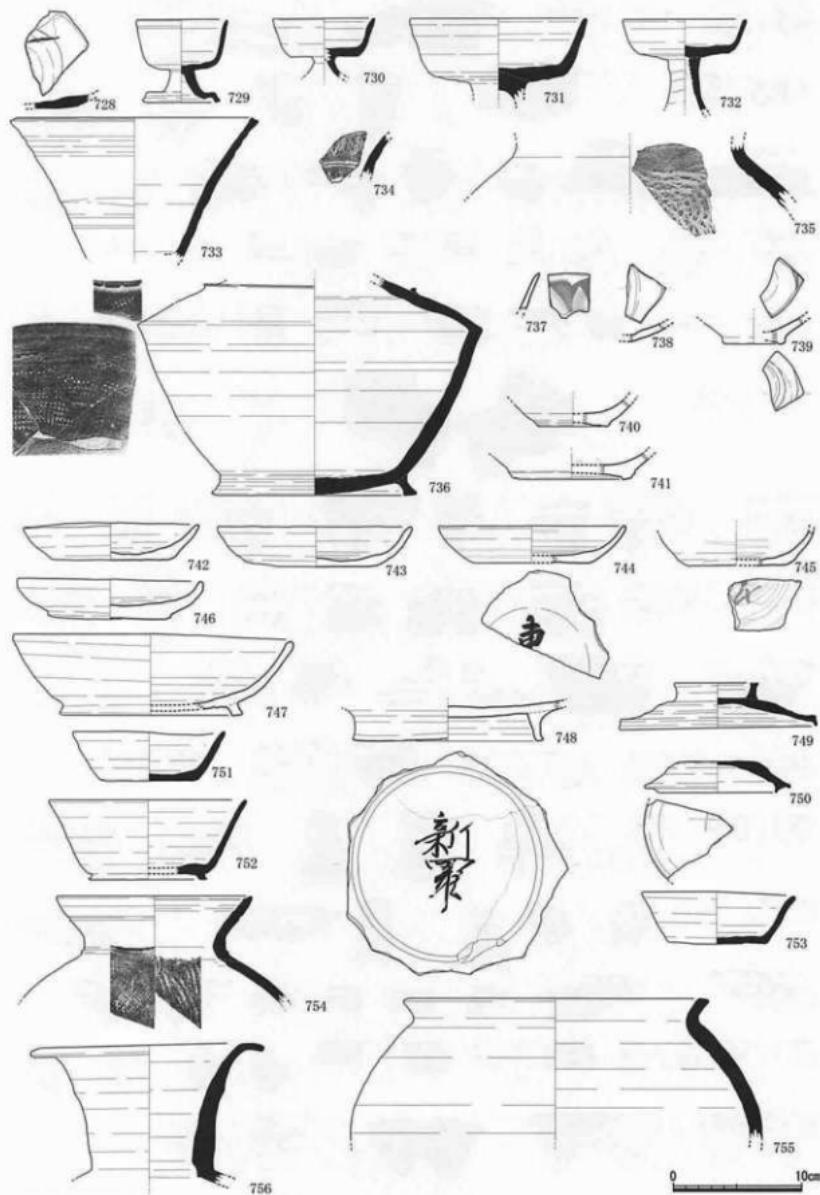


図81 9901調査地点包含層出土遺物実測図2 (1/4)

1. (医病) 病棟(軸) 新宮工事に伴う発掘調査 (9901調査地点)

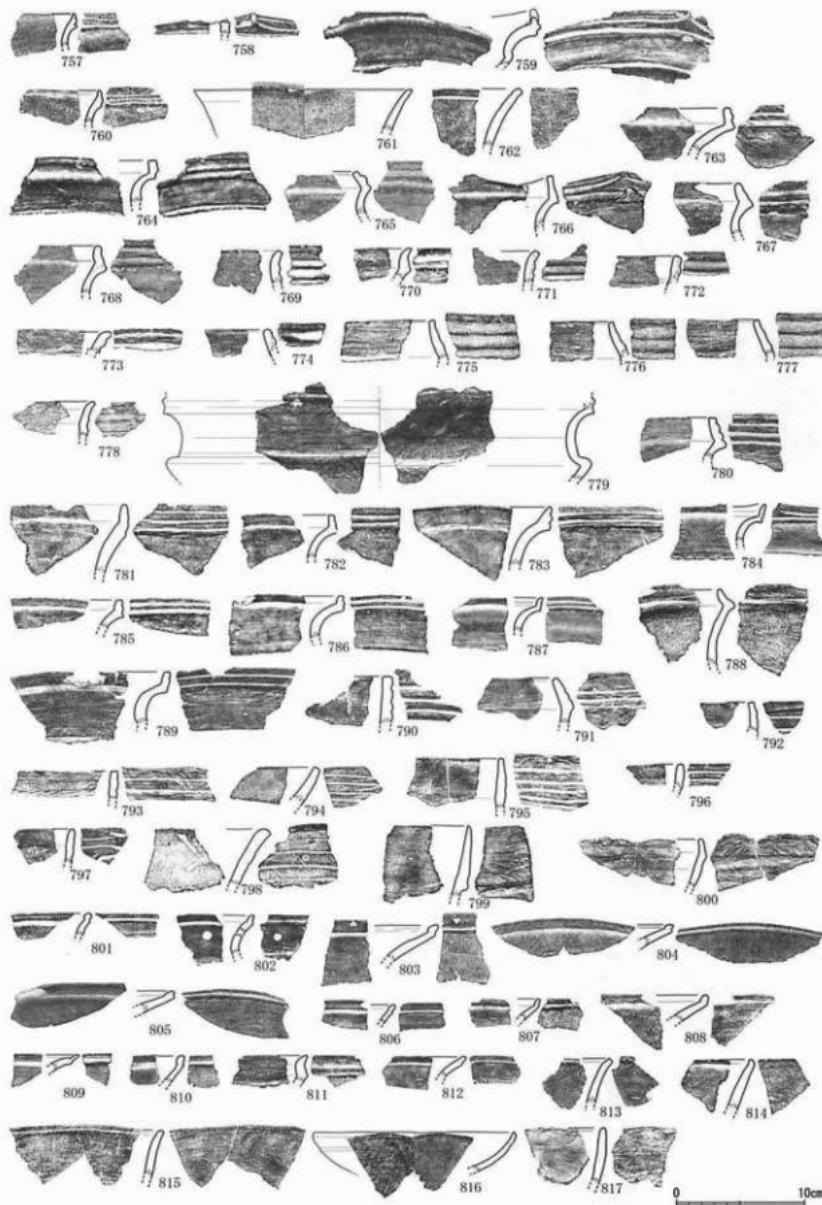


図82 9901調査地点出土縄文土器実測図1 (1/4)

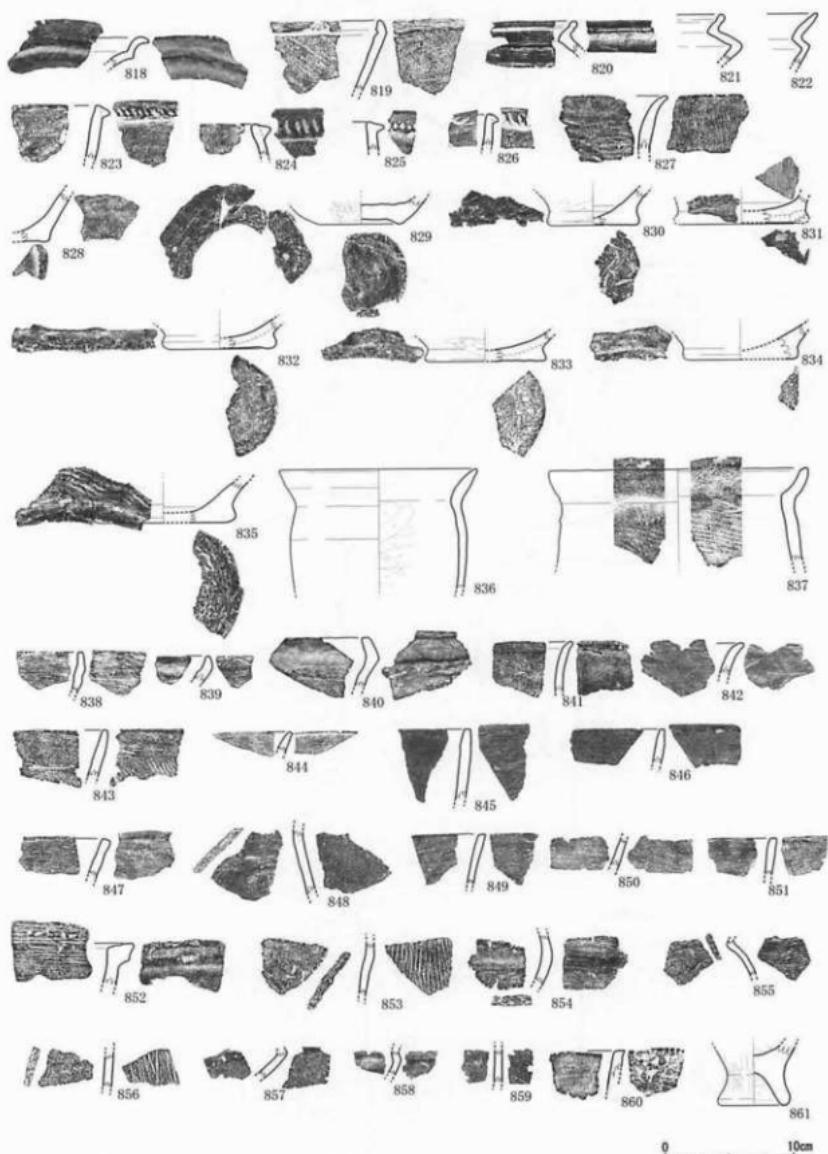


図83 9901調査地点出土縄文土器・弥生土器実測図2 (1/4)

1. (医病) 病棟(軸) 新營工引に伴う発掘調査 (9901調査地点)

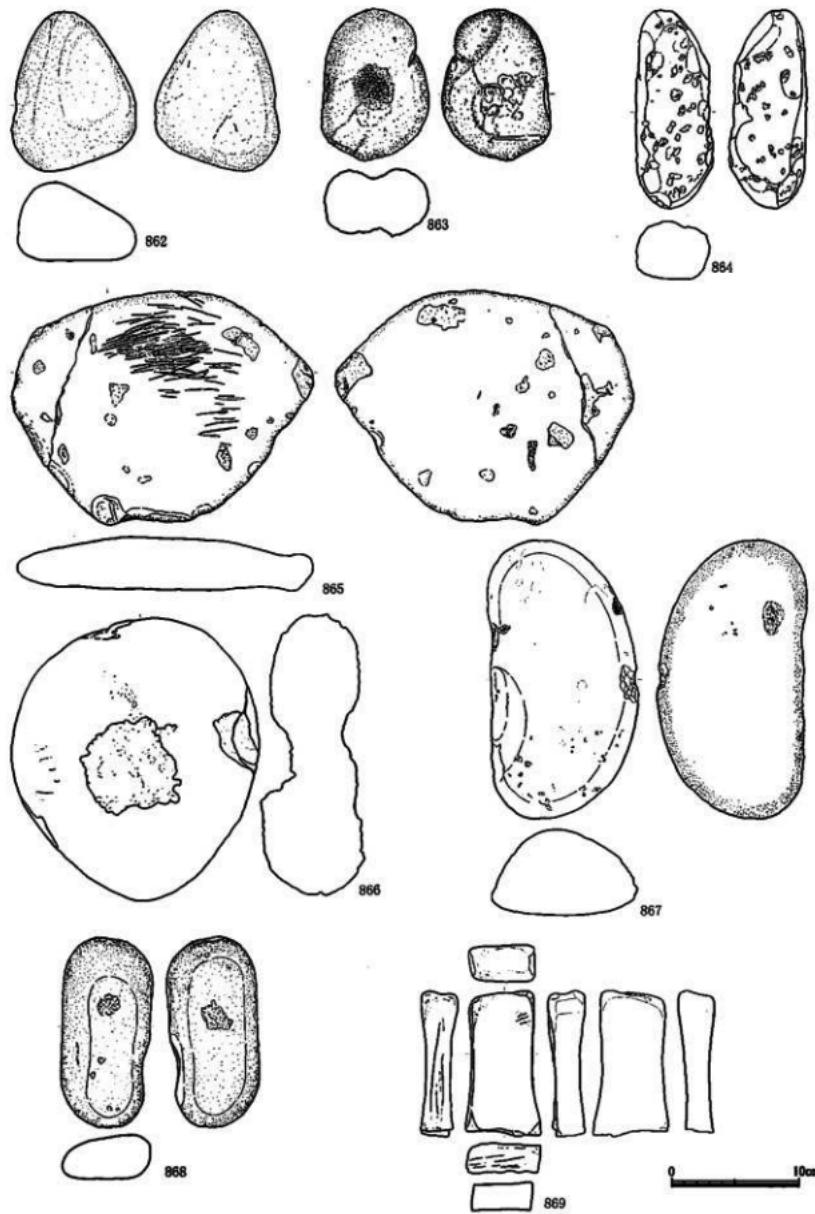


図84 9901調査地点出土石器実測図1 (1/4)

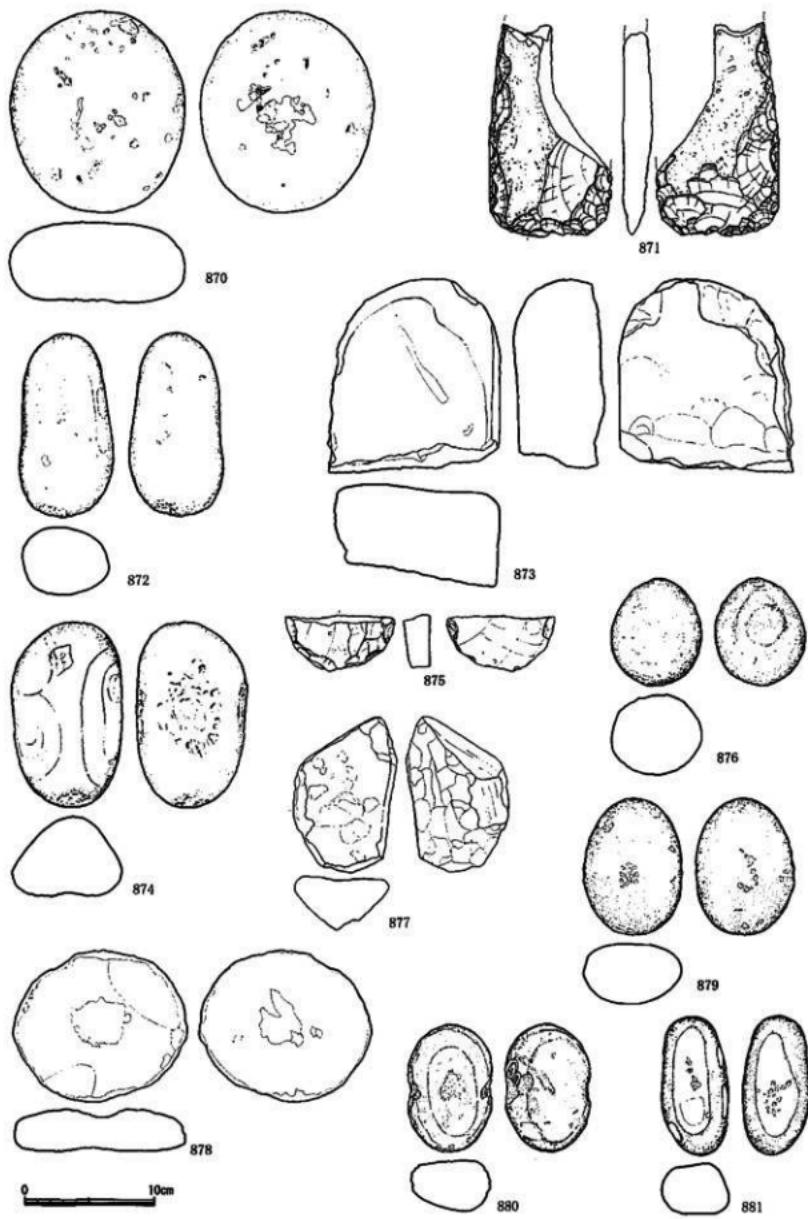


図85 9901調査地点出土石器実測図2 (1/4)

1. (医病) 約株(軸)新宮工事に伴う発掘調査(9901調査地点)

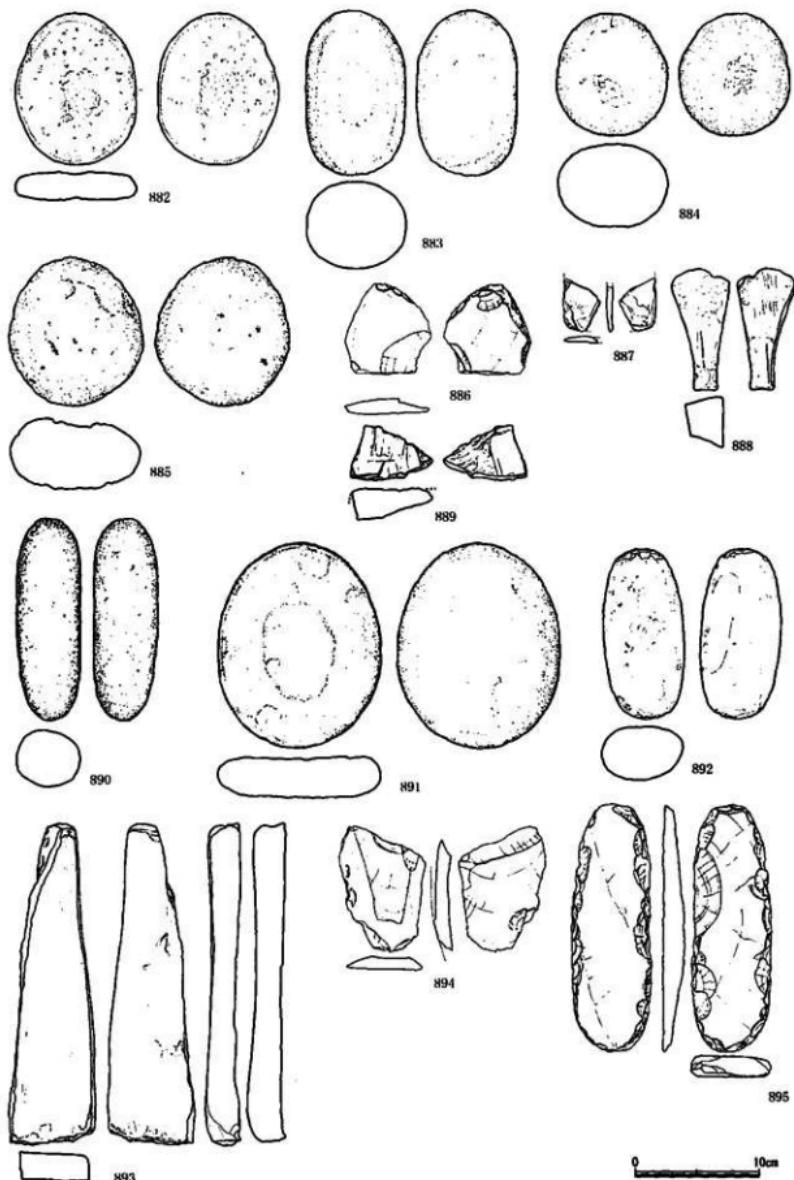


図86 9901調査地点出土石器実測図3 (1/4)

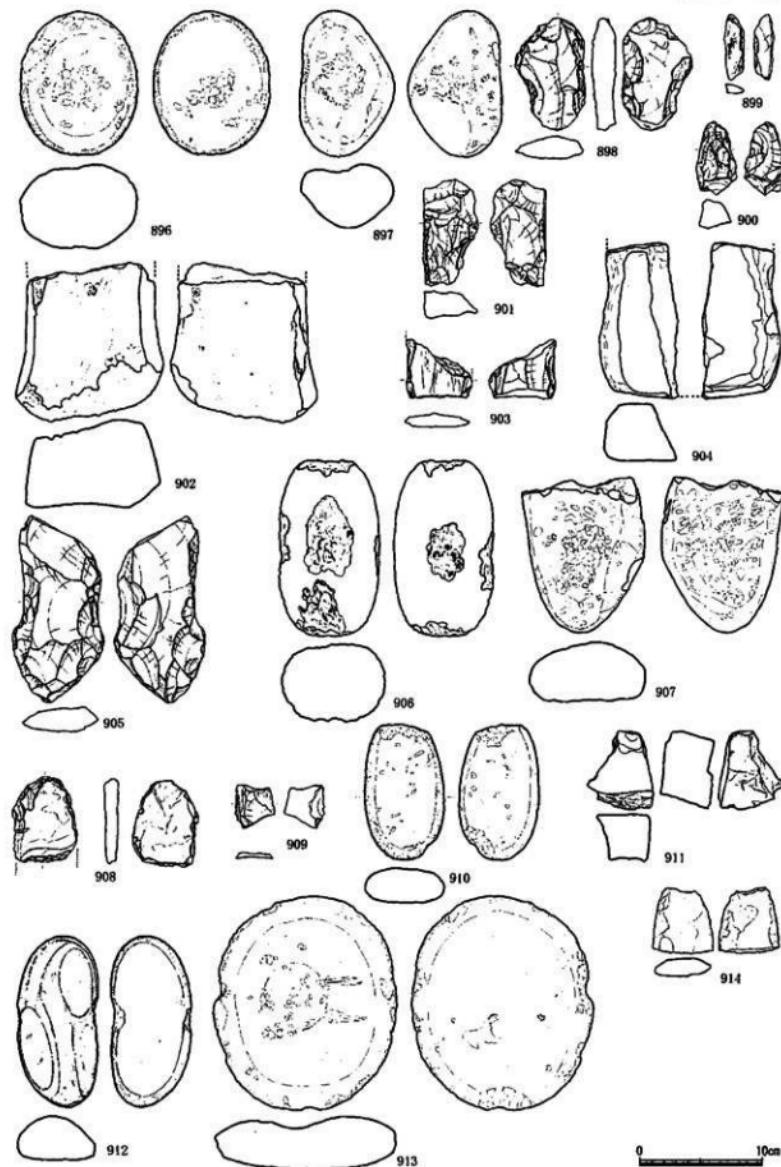


図87 9901調査地点出土石器実測図4 (1/4)

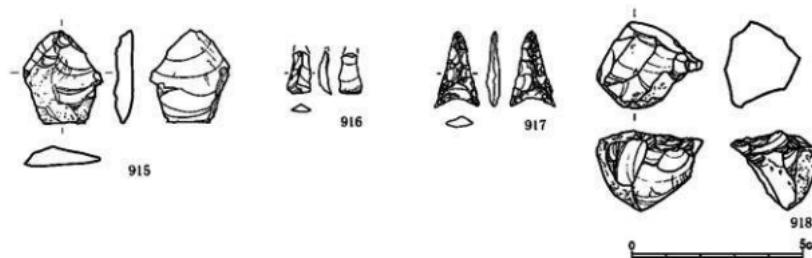


図88 9901調査地点出土石器実測図5 (2/3)

後半～9世紀前半）とほぼ同時期とみられる。

「主帳」の土器は1点のみで、持ち込みの可能性もあるが、本荘北・南地区における既往の調査では、布目瓦や硯、銅製の蛇尾や巡方など役所・役人の存在を示す遺物が出土しており、本荘地区に郡衙かそれに類する施設が存在した可能性も考えられる。ただし、本庄遺跡の位置は想定されている西海道および阿蘇大路からはやや離れている。現在、国府跡や官衙跡と推定される遺跡群が、これらの道沿いに立地している点とは異なる。

本荘北地区内における発掘調査は、既存建物により既に破壊されている可能性が高い部分、既に調査を終えた部分を勘案すると、細部を除き調査は一段落を迎えている。一方、九州新幹線の開通事業に伴う二本木遺跡の発掘調査の進展により、肥後国府とその他の古代史の解明が進められると期待される。今後は、肥後国府の解明の中で本庄遺跡の機能や性格が明らかにされていくことが期待される。

参考文献

- 熊本市教育委員会 2007 「二本木遺跡群II -二本木遺跡群第13次調査区発掘調査報告書-」
- 柴田博子 2001 「寺崎遺跡出土の墨書き土器について」「寺崎遺跡 -日向国庁を含む官衙遺跡-」 宮崎県教育委員会
- 熊本市 1998 「新熊本市史」通史編 第一巻 自然・原始・古代

表7 9901調査地点出土遺物一覧表

地	番号	遺物	種類(器種)	法寸(㎜)	規格	特徴	色	出土地	備考
25	1	土器器	高 壺	口径 36.0 底径 30.8 高さ 25.0	1/5	内: 回転ナデ、ハラナデ 外: 回転ナデ、削り	内: Hue 10YR7/4 外: Hue 10YR8/3	3号墳穴住居址	
	2	土器器	壺	口径 30.6 底径 25.0 高さ 25.0	口縁部片	内: 回転ナデ、ハケ目 外: 回転ナデ、ハケ目	内: Hue 25Y6/2 外: Hue 10YR8/4	3号墳穴住居址	焼きムラあり
	3	土器器	小型丸底壺	口径 11.6 底径 10.0 高さ 10.0	口縁部片	内: 回転ナデ、磨き 外: 回転ナデ、ハケ目、 削り	内: Hue 5YR5/6 外: Hue 5YR6/6	3号墳穴住居址	
	4	土器器	小型丸底壺	口径 9.0 底径 7.2 高さ 7.2	ほぼ完形	内: 回転ナデ、ナデ、 削り	内: Hue 10YR7/4 外: Hue 10YR7/4	3号墳穴住居址	
	5	土器器	高 壺	口径 16.0 底径 15.0 高さ 15.0	1/6	内: 回転ナデ 外: ハラ目、磨き	内: Hue 7SYR6/5 外: Hue 10YR7/4	3号墳穴住居址	外面に黒斑あり
	6	土器器	器 台	口径 9.4 底径 8.0 高さ 8.0	1/2	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	内: Hue 25Y7/4 外: Hue 25Y7/4	3号墳穴住居址	内外面にスス付着
	7	土器器	高 壺	口径 16.0 底径 15.0 高さ 15.0	壺部のみ 1/2	内: 回転ナデ、磨き 外: 回転ナデ、ハケ目、 削り	内: Hue 10YR2/1 外: Hue 10YR3/1	3号墳穴住居址	
	8	土器器	高 壺	口径 14.2 底径 13.0 高さ 13.0	口縁部片	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、削り	内: Hue 10YR6/4 外: Hue 10YR6/3	3号墳穴住居址	内面にスス付着
	9	土器器	浅 林	口径 13.4 底径 12.0 高さ 12.0	1/3	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、磨き	内: Hue 10YR6/4 外: Hue 10YR6/4	3号墳穴住居址	底面にスス付着
	10	土器器	小型丸底壺	口径 11.4 底径 9.5 高さ 9.5	1/4	内: 回転ナデ、ナデ、 削り	内: Hue 10YR6/4 外: Hue 10YR6/4	3号墳穴住居址	口縁部にスス付着?
	11	土器器	小型丸底壺	口径 10.2 底径 8.8 高さ 8.8	ほぼ完形	内: 回転ナデ、ナデ 外: 回転ナデ、ハケ目	内: Hue 25Y6/4 外: Hue 25Y6/4	3号墳穴住居址	外面底部に黒斑あり
	12	土器器	小型丸底壺	口径 11.2 底径 10.5 高さ 10.5	ほぼ完形	内: 回転ナデ、削り 外: 回転ナデ、ハケ目	内: Hue 5YR6/6 外: Hue 5YR5/4	3号墳穴住居址	内外面にスス付着
	13	土器器	高 壺	口径 22.6 底径 20.0 高さ 20.0	口縁部片	内: 回転ナデ、ハケ目 外: 回転ナデ、ハケ目	内: Hue 5YR6/6 外: Hue 5YR6/6	3号墳穴住居址	
	14	土器器	高 壺	口径 11.6 底径 10.0 高さ 10.0	2/3	内: 回転ナデ、磨き 外: 回転ナデ、磨き	内: Hue 10YR8/3 外: Hue 10YR8/3	3号墳穴住居址	内外面にスス付着
	15	土器器	器	口径 11.9 底径 10.5 高さ 17.5	1/2	内: 回転ナデ、削り 外: 回転ナデ、ナデ	内: Hue 10YR2/3 外: Hue 10YR2/3	3号墳穴住居址	内外面にスス付着 外面に吹きこぼれあり
	16	土器器	壺	口径 16.2 底径 14.8 高さ 14.8	約1/3	内: 回転ナデ、削り 外: 回転ナデ、ハケ目	内: Hue 10YR3/1 外: Hue 10YR4/4	3号墳穴住居址	内面よく剥げていない 外面に黒斑あり
	17	土器器	壺	口径 21.4 底径 18.0 高さ 18.0	口縁部片	内: 回転ナデ、削りハ タキ 外: 回転ナデ、ハケ目	内: Hue 10YR7/4 外: Hue 10YR7/6	3号墳穴住居址	外面に焼きムラあり
	18	土器器	壺	口径 16.0 底径 14.0 高さ 14.0	口縁部片	内: 回転ナデ、削り 外: 回転ナデ	内: Hue 10YR7/6 外: Hue 10YR7/6	3号墳穴住居址	外面にスス付着
	19	土器器	壺	口径 16.6 底径 14.8 高さ 14.8	口縁部片	内: 回転ナデ、削り 外: 回転ナデ、ナデ	内: Hue 10YR8/4 外: Hue 10YR8/4	3号墳穴住居址	
	20	土器器	壺	口径 8.5 底径 7.0 高さ 7.0	口縁部片	内: 回転ナデ、削り 外: 回転ナデ、ハケ目	内: Hue 25Y6/3 外: Hue 25Y6/3	3号墳穴住居址	外面にスス付着
	21	土器器	壺	口径 16.4 底径 14.0 高さ 14.0	口縁部片	内: 回転ナデ、削り 外: 回転ナデ	内: Hue 10YR6/3 外: Hue 7SYR7/6	3号墳穴住居址	
	22	土器器	壺	口径 15.6 底径 13.0 高さ 13.0	1/3	内: 回転ナデ、削り 外: 回転ナデ、ハケ目	内: Hue 25Y6/2 外: Hue 25Y6/2	3号墳穴住居址	内面口縁部にスス付着
	23	土器器	壺	口径 19.2 底径 17.0 高さ 17.0	1/6	内: 回転ナデ、削り 外: 回転ナデ、ハケ目	内: Hue 10YR7/3 外: Hue 25Y6/2	3号墳穴住居址	
	24	土器器	壺	口径 17.2 底径 14.0 高さ 14.0	1/3	内: 回転ナデ、削り 外: 回転ナデ、ハケ目	内: Hue 10YR7/4 外: Hue 10YR7/6	3号墳穴住居址	外面にスス付着、焼きムラあり
25	25	土器器	浅 林	口径 10.8 底径 8.4 高さ 8.4	ほぼ完形	内: ナデ、ハラナデ 外: ナデ	内: Hue 10YR7/4 外: Hue 10YR8/4	5号墳穴住居址	外面にスス付着
	26	土器器	壺	口径 11.8 底径 9.4 高さ 9.4	約1/2	内: ナデ、ハケ目、削 外: 回転ナデ、ハケ目	内: Hue 25Y6/2 外: Hue 25Y7/3	5号墳穴住居址	
	27	土器器	扁曲深杯	口径 17.2 底径 14.0 高さ 14.0	1/3	内: 回転ナデ、削り、 磨き 外: 回転ナデ、ハケ目、 磨き	内: Hue 5Y6/8 外: Hue 5Y6/8	5号墳穴住居址	外面にスス付着
	28	土器器	小型丸底壺	口径 11.5 底径 7.5 高さ 7.5	ほぼ完形	内: 磨き 外: 磨き	内: Hue 5YR6/8 外: Hue SY2/1	5号墳穴住居址	内面口縁部にスス付着
	29	土器器	小型丸底壺	口径 10.3 底径 7.6 高さ 7.6	約1/2	内: 回転ナデ、ナデ、 ハラ目 外: 回転ナデ、ハケ目	内: Hue 10YR6/4 外: Hue 10YR6/4	5号墳穴住居址	
	30	土器器	小型丸底壺	口径 11.0 底径 8.4 高さ 8.4	ほぼ完形	内: 回転ナデ、磨き 外: 回転ナデ、ハケ目	内: Hue 10YR7/4 外: Hue 10YR7/4	5号墳穴住居址	
	31	土器器	小型丸底壺	口径 11.2 底径 8.0 高さ 8.0	1/5	内: 回転ナデ、磨き 外: 回転ナデ、磨き	内: Hue 10YR6/4 外: Hue 10YR6/4	5号墳穴住居址	外面に黒斑あり

1. (医病) 病棟(軸) 新營工事に伴う発掘調査 (9901調査地点)

回	番号	遺物	種類(断面)	位置(cm)	残存部	特徴	色 図	出土場所	備考
26	32	土器器	小形丸底鉢 底盤	11.0 10.5	1/6	内:ナガ・削り・酒さ 外:ハケ日・酒さ	Hue 7SYR6/6 Hue 10YR5/2	5号堅穴住居址	外面にスス付着
	33	土器器	小型丸底鉢 底盤	14.0 13.5	1/6	内:削り・ハケ日・酒さ 外:ハケ日・酒さ	Hue 7SYR6/4 Hue 7SYR6/6	5号堅穴住居址	内外面にスス付着
	34	土器器	小型丸底鉢 底盤	12.8 12.1	ほぼ完形	内:削れナダ・削り 外:削れナダ・ハケ日	Hue 10YR6/3 Hue 2SYR7/4	5号堅穴住居址	外面に焼きムラあり
	35	土器器	高 壺	1.0	1/3	内:ナガ・ハケ日 外:ナガ・ヘラ酒さ	Hue 10YR6/3 Hue 7SYR7/4	5号堅穴住居址	
	36	土器器	壺 台	1.0	1/3	内:削り・ハケ日 外:ナガ・ヘラ酒さ	Hue 2SYR7/4 Hue 7SYR7/6	5号堅穴住居址	
	37	土器器	ミニチュア 高壺	8.6 8.7	約2/3	内:ナダ 外:ナガ・ハケ日	Hue 10YR6/4 Hue 10YR7/4	5号堅穴住居址	外面底部にスス付着
	38	土器器	壺 台	9.4 9.6	1/3	内:削れナダ・酒さ 外:削れナダ・酒さ	Hue 7SYR6/4 Hue 7SYR6/4	5号堅穴住居址	隙孔あり 外面にスス付着
	39	土器器	壺 台	11.0 8.7	約1/2	内:酒さ 外:ナガ・酒さ	Hue 10YR7/3 Hue 10YR7/3	5号堅穴住居址	
	40	土器器	高 壺	16.6	約1/2	内:削れナダ・ハラ酒さ 外:削れナダ・ハラ酒さ	Hue 2SYR6/4 Hue 2SYR6/4	5号堅穴住居址	
	41	土器器	高 壺	11.8	約1/2	内:削れナダ・削り 外:削り・酒さ	Hue 7SYR7/4 Hue 7SYR7/4	5号堅穴住居址	焼きムラあり
	42	土器器	高 壺	10.4	約1/2	内:削れナダ・ナダ・ 削り 外:ナガ・削り・ハケ日	Hue 10YR6/5 Hue 2SYR6/6	5号堅穴住居址	外面にスス付着
	43	土器器	高 壺	12.0	約1/2	内:削れナダ・ナダ 外:削り・酒さ	Hue 10YR6/3 Hue 10YR6/3	5号堅穴住居址	汚痕あり
	44	土器器	高 壺	1.0	1/3	内:ナガ・削り 外:酒さ	Hue 10YR6/2 Hue 5	5号堅穴住居址	外面にスス付着
	45	土器器	高 壺	16.2	1/2	内:削れナダ・酒さ 外:削れナダ・削り	Hue 10YR7/4 Hue 10YR7/4	5号堅穴住居址	面部にスス付着
	46	土器器	高 壺	1.0	1/3	内:削り 外:酒さ	Hue 10YR5/3 Hue 10YR5/3	5号堅穴住居址	
	47	土器器	壺 台	12.4	約1/4	内:削れナダ・削り・ ハラ日 外:削れナダ・ハケ日	Hue 7SYR7/6 Hue 7SYR7/6	5号堅穴住居址	外面にスス付着
	48	土器器	壺 台	15.8	1/3	内:ハラグダ・ハケ日 外:ナガ・ハラ日	Hue 10YR7/3 Hue 7SYR6/6	5号堅穴住居址	外面にスス付着
	49	土器器	壺 台	16.5	1/6	内:削れナダ・削り 外:削れナダ・ハケ日	Hue 2SYR6/4 Hue 5YR6/4	5号堅穴住居址	外面にスス付着
	50	土器器	壺 台	16.6	口縁部片	内:ナガ・削り 外:ナガ・ハラ日	Hue 7SYR6/6 Hue 5YR6/6	5号堅穴住居址	外面にスス付着
	51	土器器	壺 台	15.6	口縁~脚部片	内:削れナダ・削り 外:削れナダ・ハラ日	Hue 10YR6/3 Hue 10YR6/3	5号堅穴住居址	外面にスス・コゲ目有
	52	土器器	壺 台	13.7 13.8	ほぼ完形	内:削れナダ・削り 外:削れナダ・ハラ日	Hue 5YR6/6 Hue 7SYR6/4	5号堅穴住居址	外面に焼きムラあり
	53	土器器	壺 台	16.0 16.0	1/5	内:削れナダ・削り 外:削れナダ・ハラ日 ハラ日	Hue 10YR6/4 Hue 7SYR6/4	5号堅穴住居址	外面にスス付着
	54	土器器	壺 台	15.2 21.2	ほぼ完形	内:削れナダ・削り 外:削れナダ・ハラ日	Hue 10YR7/4 Hue 7SYR7/4	5号堅穴住居址	
27	55	土器器	壺 台	14.6 14.6 直径18.8 底盤	約1/2	内:削れナダ・ナダ・ 削り 外:削れナダ・ハラ日	Hue 10YR7/3 Hue 10YR7/3	5号堅穴住居址	外面にスス・コゲ目有
	56	土器器	壺 台	16.0 16.0 直径18.2 底盤	1/5	内:削れナダ・削り 外:削れナダ・ナダ・ ハラ日	Hue 10YR7/4 Hue 2SYR7/3	5号堅穴住居址	外面にコゲあり 外面にスス多く付着 内部にへた跡あり
	57	土器器	壺 台	16.8 16.8 直径20.0 底盤	約1/4	内:削れナダ・削り 外:削れナダ・ハラ日	Hue 7SYR7/4 Hue 7SYR6/2	5号堅穴住居址	外面にコゲあり 外面にスス付着
	58	土器器	壺 台	18.0 18.0 直径21.4 底盤	1/3	内:ナガ・削り・酒さ 外:ナガ・ハケ日	Hue 2SYR7/3 Hue 10YR7/4	5号堅穴住居址	外面にコゲあり 外面にスス多く付着 内部にへた跡あり
	59	土器器	壺 台	15.0	口縁部片	内:削れナダ・削り 外:削れナダ・ハラ日	Hue 7SYR6/6 Hue 5YR6/6	5号堅穴住居址	外面にスス付着
	60	土器器	壺 台	15.6 15.6 直径20.0 底盤	口縁部片	内:削れナダ・ハケ日 外:削れナダ・ハラ日	Hue 5YR6/6 Hue 5YR6/6	5号堅穴住居址	外面にスス付着
	61	土器器	壺 台	26.0 26.0 直径22.0 底盤	口縁部片	内:削れナダ・削り・ ハラ日・削り 外:削れナダ・ハラ日	Hue 2SYR6/3 Hue 2SYR6/2	5号堅穴住居址	外面にスス付着
28	62	土器器	壺 台	16.4 16.4 直径22.0 底盤	ほぼ完形	内:削れナダ・ナダ・ 削り 外:削れナダ・ハラ日	Hue 2SYR5/6 Hue 2SYR5/6	35号堅穴住居址	外面スス付着 焼きこぼれ板あり
	63	土器器	小型丸底鉢 底盤	11.6	1/6	内:削れナダ・酒さ 外:削れナダ・酒さ	Hue 7SYR6/4 Hue 10YR6/4	35号堅穴住居址	外面にスス付着・焼きこぼれ板 あり

回	番号	生物	種類(形態)	块数 (cm)	块 寸 直	特徴	色 因	出土地	圖 種
28	64	土飼器	裏	22.4	口棒部1/5	内: 四輪ナデ、削り 外: 四輪ナデ、ハケ目	内: Hue SYR6/6 外: Hue 7SYR7/4	35号堅穴住居址	
	65	土飼器	井	12.5 8.0 7.2	ほぼ完形	内: 四輪ナデ、削りナデ 外: 四輪ナデ、ハケ目	内: Hue 7SYR6/6 外: Hue 7SYR6/6	30号堅穴住居址	外間に焼きムラあり
	66	土飼器	底		取手のみ	内: 削り 外: ナデ、ハケ目	内: Hue SYR7/4 外: Hue SYR7/6	35号堅穴住居址	
30	67	土飼器	高 壁	18.6	環部のみ ほぼ完形	内: 削り 外: ナデ、ハケ目	内: Hue SYR6/6 外: Hue SYR6/6	80号堅穴住居址	外間にスス付着
	68	土飼器	高 壁	19.4	环部2/3	内: ナデ、ハケ目 外: 四輪ナデ、ハケ目	内: Hue SYR5/6 外: Hue SYR6/6	80号堅穴住居址	
	69	土飼器	高 壁	18.2	環部約1/4	内: 四輪ナデ、ナデ、 削りナデ、ハケ目 外: 四輪ナデ、ハケ目	内: Hue 25TYR7/4 外: Hue 7SYR7/4	80号堅穴住居址	
70	70	土飼器	高 壁	20.0	环部約1/4	内: 四輪ナデ、ナデ、 削りナデ、ハケ目 外: 四輪ナデ	内: Hue SYR6/6 外: Hue SYR6/6	80号堅穴住居址	
	71	土飼器	高 壁	20.6	約1/2	内: 四輪ナデ、削り、 ハケ目 外: 四輪ナデ、ハケ目	内: Hue 25TYR6/6 外: Hue 25TYR6/6	80号堅穴住居址	外間にスス付着
	72	土飼器	高 壁		环部1/8	内: ナデ、削り 外: 四輪ナデ、ハケ目	内: Hue SYR7/6 外: Hue SYR7/6	80号堅穴住居址	
73	73	土飼器	高 壁	1/4		内: 四輪ナデ、ナデ、 削り 外: 四輪ナデ	内: Hue 7SYR7/6 外: Hue 10YR6/4	80号堅穴住居址	環部内面にスス付着
	74	土飼器	高 壁		1/3	内: 四輪ナデ、削り 外: 四輪ナデ、ナデ	内: Hue 25TYR6/6 外: Hue 25TYR6/6	80号堅穴住居址	
	75	土飼器	高 壁		脚部1/4	内: 削り、焼き 外: 焼き	内: Hue 10YR6/4 外: Hue 7SYR6/4	80号堅穴住居址	
76	76	土飼器	高 壁	12.4	脚部のみ ほぼ完形	内: 削り、ハケ目 外: 四輪ナデ	内: Hue 10YR6/6 外: Hue 7SYR7/6	80号堅穴住居址	
	77	土飼器	高 壁	14.0	脚部4/5	内: 四輪ナデ、ナデ、 削り 外: 四輪ナデ、ハケ目 削りナデ	内: Hue SYR6/6 外: Hue 7SYR6/6	80号堅穴住居址	外間に亀裂あり
	78	土飼器	高 壁		1/4	内: 削り 外: 四輪ナデ、ナデ、 ハケ目、焼き	内: Hue 10YR6/4 外: Hue 10YR6/4	80号堅穴住居址	
79	79	土飼器	小形丸底壺	2/3		内: ナデ 外: 四輪ナデ、ハケ目	内: Hue 7SYR6/4 外: Hue 7SYR6/6	80号堅穴住居址	
	80	土飼器	亞	10.8	約1/4	内: 四輪ナデ、ナデ、 削り 外: 四輪ナデ、ナデ、 ハケ目	内: Hue SYR5/6 外: Hue 25YR5/6	80号堅穴住居址	
	81	土飼器	小型丸底壺	10.8	2/3	内: 四輪ナデ、ナデ、 削り、焼き 外: ナデ、焼き	内: Hue SYR7/6 外: Hue SYR6/6	80号堅穴住居址	外間にスス付着
82	82	土飼器	亞		口棒-肩部片	内: 削り 外: 四輪ナデ、ナデ、 ハケ目	内: Hue 10YR7/3 外: Hue 10YR7/3	80号堅穴住居址	外間にスス付着
	83	土飼器	亞	17.4	約1/4	内: 四輪ナデ、削り 外: 四輪ナデ、ハケ目	内: Hue 25YR6/6 外: Hue 25YR6/6	80号堅穴住居址	外間にスス付着・吹きこぼれあり
	84	土飼器	亞	17.2	口棒部片	内: 四輪ナデ、ハケ目 外: 四輪ナデ、ハケ目	内: Hue 10YR6/4 外: Hue 7SYR7/4	80号堅穴住居址	外間にスス付着
85	85	土飼器	亞	16.5	口棒部2/3	内: 四輪ナデ、ナデ、 削り、ハケ目 外: 四輪ナデ、ハケ目	内: Hue 10YR6/4 外: Hue 7SYR6/4	80号堅穴住居址	
	86	土飼器	亞?		脚部片	内: ナデ、ハケ目 外: ナデ	内: Hue 10YR6/4 外: Hue 10YR6/4	80号堅穴住居址	外間に亀裂あり
	87	土飼器	高 壁	1/3		内: ナデ、削り、ハケ目 外: ナデ、削り、ハケ目	内: Hue 10YR6/4 外: Hue 10YR7/4	92号堅穴住居址	
88	88	土飼器	亞	18.2	口棒部1/4	内: 四輪ナデ、ハケ目 外: 四輪ナデ、ハケ目	内: Hue 25Y6/2 外: Hue 10S5/6	92号堅穴住居址	
	89	土飼器	裏		口棒 底直径17.4 高さ	内: 四輪ナデ、ナデ、 削り 外: 四輪ナデ、ナデ	内: Hue SYR6/6 外: Hue 7SYR7/4	92号堅穴住居址	内面底面にコグあり 外間にスス付着
	90	土飼器	亞	16.6 4.0 21.5	約1/4	内: 四輪ナデ、ナデ、 削り 外: 四輪ナデ、ナデ	内: Hue 10YR7/4 外: Hue 10YR6/4	92号堅穴住居址	内外間にスス付着
91	91	土飼器	亞	13.8	1/3	内: 削り、ハケ目 外: ナデ	内: Hue 25YR7/6 外: Hue 10YR7/6	92号堅穴住居址	
	92	土飼器	亞	32.1		内: ナデ、ハケ目 外: ナデ	内: Hue 10YR7/6 外: Hue 10YR6/4	113号堅穴住居址	
	93	土飼器	耳	9.0	1/4	内: 四輪ナデ、ナデ、 削り 外: 四輪ナデ、ナデ	内: Hue 25YR6/6 外: Hue 25YR6/6	113号堅穴住居址	
94	94	土飼器	かわらけ	8.5 6.9 1.4	完 形	内: 四輪ナデ、ナデ、 削り 外: 四輪ナデ	内: Hue 10YR6/4 外: Hue 10YR6/3	113号堅穴住居址 50531	痕跡条切
	95	土飼器	器 台	15.0	脚部3/4	内: 四輪ナデ、削り 外: 四輪ナデ	内: Hue 10YR2/4 外: Hue 10YR2/6	113号堅穴住居址	
	96	土飼器	高 壁	11.6	1/6	内: 四輪ナデ、削り 外: 四輪ナデ	内: Hue SYR7/6 外: Hue SYR7/6	113号堅穴住居址 50532	

1. (医病) 病棟(輸) 新營工事に伴う発掘調査 (9901調査地点)

回	番号	遺物	種類(特徴)	法位(cm)	残存量	特徴	色	出土場所	備考
33	96	土師器	壺	口径~肩部片 底径 身高	16.2	口縁~肩部片	内: 田輪ナデ、削り、 磨き 外: 田輪ナデ	内: ハス 7.5YR7/4 外: ハス 10YR5/6	113号壺穴住居址
	97	土師器	壺	口径~肩部片 底径 身高	15.2	1/6	内: 田輪ナデ、削り、 磨き 外: 田輪ナデ、ハケ目	内: ハス 7.5YR7/2 外: ハス 10YR5/1	113号壺穴住居址
	98	土師器	壺	口径~肩部片 底径 身高	15.3 27.2	ほぼ完形	内: 千字、削り、磨き 外: 田輪ナデ、ナデ、 ハケ目	内: ハス SYR6/6 外: ハス SYR6/6	113号壺穴住居址 内面にコゲあり 外側にスス付着・吹きこぼれ痕あり
	99	土師器	壺	口径~肩部片 底径 身高	30.8	口縁~肩部片	内: 田輪ナデ、削り、 磨き 外: 田輪ナデ、ハケ目	内: ハス 10YR6/4 外: ハス 10YR6/6	113号壺穴住居址
	100	土師器	壺	口径~肩部片 底径 身高	18.6	口縁部片	内: 田輪ナデ、ナデ、 磨き 外: 田輪ナデ、ナデ、 ハケ目	内: ハス 7.5YR7/4 外: ハス 7.5YR7/4	113号壺穴住居址・ 50331
	101	土師器	壺	口径~肩部片 底径 身高	13.2 6.0	1/3	内: 田輪ナデ、ナデ、 磨き 外: 田輪ナデ、ナデ、 ハケ目	内: ハス 5YR6/1 外: ハス 5YR6/1	113号壺穴住居址
35	102	土師器	高 壺	口径~肩部片 底径 身高	11.2	脚部片	内: 田輪ナデ、削り、 磨き 外: 田輪ナデ、ハケ目	内: ハス 10YR6/3 外: ハス 10YR6/1	253号壺穴住居址
	103	土師器	高 壺	口径~肩部片 底径 身高	1/6		内: 田輪ナデ、ナデ、 磨き 外: 田輪ナデ	内: ハス 25YR6/6 外: ハス 25YR6/8	253号壺穴住居址
	104	土師器	鉢形壺	口径~肩部片 底径 身高	11.2	1/4	内: 田輪ナデ、ハラ削り、 ナデ、ハケ目	内: ハス 10YR6/3 外: ハス 10YR6/4	337・338号壺穴住居址
	105	土師器	壺	口径~肩部片 底径 身高	15.4	口縁部2/3	内: 田輪ナデ、ナデ、 ハラ削り 外: 田輪ナデ、ナデ	内: ハス 25YR6/6 外: ハス 10YR6/6	337・338号壺穴住居址
	106	土師器	二重口壺型	口径~肩部片 底径 身高	17.4	口縁部1/4	内: 田輪ナデ、ナデ、 外: 田輪ナデ、ナデ	内: ハス 10YR6/3 外: ハス 10YR7/4	337・338号壺穴住居址
	107	土師器	小鉢丸底壺	口径~肩部片 底径 身高	6.0 6.4	兜 形	内: 田輪ナデ、ハナナデ 外: 田輪ナデ、ハナナデ	内: ハス 5YR6/4 外: ハス 5YR6/4	340号壺穴住居址・ P-1
									外側底部にスス付着
37	108	手探ね土器	鉢	口径~肩部片 底径 身高	6.4 3.7	ほぼ完形	内: 手探、削オサエ 外: 手探、削オサエ	内: ハス 25YR6/3 外: ハス 25YR6/3	345号壺穴
	109	手探ね土器	鉢	口径~肩部片 底径 身高	5.6 2.0 4.0	ほぼ完形	内: 手探ナデ、削オサエ 外: 手探ナデ、削オサエ	内: ハス 25YR5/2 外: ハス 25YR5/2	345号壺穴
	110	土師器	高 壺	口径~肩部片 底径 身高	11.2	壺部1/2	内: 1ヶ目、磨き 外: 田輪ナデ、ハラ削り、 磨き	内: ハス 7.5YR6/6 外: ハス 7.5YR6/4	345号壺穴
	111	土師器	高 壺	口径~肩部片 底径 身高	11.6	1/2	内: 田輪ナデ、ナデ、 削り 外: 田輪ナデ、ナデ	内: ハス 7.5YR7/6 外: ハス 7.5YR7/4	345号壺穴
	112	土師器	壺	口径~肩部片 底径 身高	17.0	口縁部片	内: 田輪ナデ、ナデ、 外: 田輪ナデ、ハケ目	内: ハス 25Y7/3 外: ハス 25Y6/1	346号壺穴
	113	土師器	壺	口径~肩部片 底径 身高	16.0	口縁部片	内: 田輪ナデ、削り、 ハケ目 外: 田輪ナデ、削り	内: ハス 10YR6/8 外: ハス 10YR6/8	346号壺穴
	114	土師器	壺	口径~肩部片 底径 身高	15.0	口縁~肩部片	内: 田輪ナデ、ナデ、 削り 外: 田輪ナデ、削り、 ハケ目	内: ハス 7.5YR7/6 外: ハス 5YR7/6	346号壺穴
	115	土師器	小鉢丸底壺	口径~肩部片 底径 身高	11.0 11.3	ほぼ完形	内: 田輪ナデ、削り、 ハケ目 外: 田輪ナデ、ハハ目	内: ハス 10YR6/6 外: ハス 10YR6/6	346号壺穴
	116	土師器	壺	口径~肩部片 底径 身高	16.2 2.56 2.56	ほぼ完形	内: 田輪ナデ、削り、 ハケ目 外: 田輪ナデ、ハハ目	内: ハス 10YR7/4 外: ハス 10YR7/4	346号壺穴
	117	土師器	鉢	口径~肩部片 底径 身高	9.2	1/6	内: 田輪ナデ、磨き 外: 田輪ナデ、ナデ	内: ハス 5YR6/6 外: ハス 5YR6/6	352号壺穴住居址
	118	土師器	壺	口径~肩部片 底径 身高	13.6	口縁部片	内: 田輪ナデ、磨き 外: 田輪ナデ、磨き	内: ハス 10YR7/3 外: ハス 10YR7/3	352号壺穴住居址
	119	土師器	二重口壺型	口径~肩部片 底径 身高	17.0	口縁~肩部片	内: 田輪ナデ、ナデ、 ハケ目 外: 田輪ナデ、削り	内: ハス 7.5YR7/4 外: ハス 7.5YR7/4	352号壺穴住居址
	120	土師器	壺	口径~肩部片 底径 身高	17.0	口縁~肩部片	内: 田輪ナデ、ナデ、 ハケ目 外: 田輪ナデ、ハハ目	内: ハス 10YR5/3 外: ハス 10YR6/3	353号壺穴住居址
	121	土師器	二重口壺型	口縁~肩部片 底径 身高	17.0	口縁~肩部片	内: 田輪ナデ、ナデ、 ハケ目 外: 田輪ナデ、ハハ目	内: ハス 10YR7/4 外: ハス 10YR7/3	353号壺穴住居址
	122	土師器	小鉢丸底壺	口径~肩部片 底径 身高	10.5	1/3	内: 田輪ナデ、削り、 ハケ目 外: 田輪ナデ、ナデ	内: ハス 10YR7/4 外: ハス 10YR6/3	353号壺穴住居址
	123	土師器	器 台	口径~肩部片 底径 身高	7.8	1/2	内: 千字、磨き 外: 田輪ナデ、ナデ	内: ハス 7.5YR7/6 外: ハス 5YR6/6	354号壺穴住居址
	124	土師器	壺	口径~肩部片 底径 身高	13.0	口縁部1/6	内: 田輪ナデ、削り、 磨き 外: 田輪ナデ、ナデ、 ハケ目、磨き	内: ハス 10YR7/4 外: ハス 10YR6/4	354号壺穴住居址
	125	土師器	小型丸底壺	口縁~肩部片 底径 身高	12.0	口縁~肩部片 1/6	内: 田輪ナデ、削り、 磨き 外: 田輪ナデ、ナデ、 ハケ目	内: ハス SYR4/4 外: ハス 10R6/6	354号壺穴住居址
	126	土師器	壺	口径~肩部片 底径 身高	16.2	口縁部1/4	内: 田輪ナデ、削り、 磨き 外: 田輪ナデ、ナデ、 ハケ目	内: ハス 10YR7/4 外: ハス 10YR2/1	354号壺穴住居址
									スス付着

図	番号	遺物	種類(器形)	法長(cm)	残存部	特徴	色 国	出土遺物	出 場	
									内	外
39	127	土師器	小型丸底壺	8.6	1/4	内：凹縫ナデ、削り 外：凹縫ナデ、ハケ目、 器高	Hue 10YR6/4 Hue 75YR6/4	360号堅穴住居址		
	128	土師器	小型丸底壺	11.0	約1/4	内：凹縫ナデ、ナデ、 削り	Hue 10YR6/4 Hue 10YR5/4	360号堅穴住居址		
	129	土師器	小型丸底壺	11.0	1/6	内：凹縫ナデ、ナデ、 削り	Hue 10YR6/4 Hue 10YR7/4	360号堅穴住居址		
	130	土師器	壺 台	7.0		外：凹縫ナデ、ナデ、 ハケ目、削り	Hue 10YR7/6 Hue 10YR7/6	360号堅穴住居址		
	131	土師器	壺 台	8.6	凹縫のみ3/4	内：ナデ、ハケ目 外：凹縫ナデ、削り、 器高	Hue 10YR15/1 Hue 75YR6/4	360号堅穴住居址	跡部内面彩色剥離	
	132	土師器	高 壺	14.0	1/4	内：削り、削き 外：凹縫ナデ、削り、 器高	Hue 25YR6/4 Hue 10YR6/4	360号堅穴住居址		
	133	土師器	高 壺	12.0	新部のみ5/6	内：削き 外：ハケ日後ナデ	Hue 25YR7/6 Hue 10YR7/6	360号堅穴住居址		
	134	土師器	高 壺	16.8	1/4	内：削き 外：削き、ハケ目	Hue 75YR2/6 Hue 10YR7/4	360号堅穴住居址		
	135	土師器	甕	19.0	口縁一部断片	内：凹縫ナデ、ナデ、 削り、ハケ目 外：凹縫ナデ、ハケ目	Hue 10YR5/4 Hue 25YR6/4	360号堅穴住居址	外面にスス・コゲ付着	
	136	土師器	甕	14.7	口縁部片	内：凹縫ナデ、ナデ、 ハケ目 外：凹縫ナデ、ハケ目	Hue 10YR7/4 Hue 75YR7/4	360号堅穴住居址	外面にスス付着・黒斑あり	
	137	土師器	亞	19.5	1/8	内：凹縫ナデ、削り、 ハケ目 外：凹縫ナデ、削り	Hue 5YR6/4 Hue 75YR6/3	360号堅穴住居址	内面口縁部にコゲあり 外面上にスス・コゲ付着	
	138	土師器	甕	16.8	口縁部のみ1/2	内：凹縫ナデ、ハケ目 外：凹縫ナデ、ハケ目	Hue 5YR6/6 Hue 25YR6/6	360号堅穴住居址		
	139	土師器	甕	14.7	約1/6	内：削り、削オエ、 削り、削オエ、 削り、ハケ目	Hue 10YR6/4 Hue 25YR7/4	360号堅穴住居址	外面にスス・コゲ付着	
	140	土師器	甕	13.0	口縁部片	内：凹縫ナデ、ナデ、 ハケ目 外：凹縫ナデ、ナデ、 ハケ目	Hue 10YR7/4 Hue 75YR7/4	360号堅穴		
	141	土師器	甕	13.6	口縁一部断片	内：凹縫ナデ、削り 外：凹縫ナデ、削り	Hue 75YR7/4 Hue 75YR5/4	360号堅穴	外面上にスス付着	
40	142	土師器	小型丸底壺	11.6	約1/2	内：削縫ナデ、ナデ、 削き 外：凹縫ナデ、ナデ、 ハケ目	Hue 75YR4/6 Hue 75YR4/6	367号堅穴住居址		
	143	土師器	小型丸底壺	11.5	4/5	内：ナデ、ハケ目 外：ナデ、ハケ目	Hue 25Y7/4 Hue 25Y5/3	367号堅穴住居址		
	144	土師器	小型丸底壺	13.2	ほぼ完形	内：凹縫ナデ、ナデ、 削り、削オエ、 削り、ハケ目 外：凹縫ナデ、ハケ目	Hue 7YR7/4 Hue 7YR7/4	367号堅穴住居址	外面にスス付着	
	145	土師器	高 壺	16.5	3/4	内：凹縫ナデ、ナデ、 削り、削オエ、 削り、ハケ目	Hue 10YR6/3 Hue 10YR7/4	367号堅穴住居址	黒斑あり 内側面にスス付着	
	146	土師器	高 壺	13.5	2/3	内：凹縫ナデ、ナデ、 削り、削オエ、 削り、ハケ目	Hue 25Y7/4 Hue 10YR7/4	367号堅穴住居址		
	147	土師器	甕	15.4	口縁一部断片 1/3	内：凹縫ナデ、削り 外：凹縫ナデ、ナデ、 ハケ目	Hue 25YR5/6 Hue 5YR5/6	368号魚石土坑	内面にコゲあり 外面上にスス付着	
	148	土師器	甕	14.1	1/3	内：凹縫ナデ、削り 外：凹縫ナデ、ハケ目	Hue 5YR5/4 Hue 25YR5/8	368号魚石土坑	黒斑あり	
	149	灰窓器	甕	7.6	1/3	内：凹縫ナデ、ナデ、 削り、削オエ、 ハケ目	Hue 25YR6/1 Hue NS-0	368号魚石土坑	ヘラ記号「×」あり	
	150	灰窓器	甕	4.5	口縁部片	内：凹縫ナデ、削り 外：凹縫ナデ、削り	Hue NS-0 Hue NS-0	394号ビット		
42	151	灰窓器	甕	21.0	口縁一部断片 1/3	内：凹縫ナデ、タキ目 外：凹縫ナデ、タキ目	Hue 5Y5/1 Hue 10YR4/1	30号堅穴住居址		
	152	土師器	甕	13.6	約1/4	内：凹縫ナデ、削き 外：凹縫ナデ、削き	Hue 25YR5/6 Hue 25YR5/6	43号堅穴住居址	黒斑あり	
	153	土師器	甕	15.6	口縁部片	内：凹縫ナデ、削り 外：凹縫ナデ	Hue 5YR6/5 Hue 5YR6/5	43号堅穴住居址		
44	154	土師器	二底口縁甕	24.0	口縁部のみ 1/4	内：凹縫ナデ 外：凹縫ナデ、削り	Hue 25YR6/8 Hue 25YR6/6	50号堅穴住居址		
	155	土師器	甕	18.2	口縁部片	内：凹縫ナデ 外：凹縫ナデ、削り	Hue 25YR6/8 Hue 25YR6/8	52号堅穴住居址		
	156	土師器	甕	13.6	約1/4	内：凹縫ナデ 外：凹縫ナデ	Hue 75YR7/4 Hue 75YR7/4	52号堅穴住居址		
	157	土師器	甕	5.8	1/4	内：凹縫ナデ 外：凹縫ナデ、削り	Hue 75YR7/6 Hue 75YR6/6	52号堅穴住居址		

1. (医病) 病棟(軸) 新嘗工事に伴う発掘調査 (9901調査地点)

固	番号	遺物	種類(器形)	法量(cm)	規 容	特徴	色 因	出土遺物	備 対
44	158	土師器	耳	底径8.6 底高5.1	底盤片	内:ナデ 外:圓板ナデ、削り	内:Hu 10R6/6 外:Hu 5YR7/4	52号竪穴住居址・ 50272	
	159	土師器	碗	口径12.6 底径8.2 厚5.1	1/4	内:圓板ナデ、ナデ 外:圓板ナデ、削り	内:Hu 5YR6/8 外:Hu 5YR6/8	52号竪穴住居址	
	160	土師器	碗	口径12.6 底径8.2 厚5.1	1/8	内:選き 外:ナデ、削り	内:Hu 5YR6/6 外:Hu 5YR6/6	52号竪穴住居址	
	161	須志器	蓋	口径14.6 底径20 厚2.0	頭盤片	内:ナデ 外:圓板ナデ、削り	内:Hu 7SYR5/3 外:Hu 5Y6/1	52号竪穴住居址	
	162	須志器	蓋	口径14.3 底径20 厚2.0	約1/4	内:圓板ナデ、ナデ 外:圓板ナデ、削り	内:Hu N4/0 外:Hu N4/0	52号竪穴住居址	
	163	須志器	蓋	口径14.3 底径20 厚2.0	1/8	内:圓板ナデ、ナデ 外:圓板ナデ、削り	内:Hu 5Y6/2 外:Hu 5Y6/1	52号竪穴住居址	
	164	須志器	蓋	口径12.0 底径12 厚1.2	1/2	内:圓板ナデ、ナデ 外:圓板ナデ、ナデ、 削り	内:Hu 10Y5/1 外:Hu N5/0	52号竪穴住居址	内面にスス付着 外側に自然釉あり
	165	須志器	耳	口径9.0 底径32 厚3.2	1/4	内:圓板ナデ、削り 外:圓板ナデ、削り	内:Hu N4/0 外:Hu N4/0	52号竪穴住居址	
	166	須志器	耳	口径11.8 底径6.8 厚3.1	1/8	内:圓板ナデ 外:圓板ナデ、削り	内:Hu SPB6/1 外:Hu SPB6/1	52号竪穴住居址	外側面に自然釉あり
	167	須志器	耳	口径10.7 底径33 厚3.3	1/2	内:圓板ナデ 外:圓板ナデ、削り	内:Hu N5/0 外:Hu N5/0	52号竪穴住居址	外側面に自然釉あり
	168	須志器	碗	口径13.4 底径9.0 厚4.0	1/3	内:圓板ナデ、ナデ 外:圓板ナデ、削り	内:Hu 10Y5/1 外:Hu 10Y5/1	52号竪穴住居址・ 50075	
	169	須志器	碗	口径13.4 底径9.0 厚4.0	1/2	内:圓板ナデ 外:圓板ナデ、削り	内:Hu 10Y5/1 外:Hu 5GY6/1	52号竪穴住居址	
	170	須志器	碗	口径14.2 底径13 厚3.3	1/3	内:圓板ナデ 外:圓板ナデ、削り	内:Hu 5Y4/1 外:Hu 5Y4/1	52号竪穴住居址	外側一部に自然釉あり
	171	須志器	碗	口径9.2 底径13.8 厚3.8	1/6	内:圓板ナデ 外:圓板ナデ	内:Hu SDA/1 外:Hu 7SY3/1	52号竪穴住居址	
	172	須志器	蓋(紙形)	口徑部1/3	内:圓板ナデ、削り 外:圓板ナデ、削り	内:Hu 25Y5/1 外:Hu 25Y5/1	52号竪穴住居址	外側面にスス付着	
	173	土師器	蓋(紙形)	口徑2.85 底径2.0 厚0.5	約1/8	内:圓板ナデ、ナデ、 削り 外:圓板ナデ、ナデ削り	内:Hu 10Y2/2 外:Hu 5YR6/4	52号竪穴住居址	外側面にスス付着
	174	土師器	耳	口徑2.0 底径1.8 厚0.5	口徑部1/4	内:圓板ナデ、削り 外:圓板ナデ	内:Hu 5YR6/4 外:Hu 25YR6/8	52号竪穴住居址	外側面にスス付着
	175	土師器	耳(紙形)	口徑~胴部片	内:圓板ナデ、削り 外:圓板ナデ、ナデ	内:Hu 7SYR5/4 外:Hu 25YR7/6	52号竪穴住居址	内面にコゲあり 外側にスス付着	
	176	土師器	耳	口徑~胴部片	内:圓板ナデ、削り 外:圓板ナデ、ナデ	内:Hu 25YR5/6 外:Hu 25YR5/6	52号竪穴住居址		
	177	土師器	耳	口徑2.84 底径2.0 厚0.5	口徑部片	内:圓板ナデ、ハケ目 外:圓板ナデ、ハケ目	内:Hu 10Y2/1 外:Hu 10Y2/4	52号竪穴住居址	
	178	土師器	移動式壺	口徑~底盤片	内:削り	内:Hu 5YR6/6 外:Hu 7SYR6/6	52号竪穴住居址		
	179	土師器	瓶	口徑~底盤片	取手のみ	内:削り、ハケ目 外:ナデ、ハケ目	内:Hu 7SYR7/4 外:Hu 7SYR7/4	52号竪穴住居址・ 50038	
45	180	土師器	耳	口徑12.5 底径7.8 厚3.6	1/4	内:圓板ナデ、ナデ、 削り 外:圓板ナデ、削り	内:Hu 7SYR7/6 外:Hu 7SYR7/6	29号竪穴住居址	
	181	土師器	耳	口徑13.6 底径8.2 厚3.4	口徑~底盤片	内:圓板ナデ 外:圓板ナデ	内:Hu 25YR5/6 外:Hu 25YR5/6	29号竪穴住居址	外側面赤化施土
	182	土師器	耳	口徑13.4 底径8.6 厚3.4	口徑~底盤片	内:圓板ナデ 外:圓板ナデ	内:Hu 25YR5/6 外:Hu 25YR5/6	29号竪穴住居址	外側面赤化施土
	183	土師器	耳	口徑13.3 底径8.0 厚2.1	1/8	内:圓板ナデ、削り 外:圓板ナデ、削り	内:Hu 25YR5/6 外:Hu 25YR5/6	29号竪穴住居址	外側面赤化施土
	184	土師器	耳	口徑16.4 底径9.0 厚3.5	口徑~底盤片	内:ナデ、削り 外:削り	内:Hu 10R4/6 外:Hu 10R4/6	29号竪穴住居址	外側面に丹塗り
	185	須志器	蓋	口徑14.2 底径12.0 厚2.4	1/6	内:圓板ナデ、削り 外:圓板ナデ	内:Hu 7SY5/1 外:Hu 7SY5/1	29号竪穴住居址	
	186	土師器	耳	口徑12.2 底径11.0 厚2.0	口徑~胴部片	内:圓板ナデ、削り 外:圓板ナデ	内:Hu 25YR5/6 外:Hu 25YR5/6	29号竪穴住居址	内面にスス付着
	187	土師器	耳	口徑16.0 底径14.0 厚2.0	1/8	内:圓板ナデ、削り 外:圓板ナデ、削り	内:Hu 5YR2/6 外:Hu 5YR2/6	29号竪穴住居址	
	188	土師器	耳	口徑19.3 底径17.0 厚2.0	口徑部片	内:圓板ナデ、削り 外:圓板ナデ、ハケ目	内:Hu 5YR6/4 外:Hu 5YR6/4	29号竪穴住居址	
	189	土師器	耳	口徑19.3 底径17.0 厚2.0	口徑~胴部片	内:ナデ、削り 外:圓板ナデ、ハケ目	内:Hu 5YR6/4 外:Hu 5YR6/4	29号竪穴住居址	底部内面にコゲあり

図	番号	遺物	種類(断面)	法線(cm)	残存部	特徴	色 国	出土場所	備考	
									内	外
45	190	瓶	直	11.2	口縁部片	内：圓軸ナギ、削り 外：圓軸ナギ、削り	内：Hue 7SY4/1 外：Hue 7SY4/1	261号堅穴住居址		
	191	瓶	環	10.1	2/3	内：圓軸ナギ、ナギ 外：圓軸ナギ、削り	内：Hue 5Y8/2 外：Hue 5Y7/1	261号堅穴住居址	ヘタ記号あり 削渡あり	
	192	土師器	環	9.6	約1/4	内：圓軸ナギ、削り 外：圓軸ナギ、削り	内：Hue 7SY8/6 外：Hue 5Y8/6	257号堅穴住居址		
46	193	土師器	環	12.0	1/4	内：圓軸ナギ、削り 外：圓軸ナギ、削り	内：Hue 25YRS/6 外：Hue 25YRS/6	343号堅穴住居址	内外面赤色化粧土	
	194	土師器	環	20.7	口縁部片	内：圓軸ナギ、削り 外：圓軸ナギ、削り	内：Hue 25YRS/6 外：Hue 25YRS/6	343号堅穴住居址		
	195	土師器	環	30.7	口縁部片	内：圓軸ナギ、削り 外：圓軸ナギ、削り	内：Hue 5Y8/6 外：Hue 5Y8/6	343号堅穴住居址	外面にスス・コゲ付着	
47	196	瓶	直	約1/2	内：圓軸ナギ、ナギ 外：圓軸ナギ、削り	内：Hue N4/0 外：Hue N5/0	343号堅穴住居址	外面に自然軋あり		
	197	瓶	直	4/5	内：圓軸ナギ、ナギ 外：圓軸ナギ、削り	内：Hue 5Y7/1 外：Hue 5Y7/1	343号堅穴住居址			
	198	瓶	直	19.0	口縁部片	内：圓軸ナギ、削り 外：圓軸ナギ、削り	内：Hue 10GY4/1 外：Hue N4/0	343号堅穴住居址		
48	199	土師器	環	20.2	口縁～底部片	内：圓軸ナギ、削り 外：圓軸ナギ	内：Hue 10RS/8 外：Hue 10RS/8	355号堅穴住居址		
	200	土師器	環	21.0	底片	内：圓軸ナギ、ナギ 外：圓軸ナギ	内：Hue 7SYR7/4 外：Hue 7SYR7/4	355号堅穴住居址	前面にスス付着	
	201	土師器	移動式環	21.0	底片	内：ナギ、削り 外：ナギ	内：Hue 10YRS/3 外：Hue 10YRS/4	355号堅穴住居址	前面にスス付着	
49	202	土師器	環	14.6	1/8	内：圓軸ナギ、削り 外：圓軸ナギ、ハケ目	内：Hue 7SYR6/5 外：Hue 5YRS/4	356号堅穴住居址	前面にスス・コゲ付着	
	203	土師器	環	14.3	3/4	内：圓軸ナギ 外：圓軸ナギ	内：Hue 25YRS/6 外：Hue 10YR7/4	357号堅穴		
	204	土師器	直	16.2	1/3	内：削き 外：削き	内：Hue 25YRS/6 外：Hue 25YRS/6	357号堅穴	前面にスス付着	
50	205	土師器	移動式環	16.2	底片	内：ナギ 外：ナギ、留オサキ	内：Hue 5YRS/4 外：Hue 5YRS/4	357号堅穴	前面にスス付着	
	206	土師器	環	14.8	1/2	内：圓軸ナギ 外：圓軸ナギ、へ削り	内：Hue 7SYR7/6 外：Hue 5YR7/6	348号(357号堅穴の一 角)		
	207	瓶	直	15.8	3/4	内：削ヘラ削り 外：削ヘラ削り	内：Hue 10YR4/1 外：Hue N4/0	367号堅穴住居址		
51	208	瓶	直	4.25	1/2	内：圓軸ナギ、ナギ 外：圓軸ヘラ削り	内：Hue NS/0 外：Hue NS/0	367号堅穴住居址		
	209	瓶	直	7.6	1/2	内：削ヘラ削り 外：削ヘラ削り	内：Hue 10YR2/2 外：削ヘラ削り	367号堅穴住居址		
	210	瓶	直	4.5	1/2	内：削ヘラ削り 外：削ヘラ削り	内：Hue 10YR5/2 外：削ヘラ削り	367号堅穴住居址	前面に自然軋あり	
52	211	瓶	直	10.4	1/4	内：ナギ、削り 外：削り	内：Hue 10YR5/1 外：Hue 25Y7/1	367号堅穴住居址		
	212	瓶	直	3.8	1/3	内：ナギ 外：削り	内：Hue 25Y8/2 外：Hue 25Y8/1	367号堅穴住居址		
	213	土師器	環	100	1/3	内：削ヘラ削り 外：削ヘラ削り	内：Hue NS/0 外：Hue NS/0	367号堅穴住居址		
53	214	土師器	環	56	3/4	内：削ヘラ削り 外：削ヘラ削り	内：Hue NS/0 外：Hue NS/0	367号堅穴住居址		
	215	土師器	直	9.0	1/2	内：削ヘラ削り 外：削ヘラ削り	内：Hue NS/0 外：Hue NS/0	367号堅穴住居址		
	216	土師器	環	56	1/2	内：削ヘラ削り 外：削ヘラ削り	内：Hue NS/0 外：Hue NS/0	367号堅穴住居址		
54	217	土師器	環	27	1/4	内：削ヘラ削り 外：削ヘラ削り	内：Hue NS/0 外：Hue NS/0	367号堅穴住居址		
	218	土師器	環	27	1/3	内：削ヘラ削り 外：削ヘラ削り	内：Hue SYR6/6 外：Hue SYR6/6	367号堅穴住居址		
	219	土師器	環	30	ほぼ完形	内：削ヘラ削り、ナギ 外：削ヘラ削り	内：Hue SYR6/6 外：Hue SYR6/6	367号堅穴住居址	灯籠面として使用か? 前面赤色化粧土	
55	220	土師器	環	32	1/2	内：削ヘラ削り 外：削ヘラ削り	内：Hue 7SYR6/6 外：Hue 7SYR6/6	367号堅穴住居址		
	221	土師器	環	39	1/2	内：削ヘラ削り 外：削ヘラ削り	内：Hue SYR6/6 外：Hue SYR6/6	367号堅穴住居址	前面にスス付着 前面赤色化粧土	

1. (医病) 病棟(船) 新營工事に伴う発掘調査 (9901調査地点)

回	番号	遺物	種類(部材)	地質 (cm)	現存量	特徴	色 国	出土遺物	備考
50	222	土師器	坪	口径 151 底径 100 厚さ 33	1/4	内: 陶板ナデ 外: 陶板ナデ	内: Hue 7SYR7/6 外: Hue 7SYR7/6	25号竪穴住居址	
	223	土師器	坪	口径 140		口縁部片	内: 陶板ナデ 外: 陶板ナデ	内: Hue 7SYR7/6 外: Hue 7SYR7/6	25号竪穴住居址 外面に焼きムラあり
	224	土師器	盤	口径 164 底径 120 厚さ 33		口縁部片	内: 陶板ナデ 外: 陶板ナデ	内: Hue 7SYR7/4 外: Hue 7SYR7/4	24号竪穴住居址 外面にスス付着
	225	土師器	甕	口径 162 底径 120 厚さ 33		口縁部片	内: 陶板ナデ 外: 陶板ナデ	内: Hue 7SYR6/6 外: Hue 7SYR6/6	25号竪穴住居址
	226	土師器	小甕	口径 112 底径 80 厚さ 33		口縁部片	内: 陶板ナデ, 裂け 外: 陶板ナデ	内: Hue SYR7/8 外: Hue SYR7/8	25号甕穴住居址
	227	土師器	甕	口径 162 底径 120 厚さ 33		口縁部片	内: 陶板ナデ 外: 陶板ナデ	内: Hue 10YR2/6 外: Hue 10YR6/3	25号甕穴住居址 外面に焼きムラあり
	228	土師器	甕	口径 146 底径 80 厚さ 33	1/4	内: 陶板ナデ, 裂け 外: 陶板ナデ, ハケ II	内: Hue SYR5/6 外: Hue SYR5/6	25号甕穴住居址	外面にスス付着
	229	土師器	甕	口径 158 底径 80 厚さ 33		口縁部片	内: 陶板ナデ, 裂け 外: 陶板ナデ	内: Hue 10YR7/4 外: Hue 10YR7/4	25号甕穴住居址
	230	土師器	甕	口径 280 底径 80 厚さ 33		口縁部片	内: 陶板ナデ 外: 陶板ナデ	内: Hue 7SYR7/6 外: Hue 7SYR7/6	25号竪穴住居址 外面にスス付着
	231	土師器	坪	口径 130 底径 81 厚さ 29	2/3	内: 陶板ナデ, ナデ 外: 陶板ナデ, 裂け	内: Hue 7SYR7/6 外: Hue SYR5/6	25号竪穴住居址	出土「景」あり 外面赤化粧土
	232	灰窓器	蓋	口径 142 底径 80 厚さ 33		口縁部片	内: 陶板ナデ 外: 陶板ナデ	内: Hue N4/0 外: Hue N5/0	25号竪穴住居址
	233	灰窓器	蓋	口径 142 底径 80 厚さ 33		口縁部片	内: 陶板ナデ, 裂け 外: 陶板ナデ	内: Hue 10Y5/1 外: Hue 10Y5/1	25号竪穴住居址 外面に自然色あり
	234	灰窓器	皿	口径 160 底径 122 厚さ 22		口縁部片	内: 陶板ナデ, ナデ 外: 陶板ナデ, 裂け	内: Hue SY7/1 外: Hue SY7/1	25号竪穴住居址 外面に焼きムラあり
	235	灰窓器	蓋	口径 90 底径 73 厚さ 34		底部片	内: 陶板ナデ, ナデ 外: 陶板ナデ	内: Hue SY7/1 外: Hue SY7/1	25号竪穴住居址
	236	灰窓器	碗?	口径 133 底径 73 厚さ 34		口縁部片	内: 陶板ナデ 外: 陶板ナデ	内: Hue 7SY5/1 外: Hue 7SY5/1	25号竪穴住居址
	237	灰窓器	皿	口径 186 底径 122 厚さ 45	1/4	内: 陶板ナデ 外: 陶板ナデ, 裂け	内: Hue SY5/1 外: Hue SY5/1	25号竪穴住居址	
	238	灰窓器	坪	口径 132 底径 73 厚さ 34	1/3	内: 裂け 外: 陶板ナデ, ナデ, 裂け	内: Hue 7SY7/1 外: Hue 7SY7/1	25号竪穴住居址	
	239	灰窓器	甕?	口径 27.6 底径 22 厚さ 34		口縁部片	内: 陶板ナデ 外: 陶板ナデ, 裂け	内: Hue 10YRS/1 外: Hue 10YRS/1	25号竪穴住居址 外面に自然色あり
	240	土師器	甕	口径 154 底径 70 厚さ 31		口縁部片	内: 陶板ナデ, 裂け 外: 陶板ナデ, ハケ日	内: Hue 2SYR5/4 外: Hue 2SYR5/4	114号竪穴住居址
	241	土師器	甕	口径 154 底径 70 厚さ 31		口縁部片	内: 陶板ナデ, 裂け 外: 陶板ナデ, ナデ	内: Hue 10YR5/4 外: Hue 10YR5/4	114号竪穴住居址
	242	灰窓器	蓋	口径 23.4 底径 62 厚さ 24	1/8	口縁部片	内: 陶板ナデ 外: 陶板ナデ, 裂け	内: Hue SY5/1 外: Hue SY5/1	114号竪穴住居址
51	243	土師器	蓋	口径 136 底径 90 厚さ 22	1/2	内: 陶板ナデ, ナデ 外: 陶板ナデ	内: Hue 2SYR5/8 外: Hue 2SYR5/8	157号竪穴住居址	外面赤化粧土
	244	土師器	坪	口径 124 底径 84 厚さ 21		内: 陶板ナデ	内: Hue SYR5/6 外: Hue 2SYR5/6	157号竪穴住居址	外面赤化粧土
	245	土師器	坪	口径 122 底径 70 厚さ 31	1/4	内: 陶板ナデ 外: 陶板ナデ	内: Hue SYR6/6 外: Hue SYR6/6	157号竪穴住居址	内外面赤化粧土
	246	土師器	坪	口径 11.6 底径 62 厚さ 24	1/3	内: 陶板ナデ, 脱け 外: 陶板ナデ	内: Hue 2SYR5/6 外: Hue 2SYR5/6	157号竪穴住居址	内外面赤化粧土
	247	土師器	坪	口径 138 底径 80 厚さ 30	4/5	内: 陶板ナデ, 陶板 外: 陶板ナデ, 陶板	内: Hue SYR6/6 外: Hue 2SYR5/6	157号竪穴住居址 · P-7 · P-8	
	248	土師器	坪	口径 138 底径 80 厚さ 30	2/3	内: 陶板ナデ, 陶板 外: 陶板ナデ, 裂け 脱け	内: Hue SYR6/6 外: Hue 2SYR5/6	157号竪穴住居址	
	249	土師器	坪	口径 136 底径 79 厚さ 32	1/4	内: 陶板ナデ, 脱け 外: 陶板ナデ, 裂け	内: Hue SYR5/6 外: Hue 2SYR5/6	157号竪穴住居址	表面にヘア記号あり
	250	土師器	坪	口径 9.6 底径 6.8 厚さ 32		底部片	内: 陶板ナデ, 脱け 外: 陶板ナデ, 裂け	内: Hue 2SYR5/6 外: Hue 2SYR5/6	157号竪穴住居址
	251	土師器	碗	口径 9.4 底径 6.8 厚さ 32		底部片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 2SYT7/3 外: Hue 10YR5/3	157号竪穴住居址 破壊あり
	252	土師器	坪	口径 9.4 底径 6.8 厚さ 32		底部片	内: 陶板ナデ 外: 陶板ナデ	内: Hue SYR5/6 外: Hue 2SYR5/6	157号竪穴住居址
	253	土師器	甕	口径 9.4 底径 6.8 厚さ 32		底部片	内: 陶板ナデ 外: 陶板ナデ	内: Hue SYR5/6 外: Hue 2SYR5/6	157号竪穴住居址

図	番号	遺物	種類(特徴)	法盤(cm)	規 容 量	特徴	色 調	出土遺構	圖 号
51	254	土師器	碗	口径 22.0 底径 18.0	1/8	内: 回転ナダ、削り、 外: 回転ナダ、削り、 削り	内: Hue 10YR5/8 外: Hue 10YR5/8	157号堅穴住居址	内外面赤色化粧土
	255	土師器	皿	口径 15.2 底径 12.3 高さ 1.8	1/2	内: 回転ナダ、ナダ 外: 回転ナダ、ナダ	内: Hue 2.5YR5/6 外: Hue 2.5YR5/6	157号堅穴住居址	全面に赤色化粧土
	256	土師器	皿	口径 16.0 底径 12.0 高さ 1.8	1/4	内: 回転ナダ、ナダ 外: 回転ナダ、削り	内: Hue 2.5YR5/6 外: Hue 5YR5/6	157号堅穴住居址	内面にスズ付舟
	257	土師器	皿	口径 18.8 底径 15.0 高さ 1.4	口縁～底部片	内: 回転ナダ 外: 回転ナダ	内: Hue 5YR5/6 外: Hue 5YR5/6	157号堅穴住居址	
	258	土師器	皿	口径 17.6 底径 14.8 高さ 1.9	口縁～底部片	内: 回転ナダ、ナダ 外: 回転ナダ、ナダ	内: Hue 2.5YR5/6 外: Hue 2.5YR5/6	157号堅穴住居址	内外面赤色化粧土
	259	土師器	高 壺	口径 16.0 底径 12.0 高さ 1.8	脚部2/3	内: ナダ、削り 外: 削り	内: Hue 7.5YR5/4 外: Hue 10YR5/4	157号堅穴住居址	
	260	土師器	壺	口径 15.8 底径 12.0 高さ 1.8	口縁部片	内: 回転ナダ、削り 外: 回転ナダ、ナダ、 ハラ目	内: Hue 7.5YR5/4 外: Hue 7.5YR5/4	157号堅穴住居址	
	261	土師器	壺	口径 25.6 底径 21.0 高さ 1.8	口縁部片	内: 回転ナダ、削り 外: 回転ナダ、ナダ、 ハラ目	内: Hue 10YR7/4 外: Hue 5YR7/4	157号堅穴住居址	
	262	土師器	壺	口径 28.0 底径 24.0 高さ 1.8	口縁部片	内: 回転ナダ、削り 外: 回転ナダ、ナダ、 ハラ目	内: Hue 10YR5/2 外: Hue 7.5YR5/4	157号堅穴住居址	外面にスズ付舟
	263	土師器	二重口縁壺	口径 25.4 底径 21.0 高さ 1.8	口縁～脚部片	内: ハラ目、削り 外: ハラ目	内: Hue 7.5YR7/6 外: Hue 5YR5/6	157号堅穴住居址・ 室下・10・13・20・ 掘り方・屋上土・20・ 屋上土上・10・窓付透	
	264	須恵器	蓋	口径 16.0 底径 12.0 高さ 1.8	1/2	内: 回転ナダ 外: 回転ナダ、ナダ	内: Hue N4/0 外: Hue N5/0	157号堅穴住居址・ P-2	
	265	須恵器	鏡	口径 9.2 底径 8.0 高さ 1.8	底部1/4	内: 回転ナダ、削り 外: 回転ナダ、削り	内: Hue 10Y5/1 外: Hue 7.5Y4/1	157号堅穴住居址・ P-21	
	266	須恵器	耳	口径 12.4 底径 8.4 高さ 3.2	約1/4	内: 回転ナダ、ナダ 外: 回転ナダ、ナダ	内: Hue 7.5Y4/1 外: Hue 7.5Y3/1	157号堅穴住居址	
52	267	土師器	壺	口径 9.0 底径 8.0 高さ 1.8	1/8	内: 回転ナダ、ナダ、 滑り 外: 回転ナダ、削り	内: Hue 2.5YR6/6 外: Hue 3YR7/6	258号堅穴住居址	外面赤色化粧土
	268	土師器	壺	口径 9.1 底径 8.0 高さ 1.8	底部片	内: ナダ、滑り 外: ナダ、削り	内: Hue 5YR2/6 外: Hue 2.5YR6/6	258号堅穴住居址	内外面赤色化粧土
	269	土師器	壺	口径 8.0 底径 7.0 高さ 1.8	1/6	内: 回転ナダ、滑り 外: 滑り	内: Hue 2.5YR6/6 外: Hue 5YR7/6	258号堅穴住居址	
	270	土師器	壺	口径 28.4 底径 24.0 高さ 1.8	口縁～脚部片	内: 回転ナダ、削り、 ハラ目 外: 回転ナダ、ハラ目	内: Hue 5YR7/6 外: Hue 7.5Y5/4	258号堅穴住居址	内外面にコグ・吹きこはれあり
	271	須恵器	鏡	口径 9.4 底径 8.0 高さ 1.8	底部片	内: 回転ナダ 外: 回転ナダ、削り	内: Hue 2.5Y5/2 外: Hue 2.5Y7/3	258号堅穴住居址	
53	272	土師器	壺	口径 13.0 底径 8.4 高さ 3.3	1/2	内: 回転ナダ 外: 回転ナダ、削り	内: Hue 5YR5/6 外: Hue 5YR5/6	300号堅穴住居址	内外面赤色化粧土
	273	土師器	壺	口径 13.5 底径 9.8 高さ 2.5	2/3	内: 回転ナダ、ナダ 外: 回転ナダ	内: Hue 5YR5/6 外: Hue 5YR5/6	300号堅穴住居址	内外面赤色化粧土
	274	土師器	壺	口径 13.3 底径 7.7 高さ 2.5	2/3	内: 回転ナダ、ナダ 外: 回転ナダ	内: Hue 5YR5/6 外: Hue 5YR5/6	300号堅穴住居址	内外面赤色化粧土
	275	土師器	壺	口径 12.4 底径 8.0 高さ 3.2	4/5	内: 回転ナダ、ナダ 外: 回転ナダ	内: Hue 5YR5/6 外: Hue 5YR5/6	300号堅穴住居址	不明記して使用か? 内外面赤色化粧土 スズ付舟
	276	土師器	壺	口径 13.6 底径 8.6 高さ 2.9	約1/2	内: 回転ナダ、ナダ 外: 回転ナダ	内: Hue 5YR5/6 外: Hue 5YR5/6	300号堅穴住居址	内外面赤色化粧土
	277	土師器	壺	口径 13.4 底径 8.6 高さ 3.2	2/3	内: 回転ナダ、ナダ 外: 回転ナダ	内: Hue 5YR5/6 外: Hue 5YR5/6	300号堅穴住居址	内外面赤色化粧土
	278	土師器	壺	口径 12.5 底径 8.0 高さ 4.3	ほぼ完形	内: 回転ナダ、ナダ 外: 回転ナダ、削り	内: Hue 2.5Y8/4 外: Hue 2.5Y8/4	300号堅穴住居址	外面全体にスズ付舟
	279	土師器	壺	口径 12.8 底径 8.1 高さ 3.4	2/3	内: 回転ナダ、ナダ 外: 回転ナダ、削り	内: Hue 2.5YR5/6 外: Hue 2.5YR5/6	300号堅穴住居址	内外面赤色化粧土
	280	土師器	壺	口径 15.7 底径 10.0 高さ 3.8	2/3	内: 回転ナダ、ナダ、 削り	内: Hue 5YR5/6 外: Hue 5YR5/6	300号堅穴住居址	内外面赤色化粧土
	281	土師器	壺	口径 14.2 底径 9.6 高さ 3.3	1/4	内: 回転ナダ、ナダ 外: 回転ナダ、ナダ、 削り	内: Hue 2.5YR6/6 外: Hue 2.5YR6/6	300号堅穴住居址	内外面赤色化粧土
	282	土師器	壺	口径 13.4 底径 8.0 高さ 2.9	1/4	内: 回転ナダ、ナダ 外: 回転ナダ	内: Hue 2.5YR6/6 外: Hue 2.5YR6/6	300号堅穴住居址	
	283	土師器	壺	口径 15.8 底径 10.4 高さ 3.3	1/8	内: 回転ナダ 外: 回転ナダ	内: Hue 2.5YR6/6 外: Hue 2.5YR6/6	300号堅穴住居址	
	284	土師器	壺	口径 15.0 底径 10.0 高さ 9.2	約1/4	内: 回転ナダ 外: 回転ナダ	内: Hue 2.5YR6/6 外: Hue 2.5YR6/6	300号堅穴住居址	

1. (医病) 病棟(他) 新營工事に伴う発掘調査 (9901調査地点)

回	番号	遺物	種類(器種)	法面(cm)	残存部	特徴	色 虹	出土場所	備考
53	285	土師器	坏	口徑 12.5 底径 9.2 高さ 2.4	1/4	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	内: Hue 25YR6/6 外: Hue 25YR6/6	300号壘穴住居址	内外面赤色化粧土
	286	土師器	坏	口徑 13.6 底径 9.0 高さ 2.8	1/3	内: 回転ナデ、ナデ 外: 回転ナデ、ナデ	内: Hue 25YR5/6 外: Hue 25YR5/6	300号壘穴住居址	灯明具として使用か? 内外面赤色化粧土
	287	土師器	坏	口徑 16.4 底径 10.4 高さ 3.3	約1/4	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	内: Hue 25YR5/6 外: Hue 25YR5/6	300号壘穴住居址	
	288	土師器	坏	口徑 15.4 底径 10.2 高さ 3.0	約1/4	内: 回転ナデ、ナデ 外: 回転ナデ、ナデ	内: Hue 25YR6/6 外: Hue 25YR6/6	300号壘穴住居址	内外面にスス付着 内外面赤色化粧土
	289	土師器	坏	口徑 12.8 底径 7.6 高さ 2.7	約1/4	内: 回転ナデ、ナデ 外: 回転ナデ、ナデ 削り	内: Hue 25YR5/6 外: Hue 25YR5/6	300号壘穴住居址	外側にスス付着 内外面赤色化粧土
	290	土師器	坏	口徑 12.6 底径 7.6 高さ 3.0	約1/4	内: 回転ナデ、ナデ 外: 回転ナデ、ナデ 削り	内: Hue 25YR5/6 外: Hue 25YR5/6	300号壘穴住居址	外側にスス付着 内外面赤色化粧土
	291	土師器	瓶	口徑 8.4 底径 8.4 高さ 8.4	1/3	内: 回転ナデ、ナデ 外: 回転ナデ	内: Hue 25YR6/6 外: Hue 3YR6/6	300号壘穴住居址	
	292	頸壺器	瓶	口徑 18.0 底径 8.2 高さ 8.0	1/4	内: 回転ナデ、削り 外: 回転ナデ、削り	内: Hue 5Y5/1 外: Hue 5Y5/1	300号壘穴住居址	
	293	頸壺器	瓶	口徑 18.7 底径 8.5 高さ 8.5	1/4	内: 回転ナデ、削り 外: 回転ナデ、削り	内: Hue 5Y5/1 外: Hue 5Y5/1	300号壘穴住居址	
	294	頸壺器	坏	口徑 11.2 底径 6.5 高さ 3.5	1/2	内: 回転ナデ、ナデ 外: 回転ナデ、ナデ	内: Hue 25Y6/1 外: Hue 25Y6/1	300号壘穴住居址	流しみうあり
	295	頸壺器	坏	口徑 11.6 底径 7.2 高さ 3.5	1/4	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、ナデ	内: Hue 25Y7/1 外: Hue N7/0	300号壘穴住居址	外側にスス付着
	296	頸壺器	坏	口徑 10.0 底径 6.2 高さ 3.5	約1/2	内: 回転ナデ、ナデ 外: 回転ナデ、ナデ	内: Hue 7.5YR6/1 外: Hue 7.5YR6/1	300号壘穴住居址	
	297	頸壺器	坏	口徑 14.0 底径 8.5 高さ 3.7	2/3	内: 回転ナデ、ナデ 外: 回転ナデ、ナデ	内: Hue 10Y6/1 外: Hue 10Y6/1	300号壘穴住居址	
	298	頸壺器	坏	口徑 12.4 底径 6.4 高さ 3.1	約1/4	内: 回転ナデ、ナデ 外: 回転ナデ、ナデ	内: Hue 5Y4/1 外: Hue 5Y4/1	300号壘穴住居址	
	299	頸壺器	瓶	口徑 15.4 底径 11.5 高さ 1.5	1/8	内: 回転ナデ、ナデ 外: 回転ナデ	内: Hue 5Y7/1 外: Hue 5Y7/1	300号壘穴住居址	外側にスス付着
	300	頸壺器	瓶	口徑 16.8 底径 8.5 高さ 8.5	底部片	内: 回転ナデ、ナデ 外: 回転ナデ、削り	内: Hue 10YR6/1 外: Hue 10YR6/1	300号壘穴住居址	
	301	頸壺器	瓶	口徑 9.3 底径 5.4	底部片	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、削り	内: Hue 5Y6/2 外: Hue 5Y6/2	300号壘穴住居址	
	302	頸壺器	瓶	口徑 18.8 底径 8.4	底部のみ	内: 回転ナデ、ナデ、 ハサ目 外: 回転ナデ、ナデ、 削り	内: Hue 25Y6/2 外: Hue 25Y6/2	300号壘穴住居址	
	303	頸壺器	瓶	口徑 16.0 底径 10.0 高さ 3.0	口縫部片	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	内: Hue 5Y5/1 外: Hue 5Y5/1	300号壘穴住居址	
	304	土師器	坏	口徑 13.0 底径 8.5 高さ 3.0	1/4	内: 回転ナデ、ナデ 外: 回転ナデ、ナデ 削り	内: Hue 5YR6/6 外: Hue 5YR6/6	300号壘穴住居址	器蓋あり 内外面赤色化粧土
	305	土師器	坏	口徑 13.0 底径 8.5 高さ 3.0	3/4	内: 回転ナデ、へき縫合 外: 回転ナデ、削り、 へき縫合	内: Hue 5YR6/6 外: Hue 5YR6/6	300号壘穴住居址	器蓋あり
	306	土師器	坏	口徑 14.4 底径 10.8 高さ 3.0	1/4	内: 回転ナデ、ナデ 外: 回転ナデ、ナデ 削り	内: Hue 5YR6/6 外: Hue 5YR6/6	300号壘穴住居址	器蓋あり 内外面赤色化粧土
	307	頸壺器	坏	口徑 12.0 底径 8.0 高さ 4.3	2/3	内: 回転ナデ、ナデ 外: 回転ナデ	内: Hue 7.5Y5/1 外: Hue 7.5Y5/1	300号壘穴住居址	器蓋あり
	308	土師器	坏	口徑 13.7 底径 9.0 高さ 3.1	1/3	内: 回転ナデ、ナデ 外: 回転ナデ、ナデ	内: Hue 5YR6/6 外: Hue 5YR6/6	300号壘穴住居址	器蓋あり 内外面赤色化粧土
	309	土師器	坏	口徑 14 底径 9.0 高さ 3.0	3/4	内: 回転ナデ、へき縫合 外: 回転ナデ、へき縫合	内: Hue 25YR6/6 外: Hue 25YR6/6	300号壘穴住居址	器蓋あり 内外面赤色化粧土
	310	土師器	坏	口徑 13.4 底径 8.4 高さ 2.3	1/4	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、削り	内: Hue 25YR6/6 外: Hue 25YR6/6	300号壘穴住居址	器蓋あり 内外面赤色化粧土
	311	土師器	甕	口縫部片	内: 回転ナデ、ナデ 外: 回転ナデ、ハサ目	内: Hue 7.5YR6/6 外: Hue 7.5YR6/6	300号壘穴住居址		
	312	土師器	甕	口縫部片	内: 回転ナデ、削り 外: 回転ナデ、ハサ目	内: Hue 7.5YR7/4 外: Hue 7.5YR7/4	300号壘穴住居址	外側面にスス付着	
	313	土師器	甕	口縫部片	内: 回転ナデ、削り 外: 回転ナデ、ハサ目	内: Hue 7.5YR6/6 外: Hue 7.5YR6/6	300号壘穴住居址	外側面にスス付着	
	314	頸壺器	甕	口縫部片	内: 回転ナデ、削り 外: 回転ナデ、ハサ目 タキキ	内: Hue 10Y5/1 外: Hue 10Y5/1	300号壘穴住居址		
54	315	土師器	坏	口徑 15.4 底径 12.0 高さ 4.8	1/2	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、削り	内: Hue 5YR7/8 外: Hue 5YR7/8	310号壘穴住居址・ 38975	

回	番号	遺物	種類(器種)	地盤(cm)	規 容 量	特徴	出 土	出 土	回 号
54	316	土師器	灰	口径 16.2 底径 8.5 厚さ 3.0	約1/6	内: 四板ナデ、ナデ 外: 四板ナデ、削り	内: Hue 2SYR6/6 外: Hue 3YR6/6	310号堅穴住居址	内外赤色化粧土
	317	土師器	灰	口径 17.0 底径 8.5 厚さ 3.0	1/8	内: 四板ナデ、ナデ 外: 四板ナデ、削り	内: Hue 5YR6/6 外: Hue 5YR6/6	310号堅穴住居址	内外赤色化粧土
	318	土師器	灰	口径 14.8 底径 7.0 厚さ 3.2	1/4	内: 四板ナデ、ナデ 外: 四板ナデ、削り	内: Hue 7SYR7/6 外: Hue 5YR6/6	310号堅穴住居址	
	319	土師器	灰	口径 13.2 底径 7.0 厚さ 3.0	1/8	内: 四板ナデ、削り 外: 四板ナデ、削り	内: Hue 2SYR6/6 外: Hue 2SYR6/6	310号堅穴住居址	内外赤色化粧土
	320	土師器	灰	口径 8.4 底径 5.5 厚さ 2.0	1/3	内: 四板ナデ 外: 四板ナデ	内: Hue 5YR6/6 外: Hue 2SYR6/6	310号堅穴住居址	内外赤色化粧土
	321	土師器	灰	口径 12.0 底径 7.0 厚さ 2.0	1/8	内: 四板ナデ、削り 外: 四板ナデ、削り	内: Hue 2SYR6/6 外: Hue 2SYR6/6	310号堅穴住居址	削りあり 内外赤色化粧土
	322	土師器	灰	口径 14.2 底径 7.0 厚さ 2.0	口縁部片	内: 四板ナデ、削り 外: 四板ナデ、削り 削り	内: Hue 2SYR5/6 外: Hue 2SYR5/6	310号堅穴住居址	丹絞り
	323	土師器	灰	口径 13.0 底径 7.0 厚さ 2.0	口縁~胴部片	内: 四板ナデ、削り 外: 四板ナデ、削り	内: Hue 5YR5/3 外: Hue 5YR5/3	310号堅穴住居址	内外面にスス付着
	324	土師器	灰	口径 17.4 底径 7.0 厚さ 2.0	口縁~胴部片	内: 四板ナデ、削り 外: 四板ナデ、削り	内: Hue 5YR5/4 外: Hue 7SYR5/4	310号堅穴住居址	内外面にスス付着
	325	土師器	灰	口径 27.0 底径 12.0 厚さ 2.0	口縁部片	内: 四板ナデ、削り 外: 四板ナデ、削り	内: Hue 5YR6/6 外: Hue 5YR6/6	310号堅穴住居址	丹絞り
	326	土師器	灰	口径 26.0 底径 12.0 厚さ 2.0	口縁~胴部片	内: 四板ナデ、削り 外: 四板ナデ、削り ハケ日	内: Hue 7SYR7/3 外: Hue 7SYR7/3	310号堅穴住居址	外面に吹きこぼれ痕あり
	327	須恵器	壺	口径 19.0 底径 7.0 厚さ 2.0	胴部片	内: 四板ナデ、タキナ 外: 四板ナデ、削り	内: Hue N7/0 外: Hue N5/0	310号堅穴住居址	外面に自然釉あり
55	328	須恵器	壺	口縁~胴部片	内: 四板ナデ、削り タキナ 外: 四板ナデ、削り	内: Hue 7SYR6/4 外: Hue 2SY5/1	310号堅穴住居址		
	329	土師器	灰	口径 34.0 底径 12.2 厚さ 2.0	約1/6	内: 四板ナデ、ナデ 外: 四板ナデ、ハケ日	内: Hue 7SYR6/6 外: Hue 5YR6/6	362号堅穴	外面に斑紋あり
57	330	土師器	灰	口径 12.8 底径 7.4 厚さ 2.9	1/4	内: 四板ナデ、削き 外: 四板ナデ、削き	内: Hue 5YR6/6 外: Hue 5YR6/6	500号堅穴柱建物 (171号ビット)	
	331	土師器	灰	口径 15.6 底径 9.4 厚さ 2.8	1/4	内: 四板ナデ、削き 外: 四板ナデ、削き	内: Hue 2SYR6/6 外: Hue 2SYR6/6	500号堅穴柱建物 (171号ビット)	
	332	土師器	灰	口径 12.8 底径 7.0 厚さ 2.0	底部の一部	内: 四板ナデ、削き 外: 四板ナデ、削き	内: Hue 2SYR5/8 外: Hue 2SYR5/8	500号堅穴柱建物 (171号ビット)	
	333	土師器	灰	口径 13.8 底径 8.0 厚さ 3.2	2/3	内: 四板ナデ、削き 外: 四板ナデ、削き	内: Hue 7SYR7/6 外: Hue 7SYR6/6	501号堅穴柱建物 (173号ビット)	
	334	土師器	灰	口径 14.2 底径 8.2 厚さ 2.8	4/5	内: 四板ナデ、削り オサエ 外: 四板ナデ、削り	内: Hue 5YR6/6 外: Hue 5YR6/8	501号堅穴柱建物 (173号ビット)	
	335	土師器	灰	口径 13.5 底径 7.8 厚さ 2.0	1/4	内: 四板ナデ、削き 外: 四板ナデ、削き	内: Hue 5YR5/6 外: Hue 2SYR5/6	501号堅穴柱建物 (220号ビット)	
	336	土師器	灰	口径 13.6 底径 8.4 厚さ 2.0	1/3	内: 四板ナデ 外: 四板ナデ、ナデ	内: Hue 2SYR5/6 外: Hue 2SYR5/6	501号堅穴柱建物 (177号ビット)	ヘラ記号あり 浮みあり 内外赤色化粧土
	337	土師器	灰	口径 15.4 底径 9.2 厚さ 2.1	約1/4	内: 四板ナデ、ナデ 削き 外: 四板ナデ、ナデ 削き	内: Hue 10YR5/4 外: Hue 5YR6/6	501号堅穴柱建物 (173号ビット)	
	338	土師器	灰	口径 27.2 底径 12.0	口縁~胴部 1/8	内: 四板ナデ、削り 外: 四板ナデ、ハケ日	内: Hue 10YR8/3 外: Hue 10YR8/4	501号堅穴柱建物 (197号ビット)	
	339	須恵器	壺	口径 25.0 底径 12.0	口縁~胴部片	内: 四板ナデ、ナデ タキナ 外: 四板ナデ、削り タキナ	内: Hue 2SYR4/1 外: Hue NB/0	501号堅穴柱建物 (197号ビット)	内側縁部・外面に自然釉あり
	340	土師器	灰	口径 25.0 底径 12.0	底部1/6	内: 四板ナデ 外: 四板ナデ	内: Hue 2SYR5/6 外: Hue 2SYR6/6	502号堅穴柱建物 (199号ビット)	削りあり
	341	土師器	灰	口径 27.2 底径 12.0	底部1/10	内: 四板ナデ 外: 四板ナデ	内: Hue 2SYR6/6 外: Hue 10R5/6	502号堅穴柱建物 (342号ビット)	浮きあり
	342	土師器	手捏ね土器	口径 3.2	1/6	内: ハダ、ヘア削り 外: ハダ	内: Hue 7SYR5/4 外: Hue 10YR5/4	502号堅穴柱建物 (199号ビット)	外側縁部・外面体部にスス付着
	343	土師器	灰	口径 22.2 底径 14.0 厚さ 5.7	2/3	内: 四板ナデ、削き 外: 四板ナデ、削り	内: Hue 5YR6/4 外: Hue 2SYR6/6	502号堅穴柱建物 (342号ビット)	外側一部に燒きムラあり 内外赤色化粧土
	344	須恵器	壺	口径 22.8 底径 13.3 厚さ 4.5	底部1/2	内: 四板ナデ 外: 四板ナデ、削り	内: Hue 10Y5/1 外: Hue 10Y5/1	502号堅穴柱建物 (324号ビット)	
	345	土師器	灰	口径 22.2 底径 12.0	底部1/2	内: 四板ナデ 外: 四板ナデ	内: Hue 2SYR6/6 外: Hue 2SYR6/6	503号堅穴柱建物 (136号ビット)	
	346	須恵器	壺	口径 22.2 底径 13.3 厚さ 2.7	1/4	内: 四板ナデ、削り 外: 四板ナデ、削り	内: Hue 7SY5/1 外: Hue 10Y5/1	503号堅穴柱建物 (108号ビット)	
60	347	土師器	灰	口径 22.2 底径 10.0 厚さ 3.0	1/2	内: 四板ナデ、削り 外: 四板ナデ、削り	内: Hue 2SYR6/6 外: Hue 2SYR6/6	1号溝	内外赤色化粧土

1. (医病) 病棟(軸) 新嘗工事に伴う発掘調査(990)調査地点

回	番号	地物	種類(断面)	通量(cm)	推 寸 位	特徴	色 図	出土遺物	備 考
60	348	土師器	环	口径 15.0 底径 10.0 高さ 3.4	ほぼ定形	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、ナデ、 割り	内: Huc SYR6/6 外: Huc SYR6/6	1号拂	
	349	土師器	环	口径 13.8 底径 9.4 高さ 3.2	4/5	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、割り	内: Huc SYR6/6 外: Huc SYR6/6	1号拂	内外面にスス付着 内外面赤色化粧土
	350	土師器	环	口径 14.0 底径 9.0 高さ 3.0	1/4	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、割り	内: Huc 25YR6/6 外: Huc 25YR6/6	1号拂	灯明皿として使用か?
	351	土師器	环	口径 14.8 底径 9.0 高さ 2.8	4/5	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、割り	内: Huc 25YR6/6 外: Huc 25YR6/6	1号拂 - 50001	灯明皿として使用か? 内外面赤色化粧土
	352	土師器	环	口径 14.0 底径 9.0 高さ 3.8	約1/2	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、割り	内: Huc SYR6/6 外: Huc SYR6/6	1号拂	内外面赤色化粧土
	353	土師器	环	口径 10.3 底径 7.0 高さ 1.1	2/3	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、ナデ	内: Huc 25YR6/6 外: Huc 25YR6/6	1号拂	内外面赤色化粧土
	354	土師器	环	口径 13.2 底径 9.3 高さ 3.8	1/2	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、割り	内: Huc SYR6/6 外: Huc SYR6/6	1号拂	灯明皿として使用か? 内外面にスス付着
	355	土師器	环	口径 12.8 底径 10.2 高さ 3.7	ほぼ定形	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	内: Huc SYR7/8 外: Huc SYR7/8	1号拂 - 50007	内面にスス付着
	356	土師器	环	口径 14.0 底径 8.4 高さ 3.0	約1/2	内: 回転ナデ、割り 外: 回転ナデ、ナデ、 割り	内: Huc SYR7/6 外: Huc 10R6/6	1号拂	内外面赤色化粧土
	357	土師器	环	口径 15.0 底径 9.0 高さ 3.5	2/3	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、割り	内: Huc 25YR6/6 外: Huc 25YR6/6	1号拂	内外面赤色化粧土
	358	土師器	环	口径 13.5 底径 9.2 高さ 3.2	3/4	内: 回転ナデ ヘラ跡 外: 回転ナデ	内: Huc SYR6/6 外: Huc SYR6/6	1号拂 - 50086	内外面赤色化粧土
	359	土師器	碗	口径 7.2 底径 7.2	1/3	内: 回転ナデ、ナデ 外: 回転ナデ、割り	内: Huc N4/0 外: Huc 7SYR7/4	1号拂	内面 外面にスス付着
	360	土師器	皿	口径 15.6 底径 13.5 高さ 2.1	4/5	内: 回転ナデ、ナデ 外: 回転ナデ、ナデ	内: Huc 25YR6/6 外: Huc 25YR6/6	1号拂	内外面赤色化粧土
	361	土師器	皿	口径 15.6 底径 12.0 高さ 1.7	1/3	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、ナデ	内: Huc 25YR6/6 外: Huc 25YR6/6	1号拂	内外面赤色化粧土
	362	土師器	皿	口径 16.6 底径 13.4 高さ 1.8	2/3	内: 割り 外: 割り	内: Huc SYR6/6 外: Huc SYR6/6	1号拂	内外面にスス付着
	363	土師器	皿	口径 16.0 底径 12.0 高さ 1.9	約2/3	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	内: Huc 25YR6/6 外: Huc 25YR6/6	1号拂	スス付着 内外面赤色化粧土
	364	土師器	环	口径 15.0 底径 12.0 高さ 1.8	破 片	内: ナデ 外: ナデ	内: Huc 7SYR6/6 外: Huc 7SYR7/4	1号拂	ヘラ記号「#」?あり
	365	土師器	环	口径 15.0 底径 12.0 高さ 1.8	破 片	内: ナデ 外: 割り	内: Huc 7SYR2/6 外: Huc 7SYR2/6	1号拂	剥離(判読不明)あり
	366	土師器	碗	口径 15.0 底径 12.0 高さ 1.8	破 片	内: ナデ 外: 割り	内: Huc 7SYR2/6 外: Huc 7SYR2/6	1号拂	ヘラ記号「#」?あり
	367	土師器	环	口径 15.0 底径 12.0 高さ 1.8	破 片	内: ナデ 外: ナデ	内: Huc 7SYR2/6 外: Huc 7SYR7/6	1号拂	剥離「十」?あり
	368	土師器	环	口径 14.4 底径 8.2 高さ 3.8	1/2	内: 回転ナデ、ナデ 外: 回転ナデ、割り、 削え	内: Huc 25YR6/6 外: Huc 25YR6/6	1号拂	表面にヘラ記号あり
	369	土師器	环	口径 13.2 底径 9.4 高さ 3.9	1/2	内: 回転ナデ、ナデ 外: 回転ナデ、割り	内: Huc SYR6/6 外: Huc SYR6/6	1号拂	表面にヘラ記号あり 内外面赤色化粧土
	370	土師器	环	口径 14.2 底径 8.4 高さ 3.4	3/4	内: 回転ナデ、削え 外: 回転ナデ、割り、 削え	内: Huc SYR6/6 外: Huc SYR6/6	1号拂	剥離「表・裏・削」あり 内外面赤色化粧土
	371	土師器	碗	口径 9.4 底径 7.4 高さ 2.4	1/4	内: 回転ナデ、ナデ 外: ナデ、割り	内: Huc 7SYR7/6 外: Huc 25YR6/6	1号拂	ヘラ記号「#」?あり
	372	土師器	环	口径 9.4 底径 7.4 高さ 2.4	1/8	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	内: Huc 7SYR8/4 外: Huc 7SYR8/4	1号拂 - 50547	剥離「?牧」?あり
	373	土師器	环	口径 9.0 底径 7.2 高さ 2.0	破 片	内: 回転ナデ、ナデ 外: ナデ	内: Huc 25YR6/6 外: Huc 25YR6/6	1号拂	剥離「?麻尾」?あり 内外面赤色化粧土
	374	土師器	环	口径 7.2 底径 7.2 高さ 1.8	約1/8	内: 回転ナデ、ナデ 外: 回転ナデ、ナデ	内: Huc 7SYR7/6 外: Huc 7SYR7/6	1号拂	ヘラ記号「#」?あり
	375	土師器	环	口径 10.0 底径 7.2 高さ 2.0	1/8	内: 回転ナデ 外: ナデ、削り	内: Huc SYR7/6 外: Huc SYR7/6	1号拂	剥離「七手」?あり
	376	土師器	瓶	口径 9.0 底径 7.2 高さ 1.8	口縁部	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	内: Huc IOYR8/2 外: Huc IOYR8/2	1号拂	内外面にスス付着
	377	土師器	要	口径 26.0 底径 20.0 高さ 1.8	口縁~側部片	内: 回転ナデ、削り 外: 回転ナデ、ハケ目	内: Huc IOYR8/1 外: Huc 7SYR7/3	1号拂	内外面にスス付着・吹きこぼれ 痕あり
	378	土師器	要	口径 27.0 底径 21.0 高さ 1.8	口縁~側部片	内: 回転ナデ、削り 外: 回転ナデ、ナデ	内: Huc IOYR8/4 外: Huc 7SYR6/6	1号拂	内外面にスス付着
	379	土師器	要	口径 26.4 底径 20.0 高さ 1.8	口縁~側部片	内: 回転ナデ、削り 外: 回転ナデ、ハケ目	内: Huc IOYR8/2 外: Huc SYR5/4	1号拂	内面口縁部にコゲあり

図	番号	植物	種類(学名)	株高(cm)	葉 寸 量	特徴	色 図	出土遺物	国 号
60	380	土解器	ヰ	13.0	口輪~別部片	内: 圓板ナデ、ナデ、削り 外: 圓板ナデ、削り	内: Hue 5YR6/6 外: Hue 25YR6/6	1号清	
	381	須恵器	莢	15.0		内: 圓板ナデ、ナデ、削り 外: 圓板ナデ、削り	内: Hue N7/0 外: Hue N5/0	1号清	
	382	須恵器	莢	15.0	1/3	内: 圓板ナデ、削り 外: 圓板ナデ、削り	内: Hue 10YR5/4 外: Hue N4/0	1号清	内外面に自然釉あり
	383	須恵器	莢	14.6		内: ナデ、削り 外: ナデ、削り	内: Hue NG/0 外: Hue NG/0	1号清	内面に自然釉あり
	384	須恵器	莢	14.3	1/6	内: 圓板ナデ、ナデ、 ヘラ削 外: 圓板ナデ、ヘラ削	内: Hue 10Y/1 外: Hue SY5/1	1号清	
	385	須恵器	莢	16.4		内: 圓板ナデ、ナデ、 削り 外: ナデ、削り、削き エサ	内: Hue SY6/1 外: Hue SY6/1	1号清・50172	
	386	須恵器	莢	15.6	ほぼ完形	内: 圓板ナデ、ナデ、 削り 外: 圓板ナデ、削り	内: Hue 7SY6/1 外: Hue 7SY6/1	1号清	
	387	須恵器	莢	15.0	1/5	内: 圓板ナデ、削り 外: 圓板ナデ、削り	内: Hue NS/0 外: Hue NS/0	1号清	
	388	須恵器	莢	15.2	1/4	内: 圓板ナデ、削り 外: 圓板ナデ、削り	内: Hue 25Y/1 外: Hue SY6/1	1号清	
	389	須恵器	莢	16.6	1/4	内: 圓板ナデ、ナデ、 削り 外: 圓板ナデ、ナデ、 削り	内: Hue SY7/1 外: Hue SY8/1	1号清	
	390	須恵器	莢	15.0	約1/3	内: 圓板ナデ、削り 外: 圓板ナデ	内: Hue 7.5YR6/1 外: Hue 7.5YR7/1	1号清	
	391	須恵器	莢	16.0	2/3	内: 圓板ナデ 外: 圓板ナデ、ナデ、 削り	内: Hue 25Y7/1 外: Hue 25Y7/1	1号清	
	392	須恵器	耳	12.2		内: 圓板ナデ 外: 圓板ナデ	内: Hue 10BG5/1 外: Hue 25GY5/1	1号清	
61	393	須恵器	耳	13.0	約1/2	内: 圓板ナデ 外: 圓板ナデ、削り	内: Hue 10Y5/1 外: Hue 10Y5/1	1号清	
	394	須恵器	耳	13.2	1/3	内: 圓板ナデ 外: 圓板ナデ	内: Hue 10YR7/4 外: Hue 25Y7/1	1号清	
	395	須恵器	甕	13.2	1/4	内: 圓板ナデ 外: 圓板ナデ、削り	内: Hue NS/0 外: Hue NS/0	1号清	
	396	須恵器	耳	18.6	1/8	内: 圓板ナデ 外: 圓板ナデ	内: Hue 7.5Y/1 外: Hue 7.5YS/1	1号清	
	397	須恵器	甕	14.4	1/3	内: 圓板ナデ 外: 圓板ナデ、削り	内: Hue NS/0 外: Hue NS/0	1号清	
	398	須恵器	甕	15.0	2/3	内: 圓板ナデ 外: 圓板ナデ、削り	内: Hue 25Y/1 外: Hue 25Y/1	1号清	底面に自然釉あり
	399	須恵器	高耳	7.0	約1/2	内: 圓板ナデ、削り 外: 圓板ナデ、削り	内: Hue 5Y/1 外: Hue 10Y/1	1号清	内外面に自然釉あり
	400	須恵器	高耳	9.8	1/2	内: 圓板ナデ、削り 外: 圓板ナデ、削り	内: Hue 25Y/1 外: Hue 25Y/1	1号清	外面に自然釉あり
	401	須恵器	高耳	約1/3		内: 圓板ナデ、ナデ、 削り 外: 圓板ナデ、削り	内: Hue 25YR5/6 外: Hue 25YR5/6	1号清	内外面赤化粧土 未剥
	402	須恵器	高耳	11.6	約1/2	内: 圓板ナデ、削り 外: 圓板ナデ、削り	内: Hue 5Y/1 外: Hue 5Y/1	1号清	内外面に自然釉あり
	403	須恵器	高耳	10.4	約1/4	内: 圓板ナデ、削り 外: 圓板ナデ、削り	内: Hue 25YR5/6 外: Hue 25YR5/6	1号清	ヘア記号? 刻痕? 「E」あり
	404	須恵器	甕	12.2	口輪~別部片	内: 圓板ナデ 外: 圓板ナデ、沈灰文	内: Hue 10Y/1 外: Hue 10Y/1	1号清	外側に沈灰文あり
	405	須恵器	甕	16.0	口輪~別部片	内: 圓板ナデ 外: 圓板ナデ、削り、 タキナ	内: Hue SY3/1 外: Hue NG/0	1号清	
	406	須恵器	甕	23.0	口輪~別部片	内: 圓板ナデ、タキナ 外: 圓板ナデ、削り	内: Hue SY4/1 外: Hue NT7/0	1号清	内外面に自然釉あり
	407	須恵器	甕	21.7	口輪~別部片	内: 圓板ナデ、削り、 タキナ 外: 圓板ナデ、削り、 タキナ	内: Hue SY4/1 外: Hue NT7/0	1号清	内外面に自然釉あり
	408	須恵器	甕	18.7	口輪~別部片	内: 圓板ナデ、タキナ 外: 圓板ナデ、削り、 タキナ	内: Hue 10YR4/1 外: Hue NT7/0	1号清	内外面に自然釉あり
	409	須恵器	甕	21.6	口輪~別部片	内: 圓板ナデ、タキナ 外: 圓板ナデ、タキナ、 削り	内: Hue SY7/1 外: Hue SY7/1	1号清	
	410	須恵器	甕	口輪部片		内: 圓板ナデ	内: Hue NS/0 外: Hue NS/0	1号清	外側に沈灰文・平行波状文あり

1. (医病) 病棟(軸) 新嘗工事に伴う発掘調査(990)調査地点

回	番号	遺物	種類(器種)	位置(cm)	性 寄 倉	特徴	色 因	生土遺構	目 毎	
61	411	埴器	甕	口縁部	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ, 刈り	内: HUE 10Y3/1 外: HUE 10G2/1	1号構	内外面に自然釉あり		
	412	埴器	甕	11月 底径 55cm 高さ 12.8	口縁部のみ 約1/3	内: 回転ナデ, タテキ 外: 回転ナデ, タテキ	内: HUE 10Y5/1 外: HUE 10Y5/1	1号構		
	413	埴器	甕	11月 底径 55cm 高さ 12.8	蓋部のみ	内: 回転ナデ, ナデ, 削り 外: 回転ナデ, 削り	内: HUE 25Y3/1 外: HUE 26G/0	1号構	内外面に自然釉あり	
	414	埴器	甕	11月 底径 55cm 高さ 12.8	11月 底径部	内: 回転ナデ, 削り 外: 回転ナデ, 削り	内: HUE 5Y3/1 外: HUE 10G2/1	1号構	内外面に自然釉あり	
	415	埴器	甕	11月 底径 55cm 高さ 17.0	1/2	内: 回転ナデ 外: 刈り	内: HUE 10Y7/1 外: HUE 10Y6/2	1号構	外側肩部に緑色の自然釉あり	
	416	埴器	甕	11月 底径 55cm 高さ 27.8	側部片	内: 回転ナデ, タテキ 外: 回転ナデ, 削り	内: HUE 25Y7/3 外: HUE 25Y5/3	1号構		
	417	埴器	甕	11月 底径 55cm 高さ 25.8	側部片	内: 回転ナデ, タテキ 外: 回転ナデ, 削り, タテキ	内: HUE 5Y5/1 外: HUE 5Y5/1	1号構		
62	418	埴器	甕	11月 底径 55cm 高さ 9.9	2/3	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ, 削り, 回転ナデ	内: HUE 25GYS/1 外: HUE 25GYS/1	1号構		
	419	埴器	甕	11月 底径 55cm 高さ 10.0	破 片	内: タテキ 外: タテキ, タテキ, 削オサエ	内: HUE 25Y4/1 外: HUE 5Y5/1	1号構		
	420	埴器	甕	11月 底径 55cm 高さ 14.9	約1/4	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ, 削り	内: HUE 5Y6/1 外: HUE 5Y5/1	1号構		
	421	土器器	甕	11月 底径 55cm 高さ 14.0	底部片	内: 回転ナデ, 削り 外: ナデ	内: HUE 25Y7/6 外: HUE 25Y6S/3	1号構	表面赤色化粧土	
	422	土器器	移動式壺	長さ 5.6 幅 4.8 厚さ 3.65	破 片	内: ナデ, 削り 外: ナデ, 削り	内: HUE 10Y8/3 外: HUE 5YR5/6	1号構		
	423	土器器	甕	長さ 7.7 幅 5.0 厚さ 1.65	底部片	内: 回転ナデ 外: ハナ目	内: HUE 5YR7/6 外: HUE 5YR6/6	1号構		
	424	瓦	布目瓦	長さ 5.73 幅 4.7 厚さ 3.3	破 片	内: 布目 外: 削目	内: HUE 10Y5/1 外: HUE 10Y5/1	1号構	埴造	
	425	瓦	布目瓦	長さ 2.35 幅 1.9 厚さ 1.65	破 片	内: 布目, 削り 外: ナデ, 削り	内: HUE 25YR8/4 外: HUE 25YR7/4	1号構		
	426	瓦	布目瓦	長さ 15.5 幅 9.5 厚さ 2.1	破 片	内: 布目 外: タテキ	内: HUE 25Y4/2 外: HUE 5Y4/1	1号構		
	427	土器器	移動式壺	長さ 5.3 幅 9.5 厚さ 2.5	破 片	内: ナデ, 削オサエ 外: ナデ, 削オサエ	内: 一 外: HUE 10Y8/3	1号構		
63	428	土器器	甕	11月 底径 55cm 高さ 14.0	底部片	内: ナデ 外: ナデ	内: HUE 25YR7/4 外: HUE 25YR7/6	1号構		
	429	陶 器	甕?	11月 底径 55cm 高さ 14.0	破 片	内: 削り 外: 回転ナデ, 削り	内: HUE 25YR4/2 外: HUE 25YR4/4	1号構		
	430	陶 器	甕	11月 底径 55cm 高さ 14.0	破 片	内: ナデ 外: ナデ, 削り	内: HUE 17T/0 外: HUE 17T/0	1号構		
	431	同安窯青磁	甕	11月 底径 55cm 高さ 14.0	破 片	内: ナデ 外: ナデ	内: HUE 5Y6/3 外: HUE 5Y6/3	1号構	内外面に青磁釉あり	
	432	鹿島窯青磁	甕	11月 底径 55cm 高さ 14.0	破 片	内: ナデ 外: ナデ	内: HUE 5GY6/1 外: HUE 5GY6/1	1号構	内外面に青磁釉あり	
	433	陶 器	甕	11月 底径 55cm 高さ 8.4	11月 底径 55cm 高さ 4.3	11月 底径 55cm 高さ 4.3 口縁部片	内: ナデ 外: ナデ	内: HUE 25Y5/2 外: HUE 25Y5/2	1号構	
	434	陶 器	甕	11月 底径 55cm 高さ 8.4	破 片	内: ナデ 外: ナデ	内: HUE 10GY8/1 外: HUE 10GY8/1	1号構	肥前陶器 引領で付け	
	435	鹿島窯青磁	甕	11月 底径 55cm 高さ 8.4	破 片	内: ナデ 外: ナデ	内: HUE 25Y6/3 外: HUE 25Y6/3	1号構	内外面に青磁釉あり	
	436	土器器	甕	11月 底径 55cm 高さ 15.0	約2/3	内: 回転ナデ, ナデ 外: 回転ナデ, 削り	内: HUE 5YR6/6 外: HUE 5YR6/6	4号構		
	437	土器器	甕	11月 底径 55cm 高さ 11.6	約1/6	内: 回転ナデ, オサエ ナデ 外: 回転ナデ, ヘラ削り	内: HUE 25YR2/6 外: HUE 25YR2/6	4号構		
64	438	土器器	甕	11月 底径 55cm 高さ 9.6	3/4	内: 回転ナデ, 指オサエ ナデ 外: 回転ナデ, 削り	内: HUE 25YR6/6 外: HUE 25YR6/6	4号構		
	439	土器器	甕	11月 底径 55cm 高さ 13.0	口縁部片	内: ハラ削り 外: ハラ削り	内: HUE 10Y8S/3 外: HUE 25Y2/3	4号構	表面にスコグ?付着?	
	440	土器器	甕	11月 底径 55cm 高さ 11.8	約1/2	内: 回転ナデ, ナデ 外: 削り	内: HUE 10Y8/4 外: HUE 10Y8/4	4号構・トレンチ		
	441	土器器	甕	11月 底径 55cm 高さ 13.0	口縁部片	内: 滑走 外: 回転ナデ, 削り	内: HUE 25YR2/4 外: HUE 25YR6/6	4号構	表面にヘラ様あり 内外面にスス付着	
	442	土器器	甕	11月 底径 55cm 高さ 12.0	1/2	内: 削り 外: ナデ, 削り	内: HUE 25YR7/6 外: HUE 25YR8/5	4号構		

図	番号	遺物	種類(器形)	法尺(cm)	現存量	特徴	色	出土場所	備考
63	443	土師器	瓶	口径 底径 高さ	14.2 5.4 5.4	約1/2	内: 脱胎ナデ、ナデ 外: 脱胎ナデ、ナデ	内: 茶 外: 茶 SYR6/6 SYR6/6	4号窯 高台内蔵に3点の灰陶あり
	444	土師器	瓶	口径 底径 高さ	12.6 5.5 5.5	約1/3	内: 脱胎ナデ、ナデ 外: 脱胎ナデ	内: 茶 外: 茶 SYR6/6 SYR6/6	4号窯
	445	埴毛器	瓶	口径 底径 高さ	12.8 8.2 8.2	約1/2	内: 脱胎ナデ、ナデ 外: 脱胎ナデ	内: 茶 外: 茶 SYR6/6 SYR6/6	4号窯 埴毛の串続?
	446	土師器	かわらけ	口径 底径 高さ	6.9 6.9 1.0	1/3	内: 脱胎ナデ、ナデ 外: 脱胎ナデ	内: 茶 外: 茶 7SYR6/6 7SYR6/6	4号窯 底面に切り
	447	土師器	瓶	口径 底径 高さ	16.0 7.6 6.9	約1/4	内: ナデ、削り 外: ナデ、削り	内: 茶 外: 茶 2SYR6/6 2SYR6/6	4号窯 内外面にスス付着
	448	土師器	高坪	口径 底径 高さ	8.9 8.9 8.9	2/3	内: ナデ、削り 外: ナデ、削り	内: 茶 外: 茶 2SYR6/6 2SYR6/6	4号窯 軒部内面赤化粧土 軒部脚部外側内赤化粧土
	449	土師器	高坪	口径 底径 高さ	12.0 8.4 8.4	約1/2	内: ナデ、削り 外: ナデ、削り	内: 茶 外: 茶 10SY6/6 10SY6/6	4号窯 内外面赤化粧土
	450	土師器	高坪	口径 底径 高さ	12.0 8.4 8.4	約1/2	内: 削り 外: 削り	内: 茶 外: 茶 7SYR6/6 7SYR7/6	4号窯 外表面荒れで削り落し残る
	451	土師器	高坪	口径 底径 高さ	9.4 8.4 8.4	2/3	内: 脱胎ナデ、削り 外: 削り	内: 茶 外: 茶 2SYR6/6 2SYR6/6	4号窯 軒部・脚部外側に丹塗り
	452	土師器	高坪	口径 底径 高さ	8.4 8.4 8.4	約1/8	内: ナデ、削り 外: ナデ、削り	内: 茶 外: 茶 7SYR6/6 7SYR6/6	4号窯 外表面・軒部赤化粧土
	453	土師器	瓶	口径 底径 高さ	4.6 4.6 4.6	約1/6	内: 脱胎ナデ、削り 外: 脱胎ナデ、工芸ナデ	内: 茶 外: 茶 10YR6/4 7SYR6/6	4号窯
	454	土師器	瓶	口径 底径 高さ	15.0 15.0 15.0	1/6	内: 脱胎ナデ、削り 外: 脱胎ナデ、ハケ目	内: 茶 外: 茶 10YR6/2 7SYR6/4	4号窯 内外面にコゲ付着
	455	土師器	瓶	口径 底径 高さ	13.0 13.0 13.0	口縁～剥離部分	内: 脱胎ナデ、削り 外: 脱胎ナデ	内: 茶 外: 茶 7SYR4/3 7SYR5/4	4号窯 内外面にスス・コゲ付着
	456	土師器	瓶	口径 底径 高さ	19.8 19.8 19.8	口縁～剥離部分	内: 脱胎ナデ、削り 外: 脱胎ナデ、ハケ目	内: 茶 外: 茶 5SYR6/6 10YR6/4	4号窯 外面にスス付着
	457	土師器	甕	口径 底径 高さ	19.4 19.4 19.4	1/6	内: 脱胎ナデ、ナデ、 削り 外: 脱胎ナデ、削り	内: 茶 外: 茶 5SYR6/6 5SYR6/6	4号窯 外面一部にスス付着
	458	土師器	甕	口径 底径 高さ	22.0 22.0 22.0	口縁～剥離部分	内: 脱胎ナデ、削り 外: 脱胎ナデ、削り、 ハケ目	内: 茶 外: 茶 5SYR6/6 5SYR6/6	4号窯
	459	土師器	甕	口径 底径 高さ	28.2 28.2 28.2	口縁～剥離部分	内: 脱胎ナデ、削り 外: 脱胎ナデ、削り	内: 茶 外: 茶 10YR6/4 7SYR7/4	4号窯 外表面横部に吹きこぼれ板瓦 脚部にスス付着
	460	土師器	甕	口径 底径 高さ	29.4 29.4 29.4	口縁～剥離部分	内: 脱胎ナデ、削り 外: 脱胎ナデ、削り、 ハケ目	内: 茶 外: 茶 7SYR7/4 7SYR6/4	4号窯 外面にスス・コゲ付着
	461	土師器	甕(鉢形)	口径 底径 高さ	33.0 33.0 33.0	1/3	内: 脱胎ナデ、削り 外: 脱胎ナデ、ハケ目	内: 茶 外: 茶 5SYR6/6 7SYR5/4	4号窯 外面にコゲあり 外面にスス付着・吹きこぼれ板瓦 あり
	462	土師器	甕	口径 底径 高さ	24.0 24.0 24.0	1/6	内: 脱胎ナデ、削り 外: 脱胎ナデ、ナデ、 オサエ	内: 茶 外: 茶 5SYR6/6 2SYR6/6	4号窯 外面にスス付着
	463	土師器	甕	口径 底径 高さ	29.0 29.0 29.0	取手のみ	内: 削り 外: ナデ、ハケ目、 オサエ	内: 茶 外: 茶 7SYR6/4 5SYR6/4	4号窯 外面にスス付着
	464	土師器	甕	口径 底径 高さ	29.0 29.0 29.0	取手のみ	内: 削り 外: ナデ、ハケ目、 オサエ	内: 茶 外: 茶 5SYR6/6 7SYR7/6	4号窯
	465	土師器	甕	口径 底径 高さ	7.1 6.5 13.6	ほぼ完形	内: 脱胎ナデ、削り 外: 脱胎ナデ、ナデ、 オサエ	内: 茶 外: 茶 5SY/2 2SYR4/2	4号窯 ヘラ掘あり
64	466	土師器	甕	口径 底径 高さ	18.9 18.9 18.9	約1/3	内: 脱胎ナデ、削り 外: 脱胎ナデ	内: 茶 外: 茶 5SYR6/4 2SYR5/5	4号窯 (30号)壁穴住居址可燃 土 内外面の口縁部～頭部赤化粧土
	467	土師器	移動式壺	底部片			内: 削り 外: 脱胎ナデ、削り	内: 茶 外: 茶 10YR6/2 7SYR7/4	4号窯
	468	土師器	移動式壺	底部片			内: ナデ、削り、擦毛 外: ナデ、ハケ目	内: 茶 外: 茶 7SYR6/4 7SYR6/3	4号窯
	469	埴毛器	蓋	口径 底径 高さ	9.6 2.7 2.7	1/2	内: 脱胎ナデ、ナデ、 削り 外: 削り	内: 茶 外: 茶 NS-O SYS/3	4号窯 外面全体に自然施あり
	470	埴毛器	蓋	口径 底径 高さ	15.6 2.8 2.8	1/3	内: 削り、ナデ 外: 削り	内: 茶 外: 茶 7SYT/1 7SYB/1	4号窯
	471	埴毛器	甕	口径 底径 高さ	12.3 4.3 4.3	約1/2	内: ナデ、削り 外: ナデ、削り	内: 茶 外: 茶 7SYR4/2 5SY/1	4号窯
	472	埴毛器	甕	口径 底径 高さ	8.8 1.8 1.8	約1/3	内: 脱胎ナデ、ナデ 外: 脱胎ナデ	内: 茶 外: 茶 2SYG/2 2SYG/1	4号窯
	473	埴毛器	甕	口径 底径 高さ	9.1 1.6 1.6	約1/3	内: 脱胎ナデ、ナデ 外: 脱胎ナデ	内: 茶 外: 茶 2SYG/2 2SYG/1	4号窯
	474	埴毛器	甕	口径 底径 高さ	9.2 1.2 1.2	1/2	内: 脱胎ナデ、ナデ、 削り 外: 脱胎ナデ、削り	内: 茶 外: 茶 NS-O NS-O	4号窯 底面に自然施あり

1. (医病) 病棟(総) 新營工事に伴う発掘調査 (9901調査地点)

図	番号	遺物	種類(器種)	出土量(cm)	度	存立	特徴	色	調査	出土地域	備考
64	475	須恵器	碗	口径 13.0 底径 10.0 高さ 4.5	約1/2	内: 四輪ナデ、ナデ 外: 四輪ナデ	内: Hue 25Y5/1 外: Hue N4/0	4号溝			
	476	須恵器	盤	口径 12.0 底径 2.4	1/4	内: 四輪ナデ、ナデ 外: 四輪ナデ	内: Hue 25Y5/2 外: Hue 10Y5/1	4号溝			
	477	須恵器	盆	口径 4.0 底径 2.2	1/3	内: 四輪ナデ 外: 四輪ナデ、ナデ	内: Hue 25Y6/2 外: Hue 25Y6/1	4号溝			
	478	須恵器	高 碗	最大径 7.8 底径 6.0	約1/3	内: 四輪ナデ 外: 四輪ナデ、削り	内: Hue 25Y5/1 外: Hue 10Y5/1	4号溝			
	479	須恵器	环	口径 13.0 底径 3.9	約1/6	内: 四輪ヘラ削り 外: 四輪ヘラ削り	内: Hue N3/0 外: Hue N4/0	4号溝			
	480	須恵器	高 碗	口径 14.0 底径 5.0 高さ 6.0	約1/3	内: 四輪ナデ、ナデ 外: 四輪ナデ	内: Hue 25Y6/1 外: Hue 3Y6/1	4号溝			
	481	須恵器	高 碗	口径 9.2 底径 3.35	約1/3	内: 四輪ナデ、ヘラ削り 外: ヘラ削り	内: Hue 25Y8/3 外: Hue N6/0	4号溝			
	482	須恵器	壺	口径 10.0 底径 7.0	5/6	内: 四輪ナデ 外: ナデ、削り、輪脚 合口目	内: Hue 7.5Y5/1 外: Hue 7.5Y5/1	4号溝		外側に軽秀文・ヘラ彫文あり 縁部に粘土片あり標有す	
	483	須恵器	壺	口径 21.2 底径 12.0	4/5	内: 四輪ナデ、タタキ 外: 四輪ナデ、タタキ	内: Hue N7/0 外: Hue N5/0	4号溝			
	484	土師器	高 碗	口径 18.5 底径 10.0	約1/4	内: 四輪ナデ、ナデ 外: 剥り、ハケ目	内: Hue 25Y5B/6 外: Hue 5Y5B/6	4号溝			
	485	土師器	高 碗	口径 16.2 底径 9.0	約1/2	内: ナデ、削り 外: ナデ	内: Hue 25Y7/4 外: Hue 25Y7/3	4号溝 - 5002 5004			
	486	土師器	高 碗	口径 16.5 底径 10.0	約1/2	内: ナデ、削り、ハケ 外: ハケ目、剥き	内: Hue 10Y5/3 外: Hue 10Y5/4	4号溝			
	487	土師器	小型丸底壺	口径 11.8 底径 4.5	1/6	内: 四輪ナデ、ナデ 外: 四輪ナデ、ハケ目	内: Hue 10Y5/3 外: Hue 10Y5/2	4号溝		内外面にスス・コゲ付着	
	488	須恵器	壺	口径 13.0 底径 4.1	4/5	内: 四輪ナデ、ナデ 外: 四輪ナデ、削り	内: Hue 25Y7/1 外: Hue 25Y6/2	4号溝		ヘラ記号あり	
	489	白 磁	碗	口径部		内: 四輪ナデ 外: 四輪ナデ	内: Hue 5Y7/1 外: Hue 5Y7/1	4号溝			
65	490	土師器	壺	口径 11.0 底径 7.4 高さ 4.5	約1/2	内: 剥き 外: 四輪ナデ、ナデ、 削り	内: Hue 25Y5B/8 外: Hue 25Y5B/8	38号土器龜中部		外側に地さくらあり 内側側口縁部赤化粧土	
	491	土師器	高 碗	口径 13.2 底径 9.0	約1/2	内: 剥き 外: ナデ、削り、剥き	内: Hue 10Y5/6 外: Hue 10Y5/8	38号土器龜中部		内側側赤化粧土	
	492	土師器	高 碗	口径 9.4 底径 5.0	口径部1/4	内: ナデ、削り 外: 剥き	内: Hue 10Y5/8 外: Hue 10Y5/8	38号土坑龜中部		内側一部赤化粧土	
	493	土師器	壺	口径 8.4 底径 4.3	2/3	内: 剥り、剥き 外: ハケ目、剥き	内: Hue 7.5Y5/2/4 外: Hue 25Y5/6	38号土器龜中部			
	494	土師器	瓶	口径 30.6 底径 16.0	口径~副底部	内: 四輪ナデ、削り 外: 四輪ナデ、ナデ	内: Hue 7.5Y5/2/4 外: 四輪ナデ、ナデ	38号土坑龜中部		取手下面にスス付着	
	495	土師器	壺	口径 18.4 最大径 28.0 底径 32.5	3/5	内: 四輪ナデ、ナデ 外: 四輪ナデ、ハケ目 剥き	内: Hue 10Y5/7/3 外: Hue 10R4/8	38号土器龜中部		外側に一部黒斑あり 内側側赤化粧土	
	496	須恵器	壺	口径 23.0 最大径 34.3 底径 22.0	H3P完形	内: 四輪ナデ、タタキ 外: 四輪ナデ、削り、 タタキ	内: Hue 25Y5/1 外: Hue 5Y4/1	38号土器龜中部			
66	497	土師器	壺	口径 18.6 底径 10.0 高さ 5.4	口径部	内: 剥き、薄土サエ 外: 四輪ナデ、ナデ、 削り	内: Hue 7.5Y5/8/1 外: Hue 7.5Y5/8/1	95号 (4号溝内)			
	498	須恵器	壺	口径 21.0 底径 12.0	約1/2	内: 四輪ナデ、ナデ 外: 四輪ナデ、カキ目	内: Hue 7.5Y5/4/2 外: Hue 7.5Y5/4/3	95号 (4号溝内)			
	499	須恵器	壺	口径 4.0 底径 2.2	約1/2	内: 四輪ナデ、ナデ、 削り 外: 四輪ナデ、ナデ、 削り	内: Hue NS/0 外: Hue NS/0	95号 (4号溝内)			
67	500	土師器	壺	口径 10.3 底径 5.4	H3P完形	内: 剥き、薄土サエ 外: 四輪ナデ、ナデ、 削り	内: Hue 7.5Y5/8/6 外: Hue 7.5Y5/8/6	15号拂 - 50557			
	501	土師器	壺	口径 16.0 底径 8.0 高さ 5.0	1/4	内: ナデ、削り 外: ナデ、削り	内: Hue 7.5Y5/8/2 外: Hue 10Y5/8/2	15号拂			
	502	土師器	瓶	口径 14.0 底径 11.0 高さ 3.1	1/3	内: 四輪ナデ、ナデ、 削り 外: 四輪ナデ、削り	内: Hue 7.5Y5/7/6 外: Hue 5Y5/7/6	15号拂		ヘラ記号? 「八」あり	
	503	土師器	壺	口径 16.4 底径 11.0 高さ 3.1	1/4	内: 四輪ナデ、ナデ 外: 四輪ナデ、削り	内: Hue 7.5Y5/7/4 外: Hue 7.5Y5/7/4	15号拂 - 50449			
	504	土師器	瓶	口径 14.4 底径 9.2 高さ 5.3	1/4	内: 四輪ナデ、削り 外: 四輪ナデ、削り	内: Hue 5Y5/6/4 外: Hue 5Y5/6/4	15号拂			
	505	須恵器	壺	口径 14.4 底径 9.2 高さ 5.3	1/3	内: 四輪ナデ、削り 外: 四輪ナデ、削り	内: Hue 5Y5/6/6 外: Hue 25Y5/6/6	15号拂 - 50134 - 50145		地さくらあり 赤焼け	
	506	須恵器	壺?	口径部		内: 剥り 外: 剥り	内: Hue NS/0 外: Hue NS/0	15号拂		外側に沈線文・平行波状文あり	

番	番号	遺物	種類(特徴)	沿量(cm)	現存量	特徴	色 国	出土地點	備 考
67	507	環状器	丸	口縁	内: 扇形 外: 割り	内: Hue SGY4/1 外: Hue SGY5/1	15号地	外面に沈文・浅秋文あり	
	508	土師器	壺	口縁	3/3	内: 圓板ナメ、扇形 外: 圓板ナメ、割き	内: Hue SYR6/6 外: Hue SYR5/4	37号地	
	509	土師器	壺	口縁	16.1	内: 圓板ナメ、扇形 外: 圓板ナメ、割き	内: Hue SYR7/6 外: Hue SYR7/6	37号地	
	510	土師器	壺	口縁	約1/2	内: 圓板ナメ、扇形 外: 圓板ナメ、ナメ、割り	内: Hue 25YR5/6 外: Hue 25YR5/6	37号地	内外面赤化粧土
	511	土師器	壺	口縁	44.0	内: 圓板ナメ、扇形 外: 圓板ナメ、割き	内: Hue 25YR5/6 外: Hue 25YR5/6	37号地	内外面赤化粧土
	512	土師器	壺	口縁	13.6	内: 圓板ナメ、扇形 外: 圓板ナメ、割き	内: Hue SYR6/6 外: Hue SYR6/6	37号地	内外面赤化粧土
	513	土師器	壺	口縁	9.0	内: 圓板ナメ、扇形 外: 圓板ナメ、割き	内: Hue SYR6/6 外: Hue SYR6/6	37号地	内外面赤化粧土
	514	土師器	壺	口縁	28.8	内: 圓板ナメ、扇形 外: 圓板ナメ、割き	内: Hue 25YR5/6 外: Hue 25YR5/6	37号地	内外面赤化粧土
	515	土師器	壺	口縁	10.0	内: 圓板ナメ、ナメ 外: 圓板ナメ、1/2	内: Hue 25YR5/6 外: Hue 25YR5/6	37号地	内外面赤化粧土
	516	土師器	壺	口縁	10.4	内: 圓板ナメ、扇形 外: 圓板ナメ、割り	内: Hue 25YR5/6 外: Hue 25YR5/6	37号地	外面にスス付着
	517	土師器	壺	口縁	4.8	内: ナメ 外: 圓板ナメ、ナメ、割り	内: Hue SYR6/6 外: Hue SYR6/6	37号地	
	518	土師器	壺	口縁	26.0	内: 圓板ナメ、扇形 外: 圓板ナメ、1/2	内: Hue 7.5YR7/4 外: Hue 7.5YR5/4	37号地	
	519	土師器	壺	口縁	17.0	内: 圓板ナメ、扇形 外: 圓板ナメ、1/4	内: Hue 7.5YR7/4 外: Hue 10YR6/1	37号地	ヘラ模あり
	520	土師器	壺	口縁	10.8	内: 圓板ナメ、ナメ 外: 圓板ナメ、39	内: Hue 10YR7/3 外: Hue 25YR5/6	37号地	内外面に2~5mm程の黒斑を複数個できる
	521	土師器	壺	口縁	6.0	内: 圓板ナメ、ナメ 外: 圓板ナメ、45	内: Hue 7.5YR7/6 外: Hue 7.5YR7/4	37号地	
	522	土師器	壺	口縁	14.0	内: ナメ 外: 圓板ナメ、45	内: Hue 25YR6/8 外: Hue 25YR6/8	37号地	内外面に黒斑あり
	523	土師器	壺	口縁	13.8	内: 圓板ナメ 外: 圓板ナメ、割り	内: Hue 7.5YR7/6 外: Hue SYR6/6	37号地	
	524	土師器	壺	口縁	13.0	内: 圓板ナメ 外: 圓板ナメ、割り	内: Hue 25YR5/6 外: Hue SYR6/6	37号地	
	525	土師器	壺	口縁	12.2	内: 圓板ナメ 外: 圓板ナメ、48	内: Hue 7.5YR7/6 外: Hue 7.5YR7/4	37号地	
	526	土師器	壺	口縁	9.2	内: 圓板ナメ、ナメ 外: 圓板ナメ	内: Hue 7.5YR7/6 外: Hue SYR6/6	37号地	刻音「大」または「火」?あり 或てにスス付着
	527	土師器	壺	口縁	16.6	内: 圓板ナメ、扇形 外: 圓板ナメ、38	内: Hue 7.5YR7/6 外: Hue 7.5YR7/6	37号地	
	528	土師器	壺	口縁	12.8	内: 圓板ナメ、扇形 外: 圓板ナメ、48	内: Hue 7.5YR7/6 外: Hue 7.5YR7/6	37号地	或てに刻音「大」あり
	529	土師器	壺	口縁	9.0	内: 圓板ナメ 外: 圓板ナメ、51	内: Hue 7.5YR7/6 外: Hue 7.5YR7/6	37号地	焼きムラあり
	530	土師器	壺	口縁	9.6	内: 圓板ナメ 外: 圓板ナメ、36	内: Hue 7.5YR7/6 外: Hue 7.5YR7/6	37号地	
	531	土師器	壺	口縁	9.6	内: 圓板ナメ 外: 圓板ナメ、47	内: Hue 7.5YR6/6 外: Hue 7.5YR6/6	37号地	
	532	土師器	壺	口縁	12.4	内: 扇形 外: 圓板ナメ、47	内: Hue 25YR5/6 外: Hue SYR5/6	37号地	外面に沈文が壁に描かれる
	533	土師器	壺	口縁	23.6	内: 圓板ナメ、扇形 外: 圓板ナメ、ナメ、割り	内: Hue 7.5YR6/4 外: Hue SYR7/6	37号地	
	534	土師器	壺	口縁	22.0	内: 圓板ナメ、扇形 外: 圓板ナメ、ナメ	内: Hue 7.5YR5/4 外: Hue 7.5YR5/4	37号地	外面に吹きこぼれ模あり
	535	土師器	壺	口縁	22.0	内: ナメ、扇形 外: 圓板ナメ、ナメ	内: Hue 10YR7/6 外: Hue 10YR5/6	37号地	
	536	土師器	壺	口縁	19.0	内: 圓板ナメ、扇形 外: 圓板ナメ、1/4	内: Hue 10YR8/4 外: Hue 7.5YR5/4	37号地	焼きムラあり
	537	土師器	壺	口縁	19.0	内: 圓板ナメ、扇形 外: 圓板ナメ、1/4	内: Hue 10YR7/2 外: Hue 10YR7/4	37号地	内面にスス付着
	538	土師器	壺	口縁	19.0	内: 圓板ナメ、扇形 外: 圓板ナメ、ハケ	内: Hue 7.5YR6/4 外: Hue 7.5YR5/4	37号地	内面にスス付着

1. (医病) 病棟(軸) 新宮工事に伴う発掘調査 (9901調査地点)

図	番号	遺物	種類(器種)	法量(cm)	残存部	特徴	色	出土面積	圖	
67	539	土師器	瓶	口縁~肩部	内: 回転ナデ, 頸り, 外: 回転ナデ, ハケ口	内: Huc 7.5YR6/4 外: Huc 5YR6/6	S7号清	外面にコダあり		
68	540	須恵器	蓋	口縁	1/3	内: 回転ナデ, ナデ 外: 頸り	内: Huc 5Y6/1 外: Huc 5Y6/1	S7号清		
	541	須恵器	蓋	口縁 底径 高さ	15.8 2.4	内: 回転ナデ, 頸り 外: 回転ナデ, 頸り	内: Huc NS/0 外: Huc NS/0	S7号清		
	542	須恵器	鏡	口縁 底径 高さ	14.3 5.6 5.0	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ, 頸り	内: Huc 7.5Y5/1 外: Huc 7.5Y5/2	S7号清		
	543	須恵器	鏡	口縁 底径 高さ	14.2 11.1 5.1	内: 回転ナデ, ナデ, 頸り 外: 回転ナデ, 頸り	内: Huc 5Y6/1 外: Huc 5Y6/1	S7号清		
	544	須恵器	鏡	口縁 底径 高さ	11.0 5.6 5.3	内: 回転ナデ, 頸り 外: 回転ナデ, 頸り	内: Huc 2.5Y6/1 外: Huc 5Y3/1	S7号清	外面に自然釉あり	
	545	須恵器	高杯	口縁 底径 高さ	9.0	約1/2	内: 回転ナデ, ナデ, 頸り 外: 回転ナデ	内: Huc 10Y6/1 外: Huc 10Y5/1	S7号清	
	546	須恵器	高杯	口縁 底径 高さ	10.4	1/2	内: 回転ナデ, ナデ, 頸り 外: 回転ナデ, 頸り	内: Huc 5Y6/1 外: Huc NS/1	S7号清	
	547	須恵器	鏡	口縁 底径 高さ	12.0 12.5 15.3	ほぼ完形	内: 回転ナデ, ナデ, 頸り 外: 回転ナデ, 頸り, タキ	内: Huc 5G2/1 外: Huc 5G2/1	309分出土状況 (72号清内)	
69	548	須恵器	高杯	口縁 底径 高さ	12.0 11.1 13.2	ほぼ完形	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ, 頸り	内: Huc 10BG6/1 外: Huc 10BG6/1	371分出土状況 (72号清内)	外面に自然釉あり
70	549	土師器	高杯	口縁 底径 高さ	12.5	脚部のみ	内: ナデ, 頸り 外: ナデ	内: Huc 10Y8Z/4 外: Huc 10Y8Z/6	S7号清	
	550	土師器	瓶	口縁~肩部		内: 回転ナデ, 頸り 外: 回転ナデ, ハケ口	内: Huc 10YR6/2 外: Huc 7.5YR7/4	S7号清	内面口縁部コダ付着	
	551	須恵器	高杯	口縁 底径 高さ	14.4	脚部のみ	内: 回転ナデ, ナデ, 外: 回転ナデ	内: Huc 5Y8/1 外: Huc 5Y8/1	S7号清	
	552	須恵器	高杯	口縁 底径 高さ	15.2 10.8 10.0	1/2	内: 回転ナデ, ナデ, 外: 回転ナデ	内: Huc 2.5Y6/1 外: Huc 10YR3/1	S7号清1層	
	553	須恵器	高杯	口縁 底径 高さ	14.8 9.5 10.0	2/3	内: 回転ナデ, 頸り 外: 回転ナデ, 頸り	内: Huc 2.5Y7/3 外: Huc 2.5Y6/1	S7号清	外面・脚部内面に自然釉あり
	554	須恵器	高杯	口縁 底径 高さ	12.6 9.2 10.0	2/3	内: 回転ナデ, ナデ, 外: 回転ナデ	内: Huc 5Y1/1 外: Huc 5Y5/1	S7号清	
	555	須恵器	高杯	口縁 底径 高さ	10.7	1/2	内: 回転ナデ, 頸り 外: 回転ナデ, 頸り	内: Huc 5Y6/1 外: Huc 5Y6/1	S7号清	
	556	須恵器	高杯	口縁 底径 高さ	9.3	1/2	内: 回転ナデ, 頸り 外: 回転ナデ, 頸り	内: Huc 7.5Y4/1 外: Huc 7.5Y3/1	S7号清	外面に自然釉あり
	557	須恵器	鏡	口縁 底径 高さ	2.0	2/3	内: 回転ナデ, 頸り 外: 回転ナデ, 頸り	内: Huc 10YG6/1 外: Huc 10YG6/1	S7号清	外内面にスス付着
	558	須恵器	鏡	口縁 底径 高さ	2.0 21.6 2.0	4/5	内: 回転ナデ, ナデ, タキ 外: 回転ナデ, ナデ, タキ	内: Huc 5Y7/1 外: Huc 5Y6/2	S7号清	
	559	須恵器	鏡	口縁 底径 高さ	2.0	1/2	内: 回転ナデ, タキ 外: 回転ナデ, タキ	内: Huc 5Y7/1 外: Huc 5Y7/1	S7号清	
	560	須恵器	鏡	口縁~肩部	2.0	内: 回転ナデ, タキ 外: 回転ナデ, タキ	内: Huc N6/0 外: Huc 5Y4/2	S7号清	外面に厚く自然釉あり	
	561	須恵器	鏡	口縁 底径 高さ	1.90	口縁~肩部	内: 回転ナデ, タキ 外: 回転ナデ, タキ	内: Huc 5Y7/1 外: Huc 5Y7/1	S7号清	
	562	須恵器	鏡	口縁 底径 高さ	2.0	内: タキ 外: タキ	内: Huc 5YH5/6 外: Huc 5YH4/1	S7号清		
71	563	須恵器	鏡	口縁 底径 高さ	2.0 20.0 2.0	約1/3	内: 回転ナデ, タキ 外: 回転ナデ, ハケ口, タキ	内: Huc N6/0 外: Huc 10Y6/1	S7号清 - S1179 - S1203	外面にカキ目あり
	564	土師器	甕	口縁 底径 高さ	2.0	底部片	内: ナデ, 頸り, 脚 外: 剥り, ハケ口	内: Huc 10YR8/2 外: Huc 7.5YR7/6	S7号清	
	565	土師器	甕	口縁 底径 高さ	2.0	底部片	内: ナデ, 頸り	内: Huc 5YR5/3 外: Huc 5YR4/2	S7号清	外面にスス付着
72	566	須恵器	鏡	口縁 底径 高さ	5.78 29.0 2.0	約1/2	内: 回転ナデ, 頸り, タキ 外: 回転ナデ, 頸り, タキ	内: Huc NS/0 外: Huc NS/0	72号清 - S1118 - S1109 - S1199 - S1200 - S1201 - S1218 - S1221	外面脚部に自然釉あり
73	567	須恵器	蓋	口縁 底径 高さ	16.0 3.2	完形	内: 回転ナデ, ナデ 外: 回転ナデ, 頸り	内: Huc 2.5Y5/2 外: Huc 5Y5/1	74号清	
	568	須恵器	鏡	口縁 底径 高さ	14.9 3.1	2/3	内: ナデ, 頸り 外: 回転ナデ, 頸り	内: Huc 5Y6/1 外: Huc 5Y6/1	74号清 - S1181	外面に自然釉あり
	569	須恵器	蓋	口縁 底径 高さ	14.9 3.1	約1/2	内: 回転ナデ, 頸り 外: 回転ナデ, ナデ, タキ	内: Huc 10YR5/1 外: Huc 7.5Y5/1	156号清	
	570	土師器	蓋	口縁 底径 高さ	17.2 2.8	約1/4	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ, 頸り	内: Huc SYH6/6 外: Huc 2.5YR6/6	358号清	

図	番号	遺物	種類(器種)	地質 (cc)	性 寸 量	特徴	色 四	出土場所	目 標
73	571	土師器	壺	口径 140 底径 80 高さ 32	約1/4	内: 回転ナダ 外: 回転ナダ, 剥り	内: Hue 25YR6/6 外: Hue 25YR6/6	358号窓	内外面赤色化粧土
	572	土師器	壺	口径 130 底径 86 高さ 28	1/2	内: 回転ナダ 外: 回転ナダ, ナダ	内: Hue 5YR6/8 外: Hue 5YR6/6	358号窓	内面・底面にスヌ付着
	573	土師器	壺	口径 116 底径 82 高さ 27	1/8	内: 回転ナダ 外: 回転ナダ, 剥り	内: Hue 5YR6/6 外: Hue 5YR6/6	358号窓	内外面赤色化粧土
	574	土師器	壺	口径 170 底径 110 高さ 48	2/3	内: 回転ナダ, ナダ 外: 回転ナダ, フマミ ナダ, 剥り	内: Hue 5YR6/8 外: Hue 25YR6/8	358号窓	
	575	土師器	壺	口径 134 底径 98 高さ 51	約3/4	内: 回転ナダ 外: 回転ナダ, 剥り	内: Hue 75YR7/8 外: Hue 5YR7/8	358号窓	
	576	土師器	壺	口径 88 底径 82 高さ 37	1/8	内: 磨き 外: 剥り	内: Hue 25YR7/6 外: Hue 25YR7/6	358号窓	底面に墨書き「ノ」?あり 内外面赤色化粧土
	577	土師器	壺	口径 118 底径 74 高さ 37	1/4	内: 回転ナダ 外: 回転ナダ, 剥り	内: Hue 75YR7/4 外: Hue 75YR7/4	358号窓	新書(判説不明)あり
	578	土師器	高 壺	口径 112 底径 88 高さ 37	部分のみ ほぼ完形	内: 回転ナダ 外: 回転ナダ, フマミ ナダ	内: Hue 75YR7/8 外: Hue 75YR7/6	358号窓	
	579	土師器	甕	口径~底径 247 高さ 100	内: 回転ナダ, 剥り 外: 回転ナダ, 剥り	内: 回転ナダ, 剥り 外: 回転ナダ, 剥り	内: Hue 75YR4/4 外: Hue 75YR4/4	358号窓	
	580	須恵器	蓋	口径 148 底径 100 高さ 50	1/3	内: 回転ナダ, ナダ, 削り 外: 回転ナダ, 剥り	内: Hue 10YR4/3 外: Hue 10YR4/1	358号窓	
	581	須恵器	蓋	口径 172 底径 120 高さ 50	約1/4	内: ナダ, 削り 外: 回転ナダ, 剥り	内: Hue 75YR4/2 外: Hue 75YR4/2	358号窓	内面口部・外面に自然物あり
	582	須恵器	蓋	口径 182 底径 133 高さ 53	1/4	内: 回転ナダ 外: 回転ナダ, ナダ	内: Hue 5YR7/8 外: Hue 5YR7/8	358号窓	割咎「主機」あり
	583	須恵器	蓋	口径 96 底径 59 高さ 34	ほぼ完形	内: 回転ナダ 外: 回転ナダ, 剥り	内: Hue 10YR8/2 外: Hue 75YR4/2	358号窓	ヘラ記号あり
	584	須恵器	壺	口径 118 底径 59 高さ 34	1/2	内: 回転ナダ, 剥り 外: 回転ナダ, 剥り	内: Hue 25YR4/1 外: Hue 5YR5/1	358号窓	
	585	須恵器	壺	口径 132 底径 88 高さ 30	1/5	内: 回転ナダ, ナダ, 削り 外: 回転ナダ, 剥り	内: Hue 5Y/6 外: Hue 25YR/2	358号窓	内面中央が凹んでいる
	586	須恵器	壺	口径 136 底径 100 高さ 47	1/4	内: 回転ナダ 外: 回転ナダ, ナダ, 削り	内: Hue SPB6/1 外: Hue N4/0	358号窓	
	587	須恵器	甕	口径 102 底径 59 高さ 30	1/2	内: 回転ナダ 外: 回転ナダ	内: Hue 5Y7/1 外: Hue N4/0	358号窓	
	588	須恵器	甕	口径 136 底径 94 高さ 38	1/3	内: 回転ナダ, 剥り 外: 回転ナダ, ナダ, 削り	内: Hue N5/0 外: Hue N3/0	358号窓	
	589	須恵器	壺	口径 90 底径 80 高さ 55	1/2	内: 回転ナダ, 剥り 外: 回転ナダ, 剥り	内: Hue 75YR/1 外: Hue N4/0	358号窓	脇部内面・外面に自然物あり
	590	須恵器	高 壺	口径 84 底径 75 高さ 44	約1/2	内: 回転ナダ, ナダ, 削り 外: 回転ナダ, 剥り	内: Hue 5B4/1 外: Hue 5B5/1	358号窓	
74	591	土師器	高 壺	口径 149 底径 60 高さ 60	3/4	内: 磨き 外: ナダ, 滑き	内: Hue 10YR7/6 外: Hue 10YR7/4	358号窓	
	592	土師器	甕	口径 98 底径 78 高さ 41	1/2	内: 回転ナダ, ナダ, 削り 外: 回転ナダ, ヘラ削り	内: Hue 25YR7/6 外: Hue 25YR7/6	359号窓	
	593	土師器	壺	口径 140 底径 86 高さ 45	1/3	内: 回転ナダ, ナダ 外: 回転ナダ, ヘラ削り	内: Hue 5YR7/6 外: Hue 5YR6/6	359号窓	
	594	土師器	壺	口径 148 底径 80 高さ 33	2/3	内: 回転ナダ, ナダ 外: 回転ナダ, 剥り	内: Hue 25YR6/8 外: Hue 25YR6/8	359号窓	内外面赤色化粧土
	595	須恵器	甕	口径 112 底径 90 高さ 43	1/4	内: 削り 外: 削り	内: Hue 25YR6/2 外: Hue 25YR6/2	359号窓	
	596	須恵器	甕 (蓋)	口径 30 底径 22	1/8	内: 回転ナダ 外: 回転ナダ	内: Hue 25YR/2 外: Hue 25YR/1	359号窓	
75	597	須恵器	甕 (蓋)	口径 135 底径 80 高さ 43	1/4	内: ナダ, 削り 外: 回転ナダ, ハケ目	内: Hue 10YR5/3 外: Hue 5YR6/6	2号窓	
	598	土師器	甕	口径 164 底径 94 高さ 92	1/6	内: 回転ナダ, 削り 外: ナダ, 削り, ハケ目	内: Hue 10YR7/4 外: Hue 10YR7/6	2号窓	
	599	土師器	甕	口径 130 底径 94 高さ 92	ほぼ完形	内: ナダ, 削り, 滑き 外: 回転ナダ, ナダ, 削り	内: Hue 5YR5/6 外: Hue 25YR5/6	2号窓	
	600	土師器	高 壺	口径 96 底径 86 高さ 76	内: 削部のみ 1/4	内: 回転ナダ, 削り 外: 回転ナダ	内: Hue 5YR5/8 外: Hue 25YR5/8	2号窓	
	601	土師器	高 壺	口径 201 底径 160 高さ 96	1/3	内: 削り 外: 回転ナダ, ハケ目	内: Hue 75YR8/4 外: Hue 75YR8/4	2号窓	
	602	土師器	甕	口径 201 底径 160 高さ 96	1/3	内: 削り 外: 回転ナダ, ハケ目	内: Hue 75YR8/4 外: Hue 75YR8/4	2号窓	外間に墨斑あり

1. (医病) 病棟(軸) 新營工事に伴う発掘調査(9901調査地点)

図	番号	遺物	種類(断面)	遺留(cm)	理 存 在	特徴	色 国	出土遺構	備 考
75	603	土師器	瓶		底部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hu: 7SYR6/4 外:Hu: 7SYR6/4	2号構	
	604	土師器	かわらけ	4.0	1/4	内:圓板ナデ 外:ナデ	内:Hu: 10YR8/4 外:Hu: 10YR8/4	2号構	底面あ切り
	605	瓦	布目瓦	長さ 5.7 幅さ 4.7 厚さ 2.0	破 片	内:布目 外:繩文	内:Hu: 7SYR6/1 外:Hu: 7SYR6/1	2号構	底
	606	瓦質土器	火 釜		口縁部片	内:圓板ナデ 外:圓板ナデ	内:Hu: NS4/0 外:Hu: 7SYR4/1	2号構	外側に押出文あり
	607	瓦質土器	釜 鍋		破 片	内:圓板ナデ 外:ナデ, 振オサエ	内:Hu: 10YR3/1 外:Hu: 5Y4/1	2号構	
	608	陶 器	擂 釜		破 片	内:圓板ナデ 外:圓板ナデ	内:Hu: 2SYR6/5 外:Hu: 2SYR4/2	2号構	
	609	陶 器	鉢?		底部片	内:削り 外:削り	内:Hu: SYR6/2 外:Hu: SYR4/3	2号構	
	610	陶 葵 (実付)	瓶	口径 11.2 底径 4.2 厚さ 5.6	1/6	内:ナデ 外:ナデ, 削り	内:Hu: SY3/2 外:Hu: SY3/2	2号構	地中場地に崩のかけ流し文様あり
	611	陶 器	瓶		破 片	内:ナデ 外:削り	内:Hu: NL5/0 外:Hu: NL5/0	2号構	天日蓋鏡
	612	陶 器	瓶	口径 4.8	底部~側部片	内:ナデ 外:ナデ, 削り	内:Hu: 10YR5/2 外:Hu: 10YR5/2	2号構	
	613	磁 器	瓶		口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hu: 青白色 外:Hu: 青白色	2号構	内面乳頭で飾付け 外側に施文あり 内側に施文あり
	614	醜臭虫脊椎	瓶		口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hu: 2SY5/2 外:Hu: 2SY5/2	2号構	内外面に青斑點あり
	615	醜臭虫脊椎	瓶		口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hu: 10GY6/1 外:Hu: 10GY6/1	2号構	内外面に青斑點あり
	616	磁 器	瓶		口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hu: 青白色 外:Hu: 青白色	2号構	内外面凸頭で染付け
	617	青 瓷	瓶		側部片	内:ナデ, 削り 外:ナデ, 削り	内:Hu: SY5/2 外:Hu: SY5/2	2号構	内外面に青斑點あり
	618	白 瓷	瓶	口径 4.0	底部1/2	内:ナデ 外:ナデ, 削り	内:Hu: 白色 外:Hu: 白色	2号構	
	619	醜臭虫脊椎	瓶		側部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hu: 10YR5/2 外:Hu: 10YR5/2	2号構	内外面に青斑點あり
	620	白 瓷	瓶		底部1/3	内:ナデ 外:削り	内:Hu: 7SY7/1 外:Hu: 7SY7/1	2号構	
	621	醜臭虫脊椎	瓶		側部片	内:ナデ, 削り 外:ナデ, 削り	内:Hu: 7SY6/3 外:Hu: 7SY6/2	2号構	内外面に青斑點あり
	622	醜臭虫脊椎	瓶		側部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hu: 10YR5/2 外:Hu: 10YR5/2	2号構	内外面に青斑點あり
	623	白 瓷	瓶	口径 6.0	底部1/4	内:ナデ 外:削り	内:Hu: SY8/2 外:Hu: 10YR5/1	2号構	美熟?
	624	磁 器	瓶	口径 4.8	底部1/4	内:ナデ 外:ナデ, 削り	内:Hu: 青白色 外:Hu: 青白色	2号構	底頭で染付け 高台に砂目付着
	625	白 瓷	瓶		口縁部片	内:ナデ 外:ナデ, 削り	内:Hu: 白色 外:Hu: 白色	2号構	
	626	白 瓷	小 瓶		口縁部片	内: 削り 外: 削り	内:Hu: 2SYR6/1 外:Hu: 2SYR6/1	16号構	
	627	磁密器	环	口径 12.3 底径 7.5 厚さ 4.7	2/3	内:圓板ナデ 外:圓板ナデ, 削り	内:Hu: SYR6/6 外:Hu: SYR6/6	380号構	赤焼け 内面焼きムラあり
	628	磁密器	瓶	口径 14.4 底径 10.2 厚さ 4.9	2/3	内:圓板ナデ 外:圓板ナデ, 削り	内:Hu: SYR6/6 外:Hu: SYR6/6	380号構下層	内面に燒きムラあり 赤焼け 外側にスス付着
	629	磁密器	瓶	口径 10.2	3/5	内:圓板ナデ 外:圓板ナデ, 削り	内:Hu: 7SY6/1 外:Hu: 5Y7/1	380号構	
	630	磁密器	瓶	口径 5.5	底部のみ	内:圓板ナデ 外:削り	内:Hu: NS4/0 外:Hu: SYR5/1	380号構	
	631	土師器	瓶	口径 9.2	約1/4	内:圓板ナデ 外:圓板ナデ, 削り	内:Hu: 2SYR6/6 外:Hu: 2SYR6/6	381号構	
	632	磁密器	瓶	口径 13.0	約1/4	内:圓板ナデ 外:圓板ナデ, 削り	内:Hu: NS4/0 外:Hu: 5Y6/1	381号構	
	633	磁密器	瓶	口径 9.4	1/2	内:圓板ナデ 外:圓板ナデ, 削り	内:Hu: SYR4/1 外:Hu: 2SYR6/6	381号構	赤焼け
76	634	土師器	瓶	口径 11.7 底径 8.4 厚さ 4.3	約2/3	内:圓板ナデ, ナデ, 削り 外:圓板ナデ, ナデ	内:Hu: 2SYR6/6 外:Hu: 2SYR6/6	386号土坡	

回	番号	遺物	種類(細類)	法長(cm)	埋 容 量	特徴	色 調	出土遺物	備考
76	635	須恵器	壺	口径14.3 身幅22	ほぼ完形	内: 回転ナデ、ナデ 外: 回転ナデ、削り	内: Hsu N6/0 外: Hsu N4/0	115号施衣避ビット	施衣避 外側に自然釉あり
	636	土師器	壺	口径18.0 身幅27.7	完 形	内: 回転ナデ、削り 外: ハケ目	内: Hsu 10YR8/6 外: Hsu 10YR7/6	115号施衣避ビット	施衣避
	637	須恵器	壺	口径16.4 身幅20.4 身高25.5	1/6	内: 回転ナデ、削り 外: 回転ナデ、ハケ目	内: Hsu 5Y5/1 外: Hsu 10YR5/1	115号施衣避ビット	内面口縁部・外側に自然釉あり
	638	土師器	壺	口径18.0 身幅25.5	底部1/4	内: 回転ナデ、削り 外: 回転ナデ、ナデ	内: Hsu 7.5YR7/6 外: Hsu 7.5YR8/6	370号龜石	ヘラ記号「ま」あり
	639	土師器	壺	口径17.0 身幅24.4	底部片	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	内: Hsu 5YR7/6 外: Hsu 5YR7/6	370号龜石	ヘラ記号「ま」あり
	640	須恵器	壺	口径13.2 身幅25.5	約1/4	内: 回転ナデ、削り 外: 回転ナデ	内: Hsu 2.5Y7/1 外: Hsu 10YR5/2	370号龜石	外側に燒きムラあり
77	641	須恵器	壺	口径25.6 身幅25.5	口縁～底部片	内: 回転ナデ、削り 外: クラッシュ	内: Hsu 5Y7/1 外: 回転ナデ、削り	370号龜石	内外面に自然釉あり
	642	土師器	小 壺	口径7.9 底径18	ほぼ完形	内: ナデ 外: ナデ、削り	内: Hsu 5YR8/6 外: Hsu 5YR8/6	250号土壤層	
78	643	鉄	刀 手	足8 厚5	内:	内:	内: Hsu 外: Hsu	250号土壤層	重量30kg
	644	須恵器	壺	口径14.0 底径8.4 身高18	1/2	内: 回転ナデ、ナデ 外: 回転ナデ、削り	内: Hsu N5/0 外: Hsu N5/0	179号	
	645	須恵器	壺	口径12.8 底径9.0 身高39.5	1/4	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	内: Hsu 5Y4/1 外: Hsu N5/0	188号ビット	
	646	須恵器	壺	口径14.0 底径10.2 身高25.6	底部片	内: 回転ナデ、削り 外: 回転ナデ、削り	内: Hsu 10Y5/1 外: Hsu 10YR6/1	131号ビット	
	647	須恵器	壺	口径5.4 底径4.1 身高14.1	2/3	内: 回転ナデ、ハケ目 外: クラッシュ	内: Hsu 2.5Y3/1 外: Hsu 2.5Y2/1	146号ビット	
	648	土師器	壺	口径19.6 底径19.6 身高25.5	1/6	内: 回転ナデ、ヘラ削り 外: 回転ナデ、ナデ	内: Hsu 10Y5/6 外: Hsu 7.5YR8/6	179号ビット	
649	649	土師器	瓶	口径10.7 底径7.5 身高3.7	1/3	内: 回転ナデ、回転ヘ 外: 回転ナデ、回転ヘ ナデ削り	内: Hsu 2.5YR6/6 外: Hsu 5YR6/6	214号ビット	高台の底以外に升出し
	650	土師器	瓶	口径14.6 底径10.2 身高5.2	1/2	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、回転ヘ ナデ削り	内: Hsu 2.5YR6/6 外: Hsu 10Y5/6	350号ビット	
651	651	土師器	瓶	口径15.8 底径14.0 身高1.7 厚さ1.6	直っ手及び 底部小片	内: ナデ 外: ナデ、ハケ目	内: Hsu 7.5YR8/6 外: Hsu 10YR7/6	399号ビット	
	652	土製品	土 瓶	長さ4.0 幅2.5 厚さ1.6	ほぼ完形	内: ナデ	内: Hsu 外: Hsu 2.5YR5/6	300号廻穴住居址	
653	653	土製品	瓶?	長さ4.7 幅2.5 厚さ3.35	1/4	内: ナデ 外: ナデ、焼き	内: Hsu 外: Hsu 7.5YR6/6	166号ビット	
	654	土製品	土 瓶	長さ4.0 幅2.5 厚さ1.4	ほぼ完形	内: ナデ	内: Hsu 外: Hsu 7.5YR5/4	1号棟	重量40kg
655	655	土製品	土 瓶	長さ4.6 幅2.2 厚さ1.6	約1/4	内: ナデ	内: Hsu 外: Hsu 10YR2/4	1号棟	内面に赤色残る
	656	土師器	絞跡車	長さ4.25 幅2.7 厚さ0.7	約1/2	内: ナデ 外: ハケ目	内: Hsu 7.5YR2/4 外: Hsu 7.5YR3/4	57号棟	重量80kg 土器片再利用
657	657	土製品	土 瓶	長さ4.0 幅2.5 厚さ1.15	ほぼ完形	内: ナデ	内: Hsu 外: Hsu 7.5YR2/4	57号棟	重量50kg
	658	土製品	土 瓶	長さ4.45 幅2.5 厚さ1.25	1/2は完形	内: ナデ	内: Hsu 外: Hsu 2.5Y7/2	358号棟・1話	
659	659	土製品	土 瓶	長さ4.7 幅2.1 厚さ1.1	1/2は完形	内: ナデ 外: ナデ、削り	内: Hsu 外: Hsu 10YR7/3	2号棟	焼きムラあり
	660	須恵器	取 手	口径 底径 厚さ	取手のみ	内: ナデ	内: Hsu 外: Hsu SB12/1	29号	
661	661	土製品	取 手	口径 底径 厚さ	破 片	内: ナデ	内: Hsu 外: Hsu 10YR6/4	包装層	
	662	土製品	土 瓶	長さ3.3 幅0.9 厚さ1.0	ほぼ完形	内: ナデ	内: Hsu 外: Hsu 5YR6/6	包装層・1区	
663	663	土製品	土 瓶	長さ2.9 幅0.9 厚さ1.0	約2/3	内: ナデ	内: Hsu 外: Hsu 10YR6/4	包装層・1区西	
	664	土製品	土 瓶	長さ4.3 幅0.9 厚さ1.0	ほぼ完形	内: ナデ	内: Hsu 外: Hsu 10YR7/3	包装層・1区西	
665	665	土製品	土 瓶	長さ3.7 幅0.9 厚さ0.9	ほぼ完形	内: ナデ	内: Hsu 外: Hsu 10YR6/4	包装層・1区西	
	666	土製品	土 瓶	長さ2.0 幅0.9 厚さ0.8	一部	内: ナデ	内: Hsu 外: Hsu 7.5YR5/4	包装層・1区西	

1. (医病) 病棟(軸) 新營工事に伴う発掘調査 (9901調査地点)

図 番号	遺物	種類(器種)	法尺(cm)	現 存 部	特徴	色 調	出土遺物	備 考	
78	667	土製品	土 壁	長さ 41 幅厚さ 12 厚さ 11	ほぼ完形 内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 外: Hue	10YR5/4 10YR5/3	包含層・I区西	
	668	土製品	土 壁	長さ 42 幅厚さ 9 厚さ 10	ほぼ完形 内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 外: Hue	10YR5/4 10YR5/3	包含層・I区西	
	669	土製品	土 壁	長さ 48 幅厚さ 10 厚さ 11	ほぼ完形 内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 外: Hue	10YR5/4 10YR5/4	包含層・西 焼きムラあり	
	670	土製品	土 壁	長さ 38 幅厚さ 9 厚さ 8	ほぼ完形 内:ナデ、施オサエ 外:ナデ	内: Hue 外: Hue	SYR5/6 SYR5/6	包含層・I区西	
	671	土製品	土 壁	長さ 49 幅厚さ 14 厚さ 14	ほぼ完形 内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 外: Hue	10YR5/4 10YR5/4	包含層・I区 温度あり	
	672	土製品	土 壁	長さ 35 幅厚さ 13 厚さ 13	約2/3	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 外: Hue	10YR5/4 10YR5/4	
	673	土製品	土 壁	長さ 36 幅厚さ 11 厚さ 10	ほぼ完形 内:ナデ、施オサエ 外:ナデ	内: Hue 外: Hue	SYR2/1 SYR2/1	包含層・I区西	
	674	土製品	土 壁	長さ 71 幅厚さ 33 厚さ 33	約2/3	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 外: Hue	10YR7/2 10YR7/2	
	675	土製品	瓶	長さ 45 幅厚さ 42 厚さ 16	ほぼ完形 内:ナデ 外:ナデ、施オサエ	内: Hue 外: Hue	25Y2/1 25Y4/1	29号堅穴住居址 範囲にスス付着	
	676	石製品	結節球	長さ 45 幅厚さ 45 厚さ 13	完 形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	72号傍 鉱灰岩質	
	677	石製品	結節球	長さ 41 幅厚さ 40	ほぼ完形 内: 外:	内: Hue 外: Hue	74号傍 重約24.4g 滑石質		
	678	石製品	結節球	長径 39~42 短径 17~19 高さ 12	1/2	内: 外:	内: Hue 外: Hue	179号ビット 重量130g 鉱灰岩	
	679	石製品	有孔円盤	長さ 2.65 幅厚さ 0.3	完 形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	10GY2/1 10GY2/1	
	680	石製品	垂 玉	長さ 15 幅厚さ 1.3 厚さ 0.46	完 形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	5CY4/1 5CY4/1	
	681	石製品	臼 玉	長さ 0.94 幅厚さ 0.52	完 形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	SBG4/1 SBG4/1	
	682	ガラス製品	小 玉	長さ 0.49 幅厚さ 0.52	完 形		内: Hue 外: Hue	コバルト ブルー コバルト ブルー	
79	683	鉄	刀 子	長さ 4.35 幅厚さ 1.65 厚さ 0.2	内: 外:	内: Hue 外: Hue	3号堅穴住居址	重量3.4g	
	684	鉄 器	刃	長さ 2.75 幅厚さ 0.4 厚さ 0.15	内: 外:	内: Hue 外: Hue	30号堅穴住居址	重量1.0g	
	685	鉄	刃	長さ 3.5 幅厚さ 0.6 厚さ 0.06	内: 外:	内: Hue 外: Hue	30号堅穴住居址	重量1.9g	
	686	鉄 器	刀 子	長さ 4.7 幅厚さ 1.4 厚さ 0.25	内: 外:	内: Hue 外: Hue	310号堅穴住居址	重量6.9g	
	687	鉄	鍼	長さ 5.75 幅厚さ 3.1 厚さ 0.35	内: 外:	内: Hue 外: Hue	501号堅穴住居物 (174号ビット)	重量9.0g	
	688	鉄 器	刀 子?	長さ 3.6 幅厚さ 1.1 厚さ 0.3	先端部 基部欠損	内: 外:	内: Hue 外: Hue	1号清	重量2.0g
	689	鉄 器	刀 子	長さ 11.4 幅厚さ 2.25 厚さ 1.9	先端部 基部欠損	内: 外:	内: Hue 外: Hue	50928	重量21.0g
	690	鉄	鍼	長さ 13.05 幅厚さ 1.1 厚さ 0.3	内: 外:	内: Hue 外: Hue	73号焼土塊	重量17.4g	
	691	鉄 器	刀 子	長さ 6.3 幅厚さ 1.6 厚さ 0.6	内: 外:	内: Hue 外: Hue	包含層・I区西	重量15.6g	
	692	鉄 器	刀 子	長さ 3.9 幅厚さ 1.5 厚さ 0.5	先端部 基部欠損	内: 外:	内: Hue 外: Hue	包含層・I区西	重量4.3g
	693	鉄 器	刀 子?	長さ 6.6 幅厚さ 1.95 厚さ 0.7	基部欠損	内: 外:	内: Hue 外: Hue	包含層・I区西	重量9.8g
	694	鉄 器	刀 子?	長さ 5.1 幅厚さ 1.1 厚さ 0.35	先端部 基部欠損	内: 外:	内: Hue 外: Hue	包含層・I区西	重量5.0g
	695	鉄製品	鍼	長さ 19.95 幅厚さ 1.15 厚さ 0.2	内: 外:	内: Hue 外: Hue	包含層・I区	重量50.5g	
	696	鉄 器	鍼	長さ 3.25 幅厚さ 1.7 厚さ 0.25	先端部 基部欠損	内: 外:	内: Hue 外: Hue	包含層・II区京	重量5.5g
80	697	土蜘蛛	網	口徑 19.8 底径 4.8 高さ 4.2	1/2	内:ナデのち断 外:ナデ、工具によ リナデ	内: Hue 外: Hue	25Y5/2 75Y5/6	包含層・拂土
	698	土蜘蛛	環	口徑 14.0 底径 10.1 高さ 5.4	2/3	内:ナデのち断 外:ナデのち断 内:ナデのち工具 袋、ナデのち工具 袋	内: Hue 外: Hue	5YR5/0 5YR5/6	包含層・I区西南隅 拂土外面に一部剥離あり

図	番号	遺物	種類(形態)	法盤(cm)	残存量	特徴	色 調	出土遺構	国 号
80	699	土師器	瓶	口径 底径 最高 5.2	1/4	内：圓板ナデ、ナデ、 外：圓板ナデ、ナデ、 削り	内：Hue 7SYR7/6 外：Hue 10YR8/3	包含層・I区西	底部に焼きムラあり
	700	土師器	瓶	口径 底径 最高 7.4	1/4	内：圓板ナデ、 外：圓板ナデ、ナデ	内：Hue 5YR6/6 外：Hue 5YR5/6	包含層・南面遺構出土	
	701	土師器	环	口径 底径 最高 1.7		底部片 内：圓板ナデ 外：圓板ナデ	内：Hue 5YR6/6 外：Hue 5YR6/6	包含層・南一筋	底部に墨青あり
	702	土師器	环	口径 底径 最高 2.6	約1/2	内：圓板ナデ 外：圓板ナデ	内：Hue 2SYR5/6 外：Hue 2SYR6/6	包含層・東西 首	墨青(判明不明)あり 内外面赤化土
	703	土師器	环	口径 底径 最高 3.2	1/4	内：圓板ナデ 外：圓板ナデ、ナデ	内：Hue 10R5/6 外：Hue 2SYR5/6	包含層・南北一筋	墨青(判明不明)あり 内外面赤化土
	704	土師器	环	口径 底径 最高 3.9	2/3	内：圓板ナデ 外：圓板ナデ	内：Hue 5YR6/6 外：Hue 5YR6/6	Ⅲ区包含層・南	
	705	土師器	更	口径 底径 最高 5.1	1/6	内：圓板ナデ、削り 外：圓板ナデ、ハナ口	内：Hue 10YR7/4 外：Hue 10YR7/3	包含層 (59号の外)	
	706	土師器	更	口径 底径 最高 6.8	1/6	内：圓板ナデ、削り 外：圓板ナデ	内：Hue 10YR6/4 外：Hue 2SYR6/4	包含層 (59号の外)	
	707	土師器	更	口径 底径 最高 8.5	1/3	口縁一凹部 内：圓板ナデ、削り、 外：ハケ口	内：Hue 5YR6/4 外：Hue 5YR6/6	包含層	
	708	土師器	瓶	口径 底径 最高 5.0	1/6	内：ハラ削り 外：ハナ口	内：Hue 5YR7/6 外：Hue 5YR7/6	包含層 (59号の外)	
	709	土師器	瓶	口径 底径 最高 6.5		底部片 内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 10YR6/4 外：Hue 10YR6/4	包含層・I区西	摩六あり (内→外)
	710	土師器	瓶	口径 底径 最高 8.5		底部片 内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 10YR6/4 外：Hue 10YR6/4	包含層・I区西	摩六あり (外→内)
	711	土師器	移動式壺	長さ 8.6 幅 2.8		底部環片 内：ナデ 外：ナデ、削り	内：Hue 10YR6/4 外：Hue 10YR6/4	包含層 (1号溝と358号 溝の間)	底部にすばれ状の圧痕あり
	712	手捏ね土器	瓶	口径 底径 最高 8.2	1/4	内：ナデ、削り 外：ナデ、削り	内：Hue 2SYR1/ 外：Hue 10YR8/3	包含層・I区西	外側に焼きムラあり
	713	土師器	壺	口径 底径 最高 13.6	約1/2	内：圓板ナデ 外：圓板ナデ、削り、 擦り	内：Hue 5YR6/6 外：Hue 2SYR5/6	包含層・南	
	714	土師器	壺	口径 底径 最高 13.6	1/6	内：圓板ナデ、削り、 ハケ口 外：圓板ナデ、ハナ口	内：Hue 10YR7/3 外：Hue 10YR6/4	包含層・清掃	口検査にスス付着
	715	須恵器	壺	口径 底径 最高 15.2		底片 内：圓板ナデ 外：圓板ナデ	内：Hue 5Y6/1 外：Hue 5Y6/1	包含層・下層	ヘラ記号あり
	716	須恵器	壺	口径 底径 最高 18.0	ほぼ完形	内：ナデ、削り 外：圓板ナデ、削り	内：Hue NS/0 外：Hue NS/0	包含層・南面遺構	
	717	須恵器	壺	口径 底径 最高 3.5	1/3	内：圓板ナデ 外：圓板ナデ、ナデ	内：Hue 5Y6/2 外：Hue 5Y6/1	包含層・I区西	
	718	須恵器	壺	口径 底径 最高 4.1	1/2	内：圓板ナデ、ナデ 外：圓板ナデ、削り	内：Hue 10Y5/1 外：Hue 2SY5/1	包含層・I区	
	719	須恵器	壺	口径 底径 最高 3.5	1/2	内：圓板ナデ、ナデ 外：圓板ナデ、削り	内：Hue 10Y5/1 外：Hue 2SY5/1	包含層 (1号溝と358号 溝の間)	外側口縁部に焼きムラあり
	720	須恵器	壺	口径 底径 最高 4.6	3/4	内：圓板ナデ、ナデ 外：圓板ナデ、ナデ	内：Hue 7SY6/1 外：Hue 7SY6/1	包含層・南北一筋	
	721	須恵器	环	口径 底径 最高 3.8	2/3	内：圓板ナデ、ナデ 外：圓板ナデ、削り、 擦り	内：Hue 5Y3/1 外：Hue 5Y4/1	包含層・II区	
	722	須恵器	环	口径 底径 最高 3.9	4/5	内：圓板ナデ 外：圓板ナデ、削り	内：Hue 7SY5/1 外：Hue 7SY5/1	包含層 (1号溝と358号 溝の間)	
	723	須恵器	环	口径 底径 最高 4.4	1/2	内：圓板ナデ 外：圓板ナデ	内：Hue 2SY5/3 外：Hue 5Y5/1	包含層・I区西	
	724	須恵器	瓶	口径 底径 最高 4.6	1/4	内：圓板ナデ、ナデ 外：圓板ナデ	内：Hue 2SY6/2 外：Hue 2SY7/1	包含層 (59号の外)	
	725	須恵器	瓶	口径 底径 最高 6.1	1/3	内：圓板ナデ 外：圓板ナデ、削り	内：Hue 7SY4/1 外：Hue 7SY4/1	包含層 (1号溝と29号 溝の間)	外側面に自然釉あり
	726	須恵器	瓶	口径 底径 最高 5.0	1/2	内：圓板ナデ 外：圓板ナデ、削り	内：Hue 7SYR6/5 外：Hue 7SYR6/6	包含層・I区西	外側に焼きムラあり
	727	須恵器	瓶	口径 底径 最高 4.7	約1/2	内：圓板ナデ、ナデ 外：圓板ナデ、ナデ、 削り	内：Hue 7SY5/2 外：Hue 7SY5/2	包含層・I区	
81	728	須恵器	环	口径 底径 最高 1.1		底片 内：圓板ナデ 外：圓板ナデ	内：Hue 5YR6/1 外：Hue 5YR6/6	包含層・I区西	内面に墨青あり
	729	須恵器	ニチニア 高环	口径 底径 最高 6.5	1/3	内：圓板ナデ 外：圓板ナデ	内：Hue 5Y6/1 外：Hue 5Y5/1	包含層・I区	
	730	須恵器	ニニニア 高环	口径 底径 最高 4.2	約1/2	内：圓板ナデ、ナデ 外：圓板ナデ、ハク削り	内：Hue 7SY6/1 外：Hue NS/0	包含層 (59号の外)	

1. (医病) 病棟(船) 新嘗工事に伴う発掘調査(9901調査地点)

図	番号	遺物	種類(形態)	法長(cm)	残存部	特徴	色 因	出土遺物	備考
81	731	紙巻器	高 扉	14.0 口径 高さ 径高	耳部1/2	内: 膜紙ナダ 外: 膜紙ナダ	内: Hse 25V5/1 外: Hse 10YR5/1	包含層・II区	
	732	紙巻器	ミニチュア 高 扉	9.7 口径 高さ 径高	耳部の一部	内: 膜紙ナダ 外: 膜紙ナダ、糊り	内: Hse 5Y5/1 外: Hse 5YR5/1	包含層・下層	表面に自然焦あり
	733	紙巻器	舟	19.2 口径 底径 高さ 径高	1/6	内: 膜紙ナダ 外: 膜紙ナダ、糊り	内: Hse 5YR6/6 外: Hse 5YR6/6	包含層・II区	赤燒
	734	紙巻器	舟(?)	破 片		内: 膜紙ナダ 外: 膜紙ナダ	内: Hse 5YR6/4 外: Hse 5YR6/4	包含層・II区	波状文・波綻文あり 表面にスス付着
	735	紙巻器	舟(?)	約 4.1 口径 底径 高さ 径高	約1/6	内: 膜紙ナダ、タキ 外: 膜紙ナダ	内: Hse NS/0 外: Hse NS/0	包含層(59号の外)	
	736	紙巻器	舟	16.1 口径 底径 高さ 径高	約2/1	内: ナダ、糊り 外: 膜紙ナダ、糊り、 タキ	内: Hse 25V5/2 外: Hse 5Y6/6	包含層・II区南	
	737	屋根瓦系 青磁	調	口縁部片		内: ナダ 外: ナダ	内: Hse 7.5Y5/3 外: Hse 7.5Y5/3	包含層・I区西	内外面に背屈地あり
	738	白 磁	調	口径 底径 高さ 径高	破 片	内: ナダ 外: ナダ	内: Hse 10Y7/1 外: Hse 10Y7/1	包含層・I区西	
	739	白 磁	蓋	4.9 口径 底径 高さ 径高	破 片	内: ナダ 外: ナダ	内: Hse 10Y7/1 外: Hse 10Y7/1	包含層・I区西	表面に紋様あり
	740	越前焼系 青磁	調	口径 底径 高さ 径高	底部1/2	内: ナダ 外: ナダ	内: Hse 5Y5/2 外: Hse 5Y5/3	包含層・I区西	内外面に背屈地あり 底部一部端部がはげている
	741	越前焼系 青磁	調	口径 底径 高さ 径高	1/6	内: 糊り 外: Hse 5Y5/2 糊り	内: Hse 5Y5/2 外: Hse 5Y5/2	包含層・南側	内外面に背屈地あり 高台側に突出 内面に目あとあり
	742	土器器	坏	13.5 口径 底径 高さ 径高	ほぼ完形	内: 膜紙ナダ 外: 膜紙ナダ	内: Hse 5YR6/6 外: Hse 5YR6/6	被覆	
	743	土器器	坏	15.3 口径 底径 高さ 径高	3/4	内: 膜紙ナダ 外: 膜紙ナダ	内: Hse 5YR5/6 外: Hse 5YR5/6	被覆	
	744	土器器	坏	14.8 口径 底径 高さ 径高	1/3	内: 膜紙ナダ、糊り 外: 膜紙ナダ、糊り、 糊り	内: Hse 25V8/6 外: Hse 25V8/6	被覆	墨書き「文」あり 内外面赤色化粧土
	745	土器器	坏	7.8 口径 底径 高さ 径高	1/6	内: 膜紙ナダ、糊り 外: 膜紙ナダ、糊り、 糊り	内: Hse 25V8/6 外: Hse 25V8/6	被覆	墨書きあり 内外面赤色化粧土
	746	土器器	坏	14.4 口径 底径 高さ 径高	3/4	内: 膜紙ナダ 外: 膜紙ナダ	内: Hse 7.5Y7/4 外: Hse 10Y8/4	被覆	スス付着
	747	土器器	大 説	21.7 口径 底径 高さ 径高	1/2	内: 膜紙ナダ 外: 膜紙ナダ、ナダ、 糊り	内: Hse 5YR6/6 外: Hse 5YR6/6	被覆・南	
	748	土器器	説	15.0 口径 底径 高さ 径高	1/3	内: 膜紙ナダ、ナダ 外: 膜紙ナダ	内: Hse 5YR6/6 外: Hse 5YR6/6	被覆	墨書き「新説」あり
	749	紙巻器	蓋	15.6 口径 底径 高さ 径高	3/4	内: 膜紙ナダ 外: 膜紙ナダ、ナダ、 糊り	内: Hse 10Y8/6 外: Hse N6/0	被覆	
	750	紙巻器	蓋	11.4 口径 底径 高さ 径高	約1/6	内: 膜紙ナダ、ナダ 外: 膜紙ナダ、糊り	内: Hse 25Y5/1 外: Hse 7.5Y6/1	被覆	ヘラ記号「+」あり
	751	紙巻器	坏	11.9 口径 底径 高さ 径高	1/2	内: 膜紙ナダ 外: 膜紙ナダ、糊り	内: Hse 5Y4/1 外: Hse 5Y5/1	被覆	
	752	紙巻器	説	15.4 口径 底径 高さ 径高	3/4	内: 膜紙ナダ 外: 膜紙ナダ、ナダ、 糊り	内: Hse 25Y5/1 外: Hse N5/0	被覆	
	753	紙巻器	坏	12.1 口径 底径 高さ 径高	3/4	内: 膜紙ナダ 外: 膜紙ナダ、膜紙ハ ラ糊り	内: Hse 7.5Y6/1 外: Hse 7.5Y6/1	被覆	
	754	紙巻器	蓋	15.2 口径 底径 高さ 径高	口縁-調節片	内: ナダ、糊り、タキ 外: 膜紙ナダ、糊り、 タキ	内: Hse 5Y6/1 外: Hse 7.5Y3/1	被覆	口縁部内外面に自然焦あり
	755	紙巻器	蓋	24.0 口径 底径 高さ 径高	口縁-調節片	内: 膜紙ナダ 外: 膜紙ナダ	内: Hse N4/0 外: Hse N5/0	被覆	
	756	紙巻器	説	18.1 口径 底径 高さ 径高	口縁-調節部 1/2	内: 膜紙ナダ、ナダ 外: 膜紙ナダ	内: Hse NS/0 外: Hse NS/0	被覆	内面に自然焦あり 外側に墨書き・焼跡があり
82	757	萬文土器	深鉢形土器	口縁部片	内: 糊き 外: 糊き	内: Hse 25V3/1 外: Hse 25Y3/1	包含層50109	太鉢造 比縞文あり ナリ出し純土	
	758	萬文土器	鉢形土器	口縁部片	内: 糊き 外: 糊き	内: Hse 25V5/4 外: Hse 10YR7/4	27号櫛穴住居址	太鉢造 波状口縁	
	759	萬文土器	深鉢形土器	口縁部片	内: 糊き 外: 糊き	内: Hse 25Y6/1 外: Hse 10YR8/4	370号魚石	太鉢造 外側に波縞文あり	
	760	萬文土器	鉢形土器	口縁部片	内: ナダ 外: ナダ	内: Hse 10YR6/3 外: Hse 10YR7/4	72号櫛	三万面 比縞文あり	
	761	萬文土器	百合の鉢?	口縁部片	内: ナダ 外: ナダ	内: Hse 10YR6/4 外: Hse 10YR7/4	72号櫛	三万面(島井堀)	
	762	萬文土器	鉢形土器	口縁部片	内: 糊き 外: 糊き	内: Hse 10YR6/4 外: Hse 10YR7/4	包含層	三万面 内側に比縞文あり	

種	番号	造物	種類(形態)	施設(cm)	規 格 及	特徴	色 図	出土品	圖 号
82	763	純文土器	縦溝形土器	口径	口縫部	内: 縞き 外: 縞き	内: Huc 10YR6/4 外: Huc 10YR5/4	346号堅穴	鳥井原 沈縞文あり
	764	純文土器	横溝形土器	口径	口縫部	内: ナデ, 縞き 外: ナデ	内: Huc 10YR5/4 外: Huc 10YR5/6	72号窓	鳥井原 沈縞文あり
	765	純文土器	縦溝形土器?	口径	口縫部	内: 縞き 外: 縞き	内: Huc 10YR5/1 外: Huc 10YR5/3		鳥井原
	766	純文土器	縦溝形土器	口径	口縫部	内: 縞き 外: 縞き	内: Huc 25Y5/2 外: Huc 10YR7/4	72号窓	鳥井原 外壁に凹縞文あり
	767	純文土器	横溝形土器?	口径	口縫部	内: 縞き 外: 縞き	内: Huc 25Y6/4 外: Huc 25T5/1		鳥井原(三万田) 外壁に沈縞文あり
	768	純文土器	縦溝形土器	口径	口縫部	内: 縞き 外: 縞き	内: Huc 10YR6/2 外: Huc 10YR6/3	72号窓	鳥井原
	769	純文土器	縦溝形土器	口径	口縫部	内: 縞き 外: 縞き	内: Huc 10YR6/2 外: Huc 10YR6/4	72号窓	鳥井原
	770	純文土器	横溝形土器?	口径	口縫部	内: 縞き 外: 縞き	内: Huc 25Y7/4 外: Huc 25T7/4	15号窓・I区西	鳥井原
	771	純文土器	横溝形土器	口径	口縫部	内: 縞き 外: 縞き	内: Huc 25Y4/2 外: Huc 10YR3/1	92号堅穴住居址	鳥井原 外壁に凹縞文あり
	772	純文土器	横溝形土器?	口径	口縫部	内: 縞き 外: 縞き	内: Huc 25Y4/1 外: Huc 25Y4/1	35号堅穴住居址	鳥井原 外壁に凹縞文あり
	773	純文土器	横溝形土器?	口径	口縫部	内: 縞き 外: 縞き	内: Huc 10YR6/4 外: Huc 10YR6/4	343号堅穴住居址	鳥井原 外壁に沈縞文あり
	774	純文土器	横溝形土器?	口径	口縫部	内: 縞き 外: 縞き	内: Huc 5Y2/1 外: Huc 5Y3/1	35号堅穴住居址一括	鳥井原 外壁に凹縞文あり
	775	純文土器	糸形土器	口径	口縫部	内: 縞き 外: 縞き	内: Huc 7.5Y2/1 外: Huc 7.5Y3/2	72号窓	鳥井原 外壁に凹縞文あり
	776	純文土器	横溝形土器?	口径	口縫部	内: 縞き 外: 縞き	内: Huc 10YR7/2 外: Huc 10YR7/4	72号窓	鳥井原 外壁に凹縞文あり
	777	純文土器	縦溝形土器	口径	口縫部	内: 縞き 外: 縞き	内: Huc 10YR6/3 外: Huc 7.5YR5/4	72号窓	鳥井原
	778	純文土器	横溝形土器?	口径	口縫部	内: 縞き 外: ナデ, 縞き	内: Huc 10YR7/4 外: Huc 10YR6/6	356号堅穴住居址	鳥井原 沈縞文あり
	779	純文土器	横溝形土器?	口径	口縫部	内: 縞き 外: 縞き	内: Huc 25Y7/4 外: Huc 10YR7/3	92号堅穴住居址	御坂(D)
	780	純文土器	横溝形土器?	口径	口縫部	内: 縞き 外: 縞き	内: Huc 25Y6/3 外: Huc 10YR7/4	370号魚石	御坂 外壁に沈縞文あり
	781	純文土器	横溝形土器?	口径	口縫部	内: 縞き 外: 縞き	内: Huc 25Y6/4 外: Huc 10YR7/4	15号窓・II区	御坂 沈縞文あり
	782	純文土器	糸形土器	口径	口縫部	内: 縞き 外: 縞き	内: Huc 10YR6/4 外: Huc 10YR7/4	72号窓	御坂
	783	純文土器	糸形土器	口径	口縫部	内: ナデ 外: ナデ, 縞き	内: Huc 10YR7/4 外: Huc 10YR5/3	15号窓・II区	御坂 外壁に沈縞文あり
	784	純文土器	横溝形土器?	口径	口縫部	内: 縞き 外: 縞き	内: Huc N1.5/0 外: Huc N1.5/0	360号堅穴住居址	御坂 外壁に沈縞文あり 黒色耐候土器
	785	純文土器	横溝形土器?	口径	口縫部	内: 縞き 外: 縞き	内: Huc 25Y3/2 外: Huc 25T3/2	15号窓・II区	御坂 外壁に沈縞文あり
	786	純文土器	横溝形土器?	口径	口縫部	内: 縞き 外: 縞き	内: Huc 25Y5/1 外: Huc 25Y6/3	15号窓・II区	御坂 外壁に沈縞文あり 色黒研磨土器
	787	純文土器	横溝形土器?	口径	口縫部	内: 縞き 外: 縞き	内: Huc N1.5/0 外: Huc N1.5/0	360号堅穴住居址	御坂 沈縞文あり 黒色耐候土器
	788	純文土器	糸形土器	口径	口縫部	内: 縞き 外: 縞き	内: Huc 10YR5/3 外: Huc 10YR6/4	72号窓	天城
	789	純文土器	横溝形土器?	口径	口縫部	内: 縞き 外: 縞き	内: Huc 10YR6/3 外: Huc 10YR7/4	600号堅穴住居址 (158号ビット)	天城 外壁に沈縞文あり
	790	純文土器	横溝形土器?	口径	口縫部	内: ナデ 外: ナデ	内: Huc 10YR5/4 外: Huc 10YR6/4	1号窓	天城 外壁に沈縞文あり
	791	純文土器	横溝形土器?	口径	口縫部	内: ナデ 外: 縞き	内: Huc 25Y5/2 外: Huc 7.5YR6/6	367号堅穴住居址	天城 外壁に沈縞文あり
	792	純文土器	横溝形土器?	口径	口縫部	内: ナデ 外: ナデ	内: Huc 25Y5/4 外: Huc 25Y5/4	327号?	天城 外壁に沈縞文あり
	793	純文土器	横溝形土器?	口径	口縫部	内: 縞き 外: ナデ, 縞き	内: Huc 10YR7/3 外: Huc 10YR7/3	346号堅穴	天城 (古墳) 沈縞文あり
	794	純文土器	横溝形土器?	口径	口縫部	内: ナデ 外: ナデ	内: Huc 10YR5/6 外: Huc 10YR5/3	15号窓・下層	天城 外壁に沈縞文あり

1. (医病) 病棟(軸) 新營工事に伴う発掘調査(9901調査地点)

図	番号	遺物	種類(種類)	重量(g)	残存部	特徴	色 製	出土遺物	位 置
82	795	縄文土器	深鉢形土器 茎付 茎高	口縁部片	内:ナゲ 外:ナゲ, 茎さ	内:Hu 25Y8/4 外:Hu 25Y6/4	72号清・35号壺穴	古墳E 外周に北緯文あり	
	796	縄文土器	深鉢形土器 茎付 茎高	口縁部片	内:硝さ 外:硝さ	内:Hu 25Y4/2 外:Hu 25Y5/1	包含層・II区	古墳E 外周に北緯文あり	
	797	縄文土器	深鉢形土器 底付 底高	口縁部片	内:ナゲ, 破り 外:硝さ	内:Hu 25Y5/3 外:Hu 10Y85/3	360号壺穴住居址	古墳E 外周に北緯文あり	
	798	縄文土器	深鉢形土器 底付 底高	口縁部片	内:ナゲ 外:ナゲ	内:Hu 10Y85/3 外:Hu 10Y85/4	72号清	古墳E 外周に北緯文あり	
	799	縄文土器	深鉢形土器 底付 底高	口縁部片	内:硝さ 外:硝さ	内:Hu 10Y87/4 外:Hu 10Y87/3	包含層・I区西	古墳E	
	800	縄文土器	深鉢形土器 底付 底高	口縁部片	内:硝さ 外:硝さ	内:Hu 10Y85/4 外:Hu 10Y85/4	343号壺穴住居址	古墳E削部	
	801	縄文土器	浅鉢形土器 底付 底高	口縁部片	内:硝さ	内:Hu 5Y3/1 外:Hu 7.5Y2/1	114号壺穴住居址	古墳E(須) 外周に北緯文あり	
	802	縄文土器	深鉢形土器 底付 底高	口縁部片	内:硝さ 外:硝さ	内:Hu 5Y4/1 外:Hu 25Y4/2	57号清	古墳E(須) 壺穴あり	
	803	縄文土器	鉢形土器 底付 底高	口縁部片	内:硝さ 外:硝さ	内:Hu 10Y86/4 外:Hu 10Y85/4	72号清	古墳E 外周に北緯文あり	
	804	縄文土器	鉢形土器 底付 底高	口縁部片	内:硝さ 外:硝さ	内:Hu 10Y86/2 外:Hu 10Y83/2	35号壺穴住居址	古墳E 北緯文あり	
	805	縄文土器	鉢形土器 底付 底高	口縁部片	内:硝さ 外:硝さ	内:Hu 25Y7/1 外:Hu 25Y6/3	4号清	古墳E 北緯文あり 黒色陶土器	
	806	縄文土器	鉢形土器 底付 底高	口縁部片	内:硝さ 外:硝さ	内:Hu 7.5Y2/1 外:Hu 7.5Y2/1	72号清	古墳E 外周に北緯文あり 黒色陶土器	
	807	縄文土器	鉢形土器 底付 底高	口縁部片	内:硝さ 外:硝さ	内:Hu 25Y3/1 外:Hu 25Y3/2	72号清	古墳E	
	808	縄文土器	深鉢形土器 底付 底高	口縁部片	内:硝さ 外:硝さ	内:Hu 10Y87/4 外:Hu 10Y87/4	1号清	古墳E 北緯文あり	
	809	縄文土器	鉢形土器 底付 底高	口縁部片	内:硝さ 外:硝さ	内:Hu 25Y2/1 外:Hu 25Y2/1	4号清	古墳E	
	810	縄文土器	浅鉢形土器 底付 底高	口縁部片	内:硝さ 外:硝さ	内:Hu 10Y85/4 外:Hu 10Y85/4	35号壺穴住居址一級	古墳E 外周に北緯文あり	
	811	縄文土器	鉢形土器 底付 底高	口縁部片	内:硝さ 外:硝さ	内:Hu 10Y85/2 外:Hu 10Y83/2	72号清	古墳E 外周に北緯文あり	
	812	縄文土器	深鉢形土器 底付 底高	口縁部片	内:硝さ 外:硝さ	内:Hu 7.5Y3/1 外:Hu 7.5Y3/1	58号壺穴住居址 43号壺穴住居址	古墳E 外周に北緯文あり 黒色陶土器	
	813	縄文土器	鉢形土器 底付 底高	口縁部片	内:硝さ 外:硝さ	内:Hu 25Y4/1 外:Hu 10Y85/3	72号清	古墳E	
	814	縄文土器	鉢形土器 底付 底高	口縁部片	内:硝さ 外:ナナ, 破さ	内:Hu 5Y85/6 外:Hu 5Y85/6	1号清北	古墳E	
	815	縄文土器	深鉢形土器 底付 底高	口縁部片	内:硝さ 外:硝さ	内:Hu 10Y86/4 外:Hu 25Y5/3	72号清	古墳E	
	816	縄文土器	鉢形土器 底付 底高	口縁部片	内:硝さ 外:硝さ	内:Hu 2.5Y3/1 外:Hu N2/0	343号壺穴住居址	古墳E 黒色陶土器	
	817	縄文土器	深鉢形土器 底付 底高	口縁部片	内:硝さ 外:硝さ	内:Hu 10Y84/1 外:Hu 25Y5/3	337・338号壺穴住居址	古墳E	
83	818	縄文土器	鉢形土器 底付 底高	口縁部片	内:硝さ 外:硝さ	内:Hu 10Y85/3 外:Hu 10Y87/4	72号清	須川	
	819	縄文土器	鉢形土器 底付 底高	口縁部片	内:硝さ 外:硝さ	内:Hu 25Y6/4 外:Hu 25Y6/4	包含層・I区	須川 内外周に北緯文あり	
	820	縄文土器	深鉢形土器 底付 底高	口縁部片	内:硝さ 外:硝さ	内:Hu 5Y2/1 外:Hu 5Y3/1	59号壺穴住居址	須川 外周に北緯文あり 黒色陶土器	
	821	縄文土器	深鉢形土器 底付 底高	口縁部片	内:硝さ 外:硝さ	内:Hu 7.5Y3/1 外:Hu 7.5Y3/1	1号清	須川 黒色陶土器	
	822	縄文土器	深鉢形土器 底付 底高	口縁部片	内:硝さ 外:硝さ	内:Hu 7.5Y3/1 外:Hu 7.5Y3/1	包含層・I区	須川 黒色陶土器	
	823	縄文土器	鉢形土器 底付 底高	口縁部片	内:ナゲ, 破さ 外:ナゲ	内:Hu 7.5Y87/6 外:Hu 10Y87/6	4号清	明日安寄文あり	
	824	縄文土器	鉢形土器 底付 底高	口縁部片	内:ナゲ 外:ナゲ	内:Hu 5Y86/4 外:Hu 7.5Y87/6	1号清	明日安寄文あり	
	825	縄文土器	鉢形土器 底付 底高	口縁部片	内:ナゲ 外:ナゲ	内:Hu 10Y87/2 外:Hu 10Y87/2	1号清	明日安寄文あり	
	826	縄文土器	鉢形土器 底付 底高	口縁部片	内:ナゲ 外:ナゲ, 斜オサエ	内:Hu 7.5Y85/4 外:Hu 10Y84/1	包含層(2号清より東)	明日安寄文あり	

図	番号	豆物	種類(形態)	深度(cm)	残存部	特徴	色 図	出土場所	回 号
83	827	純文土器	直腹土器?		口縁部片	内:ナデ、縫き 外:縫き	内: Hue 25Y4/1 外: Hue 10YR6/2	72号南	表白?
	828	純文土器	鉢形土器		底部片	内:ナデ 外:縫き	内: Hue 25Y3/3 外: Hue 25Y6/4	72号南	太郎道~1切面
	829	純文土器	鉢形土器		底部2/3	内:ナデ 外:ナデ、縫き	内: Hue 10YR6/3 外: Hue 10YR6/3	355号櫛穴住居址	太郎道~1切面
	830	純文土器	深鉢形土器	72	底部1/4	内:ナデ 外:ナデ、削り	内: Hue 25YR6/4 外: Hue 10YR6/3	2号南	後期後晉~末期
	831	純文土器	深鉢形土器		底部片	内:縫き 外:削り	内: Hue 10YR6/3 外: Hue 10YR6/4	4号南	晚唐 正倣?あり
	832	純文土器	深鉢形土器		底部1/3	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 10YR6/3 外: Hue 10YR6/4	137号ビット	晚唐
	833	純文土器	深鉢形土器		底部約1/4	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 10YR6/4 外: Hue 10YR6/4	101号ビット	晚唐
	834	純文土器	深鉢形土器	90	底部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 25Y6/3 外: Hue 10YR6/3	2号南	晚唐
	835	純文土器	深鉢形土器	11.2	底部1/6	内:ナデ 外:ナデ、ハケ目	内: Hue 25Y7/4 外: Hue 10YR6/6	4号南	晚唐
	836	純文土器	深鉢形土器	15.6	口縁~肩部片	内:ナデ、削り 外:ナデ	内: Hue 25YR6/3 外: Hue 7.5YR6/4	4号南	外面にススとコゲ付着
	837	純文土器	深鉢形土器	20.5	口縁部片	内:ナデ、縫き 外:ナデ、縫き	内: Hue 25Y3/2 外: Hue 2.5Y3/2	1号南	外面一部にスス付着
	838	純文土器	鉢形土器?		口縁部片	内:縫き 外:ナデ、縫き	内: Hue 7.5Y3/2 外: Hue 10Y3/1	343号櫛穴住居址	黒色磨研土器
	839	純文土器	鉢形土器?		口縁部片	内:縫き 外:縫き	内: Hue 10YR6/3 外: Hue 10YR6/3	1号南	
	840	純文土器	鉢形土器?		口縁部片	内:ナデ 外:ナデ、縫き	内: Hue 25Y6/4 外: Hue 10YR6/4	72号南	
	841	純文土器	鉢形土器?		口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 25Y6/3 外: Hue 2.5Y5/2	72号南	外面にスス付着
	842	純文土器	鉢形土器?		口縁部片	内:縫き 外:縫き	内: Hue 25Y4/1 外: Hue 10YR6/2	2号南	黒色磨研土器
	843	純文土器	鉢形土器?		口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 25Y6/3 外: Hue 10YR6/4	4号南	外面に条痕あり
	844	純文土器	鉢形土器?		口縁部片	内:縫き 外:縫き	内: Hue 10YR6/4 外: Hue 2.5Y5/1	急介層(3号櫛穴住居址付近)	
	845	純文土器	鉢形土器?		口縁部片	内:ナデ、縫き 外:ナデ、縫き	内: Hue 25Y5/3 外: Hue 2.5Y5/3	4号南	
	846	純文土器	鉢形土器?		口縁部片	内:縫き 外:縫き	内: Hue 25Y3/3 外: Hue 2.5Y3/1	4号南	
	847	純文土器	鉢形土器?		口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 25Y6/3 外: Hue 2.5Y5/3	72号南	
	848	純文土器	深鉢形土器?		肩部片	内:ナデ、縫き	内: Hue 25Y6/2 外: Hue 10YR6/4	混合層・南沿層	圧痕あり 0002
	849	純文土器	深鉢形土器?		口縁部片	内:縫き 外:ナデ、縫き	内: Hue 25Y3/2 外: Hue 10YR3/1	56号ビット	
	850	純文土器	深鉢形土器?		肩部片	内:縫き	内: Hue 10YR6/4 外: Hue 10YR7/4	113号櫛穴住居址	
	851	純文土器	深鉢形土器?		口縁部片	内:ナデ、縫き 外:ナデ、縫き	内: Hue 10YR5/4 外: Hue 10YR5/3	87号ビット	
	852	純文土器	?		口縁部片	内:削り、縫き 外:削り、ハケ目	内: Hue 7.5YR7/3 外: Hue 7.5YR7/3	急介層	圧痕あり 0009
	853	純文土器	深鉢形土器?		肩部片	内:ナデ、削り 外:ハケ目	内: Hue 10YR7/3 外: Hue 10YR5/3	358号櫛穴住居址	圧痕あり 0007
	854	純文土器	深鉢形土器?		肩部片	内:ナデ	内: Hue 10YR7/4 外: Hue 10YR6/4	2号南	圧痕あり 0006
	855	純文土器	鉢形土器?		肩部片	内:削り、縫き 外:縫き	内: Hue 10YR5/2 外: Hue 10YR5/2	72号南・1層	圧痕あり 0008
	856	純文土器	深鉢形土器?		肩部片	内:ナデ 外:ハケ目	内: Hue 10YR6/4 外: Hue 10YR6/4	30号櫛穴住居址・ベルト付	圧痕あり 0003 余波あり
	857	純文土器	深鉢形土器?		肩部片	内:縫き 外:縫き	内: Hue 2.5Y5/3 外: Hue 10YR6/3	20号櫛穴住居址・同 り方	圧痕あり 0004
	858	純文土器	鉢形土器?		肩部片	内:縫き 外:縫き	内: Hue 2.5Y4/2 外: Hue 2.5Y4/2	混底・B区	圧痕あり 0001

1. (医病) 病棟(軸) 新營工事に伴う発掘調査(9901調査地点)

図	番号	遺物	種類(器種)	地質(cm)	性 質	特徴	色 四	出土遺物	目 次
83	859	陶文土器	深鉢形土器?	口径 幅 厚さ	削部片	内:ナメ 外:明き	内:Hue 外:Hue	10YR7/3 10YR5/4	355号墳穴住居址 灰床あり 0005
	860	陶文土器	深鉢形土器?	口径 幅 厚さ	口縁部片	内:ナメ 外:ナメ	内:Hue 外:Hue	10YR8/2 10YR3/1	口縁部に剥み目あり スス付等?
	861	陶文土器	深鉢形土器?	口径 幅 厚さ	削部のみ	内:削部ナメ,削り 例:ハケ目	内:Hue 外:Hue	7.5Y2/1 10YR7/3	380号墳下層 内面にコゲあり
84	862	石 器	石 砥	長さ 12.7 幅 9.6 厚さ 6.1	完 形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	5号墳穴住居址	重量950g
	863	石 器	石 砥	長さ 12.05 幅 8.5 厚さ 5.25	完 形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	5号墳穴住居址	重量670g
	864	石 器	鍛 石	長さ 15.7 幅 8.1 厚さ 4.5	完 形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	35号墳穴住居址	重量582g
	865	石 器	石 砥	長さ 20.0 幅 18.45 厚さ 4.3	完 形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	35号墳穴住居址	重量1400g
	866	石 器	石 砥	長さ 22.1 幅 20.1 厚さ 8.2	完 形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	80号墳穴住居址	重量1600g
	867	石 器	鍛 石	長さ 21.85 幅 11.8 厚さ 5.5	完 形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	80号墳穴住居址	重量2200g
	868	石 器	石 砥	長さ 14.9 幅 7.65 厚さ 3.4	完 形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	80号墳穴住居址	重量815g 磨石としても使用
	869	石 器	鍛 石	長さ 11.9 幅 5.9 厚さ 2.9	完 形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	80号墳穴住居址	重量310g 砂岩
85	870	石 器	古 石	長さ 16.0 幅 13.05 厚さ 5.3	完 形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	113号墳穴住居址	重量1400g
	871	石 器	打製石斧	長さ 15.9 幅 9.75 厚さ 2.4	完 形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	113号墳穴住居址 安山岩	重量435g
	872	石 器	鍛 石	長さ 14.45 幅 7.3 厚さ 5.3	完 形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	337・338号墳穴住居址	重量817g
	873	石 器	鍛 石	長さ 15.1 幅 13.6 厚さ 8.1	1/2	内: 外:	内: Hue 外: Hue	337・338号墳穴住居址	重量2200g 砂岩
	874	石 器	鍛 石	長さ 14.1 幅 8.8 厚さ 6.25	完 形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	346号墳穴	重量1000g
	875	石 器	二次加工の ある石斧	長さ 4.4 幅 2.6 厚さ 2.1	1/2	内: 外:	内: Hue 外: Hue	346号墳穴	重量9973g 安山岩
	876	石 器	鍛 石	長さ 8.4 幅 7.1 厚さ 6.3	完 形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	353号墳穴住居址	重量470g
	877	石 器	鍛 石	長さ 12.3 幅 8.8 厚さ 4.2	完 形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	360号墳穴住居址	重量405g 砂岩
	878	石 器	四 石	長さ 12.0 幅 13.6 厚さ 3.3	完 形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	360号墳穴住居址	重量580g
	879	石 器	鍛 石	長さ 10.7 幅 7.8 厚さ 4.75	完 形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	343号墳穴住居址	重量530g
	880	石 器	鍛 石	長さ 10.15 幅 7.0 厚さ 4.0	完 形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	343号墳穴住居址	重量348g 磨石としても使用
	881	石 器	鍛 石	長さ 10.95 幅 5.3 厚さ 3.95	完 形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	343号墳穴住居址	重量382g
86	882	石 器	鍛 石	長さ 12.4 幅 9.6 厚さ 2.2	完 形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	362号墳穴	重量384g
	883	石 器	鍛 石	長さ 13.4 幅 8.2 厚さ 2.9	完 形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	1号溝	重量1600g
	884	石 器	鍛 石	長さ 9.95 幅 8.95 厚さ 6.75	完 形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	1号溝	重量775g
	885	石 器	鍛 石	長さ 12.0 幅 10.7 厚さ 5.75	完 形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	1号溝	重量865g
	886	石 器	スクレイ バー	長さ 7.35 幅 7.1 厚さ 3.5	鍛 片	内: 外:	内: Hue 外: Hue	1号溝	重量77.95g 磨製石斧片再利用
	887	石 器	磨製石斧	長さ 3.5 幅 3.5 厚さ 0.5	鍛 片	内: 外:	内: Hue 外: Hue	1号溝	重量887g 鐵製刀
	888	石 器	鍛 石	長さ 9.8 幅 4.65 厚さ 2.5	鍛石の一部	内: 外:	内: Hue 外: Hue	4号溝	重量135g 天草砥石
	889	石 器	鍛 石	長さ 4.45 幅 6.65 厚さ 2.5	鍛石の一部	内: 外:	内: Hue 外: Hue	4号溝	重量74.0g 天草砥石
	890	石 器	鍛 石	長さ 16.2 幅 15.5 厚さ 4.5	完 形	内: 外:	内: Hue 外: Hue	4号溝	重量446g

回	番号	遺物	種類(詳細)	法段(cm)	発 見 所	特 徴	色 調	出 土 場 所	目 名
86	891	石 器	田 石	長さ 16.05 幅さ 3.45 厚さ 3.4	完 形	内: 外:	内: Hse 外: Hse	4号拂	重量82kg
	892	石 器	敲 石	長さ 13.7 幅さ 6.4 厚さ 4.3	完 形	内: 外:	内: Hse 外: Hse	4号拂	重量55kg
	893	石 器	砥 石	長さ 25.9 幅さ 6.95 厚さ 3.15	砥石の一部	内: 外:	内: Hse 外: Hse	4号拂	重量72kg 砂岩
	894	石 器	磨削石斧	長さ 10.15 幅さ 4.5 厚さ 1.5	破 片	内: 外:	内: Hse 外: Hse	95号(4号拂内)	重量110kg
	895	石 器	打削石斧	長さ 20.7 幅さ 6.5 厚さ 1.8	完 形	内: 外:	内: Hse 外: Hse	95号(4号拂内)	重量230kg
87	896	石 器	敲 石	長さ 11.9 幅さ 9.5 厚さ 6.0	完 形	内: 外:	内: Hse 外: Hse	15号拂	重量1000kg
	897	石 器	敲 石	長さ 12.1 幅さ 7.65 厚さ 5.2	完 形	内: 外:	内: Hse 外: Hse	57号拂	重量630kg 鐵石として使用
	898	石 器	周面加工品 タライバー	長さ 6.3 幅さ 5.8 厚さ 2.0	完 形	内: 外:	内: Hse 外: Hse	57号拂	重量110kg サスカイト
	899	石 器	石 淬	長さ 5.4 幅さ 1.8 厚さ 0.4	破 片	内: 外:	内: Hse 外: Hse	57号拂	重量9.91kg 蛇紋石
	900	石 器	石 楔	長さ 1.95 幅さ 3.35 厚さ 2.4	完 形	内: 外:	内: Hse 外: Hse	57号拂	重量500kg サスカイト
	901	石 器	周面加工品 タライバー	長さ 8.85 幅さ 4.55 厚さ 2.25	完 形	内: 外:	内: Hse 外: Hse	57号拂	重量100kg サスカイト
	902	石 器	砥 石	長さ 13.1 幅さ 11.9 厚さ 7.2	1/2	内: 外:	内: Hse 外: Hse	57号拂	重量1200kg 砂岩
	903	石 器	打削石斧	長さ 1.95 幅さ 5.55 厚さ 1.1	破 片	内: 外:	内: Hse 外: Hse	72号拂・II区西3.4 帯	重量32.7kg 片岩
	904	石 器	砥 石	長さ 12.75 幅さ 6.5 厚さ 4.9	砥石の一部	内: 外:	内: Hse 外: Hse	72号拂・II区1号	重量67kg 砂岩
	905	石 器	周面加工品 タライバー	長さ 15.5 幅さ 7.95 厚さ 2.8	完 形	内: 外:	内: Hse 外: Hse	72号拂・II区西	重量24kg サスカイト
	906	石 器	敲 石	長さ 8.15 幅さ 6.3 厚さ 6.35	完 形	内: 外:	内: Hse 外: Hse	74号拂	重量1000kg
	907	石 器	研 磨	長さ 12.5 幅さ 10.15 厚さ 4.9	1/2	内: 外:	内: Hse 外: Hse	74号拂・II区1号	重量73kg
	908	石 器	打削石斧 周面加工品	長さ 7.1 幅さ 5.35 厚さ 1.2	完 形	内: 外:	内: Hse 外: Hse	2号拂	重量22.4kg 片岩
	909	石 器	研磨石淨	長さ 3.7 幅さ 2.25 厚さ 0.65	破 片	内: 外:	内: Hse 外: Hse	207号ピット	重量6.31kg 純白雲母
	910	石 器	敲 石	長さ 11.95 幅さ 6.5 厚さ 2.85	完 形	内: 外:	内: Hse 外: Hse	32号?	重量200kg 田中石として使用
88	911	石 器	砥 石	長さ 6.45 幅さ 5.35 厚さ 4.2	破 片	内: 外:	内: Hse 外: Hse	鉱石帶・I区西	重量15kg 砂岩
	912	石 器	磨 石	長さ 14.0 幅さ 5.0 厚さ 3.6	完 形	内: 外:	内: Hse 外: Hse	鉱石帶	重量404kg
	913	石 器	台 石	長さ 17.5 幅さ 15.1 厚さ 4.3	完 形	内: 外:	内: Hse 外: Hse	鉱石帶	重量1800kg 鐵石としても使用
	914	石 器	打削石斧	口径 5.4 底径 5.0 高さ 1.5	頭部片	内: 外:	内: Hse 外: Hse	II区南端出時	重量54.0kg 鞍山岩
	915	石 器	剥 片	長さ 1.95 幅さ 0.95 厚さ 0.25	剥 片	内: 外:	内: Hse 外: Hse	3号櫛穴住居址	
	916	石 器	剥 片	口径 6.5 底径 5.8 厚さ 0.5		内: 外:	内: Hse 外: Hse	3号櫛穴住居址	重量0.2kg
	917	石 器	石 紙	口径 2.1 底径 1.9 厚さ 0.5	はば完形	内: 外:	内: Hse 外: Hse	72号拂	重量0.6kg
	918	石 器	石 楔	長さ 2.25 幅さ 2.25 厚さ 2.2	完 形	内: 外:	内: Hse 外: Hse	32号?	重量131kg 圓柱石
	919	核 子	口挂	長さ 6.5 幅さ 5.5 厚さ 2.5	破 片	内: 外:	内: Hse 外: Hse	4号拂	重量6.4kg
	920	布 片	刀 子	口径 5.4 底径 5.0 厚さ 0.5		内: 外:	内: Hse 外: Hse	250号土壤基	重量0.1kg 樹脂刀子付骨
	921	珠 沈	口挂	口径 5.4 底径 5.0 厚さ 0.5		内: 外:	内: Hse 外: Hse	5号櫛穴住居址・No109	重量15.6kg
	922	骨	馬の骨	口径 5.4 底径 5.0 厚さ 0.5		内: 外:	内: Hse 外: Hse	95号(4号拂内)・骨3	

番	番号	造形	標記(番號)	法盤(c.m.)			残存部	出土遺物	備考
				長さ	幅	厚さ			
996	石 鋸	石 鋸	長さ 1.16	幅 1.27	厚さ 1.17		下端	重量21g・黒曜石	
997	石 鋸	石 鋸	長さ 2.97	幅 1.98	厚さ 0.65		下端	重量21g・黒曜石	
998	石 鋸	石 鋸	長さ 2.16	幅 0.94	厚さ 0.25		S1010	重量0.4g・黒曜石	
999	石 鋸	石 鋸	長さ 1.14	幅 2.17	厚さ 0.72		S1010	重量2.4g・黒曜石	
1000	石 鋸	石 鋸	長さ 2.97	幅 1.22	厚さ 0.62		S1010	重量1.1g・黒曜石	
1001	石 鋸	石 鋸	長さ 3.67	幅 2.94	厚さ 1.14		S1010	重量10.4g・黒曜石	
1002	石 鋸	石 鋸	長さ 4.27	幅 3.36	厚さ 0.94		S1010	重量9.6g・黒曜石	
1003	石 鋸	石 鋸	長さ 1.91	幅 1.25	厚さ 1.05		結合層・1区西側	重量23.9g・黒曜石	
1004	石 鋸	加工前の ある鋸片	長さ 1.02	幅 2.15	厚さ 0.74		結合層・1区西側	重量17g・黒曜石	
1005	石 鋸	加工前の ある鋸片	長さ 2.77	幅 2.36	厚さ 0.54		結合層・1区西側	重量30g・黒曜石	
1006	石 鋸	加工前の ある鋸片	長さ 2.38	幅 1.91	厚さ 0.43		結合層・1区西側	重量20g・黒曜石	
1007	石 鋸	鋸 片	長さ 1.83	幅 1.73	厚さ 0.64		結合層・1区西側	重量2.4g・黒曜石	
1008	石 鋸	鋸 片	長さ 3.06	幅 2.39	厚さ 0.76		結合層・1区西側	重量5.6g・黒曜石	
1009	石 鋸	鋸 片	長さ 1.90	幅 1.28	厚さ 0.75		結合層・1区西側	重量1.8g・黒曜石	
1010	石 鋸	鋸 片	長さ 1.64	幅 1.17	厚さ 0.96		結合層・1区西側	重量2.3g・黒曜石	
1011	石 鋸	鋸 片	長さ 1.15	幅 0.76	厚さ 0.68		結合層・1区西側	重量0.1g・黒曜石	
1012	石 鋸	鋸 片	長さ 1.34	幅 1.43	厚さ 0.29		結合層・1区西側	重量0.4g・黒曜石	
1013	石 鋸	加工前の ある鋸片	長さ 1.54	幅 1.22	厚さ 0.24		結合層・1区西側	重量0.4g・黒曜石	
1014	石 鋸	鋸 片	長さ 1.57	幅 1.27	厚さ 0.19		結合層・1区西側	重量0.5g・黒曜石	
1015	石 鋸	原 石	長さ 2.41	幅 1.56	厚さ 0.54		結合層・1区西側	重量21g・黒曜石	
1016	石 鋸	加工前の ある鋸片	長さ 2.35	幅 1.81	厚さ 0.46		結合層・1区西側	重量1.7g・黒曜石	
1017	石 鋸	鋸 片	長さ 1.81	幅 1.45	厚さ 0.24		結合層・1区西側	重量0.5g・黒曜石	
1018	石 鋸	加工前の ある鋸片	長さ 2.39	幅 2.17	厚さ 1.04		結合層・1区西側	重量6.7g・黒曜石	
1019	石 鋸	鋸 片	長さ 4.61	幅 3.79	厚さ 0.46		結合層・1区西側	重量27.0g・黒曜石	
1020	石 鋸	鋸 片	長さ 3.35	幅 2.32	厚さ 0.62		結合層・1区西側	重量6.5g・黒曜石	
1021	石 鋸	加工前の ある鋸片	長さ 3.8	幅 3.07	厚さ 1.1		結合層・1区西側	重量14.4g・黒曜石	
1022	石 鋸	加工前の ある鋸片	長さ 5.65	幅 4.27	厚さ 0.66		結合層・1区西側	重量10.8g・黒曜石	
1023	石 鋸	鋸 片	長さ 1.57	幅 2.38	厚さ 0.5		結合層	重量1.5g・黒曜石	
1024	石 鋸	鋸 片	長さ 2.15	幅 1.69	厚さ 1.21		結合層	重量5.6g・黒曜石	
1025	石 鋸	鋸 片	長さ 1.32	幅 1.65	厚さ 0.69		結合層	重量1.7g・黒曜石	
1026	石 鋸	鋸 片	長さ 3.63	幅 3.07	厚さ 1.11		結合層	重量12.2g・黒曜石	
1027	石 鋸	鋸 片	長さ 3.76	幅 2.63	厚さ 0.42		結合層	重量4.5g・黒曜石	

IV 本荘中地区の調査

1. 医学部基礎研究棟（B棟東側）とりこわし工事に伴う発掘調査 (1205調査地点)

（1）調査の目的と経過

a. 調査地と調査経緯

本庄遺跡は熊本大学医学部の敷地を中心として、東西約850m、南北約530mに広がる奈良・平安時代を中心とする集落遺跡で、本調査地点は本庄遺跡の一画に位置する。遺跡の北西側には白川が流れ、南東側には渡鹿堀二の井手用水路が通っている。地形的には白川流域に発達した自然堤防上に立地している（新熊本市史編纂委員会1998）。東には大江遺跡群が隣接し、北東約370mには新屋敷遺跡群があり、奈良・平安時代を中心とする遺構が多数検出されている（網田1993他）。

今回の調査は、医学部基礎研究棟B棟（以下B棟と記述）のとりこわし工事に伴う発掘調査である。B棟は地下室を有する建物であるが、本調査地点の北東側の9801調査地点および南側の9511地点（図89）では古墳時代から奈良・平安時代の集落や近世以降の大溝が発見され、B棟東半の解体工事に伴う発掘調査（0314調査地点）では基礎の間に遺構が見つかっているので、今回の調査地点でも建物基礎の間に遺構が存在している可能性が考えられた。そこで建物上部および地下室基礎上面まで撤去した後、2012年6月19日より、熊本市の指導に基づき、基礎解体工事の掘削に際して立会調査を行っていた。立会調査を実施している過程で、6月25日、基礎掘削部の間の砂質土を掘り込んだ遺構の存在が確認された。そこで熊本市文化振興課に連絡をし、許可を得た後、立会調査を発掘調査に切り替え、基礎解体工事の掘削立会と並行して、発掘調査を行った。調査面積は756m²である。なお本調査は2012年6月25日付け熊大施企第102号により熊本市経由、熊本県教育長宛て埋蔵文化財発掘調査届出書を提出し、熊本県教育長からの発掘調査についての通知（7月18日付け教文第841号）に基づいて実施した。

b. 調査の経過

- 2012年6月25日 発掘調査開始。遺構検出を行い、ピットの調査も実施。
- 2012年7月2日 作業員を投入して溝の掘削を開始。
- 2012年7月9日 作業員を増員。遺構測量を開始。
- 2012年7月12日 全景写真撮影。測量終了。
- 2012年7月18日 調査区北東部（北4区）の補足調査を実施。溝を掘削。
- 2012年7月19日 調査区北東部の溝の測量、写真撮影。発掘調査終了。

c. 調査の組織

調査員：松田光太郎

事務担当：村田知聖

発掘作業員：岡元美子・栗崎 強・菊池フミヨ・後藤まや・岡 律子・古川昌子・松永一代・宮田 義則

整理作業員：井上裕美・江口 路・鬼塚美枝・小山正子・首藤優子・末吉美紀・増井弘子・山崎早苗

1. 医学部基礎研究棟（B棟東側）とりこわし工事に伴う発掘調査（1205調査地点）

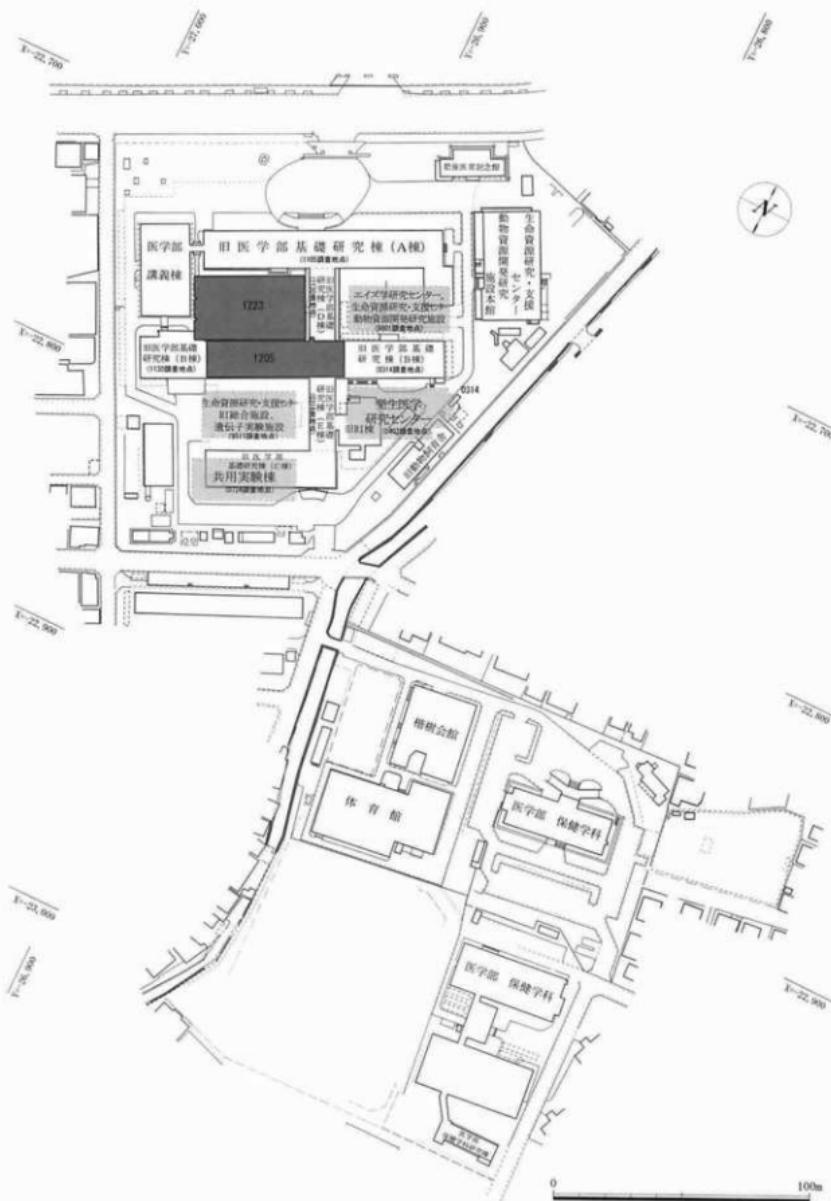


図89 本荘中地区における調査地点配置図 (1/2000)

(2) 測量基準点の設定と測量方法

熊本大学黒巣団地他敷地測量業務（平成20年）成果簿に記載された本荘団地（中地区）基準点座標の既設基準点T-28を器械点とし、同T-29を後視点として、新設点Aを設定した。次に新設点Aを器械点、T-28を後視点として、新設点Bを設定した。続いて新設点Bを器械点、新設点Aを後視点として新設点C1を測量した。この新設点C1（図90、北15区北西隅）は調査区北西隅の柱（コンクリート）上で、かつ調査区外周をなす北壁面・西壁面の延長線の交点に当たる。調査内の測量はこの新設点C1を基準点として行った。また水準点はT-28の標高から移設した。

調査区は長方形をしており、調査区西壁面・南壁面・東壁面・北壁面の成す残り3つの交点（C2・C3・C4）を測量し、調査範囲とした（図90）。調査区内の造構は調査区の四面の壁面と、調査区内を方形に仕切る梁（コンクリート製）の中軸線を基準線とし、手測量で記録した。調査区は梁によって南北3個、東西15個に区分されるので、北1区、中2区、南15区などと呼称した（図90）。

なお遺構配置図については、各区の大きさは全部同じものと想定し、遺構測量を行ったが、区の大きさが実際と異なる部分があることが整理作業中に判明した。基礎図面を参考として、遺構実測図を当てはめた。そのため、縦横比・大きさには弱干のゆがみが生じた。遺構の位置関係は相対的なものである。

表8 1205調査地点基準点座標一覧表（世界測地系）

点名	X座標	Y座標	標高(m)
T-28	-22801.400	-26953.364	13.664
T-29	-22805.860	-26933.506	
A	-22751.985	-26952.785	
B	-22773.159	-26939.051	
C1	-22775.118	-26941.416	13.708
C2	-22787.644	-26935.226	

(3) 調査区の基本層序

建物基礎掘削により地表下1.8mまで削平されていた。削平面下には黄褐色の砂質土が存在し、この砂質土を掘り込んで遺構が検出された。この砂質土の下位は灰黄褐色～灰色の砂層へ移行し、砂層の下部には一部硬く岩盤化した部分もあった。

(4) 検出遺構

溝4条とピット5基が検出された。

<溝>

1号溝（図91・92）

調査区を北東から南西にかけて斜めに横断する形で検出された。存在するのは北4区から南13区にかけてである。主軸方位はN-35°-Eである。最大幅4.2m、長さ36.2m、深さは最深部で0.6mを測る。建物基礎の分断により、大きく3箇所に分かれて検出されたが、走行が連続するため、一連の溝として把握した。底面は最深部を中心として東西両側に浅いテラスをもつ状況となっていた。

東側テラスは北5区で幅0.9m・北4区で幅2m以上と、北部で幅広く存在した。中7区中央の南東側にも溝の覆土が薄く存在したため、中7区でも幅約1mあったと推測される。南部では東側テラスは幅狭くなり、南9区では幅約0.3mであった（図91土層断面図C-C'参照）。

西側テラスは下段・上段の2段が認められ、東側テラスより幅広い。西側下段テラスは北5区で幅

1. 医学部基礎研究棟（B棟東側）とりこわし工事に伴う発掘調査（1205調査地点）

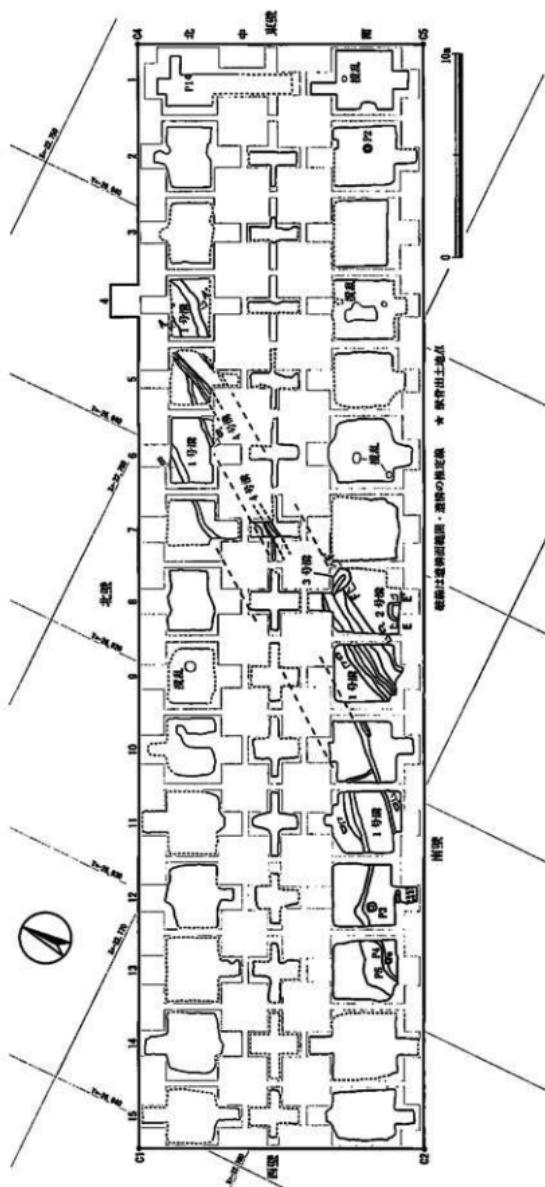


図90 1205調査地点造構配置図 (1/250)

0.6m、南9・10区では幅2.0m、南部で幅広く、南11区まで連続していた。南12区南端に幅狭い溝状の落ち込みが存在した。これも西側下段テラスのつながりである可能性がある。西側上段テラスは北5～7区で幅1m、南部では南10区西際以西に幅約2.1～2.6mの深い溝が存在したが、南10区北側にも薄く溝の覆土が存在したため、これは北部の西側上段テラスに連結すると推測される。南10区北側の地山（砂質土）は底面直下なのである。西側テラス下段と上段の新旧関係は不明瞭であった⁽¹⁾。テラスの底面は鉄分が集中し硬く変質した部分があった（図91土層断面図C-C' 4層）。水が流れていたためではないかと判断される。

覆土は暗褐色土（10YR3/3）で、何層かの砂質土のラミナが存在した。溝は時に氾濫しながら、徐々に埋没していったと推測される。溝の底面は南部の方が0.1m程度低いため、水は緩やかに南に向かって流れているようである。

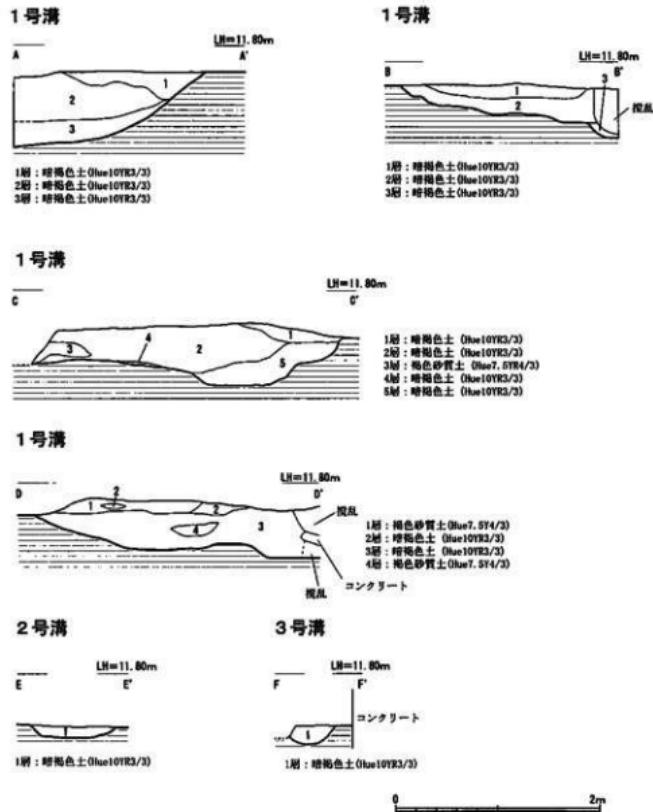


図91 1・2・3号溝土層断面図 (1/50)

1. 医学部基礎研究棟（B棟東側）とりこわし工事に伴う発掘調査（1205調査地点）

北4区では覆土からウマの下顎骨および臼歯が出土した（図90、図版71写真146）。後述する出土遺物の主体的時期からみて、溝は16世紀末から17世紀を中心とする時期に帰属すると判断される。

2号溝（図90・91）

調査区南東部の南8区に存在する。主軸方位はN-21°-Wである。幅0.9m、長さ0.6mで、深さは最深部で12cm。覆土は暗褐色土（10YR3/3）であった。1号溝との間には地山（砂質土）上に溝の覆土と同じ暗褐色土が点在したことから、2号溝は1号溝と接続していたと推測される。覆土が1号溝と類似することから、1号溝と同様近世の所産と判断される。

3号溝（図90・91）

調査区南東部の南8区に存在する。主軸方位はN-81°-Wで、1号溝と直交に近い角度で交わる。幅0.8m、長さ1.4m、深さは最深部で0.28mであった。覆土は暗褐色土（10YR3/3）が堆積していた。覆土が1号溝の覆土と類似していたため、1号溝との新旧関係は不明瞭であった。溝は、1号溝との接続部分では西側に向かって傾斜していた。南7区で検出されなかったのは、南7区の遺構確認面がやや低かったためかもしれない。遺物は出土しておらず、時期比定は難しいが、覆土が1号溝と類似することから、本溝は1号溝と同様近世の所産と判断される。

4号溝（図90）

北5区・中7区に存在する。1号溝の底面の下に、深さ0.15~0.2m、幅0.5mの溝が存在した。1号溝と同様、北東から南西に向かって連なっている。1号溝との新旧関係は判然としなかったが、1号溝の上面ではプランがとらえられなかったので、1号溝より古い可能性がある。

この他南7区において、黄褐色の砂質土の上面が硬化した部分が確認された。規模は幅0.6m・長さ2.0m、幅1.0m・長さ1.4mで、2箇所の硬化部分がN-27°-W方向に延び、連なっていた。溝の下底部の可能性がある。

<ピット>

調査区の北東部に2基（1・2号ピット）、南部に3基（3~5号ピット）確認した。覆土は1・2号ピットが黒褐色土（10YR2/2）、3~5号ピットは暗褐色土（10YR3/3）である。1号ピットは東半分を擾乱により壊され、3~5号ピットは1号溝と重複していた。

平面規模の大きいものは柱穴と判断されるが、小さいものの性格は不明である。

遺物が出土しなかったことから時期は特定できなかったが、隣接する9511調査地点では、黒褐色土は奈良・平安時代の遺物を多く含むと報告されていることから、黒褐色土の覆土をもつ1・2号ピットは奈良・平安時代の所産と判断される。

表9 1205調査地点検出ピット一覧表

番号	出土位置	平面形	平面規模 (cm)	深度 (cm)	覆土	備考
1号ピット	北1区	円形	25	19	10YR 2/2	出土遺物なし
2号ピット	南2区	円形	38×35	18	10YR 2/2	出土遺物なし
3号ピット	南12区	隅丸方形	45×40	26	10YR 3/3	出土遺物なし
4号ピット	南13区	円形	20×19	6	10YR 3/3	出土遺物なし
5号ピット	南13区	橢円形	37×31	8	10YR 3/3	出土遺物なし

(5) 出土遺物（図92・93：1~41）

遺物のほとんどは1号溝からの出土である。1号溝と4号溝は調査時は共に1号溝として遺物を取

り上げたので、北5区・中7区の1号溝出土遺物中には4号溝から出土したものも含まれる可能性がある。また南12区出土遺物は発掘時の取り上げミスにより、出土層位を明らかにし得ない。出土量は浅コンテナ1箱分である。土器・陶磁器・土製品・金属製品を図示したが、その他には鉄滓2点(84.0g 挾形滓(図版76)、30.8g)とウマの下頸骨および臼歯(図版71写真146)が1号溝から出土している。

1号溝出土遺物(図92: 1~32、図93: 33~36・40・41)

古墳時代後期から奈良・平安時代の遺物と近世の遺物が多く出土した。

図92: 1~6は土師器である。1~3は壺で、1は口縁部片、2・3は底部片である。1は緩やかに湾曲する器形をなし、外面に手持ちケズリを施している。手持ちケズリの存在から7世紀中葉・後葉の所産と判断される。2は平底で、高台を有するものであるが、高台径が小さいため、9世紀代の所産と判断される。同時期と思われる高台付の土師器壺がこの他に1点出土している。3は平底で、底面にヘラ切痕をもつ。浅い器形と思われ、8世紀後葉~9世紀初の所産に類似する。4は高壺の底部片である。内面にミガキが施され、内外面とも赤彩が施されている。赤彩の施された高壺脚部はこの他に1点出土している。5は壺の底部で、底面に回転糸切痕がある。12世紀以降の所産である。6は瓶の把手で、外面に粗いハケ目、内面に継位の削りが施されている。詳細な時期は不明。

図92: 7~18は須恵器である。7・8は蓋である。7・8とも扁平で、口縁端は短く屈折する。7は扁平化が進んでいるので8世紀中葉~後葉、8は扁平化が極度に進んでいるので8世紀後葉~9世紀初と判断される。9は壺である。口縁部は内側に傾き、蓋受けの突出をもっている。口径は10cmであり、7世紀前葉の所産である。10・11は高台をもつ壺の底部である。10は底面角に断面四角形の高台が付くことから、8世紀前葉・中葉の所産と判断される。11は皿の可能性がある扁平な器体をもっており、8世紀後半から9世紀初の所産と判断される。12は高壺の脚部片である。長い脚部をもち、外面にはカキ目を施している。13~18は外反する口縁部、括れる頸部、球状の胴部をもつもので、壺ないし壺と判断される。13は口縁部片、14は頸部片で、共に横位の波状文を施文している特徴がある。15は屈折する頸部をもち、胴部上部外面にかすかなタタキ痕を有している。16は小形の壺と推測されるもので、外面にカキ目、内面にタタキ痕をもっている。17・18は内外面にタタキ痕をもつ大形の壺と判断されるもので、17は同心円、18は平行のタタキ痕を内面にもっている。壺の破片は図示したもの以外にも少量出土している。

図92: 19は中国の同安窯系青磁碗である。内湾気味に聞く口縁部を有し、器厚は薄く、色は7.5Y6/2(灰オリーブ)を呈する。無文であり、12世紀中葉から後葉の碗II類(山本2000)と思われる。

図92: 20・21は布目痕をもつ平瓦の破片である。凸面に繩目タタキ痕を有し、凹面に布目痕をもっている。布目瓦はこの他4点、小破片が出土している。

図92: 22は瓦質土器の鉢である。やや内湾する口縁をもち、口縁部は肥厚し、上端が平坦面をなす。口縁下25cmの所に断面三角形の隆帯を横位に巡らせ、区画する。区画内には刺突による花弁状の文様が描かれている。

図92: 23是中国龍泉窯系青磁碗。底部は厚く、高台は断面四角形をなす。釉薬は高台内面を除き、疊付部分も含め、やや厚く施されている。14世紀後葉から15世紀初頭の所産と考えられる。この他、鎮選弁文の小破片も1点出土している。

図92: 24~31、図93: 33~36は肥前系の陶器である。24・25は灰釉(10Y6/1灰色、7.5Y6/2灰オリーブ)を施した陶器で、24が皿・25が碗である。釉薬は見込みと外面上半に限定して施され、高台は無施釉。24は高台内面中央が円錐状に突出し、見込みには砂目が付いている。17世紀前半の所産。

1. 医学部基礎研究棟（B棟東側）とりこわし工事に伴う発掘調査（1205調査地点）

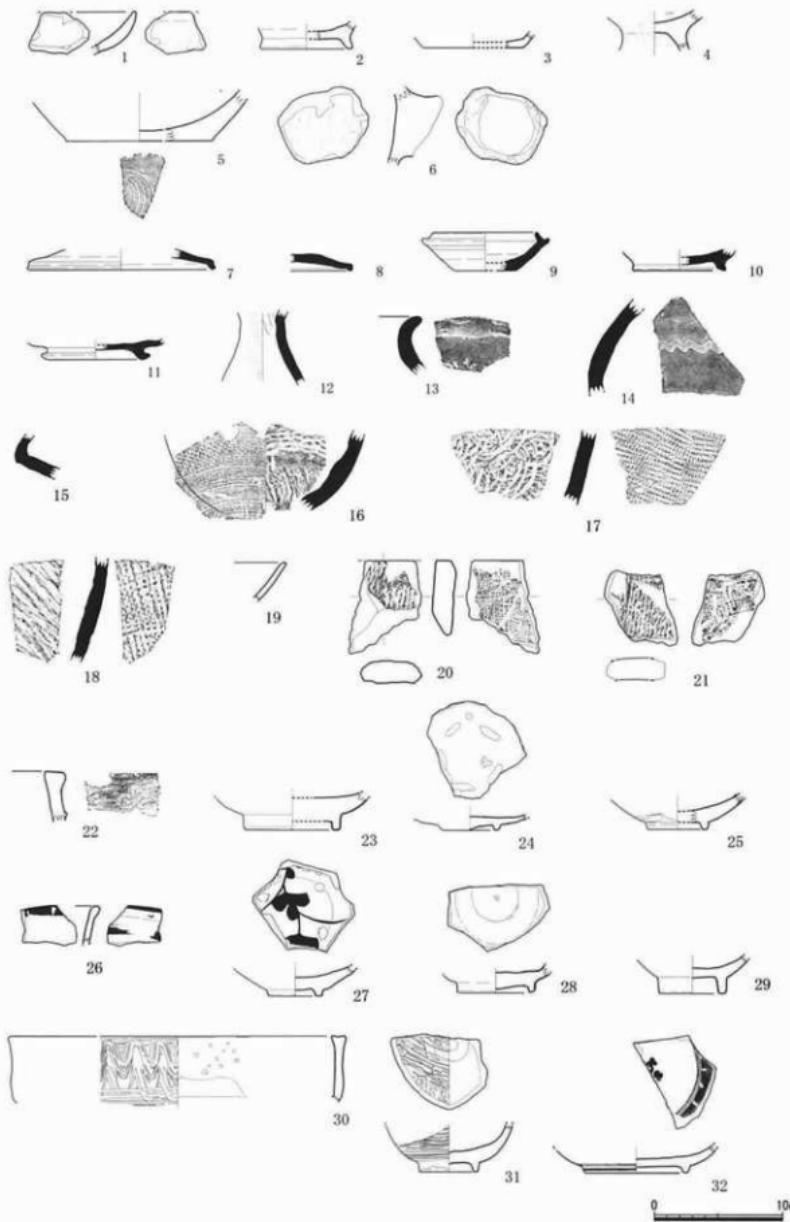


図92 1205調査地点出土遺物実測図1 (1/4)

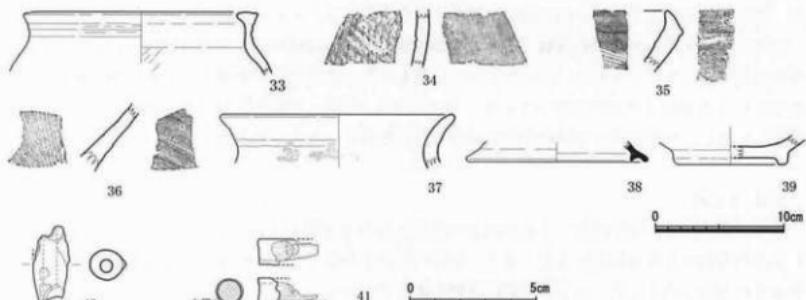


図93 1205調査地点出土遺物実測図2 (1/4・1/2)

26・27は鉄絵をもつもの。26は碗で、口縁内外面を黒く帯状に塗っている。27は皿で、見込みに段を有し、花弁状の文様を描いている。段部には胎土目が残っている。16世紀末から17世紀初頭の所産。28・29は青緑釉を施した碗である。28は断面四角形でやや外側に開く高台をもつ。釉薬は25GY6/1(オリーブ灰)で、比較的厚く施されるが、疊付け・高台内部および見込み中央は無施釉である。見込みの釉薬境界部には長さ2~3mm・幅1mmの小さな目跡が2個1対で残っている。見込み中央は凹んでいる。29は断面方形の長い高台を有するもの。釉薬は内外面で色調が異なり、内面は7.5Y4/2(灰オリーブ)、外面は7.5GY3/1(暗緑灰)。疊付けを除き、全面施釉されている。30は銅顔料と鉄顔料で施文した二彩の鉢。外面は横位竈状の釉薬の上に、白化粧土を用いた刷毛目と銅顔料を用いた飾目により波状の文様を描いている。内面は褐色の素地をもつが、口縁上面から口縁下にかけて鉄釉が施文されている。胴部中段に屈曲をもっている。17世紀から18世紀前半の所産である。31は刷毛目をもつ碗である。釉薬は疊付を除き全面に施文され、外面に白化粧土を用いた波状文、内面に打ち刷毛目を施している。17世紀後半~18世紀の所産。

図93: 33・34は壺である。33は小形の壺。内外面に突出する肥厚口縁をもち、弧状に膨らむ口縁上面はほぼ水平となる。口縁端部には斜めの小刻みが施される。内面には工具を当てたと思われる斜めの痕跡が認められる。色調は内外面とも25YR4/2(灰赤)を呈する。34は壺の胴部片。器厚はやや厚手で、内面にタキ痕を有している。33・34とも17世紀の所産である。

図93: 35・36は擂鉢である。35は口縁部が内側に屈折し、屈折部がやや下に張り出す特徴をもつ。擂り目の脇に余白があるため、擂り目はやや間隔をあけた施文であったと思われる。16世紀末~17世紀の所産。36は擂鉢胴下部の破片のため、擂り目は密集し、交差している。

図92: 32は肥前系の磁器染付皿である。見込みにはコンニャク印判による五弁花をもつ。17世紀末~18世紀の所産である。

図93: 40は土錘である。紡錘形の管状土錘で、中心に貫通する孔を有している。両端を欠損し、表面には灰色の付着物が存在する。41はキセルである。金属の管部分と木質の羅宇が残存していた。金属部分は断面が正円形をなす。径は小口と反対側がやや小さくなっている。小口付近のみのため雁首か吸い口か判断できなかった。金属部分には接合痕があり、鋳造であることがわかる。

出土層位不明遺物 (図93: 37~39)

図93: 37は土師器の壺である。口縁が強く外反し、頸部以下に縱位のハケ目が施されている。図

94 : 38は須恵器の蓋である。口縁内面に身受けの突出があることから6世紀の所産と判断される。

図93 : 39は中国越州窯系青磁碗である。底部は厚く、高台は断面四角形の輪状高台をなす。高台部外側は粗いケズリにより斜めに削られている。釉薬は高台疊付け部分を除き、全面に施されている。見込みには重ね焼きの目跡が付いている。色は5Y6/3（オリーブ黄）を呈する。碗I類2aエ（山本前掲）に属し、8世紀末～10世紀中葉にかけて製作されていたものである。

（6）まとめ

今回の調査地では既存建物による搅乱が地表面下18mまで及んでいたが、その直下で溝3条、ピット5基の遺構の存在を確認できた。また1号溝の覆土を中心として、古墳時代後期から中世、近世にかけての遺物が出土した。以下時代別の様相をまとめておく。

古墳時代後期・奈良・平安時代

遺構は該期の可能性があるピット2基（1・2号ピット）が存在した以外、存在しなかった。しかし古墳時代後期から奈良・平安時代にかけての遺物が近世の溝（1号溝）の覆土から出土した。隣接する9511地点や9801調査地点では古墳時代後期から9世紀前半にかけての竪穴住居址や溝が複数検出されており、同時期の集落が確認されている。本調査地点は地表下18mまで削平されていたが、そうでなければ、該期の竪穴住居址などの遺構が存在していたと推測される。

中世

本調査地点周辺では16世紀後半以前の遺構、遺物はほとんど見つかっていない。今回出土した龍泉窯系青磁碗は14世紀後葉～15世紀初頭にかけての所産であり、本地域では極めて貴重な資料と言える。

近世

今回主要な遺構として最大幅4.2m、長さ36.2mの1号溝を検出した。この大溝は9511調査地点の30号溝、9801調査地点の3号溝、1130調査地点の1号溝につながるものと判断され⁽²⁾、それらをつなぐと延長120mの溝の存在を確認したことになる。9801調査地点では溝の深さは約1.6mで、その下下面是地表下2.0mに及ぶ。今回はその溝の下底部を調査したことになる。

この1号溝から出土した近世遺物は16世紀後半から18世紀にかけてのものであったが、その主要な遺物の時期から、本遺構を16世紀後半から17世紀の所産と考えた。過去の調査事例を見ると、9511調査地点の30号溝は近世初期の遺物を含むとされ、9801調査地点の3号溝は19世紀後半以の時期と考えられている。本調査地点の1号溝の時期は9511地点の30号溝の時期と整合する。遺構の項で述べたように、大溝の埋没は緩やかに進行していくと思われる。今回は溝の下底部のみを調査したため新しい時期の遺物が出土しなかったが、溝は数百年間機能していた、と考えができるのではないかだろうか。

この他に1号溝と接続する異方向の溝2条（2・3号溝）を検出した。2号溝は9511調査地点の10号溝（16世紀後半）の延長上にあり、3号溝は同溝と主軸方位が一致する。これらの溝は相互に関係していた可能性がある。

ところで本調査地点1号溝はN-35°-Eの方位をもっているが、この上流側の延長上には、本調査地点の東700mに存在する渡鹿堰二の井手用水路がある。この渡鹿堰二の井手用水路は、白川渡鹿堰を取水源とし、慶長年間（1596～1615年）に加藤清正が開削したと伝えられる大井手から分水するもので、熊本城の防衛および白川下流域左岸の灌漑を目的として築造されたとされている（松元他2008）。二の井手用水路も1号溝も共に南に向かって流れることから、1号溝は二の井手用水路から分水する灌漑を目的とした用水路であった可能性がある。1号溝の上限年代が近世初期に比定され、

二の井手用水路の築造年代と一致することも、これを裏付けていると言えるかもしれない。

本荘南地区の溝からは近世の遺物が出土するものの、近世の明確な遺構は検出されていない。それは近世において本地に深い掘削を伴う遺構が希薄であった上、近世以降の耕作による擾乱が地表下深くまで及んでいたことが関係しているのであろう。

注

- (1) 上段テラスが下段テラスを覆っているような断面（図92 B-B'断面）も存在したが、覆土に差が見られない箇所（図92 D-D'断面）も存在した。
- (2) この溝の続きは2012年度にも調査し、1223調査地点において、5号溝として調査した。

参考文献

- 網田龍生 1993『大江遺跡群II』熊本市教育委員会
 網田龍生 1994『奈良時代 肥後の土器』「先史学・考古学論究 熊本大学文学部考古学研究室創設20周年記念論文集』龍田考古会
 網田龍生他 1996『新熊本市史 史料編 第1巻考古資料』熊本市
 網田龍生他 1999『新屋敷遺跡第1・4次調査区』『熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集一平成10年度』
 小畠弘己 2009『医学部エイズ学研究センター・動物資源・開発研究センター新館に伴う発掘調査（9801調査地点）』『熊本大学構内遺跡発掘調査報告V』
 小畠弘己 2003『医学部RI総合センター遺伝子実験施設建設に伴う発掘調査（9511調査地点）』『熊本大学構内遺跡発掘調査報告I』
 加藤清正土木事業とりまとめ委員会 1995『加藤清正の川づくり・まちづくり』建設省熊本工事事務所
 新熊本市史編纂委員会 1998『第二章 地形・地質』『熊本市史通史編第1巻 自然・原始・古代』
 松元里紗・岩田圭佑・田中尚人 2008『熊本市大井手における里川景観形成に関する研究』
 『第37回土木計画学会研究発表会講演集』土木計画学会

表10 1205調査地点出土遺物一覧表

目 番号	遺物	種類(断面)	底盤(cm)	埋存量	特 徴	色 相	出土遺物	備 考
92 1	土器器	环		口縁部片	内:ナデ 外:ナデ、削り	内:Hu 25YR4/6 外:Hu 10R4/6	1号溝(南9)	
2	土器器	环	底盤 7.2	底部1/5	内:ナデ 外:ナデ	内:Hu 75YR8/4 外:Hu 75YR8/6	1号溝(北4)	
3	土器器	环	底盤 7.6	底部1/8	内:ナデ 外:ナデ	内:Hu 75YR7/6 外:Hu 75YR7/6	1号溝(北4)	底面へラ切
4	土器器	高环	底盤 5.2	底部	内:ナデ、巻き、削り 外:ナデ、巻き、削り	内:Hu 25YR4/6 外:Hu 25YR4/6	1号溝(北4)	内外面赤む
5	土器器	壺	底盤 11.2	底部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hu 10YR8/4 外:Hu 10YR8/1	1号溝(南9)	底面凹斜面切
6	土器器	壺		把手	内:削り 外:ハケ目	内:Hu 25YR8/6 外:Hu 75YR8/6	1号溝(北4)	
7	須恵器	五	14.6	口縁部片	内:削板ナデ 外:削板ナデ	内:Hu 75YR6/1 外:Hu 75YR6/1	1号溝(南10)	
8	須恵器	五	底盤 4.8	口縁部片	内:削板ナデ 外:削板ナデ	内:Hu 10YR6/1 外:Hu 10YR6/1	1号溝(南9)	
9	須恵器	环	底盤 3.0	1/8	内:削板ナデ 外:削板ナデ	内:Hu 25GY6/1 外:Hu SPB3/1	1号溝(北5)	
10	須恵器	环	底盤 7.2	底部1/4	内:ナデ 外:ナデ、へラ削り	内:Hu 5Y7/2 外:Hu 5GY6/1	1号溝(北5)	

1. 医学部基礎研究棟（B棟東側）とりこわし工事に伴う発掘調査（1205調査地点）

図	番号	遺物	種類(経緯)	通量(cm)	埋存段	特徴	色 因	出土遺構	備考
92	11	須恵器	环	7.4	底部1/3	内:ナデ 外:彫り	内:Huue N5/0 外:Huue N5/0	1号構(南9)	
	12	須恵器	高环		側部	内:ナデナエ、ナデ 外:ナギナ	内:Huue 5Y4/1 外:Huue 10YRS/1	1号構(北5)	
	13	須恵器	安		上部断片	内:ナデ、彫り 外:ナデ	内:Huue 10YRS/6 外:Huue 10YRS/3	1号構(南9)	微削状工具による波状文
	14	須恵器	透		窓部片	内:ナデ 外:圓軸ナデ、カキ口	内:Huue 5Y5/1 外:Huue 5Y6/1	1号構(南10)	
	15	須恵器	透		側部片	内:ナデ 外:タキ	内:Huue 5Y6/2 外:Huue 5Y6/2	1号構	
	16	須恵器	透		側部片	内:タキ 外:カタ目	内:Huue 5YR4/1 外:Huue 5YR4/1	1号構(南9)	
	17	須恵器	透		側部片	内:タキ 外:タキ	内:Huue 10YRS/5 外:Huue 10YRS/3	1号構(南8)	
	18	須恵器	透		側部片	内:タキ 外:タキ	内:Huue 5Y5/1 外:Huue 5Y5/1	1号構(北4)	
	19	青磁	瓶		口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Huue 7.5Y6/2 外:Huue 7.5Y6/2	1号構(北5)	同安窯系
	20	瓦	平瓦	長さ:7.3 幅さ:5.7 厚さ:1.8		内:布目压痕 外:輪郭タキ	内:Huue 5Y7/1 外:Huue 5Y7/1	1号構(南8)	毎日瓦
	21	瓦	平瓦	長さ:5.9 幅さ:5.7 厚さ:1.7		内:布目 外:輪郭タキ	内:Huue 5Y6/1 外:Huue 2.5YR4/3	1号構(南9)	毎日瓦
	22	瓦質土器	井		口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Huue 5Y5/1 外:Huue N4/0	1号構(南8)	
	23	青磁	碗	7.4	底部片	内: 外:ヘラ削り	内:Huue 7.5Y5/3 外:Huue 7.5Y5/3	1号構(北4)	内外面施釉、龍泉窯系
	24	陶器	瓶	5.5	底部片	内: 外:ヘラ削り	内:Huue 7.5Y5/2 外:Huue 5Y6/2	1号構(南9)	
	25	陶器	瓶	4.6	底部1/8	内: 外:削り	内:Huue 10Y6/1 外:Huue 10YRS/4	1号構(南9)	内外面施釉
	26	陶器	瓶		口縁部片	内: 外:	内:Huue 10YRS/2 外:Huue 10YRS/2	1号構(南9)	内外面施釉
	27	陶器	瓶	4.1	1/3	内: 外:削り	内:Huue 10YRS/2 外:Huue 7.5Y7/4	1号構(南9)	鉄鋸、内外面施釉
	28	陶器	瓶	5.2	底部1/2	内:ナデ 外:削り	内:Huue 10RS/1 外:Huue 2.5YR5/1	1号構(南9)	内外面施釉
	29	陶器	瓶	5.2	底部片	内: 外:削り	内:Huue 7.5Y4/2 外:Huue 7.5Y4/2	1号構(北4)	内外面施釉
	30	陶器	瓶	26.2	口縁部片	内:ナデ 外:	内:Huue 2.5YR5/2 外:Huue 7.5Y4/3	1号構(南9)	内外面施釉
	31	陶器	瓶	4.6	底部1/2	内: 外:	内:Huue 5YR4/2 外:Huue 5YR4/1	1号構(南9)	内外面施釉
	32	陶器	皿	10.0	底部片	内:削り 外:削り	内:Huue 10Y6/1 外:Huue 7.5Y7/7	1号構(南9)	染付、内外面施釉
93	33	陶器	甕	18.0	口縁部片	内:ナデ、斜傾工具痕 外:ナデ	内:Huue 2.5YR4/2 外:Huue 2.5YR4/2	1号構(南10)	
	34	陶器	甕	底径:8.4	側部片	内:タキ 外:ナデ	内:Huue 2.5YR2/1 外:Huue 10RS/1	1号構(北4)	内外面施釉
	35	陶器	甕	底径:8.4	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Huue 7.5YR6/4 外:Huue 5YR5/4	1号構(北6)	内面削り目
	36	陶器	甕	底径:8.4	側部片	内: 外:ナデ	内:Huue 2.5YR3/3 外:Huue 10YR3/4	1号構(北5)	内面削り目
	37	土器	甕	底径:8.4	口縁部片	内:ナデ、削り 外:ハサ目、ナデ	内:Huue 10YR7/4 外:Huue 10YR7/4	出土解説不明(南12)	
	38	須恵器	壺	14.2	口縁部片	内:圓軸ナデ 外:ナデ	内:Huue 7.5YR7/6 外:Huue 10YR8/4	出土解説不明(南12)	
	39	青磁	瓶	8.4	底部片	内: 外:	内:Huue 5Y6/3 外:Huue 5Y6/3	出土解説不明(南12)	内外面施釉、越州窯系
	40	土製品	土拂	長さ:3.1 幅さ:1.2 厚さ:1.0	9/10	内: 外:ナデ	内:Huue 10YR3/7 外:Huue 10YR3/7	1号構(北5)	重量32g
	41	陶製品	キセル	長さ:2.8 幅さ:1.0 厚さ:1.0	金属性部分・把手	内: 外:	内:Huue 7.5GY4/1 外:Huue 7.5GY4/1	1号構	鉄造

1号構(北5)の遺物には、4号構出土物も含まれる可能性がある。

2. 国際先端医学研究拠点施設新営工事に伴う発掘調査（1223調査地点）

（1）調査の目的と経過

a. 調査地と調査経緯

本調査地点は白川左岸に所在する本庄遺跡の一画に位置する。本地点の東側には古墳時代後期～平安時代の溝8条・竪穴住居址3基・掘立柱建物址や近世以降の大溝を検出した9801調査地点があり、南側には、1205地点を挟んで、奈良・平安時代の竪穴住居跡5基や溝3条などを検出した9511調査地点がある。また東・南側にはB棟・D棟解体工事に伴って実施した0314・1130・1205調査地点がある（図94）。

今回の調査は、国際先端医学研究拠点施設新営工事に伴い実施したものである。工事予定地では、事前に行った熊本市の試掘調査において、地表下0.9mに遺構の存在が確認されており、調査は、熊本大学が提出した土木工事による発掘調査の届出に対し、発掘調査を行う必要があるとした熊本市教育委員会の通知に基づいて実施した⁽¹⁾。9月26日、地表面下約0.85mまでの1次掘削および配管・建物基礎の撤去を行い、10月1日発掘調査を開始した。調査面積は1.059m²。調査期間は10月1日から11月30日までの2ヶ月の予定で調査を始めたが、途中で延長協議をし、12月18日まで調査を行った。

b. 調査の経過

2012年10月1日 発掘調査開始。重機による調査区東半の搅乱・埋土掘削、遺構確認を実施。

2012年10月4日 溝の調査を開始。

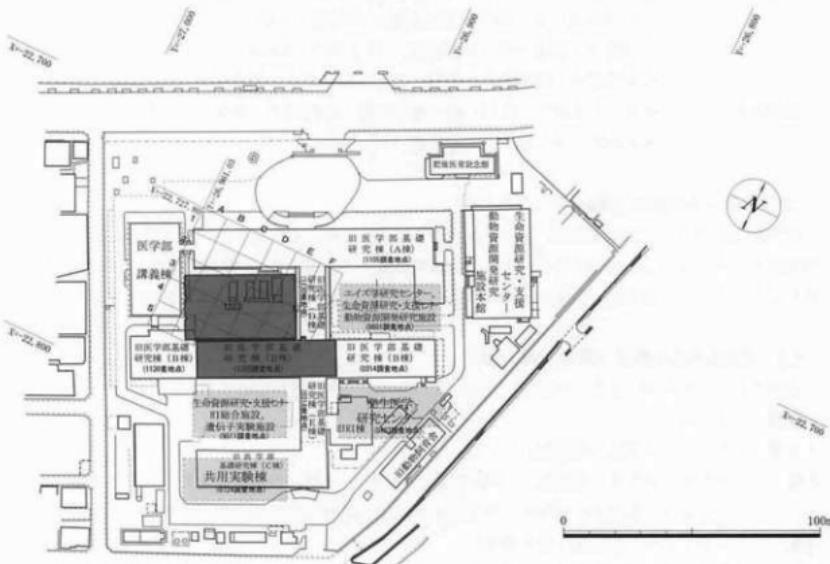


図94 調査区グリッド配置図 (1/2000)

2. 國際先端医学研究拠点施設新築工事に伴う発掘調査（1223調査地点）

2012年10月12日 遺構の写真撮影・包含層掘削を開始。
2012年10月15日 遺構の平面測量を開始。
2012年10月19日 古代の掘立柱建物址と竪穴住居址を検出。古代の遺構の調査本格化。
2012年11月7日 調査期間延長の協議をし、期間を延長。
2012年11月19日 調査区東半の壁面土層断面図作成。
2012年11月20日 調査区東半の全景写真撮影。遺構の補足調査。
2012年11月21日 重機による調査区東半の埋戻。
2012年11月26日 重機による調査区西半の攪乱・埋土掘削、遺構確認を実施。
2012年11月27日 溝の調査を開始。
2012年12月3日 包含層掘削開始。
2012年12月4日 古代の竪穴住居址を検出。遺構の調査本格化。
2012年12月11日 調査区西半の壁面土層断面図作成。
2012年12月13日 調査区西半の全景写真撮影。
2012年12月17日 重機による調査区西半の埋戻。
2012年12月18日 発掘調査終了。

c. 調査の組織

調査員：松田光太郎・多賀晴司

事務担当：村田知聖

発掘作業員：石村義則・稻本佳子・今村明美・押方富江・川元恵子・栗崎 強・建寄豊美・柴田道子・白石美智子・関 律子・田上次敏・中村良一・野田 昇・畠中儀介・早田咲百合・古川昌子・松永一代・松本和徳・松本晋治・松山誠一・松山れい子・三島多恵子・水本美恵子・森川征子・森川 譲・森本紀代子・森本清子・宮田義則

整理作業員：井上裕美・入江由真・江口 路・鬼塚美枝・小山正子・甲斐 郁・柴田 亮・首藤優子・末吉美紀・増井弘子・山㟢早苗

(2) グリッドの設定（図94）

世界測地系のX = -22,727.8031、Y = -26,961.0304（平面直角座標系II系）を基準点とし、平面直角座標系に沿って10m単位の方眼を設定し、東西では東へA・B・C..、南北では南へ1・2・3..と命名した。グリッドは東西と南北の列の交点として把握し、A-3区、B-4区のようにした。

(3) 調査区の基本層序（図98・99・100）

本調査地点の基本層序は以下の通りである⁽²⁾。

I a層：攪乱・埋土

I b層：旧耕作土（黄灰色・暗褐色）

II層：II層上部（褐灰色・暗褐色）、II層下部（黒褐色）。II層は古墳時代後期～古代の遺物包含層
II層上部は1号掘立柱建物址（9世紀末又は10世紀初め）の柱穴覆土に類似する。

III層：包含層下土層（暗褐色・暗灰黄色）

IV層：基盤層（黄色帯びるシルト・砂層）

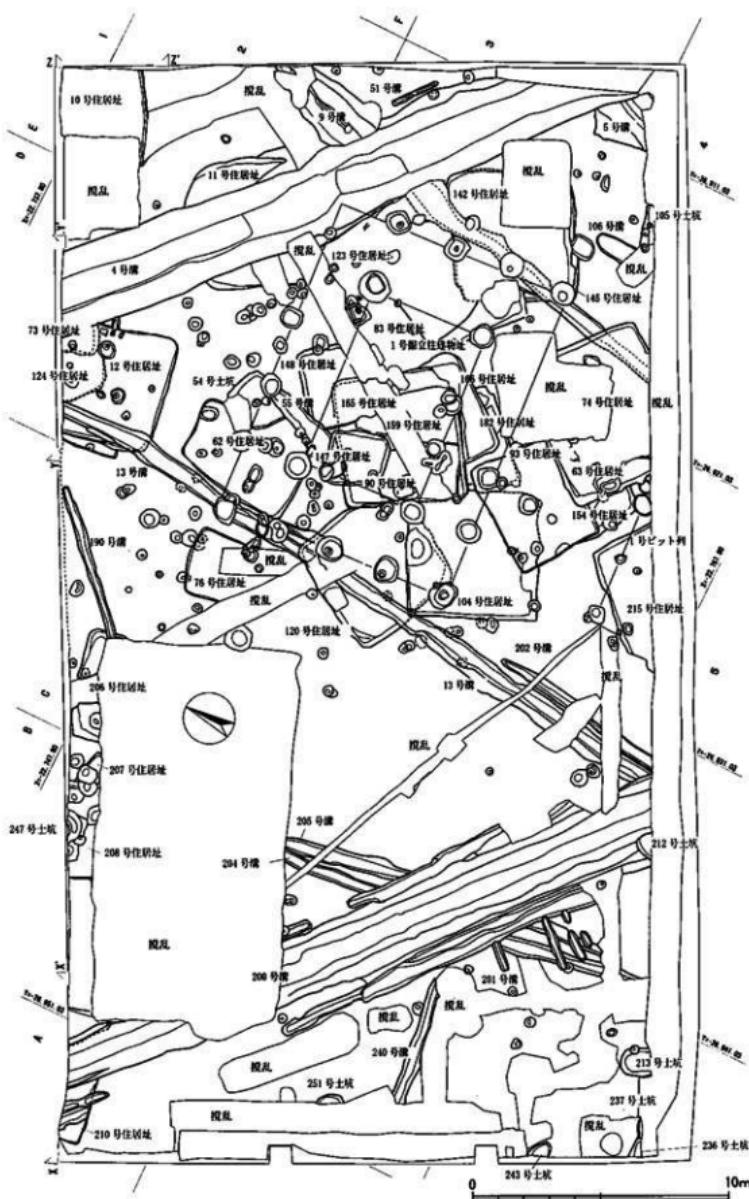


図95 1223調査地点造構配図 (1) 溝・竪穴住居址・据立柱建物址・土坑 (1/200)

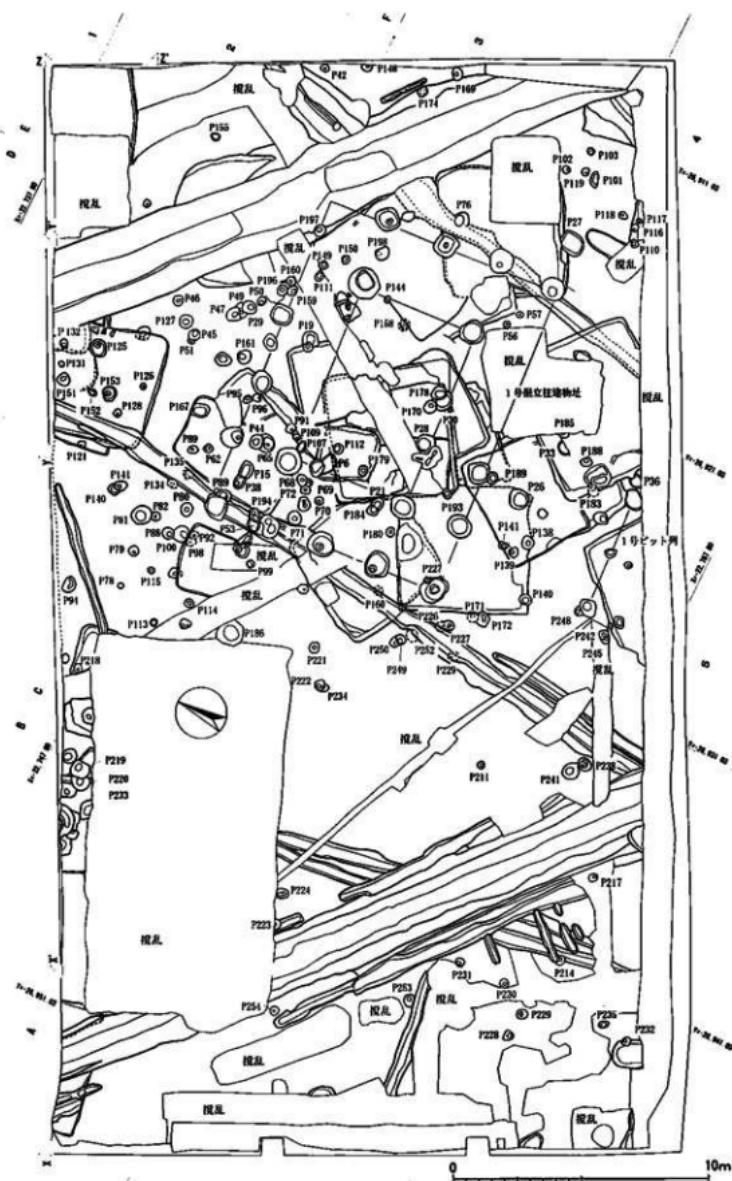


図96 1223調査地点造構配図(2) ピット(1/200)

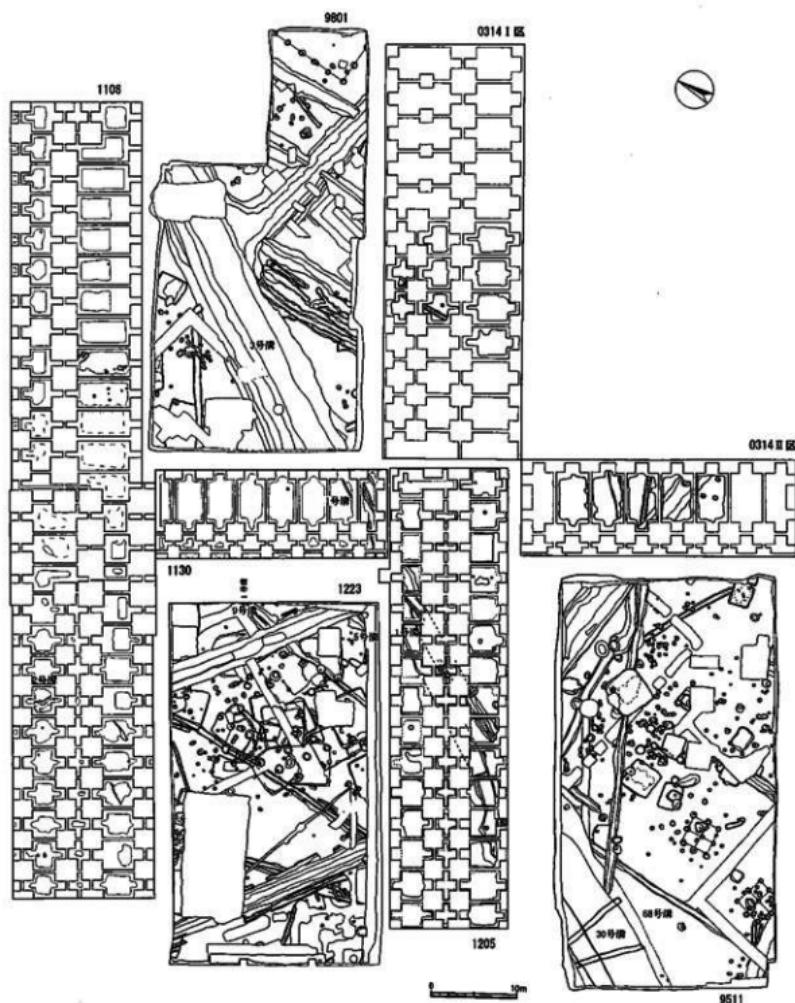


図97 周辺調査地点造構配置図 (1/600)

(4) 検出遺構

溝15条、竪穴住居址29基、掘立柱建物址1基、ピット列1基、土坑9基、ピットを検出した（図95・96）。

2. 國際先端医学研究拠点施設新營工事に伴う発掘調査 (1223調査地点)

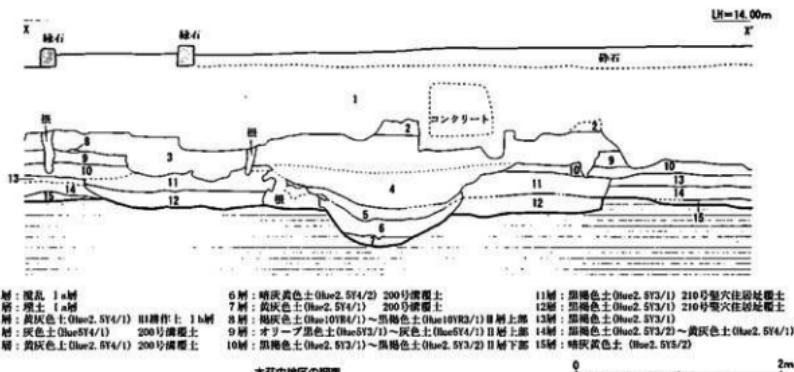


図98 1223調査地点北壁1土層断面図 (1/50)

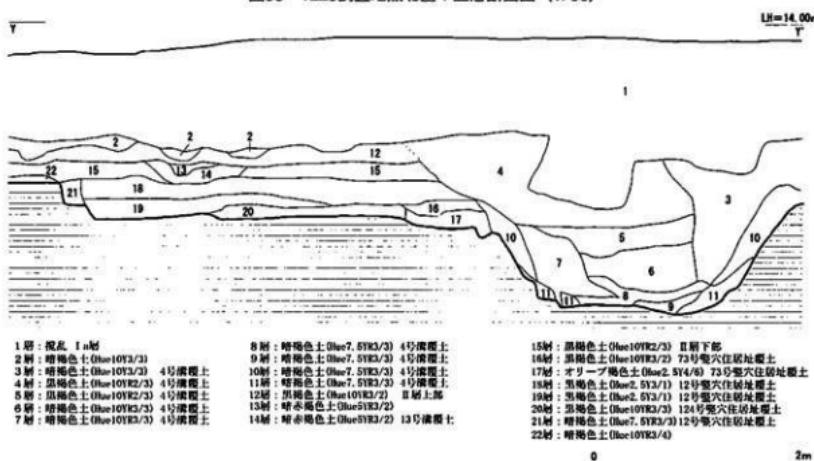


図99 1223調査地点北壁2土層断面図 (1/50)

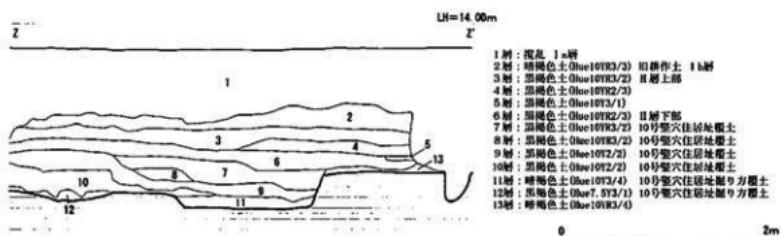


図100 1223調査地点東壁土層断面図 (1/50) セクションポイントの位置は図95に表示。

<溝>

4号溝（図101）

調査区東側のD-2区、E-2・3区、F-3に存在した。幅約2.7~3.8mの溝が長さ約24.5mにわたって検出された。北端および南端は調査区外に出ている。平面形は直線的で、主軸方位はN-50°-Wである。南端で5号溝と交差するが、5号溝と覆土が類似し、新旧関係は明確にはとらえられなかった。9号溝や11号竪穴住居址を切って構築されており、II層上部より掘り込みが確認された。溝上位は傾斜が緩く、途中（中場）から角度を強めて底面に至る。底面は平らで、断面形は逆台形状をなす。確認面からの深さは最深で約1.4mを測る。底は砂層ないしは固化した砂層に切り込んでいた。覆土は暗褐色土主体。覆土上位にはI b層類似土が存在し、遺構の東側ではI b層類似土が深く入り込んでおり、後世の掘り返しの可能性が考えられた。また覆土中位で、ウマの四肢骨と判断される骨が、レベル上のまとまりをもって出土した（図版173）。覆土下部は水の影響をうけたためか赤褐色化し硬い部分が多くあった。底面には長方形の凹みが存在した。出土遺物には古墳時代後期から平安時代のものも含まれていたが、17世紀後半のものが多かった。II層上部から掘り込んでいる点と、出土遺物により、本溝は近世初期の所産と判断される。なお本溝の延長線上に1106調査地点の2号溝がある。

5号溝（図101）

調査区東南隅のF-3・4区に存在した。最大幅約2.6mの溝が長さ約2.6mにわたって検出された。北端は4号溝と交差しており、南端はI a層（搅乱）に切られ、その先は調査区外に出ている。平面形は直線的で、主軸方位はN-25°-Eである。溝の深さは最深で約0.6mを測る。本溝周辺は搅乱がIV層まで深く入りこんでおり、溝の上部は消失していた。

当初は、砂や黄色土を多く含む暗褐色土（I b層類似）および褐色土を覆土とする溝（5号溝）と、その下位の黒褐色土・灰褐色土・褐色土を覆土とする溝（旧108号溝）を別々の遺構として認識したが、両者とも溝の方向が同じであり、覆土に砂をやや多く含む点で類似していたため同一溝（の覆土の違い）と判断した。しかし覆土の違いが認識されたことから、溝の掘り返しがあった可能性も考えられよう。図101土層断面図B-B'は旧108号溝でとった断面である。溝は砂層（IV層）にまで達していたが、溝の最深部は調査区外に出ており検出されなかつた。覆土は4号溝の覆土に類似していため、4号溝と近い時期、近世初期の所産と判断される。なお本溝は9511地点の30号溝、9801地点の3号溝、1130地点の1号溝、1205地点の1号溝と連続する溝である。

51号溝（図101）

調査区東側のE-3区に存在した。平面形は長さ約20m、最大幅約0.2mの直線状をなし、主軸方位はN-49°-Eである。4号溝とほぼ平行する。II層下部の確認面からの深さは最大で約0.08mを測る。覆土は黒褐色土からなる。出土遺物はなく、時期は不明である。

190号溝（図103）

調査区中央北側のC-2区に存在した。最大幅約0.27mの溝が長さ約6.4mにわたって検出された。平面形は直線的で、主軸方位はN-46°-Eである。南西端は搅乱により壊されていた。確認面（II層上面）からの深さは最深で約0.15mを測る。覆土は暗褐色土（I b層）からなっていた。同様のものはD-2・3区に多数平行して存在しており（図99土層断面図2層）、畠のような耕作に關係する遺構と判断される。覆土がI b層であることから、近世以降の所産と判断される。

200号溝（図102）

調査区西側のA-3、B-3・4、C-4・5区に存在した。II層上面で確認され、深い部分は最大幅約2.6m、深さ約0.8~1.0mの溝であった。南北両端が調査区外に出ているが、長さ約25.8mにわ

たって検出された。またこの深い溝の両脇に深さ約0.06~0.3m、幅約0.4~0.8mの浅い溝が1ないし2条平行して存在していた。これら脇に付随する溝は深い部分の溝とは若干時期が異なる可能性はあるが、溝の方向が同じであるため、同一番号の溝とした。平面形は直線的で、主軸方位はN-49°-Wである。204・205号溝・210号竪穴住居址を切り、201号溝に切られていた。溝の底面は地山の砂層(IV層)に達し、底面は平坦で、断面形は逆台形状を呈する。覆土は大きく3層に分かれ、上層(図102土層断面図1層)は灰色土、中層(同図2・3層)は黄灰色土・暗灰黄色土、下層(同図4層)が黄灰色土からなっていた。B-4区の覆土中層では大形の獸骨が出土した。覆土にIb層類似土(黄灰色土)を含んでいた点や、青磁や擂鉢など中世ないし近世の遺物が含まれることから、中世又は近世の所産と判断される。

201号溝(図102)

調査区西側のB-4、C-4・5区に存在した。4条の平行する溝からなる。各々幅0.3~、0.4m、深さ約0.06~0.1mの溝で、主軸方位はN-45°-Eである。全て一連のものと考え、同一溝として扱った。190号溝同様、試のような耕作に関係する造構と判断される。200号溝をほぼ直角に切って存在していた。II層上面で確認され、覆土は灰色土(Ib層)であるため、近世以降の所産と判断される。

9号溝(図104)

調査区東側のE-2~4区に存在した。最大幅約21mの溝を、長さ約11.9mにわたって検出した。北端は調査区外に出ており、南端は搅乱により切られていた。平面形は直線的で、主軸方位はN-14°-Eである。北側では4号溝に切られていた。4号溝との交差部以北は、搅乱されていたものの、II層中でプランを確認できた所があり、その部分では、溝の幅は22m、壁高は最深部で約1.1mあった。溝の立ち上がりを見ると、溝の上位は傾斜が緩く、溝の中央部は幅狭で深くなっていた。4号溝との交差部以南では、竪穴住居址(123・142・74号竪穴住居址)に切られていたため、幅は0.6~1.3m、壁高は0.2~0.6mしかなかった。覆土は黒褐色土・暗褐色土などからなっていた。古墳時代後期に属する74号竪穴住居址に切られるものの、それ以前の遺物は出土していないので、古墳時代後期の所産と判断される。9511調査地点の68号溝(6世紀末)とつながるものと推測される。

55号溝(図104)

調査区東側のD-3区に存在した。最大幅約1.1mの溝が長さ約3.7mにわたって検出された。平面形は直線的で、主軸方位はN-20°-Eである。北端は1号掘立柱建物址(9世紀末又は10世紀初め)の柱穴に壊されており、南端は147号竪穴住居址と切り合っていた。147号竪穴住居址とは覆土が類似していたが、147号竪穴住居址より新しいと判断された。確認面からの深さは最深で約0.3mを測る。覆土はII層下部類似の黒褐色土からなっていた。古墳時代後期又は古代(9世紀末以前)の所産と判断される。

13号溝(図105)⁽³⁾

調査区中央のC-4・5、D-2~4区に存在した。最大幅約0.9mの溝が長さ約27.5mにわたって検出された。北端は調査区外に出ており、南端は搅乱により切られていた。本溝は高い所ではII層下部上面で確認された。1号掘立柱建物址の柱穴に切れられ、202号溝・12・120号竪穴住居址を切っていた。深さは最深で約0.15mを測る。平面形は直線的で、主軸方位はN-6°-Eである。

覆土は灰色土をなしていた。北壁断面では2枚の土層(図99土層断面図13層・14層等)からなり、二時期に及ぶ可能性がある。水の影響を受けたと判断される、鉄分が集積し暗赤褐色を呈する箇所(図105土層断面図A-A' 1・2層等)が多く認められた。

古墳時代後期の竪穴住居址を切り、覆土中から9世紀末の土器が出土しているので、9世紀末頃の

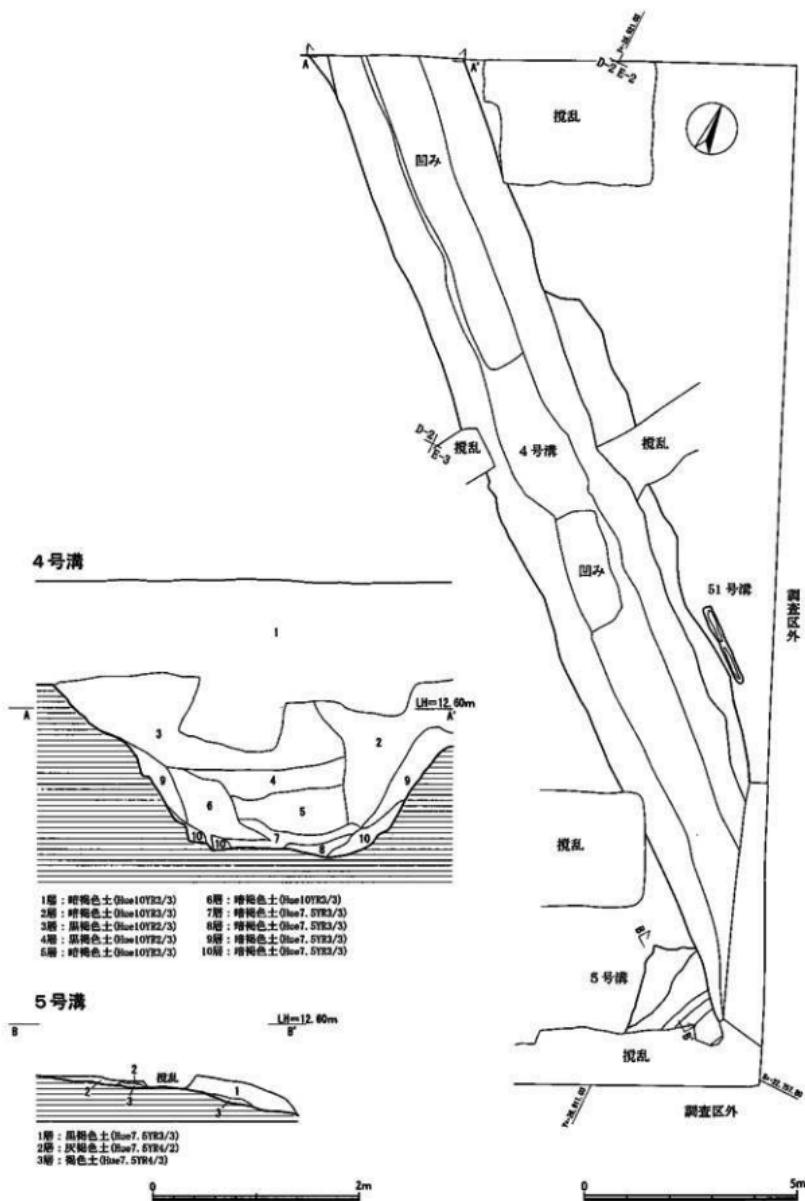


図101 4・5・51号溝実測図 (1/120・1/50)

2. 国際先端医学研究拠点施設新設工事に伴う発掘調査（123調査地点）

200・201号溝

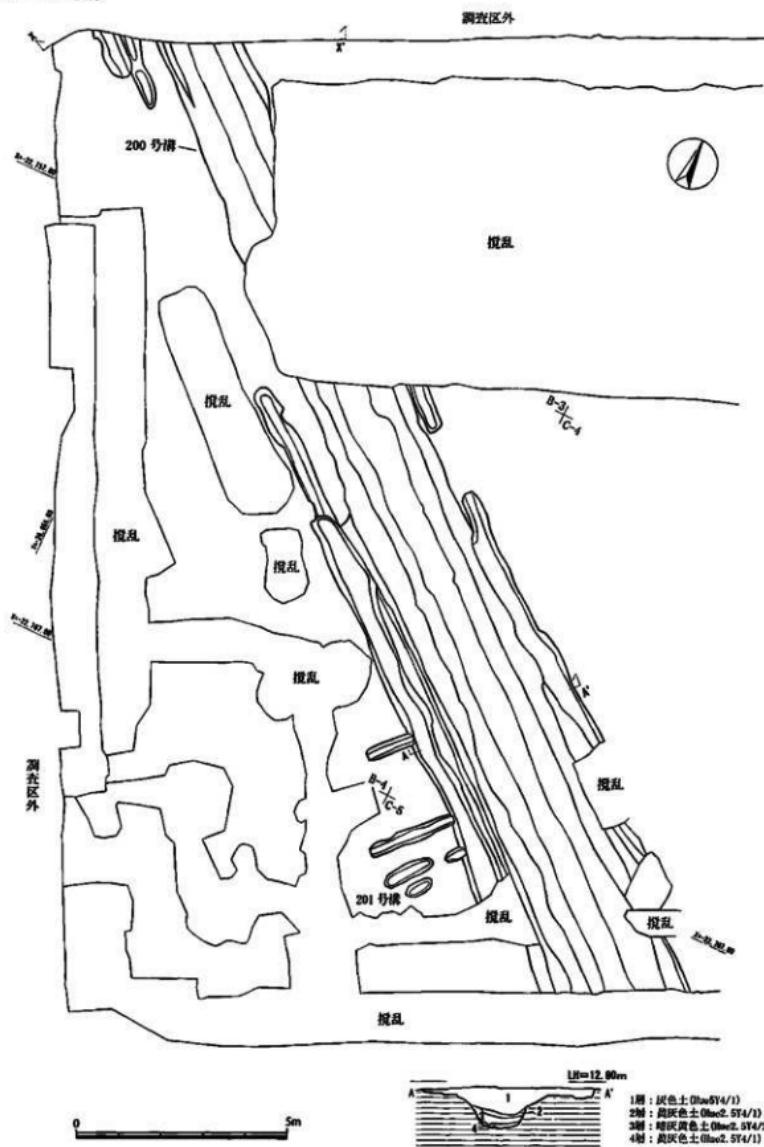


図102 200・201号溝実測図 (1/120) X-X'は図98土層断面図に対応。

190号溝

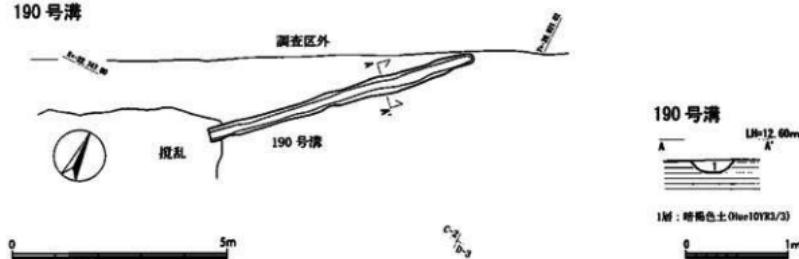


図103 190号溝実測図 (1/120・1/50)

9・55溝

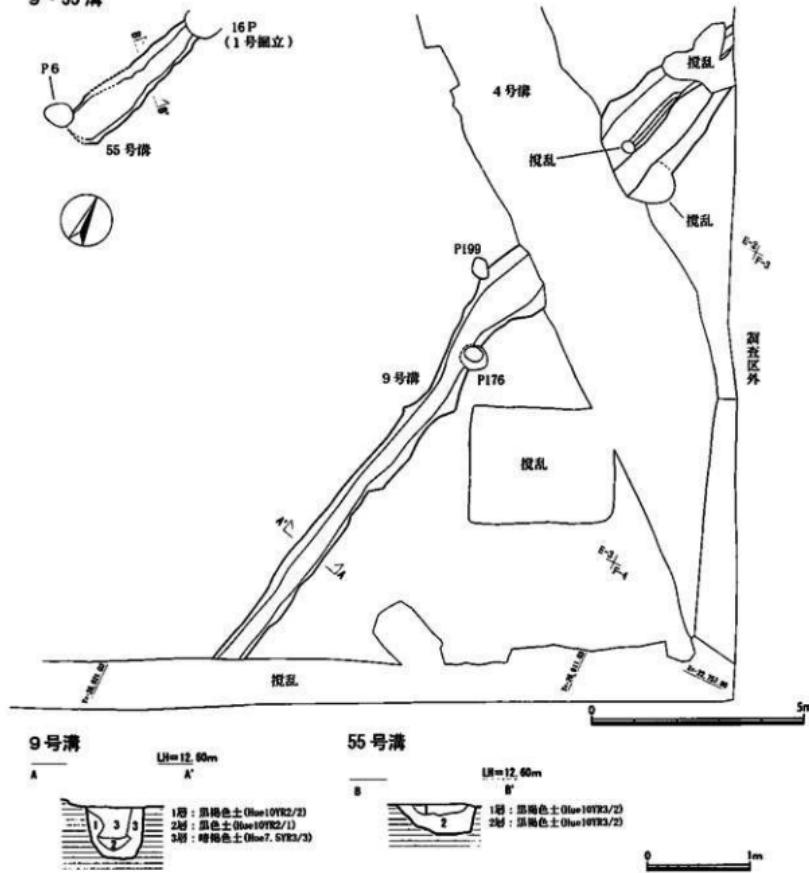


図104 9・55号溝実測図 (1/120・1/50)

13・202号溝

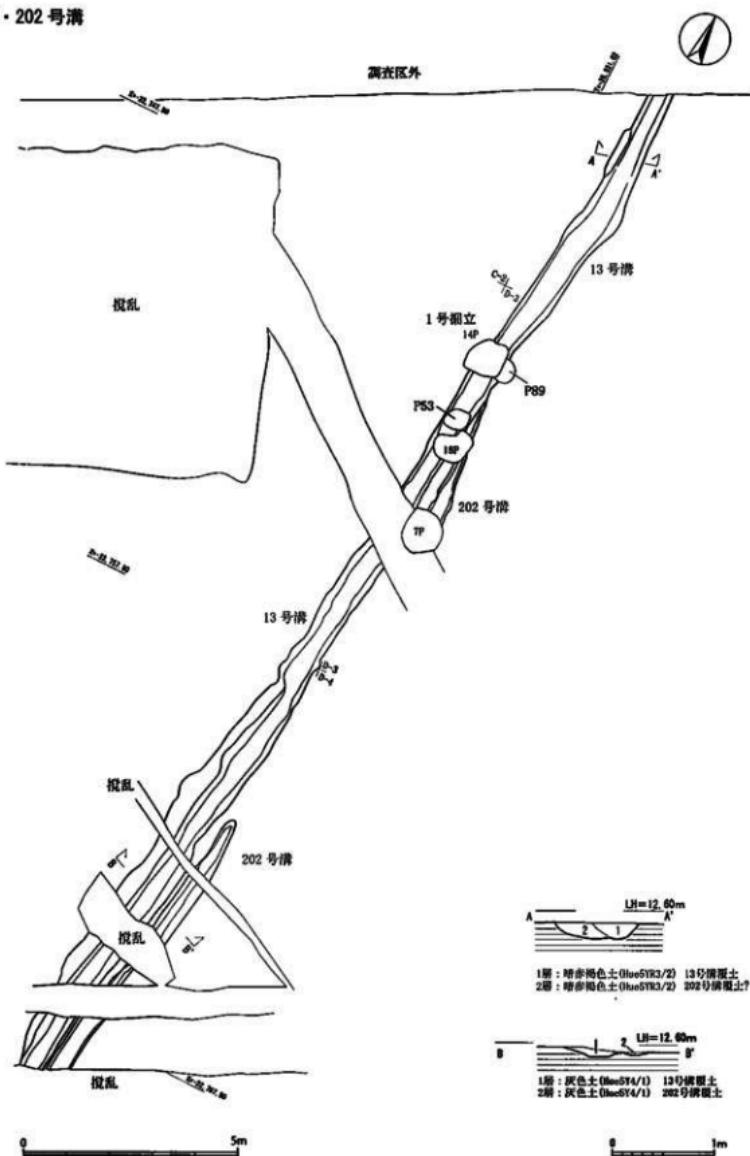
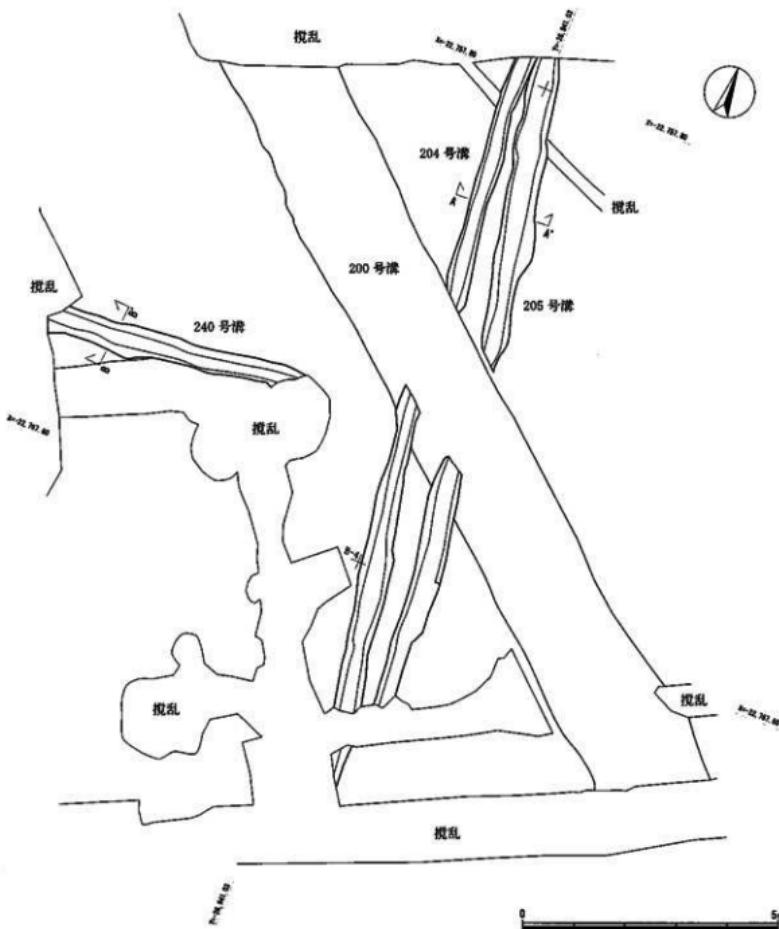


図105 13・202号溝実測図 (1/120・1/50)

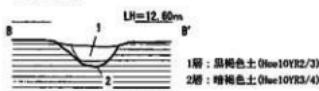
204・205・240号溝



204号溝

205号溝

240号溝



0 1m

図106 204・205・240号溝実測図 (1/100・1/50)

所産と判断される。

202号溝（図105）

調査区西のC-4・5、D-3・4区に存在した。最大幅約0.5mの溝が、D-3区で長さ約3.8m、C-4区以南で長さ約7.1m確認された。南際は搅乱に切られ消失していた。溝の深さは最深で約0.18mを測る。120号竪穴住居址を切り、13号溝に切られる。D-3区では13号溝の東隣に存在するが、D-2区で西に寄り、図105土層断面A-A'において13号溝が西側に張り出した部分が認められ、そこに繋がる可能性がある。平面形はやや蛇行する。主軸方位はD-3区ではN-4°-W、C-4区以南ではN-8°-Eである。覆土は灰色土からなるが、鉄分が集積する所は暗赤褐色を呈していた。覆土が9世紀末の溝（13号溝）に類似することから、古代の所産と判断される。

204号溝（図106）

調査区西側のB-3・4区、C-3・4・5区に存在した。南北両端を搅乱により壊され、中央を200・201号溝によって切られていたが、幅約0.3~0.4mの溝が長さ約12.4mにわたり検出された。平面形は直線的で、主軸方位はN-7°-Wである。確認面からの深さは最深で約0.16mを測る。覆土は暗褐色土からなっていた。本遺構のすぐ東隣には205号溝が平行して走っていた。覆土がⅡ層上部類似土からなるため、古代又はそれ以降の所産と判断される。

205号溝（図106）

調査区西側のC-3・4・5区に存在した。南北両端を搅乱に、中央を200・201号溝によって切られていたが、幅約0.4~0.7mの溝が長さ約11.4mにわたり検出された。平面形は直線的で、主軸方位はN-7°-Wである。204号溝の東隣にあり、204号溝と平行する。確認面からの深さは最深で約0.15mを測る。覆土がⅡ層上部類似の暗褐色土からなるため、古代又はそれ以降の所産と判断される。

240号溝（図106）

調査区西側のB-4区に存在した。東西両端を搅乱によって壊されていたが、幅約0.4~0.7mの溝が長さ約5.1m検出された。平面形は直線的で、主軸方位はN-85°-Eである。204・205号溝とはほぼ直交する方向に向く。確認面からの深さは最深で約0.2mを測る。覆土の大部分は黒褐色土からなっていた。覆土はⅡ層下部に近似するが、204・205号溝とは直交する方向に向いたため、両溝と同じく、古代又はそれ以降の所産と判断される。

<竪穴住居址>

10号竪穴住居址（図107）

調査区北東隅のD-2・E-1・2区で検出された。平面形は方形プランをなすが、西側は搅乱、北および東側は調査区外に出ており、南側の一辺と南西隅が確認されたに過ぎない。南側の一辺の長さからして一辺は3.7m以上ある。南辺方位はN-62°-E（直交方位はN-28°-W（余角））である。壁の立ち上がりは約0.2~0.3mである。覆土は黒褐色土であった。覆土には掘り直したような土があり（図100土層断面図7・8層）、切り合いがあった可能性が考えられた。検出された範囲の北半分には硬化面が存在した。掘り方は南側で深く、約0.1m深く掘られていることが確認された（図107下）。

11号竪穴住居址（図108）

調査区北東部のD-2・E-2区で検出された。平面形は方形のプランをなし、東西の壁が検出された。東西で約5.0m（軸長）を測る。平行する辺の方位はN-29°-Wである。中央を4号溝により切られ、東西2箇所に分断された形で検出された。壁の立ち上がりは約0.2mである。覆土がⅡ層下部と類似する黒褐色土であったため、時期は古墳時代後期又は古代と判断される。

83号竪穴住居址（図108）

調査区東側のD-3区で検出された。平面形は約4.2（長軸長）×3.8（短軸長）mの方形プランをなす。長軸方位はN-27°-Eである。覆土は黒褐色土からなる。プランは確認できたが、123号竪穴住居址の覆土中に構築されていることもあり、壁および床面を捉えることができず、上場のみの記録となった。覆土がII層下部と類似することと、後述する1号掘立柱建物址（9世紀末又は10世紀初め）の20号柱穴に切られていることから、時期は古墳時代後期又は古代（9世紀末以前）と判断される。

123号竪穴住居址（図109・110）

調査区東側のD-3・E-3区で検出された。平面形は6.1m（軸長）の長方形プランをなす。軸方位はN-39°-Wである。北側には搅乱、西側には165号竪穴住居址が存在し、壁がわかりやすかったのは南西部であった。壁の立ち上がりは最も高低差がある所で約0.2mである。南側は142号住居址を切っていた。覆土は黒褐色土や暗褐色であった。当初断面B-B'西側で見られた土層の違い（図109土層断面図B-B'6層の層界）から2軒の住居址（123号と75号住居址）の重複と想定したが、最終的には1軒の住居址（123号住居址）と判断した。また同セクションの西端には、住居址を切って存在する1号掘立柱建物址の164号柱穴がかかっていたが、土層断面図作成時にはその存在を認識していないかった。図109土層断面図10層は164号柱穴の覆土であった可能性がある。

検出された範囲の中央には5.6×3.6mの範囲にわたって硬化面が存在した（図109土層断面図5層内）。竪は北辺にあった。長方形に切り出した砂岩2個を平行に並べ、袖を構築していた。袖に挟まれた内側はよく焼けており、燃焼面と判断された。焼土中より炭化種実が出土した。

住居址中央および東側では硬化面より下に、約3.9×0.9m、約1.7×0.85mの細長い溝状ないし土坑状の掘り込みが確認された。またその外側の北東側ではL字状に曲がる直線的な段差が認められ、それらは掘り方と判断された（図110）。掘り方は、住居址のプランと平行し、溝状のものと段差のものが2列平行して存在していたため、建て替えの可能性がある。

また東側の壁が不明瞭であったが、それは本造構の東側から4号溝の位置にかけて別の造構が2基（図110の20P東側付近と、セクションポイントB'付近）存在していたからであろう。

遺物は6世紀末～8世紀初めの遺物が出土している。複数の切り合いで中にあることが原因であろう。1号掘立柱建物址（9世紀末又は10世紀初め）に切られていることから、住居址の時期は古墳時代後期又は古代（9世紀末以前）と判断される。

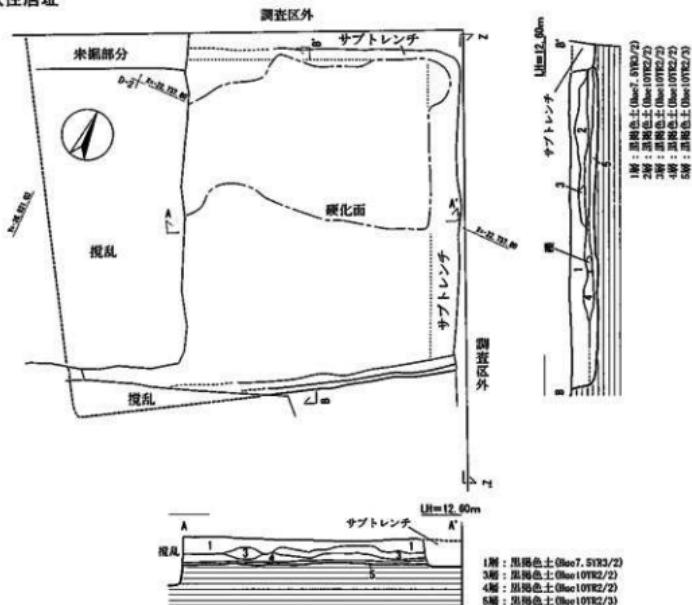
142号竪穴住居址（図111）

調査区東側のE-3・4区で検出された。平面形は約5.1×4.5mの方形プランをなす。壁の立ち上がりは深い所で約0.12mである。北に近い軸（短軸）方位はN-30°-Wである。南東部は搅乱により、南端隅は1号掘立柱建物址（9世紀末又は10世紀初め）の23号柱穴により壊されていた。北側は123号竪穴住居址に切られていたが、本住居址の壁に平行すると思われる掘り方は深く、その立ち上がりが残存していた。南側は145号竪穴住居址を切って存在していた。145号竪穴住居址とは辺が平行するため、145号竪穴住居址を建て直して142号竪穴住居址が作られたと判断された。また本住居址確認段階から、覆土を切るN-6°-Wを軸とするライン（図111の別造構のライン）が確認されていたので、本住居址を切る別の造構があったと判断される。覆土は黒褐色土であった。掘り方としては、西側で長方形の土坑状の凹みが確認され、東側中央でも段状の凹みが存在した（図111下）。

本住居址の下には、本住居址より古い9号溝が存在していた。本住居址から出土した土器は古墳時代後期（6世紀後葉）のものと9世紀末のものが存在したが、1号掘立柱建物址（9世紀末又は10世紀初め）より古いため、本住居址は古墳時代後期又は古代（9世紀末以前）と判断される。

2. 国際先端医学研究拠点施設新營工事に伴う発掘調査（1223調査地点）

10号竪穴住居址



10号竪穴住居址（掘り方）

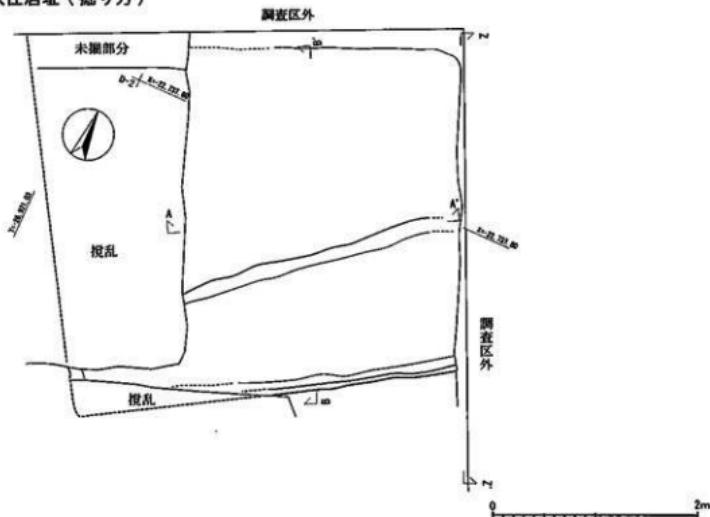
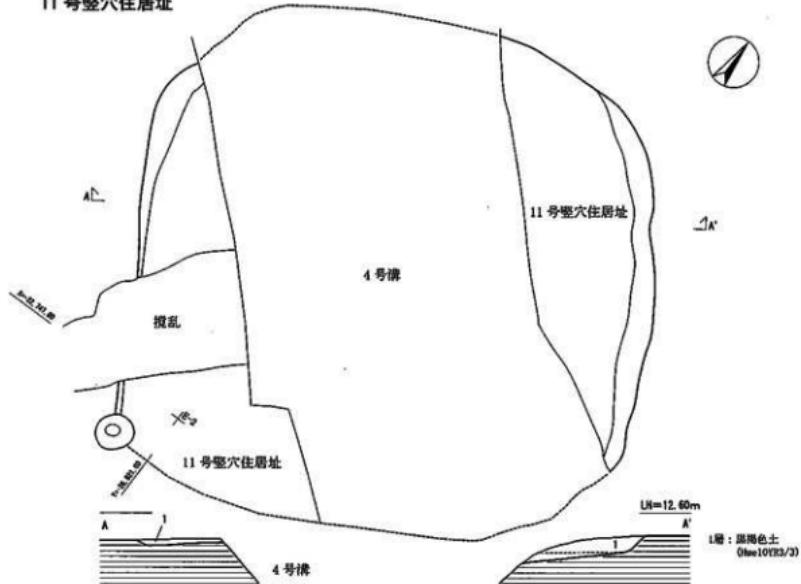


図107 10号竪穴住居址実測図 (1/50) Z-Z'は図100土層断面図に対応。

11号竪穴住居址



83号竪穴住居址

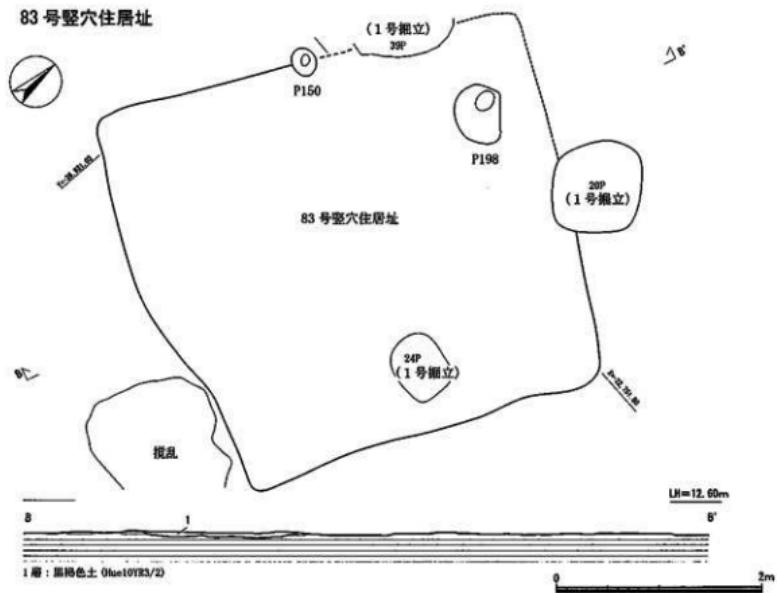


図108 11・83号竪穴住居址実測図 (1/50)

123号竪穴住居址

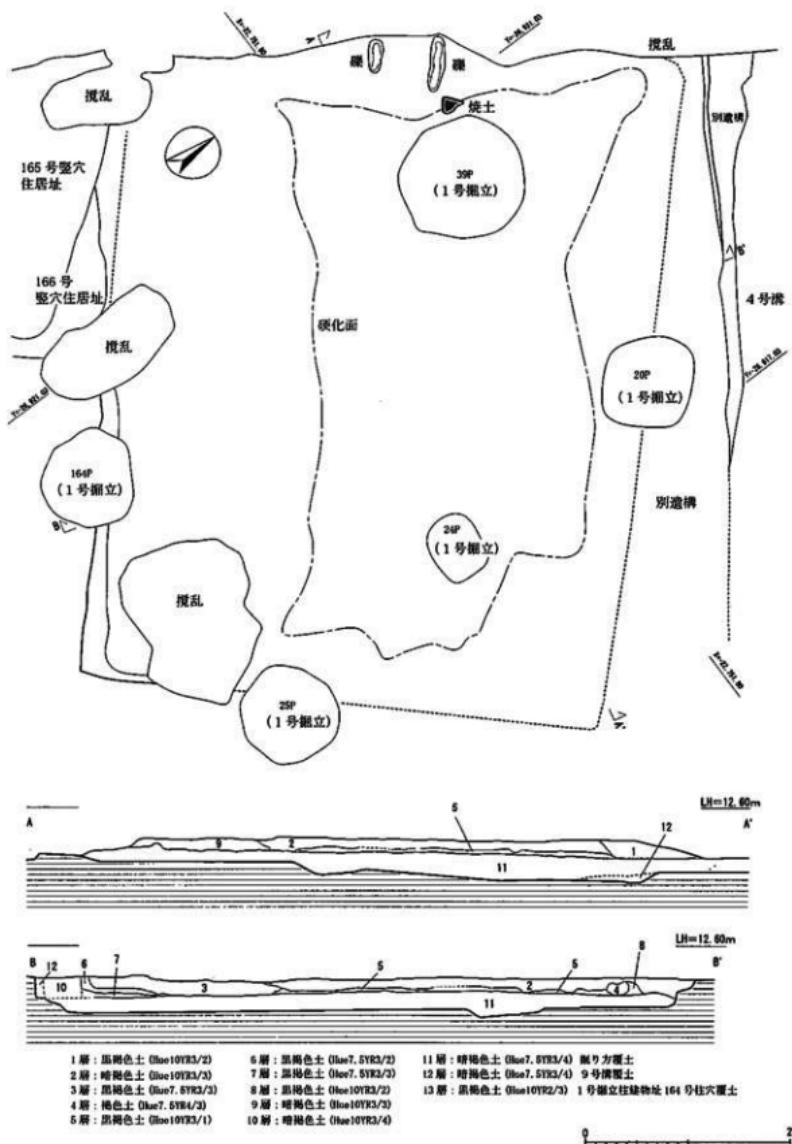


図109 123号竪穴住居址実測図 (1/50)

123号竪穴住居址（掘り方）

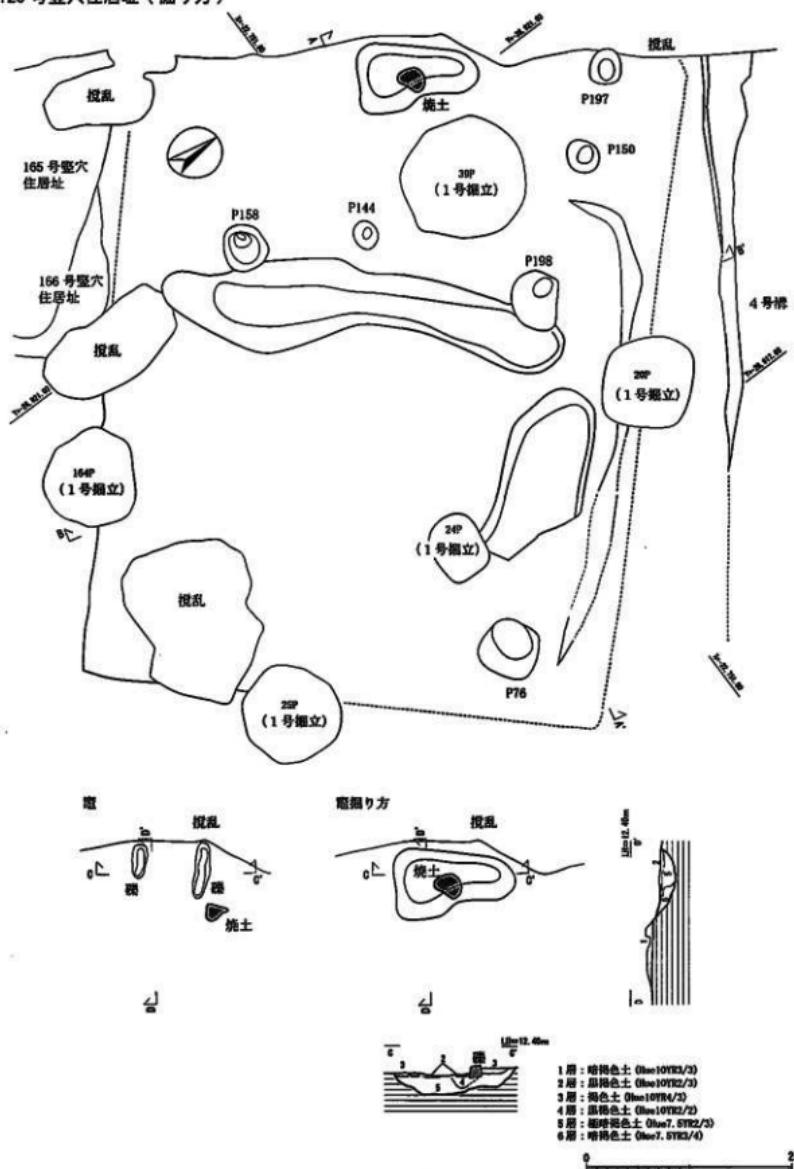


図110 123号竪穴住居址掘り方・竪穴測図 (1/50)

2. 國際先端医学研究拠点施設新設工事に伴う発掘調査（123調査地点）

142・145号竪穴住居址

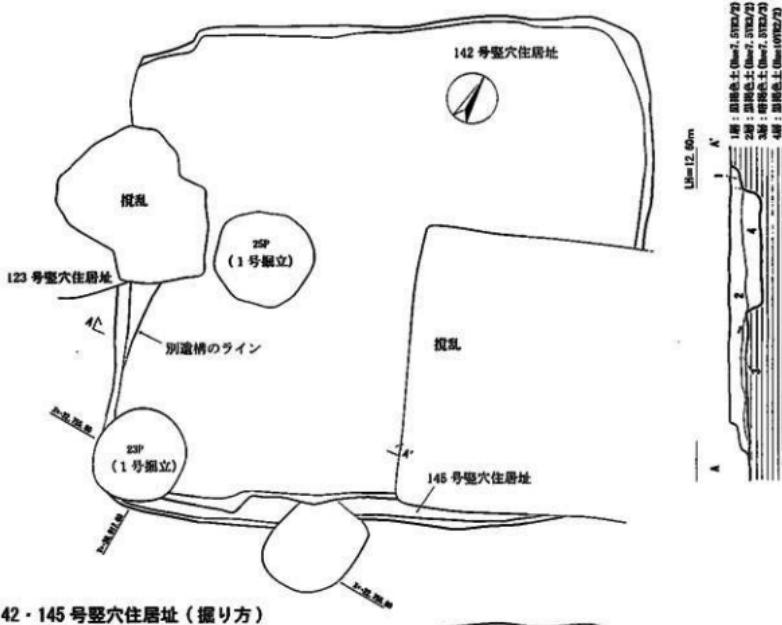


図111 142・145号竪穴住居址実測図 (1/50)

145号竪穴住居址（図111）

調査区東側のE - 3・4区で検出された。平面形は方形プランをなす。大部分は145号竪穴住居址と搅乱によって切られていたので、確認できたのは幅約0.2m、長さ約4.5m（南辺）である。南辺の方位はN - 61° - E（直交方位N - 29° - W（余角））である。掘立柱建物址の23号柱穴により壊されていた。確認できた壁の立ち上がりは約0.1mである。覆土は黒褐色土であった。時期は142号竪穴住居址・1号掘立柱建物址（9世紀末又は10世紀初め）に切られているので、古墳時代後期又は古代（9世紀末以前）と判断される。

12号竪穴住居址（図112・113）

調査区中央北側のD - 2区で検出された。平面形は方形のプランをなす。東西方向は約4.6mを測るが、西辺は更に幅約0.4m、深さ約0.1mの張り出しが見られ、古い段階の住居址の重複が考えられる。東西軸方位はN - 78° - E（N - 12° - W（余角））である。北側は調査区外に出ており、東側は4号溝により壊されている。また東側では73号竪穴住居址と切り合い、北側の掘り方には本住居址より古い124号竪穴住居址が存在する。さらに西側の覆土上には本住居址の覆土を切って13号溝が存在していた。壁の立ち上がりは約0.19mである。覆土は黒褐色土であった。住居址の中央から西側にかけて硬化面が存在した（図112上・図113土層断面図A - A' 5層上部付近）。竪は東辺にあった。竪覆土は搅乱により壊されていたが、燃焼面と判断される硬い焼土が存在した部分（図113土層断面図C - C' 4層）も若干認められた。竪の袖は、粘性の強い土の高まりがわずかに確認された。煙道の痕跡も存在した。また住居址の南および西壁下において、硬化面より下において壁に平行する溝状の凹み（深さ約0.2m）がL字状に確認され、掘り方と判断された（図112下）。また掘り方調査中にピットを検出できたが、本住居址に伴う柱穴は、南西隅から約0.7m内側で検出された1基だけであった。113号ピットは径が0.5~0.6mあり、覆土中に柱痕を確認できた柱穴であるが、位置的に見て、本住居址に伴う柱穴ではない。なお本住居址の時期は7世紀中葉頃と判断される。

73号竪穴住居址（図113）

調査区中央北側のD - 2区で検出された。平面形は方形プランをなすが、北側は調査区外、東側は4号溝によって切られているので、西辺1.25m・南辺1.2mと南西隅の一隅が検出されたにすぎない。西辺方位はN - 26° - Wである。12・124号竪穴住居址と切り合い関係にある。本住居址は124号竪穴住居址より新しく、12号住居址より古かった。壁の立ち上がりは約0.25mである。覆土は黒褐色土であった。底面直上より、脚付壺の上に高壺が重なって出土した（図版80：写真182）。掘り方掘削中にピットが1基検出されたが、その位置から、本住居址に伴う柱穴とは判断しがたい。本竪穴住居址は12号竪穴住居址より古いので、古墳時代後期（7世紀中葉以前）と判断される。

124号竪穴住居址（図113）

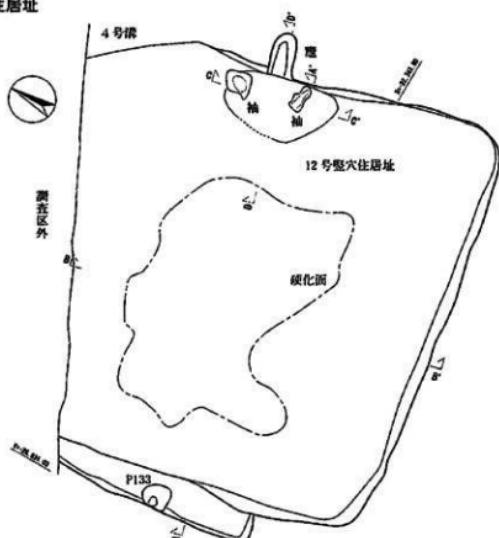
調査区中央北側のD - 2区で検出された。平面形は方形プランをなすが、東側は73号竪穴住居址により切られ、北側は調査区外に出てるので、西辺1.7m・南辺約1.1mと南西隅の一隅が検出されたにすぎない。南辺の方位はN - 56° - E（直交方位N - 34° - W（余角））である。壁の立ち上がりは約0.18mある。覆土は黒褐色土であった。12号竪穴住居址により切られ、12号竪穴住居址の掘り方覆土が上を覆っていた。掘り方調査中にピットが2基検出されたが、本住居址に伴う柱穴ではない。本竪穴住居址は12号竪穴住居址よりも古いので、古墳時代後期（7世紀中葉以前）と判断される。

62号竪穴住居址（図114）

調査区中央のD - 2・3区で検出された。平面形は約4.6×2.5mの長方形プランをなす。長軸方位はN - 3° - E。東側は54号竪穴状遺構と搅乱、掘立柱建物の柱穴により壊されていた。壁の立ち上

2. 国際先端医学研究拠点施設新館工事に伴う発掘調査（1223調査地点）

12号竪穴住居址



12号竪穴住居址（掘り方）

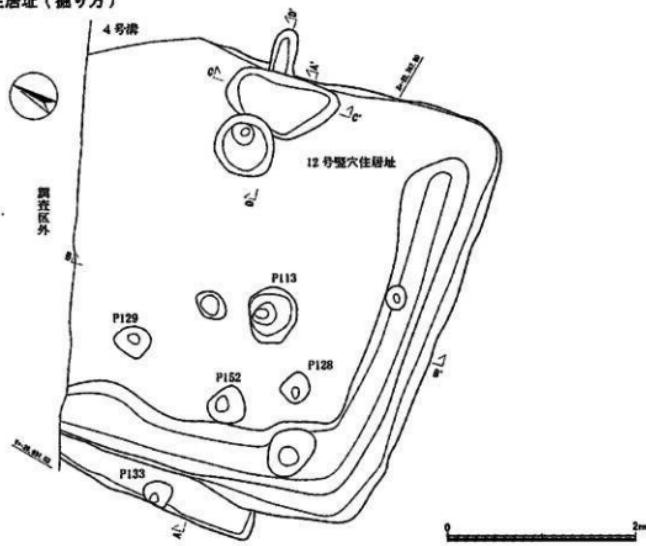
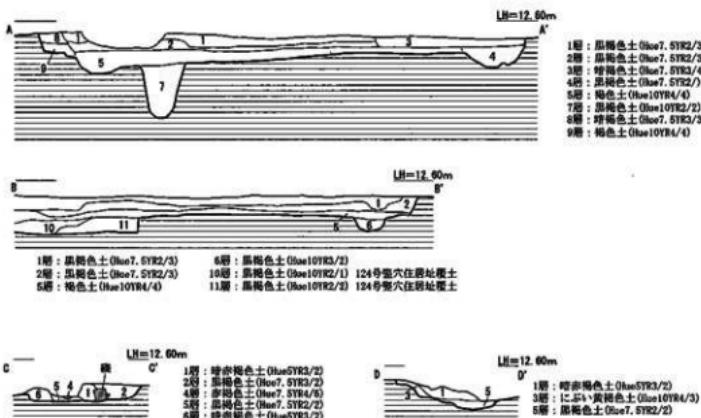


図112 12号竪穴住居址実測図 (1/50)

12号竪穴住居址



73・124号竪穴住居址

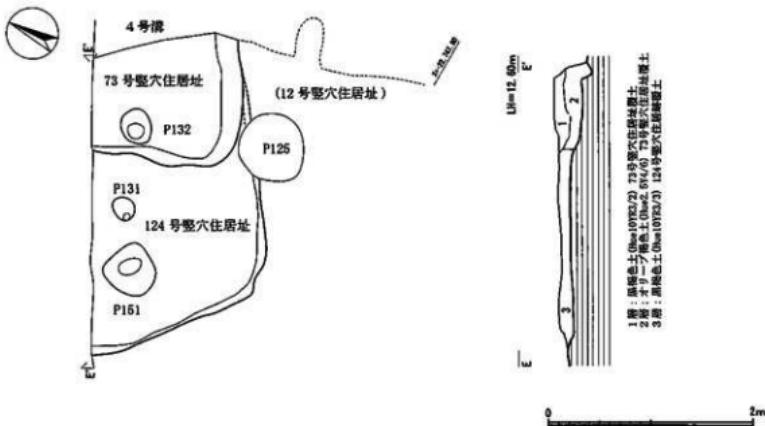


図113 12・73・124号竪穴住居址実測図 (1/50)

がりは南側では低く、確認面から0.08m しかなく、北側では少し深くなり約0.18mある。北側の底面がやや下がっていること、北側と南側では覆土に違いがあることなどから、2時期の住居址が重複した可能性が想定される（図114上の点線範囲に1軒の住居址を想定）。覆土は黒褐色土であった。また167号ピットは焼土を含んでいたことから、竪穴に関係する施設である可能性がある。出土遺物から時期は7世紀前葉と8世紀後葉の2時期と判断される。

76号竪穴住居址（図114）

調査区中央のC-3区、D-3区で検出された。平面形は一辺約2.6mの長方形プランをなす。東辺に平行する軸方位はN-9°-Wである。南側は擾乱により壊されているので、他辺の長さは不明である。壁の立ち上がりは約0.08mである。覆土は黒褐色土であった。東辺には竈があったが、残存したプランから考えて、竈は東辺の中央ではなく、南寄りについていたと想定される。袖と煙道の一部と燃焼面が残っており、竈前の掘り込みが確認された。時期は8世紀以降と判断される。

147号竪穴住居址（図115）

調査区中央のD-3区で検出された。平面形は約2.4×2.2mの小形の方形プランをなす。南東部は掘りすぎたため、正確な形は捉えられなかった。北側は55号溝と切り合い関係にあり、南側は90号竪穴住居址を切って存在していた。55号溝との先後関係は不明瞭であったが、55号溝に切られている可能性はある。また北西隅は6号ピットに切られていた。長軸（南北）方位はN-16°-Wである。壁の立ち上がりは約0.15mである。覆土は黒褐色土であった。掘り方の凹みは浅く存在する。遺物は6世紀末～7世紀前葉の遺物が出土しているが、重複する竪穴住居址群の中でも切り合い上最も新しいため、90号竪穴住居址より新しいことから、時期は8世紀後葉以降と判断される。

148号竪穴住居址（図115）

調査区中央のD-3区で検出された。平面形は輪長約3.1mの方形プランをなす。北西隅は55号溝、北東側は19号ピット、南側は擾乱に切られ、擾乱以南にも覆土が残っていた。また北東辺にはピットが重複していた。東西軸方位はN-53°-E（N-37°-W（余角））である。壁の立ち上がりは約0.25mを測る。覆土がⅡ層下部に類似する黒褐色土であるため、時期は古墳時代後期又は古代と判断される。

90号竪穴住居址（図116）

調査区中央のD-3区で検出された。北側を147号竪穴住居址に切られ、中央部を擾乱に壊されており、本来の規模は捉えられなかった。また東辺は28号ピットにより切られていた。南東端の辺を見ると、南北軸方位はN-17°-Wである。擾乱以北には砂岩片・焼土・灰の集積が見られた。壁の立ち上がりは約0.12mである。覆土は黒褐色土であった。掘り方の凹みは浅く存在する。遺物は8世紀後葉の遺物が出土している。遺物が少ないので確定はできないが、時期は8世紀後葉の可能性がある。

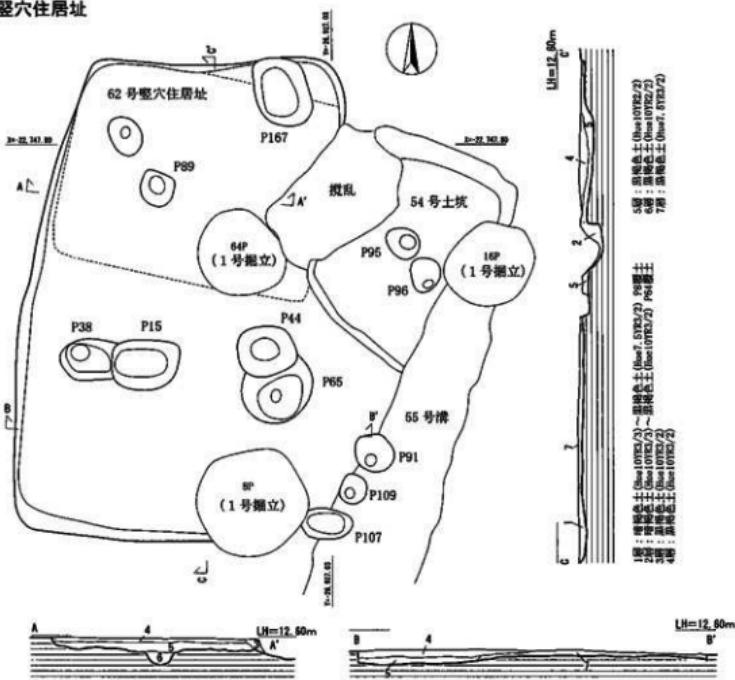
159号竪穴住居址（図116）

調査区中央のD-3区で検出された。平面形は南北長約4.8mの長方形プランをなす。北西隅は壁が明瞭であったが、東辺および南辺東部は不明瞭であった。165号竪穴住居址の上に重なっており、165号竪穴住居址より新しいが、北側は147・148号竪穴住居址に切られ、南西側では上に90号竪穴住居址が重なっていた。また西辺は1号掘立柱建物址の163号柱穴に切られ、覆土東側には炭化物が土であった。掘り方は南西側で掘り方覆土と思われる土が確認された。覆土はⅡ層下部に類似し、かつ1号掘立柱建物址（9世紀末又は10世紀初め）の163号柱穴に壊されていることから、時期は古墳時代後期又は古代（9世紀末以前）と判断される。

165号竪穴住居址（図117）

調査区中央のD-3区で検出された。平面形は約5.2×5.0mの方形プランをなす。軸（短軸）方位はN-34°-Wである。159号竪穴住居址や1号掘立柱建物址163号柱穴、28号ピットよりは古いが、南側では166号竪穴住居址、西側では104・120号竪穴住居址を切って作られていた。また東辺および北東辺は擾乱により壊されていた。壁の立ち上がりは確認面から約0.25mである。覆土は黒褐色土であった。南側に寄った所に不整形の土坑状の凹みが1基存在した。また掘り方覆土が広く確認された。104・120号竪穴住居址（6世紀末又は7世紀前葉）を切り、1号掘立柱建物址（9世紀末又は10世紀

62号竪穴住居址



76号竪穴住居址

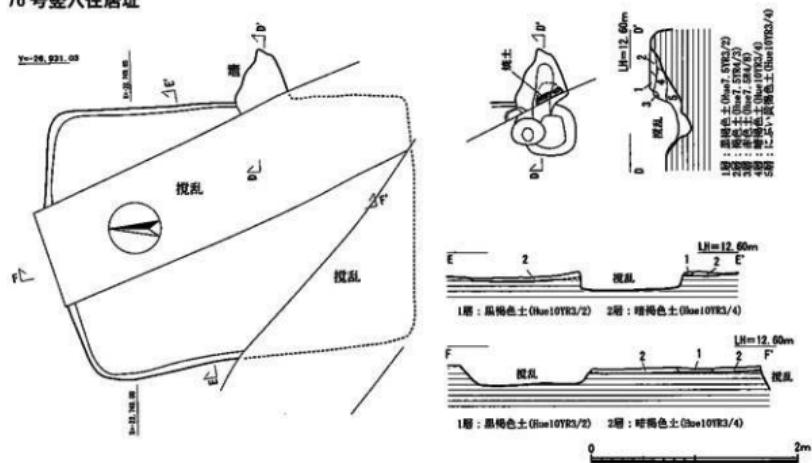


図114 62・76号竪穴住居址実測図 (1/50)

2. 国際先端医学研究拠点施設新工事に伴う発掘調査（1223調査地点）

147・148号竪穴住居址

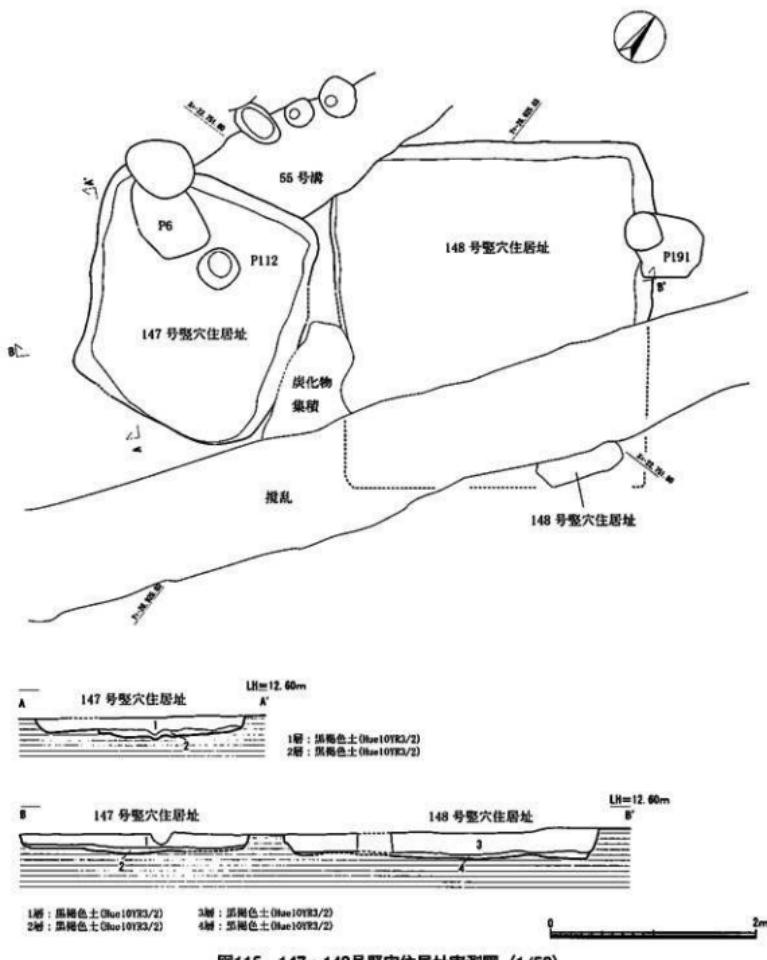


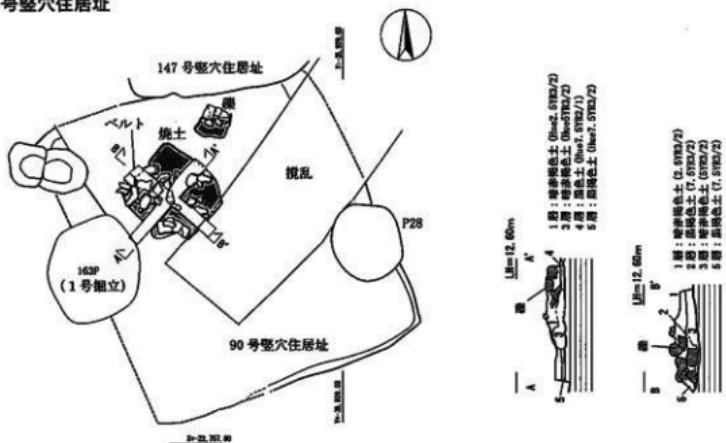
図115 147・148号竪穴住居址実測図（1/50）

初め)に切られているため、時期は古墳時代後期又は古代（9世紀末以前）と判断される。

166号竪穴住居址（図117）

調査区中央のD-3・4区-E-3区で検出された。平面形は方形プランをなす。166号竪穴住居址に切られているが、182号竪穴住居址を切って構築されていた。北東側の境界が不明瞭であったため、住居址一辺の長さを測ることはできなかったが、幅1.6mにわたって検出された。南東辺の方位はN-38°-E (N-52°-W (余角))である。壁の立ち上がりは約0.2mを測る。覆土は黒褐色土で

90号竪穴住居址



159号竪穴住居址

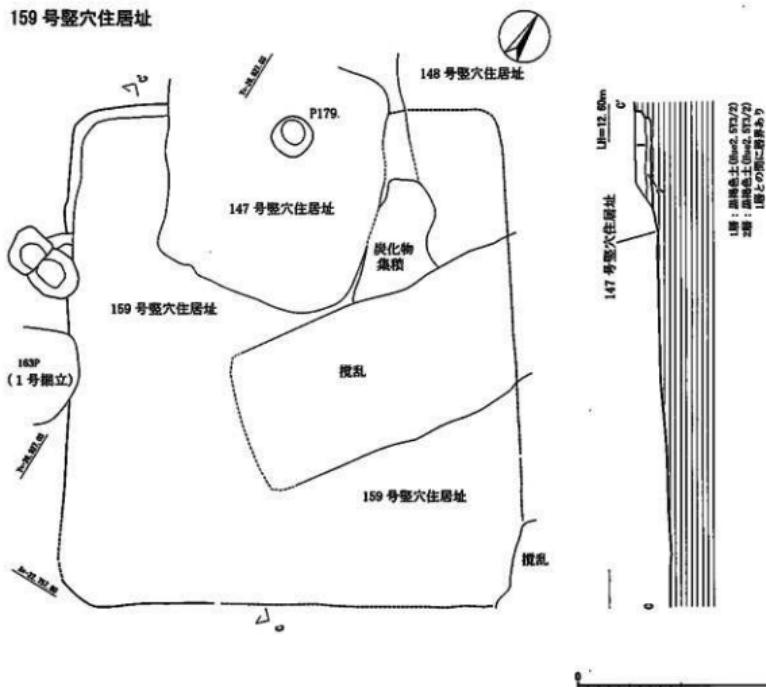
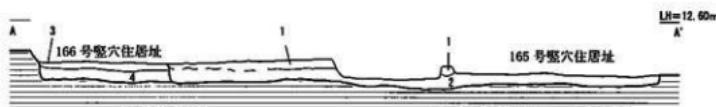
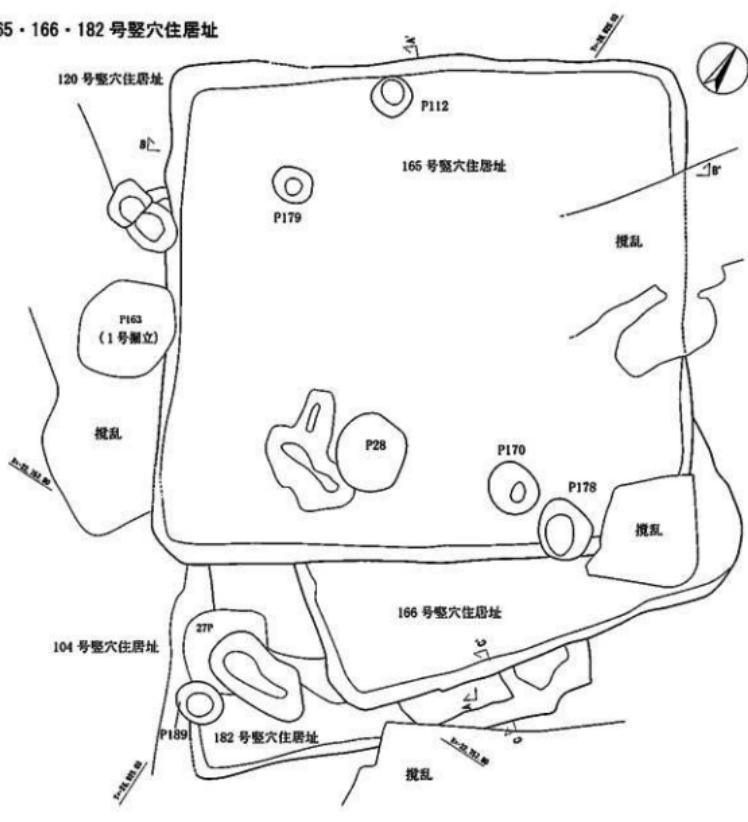


図116 90・159号竪穴住居址実測図 (1/50)

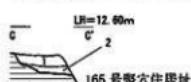
2. 国際先端医学研究拠点施設新設工事に伴う発掘調査 (1223調査地点)

165・166・182号竪穴住居址



1層：黒褐色土 (Hue10YR3/2) 165号竪穴住居址櫻土
2層：黒褐色土 (Hue10YR3/2) 165号竪穴住居址櫻土

3層：黒褐色土 (Hue2.5Y3/1) 166号竪穴住居址櫻土
4層：黒褐色土 (Hue2.5Y3/2) 166号竪穴住居址櫻土



1層：黒褐色土 (Hue10YR3/2) 182号竪穴住居址櫻土
2層：黒褐色土 (Hue10YR3/2) 182号竪穴住居址櫻土

0 2m

図117 165・166・182号竪穴住居址実測図 (1/50)

63号竪穴住居址

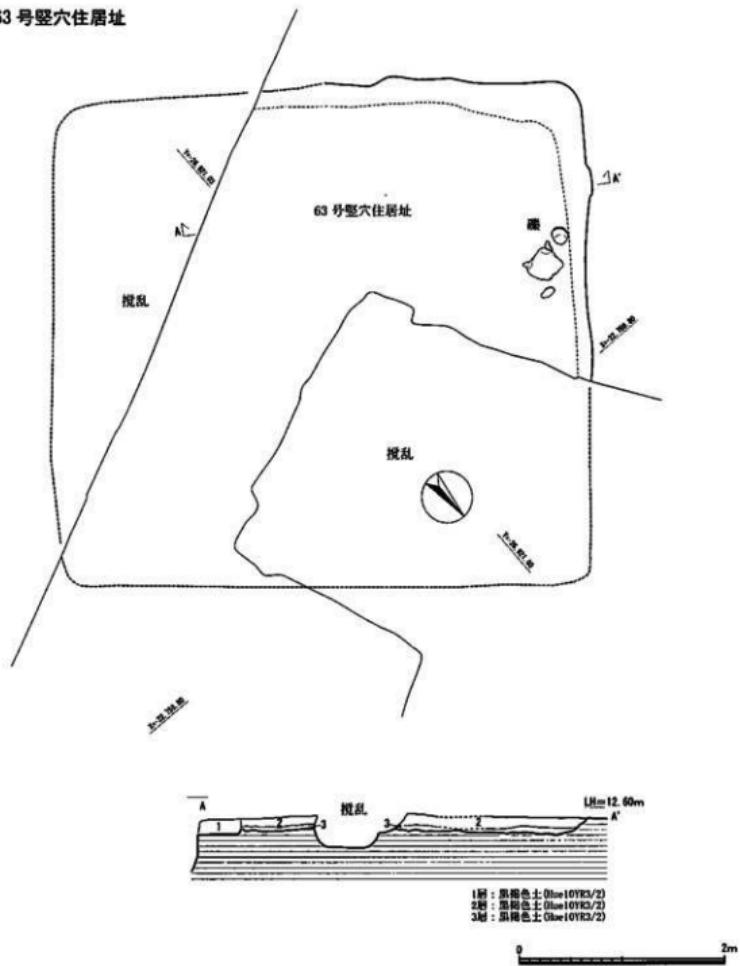


図118 63号竪穴住居址実測図 (1/50)

あった。また掘り方覆土が広く存在した。7~8世紀の遺物を出土した182号竪穴住居址を切り、165号竪穴住居址に切られるため、時期は古墳時代後期又は古代（9世紀末以前）と判断される。

182号竪穴住居址（図117）

調査区中央のD-3・4区で検出された。平面形は方形プランをなす。北側は165・166号竪穴住居址、西側は104号竪穴住居址によって切られ、南側は93号竪穴住居址により上を削られている。また1号掘立柱建物址27号柱穴にも切られていた。一辺（南辺）約3.9mの住居址が最大で幅2.1mまで検

出された。南辺の方位はN-48°-E (N-42°-W (余角))である。壁の立ち上がりは最大で約0.2mを測る。覆土は黒味の強い黒褐色土であった。南隅は楕円形の土坑状の掘り込みがあり、不明瞭であったが、南および東隅付近がやや深い掘り方を有する。D-3・4区に集中する竪穴住居址群の中で、切り合い上、最も古い住居址の一つに該当する。出土遺物は7世紀～8世紀の遺物が出土している。

63号竪穴住居址（図118）

調査区のD-4-E-4区で検出された。北隅から中央部にかけてと南壁の大半を搅乱によって壊されていたが、平面形は約5.9×5.1mの方形プランをなす。軸方位は長軸でN-40°-E (直交方位N-50°-W)である。次に述べる74号竪穴住居址のプランを掘削する過程で生活面と思われる面が捉えられたので住居址とした。74号竪穴住居址の覆土中に構築されており、北・西辺は74号住居址のやや内側に存在するが、東辺は不明瞭であった。壁の立ち上がりは約0.18mである。覆土は黒褐色土であった。北西壁寄りの所で大形の砂岩礫が数個近接して発見されたが、竈は見つからなかった。7世紀前葉の遺物が出土した。

74号竪穴住居址（図119・120）

調査区のD-4、E-4区で検出された。北隅から中央部にかけてと南辺の大半を搅乱によって壊されていたが、平面形は約5.9×5.1mの長方形プランをなす。軸方位は長軸でN-40°-E (直交方位N-50°-W)である。93・154号竪穴住居址・9号溝を切って作られていた。壁の立ち上がりは0.3m程度。覆土は黒褐色土であった。竈は西壁中央付近に存在し、その西寄りに土坑が存在した。竈には切り出した一対の砂岩が袖として配置され、それらの間の中央に甕が3個重ねて据えられていた。そのうちの下位の甕（図133-83）は焚口側の脇部に打ち欠きにより半円形の穴があけられていた。支柱として用いられていたと判断された。上位の甕（同図84）は下位の甕の上に被さって潰れており、上位の甕は、下位の甕の口縁部に、底部載せて据えられていた。この上位の甕の中に小ぶりの同図82が入っていた。竈の袖石の内側はよく焼けて赤化しており、竈の内部の土にも多量の焼土が含まれていた。竈の下には長楕円の掘り方が存在した。掘り方覆土は黒褐色をなし、焼土や竈構築材の破片を少し含んでいた。西側の土坑には完形の長胴甕（同図81）が正位に設置され、その脇に、土坑を覆うように大形の土器片（瓶）（同図87）が潰れて出土した。また大形の土器片と同レベルから、砂石の切石と高坏（図134-91）が出土した。土坑内の土は黒褐色で、焼土は含まれていなかった。掘り方は、前述した竈の掘り方の他に、住居址の西側に凹みがみられた。掘り方は、土坑から東側に向かって細長く低い部分が存在し、北西壁の直下も溝状に低くかった。遺物から時期は6世紀末又は7世紀前葉と判断される。

93号竪穴住居址（図123）

調査区のD-4区で検出された。プランは182号竪穴住居址を切っている北東辺が明瞭で、その底面を追究して平面形を捉えた。平面形は約4.5×3.5mの長方形をなすと考えたが、南東壁の位置はもう少し東側であった可能性がある。軸方位は長軸でN-37°-E (N-53°-W)である。南東側は74号竪穴住居址によって切られて消失しており、中央は1号掘立柱建物址の27号柱穴に切られていたが、182・104・154号竪穴住居址を切って構築されていた。壁の立ち上がりは約0.17mである。覆土は黒褐色土であった。74号竪穴住居址（6世紀末又は7世紀前葉）に切られ、104号竪穴住居址（6世紀末又は7世紀前葉）に切られており、それらの竪穴住居址と同じ時期（6世紀末又は7世紀前葉）と判断される。

74号竪穴住居址

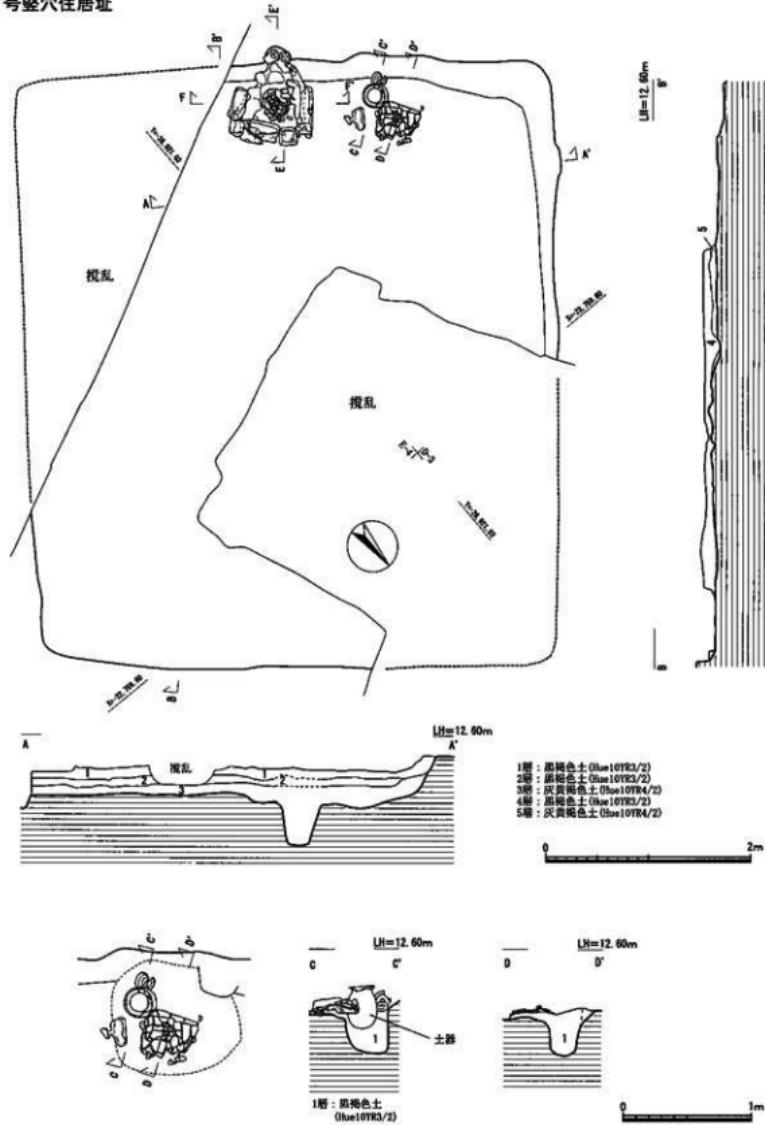
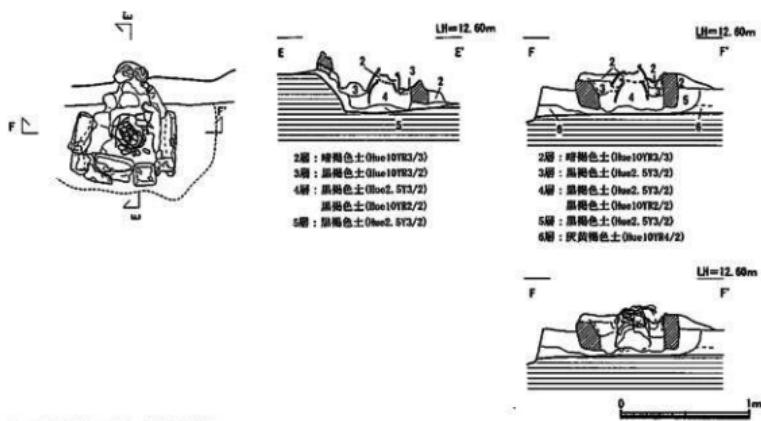


図119 74号竪穴住居址実測図（1）(1/50・1/40)

74号竪穴住居址（竪）



74号竪穴住居址（掘り方）

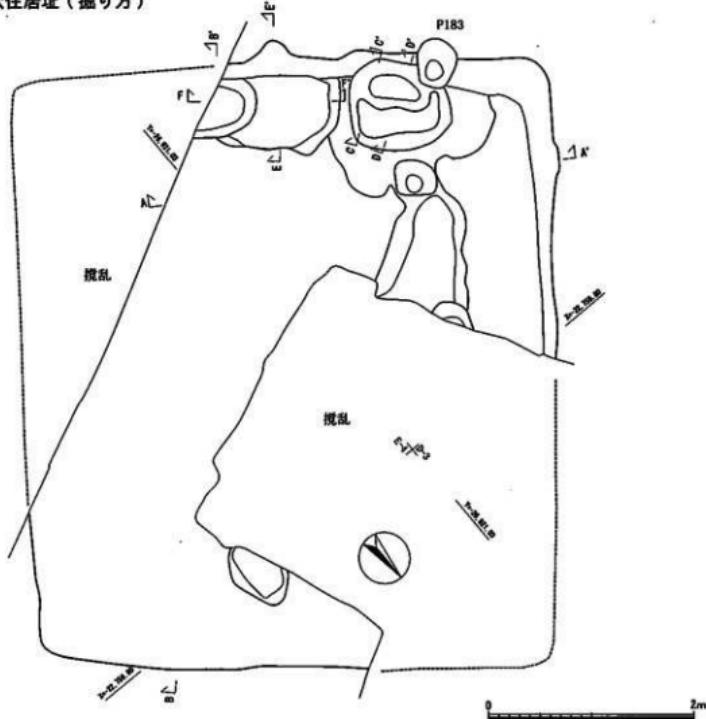
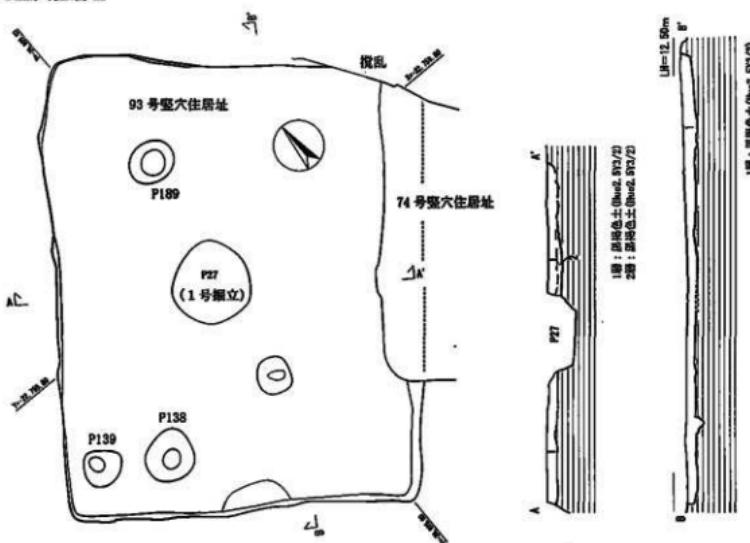


図120 74号竪穴住居址実測図（2）（1/50・1/40） 土層断面図は図119に掲載。

93号竪穴住居址



154号竪穴住居址

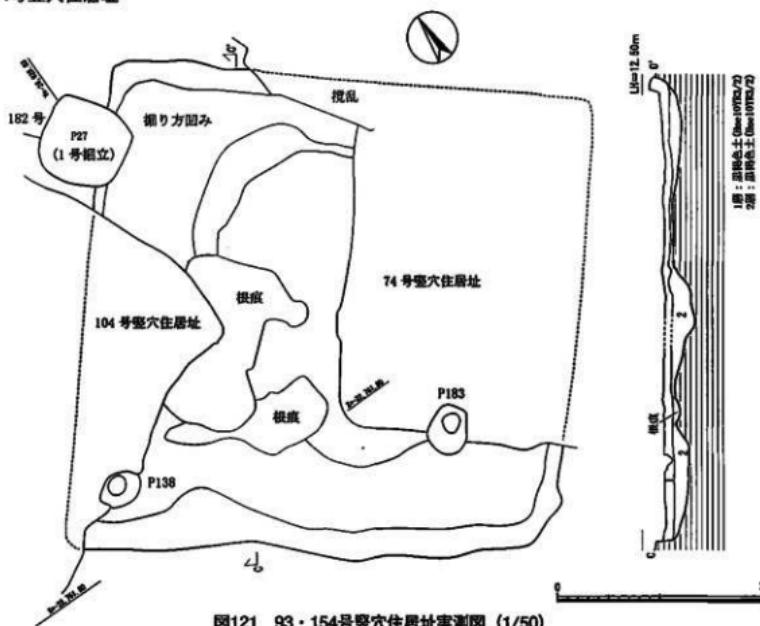


図121 93・154号竪穴住居址実測図 (1/50)

2. 国際先端医学研究拠点施設新設工事に伴う発掘調査（1223調査地点）

104号竪穴住居址

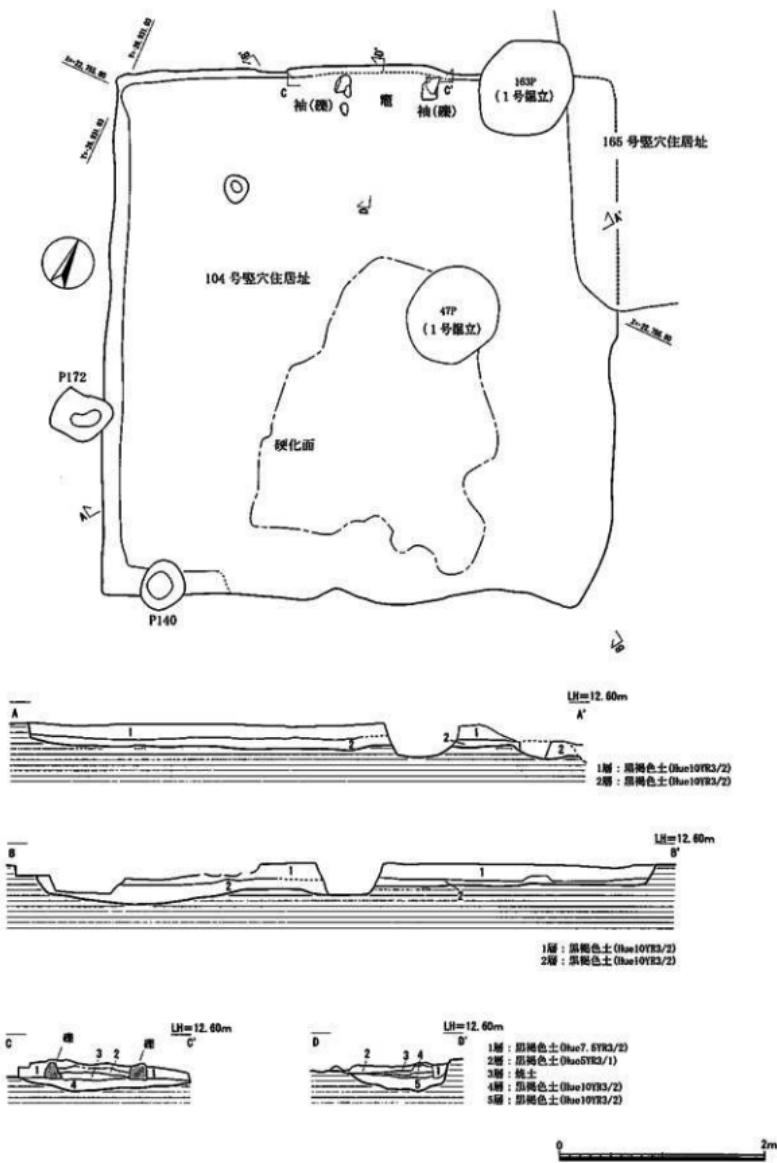


図122 104号竪穴住居址実測図 (1) (1/50)

104号竪穴住居址 挖り方

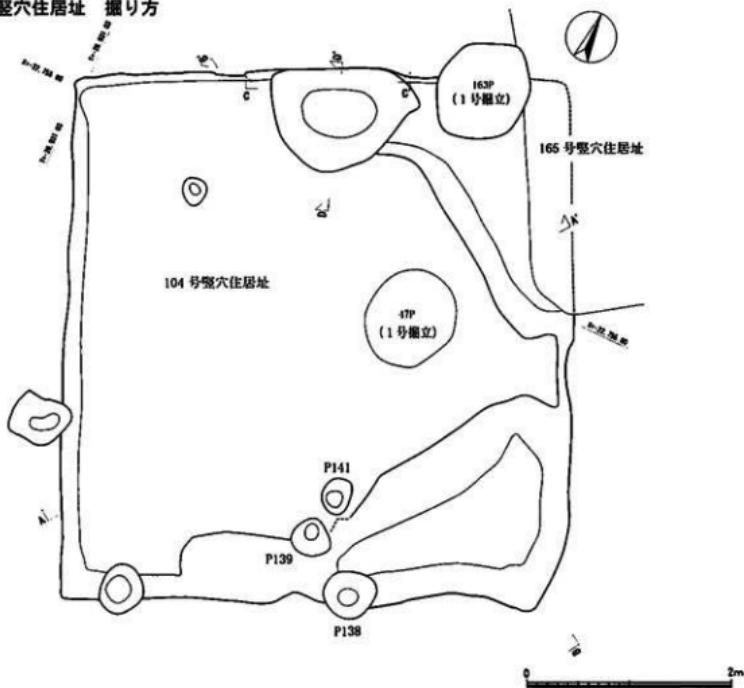


図123 104号竪穴住居址実測図（2）(1/50) 土層断面図は図122に掲載。

154号竪穴住居址（図121）

調査区のD-4区で検出された。平面形は約4.7×4.7mの方形プランをなす。軸方位はN-36°-E (N-54°-W)である。南東側を74号竪穴住居址、西側を104号竪穴住居址や1号掘立柱建物址27号柱穴により切られ、上には93号竪穴住居址が重なっていた。壁の立ち上がりは約0.25mである。覆土は黒褐色土であった。床面より低いレベルにおいて掘り方の掘り込みが確認された。掘り方は住居址中央の円形の範囲が高く、その周囲から壁にかけて低くなるものであった。また中央や西側には根による搅乱と判断される凹みがあった。74号竪穴住居址や104号竪穴住居址（共に6世紀末又は7世紀前葉）に切られているが、出土遺物の時期に大きな差がないため、それらの竪穴住居址と同じ時期（6世紀末又は7世紀前葉）と判断される。

104号竪穴住居址（図122・123）

調査区中央のD-3・4区で検出された。平面形は約5.1×5.0mの方形プランをなす。軸方位はN-24°-Wである。120号竪穴住居址を切るが、90・93・154・165号竪穴住居址に切られていた。また1号掘立柱建物址（47・163号柱穴）にも切られていた。壁の立ち上がりは約0.2mである。覆土は黒褐色土であった。プランの中央から南壁に向かって主軸を中心として1.5~2.3mの幅で硬化面が存在

した（図122）。硬化面より下位には、北東隅および南東隅を中心として掘り方と判断される掘り込みが存在した（図123）。掘り方は北東隅および南東隅で明瞭で、隅を中心として直角三角形状の低い部分が存在した。竈は北壁中央にあった。竈の左右両側には砂岩が袖として用いられていた。竈内には焼土が多く、層をなして存在していた（第122号土層断面図D-D'の3層）。竈の下部には主軸と直交方向に長軸をもつ不整規円形の掘り方が存在した。74号竪穴住居址（6世紀末又は7世紀前葉）より古く、120号竪穴住居址（6世紀末又は7世紀前葉）に切っているが、出土遺物の時期には大きな差はなく、それらの竪穴住居址と同じ時期（6世紀末又は7世紀前葉）と判断される。

120号竪穴住居址（図124・125）

調査区のC-3・4、D-3・4区で検出された。平面形は約4.8×4.9mの正方形プランをなす。軸方位は長軸でN-58°-W（直交方位はN-32°-E）である。南側は104号竪穴住居址、南東側は165号竪穴住居址により切られていた。また1号掘立柱建物址の柱穴（7・32・43・163号柱穴）が本住居址の覆土を掘りこんでいた。壁の立ち上がり約0.2mである。覆土は黒味の強い黒褐色土であった。北西壁下から主軸を中心に幅約1.2~1.8mの硬化面が帯状に存在した（図124）。南西部は床面まで104号竪穴住居址により削られていたので、硬化面は確認できなかった。竈は西壁中央にあり、西側は切石、東側は粘土が袖として遺存していた。奥壁は焼土により赤化し、竈の内側には土器小破片が散在していた。竈の下には主軸に直交する長方形の掘り込みが存在した。また北西壁際および南西壁際では硬化面より下位レベルにおいて、掘り方と判断される幅0.6m前後の溝状の掘り込みが確認された（図125）。本竪穴住居址はC・D-3・4区に集中する竪穴住居址の中で切り合上、最も古いものの1つである。出土遺物より時期は6世紀末又は7世紀前葉と判断される。

206号竪穴住居址（図125）

調査区西寄りのC-2・3区で検出された。平面形は方形をなす。南側を搅乱によって壊されていたが、確認できた一辺は約3.4mを測る。辺に平行する東西軸方位はN-77°-E（直交方位N-13°-W（余角））である。また中央にも搅乱が存在し、住居址を2つに分断していた。壁の立ち上がりは最大で約0.15mである。覆土は黒褐色土であった。搅乱以西に本住居址に伴うと判断される柱穴が1基存在した。掘り方と判断される掘り込みも存在し、搅乱以西は、壁下から住居址中央付近に向かって緩やかに下がる。搅乱以東は長方形の凹みが存在した。覆土がII層下部に類似するため、時期は古墳時代後期又は古代と判断される。

207号竪穴住居址（図126）

調査区西側のB-3区、C-3区で検出された。平面形は方形プランをなす。南側を搅乱で壊され、北西隅は調査区外に出ていたが、確認できたところでは軸長約2.3mをなす。東西軸方位はN-77°-W（直交方位N-13°-E（余角））である。219・220号ピットには切られていたが、208号竪穴住居址を切って構築されていた。壁の立ち上がりは約最大で0.15mである。覆土は黒褐色土であった。覆土がII層下部に類似するため、時期は古墳時代後期又は古代と判断される。

208号竪穴住居址（図126）

調査区西側のB-3区で検出された。平面形は方形プランをなす。北側は調査区外に出ており、南側は搅乱により壊されていたが、軸長は約3.8mあることが確認された。東西軸方位はN-66°-E（直交方位N-24°（余角）-W）。切り合は219・220号ピット・207号竪穴住居址より古く、247号土坑よりも新しい。壁の立ち上がりは最大で約0.2mである。覆土は黒褐色土であった。調査区壁下のやや西寄りに柱穴と判断される掘り込みが1基存在した。掘り方と判断される掘り込みは比較的深く存在し、東側では約0.25mの深さをもって凹んでいた。覆土がII層下部に類似するため、時期は古

120号竪穴住居址

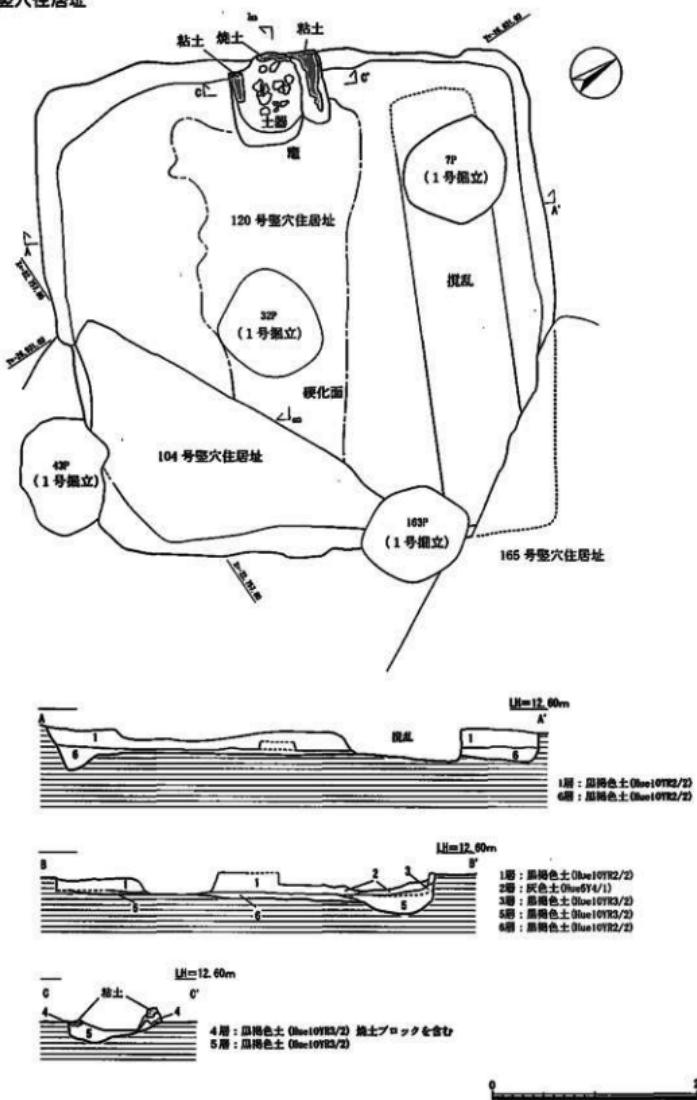
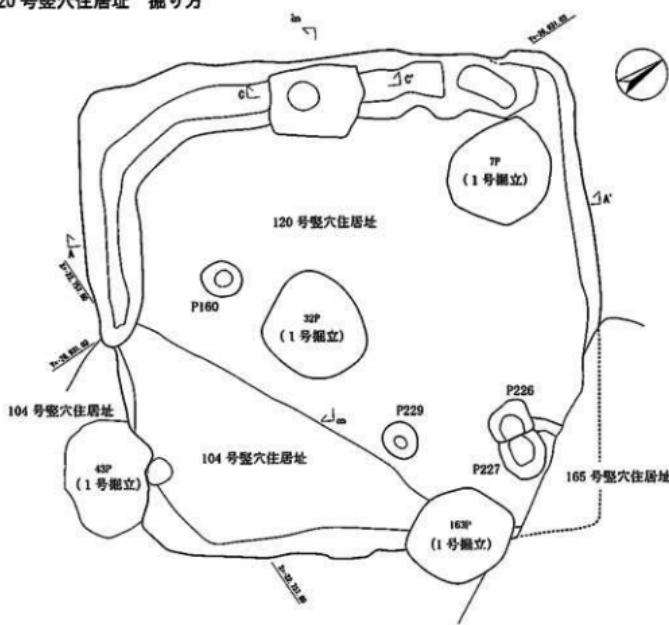


図124 120号竪穴住居址実測図（1）(1/50)

墳時代後期又は古代と判断される。

2. 國際先端医学研究拠点施設新設工事に伴う発掘調査（1223調査地点）

120号竪穴住居址 挖り方



206号竪穴住居址

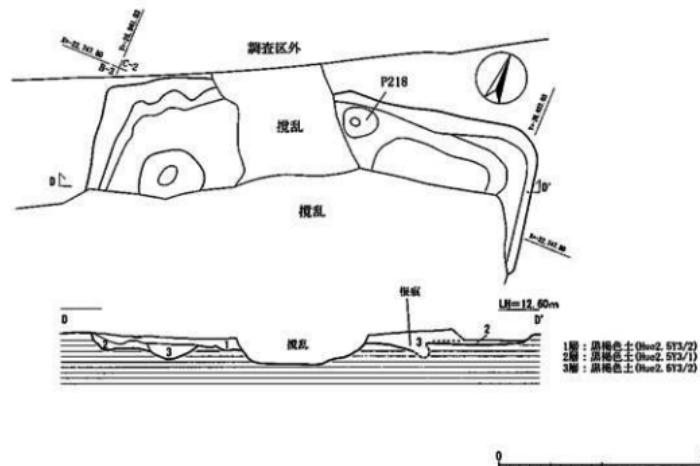
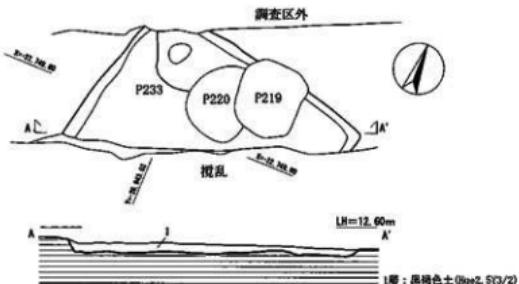
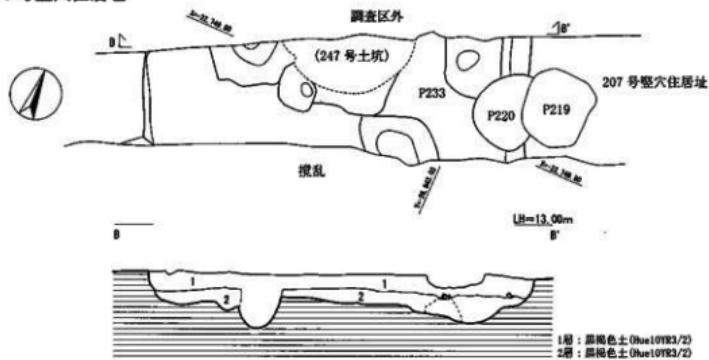


図125 120・206号竪穴住居址実測図 (1/50) A-A' ~ C-C' 土層断面図は図124に掲載。

207号竪穴住居址



208号竪穴住居址



210号竪穴住居址

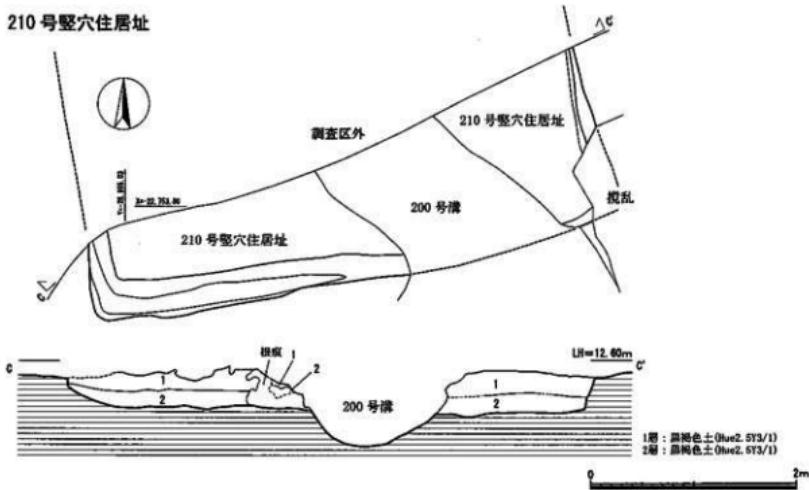


図126 207・208・210号竪穴住居址実測図 (1/50)

210号竪穴住居址（図126）

調査区西側のA-3区、B-3区で検出された。平面形は方形プランをなす。北側が調査区外に出ていたが、一辺が約5.1mあることは確認された。確認された一辺に平行する東西軸方位はN-80°-E（直交方位N-10°-W（余角））である。住居址の中央を200号溝が切り、本住居址は分断されていた。壁の立ち上がりは最大で約0.25mである。覆土は黒褐色土であった。掘り方は約0.2mの深さをもち、西および南壁際に溝状の低い部分をもっていた。覆土がⅡ層下部に類似するため、時期は古墳時代後期又は古代と判断される。

215号竪穴住居址（図127）

調査区南側のD-4区で検出された。平面形は方形プランをなす。南側を擾乱によって壊されており、規模はよくわからないが、一辺5m以上はある。軸方位は竪の付く辺に平行する軸でN-44°-E（直交方位N-46°-W（余角））である。住居址北隅近くの1号ビット列の244号柱穴は本住居址の覆土を切って掘られていた。壁の立ち上がりは約0.3mである。覆土は黒褐色土であったが、住居址東側は暗褐色をなしていた。主軸線を中心にして幅1.4~1.5mの硬化面が帯状に存在した。硬化面を切って、本住居址に伴うと判断される柱穴が1基検出された。竪は北西壁にあった。長方形に切り出した砂岩を一对配置して袖を作っていた。袖に挟まれた中央は窓み、燃焼面が確認された。また燃焼部から北西側に伸びる煙道の残骸を確認した。竪に下には円形の掘り込みが存在した。また硬化面より低いレベルにおいては、住居址の東側と西側で、浅い不定形の掘り込みが確認された。西側の掘り込みは北西側と南東側を擾乱により切られていた。東側の掘り込みは東壁際を基準に1.2~1.6mの範囲にわたって面状に低くなっていたが、特に低い部分は北西-南東方向に向く溝状を呈していた。覆土がⅡ層下部に類似すると同時に、1号ビット列の244号柱穴（9世紀末又は10世紀初め）に切られているため、時期は古墳時代後期又は古代（9世紀末以前）と判断される。

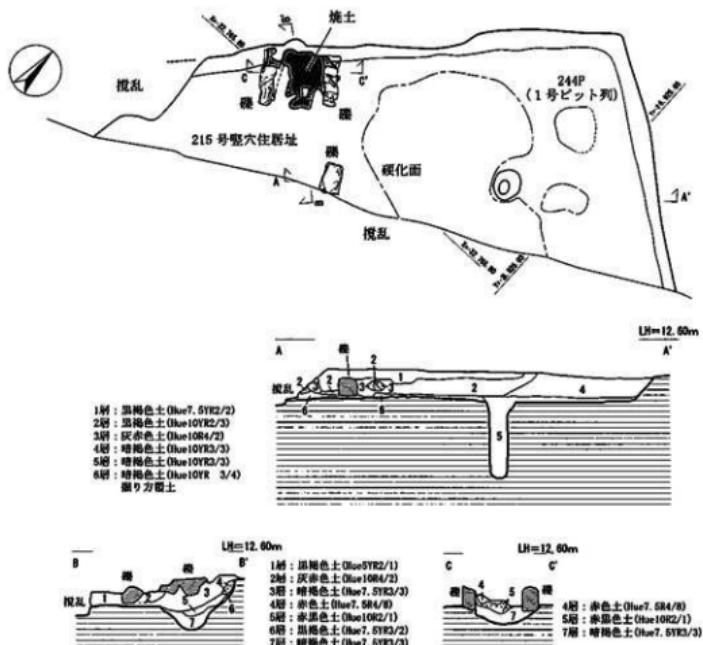
＜掘立柱建物址＞

方形の配列が認められる柱穴群を一つの単位と考え、掘立柱建物址とした。調査区中央のD-3・4区、E-3・4区で1基検出された。1号掘立柱建物址とした。

1号掘立柱建物址（図128）

調査区中央のD-3・4区、E-3・4区で検出された。検出された18基の柱穴より構成される。この柱穴は竪穴住居址と重なるものでは、全て住居址を切って掘られていた。また13号溝をも切って構築されていた。柱穴の二重長方形配列が認められ、四面庇掘立柱建物址と判断した。北東隅は4号溝によって切られていたため確認されていない。また擾乱や竪穴住居址と重複して検出されなかつたものもあると推定する。内側の長方形配列は身舎と考えられ、4隅に径1m前後の大型柱穴（8・39・163・164号柱穴）を配する。柱穴は円形。規模は柱穴間で桁行約7.2m、梁行約4.8m。柱間間数は、8号柱穴と39号柱穴の間には柱穴は確認できなかったので、163号柱穴と164号柱穴の間のビットは本掘立柱建物址の柱穴ではないと判断し、桁行・梁行とも1間であったと想定した。庇は桁行が5間（東側は擾乱で確認できず）と推定され、梁行は4間である。庇柱は身舎の4隅の柱穴より若干小さいとは言え、径0.8~1.0mあった。柱穴は隅丸方形に近いもの（20・24・27号柱穴）もあったが、大部分は円形であった。柱穴の中には柱痕を検出できたものがある。柱痕跡が確認できたもので柱間距離を測ると、庇柱では梁行約2.7mであった⁽¹⁾。総長は桁行約12.6m、梁行約9.6m。軸方位は梁行で、N-5°-Wをなし、北に近い方位をとっていた。柱穴深度は最大で0.6mあった。柱穴深度については身舎の柱穴が庇の柱穴に比べ深いという傾向は見られなかった。柱穴覆土はⅡ層上部に類似する暗褐色土が入っており、竪穴住居址や13号溝より新しいのは確実であった。時期は、竪穴住居址より新

215号竪穴住居址



215号竪穴住居址掘り方

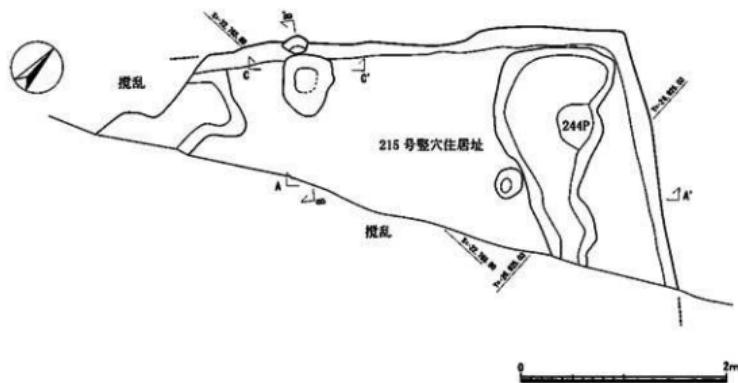


図127 215号竪穴住居址実測図 (1/50)

しいこと、9世紀後葉～末の土師器が覆土中から出土していることから、9世紀末又は10世紀初めと判断される。

この他前述の掘立柱建物址を構成する大形の柱穴と類似する柱穴が存在した（図96・186号ピット等）。単独で存在し、組み合う柱穴は見つからなかったため、掘立柱建物址とは扱わなかった。

＜ピット列＞

直線的な配列が認められるピット列を一つの単位と考え、ピット列と扱った。調査区南東部のD-4区で1基検出された。1号ピット列とした。

1号ピット列（図128）

調査区中央のD-4区に存在する。3基のピットより構成される。発掘調査の過程で竪穴住居址より新しいピットであることはわかっていたが、打って返しの関係で、2回に分けて調査したため、組合せのわからないピットとして認識していた。出土品整理の過程で、ピット列として番号を付けた。このピットは、154・215号竪穴住居址を切って掘られていた。216号ピットの西側に関連するピットは見つからなかった。また35号ピットの東側は擾乱により壊されており、規模は分からぬ。ピットは不整円形ないしは楕円形で、直径は最も高い確認面（II層下部の上位）で確認された35号ピットで0.45mある。1号掘立柱建物址の柱穴より規模は小さい。ピット間は約1.3mで均等に間隔をあけ、総延長約2.6mあった。軸方位はN-85°-E（N-5°-W（余角））をなし、1号掘立柱建物址と平行していた。ピット覆土はII層上部に類似する暗褐色土が入っていた。時期は、竪穴住居址より新しいこと、9世紀後葉～末の土師器が出土していることから、9世紀末又は10世紀初めと判断される。掘立柱建物址の一部という見方もできるが、柵列などの可能性も想定される。

＜土坑・ピット＞

掘立柱建物址の項で説明したものをお除き、軸長が約0.7m以上ある大形の掘り込みを土坑として報告する。土坑は調査区の西側、特に南西部のB-5・C-5区付近にまとまっていた。また小形の円形の掘り込みはピットとして造構全体図に掲載した。ピットは根穴の可能性があるものも含まれていると判断される。

54号土坑（図129）

調査区中央のD-3区で検出された。平面形は約2.2×1.5mの不整方形プランをなす。長軸方位はN-23°-Wである。壁の立ち上がりは約0.2mである。西側は擾乱、東側は1号掘立柱建物址の柱穴（16号柱穴）と55号溝により切られていた。覆土は黒褐色土であった。出土遺物により、時期は古墳時代後期（7世紀後葉）と判断される。

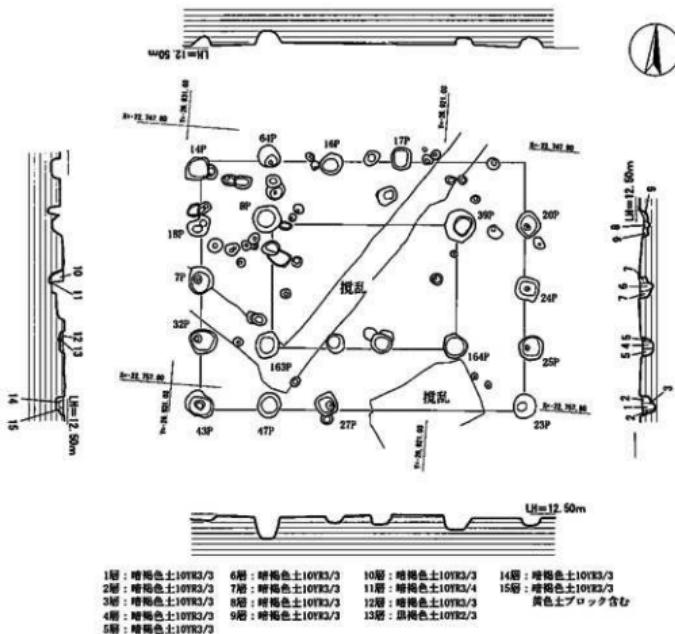
105号土坑（図129）

調査区東側のE-4区で検出された。平面形は方形プランをなすが、東・南・西側を擾乱により壊されているので、確認されたのは北辺の約1.6mだけである。北辺の方位はN-63°-E（N-27°-E（余角））。壁の立ち上がりは約0.15mである。覆土は黒褐色土であった。覆土がII層下部に類似するため、時期は古墳時代後期又は古代と判断される。

212号土坑（図129）

調査区西側のC-5区で検出された。隅が角張ることから、方形基調の掘り込みの可能性がある。南側半分を擾乱により壊され、上部を200号溝により削られていた。残存部の規模は最も長い所で約1.0mを有する。東側の壁は直立していた。深さは最深部で約0.5mを測る。底面は平坦をなす。覆土はII層下部に類似した黒褐色土が主体をなしていた。覆土がII層下部に類似するため、時期は古墳時代後期又は古代と判断される。

1号掘立柱建物址



1号ピット列

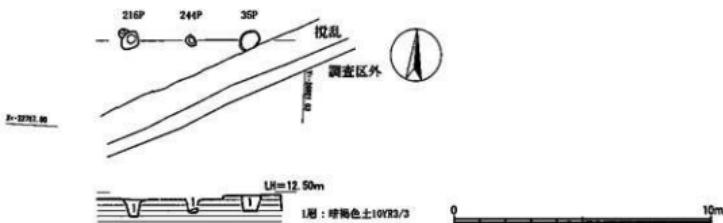


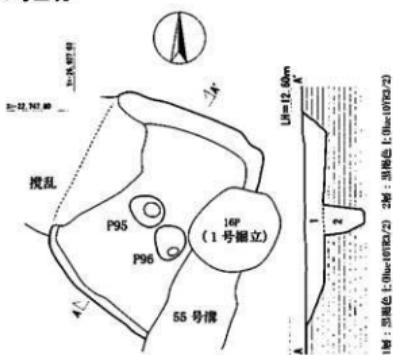
図128 1号掘立柱建物址・1号ピット列実測図 (1/100)

213号土坑 (図129)

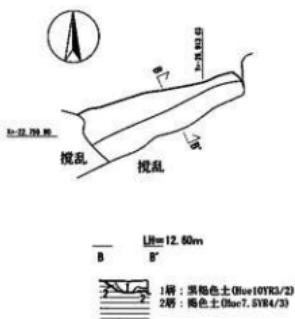
調査区南西部のB-5区で検出された。南側を擾乱により切られる。短軸長11.1m、深さ0.37mを測る。覆土は黒褐色土からなる。時期は古墳時代後期又は古代と判断される。

2. 国際先端医学研究拠点施設新設工事に伴う発掘調査 (123調査地点)

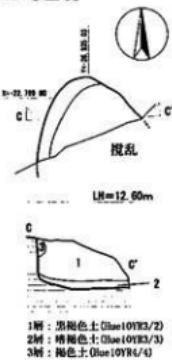
54号土坑



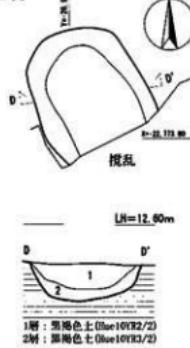
105号土坑



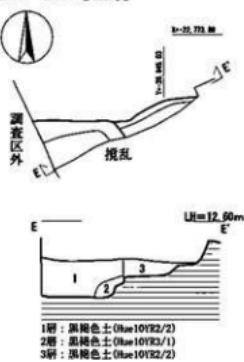
212号土坑



213号土坑



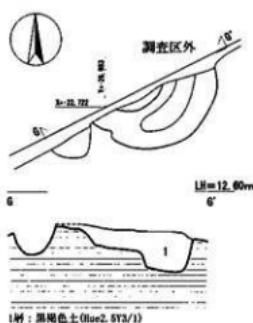
236・237号土坑



243号土坑



247号土坑



251号土坑

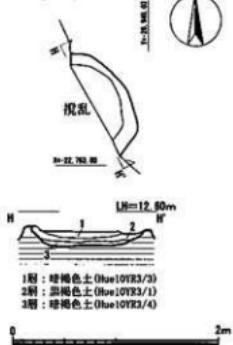


図129 土坑実測図 (1/50)

236号土坑（図129）

調査区南西部のB-5区で検出された。南側を擾乱により失い、西側は調査区外に出ていた。東隣にある237号土坑を切っていた。角が角張っているため、隅丸方形のプランになる可能性がある。残存部の規模は軸長で約0.8m。深さは最深部で約0.4mを測る。底面は比較的平坦であった。覆土はII層下部に類似した黒褐色土が堆積しており、下底面は砂層まで達していた。覆土がII層下部に類似するため、時期は古墳時代後期又は古代と判断される。

237号土坑（図129）

調査区南西部のB-5区で検出された。東および南側を擾乱によって壊され、西側を236号土坑により切られていた。長さ約0.8m、幅約0.2mが残存していた。深さは最深部で約0.2mを測る。覆土はII層下部類似の黒褐色土が堆積していた。覆土の特徴により、時期は古墳時代後期又は古代と判断される。

243号土坑（図129）

調査区西側のB-5区で検出された。平面形は梢円形をなす。西側を擾乱により壊されていたが、残存部から考えて、短軸は約0.8m以上あると判断される。深さは最深部で約0.4mを測る。覆土はII層下部類似の黒褐色土であった。覆土の特徴により、時期は古墳時代後期又は古代と判断される。

247号土坑（図129）

調査区西側のB-3区で検出された。平面形は円形をなすと判断されるが、北半分は調査区外に出ていた。208号竪穴住居址より古く、上部は208号住居址により削られていた。残存部から見ると、径は約1.3mを有する。深さは最深部で約0.3mを測る。覆土は黒褐色土であった。覆土がII層下部に類似したことにより、時期は古墳時代後期又は古代と判断される。

251号土坑（図129）

調査区西側のB-4区で検出された。平面形は円形をなすと判断されるが、西側は擾乱によって壊されていた。残存部は最大長で約1.1mを測る。深さは最深部で約0.15mを測る。覆土は暗褐色土および黒褐色土からなっていた。覆土がII層下部に類似したことにより、時期は古墳時代後期又は古代と判断される。

(5) 出土遺物（図130～137）

遺物としては、縄文時代の土器・石器、古墳時代・古代（奈良・平安時代）・中世・近世の土器・陶磁器・土製品・石製品などが出土した。出土量はコンテナ33箱分である。

遺物は造構覆土および造構外II層・I層などから出土した。造構内出土遺物（造構別）、それに引き続き、造構外出土遺物を以下に報告する。造構内出土遺物の報告がない造構は、遺物が出土していないか、出土していても遺物が少なかったり、零細な遺物しか存在しなかったりして、造構の時期を言及できる資料がない造構である。

4号溝出土遺物（図130：1～23）

4号溝からは古墳時代から近世にかけて多くの遺物が出土した。1～12は古墳時代および古代、中世の遺物である。1は土師器で、瓶の把手である。この他にも土師器片は出土しているが、溝より古い時代の遺物であると判断されるので、図化はしなかった。須恵器は竪穴住居址からはあまり出土しなかったタイプの遺物（2～4）を紹介する。2は壺で、頸部直下にヘラによる鋸歯文が描かれている。3は鉢ないし壺形をなすと判断されるもので、外面には把手、内面には指おさえ痕が存在する。4は墨書きをもつ高台付壺である。5は緑釉陶器の皿である。6～10は貿易陶磁である。6は越州窯系

青磁碗のⅠ類1a（山本2000）と考えられる。蛇の目高台をもつもので、胴部下部に垂れた釉薬がわずかに見えるが、豊付けは無釉となっている。目跡はない。7は越州窯系青磁碗のⅠ類5（山本前掲）と考えられている。底部外面はわずかに上げ底気味の平底で、豊付けは無釉となり、内面に目跡をもっている。同例は8世紀末～10世紀中葉の所産と判断される。8は龍泉窯系青磁碗Ⅰ4a'類（山本前掲）である。体部外面は無文で、体部内面は2条の分割線のみで、紋様を施さない略式形式である。12世紀中葉～後葉の所産と判断される。9は龍泉窯系青磁碗Ⅱ類b（山本前掲）で、鎬選弁文をもつ。13世紀初頭～13世紀前葉に伴うものである。10・11は布目瓦の平瓦である。10は内面に布目痕、外面上に網目タキを有している。11は内面に布目痕、外面上に格子目型タキを有している。12は瓦質土器で、破片上部に沈線文様をもっている。

13以降は近世の遺物。13～18は肥前系陶器。13は薄手の鉢で、内外面に緑色の釉薬を施している。14は皿で、深緑色の釉薬をかけている。豊付および高台側面は無釉で、豊付には砂目が残っている。17世紀後半の所産であろう。15は瓶のような器形をなし、外面に黒色の鉄釉で文様を描いている。16・17は皿。内面・外面に銅緑釉が施されているが、見込み部分は蛇の目風に釉剥ぎがされている。見込みには砂目の跡があることから、17世紀後半の所産と判断される。18は京焼風陶器皿。見込みには鉄絵で山水文を描いている。高台は角形にしっかりと削り出し、高台内に刻印を押している。17世紀後半の所産である。19・20は肥前系染付で、19は碗、20は皿である。21は播鉢で、外面に肥厚する口縁、内面に摺り目をもっている。22・23は破片面子である。23は須恵器、22は釉薬のかかった壺を素材としている。破片の周囲を打ち欠きは粗大であり、円盤状に仕上げる途中の未成品と判断される。この他に鉄滓や鉄片（図版94）が出土した。碗形滓（図版94）もあり、古代のものも含まれている。

200号溝出土遺物（図131：24～29）

24は土師器の壺、25は高台の付く土師器の碗で、それぞれ9世紀前葉、9世紀中葉～後葉の所産である。26は須恵器の壺の口縁部資料で、頸部に波状沈線を描いている。27は外反する口縁をもち、内外面無文のものである。属性が少なく判断に迷うが、胎土の特徴から龍泉窯系青磁碗の可能性がある。時期は12世紀中葉～後葉と考えられる。28は瓦質土器で、内面にハケ目、外面上に格子目型によるタキが見られる。29は近世の摺鉢である。

13号溝出土遺物（図131：30～32）

30は土師器の碗で、平坦な底部の下端が外側に張り出している。9世紀末頃の所産。30・31は須恵器の蓋である。30は口縁に身受けの返しをもつもので、7世紀中葉の所産である。天井部には回転ヘラケズリを施している。

9号溝出土遺物（図131：33）

32は須恵器の壺の口縁部資料。口縁部下が肥厚している。

204号溝出土遺物

古墳時代後期～古代の土器破片が少量出土したが、時期を限定できる資料はなかった。

205号溝出土遺物

古墳時代後期～古代の土器破片が極少量出土したのみで、時期を限定できる資料はなかった。

10号竪穴住居址出土遺物（図131：34・35）

34はハケ目のついた胴の張る壺の口縁部資料である。35は須恵器の杯で、内湾気味に直立する口縁部を有している。7世紀前・中葉の所産である可能性がある。

11号竪穴住居址出土遺物

土師器の胴部破片や須恵器の小破片が出土したのみである。

123号竪穴住居址出土遺物（図131：36～47）

36～40は土師器。36は丸みを帯びた体部の外面にケズリ、内面にミガキを施した壺である。37・38・40は壺で、37・38は外面にハケ目、内面にケズリ、40は内面にケズリを施している。39は内外面にミガキを有する碗である。41～45は須恵器。41・42・44・45は壺である。41・42蓋受けの返りをもっており、6世紀末～7世紀前葉の所産と判断される。45は底面角に高台のついたもので、8世紀の所産であろう。43は甌であろう。体部の屈曲部に斜めの小刻みを付している。46は貿易陶磁（白磁）で、薄手の皿である。47は布目瓦の平瓦である。内面に布目痕、外面に繩目タタキ痕を有している。

142号竪穴住居址出土遺物（図131：48～51）

48～51は土師器の壺で、48は体部に段を有する。6世紀後葉～7世紀前葉の所産であろう。48は丸みをもつ体部と、外反する口縁を有している。50は小形の平底をもつもので、9世紀末の可能性がある。51は口縁部が直線的に外反する土師器の甌である。

12号竪穴住居址出土遺物（図132：52～57）

52は体部に丸みをもつ土師器の碗で、内外面がよく磨かれている。53～57は須恵器。53は蓋で、口縁に身受けの返しをもっている。54は外傾する体部と、直立気味に立ち上がる口縁を有する杯である。7世紀中葉の所産と判断される。56は壺、57は口径が小さく甌の口縁かと判断される。55は薄手の須恵器の碗である。

73号竪穴住居址出土遺物（図132：58～60）

58～60は土師器である。58と59は重なって出土したもの（図版80：写真182）、58は高壺の脚部、59は3足の脚をもつ壺形土器である。59は球形の体部をもち、外面がよく磨かれている。60はハケ目をもつ甌である。このほか須恵器では高壺脚部付近の破片が1点ある。

62号竪穴住居址出土遺物（図132：61～64）

61は土師器の盤。口径は大きく、扁平である。62は土師器の壺で、内外面に顯著な回転ヘラミガキを有する。共に8世紀後葉の所産と判断される。63・64は須恵器である。63は蓋である。身受けの返りをもつが、返り部分が長く、口縁端よりも下がる。7世紀前葉の所産である。64は高台を有し、口縁部が外反する壺である。高台は直線的で、断面が角張る短いものが、底部でもやや中央寄りに付いている。8世紀後葉の所産である。この他高壺の脚部片などが出土している。

76号竪穴住居址出土遺物（図132：65・66）

65は平底の土師器である。66は直線的に開き、口縁部が外反する須恵器壺ないし碗の口縁部資料である。器高が高い傾向がある。共に8世紀中葉～9世紀の所産と判断される。

147号竪穴住居址出土遺物

図化した遺物はないが、6世紀末～7世紀前葉に属する蓋受けの返りをもつ須恵器壺の小破片が出土している。

90号竪穴住居址出土遺物（図132：68～71）

68～70は土師器である。68は体部中位に屈曲、体部下半外面にケズリをもつ壺である。69は高壺。70は体部にハケ目をもつ小形の甌であろうか。71は高台の付く須恵器である。高台は短く、断面が角張るもので、底部端ではなく、若干底部中央寄りに付いている。8世紀後葉の所産と判断される。

165号竪穴住居址出土遺物（図132：67）

67は頸部が括れ、体部が大きく張り出す器形をなす土師器の甌で、外面にハケ目を施している。外面は赤色を呈する。古墳時代中期頃の可能性が考えられる。

182号竪穴住居址出土遺物（図132：72）

72は丸みをもつ体部と、直立する口縁をもつ須恵器の坏である。

63号竪穴住居址出土遺物（図132：73～75）

73は土師器の高坏、74は須恵器の蓋、75は須恵器の坏である。73は高坏脚部基部が厚い傾向がある。74は身受けの返り部分が長く、口縁端よりも下がるため、7世紀前葉の所産と判断される。123号竪穴住居址でも同一個体が出土している。75は直線的に開く碗である。この他、土師器壺の口縁部破片も出土している。

74号竪穴住居址出土遺物（図132：76～80、図133、図134：88～94）

本調査で最も多くの遺物を出土した竪穴住居址である。

76～88は土師器である。76～78は坏である。76は体部外面下位にケズリを施し、中位に稜をもつ丸底のもので、6世紀末～7世紀前葉の所産と判断される。77は丸い体部をもち、内面にミガキを有するものである。78は平底の坏で、9世紀前葉の所産である。79・80は高坏である。79は杯部の体部は稜をもって屈折している。81～86は頸部が活け、体部が張る壺であるが、体部の長さが縦長化している。外面にはハケ目、内面にはケズリ（継目・下→上へ）が施されている。81は土坑内から直立した状態で出土したものである。83は体部を意図的に打ち欠いてある。竪内で出土したもので、支柱として用いられていたものと判断された。84・82も竪内出土で、83の上に載せられた状態で出土した。

87・88は壺。体部から口縁部にかけて直線的に開く器形をなし、内面はケズリが施されている。とりわけ口縁部直下内面の継目ケズリは顕著である。87は土坑上面から出土したもので、底部に穴があり、体部には突起が付き、ハケ目を施している。

89～93は須恵器である。89は蓋、90は坏、91～93は高坏である。89は身受けの返りをもたない。90は口縁部直下に蓋受けの返りをもつもので、底部にヘラケズリを施している。共に6世紀後葉の所産と判断される。91は体部外面にカキ目を施している。94は半分欠損した滑石製紡錘車である。

93号竪穴住居址出土遺物（図134：95～97）

95は土師器の高坏の脚部資料である。96・97は須恵器である。96は蓋で、身受けの返りをもつ。97は坏身で、蓋受けの返りをもつ。96は7世紀中葉、97は6世紀末～7世紀前葉の所産である。

154号竪穴住居址出土遺物（図134：98）

98は須恵器の高坏の坏部である。杯部は丸く湾曲する体部をもつ。この他、須恵器を模倣した稜をもつ土師器坏の小破片（6世紀後葉～7世紀前葉）が出土している。

104号竪穴住居址出土遺物（図134：99～104）

99は土師器の壺で、外面上に把手とハケ目、内面にケズリを有している。100～103は須恵器である。100・102は蓋で、100は身受けの返しをもたないもの、102は見受けの返しをもつもの。前者は6世紀末～7世紀前葉、後者は7世紀前葉である。101・103は坏で、蓋受けの返しを有している。共に6世紀末～7世紀前葉の所産と判断される。104は管状の土製錘である。

120号竪穴住居址出土遺物（図134：105～108、図135：109～111）

105～108は土師器である。105・106は坏。いずれも内外面に顯著なミガキが認められるが、106は体部にぶい稜を残している。107は高坏の脚部資料である。108は壺で、体部外面にハケ目、内面にケズリを施している。109～111は須恵器である。109は蓋で、身受けの返しをもたないもの、110は蓋受けの返しをもつ坏身で、共に6世紀末～7世紀前葉の所産である。111は壺である。112は貿易陶磁。薄手で、外反する。一般的に、本遺構出土の須恵器は、背磁が出現する時期のものより古く、共伴したものとは考えにくい。113は耳環である。銅製で、表面にわずかに金箔が残る。

206号竪穴住居址出土遺物

図化した遺物はないが、古墳時代後期の須恵器の壺破片資料などが出土した。

210号竪穴住居址出土遺物（図135：114）

114は手捏土器。小形の碗形をなす。古墳時代に作られた天草式と呼ばれる製塩土器である。

215号竪穴住居址出土遺物

遺物は図化していないが、ハケ目のついた土器の胴部資料などが出土した。9世紀代の土師器碗も出土しているが、これは本住居址を切っていた1号ピット群の244号ピットの遺物が混在したものである。

1号掘立柱建物址出土遺物（図135：115～120・123～125）

115は8号柱穴出土の土師器の壺で、体部は直線的に外反し、底部は平底を呈している。法量などからして9世紀末の所産と判断される。また同柱穴からは黒色土器Aの破片も出土している。116は25号柱穴出土の高台付き土師器碗かと判断される。同様の土師器碗は他にも1点出土している。117は17号柱穴出土の高台付き土師器碗かと判断される。両柱穴出土遺物は9世紀中葉～後葉の所産と判断される。118・119は24号柱穴出土である。118は広く外傾する土師器杯で、内面はよく磨かれ、ススが付着し、黒色を呈している（黒色土器A）。119は器高の高い高台付碗である。9世紀中葉～後葉の所産。120は39号柱穴出土の壺である。薄手で底部は平底となり、底面にヘラ切り痕が認められる。9世紀末の所産かと判断される。また同柱穴から同時期と判断される端部が外側に張り出した平底底部をもつ壺破片も出土している。123は32号柱穴出土の須恵器の碗である。高台の形状などから9世紀後葉の所産と判断される。124は23号柱穴出土の土師器片で、墨書きをもっている。曲線的に書かれているが、判読できない。布目瓦片（125）も出土している。また古墳時代の遺物が32・47号柱穴から出土している。

この他図化はしていないが、14号柱穴でも9世紀後葉の高台付碗の破片が1片出土している。また古墳時代の遺物が32・47号柱穴で出土している。古い遺物が土と一緒にに入ったのであろう。

1号ピット群出土遺物（図135：126～130）

126・127は35号ピット出土遺物である。126は土師器の壺で、底部は平底をなし、底部直上でわずかに反りながら体部にかけて直線的に開いている。9世紀中・後葉の所産と判断される。127は須恵器の碗である。底面から体部にかけて曲線的に屈曲し、底面には底面角より中央寄りに低く角張った高台が付けられている。8世紀の所産であろうか。128・129は216号ピット出土遺物で共に土師器の壺で、平底の底部と直線的に開く体部を有している。128はロクロ成形である。9世紀末頃の所産と判断される。130は244号ピット出土の平底と直線的体部を有する土師器で、9世紀の所産であろう。

54号土坑出土遺物（図135：131・132）

131・132は須恵器である。131は蓋で、見受けの返りをもつが、返り部分は短く、7世紀後葉と判断される。132は高壺の脚部資料と判断される。

236号土坑出土遺物（図135：133）

133は須恵器の大形壺で、内外面に工具によるタタキ痕を有している。

ピット出土遺物（図135：121・122・134・135）

121は6号ピット出土の須恵器の高壺である。口縁部に蓋受けの返しを持っており、6世紀の所産である。122は58号ピット出土の須恵器の蓋である。身受けの返しを有し、7世紀前葉の所産と判断される。

134は210号ピット出土の須恵器の蓋である。身受けの返しがあるが、返しの方が口縁部より下位に

あり、7世紀前葉の所産と判断される。135は34号ピット出土の石製の方形硯である。硯の縁および陸部の破片である。P34の覆土は暗褐色土（10YR3/3）で、II層上部と類似するが、同様の覆土をもつピットで近世以降の遺物を出土したものもあり、本遺物および34号ピットの時期は不明である。

遺構外出土遺物

II層出土遺物（図136：136～155）

古墳時代後期から古代にかけての遺物を包含するII層から出土した遺物である。分布的には、遺構の密度が高い調査区東半のC・D区から最も多く出土した。以下、器形のわかる資料や、僅少な遺物を中心に報告する。

136～142は土師器である。136は体部に丸みをもつ壺で、内外面にミガキを施している。137・138は直線的な体部をもって外反する壺で、底部は共に平底と判断される。器面にはナデ整形を施している。137・138は9世紀中～後葉の所産と判断される。139は高壺の壺部である。140・141は壺で、体部外面に綫方向のハケ目、体部内面に綫方向のヘラケズリをもっている。頸部が緩く屈曲し、くの字状を呈することから8世紀後葉～9世紀の所産と判断される。142は小形の細長い把手で、瓶に付くものと判断される。

143～147は須恵器である。143～146は壺である。143は平底の底部と丸く湾曲する体部をもつもので、口縁部に蓋受けの返しをもたない。144～146は外傾する体部をもつもので、144は高台無し、145・146は高台ありである。高台は底面角より内側よった所に付いている。145・146は器高・高台とも低いので8世紀中葉～後葉のものであろう。147は底径に対し器高が低い、盤である。8世紀後葉～9世紀代の所産と判断される。

148～152は刻書をもつもの。148は土師器の碗の底部外面にヘラによる斜めの刻みを連続的に施した資料である。9世紀の所産。149～152は須恵器である。149・150は擬宝珠形つまみをもつ蓋で、149は内面、150は外面にX字状の記号を刻んでいる。151は底部外面に一本の直線刻みがある。152は体部下半に斜格子目状の刻みがある。

153は須恵器を転用した硯。154は土製（土師質）の移動式竈の破片と判断される資料である。鉄状の突出が見られる。

155は、平面形が長方形、断面形が正方形の砥石である。使用により長辺中央が凹んでいる。長方形の両端は折れて欠損している。図の上端の欠損部は弱い磨滅が認められ、折れた後もわずかに使用されたと判断されるが、図下端の欠損部は磨滅がなく、下端部の欠損により廃棄されたと判断される。下端の欠損面に風化が認められることから現代の砥石ではないと判断されるが、形態上は現代の砥石に近似し、いつの時代の所産かはわからない。

I層壺（図136：156・157、図137：158～176）

I a層（埋土・擾乱）・I b層（旧耕作土）などから出土した遺物である。古墳時代以降の遺構から出土した縄文時代遺物もここで紹介する。古墳時代から古代にかけての遺物は器形のわかる資料や、僅少な遺物を掲載した。近世以降の資料は4号溝に多く出土しているので、4号溝に含まれない種類の遺物を報告する。

156・157は縄文時代遺物ないしその可能性があるものである。156・157は無文の土器。156は外面、157は内外面に顯著なミガキが認められる。共に反っている器形をなし、径が大きいため、弥生時代以降の壺ではなく、該期の遺物と判断した。後期後葉ないし晩期前葉の資料であろう。158は磨製石斧、159は石鎌である。158は擬形の平面形をなす。剥片を素材とし、片面に主要剥離面を残している。背面には剥離および敲打による成形が認められる。研磨は全面的に認められるが、刃部表面に入念な

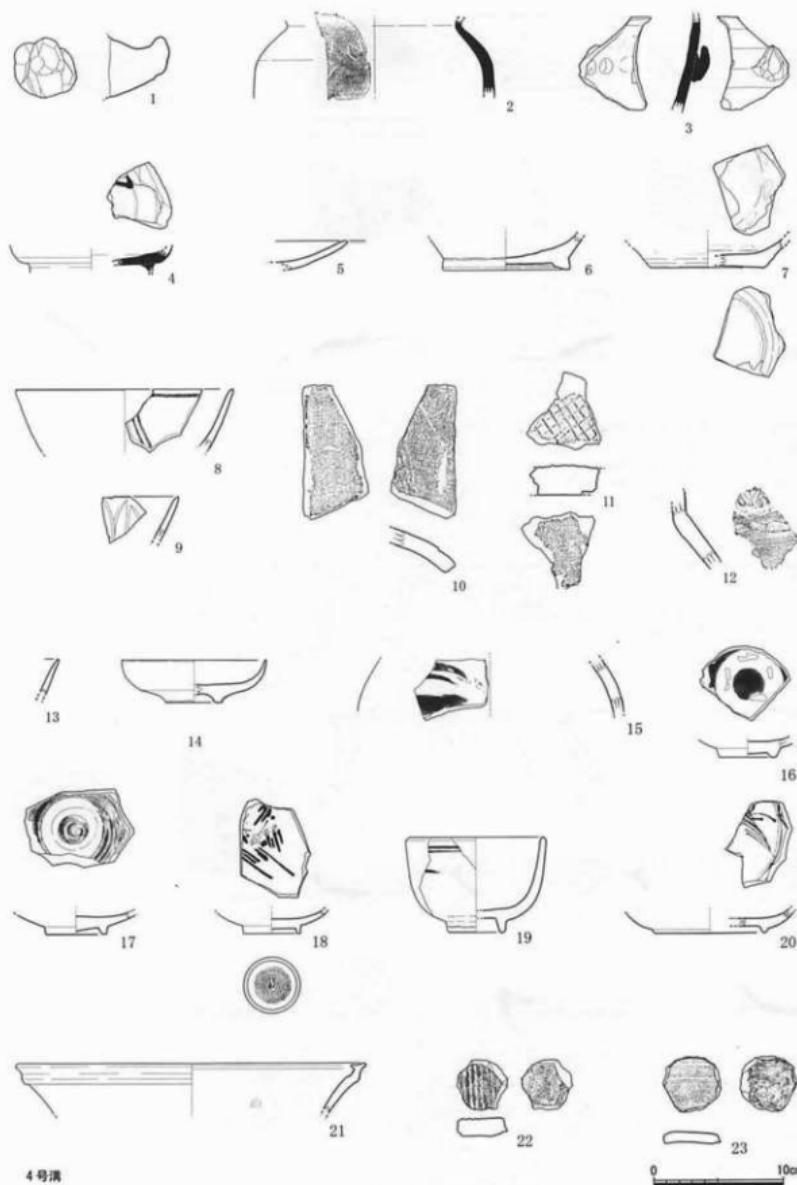


図130 1223調査地点出土遺物実測図 1 (1/4)

4号溝

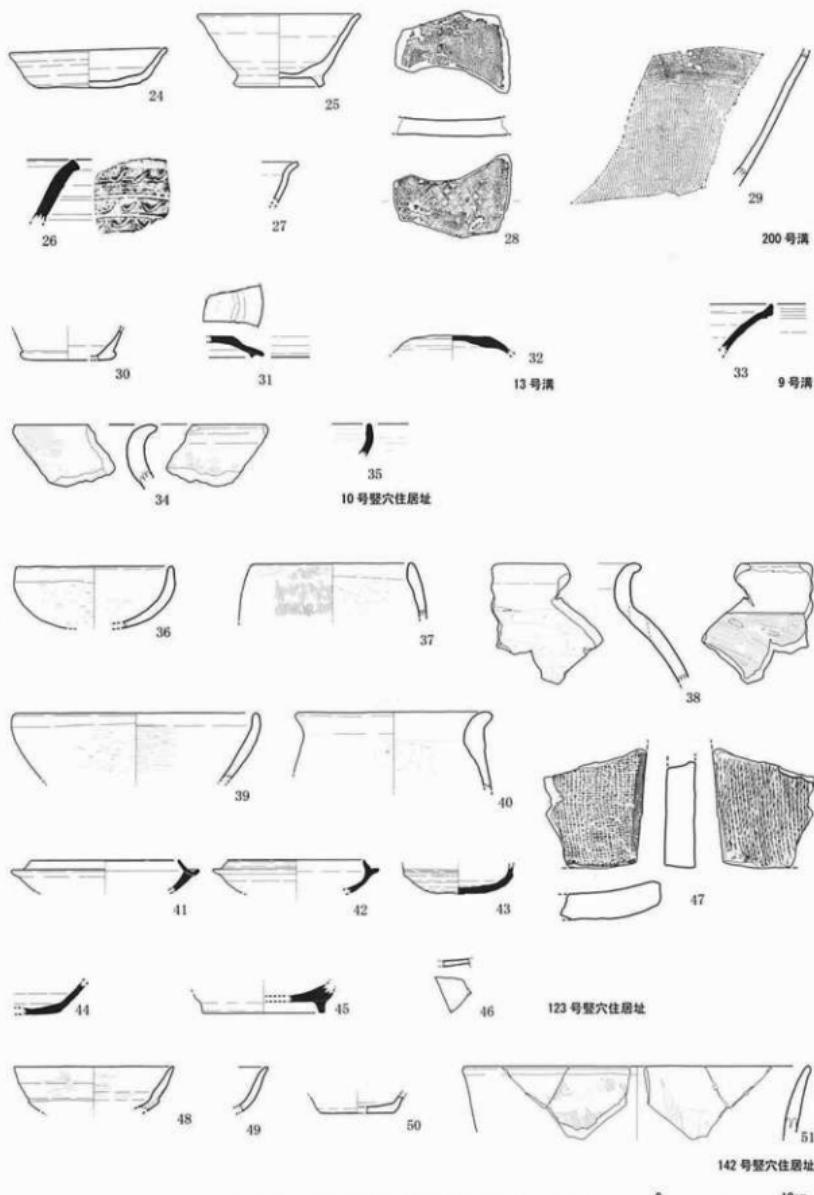


図131 1223調査地点出土遺物実測図2 (1/4)

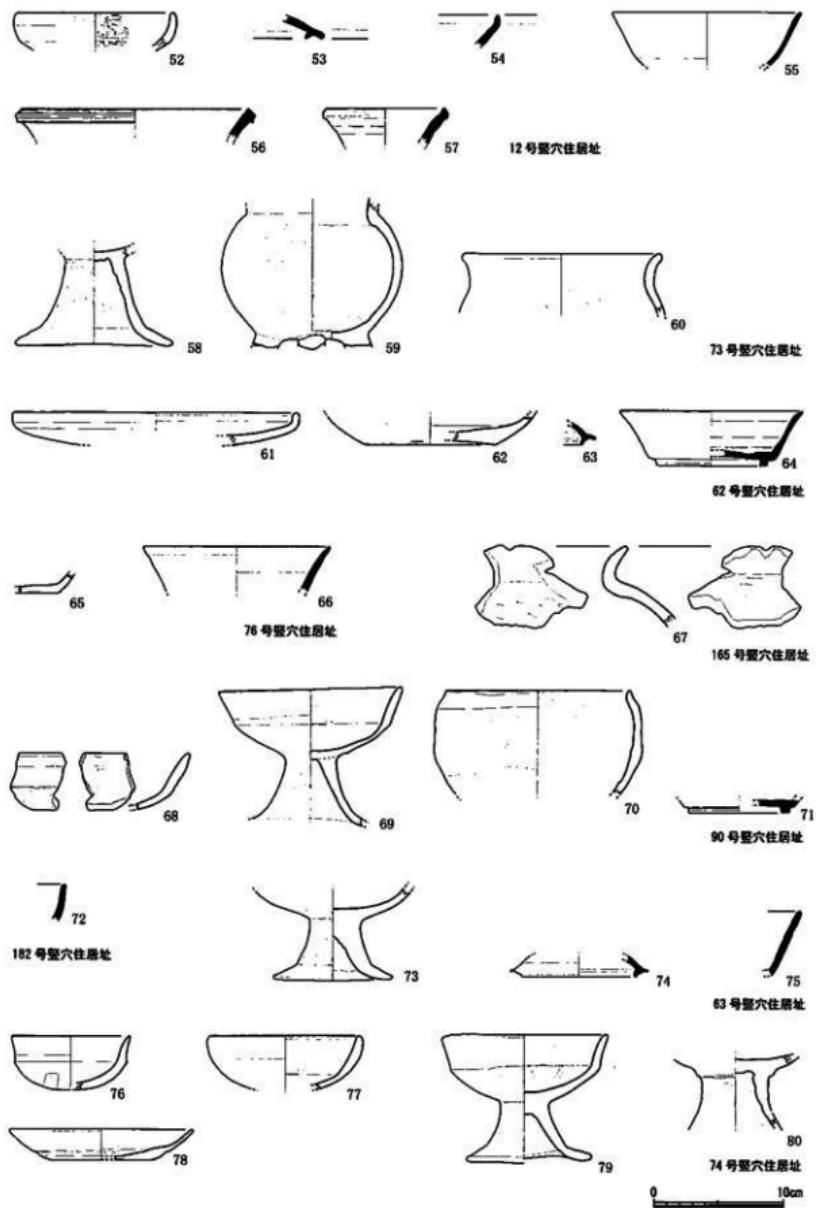


図132 1223調査地点出土遺物実測図3 (1/4)

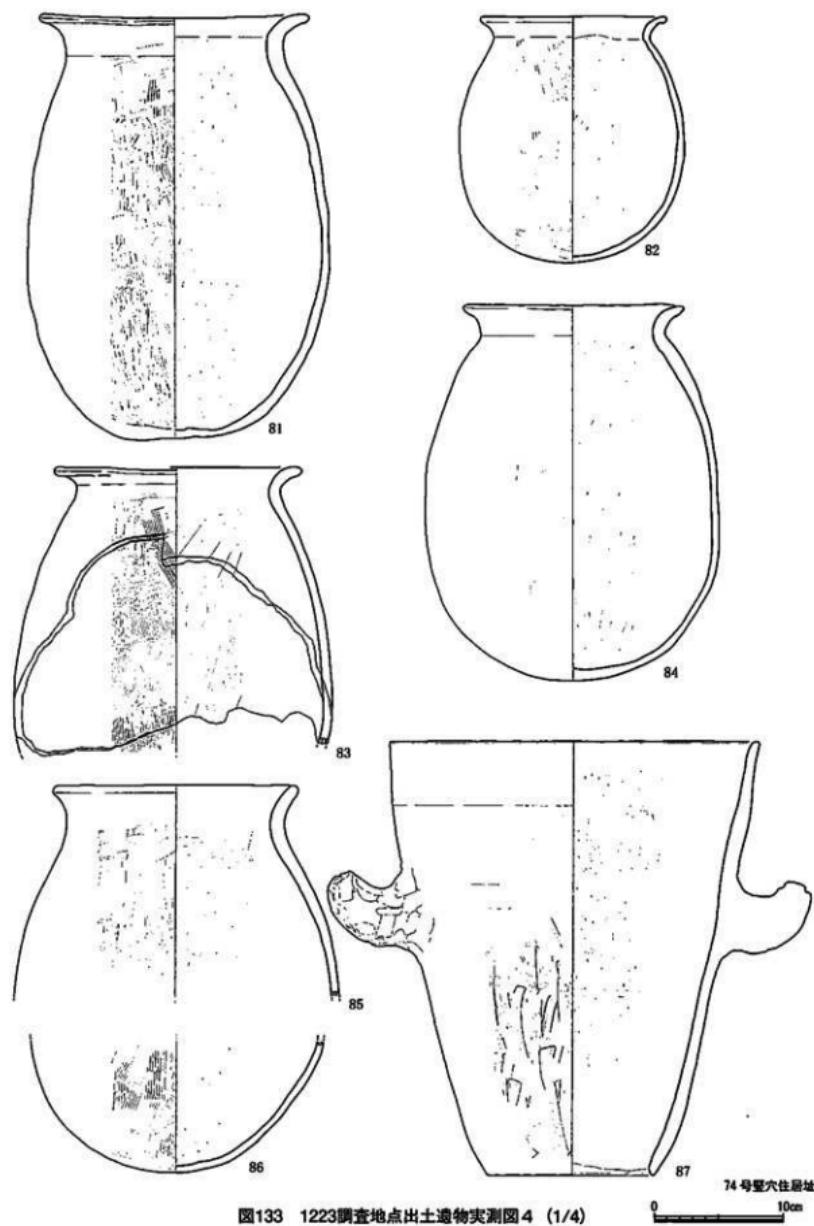


図133 1223調査地点出土遺物実測図4 (1/4)

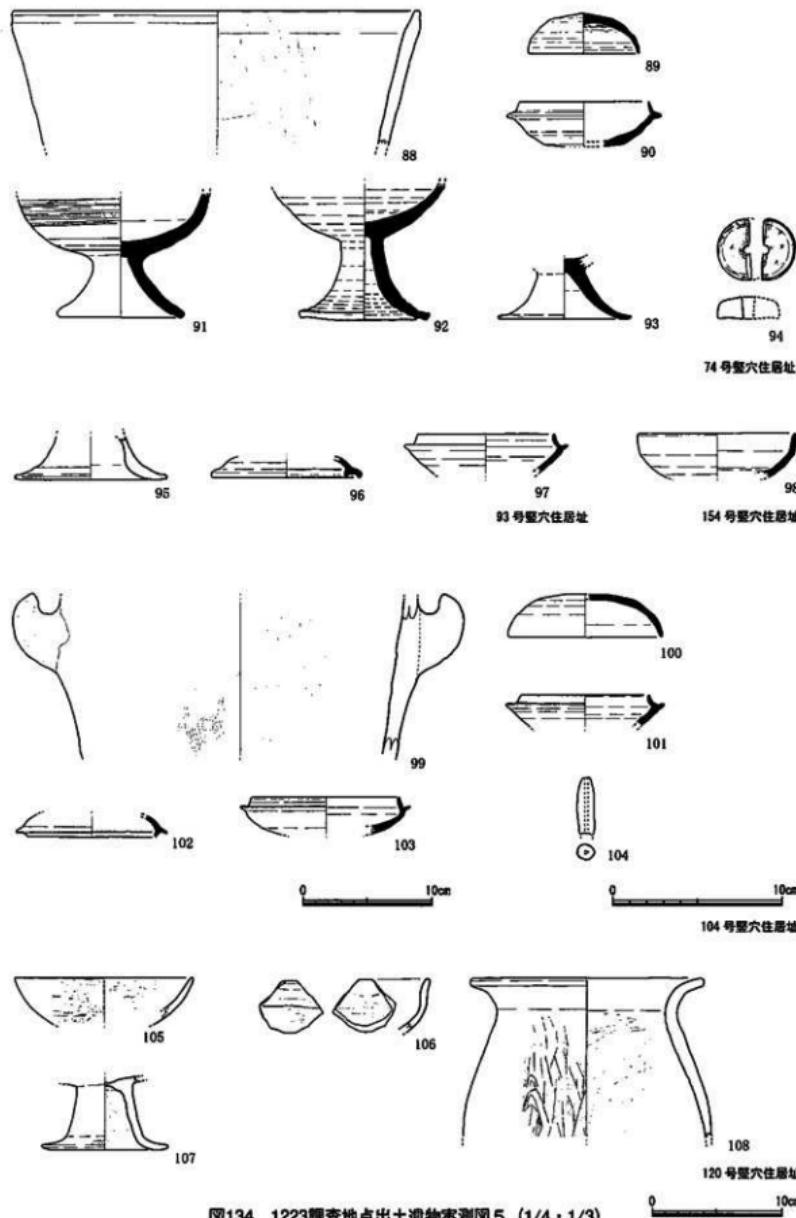


図134 1223調査地点出土遺物実測図 5 (1/4・1/3)

2. 国際先端医学研究拠点施設新設工事に伴う発掘調査 (1223調査地点)

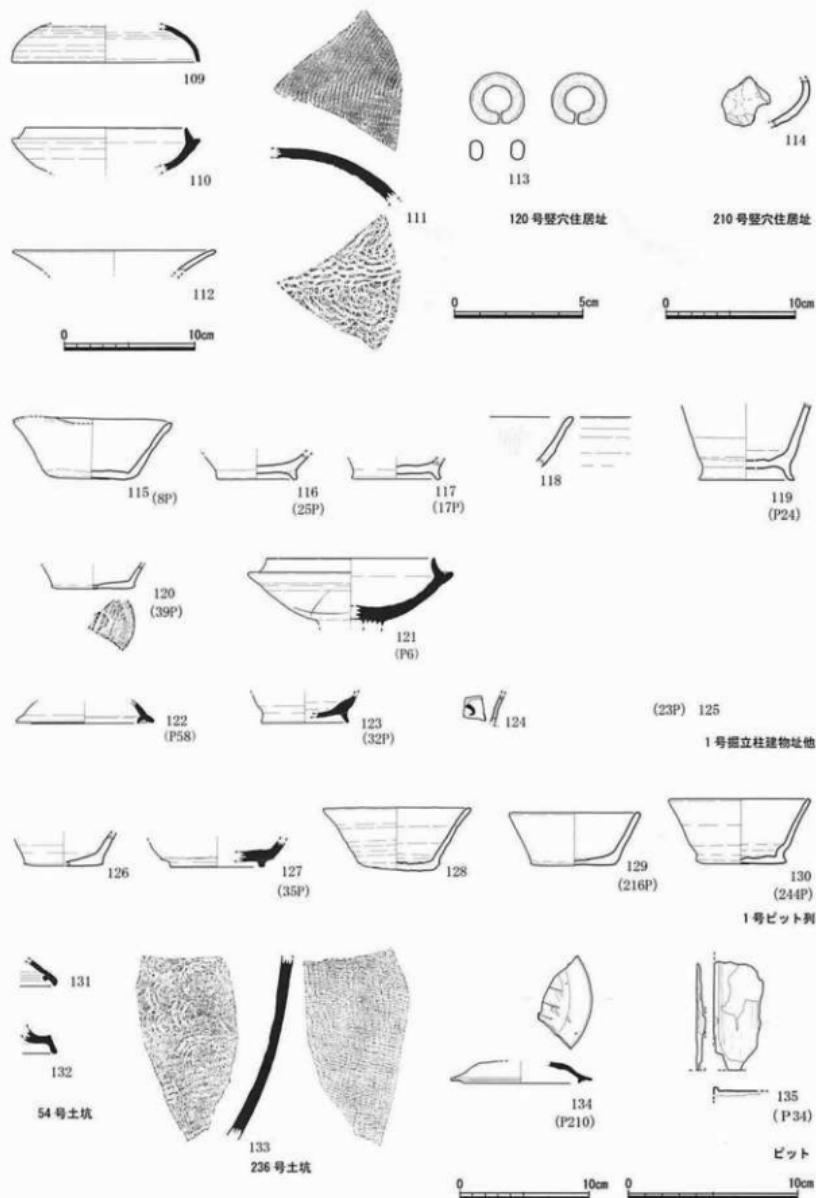


図135 1223調査地点出土遺物実測図6 (1/4・1/3・1/2)

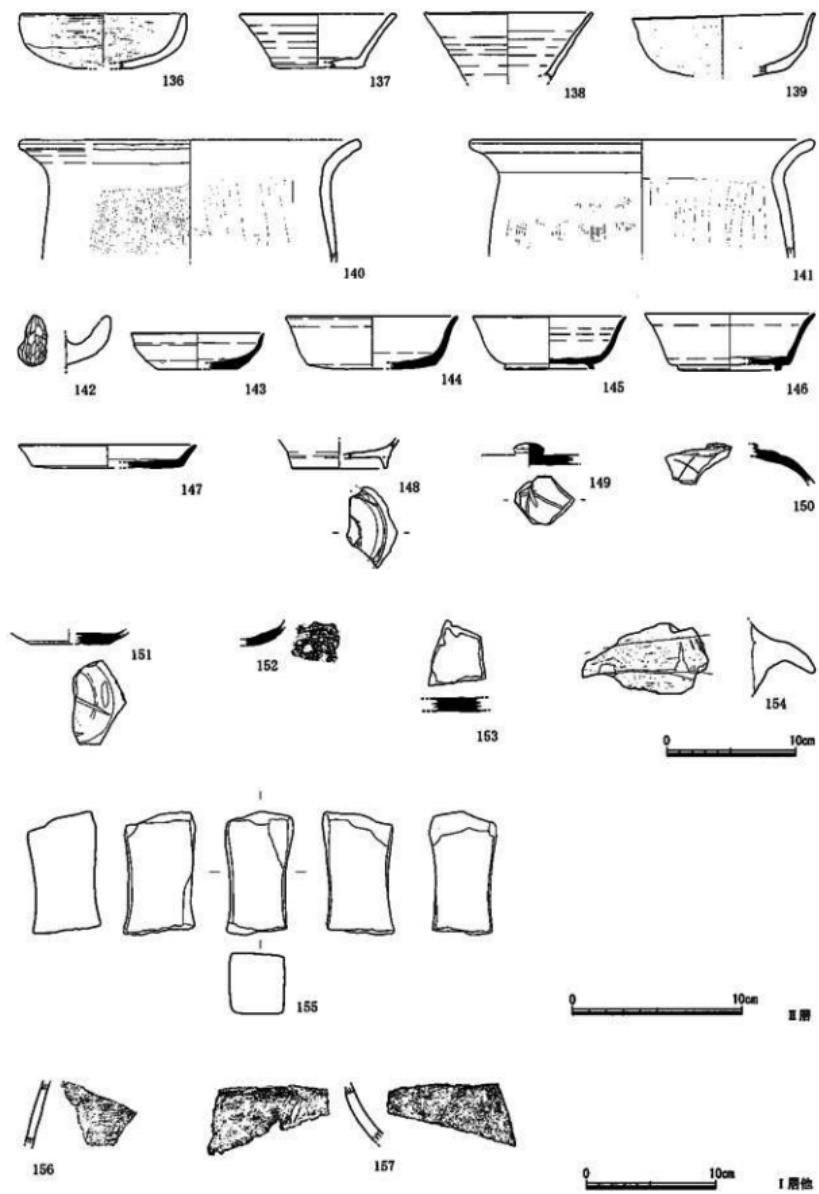


図136 1223調査地点出土遺物実測図7 (1/4・1/3)

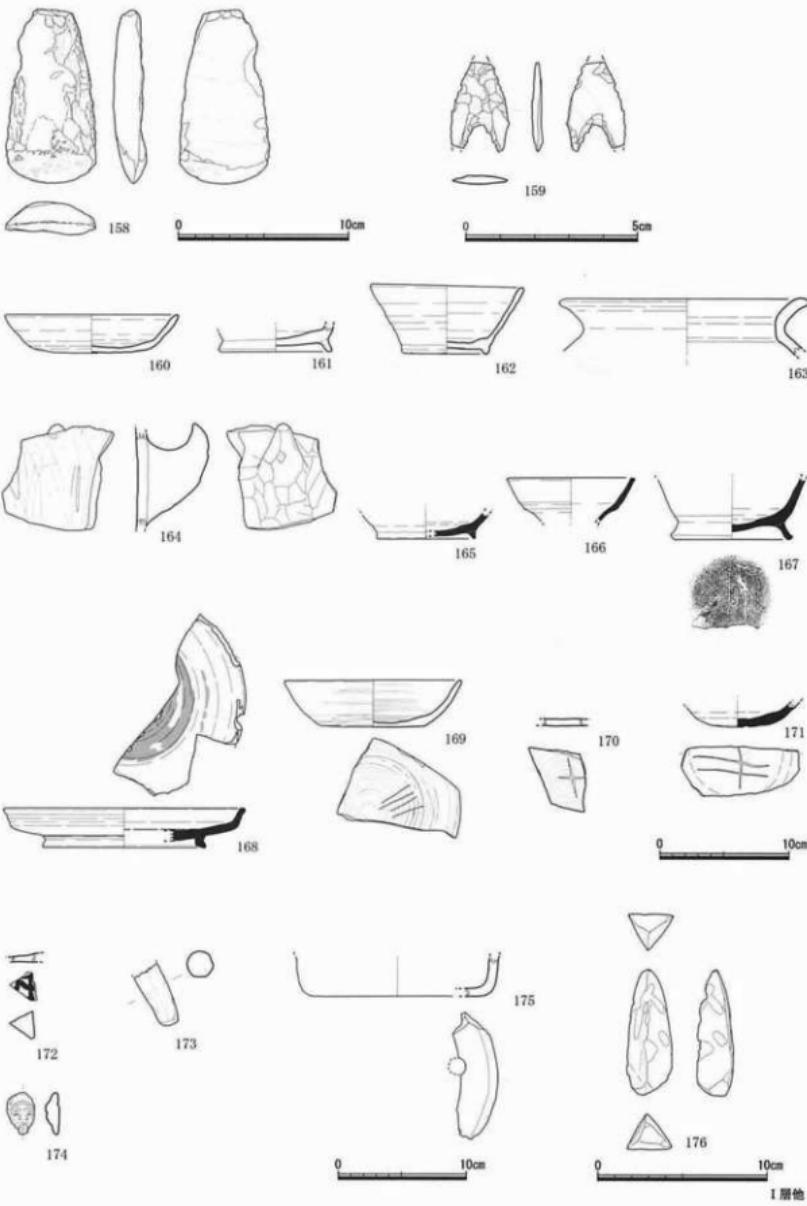


図137 1223調査地点出土遺物実測図8 (1/4 · 1/3 · 2/3)

研磨が施されている。刃部先端には使用による刃こぼれが観察される。

160~164は土師器である。160~162は壺ないし碗で、161・162は底面角に高台が付いている。160は8世紀後葉~9世紀前葉、161・162は9世紀中葉~後葉の資料と判断される。163は甕、164は瓶の把手である。

165~168は須恵器である。165・167は曲線的な体部下半をもち、碗かと判断される。底面角に開き気味の高台が付いている。167は底面にヘラ切痕が認められ、ヘラ切り後、高台が付けられている。底部面がやや下がっていること、高台がハの字状に開くことなどから、9世紀末~10世紀初め頃の所産と判断される。166は口径が小さく、瓶などの器形が判断される。168は転用碗である。高台付盤を用いたもので、内面中央に使用による研磨痕が認められる。8世紀中葉~後葉の所産と判断される。

169・170は刻書をもつ土師器である。171は須恵器の壺の底面に「キ」の字状の記号を描いている。169・170は回転ヘラミガキが顕著な資料で、底面に、169では4条の平行直線、170は十字状の刻みを刻んでいる。共に8世紀後葉の所産、172は墨書き土器である。回転ヘラミガキを有する底面に、田の字状に交差する墨書きが描かれているが、小破片のため判読できない。

173は土製品。土馬の脚部資料の可能性があるが、脚だけであるので断定はできない。

174・175は近世ないし近代の遺物。174は泥面子で、人面が作出されている。175は底面に焼成前の孔があけられている。コンロの目皿であろうか。176は軽石を素材とする。研磨使用により、断面三角形になっている。先端が尖っているため、利器の可能性もあるが、稜線が銳利ではなく、装着のための基部成形がない。ここでは砥石として報告することにした。時代は不明である。

(6) まとめ

今回の調査は本荘中地区に計画された国際先端医学研究拠点施設新営工事に先立って実施したものである。調査地点は旧医学部基礎研究棟A棟およびB棟に挟まれた場所に該当し、9501地点（現生命資源研究・支援センター）・9801地点（現エイズ学研究センター）、および基礎研究棟A棟・B棟等の解体工事に伴う調査地点（1105・1130・1205地点）の調査地点と合わせると、本荘中地区的中心部を面的に調査したことになる（図97参照）。調査では縄文時代、古墳時代から奈良・平安時代、中・近世の遺構・遺物が検出された。以下隣接調査地区の調査成果と対比しながら、本調査地点の調査成果についてまとめてみる。

縄文時代

縄文時代の遺物は僅少で、埋土や古墳時代以降の遺構の覆土から、土器2点、石器2点が出土した。土器は後期後葉ないし晩期前葉の無文土器、石器は磨製石斧と石錐であった。縄文時代に形成されたと判断される遺物包含層は捉えることはできなかった。しかし同時期の遺物は9501地点・9801地点でも出土しており、9801地点では御領式土器の大形の土器を含む100点あまりの資料が出土している。後期後葉から晩期前葉にはこの一帯で該期の生活が行われていたことは間違いない。9801地点の縄文土器は黒褐色土層および明黄色土層（基盤層）から出土したと報告されており、今回の土層と対比すると、Ⅱ層下部とⅢ層ということになろう。今回の調査地点は古墳時代から奈良・平安時代の遺構が濃密で、調査区東半では遺構が全面的にⅢ層に及び、西半も搅乱が著しく、Ⅱ層下部ないしⅢ層の土層自体があまり存在しなかったことが、該期遺物の検出を少なくしたと言えよう。注意したいのは縄文時代の遺物は水による磨滅を受けていなかったことである。当地域は縄文時代後期後葉段階では、洪水時などを除けば、自然堤防として離水していたと考えられ、生業の場であった可能性がある。

古墳時代後期から奈良・平安時代

本時期は当調査地点の主体的時期で、竪穴住居址29軒、掘立柱建物址1基、ピット列1基、溝・土坑を検出した。竪穴住居址の年代は6世紀末から8世紀後葉以降に及んでいた。時期を限定できる竪穴住居址を時期別に配列すると次のようになる。

古墳時代後期（6世紀末～7世紀中葉）：10・12・62古・63・73・74・93・104・120・124・154号
竪穴住居址

奈良・平安時代（8世紀後葉以降）：62新・76・90・147号竪穴住居址

古墳時代後期、6世紀末～7世紀後葉の竪穴住居址は数が多く、主軸方位をN-40°～60°-Wにとるもの（A類）と、N-20°～30°-Wにとるもの（B類）があった（図138①）。切り合い関係をみると、調査区中央部ではA類（120号竪穴住居址）→B類（104号竪穴住居址）→A類（74号竪穴住居址）の関係が見られ、A類には一辺が6mに近い大形住居址（74号竪穴住居址）も存在する（図139上）。

奈良・平安時代、8世紀後葉以降の竪穴住居址は主軸方位がN-9°～17°-W、N-3°-W（C類）というように南北方向に近くなる（図138②・図139下）。また住居址は小形化し、一辺が2m台で、住居址とするのを躊躇するような例もある（76・147号竪穴住居址）。

これをみると、遺物から時期が限定できなかった竪穴住居址の時期も凡そ予測がつく。83・123号竪穴住居址と142・145号竪穴住居址は、83・123号竪穴住居址→142・145号竪穴住居址という切り合い関係であったが、前2者が主軸方位をN-40°～60°-Wにとり（A類）、後2者がN-20°～30°-Wにとるので（B類）、共に6世紀末～7世紀中葉に構築された可能性が考えられる（図138③）。123号竪穴住居址が一辺6mを超えるものが含まれることも前述の傾向と合致する。また182・166号竪穴住居址と165・159号竪穴住居址は182・166号竪穴住居址→165・159号竪穴住居址

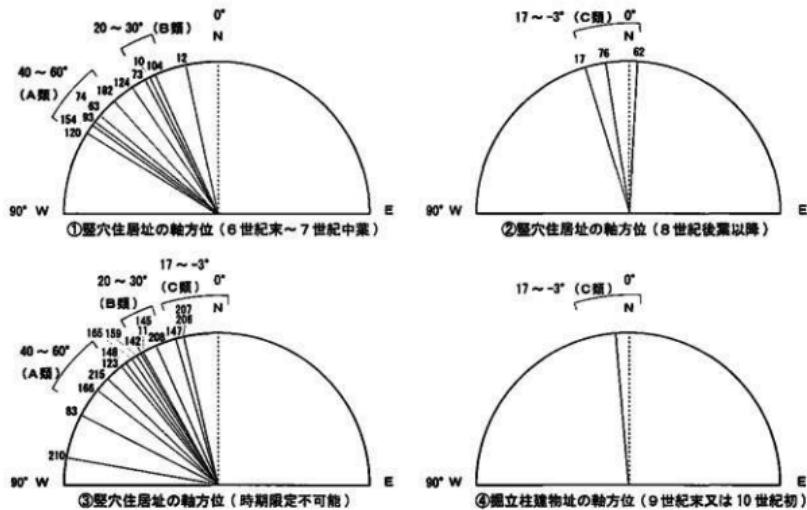


図138 1223調査地点竪穴住居址・掘立柱建物址軸方位 角度はN-Wの数値。その他は竪穴住居址番号を示す。

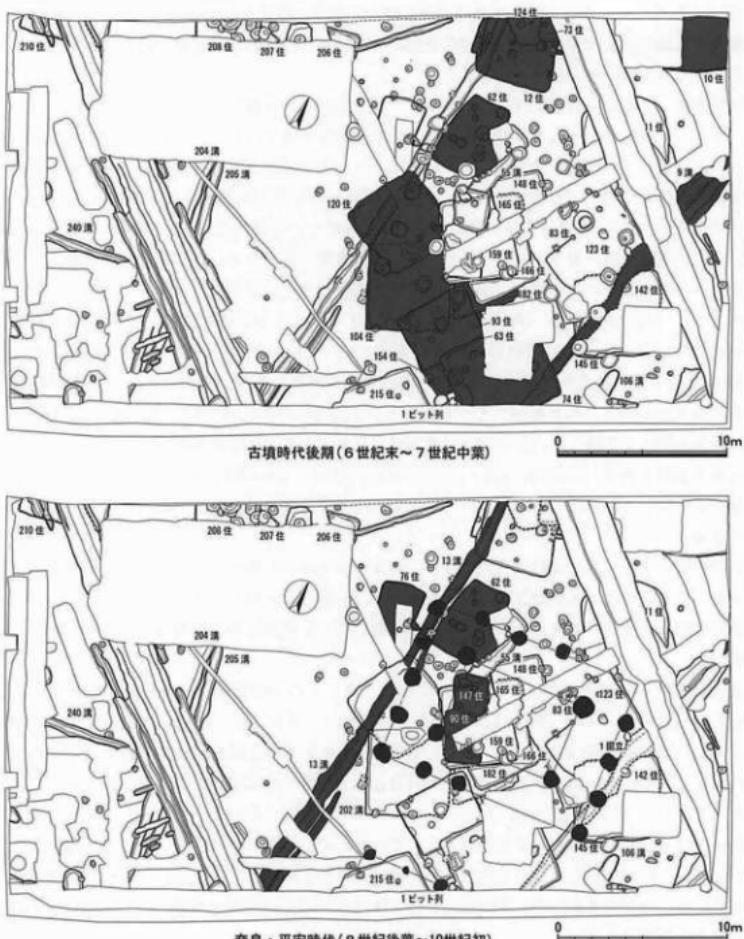


図139 1223調査地点時期別遺構配置図（1/300）

という切り合い関係であったが、前2者が主軸方位をN-40°~60°-Wにとり（A類）、後2者がN-20°~30°-Wにとるので（B類）、これらも6世紀末~7世紀中葉に属する可能性がある。

7世紀後葉~8世紀中葉の時期に限定できる竪穴住居址はないので、その時期の様相は不明であるが、隣接する9801地点や9511地点では9世紀前半まで竪穴住居址が存続するので、本調査地点を含む一帯には9世紀前半まで竪穴住居址はあったと推定される。しかし9世紀後葉以降になると竪穴住居址はなくなる。本地点の掘立柱建物址のみとなるようである。掘立柱建物址の主軸方位はN-5°-Wをなし（図138④）、この方位は訥麻郡内の条里線（牧野1977）と一致する。本荘地区においては本

莊北の9601地点において、条里の坪界線の延長線上の道路の存在が確認されている（小畠2008）。本庄遺跡のある場所は詫麻郡内の条里の推定範囲からは外れているが、本遺跡の付近の低地部まで条里が及んでいた可能性を示すものと言えよう。

掘立建物址（1号掘立柱建物址）は上述のように平安時代、9世紀末又は10世紀初めに作られたと判断される。形態は身舎と廂で柱間隔が異なるので確定はできないが、四面廂付掘立柱建物址となる可能性はあるだろう。同種の遺構は県内では熊本市二本木遺跡S B01（8世紀末～9世紀）や宇城市曲野遺跡（8世紀後半）でも確認されている（奈良国立文化財研究所2012）。総長は前者が8.7m×7.8m、後者は5.2×5.1m。本遺跡のそれは12.6m×9.6mなので、規模は県内最大規模と言える。本調査地点では瓦や墨書き土器、硯なども出土している。当該遺構の存在から、9世紀末以降段階において、当調査地点を本庄遺跡での中心的な場所の一つと評価することができよう。

溝のうち、古墳時代後期から古代に属するものは9・55・13・202溝である。主軸方向は南北方向に近い方向を向き、後述する近世以降の溝とは異なる。これらの溝の中で9号溝は74号竪穴住居址（6世紀末又は7世紀前葉）に切られており、古墳時代の所産であることがわかっている（図139上）。9511調査地点の68号溝（6世紀末）とつながるものと推測される。また13・202号溝は62号竪穴住居址（8世紀後葉）より新しく、1号掘立柱建物址（9世紀末又は10世紀初め）よりも古いので、9世紀の所産と判断される（図139）。204・205号溝は古代ないしそれ以降の所産と考えられる。240号溝も主軸方位が204・205号溝と直交するため、204・205号溝と関係があった可能性がある。

中・近世

中世の遺構はなかった。遺物は青磁などが4号溝の覆土中から出土したが、該期の包含層は調査区内には存在しなかった。本地域には今回I b層とした旧耕作土が厚く存在している。この旧耕作土の形成時期は近世以降としか言えないが、本層の存在により、中世相当の堆積層は失われてしまった可能性がある。

近世では規模の大溝を2条（4号溝・200号溝）、またその一部を1条（5号溝）検出した。前者（4号溝・200号溝）は主軸方向をほぼN-50°-Wにとり、平行する。後者（5号溝）は4号溝と交差していた。過去の調査事例と合わせると（図97）、4号溝は1106調査地点2号溝との連続性が想定される。また5号溝は9511地点の30号溝、9801地点の3号溝、1130地点の1号溝、1205地点の1号溝と連続する溝で、4号・200号溝とは約80°の角度をもって存在していた。4号溝と5号溝の間の切り合い関係は捉えられなかつたが、覆土は類似していたため、時期的には近く、おおむね近世初期（17世紀）にはつくられていたと考えられる。4号溝では覆土下部に鉄分の集積が認められ、水が流れていた時期があったと考えられる。本調査地点の大溝は当時の土地区画や水利用に大きな役割を果たしていたものと推測される。

出土遺物については木村吉行氏（かながわ考古学財団）、能芝 勉氏（京都市埋蔵文化財研究所）、堀田孝博氏（宮崎県教育委員会）に御教示いただいた。記して厚く感謝申し上げます。

注

（1）発掘調査の届出等に関する文書をまとめると以下のようになる。

文化財保護法第93条第1項の届出 熊本大学 熊大施企第89号（6月27日付け）

上記届出に対する通知 熊本市教育委員会 文振発第412-4号（7月19日付け）

文化財保護法第92条第1項の届出 熊本大学 熊大施企第134号（8月23日付け）

（2）I b層は発掘時にはI層としていたものを層名変更した。またIV層も出土品整理時に付けた層

名で、遺物は出土していない。

- (3) 調査時点では、打って返しの関係で、D-3区以北を13号溝、以南を203号溝として扱ったが、両者は連続したので1つの13号溝と扱った。
- (4) 通常、四面庇付掘立柱建物址は身舎と庇で柱間隔が同じである。本造構は四面庇付掘立柱建物址と想定したが、本造構では身舎と庇で柱間隔が異なることが問題として残る。

参考文献

- 東 光彦 1980『熊本市中央北地区文化財調査報告書』熊本市教育委員会
- 赤星雄一 1997『大江遺跡群Ⅲ 大江遺跡群第39次調査区発掘調査報告書』
- 赤星雄一 2004『大江遺跡群Ⅴ 大江遺跡群第69次調査区発掘調査報告書』
- 赤星雄一 2007『大江遺跡群第36調査区』『熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集—平成18年度』
- 赤星雄一 2008『大江遺跡群第23次調査区』『熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集—平成19年度』
- 網田龍生 1989『大江遺跡群Ⅰ』熊本市教育委員会
- 網田龍生 1993『大江遺跡群Ⅱ』熊本市教育委員会
- 網田龍生 1994「奈良時代 肥後の土器」「先史学・考古学論究 熊本大学文学部考古学研究室創設20周年記念論文集」龍田考古会
- 網田龍生 1994「肥後における回転台土師器の成立と展開」「中近世土器の基礎研究X」日本中世土器研究会
- 網田龍生他 1996『新熊本市史 史料編 第1巻考古資料』熊本市
- 網田龍生他 1999『新屋敷遺跡第1・4次調査区』『熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集—平成10年度』
- 石丸恵利子他 2013「医学部基礎研究棟（A棟）とりこわし工事に伴う発掘調査（1106調査地点）・医学部基礎研究棟（B・D棟）とりこわし工事に伴う発掘調査（1130調査地点）」「熊本大学構内遺跡発掘調査報告IX」
- 岩谷史記 2006『新屋敷遺跡第41次調査区』『熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集—平成17年度』
- 岩谷史記 2009『大江遺跡群第111次調査区』『熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集—平成20年度』
- 小畑弘己 2008「医学部校舎建設に伴う発掘調査（9601調査地点）」「熊本大学構内遺跡発掘調査報告IV」
- 小畑弘己 2009「医学部エイズ学研究センター・動物資源・開発研究センター新館に伴う発掘調査（9801調査地点）」「熊本大学構内遺跡発掘調査報告V」
- 小畑弘己 2003「医学部RI総合センター遺伝子実験施設建設に伴う発掘調査（9511調査地点）」「熊本大学構内遺跡発掘調査報告I」
- 金田一精 2007『大江遺跡群第51・65調査区』『熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集—平成18年度』
- 新熊本市史編纂委員会 1998「第二章 地形・地質」「熊本市史通史編第1巻 自然・原始・古代」
- 奈良国立文化財研究所 2012『第15回 古代官衙・集落研究会報告書 四面廻建物を考える』奈良文化財研究所報告第9冊
- 馬場正弘 2006『大江遺跡群Ⅲ』熊本県埋蔵文化財調査報告232
- 林田和人 2003『新屋敷遺跡第11次調査区』『熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集—平成13・14年度』
- 原田範昭 2001『大江遺跡群第52次調査区』『熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集—平成11・12年度』
- 原田範昭 2002『大江遺跡群Ⅳ 大江遺跡群第68次調査区発掘調査報告書』
- 牧野洋一 1977『熊本平野の条里』『熊本県の条里』熊本県文化財調査報告25 熊本県教育委員会

2. 国際先端医学研究拠点施設新設工事に伴う発掘調査（1223調査地点）

松村洋史 2006「大江遺跡群Ⅱ」熊本県埋蔵文化財調査報告231

松村真紀子 2006「大江遺跡群第53次調査区」『熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集—平成17年度』

水上正孝 2012「新屋敷遺跡1」熊本県埋蔵文化財調査報告270

山本信夫 2000「大宰府条坊跡XV—陶磁器分類編」太宰府市の文化財49 太宰府市教育委員会

表11 1223調査地点出土遺物一覧表

回	番号	遺物	種類(機械)	法面(cm)	残存部	特徴	色	出土地点	備考
130	1	土器	瓶	11.5 底径 器高	把手	内: 外:削り、ナデ	内: 外: Hu 7SYR6/6	4号窓	
	2	埴忠器	壺	11.5 底径 器高	側面部	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	内: Hu SYB/1 外: Hu SYB/1	4号窓	
	3	埴忠器	壺	11.5 底径 器高	側面部1/8以下	内: 回転ナデ、オサエ 外: ヘラ削り	内: Hu N3/0 外: Hu SYB/1	4号窓	
	4	埴忠器	壺	11.5 底径 器高	底部1/4以下	内: 回転ナデ、ナデ 外: ヘラ削り、ナデ	内: Hu SYR6/2 外: Hu SYR6/2	4号窓	盛苔
	5	其他陶器	瓶	11.5 底径 器高	口縁部分	内: 外:	内: Hu SCY7/1 外: Hu SCY7/1	4号窓	
	6	器	瓶	10.0 底径 器高	底部1/4	内: 削り 外: 削り	内: Hu 10YB/1 外: Hu 7SY/1	4号窓	内・外削輪、越州窯系
	7	青磁	瓶	8.6 底径 器高	側面部	内: 外: 回転ナデ、回転削 り	内: Hu 10YR6/2 外: Hu 7SY7/4	4号窓(下脚)	越州窯系
	8	青磁	瓶	16.6 底径 器高	11.5部分/8SYT	内: 回転ナデ 外: ヘラ削り	内: Hu 10Y/1 外: Hu 10Y/1	4号窓	難象窯系
	9	青磁	瓶	11.5 底径 器高	11.5部分	内: 回転ナデ 外: ヘラ削り	内: Hu 7SGY7/1 外: Hu 7SGY7/1	4号窓	難象窯系
	10	瓦	平瓦	11.5 底径 器高	鐵片	表: 板目 裏: ナデ	内: Hu 2SYB/3 外: Hu 2SYB/2	4号窓	
	11	瓦	平瓦	11.5 底径 器高	鐵片	表: 板目 裏: タタキ	内: Hu 2SYN/0 外: Hu 2SY/1	4号窓(下脚)	
	12	瓦質土器	大鉢	11.5 底径 器高	側面部1/6SYT	内: ナデ、オサエ 外: スタンプ、ヘラ削 り	内: Hu SY5/2 外: Hu 2SY5/2	4号窓	
	13	陶器	壺	11.5 底径 器高	11.5部分/8SYT	内: 外:	内: Hu 7SGY6/1 外: Hu 7SGY6/1	4号窓	
	14	陶器	皿	10.0 底径 器高	底部1/3	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	内: Hu SY4/3 外: Hu SY4/4	4号窓	
	15	陶器	甕	11.5 底径 器高	側面部1/8SYT	内: 回転ナデ 外: ヘラ削り	内: Hu 2SY7/3 外: Hu 2SY7/3	4号窓	
	16	陶器	甕	11.5 底径 器高	底部完全	内: 回転ナデ 外:	内: Hu 10YR2/2 外: Hu 10YR2/3	4号窓	
	17	陶器	甕	11.5 底径 器高	底部	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、削り出 し	内: Hu 10YR8/4 外: Hu 10YR8/4	4号窓	鏡の目焼き、内削輪
	18	陶器	甕	4.4 底径 器高	1/3	内: ナデ、削り	内: Hu 2SY7/3 外: Hu 2SY7/3	4号窓	底部に押印あり
	19	磁器	碗	11.0 底径 器高	約1/5	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	内: Hu 2SY7/1 外: Hu 2SY7/1	4号窓	他、兼付
	20	磁器	瓶	8.6 底径 器高	底部1/4	内: 回転ナデ 外: ヘラ削り	内: Hu 10YB/1 外: Hu 10YB/1	4号窓	兼付
	21	陶器	罐	26.6 底径 器高	11.5部分/8SYT	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	内: Hu SYR5/6 外: Hu SYR5/6	4号窓	
	22	上製品	磁片西子	長さ 38 幅 4.0 厚さ 1.4		内: 外: タタキ	内: Hu 2SY4/4 外: Hu SY4/3	4号窓	重量26g
	23	上製品	磁片西子	長さ 43 幅 4.5 厚さ 0.9		内: タタキ 外: ナデ	内: Hu 2SYR2/2 外: Hu 2SYR2/1	4号窓	重量23g

図	番号	遺物	種類(品種)	通量(cm)	埋存層	特徴	色 調	出土遺物	圖 号	
131	24	土師器	环	口径 12.3 底径 8.2 厚さ 3.1	1/2	内：削輪ナダ 外：削輪ナダ	内：Hue 2SYR6/6 外：Hue 2SYR6/6	200号佛(①刷)	ヘラ切り、赤色化粧土	
	25	土師器	碗	口径 12.6 底径 7.0 厚さ 5.7	1/4	内：削輪ナダ 外：削輪ナダ	内：Hue 5VZ7/6 外：Hue 5VZ7/6	200号佛(①刷)	赤色化粧土?	
	26	須恵器	豆	口径 底径 厚さ	口縁部1/8	内：削輪ナダ 外：削輪ナダ	内：Hue 5VZ7/2 外：Hue N3/0	200号佛		
	27	青磁	碗	口径 底径 厚さ	口縁部分	内：削輪ナダ 外：削輪ナダ	内：Hue 5V6/2 外：Hue 5V6/2	200号佛	粗卓磨系	
	28	瓦質土器	碗	口径 底径 厚さ	破片	内：削り、ハケ目 外：削り、ハケ目、タキ	内：Hue 10V4/1 外：Hue 10V4/1	200号佛		
	29	陶器	擂钵	口径 底径 厚さ	底部片	内：彫り目、削り、輪 外：削り、輪	内：Hue 7.5YR4/4 外：Hue 7.5YR4/4	200号佛、120号堅穴住 居址	外面一部露経、黒色部分あり	
	30	土師器	环	口径 底径 厚さ	7.4	底部片	内：削輪ナダ 外：削輪ナダ	内：Hue 10YR6/1 外：Hue 10YR6/1	13号拂	
	31	須恵器	豆	口径 底径 厚さ	口縁部片	内：ナダ 外：ナダ、削り	内：Hue 2SGY6/1 外：Hue 2SGY6/1	13号拂		
	32	須恵器	豆	口径 底径 厚さ	6.9	底部突起	内：削輪ナダ 外：削輪ナダ	内：Hue 10YR7/3 外：Hue 10YR7/2	13号拂	
	33	須恵器	豆	口径 底径 厚さ	口縁部片	内：削輪ナダ 外：ハラ削り	内：Hue 5V6/1 外：Hue 2SY6/2	9号拂		
	34	土師器	豆	口径 底径 厚さ	口縁部片	内：ハケ目、削り 外：ハケ目、ナダ	内：Hue 7.5YR6/6 外：Hue 7.5YR6/6	10号堅穴住居址		
	35	須恵器	碗	口径 底径 厚さ	口縁部片	内：ナダ 外：ナダ、削り	内：Hue 5Y7/2 外：Hue 5Y7/2	10号堅穴住居址		
	36	土師器	环	口径 底径 厚さ	約1/4	内：削き 外：ナダ、削り	内：Hue 2SYR5/6 外：Hue 5Y7/4	123号堅穴住居址、I 層		
	37	土師器	鉢	口径 底径 厚さ	12.8	口縁～底部片	内：ナダ、削り 外：ナダ、ハケ目	内：Hue 7.5YR6/4 外：Hue 7.5YR6/6	123号堅穴住居址	
	38	土師器	豆	口径 底径 厚さ	口縁～底部片	内：削輪ナダ、削り 外：削輪ナダ、ハケ目	内：Hue 7.5YR5/4 外：Hue 7.5YR5/4	123号堅穴住居址	外面に墨斑あり	
	39	土師器	碗	口径 底径 厚さ	19.0	口縁～底部片	内：削輪ナダ、削り 外：削輪ナダ、削り	内：Hue 5YR5/6 外：Hue 5YR5/6	123号堅穴住居址	外面に赤色顔料付着
	40	土師器	豆	口径 底径 厚さ	15.4	1/3	内：削輪ナダ、削り 外：ナダ	内：Hue 7.5YR5/6 外：Hue 7.5YR5/4	123号堅穴住居址、I 層	
	41	須恵器	环	口径 底径 厚さ	11.7		内：削輪ナダ 外：削輪ナダ	内：Hue NG6/0 外：Hue NG6/0	123号堅穴住居址	
	42	須恵器	环	口径 底径 厚さ	10.5	口縁部片	内：削輪ナダ 外：削輪ナダ、削り	内：Hue 7.5Y5/1 外：Hue 2SY5/2	123号堅穴住居址(楕 円形)	
	43	須恵器	豆	口径 底径 厚さ	4.4	底部片	内：削輪ナダ 外：削輪ナダ	内：Hue SS5/1 外：Hue NS5/0	123号堅穴住居址	ヘラ切り
	44	須恵器	环	口径 底径 厚さ	10.2	底部～底部片	内：削輪ナダ、削り 外：削輪ナダ、ナダ	内：Hue 5V7/1 外：Hue 5V7/1	123号堅穴住居址	
	45	須恵器	碗	口径 底径 厚さ	9.5	底部片	内：削輪ナダ、削り 外：削輪ナダ、削り	内：Hue 7.5Y7/1 外：Hue 7.5Y7/1	123号堅穴住居址	
	46	白磁	盃	口径 底径 厚さ			内： 外：	内：Hue NB6/0 外：Hue NB6/0	123号堅穴住居址	
	47	瓦	瓦	口径 底径 厚さ		表：砲目 外：窓目タキ 縁	内：Hue N7/0 外：Hue N7/0	123号堅穴住居址		
	48	土師器	环	口径 底径 厚さ	12.3	口縁～底部片	内：削輪ナダ、砲目 外：削輪ナダ、削り、 縁	内：Hue 5YR5/6 外：Hue 5YR5/6	142号堅穴住居址	赤色化粧土 内外面一部スス付着
	49	土師器	环	口径 底径 厚さ		口縁部片	内：ナダ 外：ナダ	内：Hue 7.5YR7/6 外：Hue 7.5YR7/6	142号堅穴住居址	
	50	土師器	环	口径 底径 厚さ	5.8	底部片	内：削輪ナダ 外：削輪ナダ	内：Hue 2SYR5/7 外：Hue 2SYR5/7	142号堅穴住居址	ヘラ切り
	51	土師器	豆	口径 底径 厚さ	26.8		内：削輪ナダ、削り 外：削輪ナダ、ヘラナ ダ	内：Hue 10YR7/4 外：Hue 10YR7/4	142号堅穴住居址、97 号ピット	
132	52	土師器	高环	口径 底径 厚さ	11.8	口縁部1/6	内：砲目 外：砲目	内：Hue 2SYR5/6 外：Hue 2SYR5/6	12・124・73号堅穴住 居址	

2. 國際先端医学研究拠点施設新工事に伴う発掘調査（1223調査地点）

調査番号	遺物	種類(特徴)	地層(cm)	埋葬位置	特徴	色調	出土場所	備考
133	53	須恵器	蓋	口縁底付 縦目付	口縁部片 内:ナデ 外:ナデ	内:Hu: N6/0 外:Hu: 7SY6/1	12号壙穴住居址	
	54	須恵器	牛	口縁底付	口縁部片 内:ナデ 外:ナデ	内:Hu: 2SY6/1 外:Hu: N5/0	12号壙穴住居址	
	55	須恵器	牛	口縁底付 縦目付 高	口縁部片 内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	内:Hu: N6/0 外:Hu: 10Y6/1	12号壙穴住居址	
	56	須恵器	裏	口縁底付 縦目付 高	口縁部片 内:ナデ 外:ナデ, ナタキ	内:Hu: S6/1 外:Hu: S6/1	12号壙穴住居址	
	57	須恵器	蓋	口縁底付 縦目付 高	口縁部片 内: 回転ナデ 外: 回転ナデ, カキメ	内:Hu: N5/0 外:Hu: N5/0	12号壙穴住居址	
	58	土師器	高环	12.0	1/2	内:ナデ, 剥り 外:ナデ, 剥り	内:Hu: 7SY6/6 外:Hu: 7SY5/6	73号壙穴住居址(P1) 間附
	59	土師器	蓋	口縁底付 縦目付 高	底部1/4強	内: ハラ剥り, 深青 エ 外: ハラ剥り	内:Hu: 10Y2/3 外:Hu: 7SY2/4	73号壙穴住居址 間付
	60	土師器	蓋	15.6	口縁部片	内:ナデ, 剥り 外:ナデ, ハケ目	内:Hu: S7Y6/6 外:Hu: 10Y2/4	73号壙穴住居址
	61	土師器	蓋	22.0	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hu: 2SY6/4 外:Hu: 2SY5/6	62号壙穴住居址 赤色化粧土
	62	土師器	坪	10.2	底部片	内: 回転ナデ, 回転剥 & 外: 回転ナデ, 回転剥 り, 回転剥 き	内:Hu: 2SY5/6 外:Hu: 2SY4/6	62号壙穴住居址, 1号 壙穴住居址(P6)
	63	須恵器	蓋	口縁底付 縦目付	口縁部片 内: 回転ナデ, 剥り 外: 回転ナデ	内:Hu: S7Y6/1 外:Hu: 2SY5/3	62号壙穴住居址	
	64	須恵器	坪	14.2 8.6 4.3	約1/2	内: 回転ナデ, ナデ 外: 回転ナデ, 剥り	内:Hu: 2SY5/2 外:Hu: S7Y3/1	62号壙穴住居址, D-3EX-E帶 外面に自然剥離着
	65	土師器	坪	口縁底付 縦目付 高	底部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hu: 10Y7S/4 外:Hu: 10Y7S/4	76号壙穴住居址
	66	須恵器	坪	14.4	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内:Hu: N6/0 外:Hu: N6/0	76号壙穴住居址 回転ナデ?
	67	土師器	蓋	口縁底付 縦目付 高	口縁部片	内:ナデ, ハケ目 外:ナデ, 剥り	内:Hu: 7SY6/4 外:Hu: 7SY5/4	165号壙穴住居址 内外面赤灰
	68	土師器	坪	口縁底付 縦目付 高	口縁部片	内: 剥き 外: 剥り, ナデ	内:Hu: 2SY6/4 外:Hu: 2SY5/6	90号壙穴住居址
	69	土師器	高环	14.2	2/3	内:ナデ, 剥り, 剥 外:回転ナデ, 剥り	内:Hu: 2SY6/6 外:Hu: SY6/6	90・92・147・159号壙 穴住居址 内外面剥離している
	70	土師器	井	口縁~明渠片	内:ナデ, 剥り, 剥 外:ナデ, ハケ目	内:Hu: 7SY5/1 外:Hu: 10Y6/2	90号壙穴住居址	
	71	須恵器	蓋	8.6	底部片	内: 回転ナデ 外: 不明	内:Hu: N5/0 外:Hu: N4/0	90号壙穴住居址 ハラ剥り?
	72	須恵器	坪	口縁底付 縦目付	口縁部片 内:ナデ 外:ナデ	内: Hu: 2SY5/1 外: Hu: 2SY4/1	182号壙穴住居址	
	73	土師器	高环	9.2	1/2	内:ナデ, 剥り, 剥 外:ナデ, 剥り, 剥	内:Hu: 7SY7/6 外:Hu: 7SY6/6	63号壙穴住居址
	74	須恵器	蓋	口縁底付 縦目付 高	口縁部片 内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	内: Hu: N5/0 外: Hu: N5/0	63・123号壙穴住居址	
	75	須恵器	坪	口縁底付 縦目付 高	口縁~明渠片 内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	内: Hu: N5/0 外: Hu: N5/0	63号壙穴住居址	
	76	土師器	坪	9.0	口縁~底部1/5	内: 回転ナデ, ナデ 外: 回転ナデ, 剥り	内:Hu: S7Y6/6 外:Hu: SY5/6	74号壙穴住居址 底面
	77	土師器	坪	12.0	1/6	内: 回転ナデ, 剥 外: 回転ナデ	内:Hu: SY4/6 外:Hu: SY5/6	74号壙穴住居址 内・外面赤色化粧土
	78	土師器	坪	11.4 7.6 2.4	口縁~底部1/4	内: 回転ナデ, 剥 外: 回転ナデ	内:Hu: 2SY5/8 外:Hu: 7SY2/5	74号壙穴住居址 内側赤色化粧土
	79	土師器	高环	12.6 9.5 10.0	ほぼ完形	内: ハラ剥り, ハラ剥 き 外:ナデ, ハラ剥り	内:Hu: 7SY2/4 外:Hu: 10Y2/3	74号壙穴住居址
	80	土師器	高环	12.6 9.5 10.0	底部~譲部	内:ナデ 外:剥り	内:Hu: 7SY2/5 外:Hu: 2SY5/5	74号壙穴住居址底面

図	番号	遺物	種類(器種)	地層(cm)	残存部	特徴	色 因	出土遺物	備考
133	81	土師器	壺	口径 20.8 底径 6.3 高さ 33.1	7/8	内:ナデ、削り 外:ナデ、ハケ目	内:Hu: SY6/6 外:Hu: SY6/6	74号型穴住居址(土坑)	底部から削部へ3/4程スス付着
	82	土師器	壺	口径 14.0 底径 5.9 高さ 19.2	剖面下1/2次	内:ナデ、ヘラ削り 外:ナデ、ハケ目	内:Hu: SY6/6 外:Hu: SY6/4	74号型穴住居址	
	83	土師器	壺	口径 18.0~ 底径 18.3 高さ 22.5	口縁部2/3 底部上半	内:ナデ、削り 外:ナデ、ハケ目	内:Hu: IOYR7/4 外:Hu: 7.5Y7/4	74号型穴住居址(壺)	支柱
	84	土師器	壺	口径 16.6 底径 16.5 高さ 29.3	はびき充て	内:ヘラ削りナデ 外:ハケ目とナデ	内:Hu: SY6/4 外:Hu: SY6/4	74号型穴住居址	頭上半から底付近までスス付着
	85	土師器	壺	口径 16.1 底径 16.5 高さ 22.5	口縁部4/5 底部上1/5	内:ナデ、ヘラ削り 外:ナデ、ハケ目、ヘラ削り	内:Hu: 7.5YR7/4 外:Hu: IOYR7/3	74号型穴住居址	床底など
	86	土師器	壺	口径 16.6 底径 16.5 高さ 22.5	底部~剖面	内:ケズリ 外:ハケ目	内:Hu: SY6/4 外:Hu: 7.5YR6/4	74号型穴住居址	
	87	土師器	壺	口径 26.7 底径 26.0 高さ 33.7	はびき充て	内: 薄板ナデ、削り 外: 薄板ナデ、ナデ、 ハケ目、削りナ	内:Hu: SY6/6 外:Hu: SY6/6	74号型穴住居址(土坑)	外側底底あり
134	88	土師器	瓶	口径 31.6 底径 10.0 高さ 35.0	口縁~剖面部	内:ナデ、削り 外:ナデ	内:Hu: IOYR7/4 外:Hu: IOYR7/6	74号型穴住居址	
	89	須恵器	壺	口径 9.6 底径 9.0 高さ 3.5	4/5	内: 薄板ナデ 外: 薄板ナデ、削り	内:Hu: SY7/2 外:Hu: SY7/2	74号型穴住居址	
	90	須恵器	壺	口径 10.0 底径 9.3 高さ 3.5	1/6	内: 薄板ナデ 外: 薄板ナデ、圓輪削り	内:Hu: NS/0 外:Hu: NS/0	74号型穴住居址	ヘラ切り、赤色化粧土
	91	土師器	高杯	口径 9.6 底径 9.3 高さ 9.7	口縁欠	内: 薄板ナデ 外:ナデ、ヘラ削り、 カキモ	内:Hu: 25Y6/1 外:Hu: 25Y6/1	74号型穴住居址	圓輪台成形
	92	須恵器	高杯	口径 10.2 底径 9.7 高さ 3.5	約2/3	内: 薄板ナデ、削り 外: 薄板ナデ、削り	内:Hu: SY5/2 外:Hu: SY5/1	74号型穴住居址	自然釉
	93	須恵器	高杯	口径 10.4 底径 9.9 高さ 3.5	約3/4	内: 薄板ナデ 外: 薄板ナデ	内:Hu: IOY6/1 外:Hu: 7.5Y8/1	74号型穴住居址	
	94	石製品	輪縛草	長さ 4.8 幅 2.6 厚さ 1.7	1/2	内:	内:Hu: SY6/5 外:Hu: IOYS/1	74号型穴住居址	直角30度 斜めあり
	95	土師器	高杯	口径 11.6 底径 11.0 高さ 3.5	底盤1/4	内: 薄板ナデ、ナデ 外: 薄板ナデ、ナデ	内:Hu: SY6/5 外:Hu: IOYR6/1	73号型穴住居址	
	96	須恵器	壺	口径 11.6 底径 11.0 高さ 3.5	口縁部片	内: 薄板ナデ 外: 薄板ナデ	内:Hu: IOYR7/3 外:Hu: IOYR7/2	73号型穴住居址	
	97	須恵器	壺	口径 10.6 底径 10.0 高さ 3.5	口縁~剖面1/4	内: 薄板ナデ 外: ヘラ削り	内:Hu: 25Y7/2 外:Hu: 25Y7/2	73号型穴住居址	
	98	須恵器	壺	口径 12.4 底径 11.8 高さ 3.5	口縁~剖面片	内: 薄板ナデ、削り 外: 薄板ナデ、削り	内:Hu: 7.5YS/1 外:Hu: 7.5YS/1	154号型穴住居址	
	99	土師器	瓶	口径 12.0 底径 11.5 高さ 3.5	底部	内: 削り 外:ナデ、ハケ目	内:Hu: 7.5YR6/4 外:Hu: 7.5YR7/4	104号型穴住居址	
	100	須恵器	壺	口径 10.0 底径 9.5 高さ 3.5	口縁部片	内: 薄板ナデ 外: 薄板ナデ	内:Hu: NS/0 外:Hu: IOY8/1	104号型穴住居址	
	101	須恵器	壺	口径 10.0 底径 9.5 高さ 3.5	口縁~剖面片	内: 薄板ナデ、削り 外: 薄板ナデ、削り	内:Hu: 7.5Y5/1 外:Hu: 7.5Y5/2	104号型穴住居址(壺)	
	102	須恵器	壺	口径 9.9 底径 9.4 高さ 3.5	口縁部片	内: 薄板ナデ 外: 薄板ナデ	内:Hu: NS/0 外:Hu: NS/0	104号型穴住居址	
	103	須恵器	壺	口径 11.6 底径 11.0 高さ 3.5	口縁部片	内: 薄板ナデ 外:ナデ、薄板削り	内:Hu: IOYR6/2 外:Hu: NS/0	104号型穴住居址	
	104	土製品	土器	口径 8.8 底径 7.0 高さ 3.5	口縁部片	内: 外:ナデ	内:Hu: IOYR6/4 外:Hu: IOYR6/4	120号型穴住居址(壺)	
	105	土師器	壺	口径 13.6 底径 12.0 高さ 3.5	口縁部片	内: 削り 外: 削り	内:Hu: 25YR6/5 外:Hu: 25YR6/5	120号型穴住居址(壺) (壺口縁)	
	106	土師器	壺	口径 13.6 底径 12.0 高さ 3.5	口縁部片	内: 削り 外: 削り	内:Hu: 25YR6/5 外:Hu: 25YR7/6	120号型穴住居址	
	107	土師器	高杯	口径 9.6 底径 9.0 高さ 3.5	底部片	内:ナデ、削り 外:工具ナギ、ナデ	内:Hu: 25Y6/5 外:Hu: 25Y6/5	120号型穴住居址(壺) (下)	
	108	土師器	壺	口径 18.2 底径 17.0 高さ 3.5	口縁~剖面片	内:ナデ、削り 外:ナデ、ハケ目	内:Hu: IOYR6/4 外:Hu: SYR5/6	120号型穴住居址	内外面にスス・コゲ付着

2. 國際先端医学研究拠点施設新營工事に伴う発掘調査 (1223調査地点)

調査番号	遺物名	種類(詳細)	地質(cm)	埋存位置	特徴	色調	出土遺物	備考
138	109	灰陶器	壺 口径 14.4 底径 12.8 厚さ 4.4	口縁部片 口縁一部部片	内: 回転ナガ 外: 回転ナガ、削り	内: Hue 10YR4/4 外: Hue 7.5Y4/1	120号堅穴住居址(下層)	
	110	灰陶器	壺 口径 12.4 底径 10.8 厚さ 4.4	口縁一部部片	内: 西転ナガ、削り 外: 回転ナガ、削り	内: Hue 10YR5/3 外: Hue 10YR5/4	120号堅穴住居址(壺)	
	111	灰陶器	壺 口径 12.4 底径 10.8 厚さ 4.4	側面部片	内: 同心円凹凸具付 外: タキ、カキ目	内: Hue NS/0 外: Hue SB5/1	120号堅穴住居址	
	112	青磁	壺 口径 15.6 底径 13.8 厚さ 5.0	口縁片	内: Hue 7.5Y6/2 外: Hue 7.5Y6/2	内: Hue 120号堅穴住居址	越州窯系	
	113	青磁品	可憐 直径 2.1 厚さ 0.5	丸形	内: 外:	内: Hue 120号堅穴住居址	重量10kg 内面に金メッキ残存	
	114	製塙土器	壺 口径 12.2 底径 5.4 厚さ 4.8	側面部片	内: ナガ 外: ナガ、指さき	内: Hue 7.5YR2/4 外: Hue 2.5YR6/2	210号堅穴住居址	天保式
	115	土壺器	壺 口径 12.2 底径 5.4 厚さ 4.8	約1/2	内: 回転ナガ、ナガ 外: 回転ナガ、削り	内: Hue 10YR8/6 外: Hue 5YR7/6	1号堅立柱建物址	気泡による跡れ、ナガ不充分、 粗面品、外面部一部赤色化粧土
	116	土壺器	壺 口径 6.2 底径 5.6 厚さ 5.6	底部	内: 回転ナガ、磨き 外: 回転ナガ、ナガ	内: Hue 10YR3/1 外: Hue 7.5YR6/2 (2SP)	1号堅立柱建物址	内面黒色
	117	土壺器	壺 口径 6.6 底径 5.6 厚さ 5.6	底部1/2	内: 回転ナガ、ナガ 外: 回転ナガ、ナガ	内: Hue 10YR8/1 外: Hue 10YR8/4	1号堅立柱建物址 (17P)	
	118	土壺器	壺 口径 6.6 底径 5.6 厚さ 5.6	口縁部片	内: 削き 外: ナガ	内: Hue N15/4 外: Hue 10YR8/4	1号堅立柱建物址 (24P)	内面黒付帯
	119	灰陶器	壺 口径 7.4 底径 6.4 厚さ 6.4	底面部片	内: ナガ 外: ナガ	内: Hue 10YR7/4 外: Hue 10YR7/4	1号堅立柱建物址 (24P)	
	120	土壺器	壺 口径 6.4 底径 6.4 厚さ 6.4	底面部片	内: 回転ナガ、ナガ 外: 回転ナガ	内: Hue 5YR6/6 外: Hue 7.5YR7/4 (39P)	1号堅立柱建物址	
	121	灰陶器	高壺 口径 13.2 底径 11.2 厚さ 11.2	壺部1/4	内: 回転ナガ、ナガ、削り 外: 回転ナガ、削り	内: Hue 2.5Y7/7 外: Hue 5Y8/1	6サビット	外面にヘラ記号あり
	122	灰陶器	壺 口径 11.2 底径 9.2 厚さ 9.2	口縁部片	内: 回転ナガ 外: 回転ナガ	内: Hue N4/0 外: Hue N4/0	58サビット	
	123	灰陶器	壺 口径 6.4 底径 6.4 厚さ 6.4	底部1/2	内: 回転ナガ 外: 回転ナガ	内: Hue 2.5Y7/2 外: Hue 2.5Y7/2	1号堅立柱建物址 (32P)	
	124	土壺器	壺 口径 6.4 底径 6.4 厚さ 6.4	側面部片	内: ナガ 外: ナガ	内: Hue 5YR7/6 外: Hue 2.5YR8/3 (23P)	1号堅立柱建物址	墨青、赤色化粧土
	125	瓦	平瓦 口径 5.6 底径 5.6 厚さ 5.6	破片	内: 外: ナガ、削り	内: Hue 2.5YR7/2 外: Hue 2.5YR7/2 (23P)	1号堅立柱建物址	内面赤目板
	126	土壺器	壺 口径 6.0 底径 6.0 厚さ 6.0	底部1/4	内: 回転ナガ、ナガ 外: 回転ナガ、ナガ	内: Hue 10YR8/4 外: Hue 10YR8/2	1号ビット列 (35P)	
	127	灰陶器	壺 口径 7.3 底径 7.3 厚さ 7.3	底部1/4	内: 回転ナガ 外: 回転ナガ	内: Hue 5Y6/2 外: Hue 5Y6/2	1号ビット列 (35P)	
	128	土壺器	壺 口径 11.6 底径 9.2 厚さ 9.2	4/5	内: 回転ナガ 外: 回転ナガ、削り	内: Hue 2.5YR5/6 外: Hue 2.5YR5/6	1号ビット列 (216P)	
	129	土壺器	壺 口径 10.2 底径 8.1 厚さ 8.1	約1/6	内: 回転ナガ 外: 回転ナガ	内: Hue 10YR7/6 外: Hue 10YR7/6	1号ビット列 (216P)	ヘラ切り
	130	土壺器	壺 口径 11.0 底径 7.0 厚さ 5.1	1/3	内: 回転ナガ、ナガ 外: 回転ナガ	内: Hue 7.5YR2/8 外: Hue 7.5YR7/6	1号ビット列 (244P)	
	131	灰陶器	壺 口径 11.0 底径 7.0 厚さ 5.1	口縁部片	内: 回転ナガ 外: 回転ナガ、削り	内: Hue 2.5Y5/1 外: Hue 5Y4/1	54号土坑	外表面自然地
	132	灰陶器	高壺 口径 11.0 底径 7.0 厚さ 5.1	底面部片	内: 回転ナガ 外: 回転ナガ、削り	内: Hue 5Y5/2 外: Hue 5Y5/1	54号土坑	
	133	灰陶器	壺 口径 9.0 底径 6.4 厚さ 6.4	側面部片	内: ナガ、タキ 外: タキ	内: Hue 10GY4/1 外: Hue N2/0	236号土坑	
	134	灰陶器	壺 口径 8.6 底径 6.4 厚さ 6.4	約1/4	内: ナガ 外: 回転ナガ	内: Hue N4/0 外: Hue 5Y5/1	219号サビット	
	135	石製品	壺 口径 12.8 底径 10.4 厚さ 4.4	塊・棒	内: 外:	内: Hue 外: Hue	34号サビット	
136	136	土壺器	壺 口径 12.8 底径 10.4 厚さ 4.4	約1/2	内: ナガ、磨き 外: ナガ、削り、磨き	内: Hue 7.5YR8/1 外: Hue 10YR6/2	F4区E層	
	137	土壺器	壺 口径 8.6 底径 6.4 厚さ 6.4	口縁一部部片1/4	内: 回転ナガ、ナガ 外: 回転ナガ	内: Hue 7.5YR6/6 外: Hue 7.5YR6/6	E-2区E層	

図	番号	遺物	種類(形態)	出土量(cm)	性質	特徴	色	出土遺構	備考
136	128	土師器	碗	口径 13.0 底径 10.0 厚さ 1.4	口縁1/4	内：圓板ナデ 外：圓板ナデ	内：Hue 10YR6/4 外：Hue 10YR7/4	E-3K II 緒	
	129	土師器	高環	口径 14.2 底径 11.0 厚さ 1.4	口縁一部削失	内：圓板ナデ、ナデ 外：圓板ナデ	内：Hue 7.5YR7/6 外：Hue 7.5YR7/6	D-3K II 緒	
	140	土師器	壺	口径 25.8 底径 22.0 厚さ 1.6	口縁1/5弱	内：圓板ナデ、ケズリ 外：圓板ナデ、ハラナ	内：Hue 7.5YR7/6 外：Hue 7.5YR7/6	D-3K II 緒	
	141	土師器	壺	口径 26.0 底径 22.0 厚さ 1.6	口縁一部削失1/4	内：圓板ナデ、開き 外：圓板ナデ、ナデ、ハケ目	内：Hue 10YR6/4 外：Hue 10YR6/4	D-3K II 緒	
	142	土師器	壺	口径 27.0 底径 23.0 厚さ 1.6	把手	内： 外：焼き、ヘラナデ	内：Hue 外：Hue 7.5YR7/6	D-3K II 緒	
	143	埴輪器	壺	口径 10.2 底径 6.3 厚さ 2.8	約1/4	内：圓板ナデ 外：圓板ナデ、開き	内：Hue N5/0 外：Hue N5/0	C-5K II 緒	
	144	埴輪器	壺	口径 13.4 底径 10.0 厚さ 4.1	約1/4	内：圓板ナデ 外：圓板ナデ	内：Hue N5/0 外：Hue N5/0	D-3K II 緒	
	145	埴輪器	碗	口径 12.0 底径 7.9 厚さ 3.6	約1/4	内：圓板ナデ 外：圓板ナデ	内：Hue 25GY8/1 外：Hue 25GY8/1	D-3K II 緒	ヘラ切り?
	146	埴輪器	碗	口径 13.2 底径 9.3 厚さ 4.5	約1/6	内：圓板ナデ 外：圓板ナデ	内：Hue N4/0 外：Hue N4/0	D-3K II 緒	ヘラ切り
	147	埴輪器	壺	口径 13.6 底径 11.6 厚さ 3.8	約1/6	内：圓板ナデ 外：圓板ナデ	内：Hue N4/0 外：Hue 10GY7/1	C-3K II 緒	ヘラ切り
	148	土師器	碗	口径 7.0 底径 5.5 厚さ 1.8	底部1/4	内：圓板ナデ、ナデ 外：圓板ナデ、ナデ	内：Hue 10YR6/4 外：Hue 10YR6/4	D-3K II 緒	
	149	埴輪器	壺	口径 10.0 底径 8.0 厚さ 3.5	把手	内：圓板ナデ 外：ヘラ削り、ナデ	内：Hue 10YR6/3 外：Hue N4/0	D-3K II 緒、1号居住址 (18P)	ヘラ記号
	150	埴輪器	壺	口径 10.0 底径 8.0 厚さ 3.5	底部片	内：圓板ナデ 外：圓板ナデ	内：Hue SY6/1 外：Hue SY6/1	C-4K II 緒	ヘラ記号
	151	土師器	壺	口径 5.8 底径 3.2 厚さ 1.2	底部1/2以下	内：圓板ナデ 外：圓板ナデ、ナデ	内：Hue 25Y7/2 外：Hue 25Y7/2	E-3K II 緒	ヘラ記号
	152	埴輪器	壺	口径 5.8 底径 3.2 厚さ 1.2	底部片	内：圓板ナデ 外：圓板ナデ、ナデ、 ケズリ	内：Hue 7.5YR7/ 外：Hue N7/0	C-3K II 緒	ヘラ記号
	153	埴輪器	板用載	口径 底径 厚さ	底盤片	内： 外：ナデ	内：Hue N5/0 外：Hue N5/0	D-3K II 緒	
	154	土製品	移動式爐	口径 底径 厚さ	磁片	内： 外：	内：Hue 10YR7/4 外：Hue 10YR7/4	E-2区 II 緒	
	155	石器	砥石	口径 底径 厚さ		内： 外：	内：Hue 25Y6/2 外：Hue 25Y6/2	D-3K II 緒	
	156	陶文土器	深井	口径 底径 厚さ	底部1/8以下	内：ナデ、オサニ、 カス 外：焼き	内：Hue 10YR6/3 外：Hue 10YR7/4	E-3K	
	157	陶文土器	深井	口径 底径 厚さ	底部片	内：焼き 外：焼き	内：Hue 25Y7/3 外：Hue 25Y3/2	12号居住址 内面に瓦張あり	
137	158	石器	磨板石斧	長さ 10.2 幅さ 5.2 厚さ 1.9	ほぼ完形	内： 外：	内：Hue 外：Hue	4号井	
	159	石器	石鋸	長さ 1.7 幅さ 0.3	ほぼ完形	内： 外：	内：Hue 外：Hue	104号居住址(壁 下の土坑)	
	160	土師器	壺	口径 13.3 底径 9.0 厚さ 3.8	1/4	内：圓板ナデ 外：圓板ナデ	内：Hue 25YR6/7 外：Hue 25YR6/7	I 緒	
	161	土師器	碗	口径 8.6 底径 6.6 厚さ 1.6	底部2/3	内：ナデ 外：圓板ナデ	内：Hue 25Y6/1 外：Hue 25YR7/3	I 緒	
	162	土師器	碗	口径 12.0 底径 6.9 厚さ 5.4	2/3	内：圓板ナデ、ナデ 外：圓板ナデ	内：Hue 外：Hue	I 緒 内外面スズ付着	
	163	土師器	壺	口径 15.0 底径 11.0 厚さ 3.8	口縁部-底部	内：圓板ナデ、開き 外：圓板ナデ、開き	内：Hue 10R5/6 外：Hue 10R4/6	I 緒 内・外面赤化鉄土	
	164	土師器	碗	口径 底径 厚さ	把手	内：ナデ 外：開き、ナデ	内：Hue 7.5YR6/6 外：Hue 7.5YR7/6	E-2区 I 緒 把手表面に小穴あり	
	165	埴輪器	碗	口径 7.8 底径 5.8 厚さ 1.6	底部1/2	内：圓板ナデ 外：圓板ナデ、開き	内：Hue SY6/1 外：Hue SY6/2	I 緒	
	166	埴輪器	高環	口径 9.2 底径 6.5 厚さ 1.6	口縁部1/6	内：圓板ナデ 外：圓板ナデ	内：Hue N4/0 外：Hue N3/0	I 緒	

2. 国際先端医学研究拠点施設新工事に伴う発掘調査（1223調査地点）

図	番号	文物	概要(特徴)	地盤(cm)	埋位置	特 徴	色 彩	出土箇所	備 考
127	167	磁器	碗 底径 84 高さ 31	底部3/4	内：ヘラ削り、ナガ 外：ヘラ削り、ナガ	内：Hue 25Y6/1 外：Hue 25Y6/2	I層		
	168	磁器	家用器 口径 18.6 底径 12.4 高さ 31	約1/3	内：圓軸ナガ、ナガ 外：圓軸ナガ、削り	内：Hue 10YR5/2 外：Hue 5YR4/3	4号窓、I層	使用痕あり	
	169	土器器	环 口径 13.8 底径 8.6 高さ 31	約1/6	内：圓軸ナガ、圓軸削 き 外：圓軸ナガ、圓軸削 き、削り	内：Hue 25YR6/6 外：Hue 10YR7/3	I層	ヘラ記号、赤色化粧土	
	170	土器器	环 口径 13.8 底径 8.6 高さ 31	底部片	内：ナガ、削き 外：ナガ、削き	内：Hue 10YR5/2 外：Hue 7.5YR6/4	I層	ヘラ記号	
	171	磁器	环 口径 6.0 底径 5.6 高さ 21	1/4	内：圓軸ナガ、ナガ 外：圓軸ナガ、削り	内：Hue 5Y7/2 外：Hue 5Y7/2	I層	ヘラ記号	
	172	土器器	环 口径 13.8 底径 8.6 高さ 31	底部片	内：圓軸ナガ、圓軸削 き 外：圓軸削り、圓軸削 き	内：Hue 25YR6/6 外：Hue 10YR6/3	I層	風呂、赤色化粧土	
	173	土器品	貝を 厚さ 20 厚さ 21	脚部	内： 外：ナガ、削り	内：Hue 7.5YR6/6 外：Hue 7.5YR6/6	D-2区 I層		
	174	土器品	貝を 厚さ 22 厚さ 21 厚さ 10.5	ほば定毛	内： 外：	内：Hue 7.5YR7/6 外：Hue 7.5YR8/6	荒乱		
	175	陶器	コンロ 日量 底径 13.0 高さ 26 厚さ 21	底部1/8弱	内：圓軸ナガ 外：圓軸ナガ	内：Hue 10YR6/2 外：Hue 10YR4/1	I層		
	176	石製品	貝を 厚さ 23 厚さ 26 厚さ 21	完形	内： 外：	内：Hue 外：Hue	I層	野獣	

写 真 図 版



写真1 I区発掘状況（南東より）



写真2 1次掘削の様子（南より）



写真3 I区西壁（南東より）



写真4 地山上面遺物出土状況（北より）

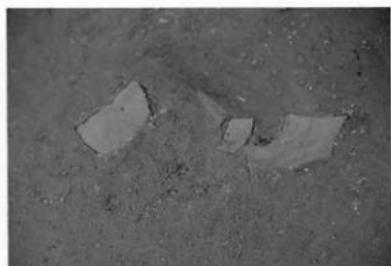


写真5 地山上面遺物出土状況（北より）

図版2 9911調査地点



写真6 II区遺物出土状況（南東より）



写真7 遺物出土状況（北より）



写真8 北壁（南より）

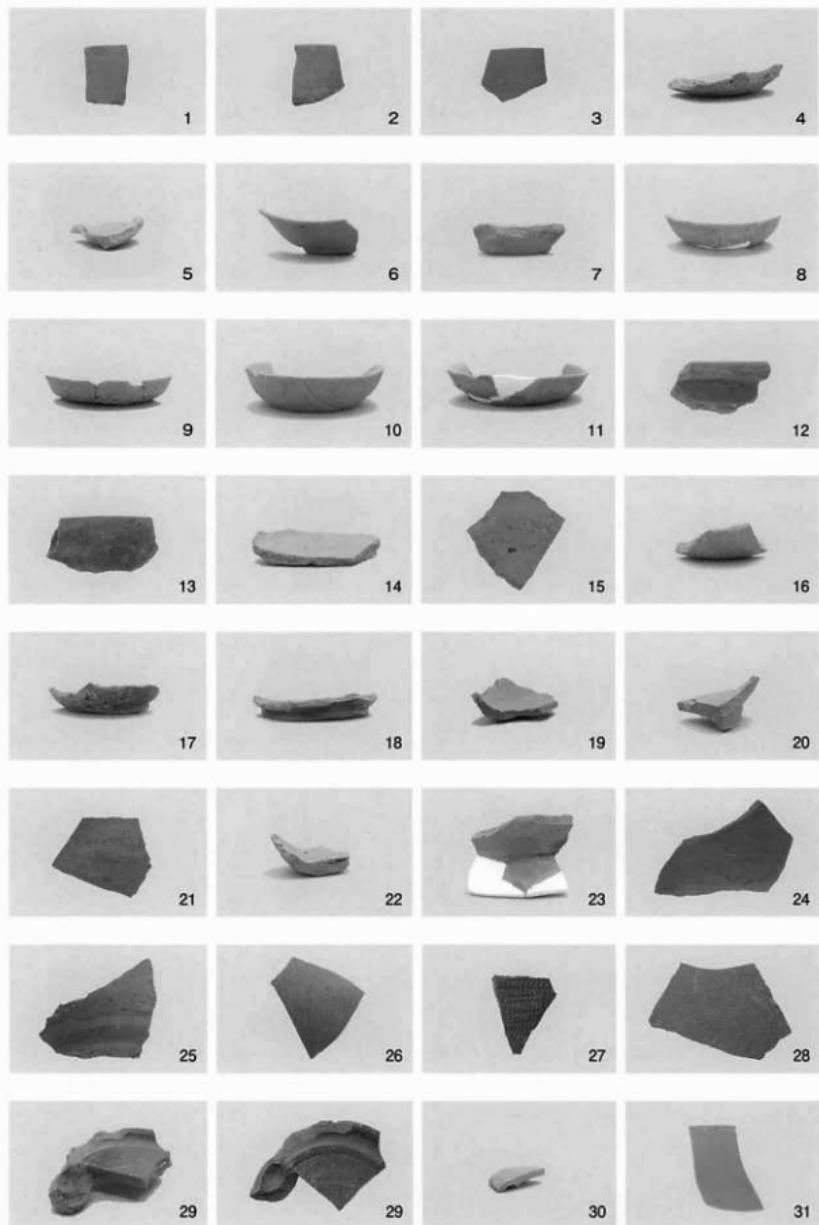


写真9 遺物出土状況（北より）

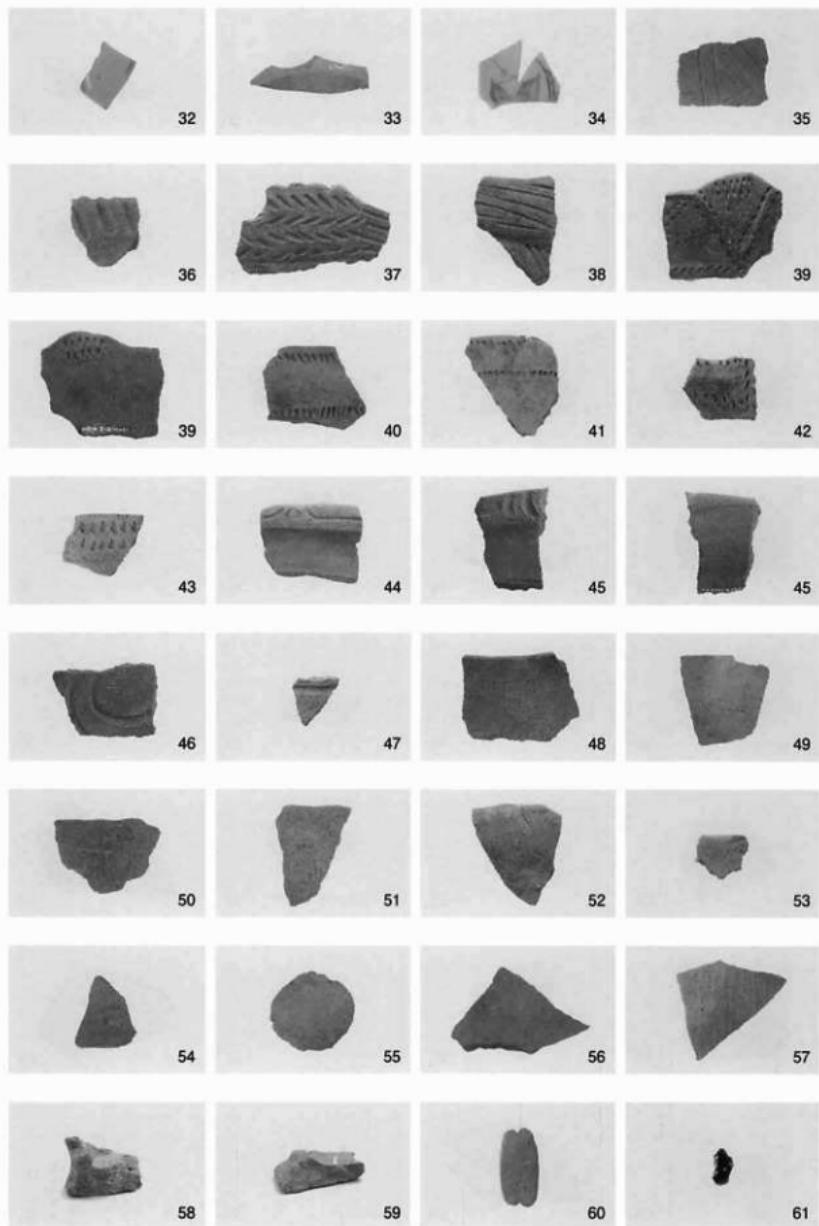


写真10 II区完掘状況（南東より）

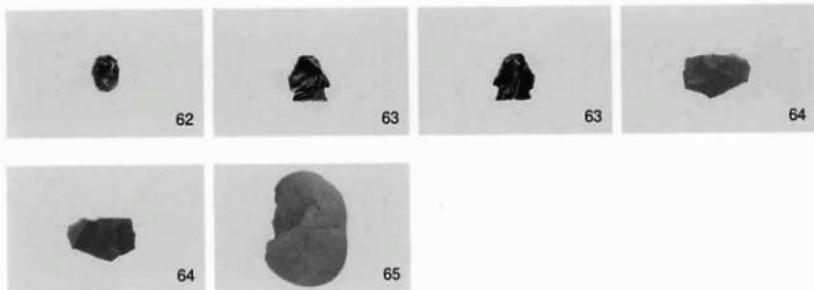
図版3 9911調査地点出土遺物1



図版4 9911調査地点出土遺物2



図版5 9911調査地点出土遺物3



図版6 0204調査地点



写真12 調査区南側全景（西より）

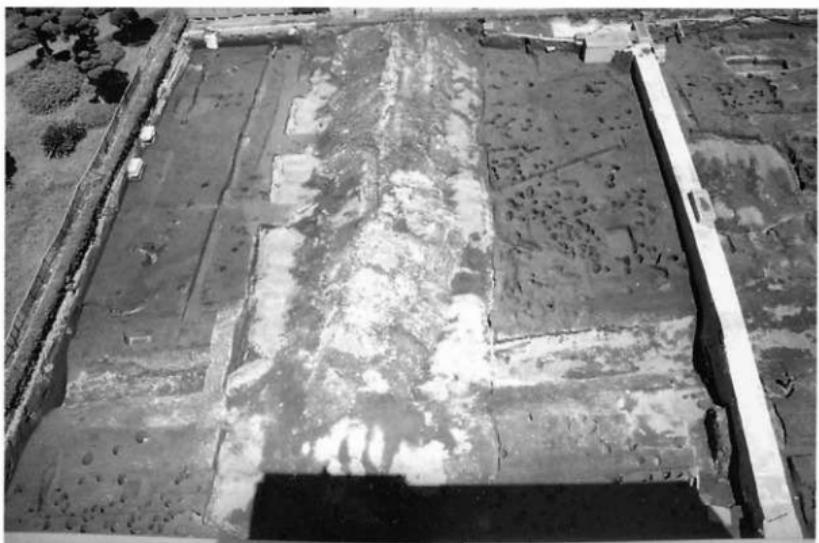


写真13 調査区北側全景（西より）



写真14 調査区南側（東より）



写真15 調査区北側（東南より）



写真16 調査区南側（南西より）



写真17 調査区北壁土層断面・5・6号溝（南より）



写真18 調査区北壁土層断面（南西より）



写真19 1号竪穴住居址（南より）



写真20 1・2号竪穴住居址（南より）



写真21 1号竪穴住居址竪完掘状況（南より）

図版8 0204調査地点



写真22 2号竖穴住居址竪 (南より)



写真23 1号竖穴住居址竪 (東より)



写真24 2号竖穴住居址 (南より)



写真25 3号竖穴住居址 (南より)

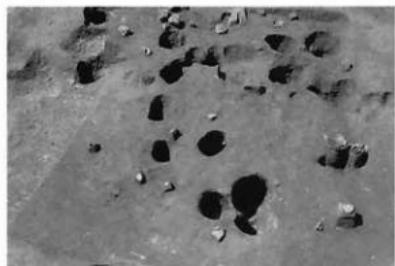


写真26 2号竖穴住居址完掘状況 (南より)



写真27 3号竖穴住居址完掘状況 (南より)

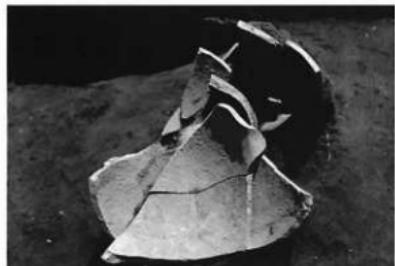


写真28 2号竖穴住居址遺物出土状況 (西より)



写真29 4号竖穴住居址東西土層壁面 (北より)

図版9 0204調査地点

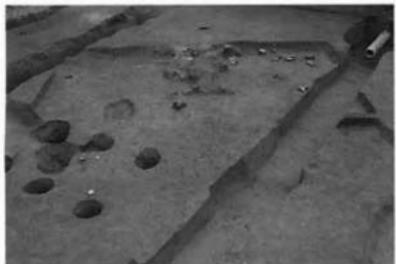


写真30 4号竪穴住居址（南西より）

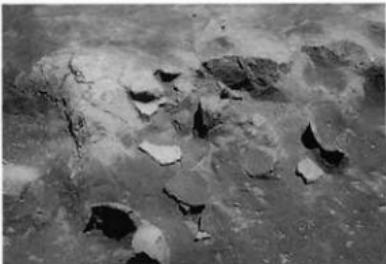


写真31 4号竪穴住居址竪土器出土状況（南より）



写真32 4号竪穴住居址竪横土器出土状況（南より）



写真33 21号火葬墓（西より）



写真34 4号竪穴住居址竪（南西より）

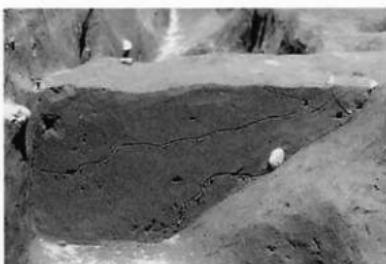


写真35 9号溝土層断面（南より）



写真36 樹木移植地調査区西側（北より）

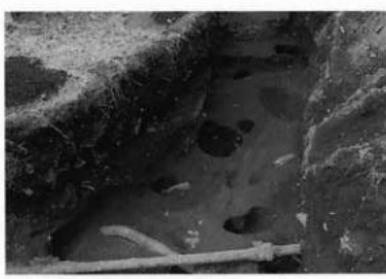
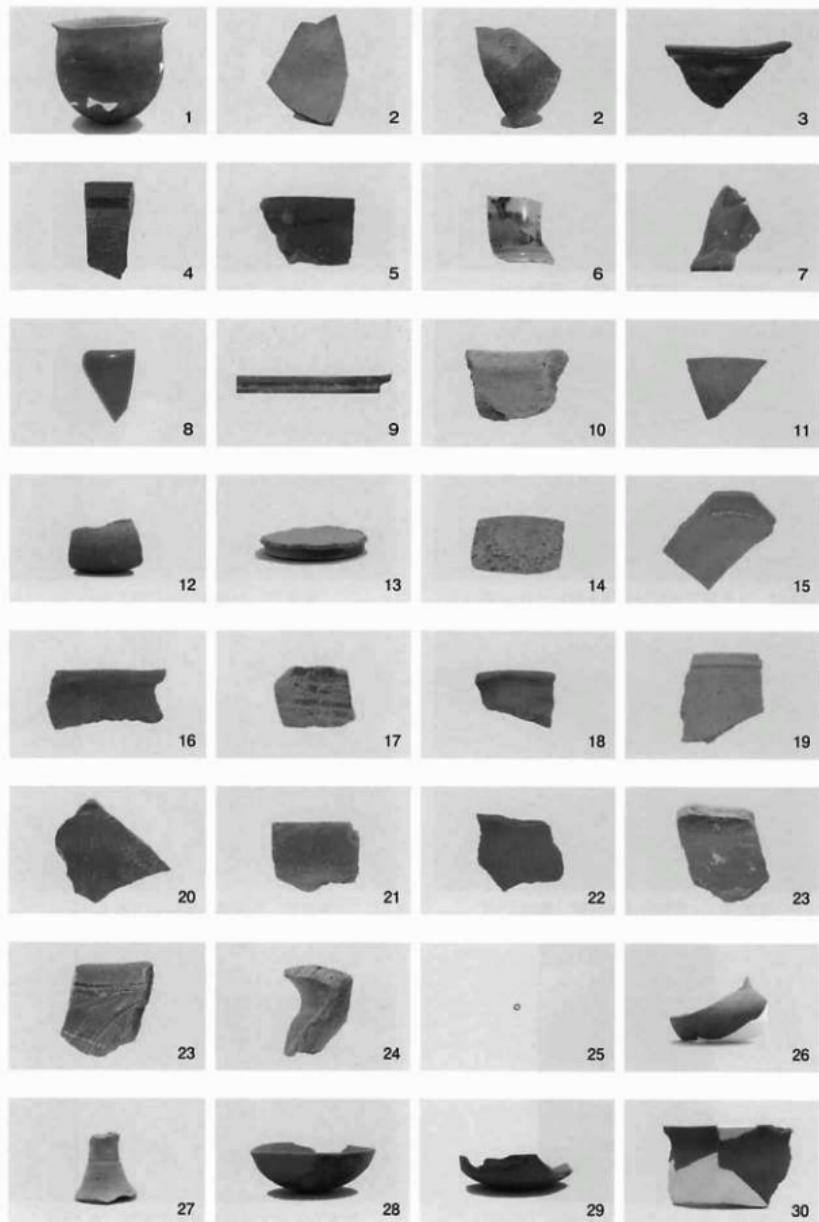
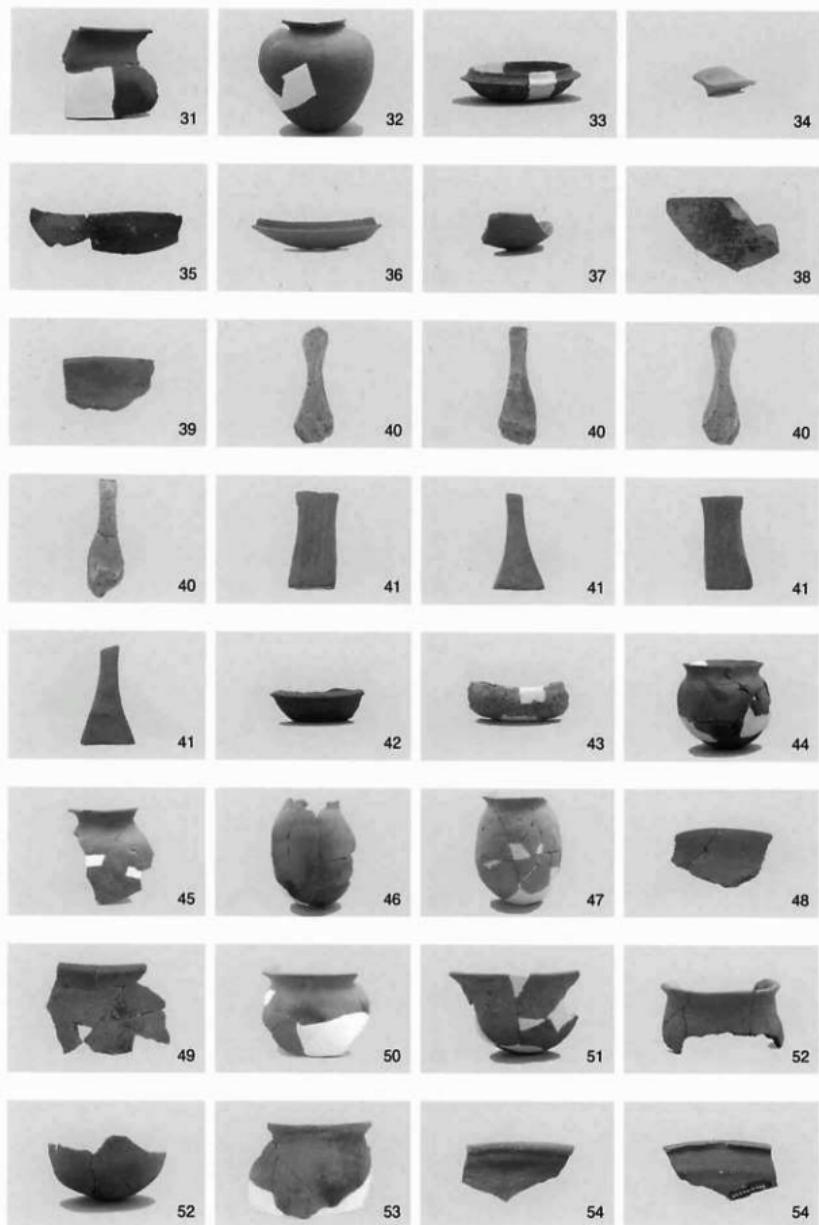


写真37 樹木移植地調査区南側（南より）

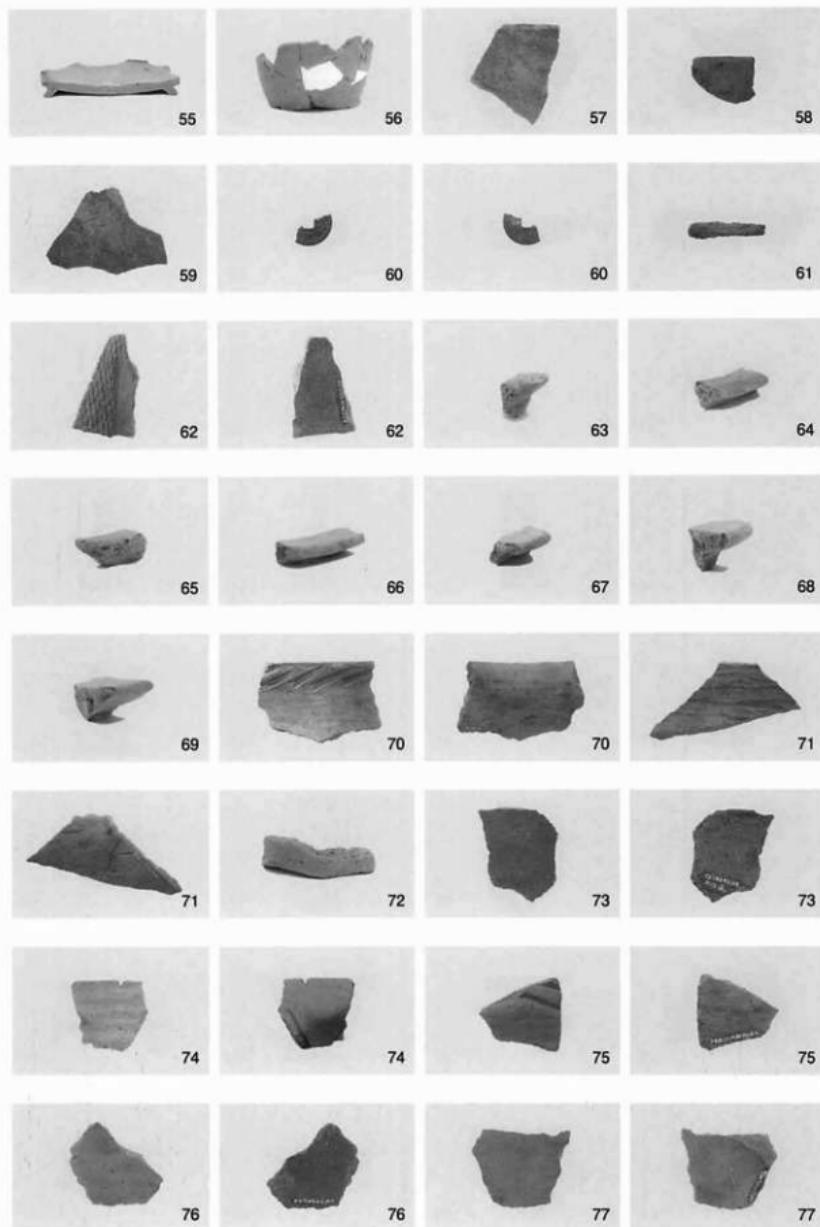
図版10 0204調査地点出土遺物 1



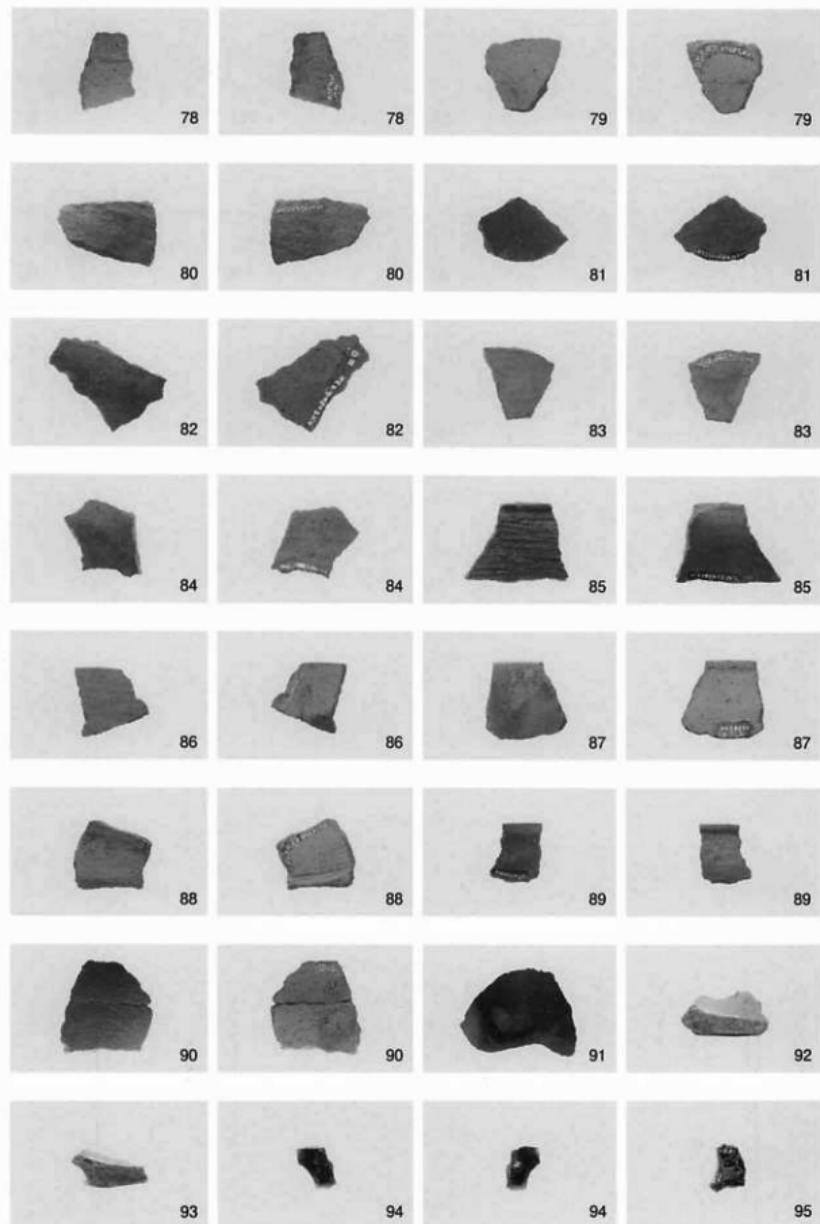
図版11 0204調査地点出土遺物2



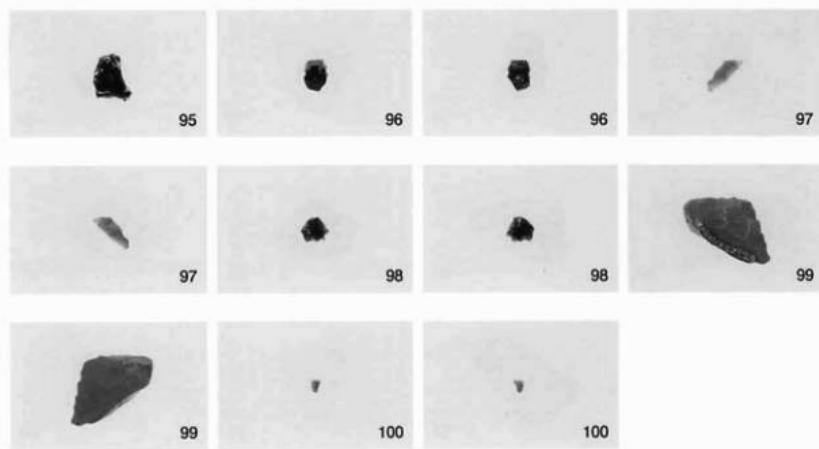
図版12 0204調査地点出土遺物3



図版13 0204調査地点出土遺物 4



図版14 0204調査地点出土遺物5



図版15 0206調査地点・同出土遺物



写真38 調査区南壁（北より）



写真39 調査区全景（北より）



写真40 溝状遺構（北より）



写真41 遺物出土遺構（東より）



写真42 遺物出土状況（東より）



図版16 0210調査地点



写真43 樹木③調査地点周囲掘削風景 (西より)



写真44 樹木⑩トレンチ掘削状況 (東より)



写真45 II区トレンチ5掘削状況 (東より)

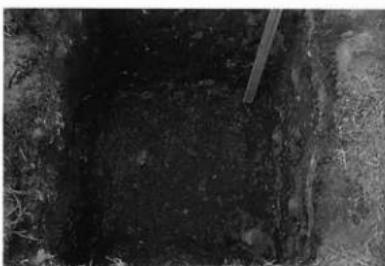


写真46 II区トレンチ6掘削状況 (東より)



写真47 II区トレンチ8掘削状況 (北より)



写真48 II区トレンチ7掘削状況 (西より)



写真49 II区トレンチ9掘削状況 (北より)



写真50 II区トレンチ10掘削状況 (北より)

図版17 0210調査地点



写真51 II区トレンチ11掘削状況（西より）



写真52 II区トレンチ12掘削状況（北より）



写真53 II区トレンチ13掘削状況（東より）



写真54 II区トレンチ1掘削状況（西より）



写真55 II区トレンチ15掘削状況（東より）



写真56 II区トレンチ14掘削状況（東より）



写真57 II区調査地点全景（西より）



写真58 III区調査地点全景（北東より）

図版18 0210調査地点



写真59 IV区調査地点全景 (南東より)



写真60 IV区トレンチ20調査風景 (南東より)



写真61 IV区トレンチ21硬化面検出状況 (東より)



写真62 III区トレンチ16全景 (東より)



写真63 III区トレンチ17全景 (東より)



写真64 IV区トレンチ20第2硬化面検出状況 (北より)



写真65 IV区トレンチ20遺物出土状況 (東より)



写真66 IV区トレンチ20摩石ほか出土状況(西より)



写真67 N区トレンチ20包含層下面遺物出土状況(東より)



写真68 N区トレンチ21包含層遺物出土状況(東より)



写真69 III区トレンチ19・1号住居址(北より)



写真70 樹木①調査地点トレンチ土層(南より)



写真71 樹木①調査地点近景(西より)

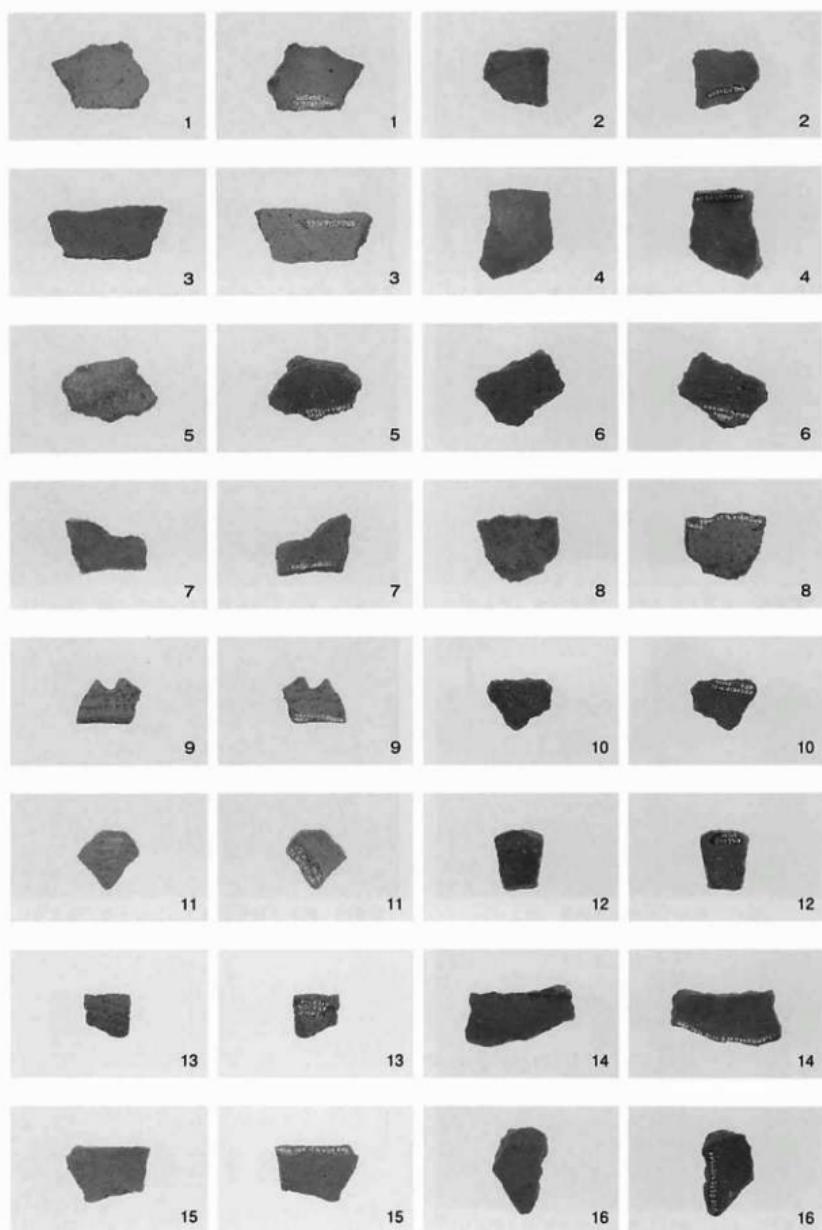


写真72 樹木②調査地点トレンチ土層(東より)

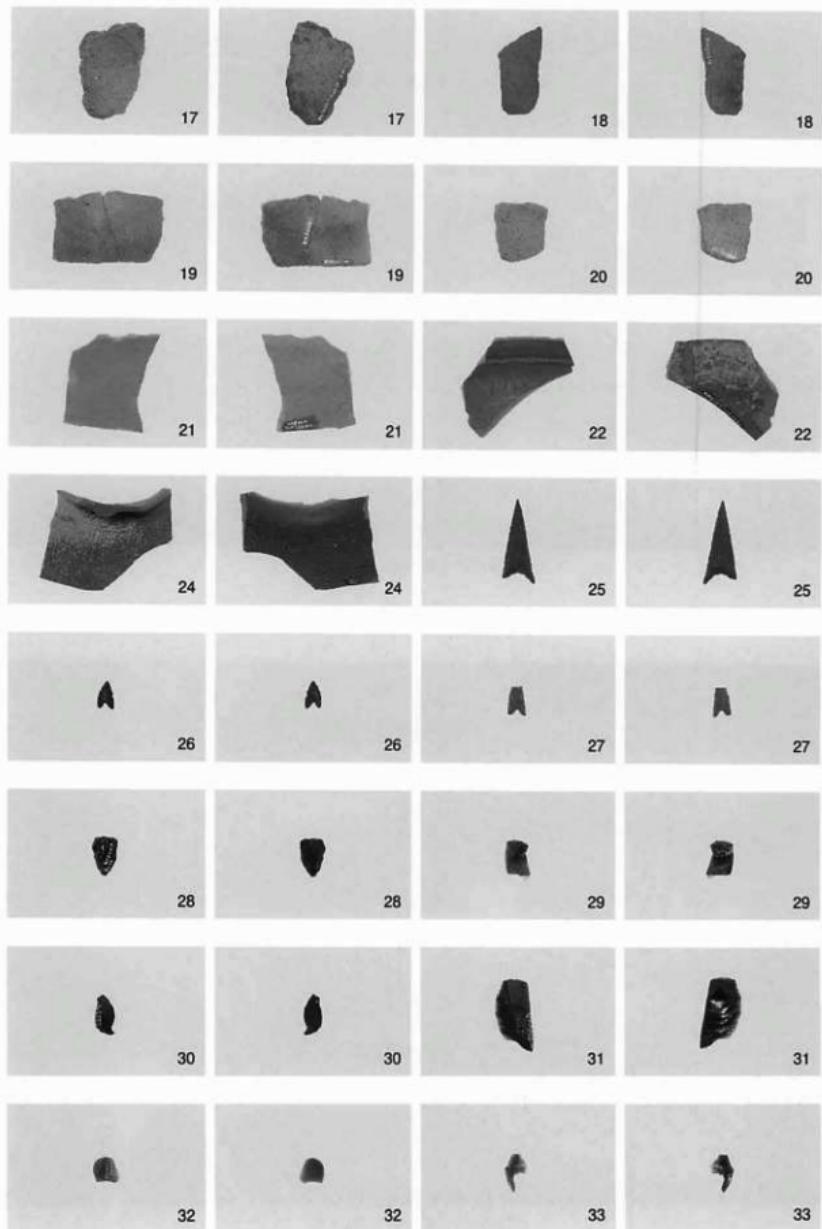


写真73 トレンチ18位置換え掘削風景(北より)

図版20 0210調査地点出土遺物 1



図版21 0210調査地点出土遺物2



図版22 9901調査地点



写真74 I区全景（東より）



写真75 II区全景（北より）



写真76 II区東部全景（北より）



写真77 3号竪穴住居址遺物出土状況（南東より）



写真78 3号竪穴住居址完掘状況（西より）



写真79 5号竪穴住居址遺物出土状況（南西より）



写真80 5号竪穴住居址掘削状況（北より）

図版24 9901調査地点



写真81 35号竪穴住居址掘削状況（南西より）

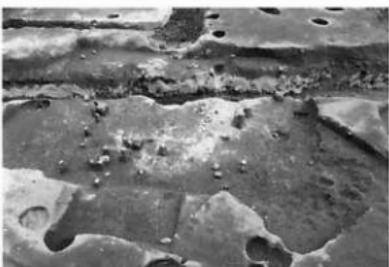


写真82 80号竪穴住居址遺物出土状況（北西より）



写真83 80号竪穴住居址内竈（北より）



写真84 92号竪穴住居址・74号溝（西より）



写真85 113号竪穴住居址（北東より）



写真86 253号竪穴住居址掘削状況（南より）



写真87 338号竪穴住居址掘削状況（南西より）



写真88 339号・340号竪穴住居址掘削状況（南東より）

図版25 9901調査地点



写真89 346号竪穴（南より）



写真90 346号竪穴遺物出土状況（西より）



写真91 352・353号竪穴住居址掘削状況（北西より）



写真92 353号竪穴住居址完掘状況（北西より）



写真93 360号竪穴住居址遺物出土状況（南より）



写真94 360号竪穴住居址（西より）



写真95 387号竪穴住居址遺物出土状況（北西より）

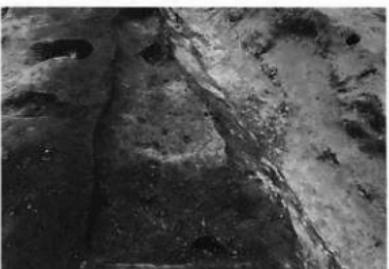


写真96 387号竪穴住居址完掘状況（北東より）

図版26 9901調査地点



写真97 368号集石土坑（西より）



写真98 30・25・80号竪穴住居址（南東より）



写真99 43・50号竪穴住居址（北東より）



写真100 52号竪穴住居址遺物出土状況（北より）



写真101 52号竪穴住居址電気掘削状況（南より）



写真102 290号竪穴住居址遺物出土状況（南より）



写真103 291号竪穴住居址掘削状況（西より）

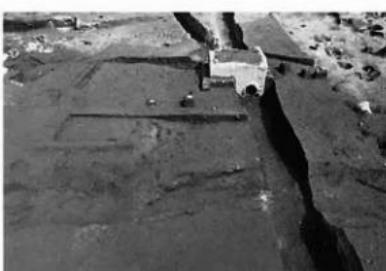


写真104 343号竪穴住居址完掘状況（南より）



写真105 355号竪穴住居址完掘状況（西より）



写真106 356号竪穴住居址北側（南西より）



写真107 356号竪穴住居址南側（南西より）



写真108 357号竪穴遺物出土状況（北より）



写真109 25号竪穴住居址遺物出土状況（西より）



写真110 25号竪穴住居址内焼土（北東より）



写真111 114号竪穴住居址土層断面（東より）



写真112 157号竪穴住居址遺物出土状況（東より）

図版28 9901調査地点



写真113 258号竪穴住居址遺物出土状況（北より）

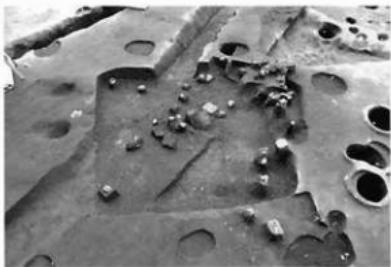


写真114 300号竪穴住居址遺物出土状況(北より)



写真115 300号竪穴住居址遺物出土状況(北東より)

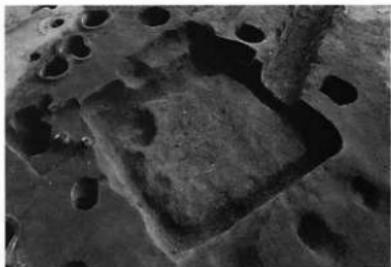


写真116 300号竪穴住居址完掘状況（北西より）



写真117 310号竪穴住居址遺物出土状況（北より）



写真118 362号竪穴土層断面（西より）



写真119 据立柱建物（北より）



写真120 I区1号溝遺物出土状況（北東より）



写真121 II区1号溝完掘状況（南西より）

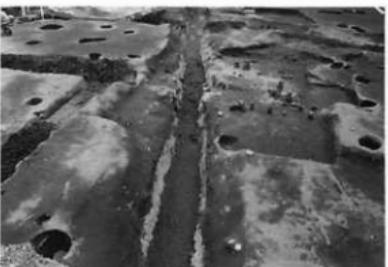


写真122 4号溝掘削状況（北東より）



写真123 4号溝上土器出土状況（北より）



写真124 4号溝内馬骨出土状況（西より）



写真125 15・16号溝完掘状況（東より）



写真126 57号溝遺物出土状況（東より）



写真127 72号溝完掘状況（北より）



写真128 72号溝完掘状況（南西より）

図版30 9901調査地点



写真129 72号溝内高环出土状況（北より）



写真130 72号溝遺物出土状況（西より）



写真131 4・1(381)・379・156(380)号溝
(西より)



写真132 358・373号溝（西より）



写真133 II区南側溝発掘状況（北より）

図版31 9901調査地点



写真134 115号胞衣壺ビット (西より)



写真135 115号胞衣壺ビット断面 (西より)

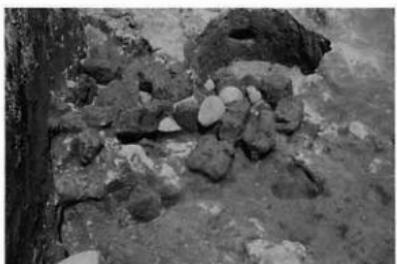


写真136 370号集石 (西より)



写真137 250号土壤墓人骨検出状況 (西より)



写真138 2号溝 (北より)

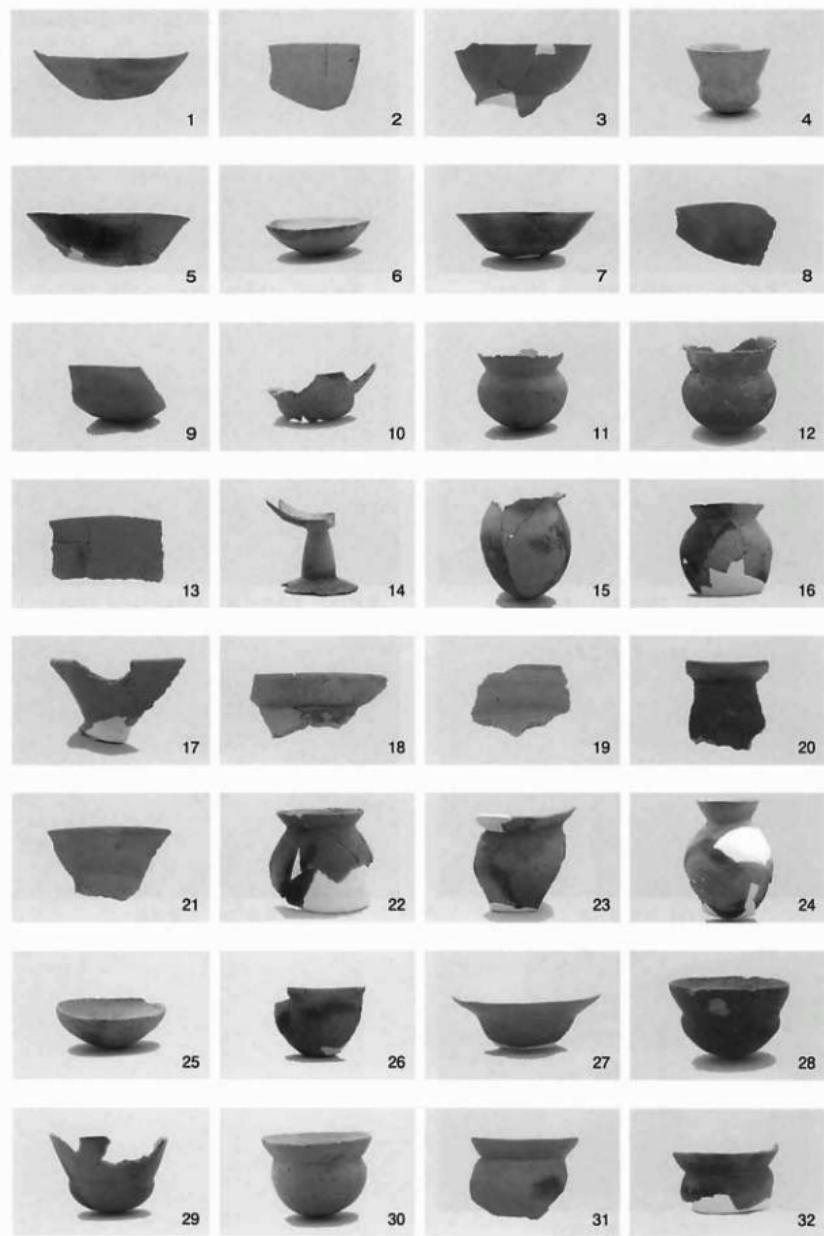


写真139 作業風景

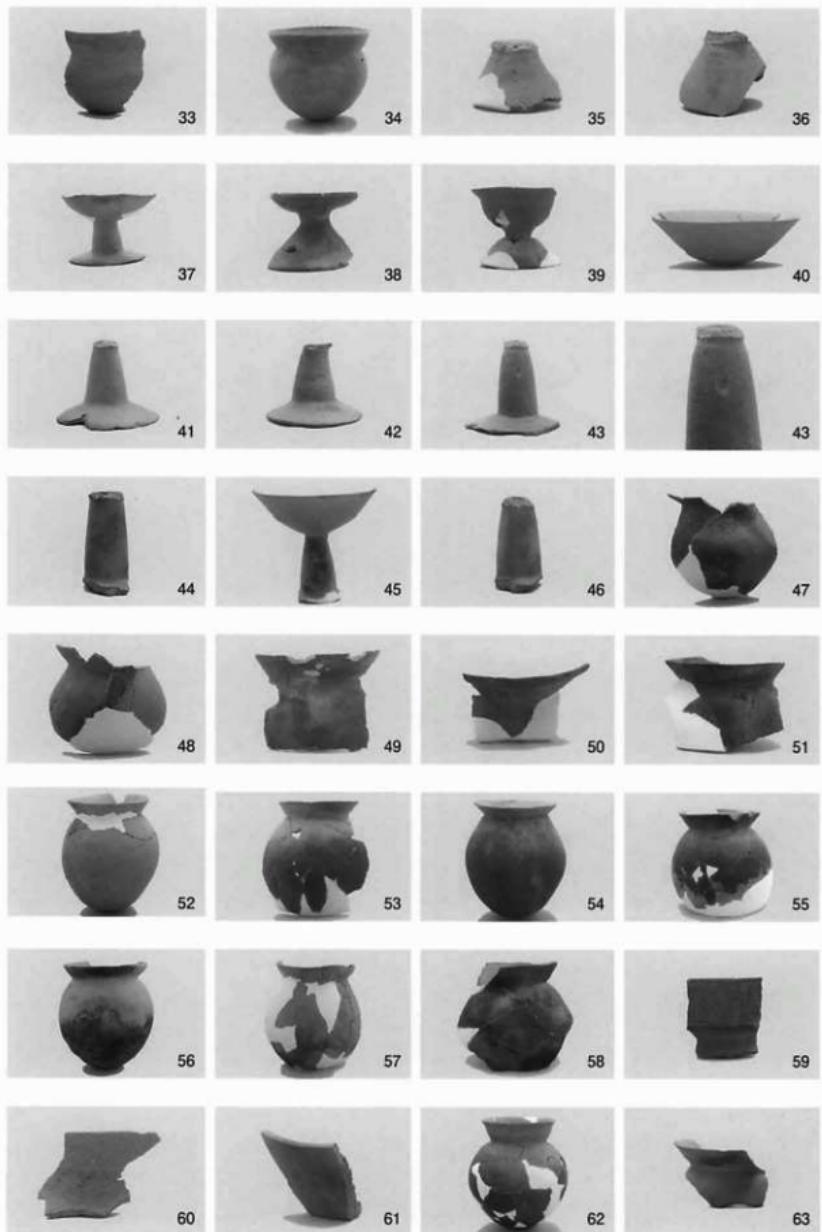


写真140 現場説明会

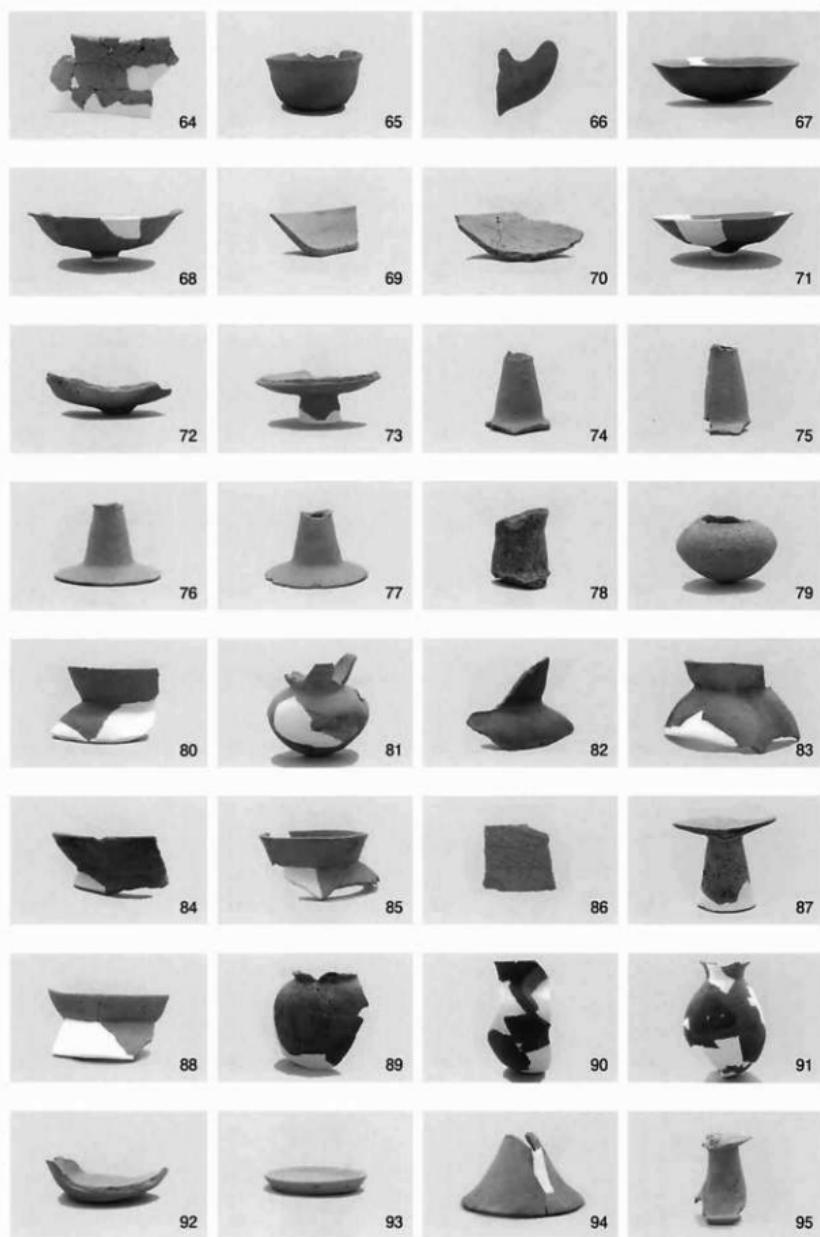
図版32 9901調査地点出土遺物 1



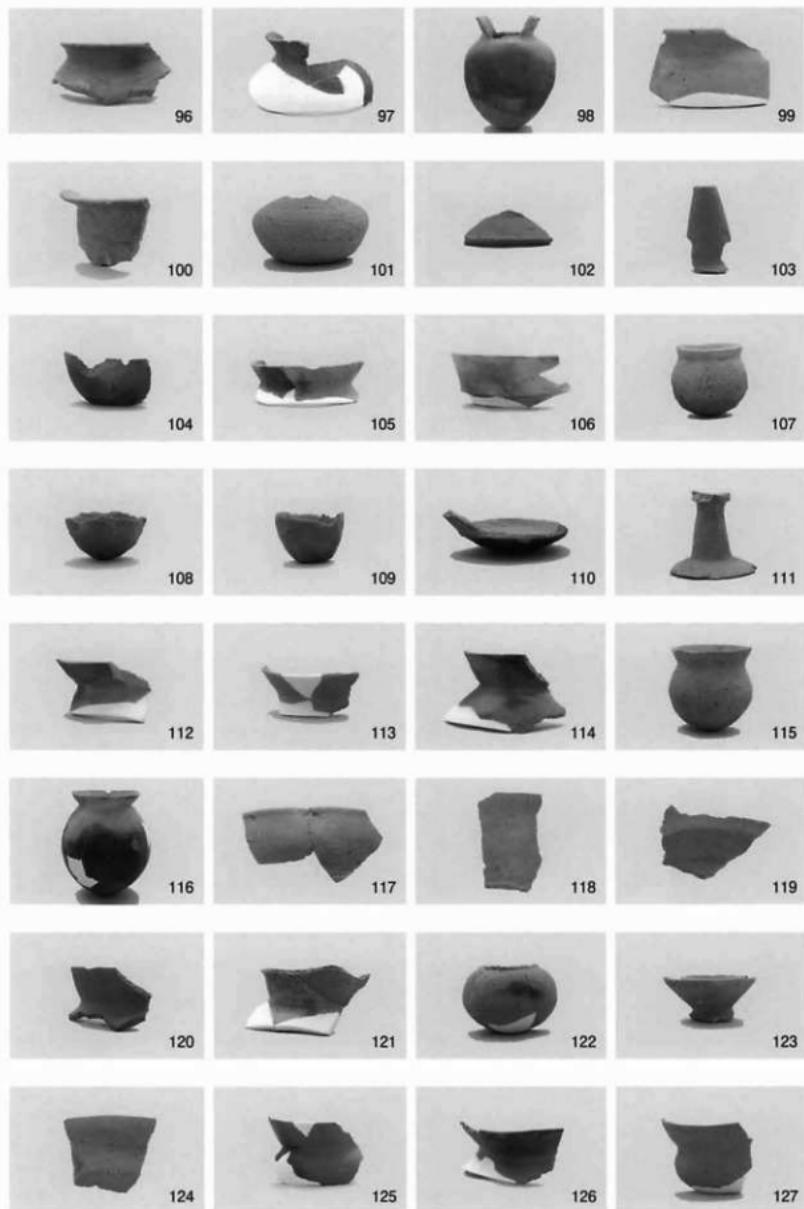
図版33 9901調査地点出土遺物2



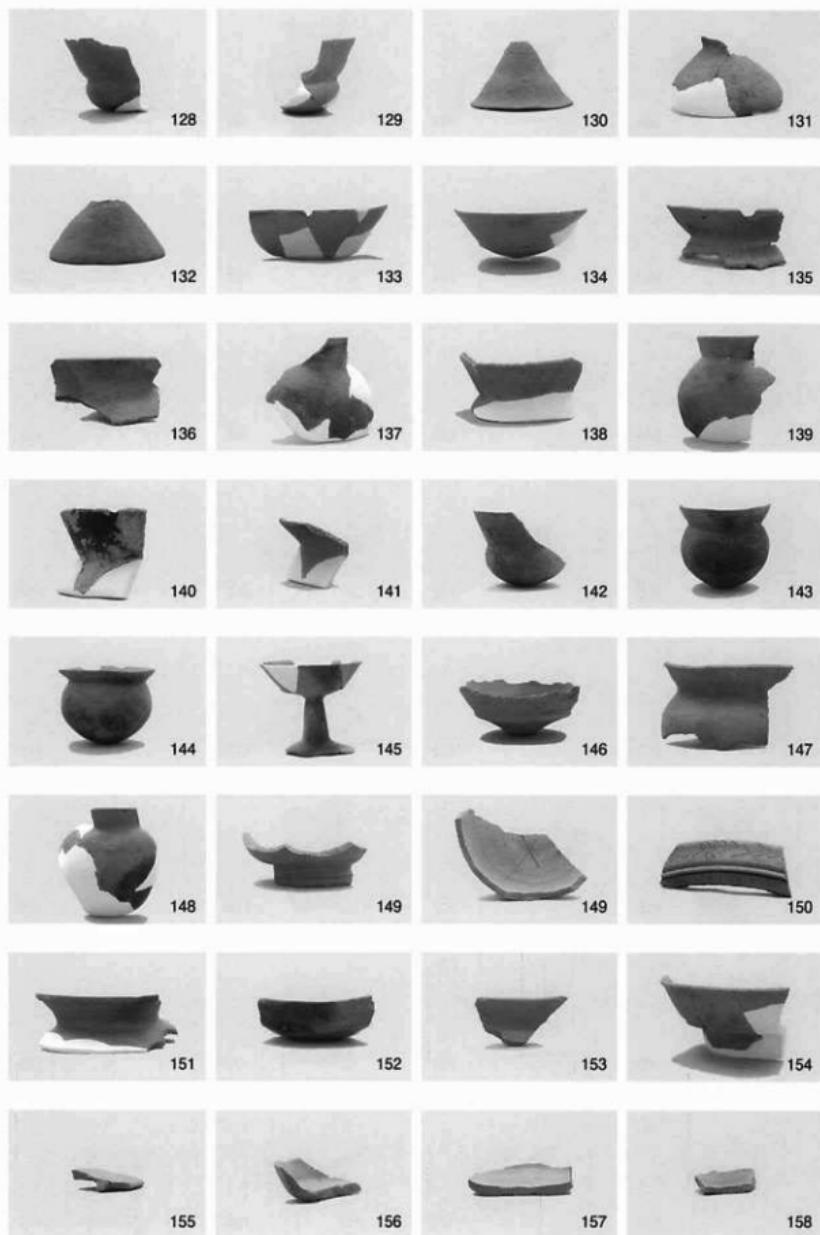
図版34 9901調査地点出土遺物3



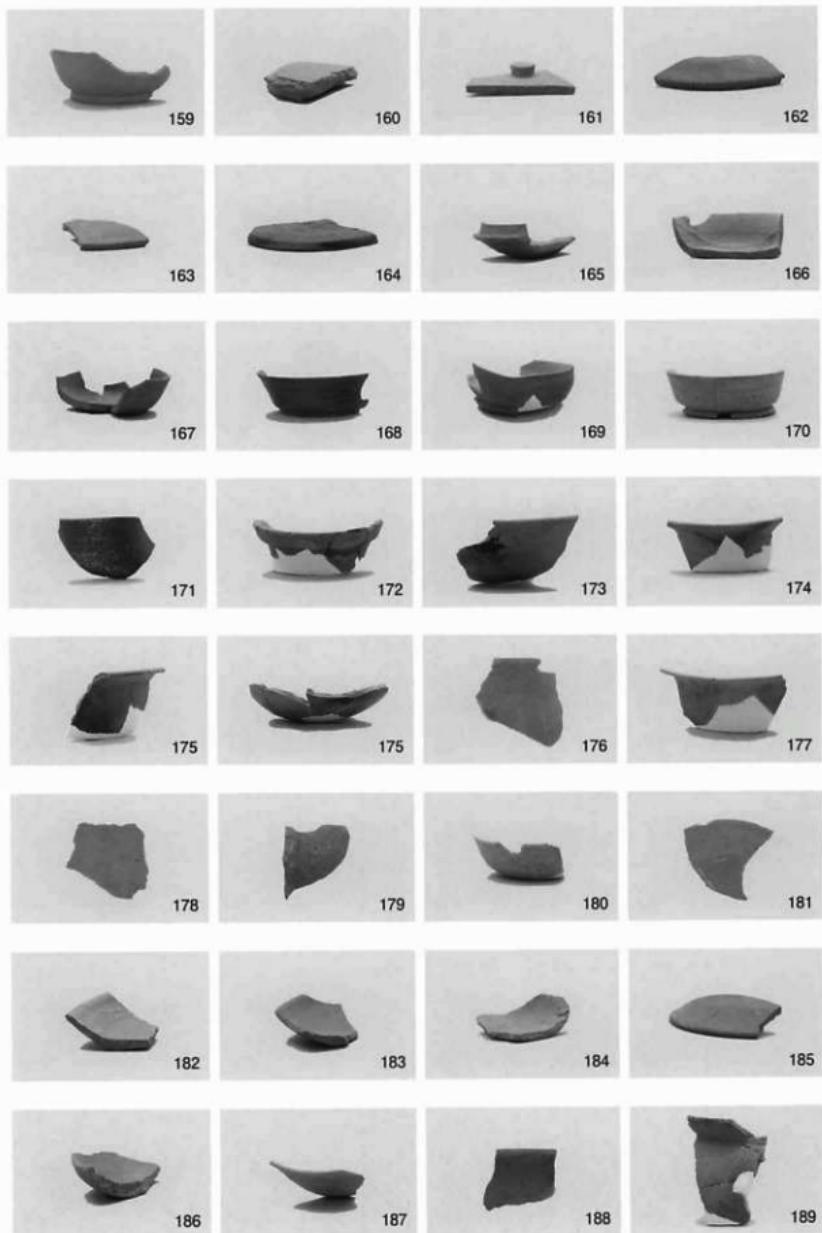
図版35 9901調査地点出土遺物4



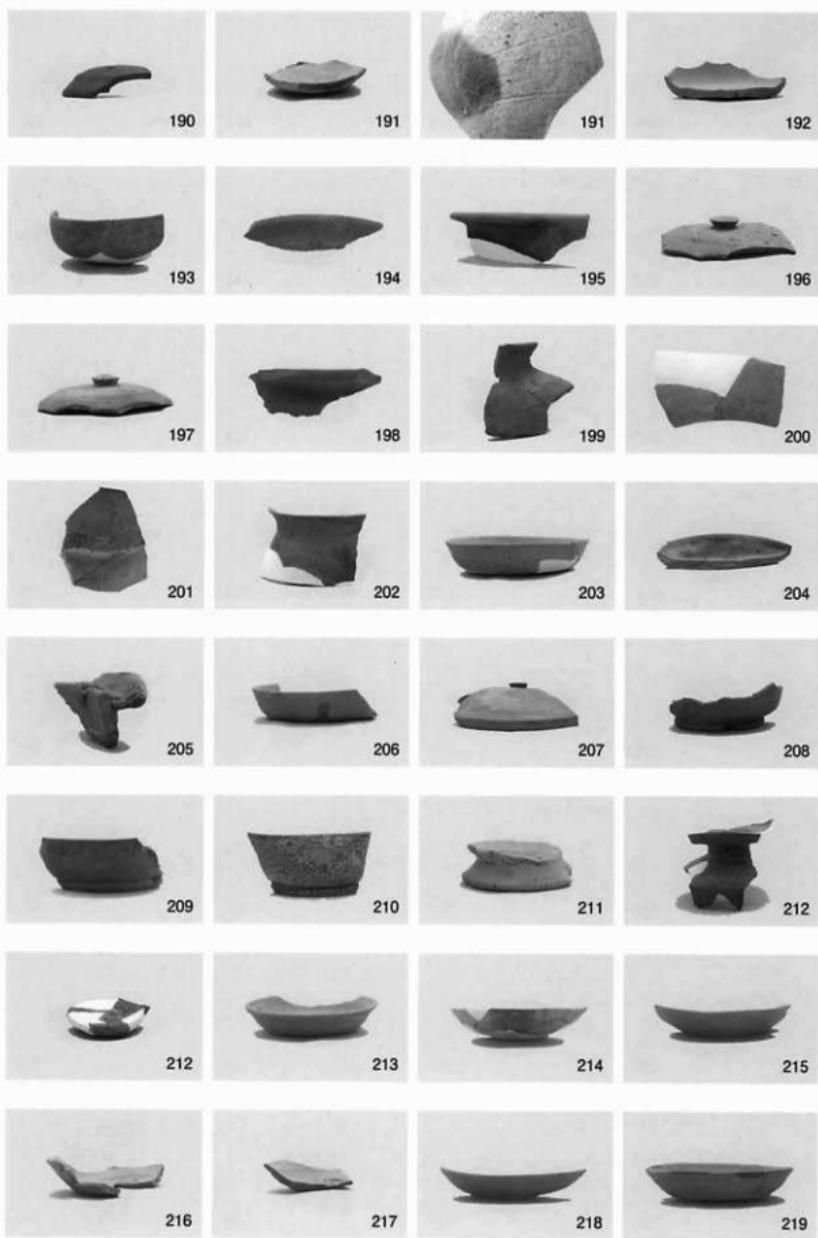
図版36 9901調査地点出土遺物5



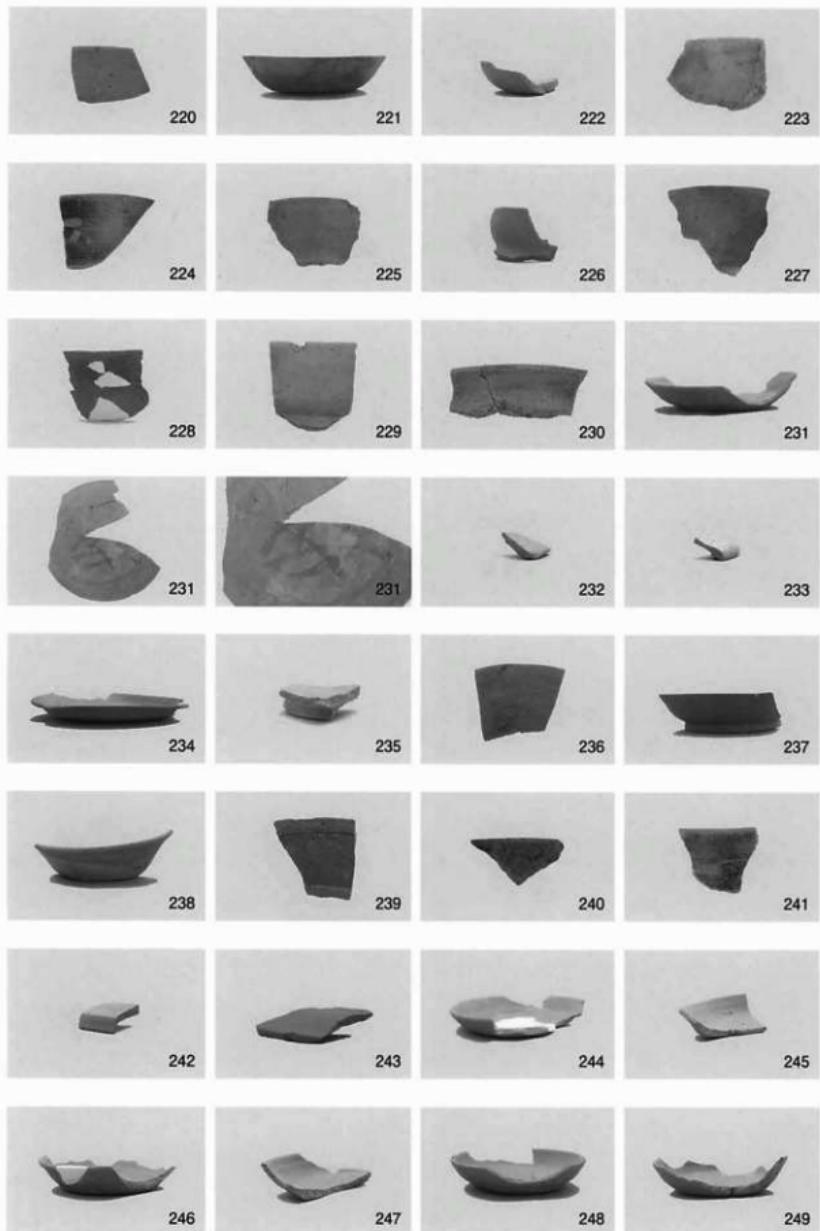
図版37 9901調査地点出土遺物6



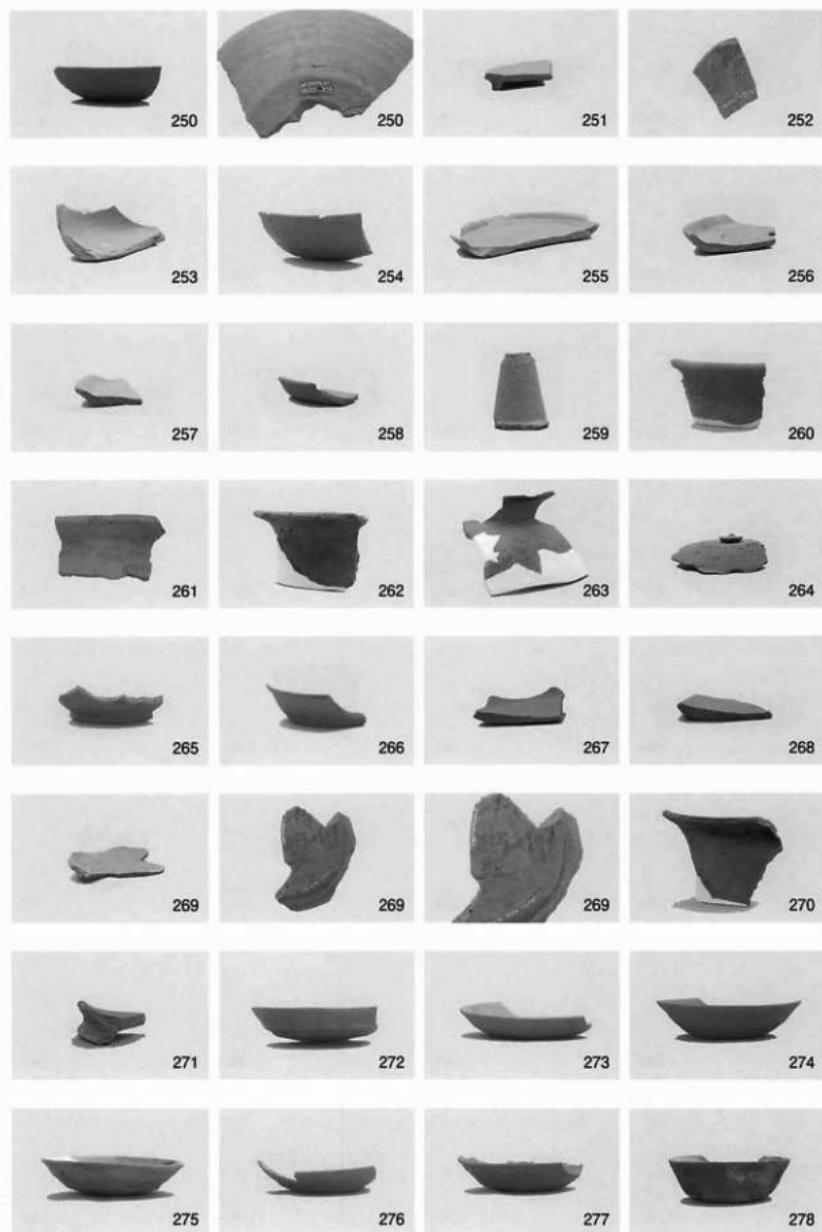
図版38 9901調査地点出土遺物7



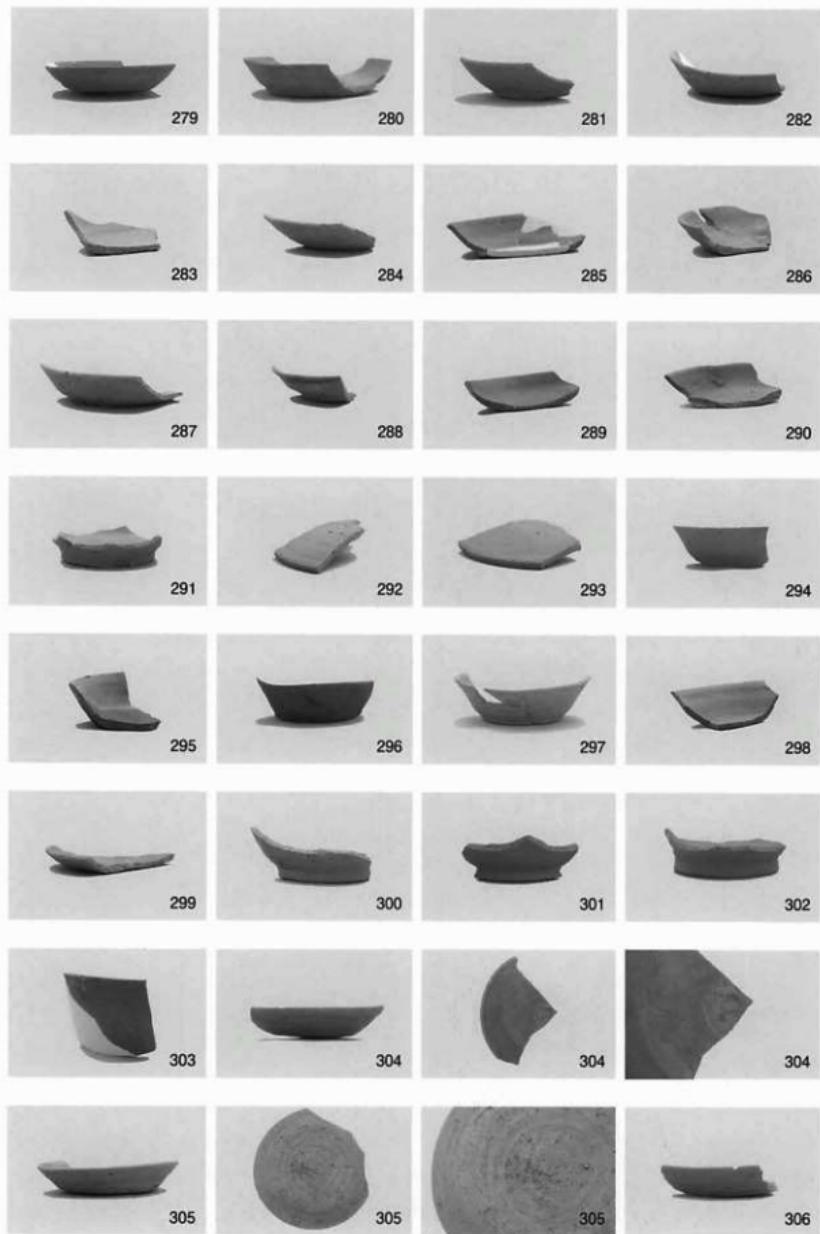
図版39 9901調査地点出土遺物 8



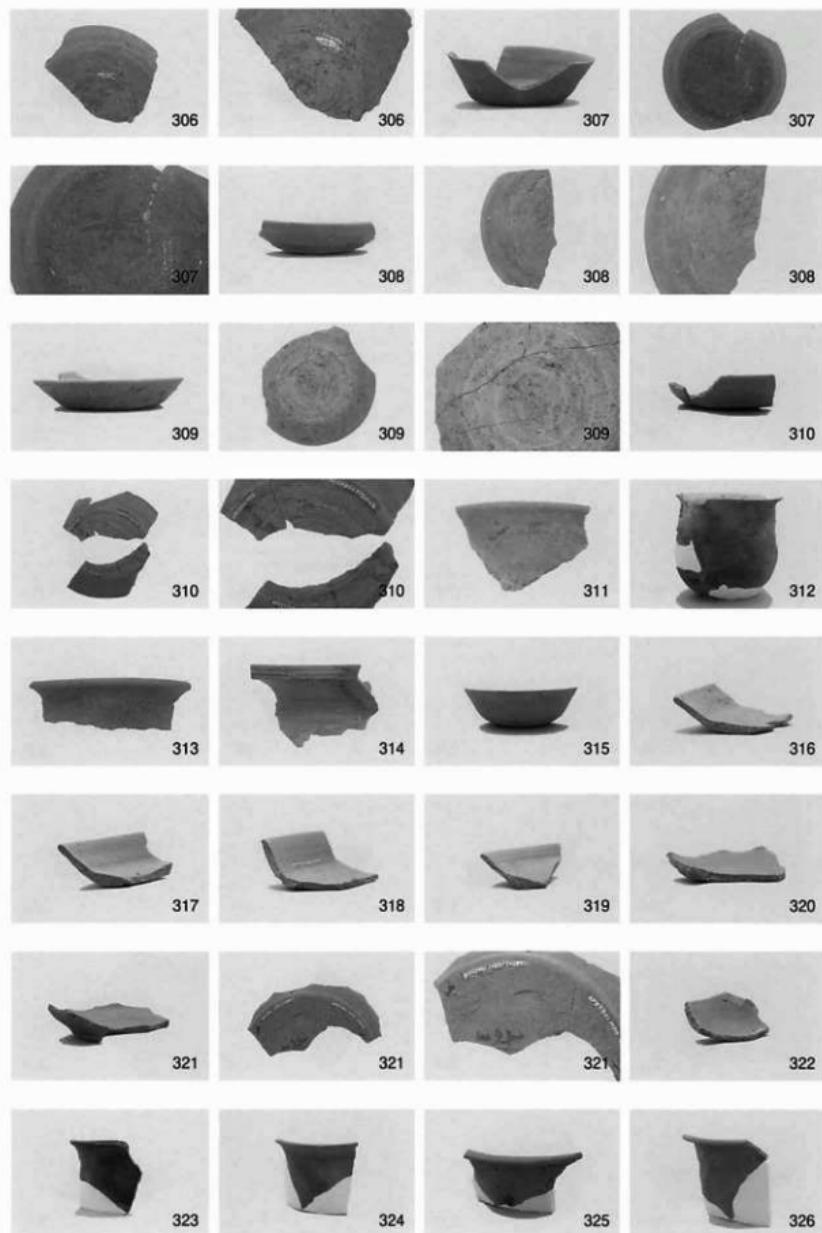
図版40 9901調査地点出土遺物9



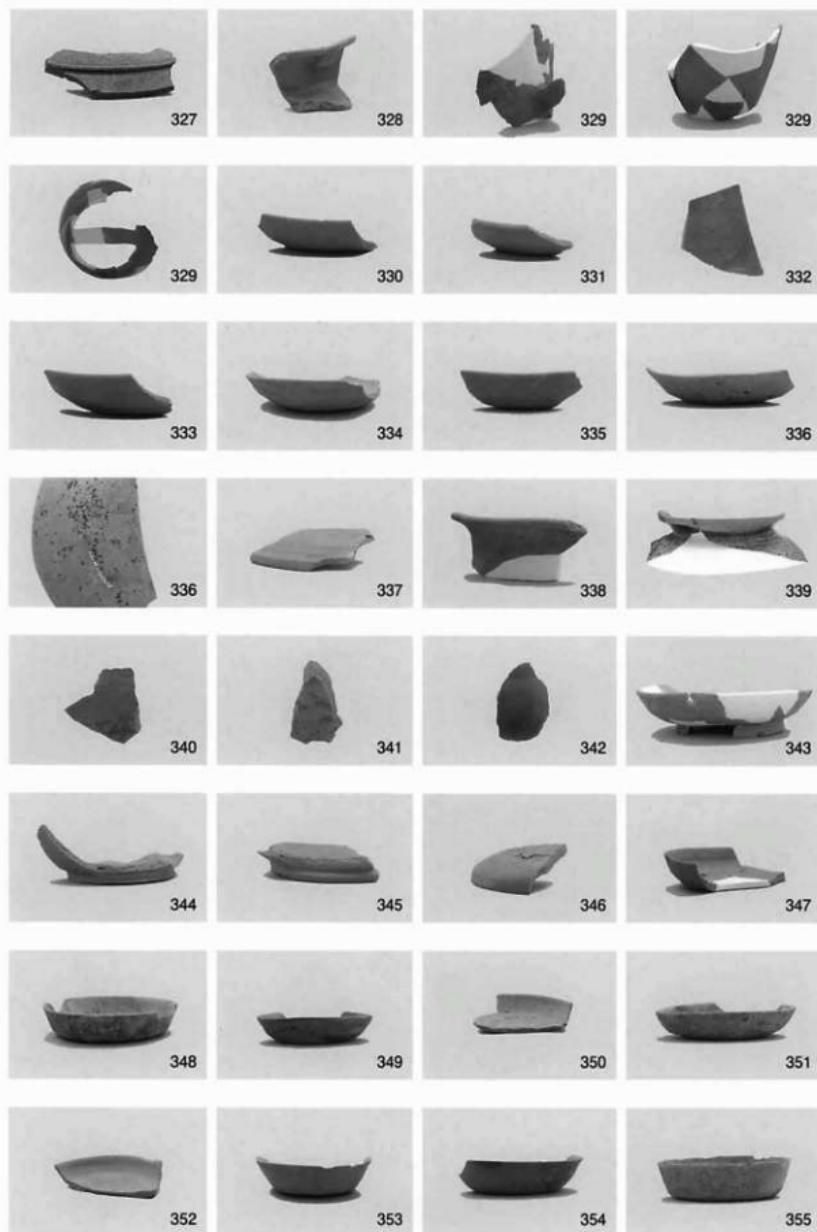
図版41 9901調査地点出土遺物10



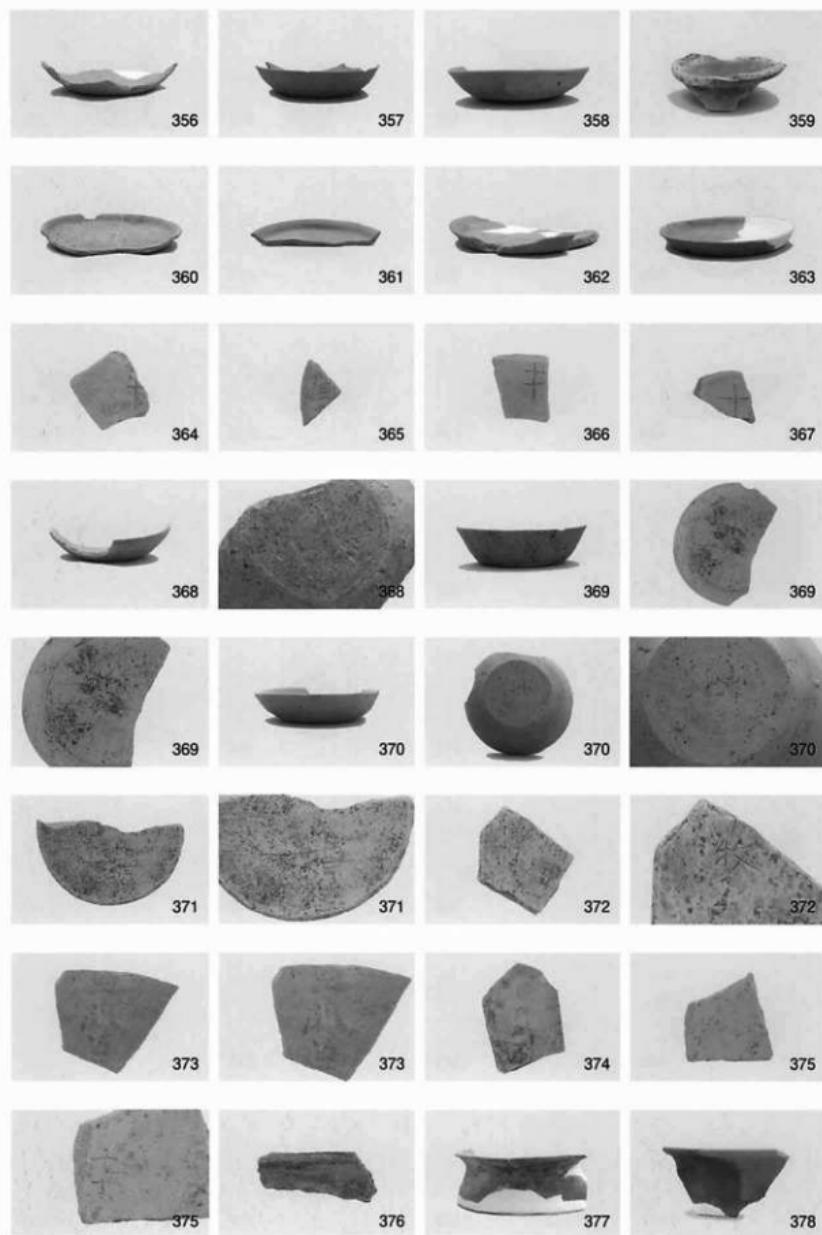
図版42 9901調査地点出土遺物11



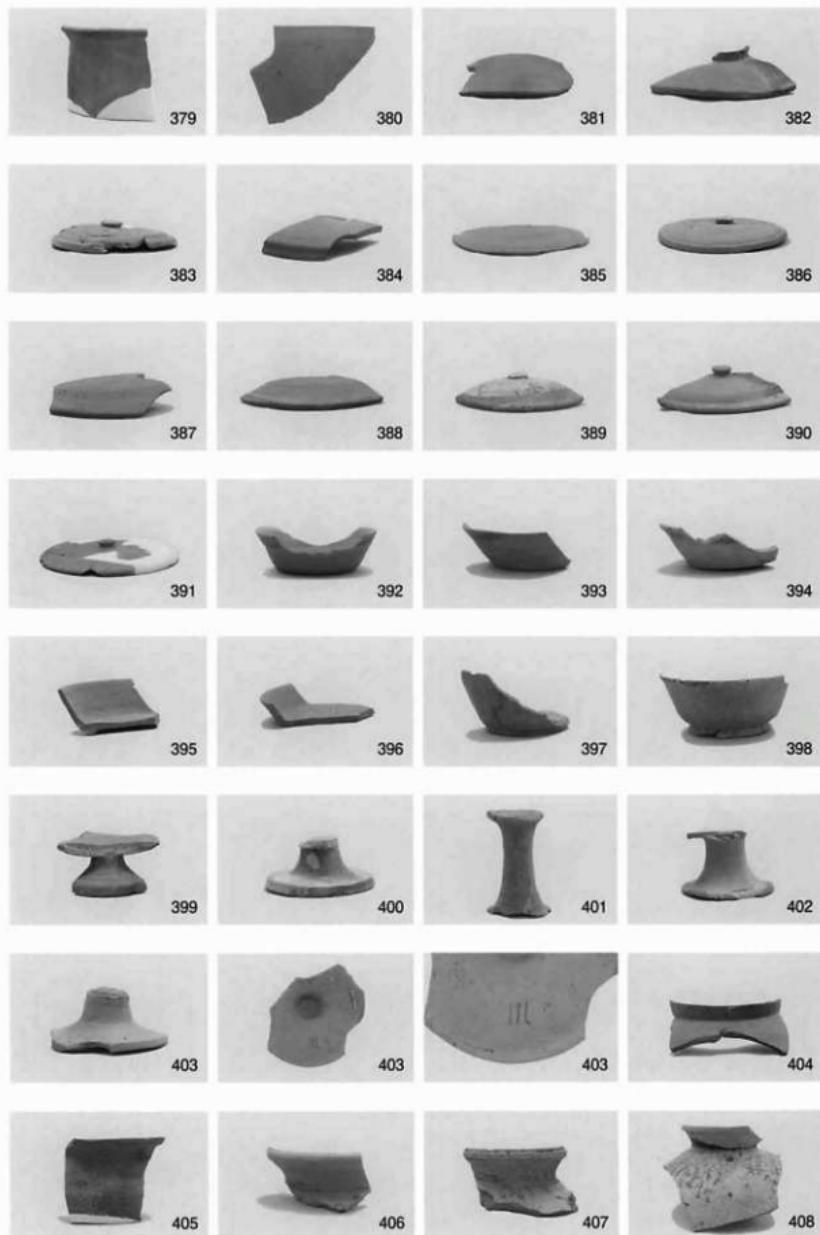
図版43 9901調査地点出土遺物12



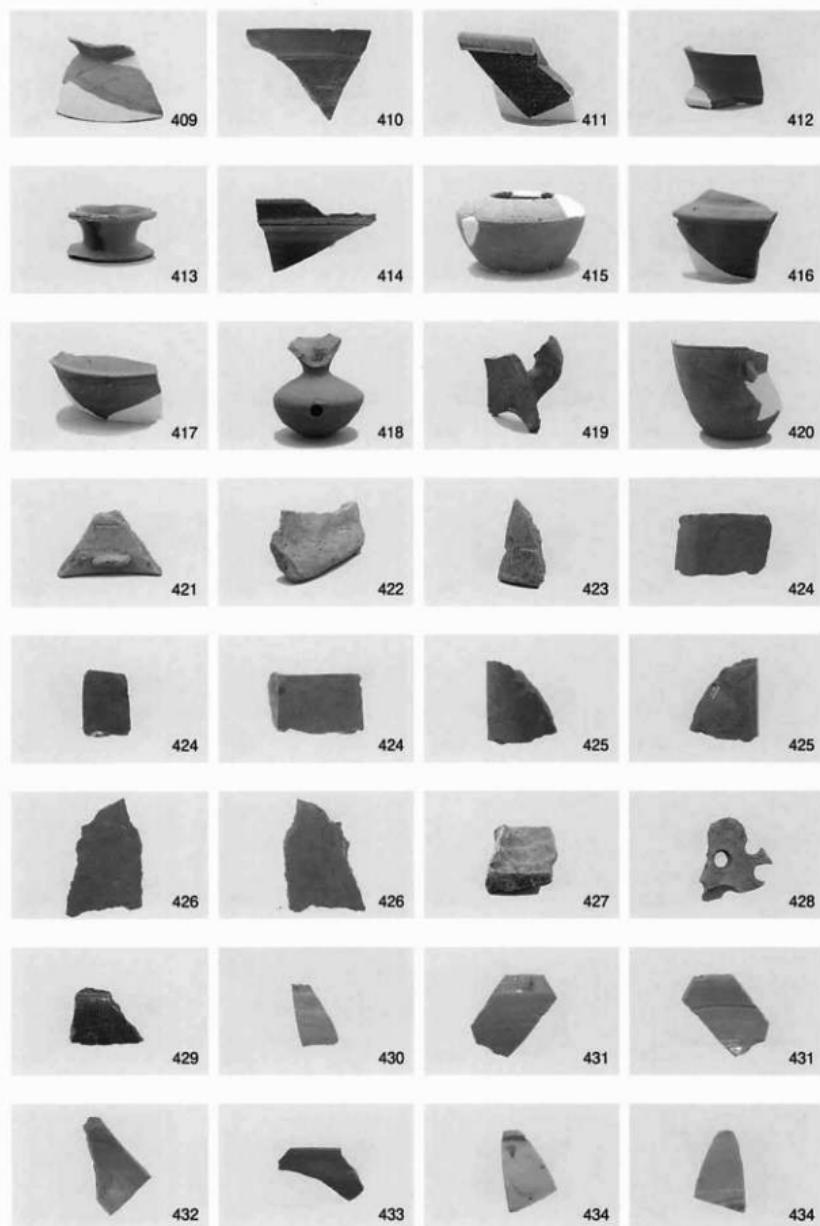
図版44 9901調査地点出土遺物13



図版45 9901調査地点出土遺物14



図版46 9901調査地点出土遺物15



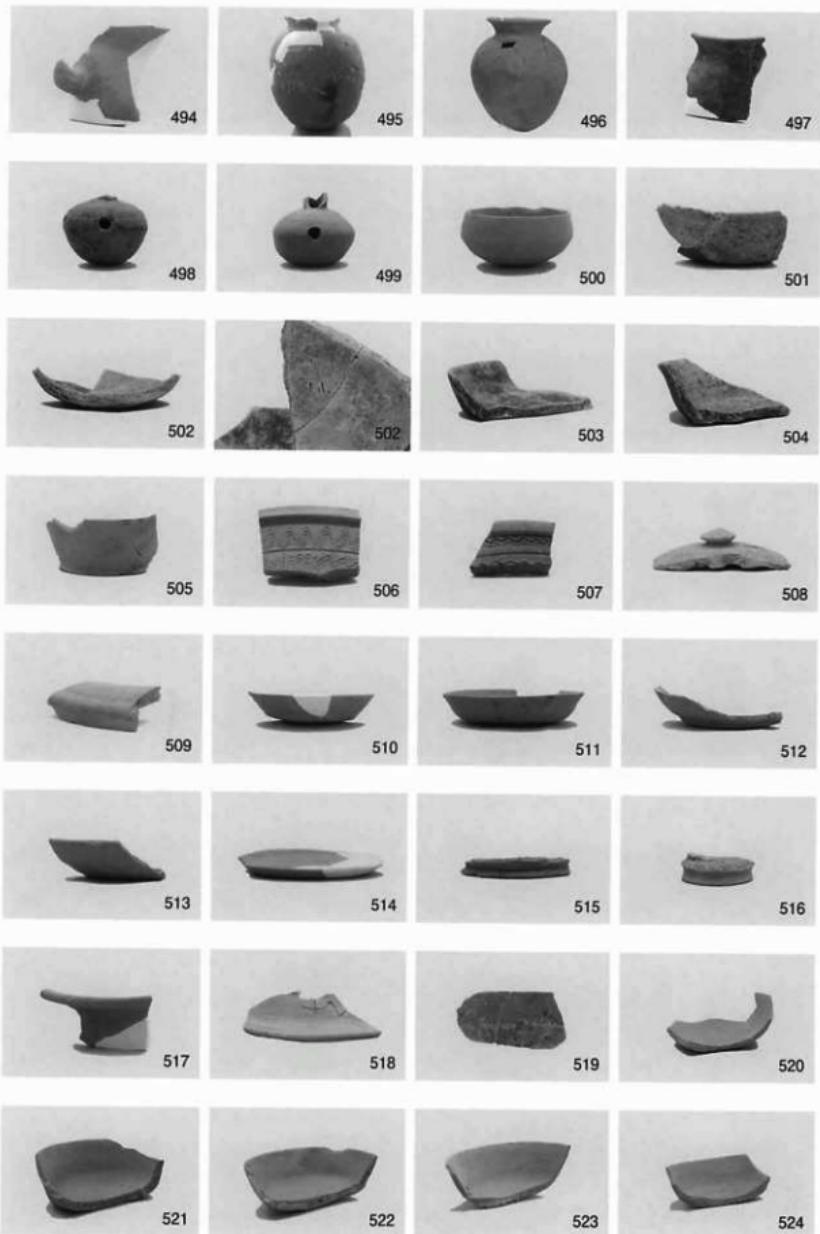
図版47 9901調査地点出土遺物16



図版48 9901調査地点出土遺物17



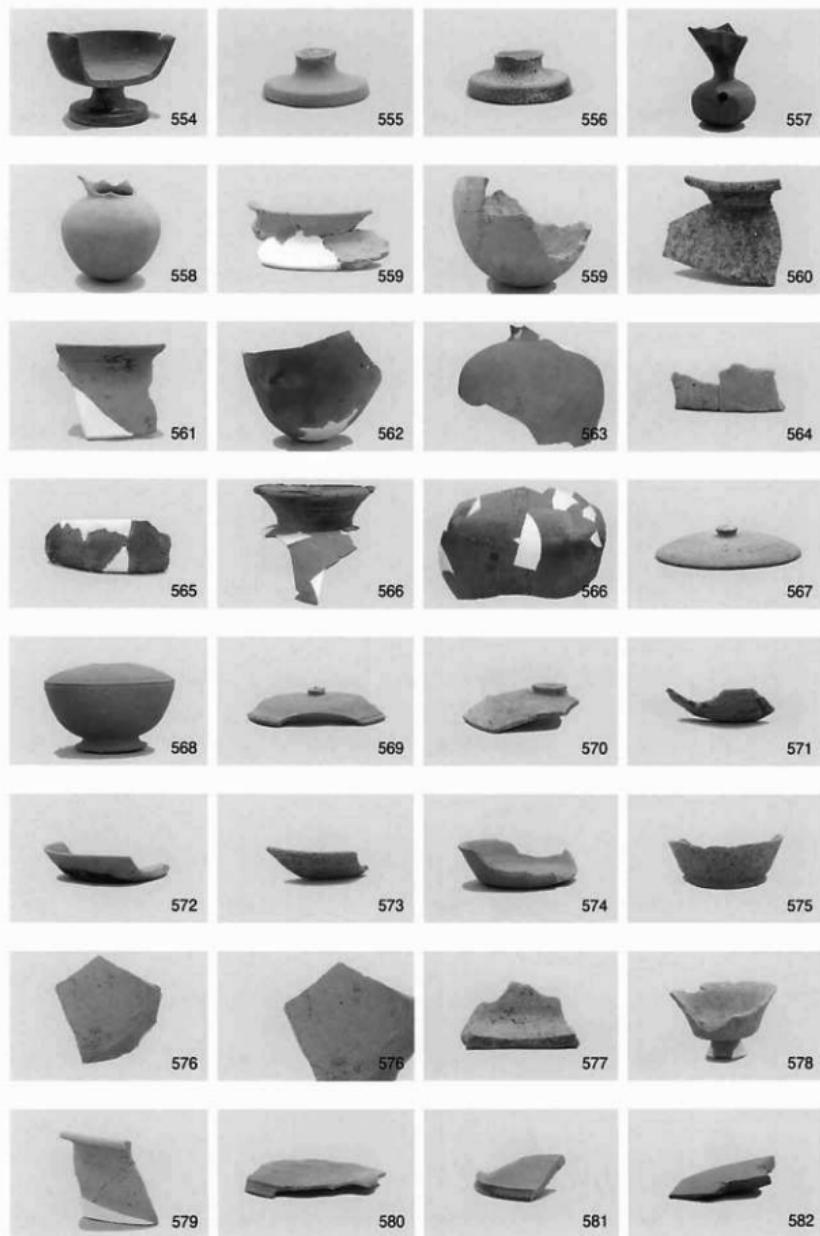
図版49 9901調査地点出土遺物18



図版50 9901調査地点出土遺物19



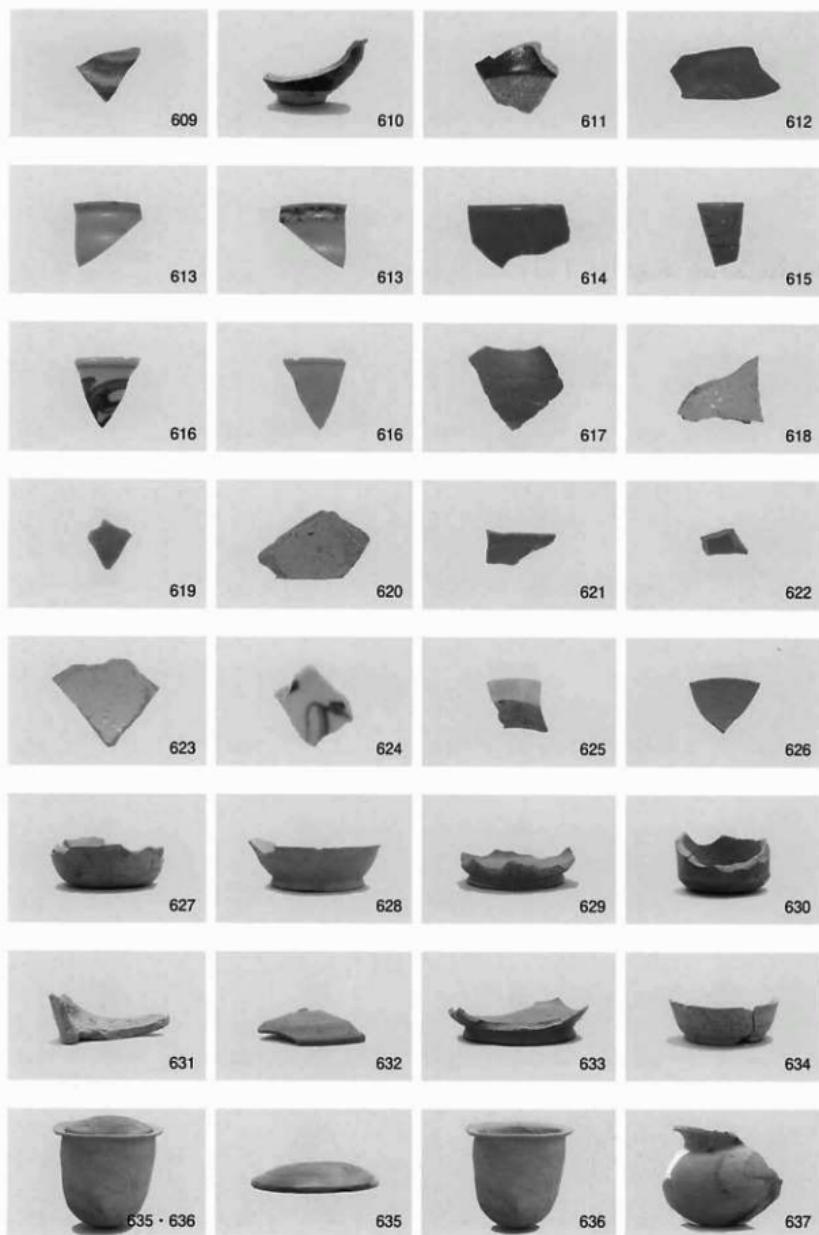
図版51 9901調査地点出土遺物20



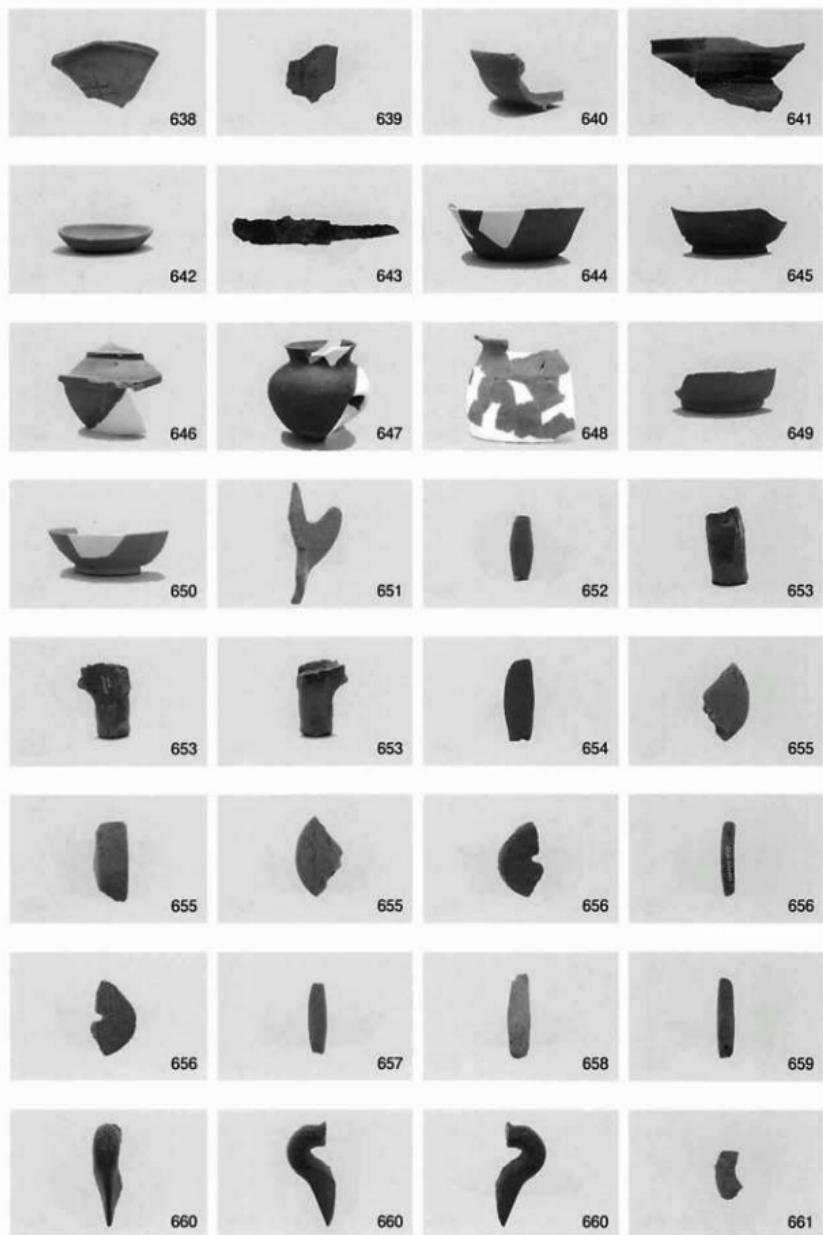
図版52 9901調査地点出土遺物21



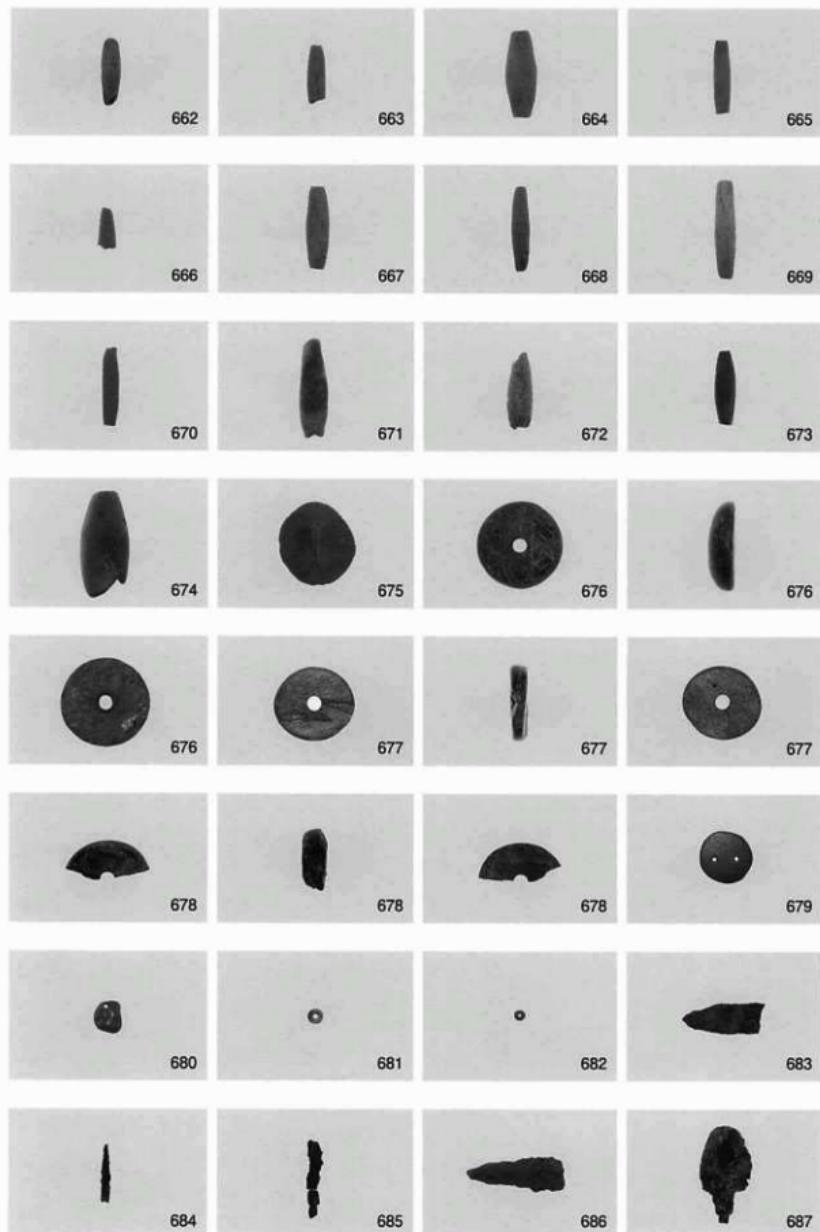
図版53 9901調査地点出土遺物22



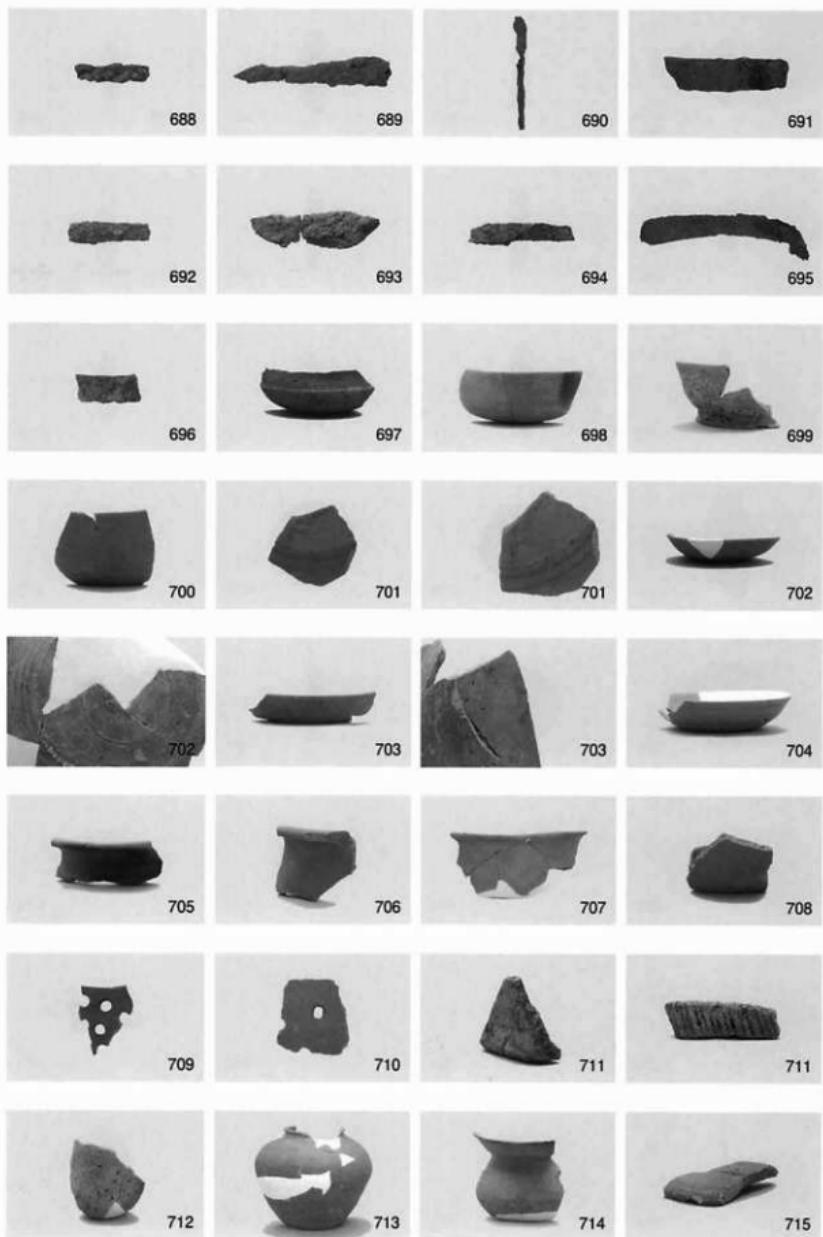
図版54 9901調査地点出土遺物23



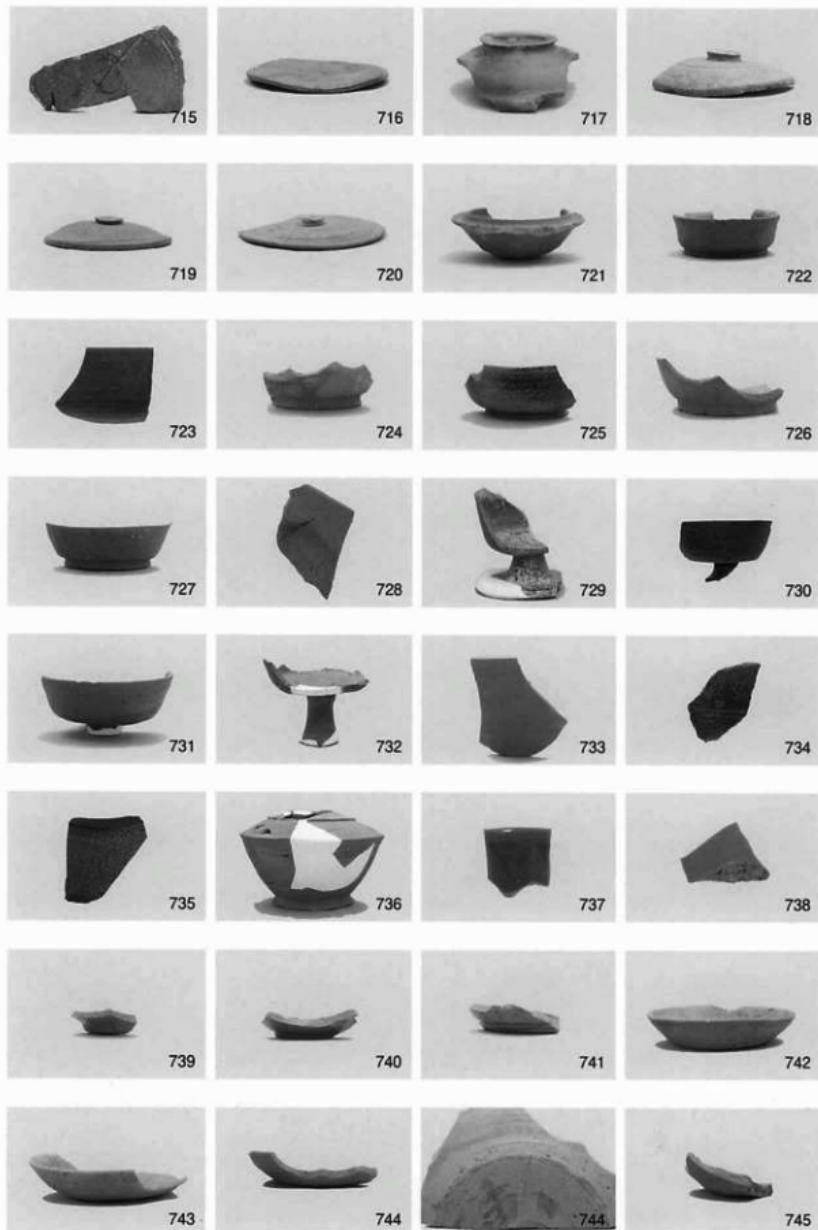
図版55 9901調査地点出土遺物24



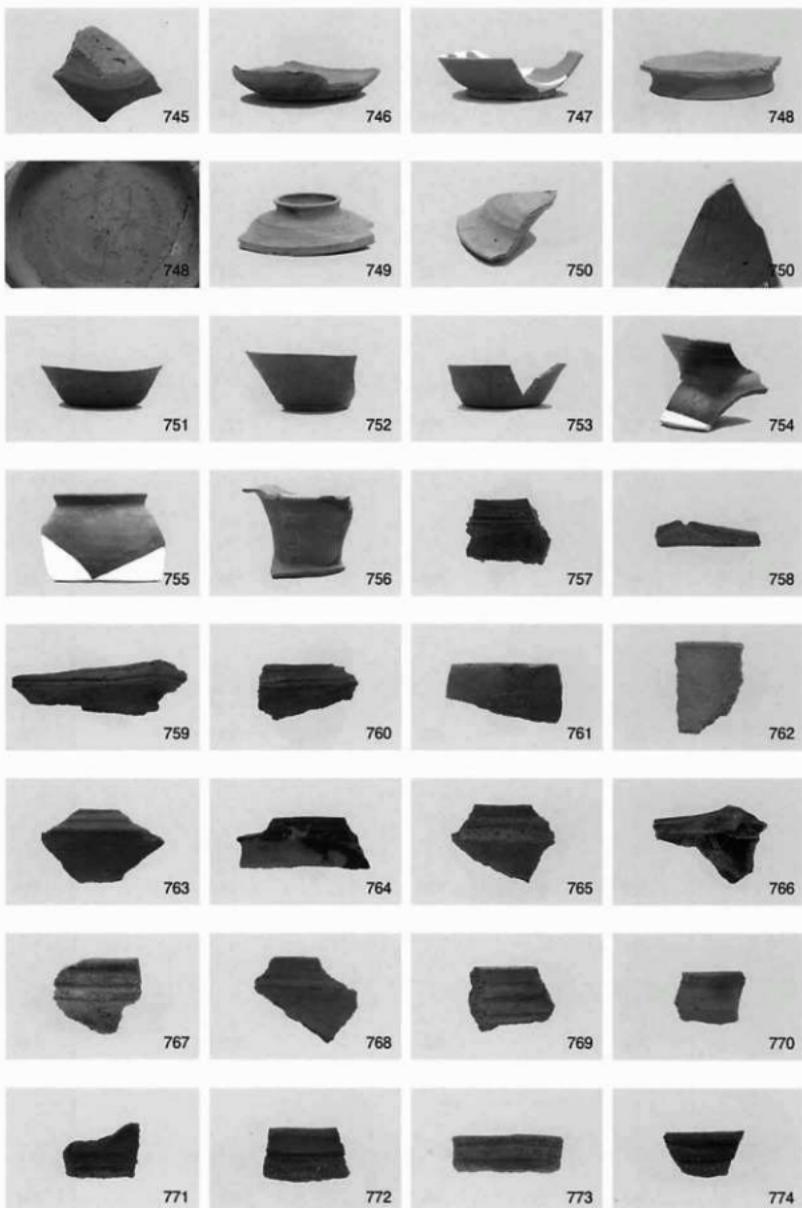
図版56 9901調査地点出土遺物25



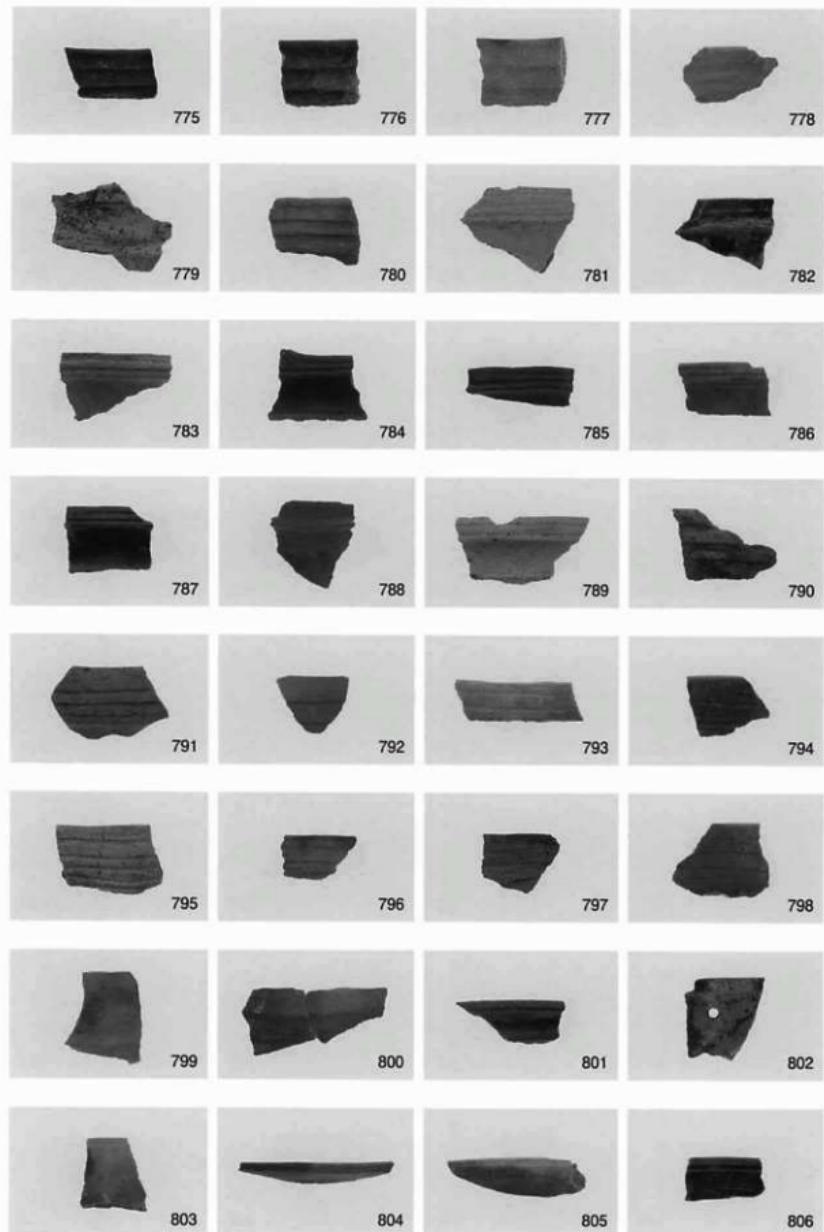
図版57 9901調査地点出土遺物26



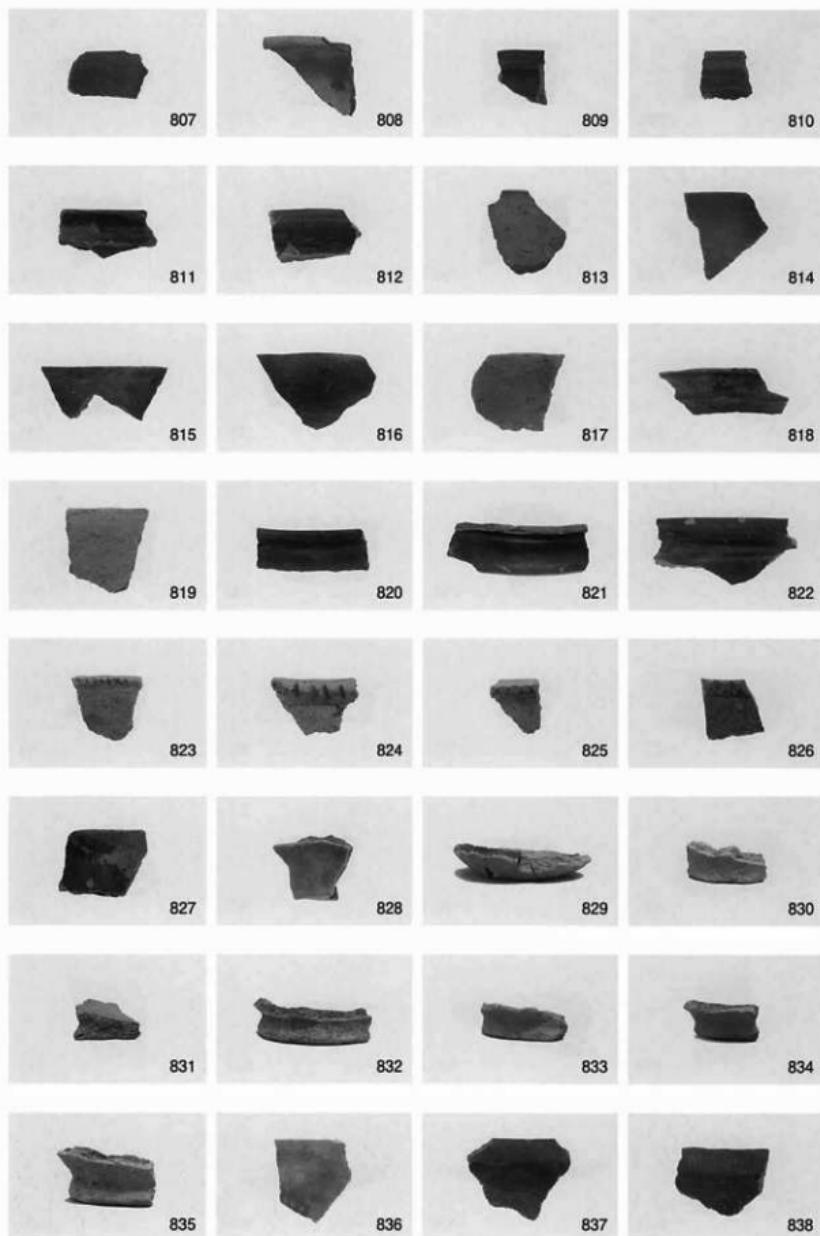
図版58 9901調査地点出土遺物27



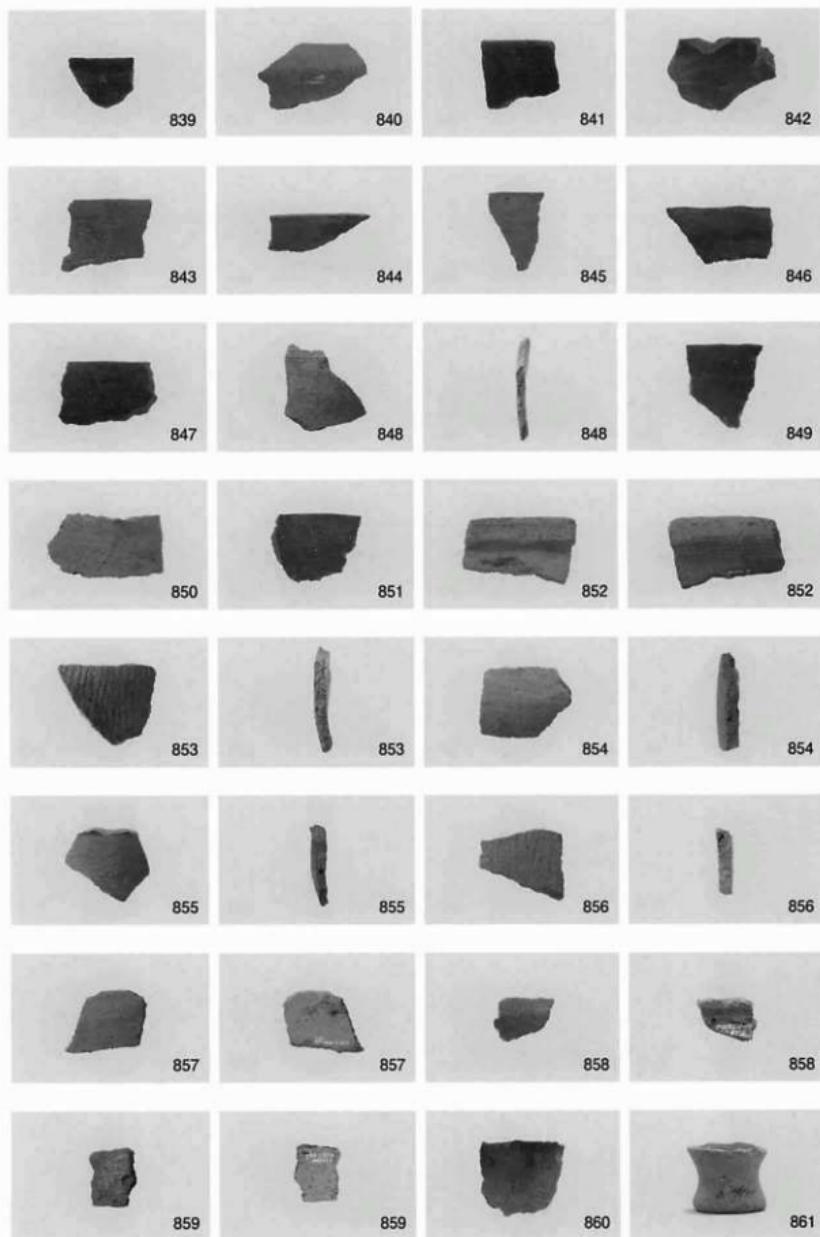
図版59 9901調査地点出土遺物28



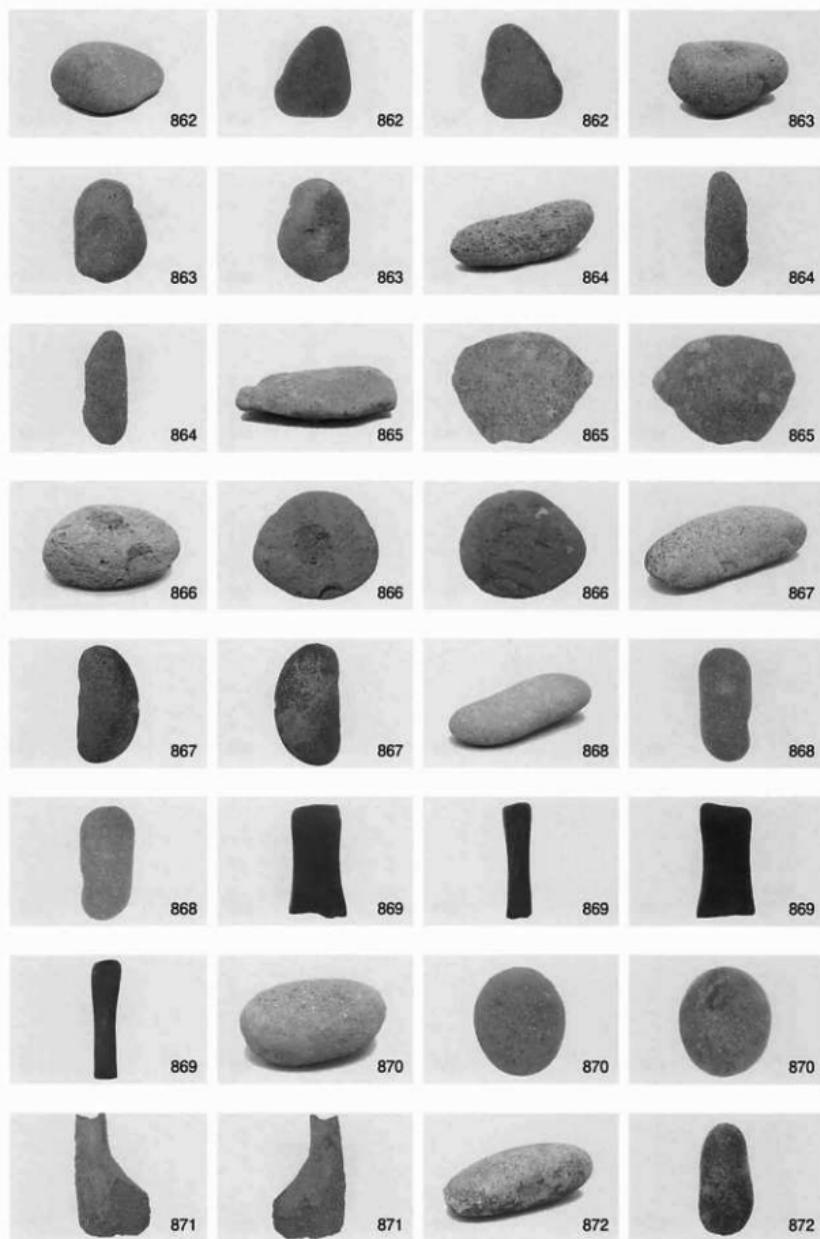
図版60 9901調査地点出土遺物29



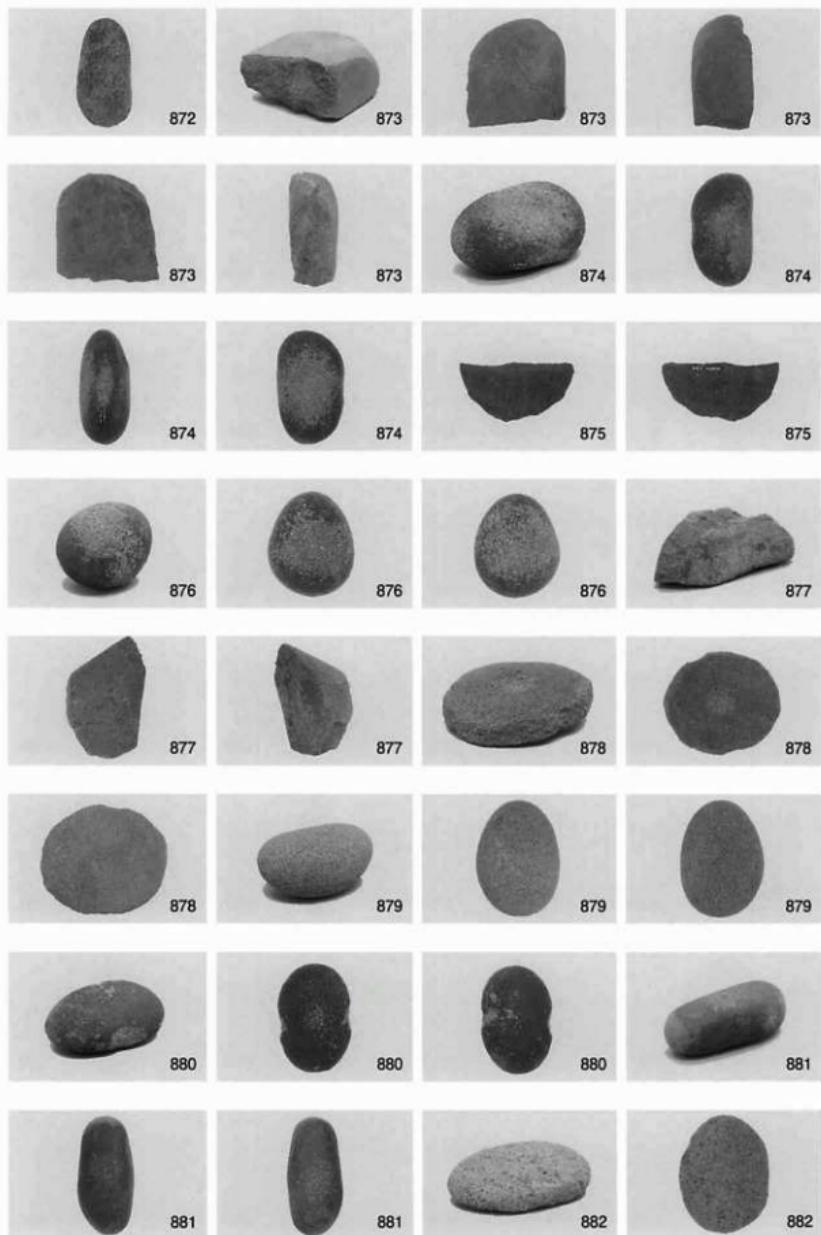
図版61 9901調査地点出土遺物30



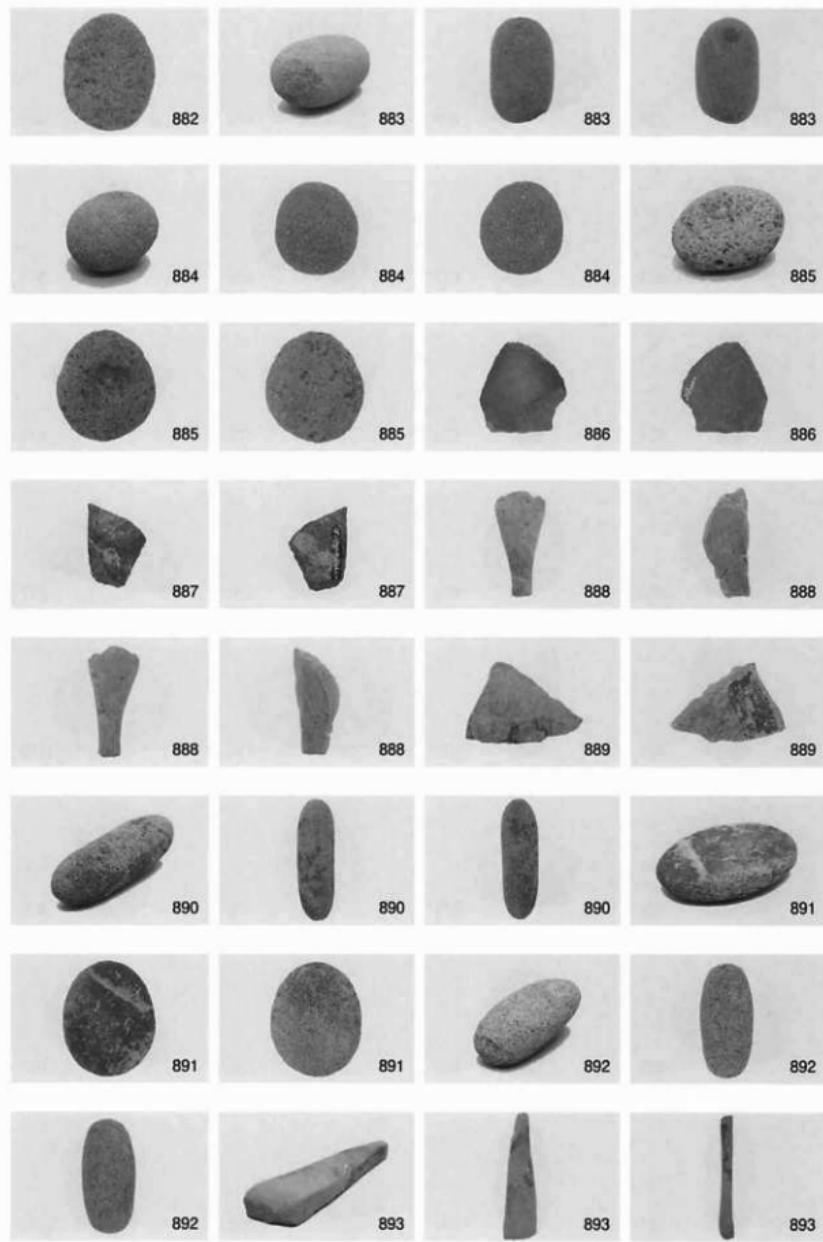
図版62 9901調査地点出土遺物31



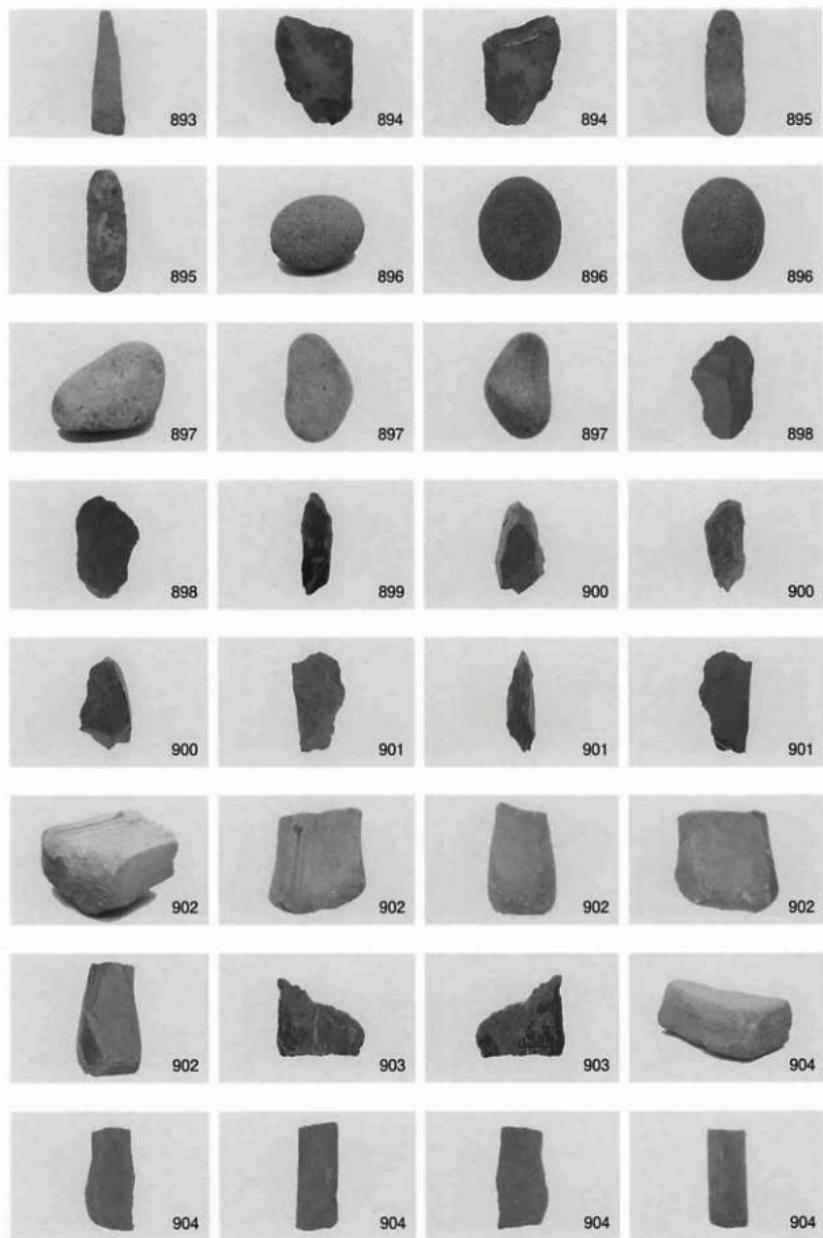
図版63 9901調査地点出土遺物32



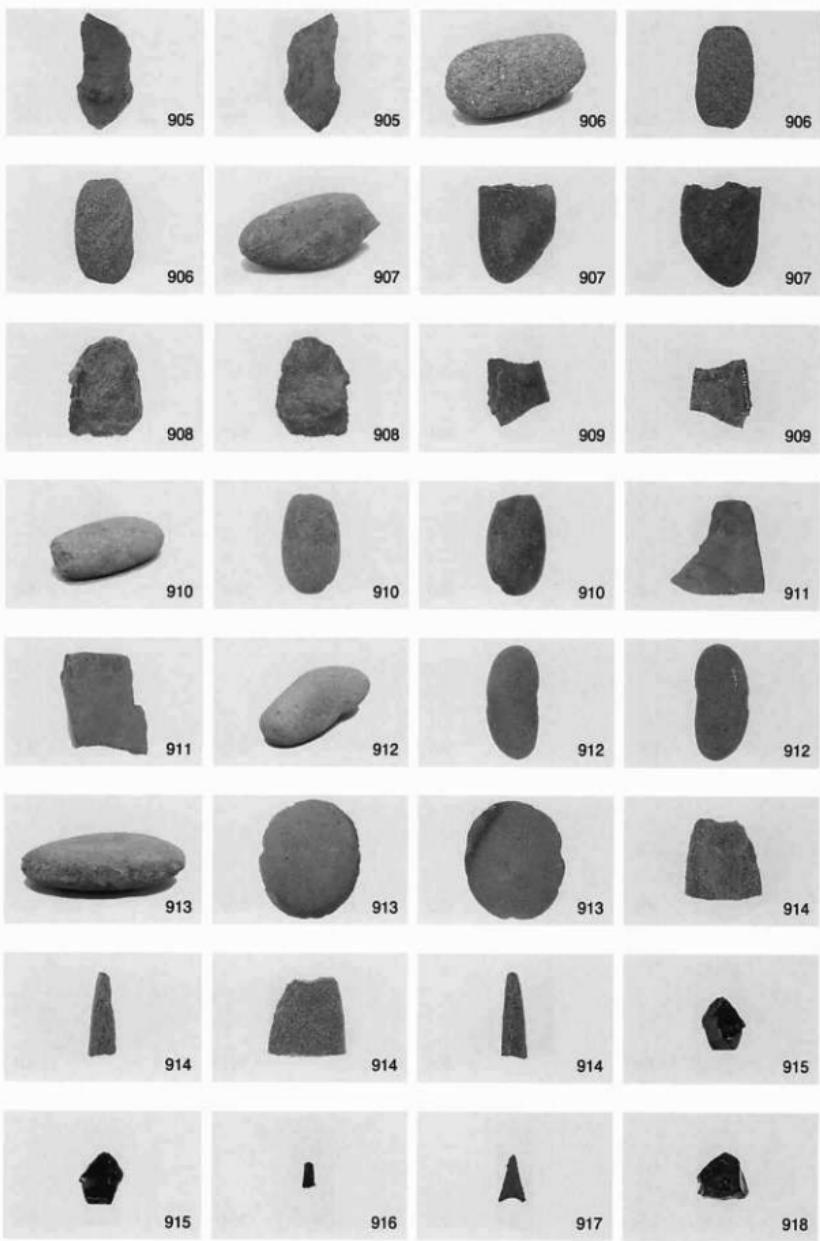
図版64 9901調査地点出土遺物33



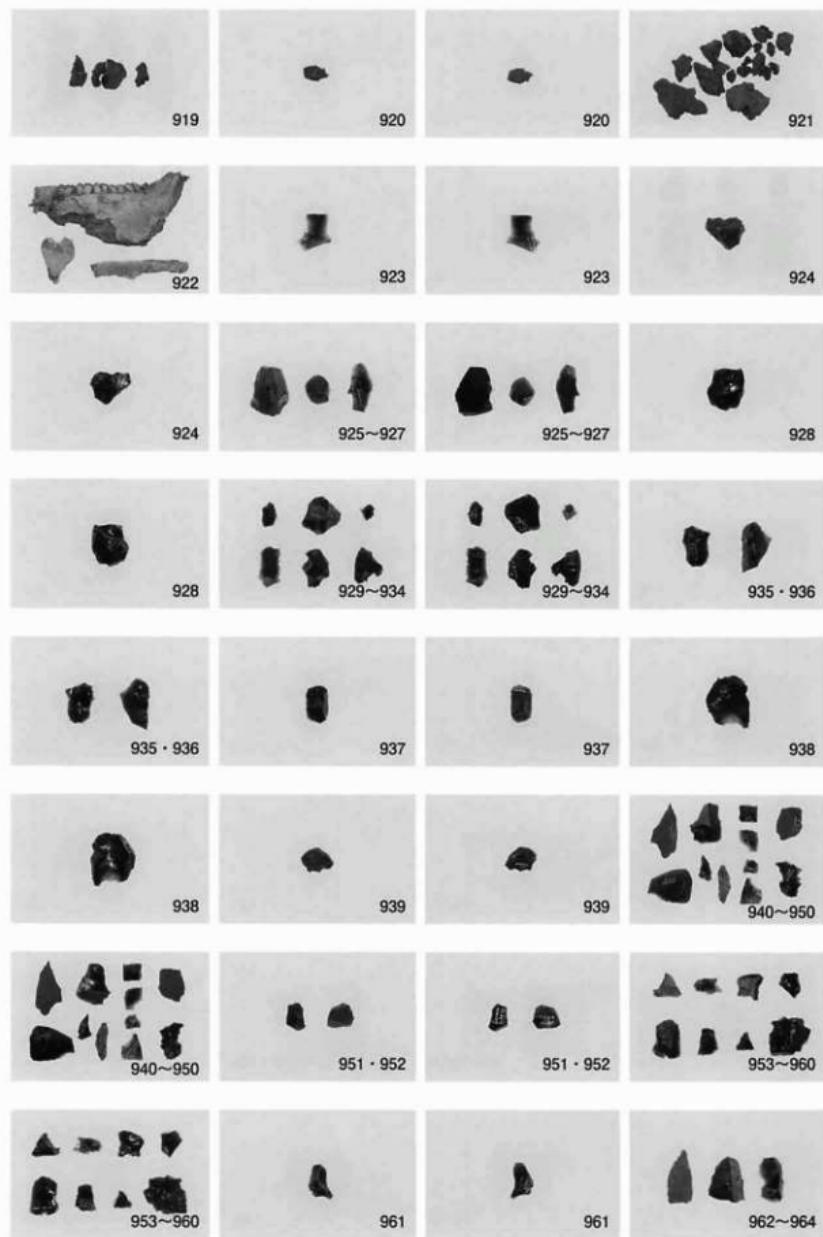
図版65 9901調査地点出土遺物34



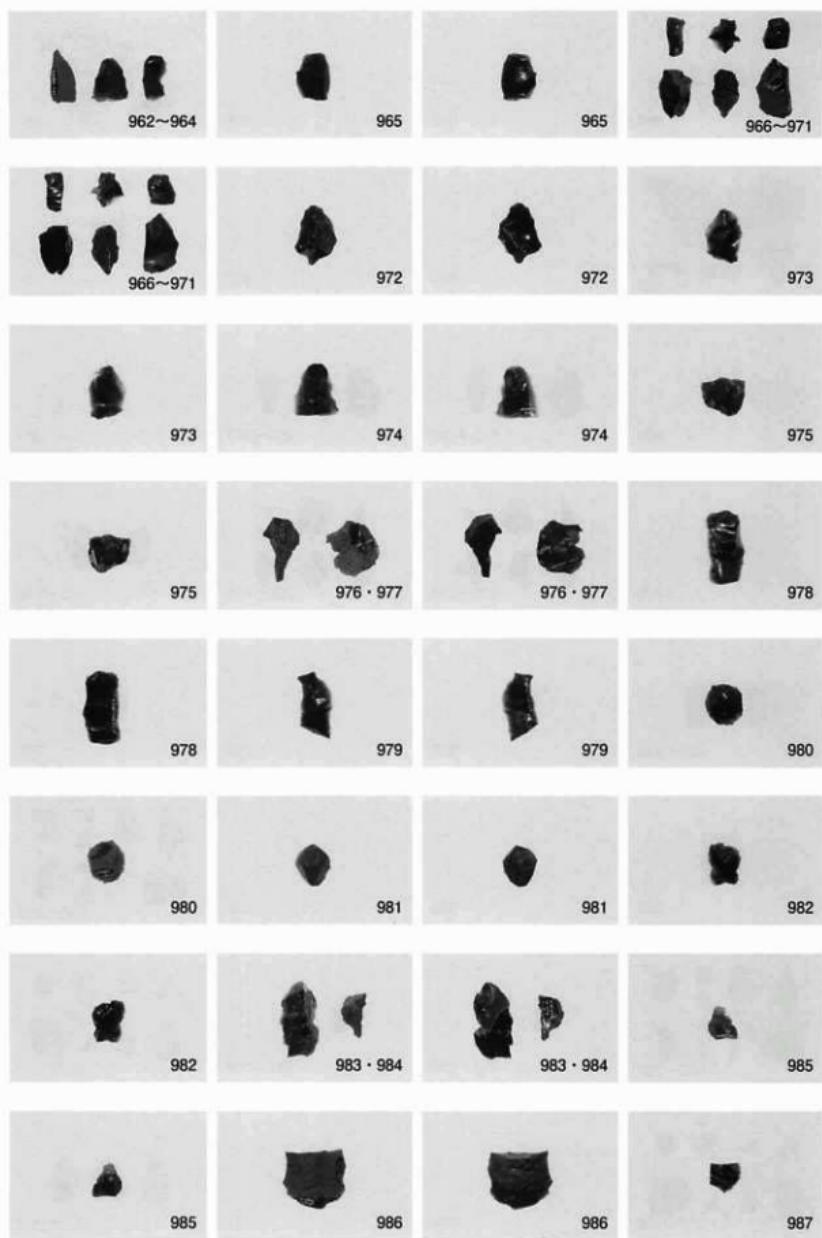
図版66 9901調査地点出土遺物35



図版67 9901調査地点出土遺物36



図版68 9901調査地点出土遺物37



図版69 9901調査地点出土遺物38

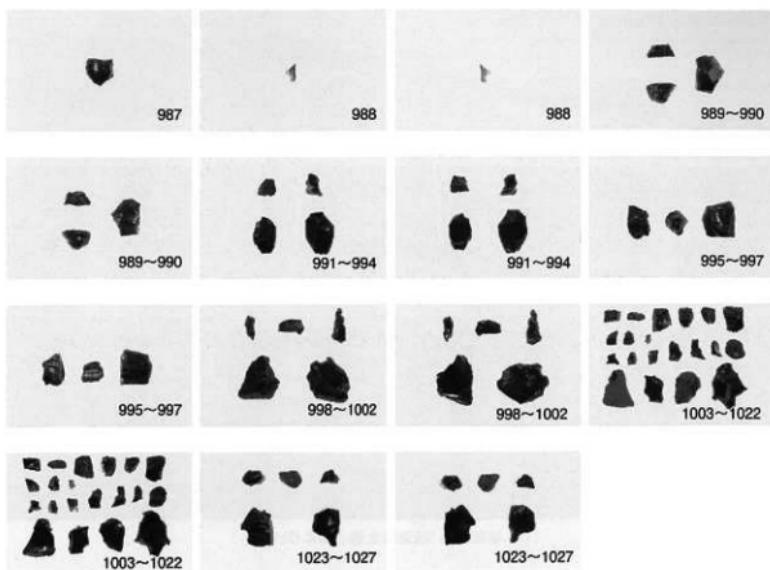




写真141 調査区全景（南より）



写真142 1・4号溝 北4・5区（北東より）

図版71 1205調査地点



写真143 1号溝 北6・7区（北東より）



写真144 調査開始前状況（西より）



写真145 1号溝土層堆積状況 北4区（南西より）

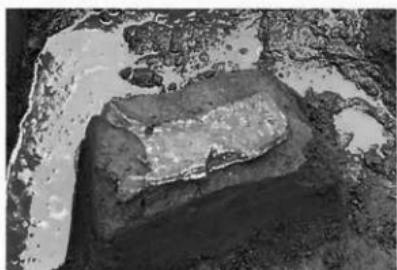


写真146 1号溝ウマ下顎骨出土状況 北4区（南より）



写真147 1・4号溝 北5区（南西より）

図版72 1205調査地点



写真148 1号溝 北6区（北より）



写真149 1号溝 北7区（南西より）



写真150 1・4号溝 中7区（南西より）

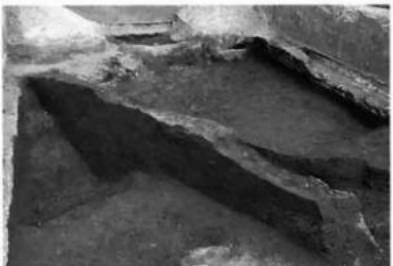


写真151 1号溝土層堆積状況 南9区（南西より）



写真152 1号溝 南8・9区（南西より）

図版73 1205調査地点



写真153 1号溝 南11・12区（北西より）



写真154 1・2・3号溝 南8区（北西より）



写真155 1号溝 南10区（南より）



写真156 1号溝 南11・12区（南西より）



写真157 1号溝 南12・13区（南西より）

図版74 1205調査地点



写真158 1号ピット掘削状況（北より）



写真159 1号ピット（東より）



写真160 2号ピット掘削状況（南より）



写真161 2号ピット（南より）

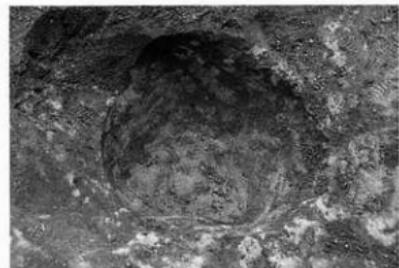


写真162 3号ピット（南より）

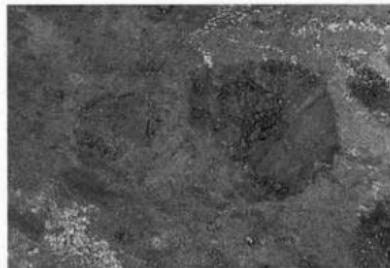


写真163 4・5号ピット検出状況（北より）



写真164 4号ピット（北より）

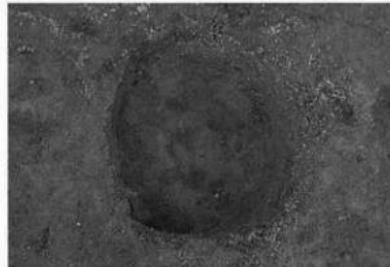


写真165 5号ピット（北より）

図版75 1205調査地点出土遺物 1



図版76 1205調査地点出土遺物2





写真166 調査区東半全景（南より）



写真167 調査区西半全景（南より）

図版78 1223調査地点



写真168 4号溝（南東より）



写真169 200号溝（南東より）



写真170 1次掘削終了状況（北より）



写真171 4号溝（南東より）



写真172 4号溝土層堆積状況（南東より）



写真173 4号溝 獣骨出土状況（南東より）



写真174 5号溝（東より）

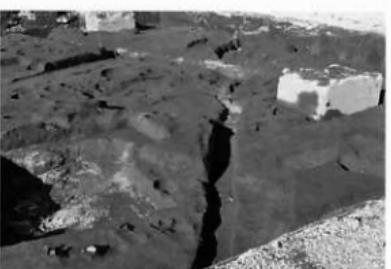


写真175 9号溝（南より）



写真176 13号溝（南より）



写真177 240号溝（東より）

図版80 1223調査地点



写真178 古代竪穴住居址発掘状況（北より）



写真179 10号竪穴住居址（東より）



写真180 12号竪穴住居址（北東より）



写真181 73号竪穴住居址（南東より）



写真182 73号竪穴住居址遺物出土状況（南より）



写真183 123号竖穴住居址 (南より)



写真184 123号竖穴住居址竈 (南東より)



写真185 142・145号竖穴住居址 (南より)

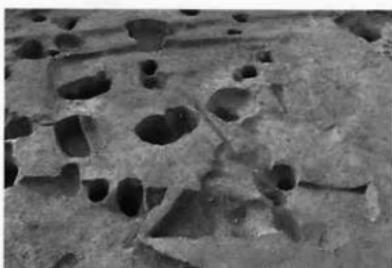


写真186 62号竖穴住居址 (東より)



写真187 48号竖穴住居址 (南東より)

図版82 1223調査地点



写真188 76号竪穴住居址（西より）



写真189 76号竪穴住居址竪穴掘（西より）

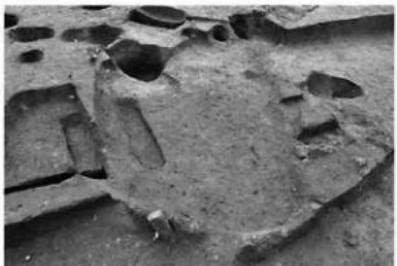


写真190 147号竪穴住居址（西より）



写真191 90号竪穴住居址遺物出土状況（南東より）



写真192 165号竪穴住居址（南東より）



写真193 74号竪穴住居址竪上面遺物出土状況（北東より）



写真194 同竪穴住居址竪下面遺物出土状況（北東より）



写真195 同竪穴住居址土坑遺物出土状況（北東より）



写真196 同竪穴住居址床面検出状況（南東より）

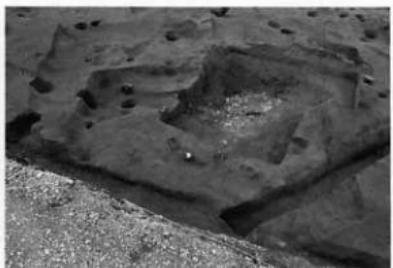


写真197 同竪穴住居址掘り方（南東より）

図版84 1223調査地点



写真198 93号竪穴住居址 (南西より)



写真199 63号竪穴住居址 (南西より)



写真200 104号竪穴住居址竈 (南東より)



写真201 104号竪穴住居址掘り方 (南東より)



写真202 104号竪穴住居址 (南東より)



写真203 120号竪穴住居址（南東より）



写真204 120号竪穴住居址遺物出土状況（南東より）



写真205 154号竪穴住居址（南東より）



写真206 206号竪穴住居址（南より）



写真207 207号竪穴住居址（南東より）

図版86 1223調査地点

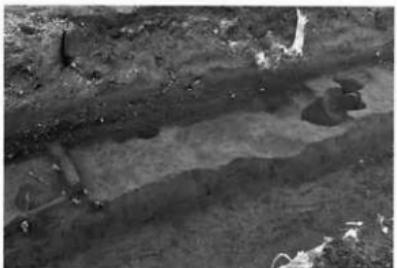


写真208 208号竪穴住居址（南より）



写真209 210号竪穴住居址（南東より）



写真210 215号竪穴住居址竈燃焼面（南東より）



写真211 215号竪穴住居址掘り方（南東より）



写真212 215号竪穴住居址（南東より）



写真213 1号掘立柱建物址東側（南より）



写真214 1号掘立柱建物址23P 覆土半裁状況（東より）



写真215 1号掘立柱建物址24P 覆土半裁状況（東より）



写真216 1号掘立柱建物址163P 覆土半裁状況（南より）



写真217 212号土坑（南東より）

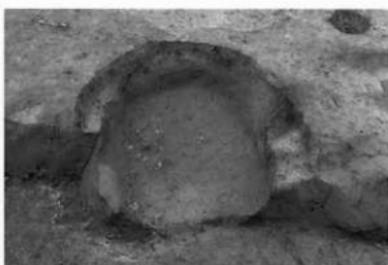


写真218 213号土坑（南より）



写真219 236・237号土坑（南東より）

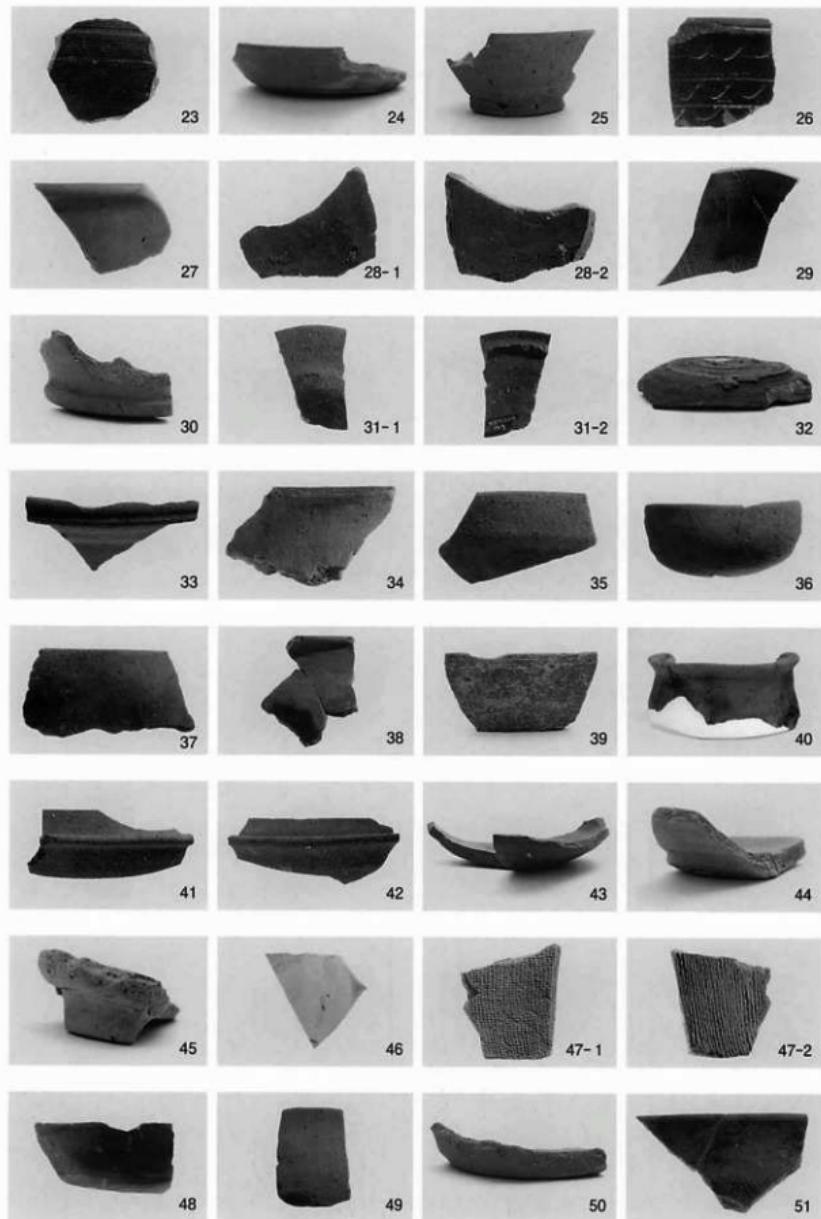


写真220 243号土坑（東より）

図版88 1223調査地点出土遺物 1



図版89 1223調査地点出土遺物2



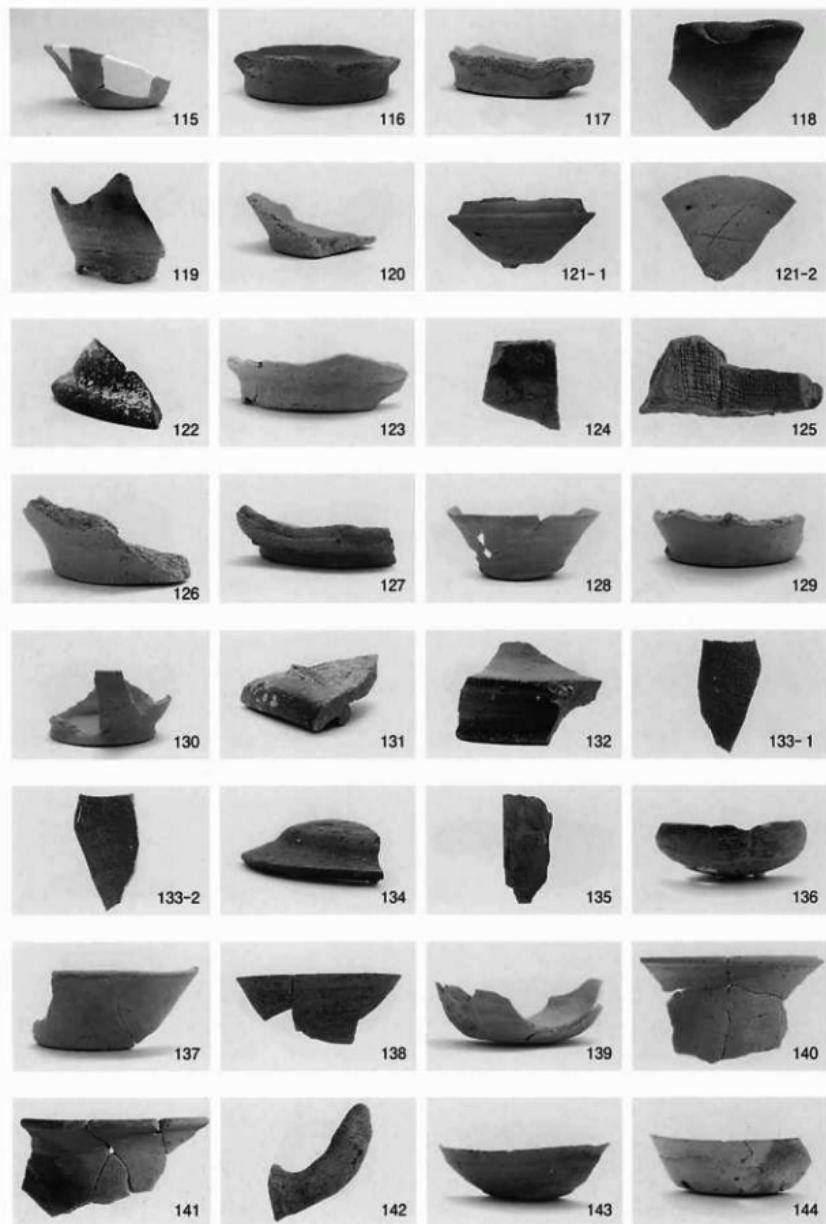
図版90 1223調査地点出土遺物 3



図版91 1223調査地点出土遺物 4



図版92 1223調査地点出土遺物 5



図版93 1223調査地点出土遺物6



図版94 1223調査地点出土遺物7



報告書抄録

ふりがな	くまもとだいがくこうないいせきはくつちょうさほうこくX							
書名	熊本大学構内道路発掘調査報告書							
断言名								
卷次								
シリーズ名	熊本大学埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ号	X							
編著者名	小畠弘己・松田光太郎・大坪志子・多賀晴司・大崎啓美子							
調査機関	熊本大学埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒860-8555 熊本県熊本市中央区黒髪2-39-1 TEL. 096-342-3832 FAX. 096-342-3832							
発行年月日	2014年3月31日							
所収道路名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	道路番号					
黒髪町道路群 (991地点)	熊本県 熊本市 黒髪	43 201	278	32° 48' 46.4"	130° 43' 48.2"	19990301 ~ 19990314	70.9m ²	学校敷地内の開発事業に伴う
黒髪町道路群 (0204地点)	熊本県 熊本市 黒髪	43 201	278	32° 48' 34.4"	130° 43' 44.7"	020612 ~ 020814	2,803m ²	学校敷地内の開発事業に伴う
黒髪町道路群 (0206地点)	熊本県 熊本市 黒髪	43 201	278	32° 48' 47.5"	130° 43' 40.4"	20020520 ~ 20020529	28.0m ²	学校敷地内の開発事業に伴う
黒髪町道路群 (0210地点)	熊本県 熊本市 黒髪	43 201	278	32° 48' 47.9"	130° 43' 45.5"	20021001 ~ 20021003, 20021118	61.19m ²	学校敷地内の開発事業に伴う
本庄道路 (9901地点)	熊本県 熊本市 本庄	43 201	285	32° 47' 46.2"	130° 42' 37.9"	19990405 ~ 19990902	2,405m ²	学校敷地内の開発事業に伴う
本庄道路 (1205地点)	熊本県 熊本市 本庄	43 201	285	32° 47' 39"	130° 42' 45"	20120625 ~ 20120719	756m ²	学校敷地内の開発事業に伴う
本庄道路 (1223地点)	熊本県 熊本市 本庄	43 201	285	32° 47' 39"	130° 42' 44"	20121001 ~ 20121218	1,059m ²	学校敷地内の開発事業に伴う
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
黒髪町道路群 (991地点)	散布地	縄文・古代 近世	溝状遺構	縄文土器・縄文石器・土師器・ 須恵器・近代陶磁器				
黒髪町道路群 (0204地点)	集落址	縄文・古墳 古代	堅穴住居址・火葬墓	縄文土器・土師器・須恵器				
黒髪町道路群 (0206地点)	散布地	縄文・弥生	溝状遺構	堅館				
黒髪町道路群 (0210地点)	散布地	縄文・古代	堅穴住居址	縄文土器・縄文石器・土師器・ 須恵器				
本庄道路 (9901地点)	集落址	縄文・古墳 古代・近世	堅穴住居址・溝 土壤・掘立柱建物	縄文土器・石器・古式土師器・ 古代土師器・須恵器・鉄製品・ 土製鏡・玉類		駒衣塚・墨色土器・刻骨 土器		
本庄道路 (1205地点)	集落址	古代・近世	溝・ピット	土師器・須恵器・陶磁器・動物骨				
本庄道路 (1223地点)	集落址	古墳・古代 近世	堅穴住居址・溝 掘立柱建物址・ピッ ト	縄文土器・石器・土師器・須 恵器・銅製品・陶磁器・土製品・ 動物骨				

熊本大学埋蔵文化財調査報告書 第10集

熊本大学構内遺跡発掘調査報告X

(1999、2002、2012年度)

平成26年3月31日 印刷

平成26年3月31日 発行

編集・発行 熊本大学埋蔵文化財調査センター

〒860-8555 熊本市中央区黒髪2丁目39-1

TEL 096(342)3832 FAX 096(342)3832

印 刷 シモダ印刷株式会社

